



Cisco Prime Collaboration Provisioning ガイド - Standard および Advanced 10.5/10.5.1

初版：2014 年 05 月 12 日

最終更新：2014 年 08 月 25 日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2014 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

はじめに xi

Prime Collaboration Provisioning の概要 1

Prime Collaboration Provisioning 10.0 の新機能 2

Prime Collaboration Provisioning 10.6 の新機能 6

Prime Collaboration Provisioning Standard および Advanced 7

Prime Collaboration Provisioning の統合またはスタンドアロン ユーザ インターフェイス 11

Prime Collaboration Provisioning の使用シナリオ 16

Prime Collaboration Provisioning の IPv6 のサポート 20

サーバの設定 21

ライセンスの管理 21

ライセンス取得プロセス 23

Prime Collaboration Provisioning へのライセンス ファイルの追加 23

Prime Collaboration の Standard モードと Advanced モード間の切り替え 24

Prime Collaboration Provisioning からの相互起動 25

Prime Collaboration サーバの統合 26

Prime Collaboration Provisioning の接続 26

Prime Collaboration のシングル サインオン 28

Prime Collaboration Provisioning の SSL の有効化 32

Apache サーバの設定 34

SSL ポートの変更 34

Prime Collaboration Provisioning での OpenSSL の更新 35

SSL ポートの変更 37

LDAP および ACS サーバを使用するための Provisioning の設定 37

LDAP サーバまたはサードパーティ 証明書のために SSL を有効化する 38

Prime Collaboration Provisioning サーバのタイム ゾーンの設定 39

Prime Collaboration Provisioning でのデバイスの管理 41

デバイス管理の概要	41
デバイスの追加	42
Cisco TelePresence Management Suite の追加	50
デバイスの削除	50
Cisco Jabber サービスの有効化	51
ドメイン、サービス エリア、ユーザ権限、サービス テンプレートの管理	53
ドメイン、サービス エリア、ユーザ ロール、サービス テンプレートの概要	53
ドメインの追加	55
ドメインの削除	56
サービス エリア	56
サービス エリアの追加	57
サービス エリアの削除	61
電話番号ブロック	61
電話番号ブロックの追加	63
ユーザ権限の追加	64
ユーザ権限とサービスの関連付け	66
自動サービス プロビジョニング	66
サービス テンプレートの作成	68
サービス テンプレートへのキーワードの追加	70
システム デフォルト値の使用方法	72
電話のプロビジョニング属性の制限	74
プロビジョニング属性のトランスフォーメーション テンプレートの設定	74
プロセッサ、ユーザ、ドメインの同期	77
プロセッサ、ユーザ、ドメインの同期の概要	77
インフラストラクチャ同期とユーザ同期	80
同期される Cisco Unified Communications Manager オブジェクト	82
コール プロセッサ同期中のエラー メッセージ	84
ドメインの同期の概要	84
ドメインの同期	86
ドメイン同期に関するビジネス ルール	87
ドメイン同期に関するビジネス ルールの設定	88
ドメイン同期のログ メッセージ	89

スケジュールの同期化	90
コマンドライン スクリプト ユーティリティのオプション	91
ディレクトリ検索の同期の同期元の設定	92
LDAP サーバと Provisioning の同期	93
LDAP サーバの同期の設定	93
LDAP 同期レポート	102
特別な電話番号の同期	103
Provisioning のテンプレートの設定	105
設定テンプレートの概要	105
デバイス用のインフラストラクチャ設定製品	106
設定テンプレートの作成	119
設定テンプレートへの項目の追加	119
設定テンプレートに新しい項目を追加するためのデバイスおよび項目タイプ	121
キーワード リストの新規作成とキーワードの追加	124
テンプレートを使用した設定の生成	125
設定テンプレートのインポートとエクスポート	126
設定テンプレートのインポート	127
設定テンプレートのエクスポート	127
顧客ドメイン テンプレート	128
Provisioning で事前に作成された機能	128
インフラストラクチャ設定の概要	129
[インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)] からのデバイスの相互起 動	129
インフラストラクチャ設定インスタンスの追加	130
インフラストラクチャ設定タスクのスケジュール	132
インフラストラクチャ プロビジョニングの状態	133
電話ボタン テンプレートの設定	134
ビジネス ルールの概要	135
ビジネス ルールの説明	135
ビジネス ルールの設定	148
ビジネス ルールの設定の使用シナリオ	150

バッチ プロビジョニング	154
バッチ操作ファイルの作成	156
バッチ操作ファイルのフィールド	157
システム コール ハンドラのバッチ操作ファイルのカラム	168
ディレクトリ ハンドラのバッチ操作ファイルのカラム	170
バッチ操作ファイルの作成に関するガイドライン	174
バッチ操作ファイルでのキーワードの使用	178
バッチ プロジェクトの管理	179
インベントリの管理	185
エンドポイント インベントリの管理	185
電話番号の管理	190
インベントリの検索	194
基本検索の実行	194
詳細検索の実行	195
制約	196
プロパティの制約の定義	196
[関連付け (Associated With)] 演算子を使用する制約の定義	198
[範囲で関連付け (Associated with range)] 演算子を使用する制約の定義	198
ネームスペースの制約の定義	199
検索結果に表示する関連プロパティ	200
検索レポートの作成	201
検索レポートの実行	201
Provisioning のダッシュボードとレポート	203
Provisioning のダッシュボードとレポートの概要	203
Provisioning のレポート	206
エンドポイント インベントリ レポートの生成	208
監査トライアル レポート	209
ユーザの管理	211
Prime Collaboration Self-Care の使用方法	231
Prime Collaboration Self-Care の概要	231
Self-Care アカウントの作成	232
バッチ プロビジョニングを使用した Self-Care の有効化と無効化	232

Prime Collaboration Self-Care の開始	233
[個人設定 (Personal Settings)] からの Prime Collaboration Self-care の開始	233
個人設定のカスタマイズ	234
電話およびエクステンション モビリティの設定	235
回線の設定	237
ユーザ設定	237
共通 Self-Care タスク	238
シングル ナンバー リーチの設定	239
Self-Care ユーザ移行スクリプト	240
オーダーの管理	243
オーダーの概要	244
サポートされる Cisco Unity サービス	245
ユーザのサービスのオーダー	247
コール プロセッサに対する回線とエンドユーザの関連付け	269
共有エンドポイントと共有回線のオーダー	271
共通共有回線の設定	272
プライマリ共有回線の設定	273
エンドポイントのない回線のオーダー	275
ボイスメール サービスのオーダー	275
ボイスメールのパスワードまたは PIN の変更	290
プレゼンス サービスのオーダー	291
ユーザへのユーザ プロファイルの関連付け	295
ユーザが関連付けられていないエンドポイントの管理	296
ユーザが関連付けられていないエンドポイントのエクスポート	296
既存のエンドポイントの交換	297
エンドポイントのオーナーの変更	298
回線情報の変更	299
ボイスメール アカウントのロック解除	300
オーダーの検索	301
オーダーの処理	301
オーダーの承認	302
エンドポイントの出荷	303

サービスのキャンセル	304
ワーク オーダーの状態	306
電子メール通知	306
ドメイン通知テンプレートの設定	307
ドメイン通知の設定	309
システム通知の設定	310
通知設定のテスト	312
サーバの保守	313
ログ ファイルの管理	313
ログ レベルの変更 (GUI)	314
ログ ファイルの最大サイズの変更	315
ログの消去レベルの変更	315
Showtech ファイルの作成とダウンロード	316
ログの参照	317
システム設定の管理	318
カスタム設定	318
ローカリゼーション言語の管理	319
Provisioning のデータ消去の有効化	319
メンテナンス モード	321
バックアップと復元の実行	322
単一マシンの Provisioning データベースのバックアップ	323
単一マシンの Provisioning データベースの復元	324
分散データベース用の Provisioning のバックアップ	326
分散データベース用の Provisioning の復元	327
	329
Provisioning ユーザ インターフェイスを使用したバックアップのスケジュール	329
バックアップ ジョブの管理	331
プロビジョニング属性	333
プロビジョニング属性の説明	333
コール プロセッサのサポートされるプロビジョニング属性	384
ユニファイド メッセージ プロセッサのサポートされるプロビジョニング属性	453
プレゼンス サーバのサポートされるプロビジョニング属性	455

インフラストラクチャ設定製品のフィールド 457**インフラストラクチャ データ オブジェクトのフィールド 457****CTI ルート ポイント設定製品フィールド 457****コール パーク インフラストラクチャ設定製品のフィールド 459****コール ピックアップ グループ インフラストラクチャ設定製品のフィールド 459****コール サーチ スペース インフラストラクチャ設定製品のフィールド 460****共通デバイス設定製品のフィールド 461****Unity 同報リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド 462****共通電話プロファイル インフラストラクチャ設定製品のフィールド 462****Unity Connection 同報リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド 487****デバイス プール インフラストラクチャ設定製品のフィールド 488****H323 ゲートウェイ インフラストラクチャ設定製品のフィールド 489****ハント リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド 492****ハントパイロット インフラストラクチャ設定製品のフィールド 492****回線グループ インフラストラクチャ設定製品のフィールド 496****ロケーション インフラストラクチャ設定製品のフィールド 497****メディア リソース グループ インフラストラクチャ設定製品のフィールド 497****メディア リソース グループ リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド 498****ミートミー番号/パターン設定製品のフィールド 498****ルート グループ インフラストラクチャ設定製品のフィールド 499****ルート リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド 500****ルートパーティション インフラストラクチャ設定製品のフィールド 501****ルートパターン インフラストラクチャ設定製品のフィールド 501****サービス プロファイル インフラストラクチャ設定製品のフィールド 504****SIP トランク インフラストラクチャ設定製品のフィールド 508****SIP プロファイル インフラストラクチャ設定製品のフィールド 531****SRST 参照先設定製品のフィールド 542****トランスレーションパターン インフラストラクチャ設定製品のフィールド 542****Unified Call Manager Group インフラストラクチャ設定製品のフィールド 544****UC サービス インフラストラクチャ設定製品のフィールド 545****ボイス リージョン インフラストラクチャ設定製品のフィールド 555****ボイスメールパイロット インフラストラクチャ設定製品のフィールド 556**

ボイスメールプロファイルインフラストラクチャ設定製品のフィールド	556
VG202、VG204、および VG224 音声ゲートウェイ インフラストラクチャ設定製品のフィールド	557
VG310 および VG320 インフラストラクチャ設定製品のフィールド	558
Provisioning の [コール最大数 (Maximum Calls)] および [ビジートリガー (Busy Trigger)] 属性のデフォルト値	561
Provisioning の [コール最大数 (Maximum Calls)] および [ビジートリガー (Busy Trigger)] 属性のデフォルト値	561
事前に作成された IOS テンプレート	567
事前に作成された IOS テンプレート	567
事前に作成された Cisco IOS テンプレートの Cisco Prime Collaboration Provisioning へのコピー	568



はじめに

- [目的, xi ページ](#)

目的

Prime Collaboration サーバの初期セットアップを実行した後、このガイドを参照して、すべてのユニファイド コール アプリケーションとメッセージング アプリケーションに対して、次のプロビジョニング タスクを実行してください。

- テンプレートを作成し、コール アプリケーションとメッセージング アプリケーションを導入します。これらのテンプレートは、今後の導入で新しいサイトやロケーションに対して再利用できます。
- ユーザ サービス（許可、アセットの割り当て、出荷、および受領）をアクティブにします。
- ユーザのビジネスレベルの サービスを定義します。
- ユーザのアセットを追跡して報告します。

このマニュアルは、Cisco Prime Collaboration 向けの複数のガイドの 1 つです。ユーザ管理、デバイス管理、音声のプロビジョニング、ネットワーク モニタリング、障害管理など、その他の Prime Collaboration のタスクを実行するには、『[Cisco Prime Collaboration Documentation Overview](#)』で利用可能な全マニュアルのリストを参照してください。

マニュアルで使用されている共通の用語の一部を以下に示します。

- デバイス : Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unified Communications Manager Express、Cisco Instant Messaging and Presence (IM&P)、Cisco Unity Connection など、すべてのアプリケーション。また、ISR ゲートウェイ デバイスや Cisco IOS ルータなどのインフラストラクチャ コンポーネントも含まれます。
- プロセッサ : デバイスの各インスタンスのプロキシ。
 - コール プロセッサは、Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Communications Manager Express の各インスタンスのプロキシです。

° ユニファイドメッセージプロセッサは、Cisco Unity、Cisco Unity Express、および Cisco Unity Connection の各インスタンスのプロキシです。

° ユニファイドプレゼンス プロセッサは、IM and Presence の各インスタンスのプロキシです。

- エンドポイント：ユーザが操作するすべてのアクティブな音声デバイス、ビデオデバイス、およびコラボレーション デバイス（ソフトウェアおよびハードウェア）。たとえば、電話（99xx、79xx など）、タブレット、Telepresence デバイス、Cisco Jabber クライアント、個人の Telepresence ユニット（EX シリーズ）、Cisco Jabber を実行するモバイル デバイスなどが該当します。
- ユーザ：アクティブな IP テレフォニー サービスが有効になっている個人。さらに、Prime Collaboration Provisioning のユーザとは、Prime Collaboration Provisioning にアクセスしてさまざまなアクティビティを実行できるエンティティでもあります。
- サービス：ユーザが期待する一連の機能の実行に必要な設定および統合。たとえば、エンドポイント サービスのプロビジョニングによって、ユーザによる発信、呼び出し、応答、スピードダイヤルの使用、ボイスメールの転送、転送、会議などが可能になります。

新機能および変更された機能に関する情報

次の表は、本書の初期リリース以降に追加または変更された情報を示しています。

Date	リビジョン	Location
2013 年 12 月 03 日	最初のバージョン	—
2014 年 5 月 13 日	「バックアップと復元」に関する項に詳細を追加	分散データベース用の Provisioning のバックアップ、（326 ページ） 分散データベース用の Provisioning の復元、（327 ページ）
	「SSL の有効化」に関する項に詳細を追加	Prime Collaboration Provisioning の SSL の有効化、（32 ページ）
2014 年 7 月 11 日	「SSL の有効化」に関する項を更新	Prime Collaboration Provisioning の SSL の有効化、（32 ページ）

新機能および変更情報

次の表は、本書の初期リリース以降に追加または変更された情報を示しています。

日付	リビジョン	参照先
14/12/19	最初のバージョン	—

対象読者

このマニュアルは、ビデオ（TelePresence）、テレフォニー（VoIP）など、インフラストラクチャベースのリアルタイムコラボレーションサービスで、エンドポイント、管理サーバ、およびサービス固有のネットワーク デバイスを含む、設定、プロビジョニング、インベントリ、およびメンテナンスを担当する音声エンジニアおよびビデオ エンジニアを対象としています。

Prime Collaboration は仮想サーバに展開されます。ユーザは、仮想サーバの設定と CLI を使用した UNIX コマンドに精通している必要があります。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手、Cisco Bug Search Tool（BST）の使用、サービス要求の送信、追加情報の収集の詳細については、『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。このドキュメントは、<http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/general/whatsnew/whatsnew.html> から入手できます。

『*What's New in Cisco Product Documentation*』では、シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧を、RSS フィードとして購読できます。また、リーダー アプリケーションを使用して、コンテンツをデスクトップに配信することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。



第 1 章

Prime Collaboration Provisioning の概要

Cisco Prime Collaboration Provisioning は、企業の次世代通信サービスを管理するスケーラブルな Web ベース ソリューションを提供します。Prime Collaboration Provisioning は、IP テレフォニー、ビデオ、ボイスメール、ユニファイド メッセージングが統合された環境で IP 通信のエンドポイントとサービスを管理します。この統合環境には、Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unified Communications Manager Express、Cisco Unity、Cisco Unity Express、Cisco Unity Connection などのシステム、およびアナログ ゲートウェイが含まれます。



(注)

- このマニュアルでは、別途記載のない限り、Cisco Unified Communications Manager に関する記述は Cisco Unified CallManager も対象とするものとします。
- ビデオプロビジョニングは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているエンドポイントに対してサポートされます。Cisco Prime Collaboration Provisioning では、VCS に登録されているビデオエンドポイントはサポートされません。

Cisco Prime Collaboration Provisioning は次の機能を備えています。

- 初期導入と実装向けにプロビジョニングを実行し、その後も展開された状態で、操作のプロビジョニングおよびアクティベーションサービスを継続的に個々のユーザに提供します。
- 組織全体のユーザを把握できる 1 つに統合されたビュー。ビジネスレベルで管理を抽象化し、自動化を通じてそれをポリシー主導で運用します。これにより、Cisco Unified Communications アプリケーション全体にわたってユーザ サービスを管理します。
- テンプレート機能。この機能を使用すると、新しいサイトやロケーションの導入で再利用可能な標準設定を定義できます。バッチ プロビジョニングでは、膨大なユーザを同時にロールアウトできます。
- 管理者は、さまざまなレベルでポリシーを設定して、委任した管理を誰が実行できるか、その委任を誰に適用するか、ビジネスレベルのサービスをどのように Cisco コラボレーション システムに適用するか、どの種類のエンドユーザがどの標準サービスをオーダーできるのかなどを決定できます。

このようなポリシーおよび標準的な設定アプローチを通じて、ユーザサービスのプロビジョニングおよびアクティブ化が大幅に単純化されます。その一方、基礎の Cisco Unified Communications アプリケーションを活用するサービスを管理および提供する、総合的な機能は維持されます。

Prime Collaboration Provisioning では、ユーザ（個々のエンドポイント、回線、またはボイスメールのオーナー）向けに、エンドポイント、回線、ボイスメールなどの標準サービスをオーダーできます。また、タブレット、デスクトップ、Android、BlackBerry、iPhone 向けの Cisco Jabber サービスもオーダーできます。Prime Collaboration Provisioning は、基盤となる Cisco Unified Communications アプリケーションに対するすべての変更を、サービス リクエスト（オーダー）として処理します。

Prime Collaboration Provisioning はオーダーを作成して、ユーザ レベルの変更（エンドポイントや回線などに対する変更）や、IP 通信レベルのインフラストラクチャの変更（新しいコーリングサーチスペースやルートパターンのプロビジョニングなど）を実行します。システムで発生したすべての変更が追跡され、オーダー全体を確認したり、ユーザ名や ID 別に確認することができます。オーダーのレコードを調べると、そのオーダーを開始したユーザ、さまざまな処理手順の時間、オーダーの内容などがわかります。

Prime Collaboration Provisioning ではオーダー管理機能を委任できるので、サービスを配信している音声アプリケーションの基礎知識がなくても、サービスの追加、変更、削除のリクエストを実行できます。Prime Collaboration Provisioning は、Cisco Unified Communications サービスを配信しているテクノロジーに関係なく、同じサービス管理環境を提供します。

- [Prime Collaboration Provisioning 10.0 の新機能, 2 ページ](#)
- [Prime Collaboration Provisioning 10.6 の新機能, 6 ページ](#)
- [Prime Collaboration Provisioning Standard および Advanced, 7 ページ](#)
- [Prime Collaboration Provisioning の統合またはスタンドアロン ユーザ インターフェイス, 11 ページ](#)
- [Prime Collaboration Provisioning の使用シナリオ, 16 ページ](#)
- [Prime Collaboration Provisioning の IPv6 のサポート, 20 ページ](#)

Prime Collaboration Provisioning 10.0 の新機能

Cisco Prime Collaboration Provisioning 10.0 は、次の新機能をサポートします。

Prime Collaboration Provisioning Standard および Advanced

Prime Collaboration Provisioning の機能は、Standard と Advanced という 2 つのタイプで使用できます。

用語の変更

このリリースでは、次の用語が変更されました。

以前の用語	新しい用語
加入者	ユーザ
電話	エンドポイント
製品	サービス
オーダー（動詞）	プロビジョニング
プロセッサ	デバイス

プロビジョニングからの相互起動

- Prime Collaboration 10.0 では、Prime Collaboration Provisioning の相互起動機能を使用して Cisco Unified Communications 機能にアクセスできます。 管理者権限を持つユーザは、Prime Collaboration Provisioning から相互起動して Cisco Unified Communications 製品を使用できます。

管理ユーザとして、Prime Collaboration Provisioning から次の目的のため相互起動を使用することができます。

- [\[インフラストラクチャ設定 \(Infrastructure Configuration\)\]](#) からのデバイスの相互起動
- [\[インフラストラクチャのセットアップ \(Infrastructure Setup\)\]](#) からの Serviceability の相互起動。 [「デバイスの追加」](#) を参照してください。
- [\[ユーザプロビジョニング \(User Provisioning\)\]](#) からの CUCM および Unity Connection の相互起動に関するリンク。 [「ユーザの追加」](#) を参照してください。

デバイス管理

- デバイスを追加および管理するための簡素化された [\[インフラストラクチャのセットアップ \(Infrastructure Setup\)\]](#) ページ。
- ドメイン、サービス エリア、ユーザ権限、サービス テンプレートを集中的に追加および管理できるセットアップ画面。
- Prime License Manager および Deployment Manager は、[\[インフラストラクチャのセットアップ \(Infrastructure Setup\)\]](#) ページから追加できます。 これらのデバイスを追加すると、Prime License Manager と Deployment Manager のリンクが [\[管理 \(Administration\)\]](#) メニューに表示されます。
- 統合モードでは、[\[選択したデバイスのインポート \(Import Selected Devices\)\]](#) オプションを使用して、Assurance からデバイスをインポートできます。
- [\[インフラストラクチャのセットアップ \(Infrastructure Setup\)\]](#) からの Serviceability の相互起動をサポートします。

すべてのサポートされるデバイスについては、『[Supported Devices for Prime Collaboration Provisioning - Standard and Advanced, 10.0](#)』を参照してください。

ビデオ エンドポイントのサポートのスケジュール

Cisco Unified Communications Manager と同期する Cisco TMS デバイスをディスカバリ デバイスに追加すると、ビデオエンドポイントのスケジュールを有効にできます。このスケジュールは Cisco TMS でのみ実行され、スケジュールの UI は、Prime Collaboration Provisioning から起動することができます。

インフラストラクチャ設定

- [SRST 参照先(SRST Reference)] 設定テンプレートをサポートします。
- [コールパーク (Call Park)] テンプレートを使用して、異なるパーティション内の同じ範囲の番号を追加することができます。
- [ハントパイロット (Hunt Pilot)] テンプレートで、+または+を入力して国際エスケープ文字を示すことができます。
- [ロケーション (Location)] テンプレートに新しい属性が追加されました。
- [インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)] からデバイスの相互起動。相互起動は、新しいインフラストラクチャ製品に限り使用できます。古いインフラストラクチャ製品では引き続きネイティブ起動を使用できます。

ユーザ管理

- [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] からの CUCM の関連リンクの相互起動。
Prime Collaboration Provisioning では、管理者は選択したユーザに対して、マネージャの設定とアシスタントの設定の相互起動を許可することができます。管理者は、Prime Collaboration Provisioning からユーザ、電話、および回線に関するリンク ページを相互起動できます。
- [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] からの CUCM の関連リンクの相互起動をサポートします。

オーダー管理

- ユーザプロビジョニングの拡張されたワークフローを使用して、ユーザの作成、ユーザの編集、ユーザの検索、およびそれらのユーザに対するサービスのオーダーを簡単に実行できます。
- Cisco Unity Connection 10.x 以上の新しいボイスメール属性をサポートします。
- エンドポイントを持たないユーザ用の回線サービスのオーダーをサポートします。
- ユーザサービスにはすべての設定済みユーザプロファイルが表示されます。サービスをオーダーする際に、ユーザに対する目的のプロファイルを選択することができます。ユーザプロファイル属性は、ユーザ サービスのサービス テンプレートにも表示されます。

- エンドポイントのオーダー作成中、選択したプロトコルおよびモデルに基づいて、セキュリティ プロファイル属性のデフォルト値が設定されます。
- [オーダーの追加 (Add Order)] ウィザード、[変更オーダー (Change Order)] ウィザード、[テンプレートの設定 (Template Settings)] ページで、必須ではない属性のドロップダウンリストに [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] が表示されます。 必須の属性では、デフォルト値がすでに設定されている場合、指定されたデフォルト値が表示されます。デフォルト値が設定されていない場合は、ドロップダウンリストから値を選択する前に、ドロップダウンリストの最初のオプションが表示されます。ドロップダウンリストが空白で、その属性のデフォルト値が設定されていない場合は、[選択する (Make a Selection)] が表示されます。
- ユーザが関連付けられていないエンドポイントをエクスポートして、実際のユーザ名または疑似ユーザ名でバッチ インポートすることができます。

セルフプロビジョニング

- /opt/cupm/sep/ipt.properties ファイルを更新して、Self-Care ポータルの [電話の設定 (Phone Settings)]、[回線の設定 (Line Settings)]、および [ユーザ設定 (User Settings)] に表示される機能の表示と非表示を切り替えることができます。

管理

- ディレクトリ ソースを LDAP サーバまたはコールプロセッサとして設定できます。 ユーザデータ サービス (UDS) を有効にするには、コールプロセッサをディレクトリ ソースとして設定する必要があります。 LDAP サーバをディレクトリ ソースとして指定すると、Provisioning で UDS が無効になります。 デフォルトでは、LDAP サーバがディレクトリ ソースとして設定されます。
- Lightweight Directory Services をサポートします。

プロビジョニング属性

- 回線、エンドポイント、拡張モビリティ、およびユーザサービス用の新しい属性をサポートします。
- サービス テンプレートを使用してプロビジョニング属性が追加されました。 サービス テンプレートは、[ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)] ページで作成します。

Provisioning のレポート

- [レポート (Reports)] メニューの [Communications Managerのレポート (Communication Manager Reporting)] リンクを使用して、[Communications Managerのレポート (Communication Manager Reporting)] ページを表示することができます。
- 次のエンドポイント/回線不一致レポートを使用して、エンドポイントに関連付けられていない回線を特定できます。

- [回線未割り当てのユーザ (Users without Lines)]
- [回線割り当て済み/エンドポイント未割り当てのユーザ (Users with Lines but No Endpoints)]
- [未割り当ての回線 (Unassigned Lines)]

インフラストラクチャ、ユーザ、ドメインの同期

- Cisco Unified Communications Manager 10.0 以上のバージョンでは、変更通知機能は自動的に有効化されます。Cisco Unified Communications Manager のインフラストラクチャまたはユーザ設定に対する更新は、5 分おきに Provisioning と自動的に同期されます。

Prime Collaboration Provisioning 10.6 の新機能

Cisco Prime Collaboration Provisioning 10.6 は、次の新機能をサポートしています。

システム メンテナンス

[管理 (Administration)] > [システムメンテナンス (System Maintenance)] の Cisco Prime Collaboration Provisioning インターフェイス経由で、次のタスクを実行できます。このタスクを実行するには、管理者特権が必要です。

次のような有用性機能の強化：

- ログ レベルの表示と設定。
- オンライン トラブルシューティングを実行するためのログの参照。これを行うには、[ログの参照 (Browse Logs)] ペインから任意のログをクリックします。
- アプリケーションからのログの生成とダウンロード。[Showtechファイル (Showtech Files)] ペインで、[Showtechの生成 (Generate Showtech)] をクリックして、選択した期間とコンポーネントに応じたログを生成します。
- ローカリゼーションをサポートするための新しい言語パックのアップロードまたは既存の言語の更新。
- SSL またはサードパーティ証明書のインポート。
- 次のようなシステム設定の管理：
 - アナログ エンドポイント サポートを有効にする
 - メンテナンス モード ポップアップ通知を有効にする
 - パスワードポリシーの設定
 - カスタム属性の設定：この設定の変更は、シスコサポート担当者の指示があった場合にのみ行ってください。

ユーザ プロビジョニング

次の機能拡張は、ユーザ プロビジョニングでサポートされています。

- [コピー (Copy)] をクリックして、[設計 (Design)] > [ユーザプロビジョニングセットアップ (User Provisioning Setup)] にある既存のサービス エリアの設定のクローンを作成します。
- 次の新しいビジネス ルールが電話番号の検証で導入されました：
 - 電話番号ブロックの確認 (Directory Number Block Validation) : 指定された電話番号ブロックの範囲内になるよう電話番号を適用します。
 - 電話番号ブロックのリスト (Directory Number Block Listing) : ドメイン内の任意のサービス エリアのすべての電話番号ブロックから、使用可能な電話番号を示します。
- ユーザに関するフィールドが拡張され、[市区町村郡 (City)]、[都道府県 (State)]、[事務所 (Office)]、[会社 (Company)]、[町名番地 (Street)]、[私書箱 (P.O. Box)]、[郵便番号 (Zip code)]、[国 (Country)]、[FAX (Fax number)]、[IP 電話番号 (IP Phone number)] などの物理的な場所に基づくフィールドが含まれるようになりました。
- 電話番号セレクトが拡張され、ユーザにすでに関連付けられた回線をすぐに選択できるようになりました。
- サービス プロビジョニングの機能拡張：

自動サービス プロビジョニング

- シングル ナンバー リーチ：モビリティ、リモート接続先プロファイル、およびリモート接続先プロファイル回線を有効にします。
- プロビジョニングにおける複数の Jabber エンドポイント。

手動プロビジョニング：ユーザ用に Jabber サービスを有効にする場合、選択された Cisco Jabber エンドポイントで共用回線をプロビジョニングするオプションがあります。

インフラストラクチャ オブジェクト

- [ダイレクトコールパーク (Directed Call Park)] および [機能管理ポリシー (Feature Control Policy)] インフラストラクチャ オブジェクトは、バッチファイルを使用して追加できます。ただし、バッチを使用してこれらのオブジェクトを変更またはキャンセルすることはできません。

Prime Collaboration Provisioning Standard および Advanced

次のタイプの Prime Collaboration Provisioning を使用できます。

- Prime Collaboration Provisioning Standard : Cisco Unified Communications 10.0 以上 (Unified CM および Unity Connection のバージョン 10.0 以上) で使用できます。

- Prime Collaboration Provisioning Advanced : Unified Communications スイート 8.0 以上のバージョンすべてで使用できます。

Prime Collaboration Provisioning Standard は、Cisco Prime Collaboration Provisioning の簡素化されたバージョンです。すべてのコラボレーションサービスで、簡素化されたプロビジョニングを提供します。IP Phone、ソフトクライアント、ビデオエンドポイント、アナログ電話、Jabber クライアント、プレゼンス、モビリティ、ボイスメールなどのデバイスとサービスをプロビジョニングします。Provisioning のサポートは、制限された承認権限を持つ 1 台の Unified Communications クラスタで利用できます。

Provisioning Advanced は、個別ドメインへの委任、インフラストラクチャ インスタンスの設定用テンプレートのサポート、詳細パッチ プロビジョニングなどのより高度な機能を提供します。

次の表に、Prime Collaboration Provisioning Standard および Advanced で使用可能な機能を示します。Provisioning の Standard および Advanced の製品については、『[Cisco Prime Collaboration - Standard and Advanced Offerings](#)』を参照してください。

表 1 : Prime Collaboration Provisioning Standard および Advanced の機能

機能	Standard	Advanced	参照先のセクション/章 Prime Collaboration Provisioning - Standard and Advanced Guide
クラスタのサポート	Cisco Unified Communications Manager の 1 台のクラスタおよび Cisco Unity Connection の 1 台クラスタのみを管理します。	クラスタの変更とクラスタの関連付けの組み合わせが含まれる複数のクラスタを管理します。	詳細については、「デバイスの追加」セクションを参照してください。
権限または Role Based Access Control (RBAC) の委任	システム レベル、詳細 オーダー レベル、基本 オーダー レベルという 3 つの RBAC レベルを使用できます。ただし、ドメイン グループごとのアクセスは使用できません。	詳細な権限ベースのアクセス コントロールと委任を使用できます。オーダー権限を持つ管理者を異なる ユーザ ドメイン グループに割り当てることができます。	詳細については、「ユーザの追加」セクションを参照してください。

機能	Standard	Advanced	参照先のセクション/章 Prime Collaboration Provisioning - Standard and Advanced Guide
オーダー ワークフロー権限	オーダーの承認、MAC アドレスの割り当て、出荷エンドポイント、エンドユーザのエンドポイントの受領などのオーダー ワークフロー アクティビティは使用できません。	オーダー ワークフロー（オーダーの作成と実際のオーダーのプロビジョニングの間に存在するオプション段階：承認者、MAC 割り当て担当者、出荷担当者、受領者）を提供します。 アクティビティ権限を有効または無効にしたり、異なるユーザに割り当てたりして、オーダー ワークフローの効率を向上させることができます。	詳細については、「権限ロールの概要」セクションを参照してください。
バッチ プロビジョニング	これらを 1 つのバッチに組み合わせることで、多数のサービスを展開できます。バッチプロビジョニングは 1 台のクラスタでのみ使用できます。	1 つのプロビジョニング バッチで、多数の CUCM クラスタにわたるインフラストラクチャとユーザのプロビジョニングを実行し、 Prime Collaboration バッチの範囲をグローバルにすることができます。	詳細については、「バッチプロジェクトの管理」の章を参照してください。

機能	Standard	Advanced	参照先のセクション/章 Prime Collaboration Provisioning - Standard and Advanced Guide
インフラストラクチャ テンプレート	インフラストラクチャ設定テンプレートは使用できません。	Cisco Unified CM および IOS 用の Prime Collaboration Provisioning インフラストラクチャ テンプレートを作成できます。これらは、サイトのロールアウトなど、繰り返すタスク用にキーワードのサポートを提供します（バッチ ファイルにはありません）。テンプレートは、後で実行するようにスケジュールすることも、後から監査またはトラブルシューティングを行うためにオーダー トラッキング システムで追跡することもできます。キーワードサポートを使用して、事前に作成された IOS テンプレートを活用できます。	詳細については、「設定テンプレートの概要」セクションを参照してください。
アプリケーション プログラミング インターフェイス	North Bound Interface (NBI) のサポートは使用できません。	Northbound API は、サードパーティの管理アプリケーション、HR システム、または他のプロビジョニング インターフェイスと統合した場合にサポートされます。	詳細については、「ライセンスの管理」の章を参照してください。

Standard および Advanced の Provisioning をインストールする場合、『*Cisco Prime Collaboration Quick Start Guide*』の「Installing Prime Collaboration Provisioning」セクションを参照してください。

開始ウィザードを使用して Unified Communications の新規インストールを行う場合は『*Cisco Prime Collaboration Provisioning - Standard and Advanced Guide*』の「Getting Started Wizard for Unified Communications Applications」の章を参照してください。

Prime Collaboration Provisioning の統合またはスタンドアロン ユーザーインターフェイス

統合アプリケーションとしての Cisco Prime Collaboration は、Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning の機能の利点を兼ね備えています。これを使用することで、ビデオの導入を音声とは別に管理する必要がなくなります。Prime Collaboration は、統合アプリケーションまたはスタンドアロン アプリケーションとして実行できます。

- 統合アプリケーションを実行する場合は、シングル サインオンを使用してログインし、Assurance と Provisioning の両方の機能にアクセスできます。ホームページの[設計 (Design)] および[展開 (Deploy)] メニューから、すべての Provisioning 機能にアクセスすることが可能です。
- Prime Collaboration をスタンドアロン アプリケーションとして実行する場合は、Assurance と Provisioning で別々のログインを使用できます。
- Prime Collaboration Provisioning を使用すると、管理者はシングル サインオンを使用して、Cisco Unified Communications Manager、Unity Connection、IM and Presence サービスなどの設定済みのデバイスを相互起動できます。統合アプリケーションを実行している場合は、[管理 (Administration)] > [シングル サインオン (Single Sign-On)] に移動して、Unified Communications アプリケーションを相互起動します。詳細については、[Prime Collaboration のシングル サインオン](#)、(28 ページ) を参照してください。

Provisioning サーバと Assurance サーバを統合するには、Assurance サーバで、[管理 (Administration)] > [システムのセットアップ (System Setup)] > [Assurance のセットアップ (Assurance Setup)] > [Cisco Prime 360 の統合 (Cisco Prime 360 Integration)] に移動します。[Provisioning サーバのセットアップ (Provisioning Server Setup)] で、接続する Provisioning サーバの IP アドレスを指定します。[切断 (Detach)] オプションを使用すると、Provisioning サーバを切断することができます。詳細については、[Prime Collaboration Provisioning の接続](#)、(26 ページ) を参照してください。



(注) Provisioning 10.5.1 サーバを Assurance 10.5 に接続できます。

プロビジョニングアーキテクチャ、インターフェイス、キー機能、およびダッシュボードは、統合アプリケーションとスタンドアロン アプリケーションで同じです。

Provisioning には、Provisioning アプリケーションをインストールしたシステムからアクセスできる他、クライアントのシステムからリモートでアクセスすることもできます。ブラウザで、<http://IP>

Address という URL を入力します。ここで、IP Address は Prime Collaboration サーバのアドレスです。



(注) 統合モードでは、Prime Collaboration Provisioning アプリケーションを再起動またはシャットダウンする前に必ず、それを Prime Collaboration Assurance から切断し、再起動後に統合してください。

スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning アプリケーションは、中国語 (zh)、日本語 (ja)、韓国語 (ko) へのローカライゼーションに対応しています。Prime Collaboration Assurance や Prime Collaboration Analytics アプリケーションと統合した場合、Prime Collaboration Provisioning の UI はローカライズされますが、Prime Collaboration Assurance や Prime Collaboration Analytics の UI は引き続き英語 (en-us) で表示されます。ローカライズされた Provisioning の UI では次の文字を入力できます: UTF-8 文字、英数字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9)、ハイフン (-)、アンダースコア (_)、アットマーク (@)、スペース、アポストロフィ。

スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning アプリケーションを使用し、後でサーバを Assurance と統合する場合は、次の表の UI ナビゲーションを使用して、Prime Collaboration の各メニューに移動します。

表 2: Prime Collaboration 統合アプリケーションおよびスタンドアロンアプリケーションのユーザー インターフェイス ナビゲーション

メニュー	統合アプリケーションの UI ナビゲーション	スタンドアロンアプリケーションの UI ナビゲーション
[ホーム (Home)]	該当なし	該当なし
[設計 (Design)]	[設計 (Design)] > [インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)]	[設計 (Design)] > [インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)]
	[設計 (Design)] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)]	[設計 (Design)] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)]
	[設計 (Design)] > [インフラストラクチャテンプレート (Infrastructure Templates)]	[設計 (Design)] > [インフラストラクチャテンプレート (Infrastructure Templates)]
	[設計 (Design)] > [[はじめに]ウィザード (Getting Started Wizard)]	[設計 (Design)] > [[はじめに]ウィザード (Getting Started Wizard)]

メニュー	統合アプリケーションのUIナビゲーション	スタンドアロンアプリケーションのUIナビゲーション
[展開 (Deploy)]	[展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)]	[展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)]
	[展開 (Deploy)] > [履歴の検索 (Search History)]	[展開 (Deploy)] > [履歴の検索 (Search History)]
	[展開 (Deploy)] > [アクティビティ (Activities)] <ul style="list-style-type: none"> • [マイアクティビティ (My Activities)] • [すべてのアクティビティ (All Activities)] • [グループのアクティビティ (Activities for Group)] • [ユーザのアクティビティ (Activities for User)] 	[展開 (Deploy)] > [アクティビティ (Activities)] <ul style="list-style-type: none"> • [マイアクティビティ (My Activities)] • [すべてのアクティビティ (All Activities)] • [グループのアクティビティ (Activities for Group)] • [ユーザのアクティビティ (Activities for User)]
	[展開 (Deploy)] > [インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)]	[展開 (Deploy)] > [インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)]
	[展開 (Deploy)] > [バッチプロビジョニング (Batch Provisioning)]	[展開 (Deploy)] > [バッチプロビジョニング (Batch Provisioning)]
	[展開 (Deploy)] > [ユニファイドコミュニケーションサービス (Unified Communication Services)]	[展開 (Deploy)] > [ユニファイドコミュニケーションサービス (Unified Communication Services)]
	[展開 (Deploy)] > [プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory)] <ul style="list-style-type: none"> • [エンドポイントの管理 (Manage Endpoints)] • [電話番号の管理 (Manage Directory Numbers)] • [インベントリブラウザ (Inventory Browser)] • [インベントリ検索 (Inventory Search)] 	[展開 (Deploy)] > [プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory)] <ul style="list-style-type: none"> • [エンドポイントの管理 (Manage Endpoints)] • [電話番号の管理 (Manage Directory Numbers)] • [インベントリブラウザ (Inventory Browser)] • [インベントリ検索 (Inventory Search)]

メニュー	統合アプリケーションのUIナビゲーション	スタンドアロンアプリケーションのUIナビゲーション
[レポート (Report)]	<p>[レポート (Report)] > [Communications Managerのレポート (Communication Manager Reporting)]</p> <p>[レポート (Report)] > [Provisioningのレポート (Provisioning Reports)]</p> <ul style="list-style-type: none"> • [サービスエリア (Service Area)] • [リソース設定 (Resource Configuration)] • [サービス設定 (Service Configuration)] • [エンドポイントインベントリ (Endpoint Inventory)] • [電話番号インベントリ管理 (Directory Number Inventory Management)] • [電話番号ブロック (Directory Number Block)] • [監査証跡 (Audit Trail)] • [エンドポイント/回線不一致 (Endpoint/Line Mismatch)] 	<p>[レポート (Reports)] > [Communications Managerのレポート (Communication Manager Reporting)]</p> <p>[レポート (Reports)] > [インタラクティブレポート (Interactive Reports)]</p> <ul style="list-style-type: none"> • [サービスエリア (Service Area)] • [リソース設定 (Resource Configuration)] • [サービス設定 (Service Configuration)] • [エンドポイントインベントリ (Endpoint Inventory)] • [電話番号インベントリ管理 (Directory Number Inventory Management)] • [電話番号ブロック (Directory Number Block)] • [監査証跡 (Audit Trail)] • [エンドポイント/回線不一致 (Endpoint/Line Mismatch)]

メニュー	統合アプリケーションの UI ナビゲーション	スタンドアロン アプリケーションの UI ナビゲーション
[管理 (Administration)]	[管理 (Administration)] > [システムのセットアップ (System Setup)] <ul style="list-style-type: none"> • [Provisioning のセットアップ (Provisioning Setup)] > [電話ボタンテンプレート (Phone Button Templates)] • [Provisioning のセットアップ (Provisioning Setup)] > [ルール (Rules)] • [シングルサインオン (Single Sign-on)] 	[管理 (Administration)] > [システムの設定 (System Configuration)] <ul style="list-style-type: none"> • [ルール (Rules)] • [電話ボタンテンプレート (Phone Button Templates)] • [シングルサインオン (Single Sign-on)]
	[管理 (Administration)] > [ライセンス管理 (License Management)]	[管理 (Administration)] > [システムの設定 (System Configuration)] > [ライセンス管理 (License Management)]
	[管理 (Administration)] > [システムのセットアップ (System Setup)] > [Provisioning のセットアップ (Provisioning Setup)] > [データメンテナンス (Data Maintenance)]	[管理 (System Administration)] > [システムメンテナンス (System Maintenance)] > [データメンテナンス (Data Maintenance)]
	[管理 (Administration)] > [システムのセットアップ (System Setup)] > [Provisioning のセットアップ (Provisioning Setup)] > [メンテナンスモード (Maintenance Mode)]	[管理 (Administration)] > [システムメンテナンス (System Maintenance)] > [メンテナンスモード (Maintenance Mode)]
	[管理 (Administration)] > [システムのセットアップ (System Setup)] > [Provisioning のセットアップ (Provisioning Setup)] > [バックアップ管理 (Backup Management)]	[管理 (Administration)] > [システムメンテナンス (System Maintenance)] > [Provisioning のセットアップ (Provisioning Setup)] > [バックアップ管理 (Backup Management)]
	[管理 (Administration)] > [ユーザ管理 (User Management)]	[ユーザ管理 (User Management)] オプションは、[展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] で使用できます。
	[管理 (Administration)] > [権限プロファイル (Permission Profiles)]	

メニュー	統合アプリケーションのUIナビゲーション	スタンドアロンアプリケーションのUIナビゲーション
		[管理 (Administration)] > [ユーザとデバイスのアクセス管理 (Users and Device Access Management)] > [インフラストラクチャ設定権限 (Infrastructure Configuration Permissions)]
	該当なし。このオプションは、[ホーム (Home)] > Provisioning のダッシュボードで使用できます。	[管理 (Administration)] > [ユーザとデバイスのアクセス管理 (Users and Device Access Management)] > [ロックされたユーザ (Locked Users)]
	[レポート (Report)] > [管理レポート (Administrative Reports)] > [ログオンしたユーザ (Who Is Logged On)]	[管理 (Administration)] > [ユーザとデバイスのアクセス管理 (Users and Device Access Management)] > [ログインしたユーザ (Logged In Users)]
	[管理 (Administration)] > [Alarm & Event Setup] > [通知 (Notification)] > [Provisioning System Settings]	[管理 (Administration)] > [プロビジョニング通知管理 (Provisioning Notification Management)] > [システム設定 (System Settings)]
	[管理 (Administration)] > [Alarm & Event Setup] > [通知 (Notification)] > [Provisioning Domain Settings]	[管理 (Administration)] > [プロビジョニング通知管理 (Provisioning Notification Management)] > [ドメイン設定 (Domain Settings)]



(注)

[設計 (Design)] メニューと [展開 (Deploy)] メニューの UI 操作は、スタンドアロンおよび統合 Prime Collaboration Provisioning アプリケーションで同じです。スタンドアロンおよび統合 Prime Collaboration Provisioning アプリケーションの全メニューの操作については、上記の表を参照してください。

Prime Collaboration Provisioning の使用シナリオ

Provisioning の機能は、Cisco Prime Collaboration アプリケーションの [設計 (Design)]、[展開 (Deploy)]、および [管理 (Administration)] メニューから使用できます。

Provisioning を使用する一般的なシナリオは次のとおりです。

- 既存の音声サービスの管理

- 新しい音声インフラストラクチャの展開
- ユーザの管理
- 既存の音声インフラストラクチャにおける新規サイトの展開

また、Cisco Prime Collaboration 導入のニーズを満たすために、いくつかの高度なアクティビティを実行することができます。これらのアクティビティの一部は次のとおりです。

- ニーズに合わせた Provisioning の機能のカスタマイズ
- 大量の Provisioning アクティビティの実行
- Provisioning のリソースの操作
- サーバの設定

表 3 : 使用シナリオ, (17 ページ) に、Provisioning の使用シナリオの一部を示します。

表 3 : 使用シナリオ

使用シナリオ	
既存の音声サービスの管理	<p>個々のインターフェイスを通じて次の Cisco Unified Communications デバイスを管理する場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager • Cisco Unified Communications Manager Express • Cisco Unity • Cisco Unity Connection • Cisco Unity Express <p>これらの音声サービスのサブセットの管理を他のユーザに委任する場合は、次の項を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • デバイスの追加, (42 ページ) • インフラストラクチャ同期とユーザ同期, (80 ページ) • ドメインの追加, (55 ページ) • サービスエリアの追加, (57 ページ) • ドメインの同期, (86 ページ)

使用シナリオ	
新しい音声インフラストラクチャの展開	<p>Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unified Communications Manager Express と、それに関連するボイスメールシステムを新規に追加する場合に、すべての展開に適用できる標準化されたアプローチを使用するには、次の項を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • サービス エリアの追加, (57 ページ) • ドメインの同期, (86 ページ) • ユーザのサービスのオーダー, (247 ページ) : エンドポイントおよびサービスのオーダーを作成できます。個々のサービスのオーダーを作成するか、バンドルされたサービスをオーダーできます。 • バッチ プロジェクトの管理, (179 ページ)
ユーザのサービスの管理	<p>オフィス内のユーザ向けのサービスを管理する場合は、次のシナリオを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザとは、アクティブな IP テレフォニー サービスを利用しているユーザを意味します。Provisioning では、ユーザの追加、ユーザ情報の同期、サービスの移動、ユーザ情報の更新、およびドメイン固有のユーザ権限の管理を行うことができます。 権限ロールの概要, (222 ページ) を参照してください。 • 1 人のユーザのオーダーは、そのユーザのユーザ レコードに表示されて開始されます。ユーザ レコードには、そのユーザの既存の製品がすべて表示されます。 ユーザのユーザレコードへのアクセス, (228 ページ) を参照してください。 • エンドポイントおよびサービスのオーダーを作成できます。 オーダーの管理, (243 ページ) を参照してください。 • オーダーの処理, (301 ページ) • サービスのキャンセル, (304 ページ)

使用シナリオ	
既存の音声インフラストラクチャにおける新規サイトの展開	<p>既存の Cisco Unified Communications Manager に新しい場所またはサイトを追加するには、次の項を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none">• ドメインの追加, (55 ページ)• ドメインの同期, (86 ページ)• オーダーの管理, (243 ページ)• バッチ プロジェクトの管理, (179 ページ)
ニーズに合わせた Provisioning の機能のカスタマイズ	<p>Provisioning でさまざまなポリシーを適用する方法のデフォルト設定を変更するには、次の項を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none">• ビジネス ルールの概要, (135 ページ)• サービス テンプレートの作成, (68 ページ)• 電話ボタン テンプレートの設定, (134 ページ)• ユーザ権限の追加, (64 ページ)
大量の Provisioning アクティビティの実行	<p>大量のサービスを導入する場合は、これらのアクティビティを 1 つのバッチにまとめることができます (バッチ プロジェクトの管理, (179 ページ) を参照)。</p>
Provisioning のリソースの操作	<p>Provisioning のリソースの管理については、次の項を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none">• エンドポイント インベントリの管理, (185 ページ)• 電話番号の管理, (190 ページ)• インベントリの検索, (194 ページ)• Provisioning のレポート, (206 ページ)

使用シナリオ	
サーバの設定	<p>サーバの設定については、次の項を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • サーバの設定, (21 ページ) • Provisioning のユーザとは、システムにログインし、Provisioning にアクセスしてさまざまなアクティビティを実行できる人物を意味します。ユーザは、Provisioning のさまざまな権限を実行できるように設定可能です。これらの権限は、システム全体に適用したり（たとえば管理者）、1 つのドメインにだけ関連させてユーザが実行可能な変更の範囲を限定したりすることができます。 ユーザの追加, (211 ページ) を参照してください。 • ログ レベルの変更 (CLI) • Provisioning のデータ消去の有効化, (319 ページ)
サーバの保守	<p>サーバの保守については、次の項を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ログ レベルの変更 (GUI) , (314 ページ) • Showtech ファイルの作成とダウンロード, (316 ページ) • Provisioning のデータ消去の有効化, (319 ページ)

Prime Collaboration Provisioning の IPv6 のサポート

Prime Collaboration Provisioning は IPv6 に対応しています。IPv6 対応とは、IPv6 機能情報を含むが、伝送には IPv4 を使用するものとして定義されます。

IPv6 対応アプリケーションとして、Prime Collaboration Provisioning は引き続き IPv4 リンクを経由して、Cisco Unified Communications Manager デバイスと通信します。

Provisioning Manager の IPv6 対応には、次のことも適用されます。

- [[コールプロセッサの設定 \(Call Processor Configuration\)](#)] ページでは、IPv4 IP アドレスだけを入力できます。IPv6 アドレスを入力するとエラーメッセージが表示されます。
- Prime Collaboration Provisioning は IPv4 プロトコルを使用して Cisco Unified Communications Manager と通信しますが、IPv4 または IPv6 プロトコルを使用する電話をプロビジョニングできます。



第 2 章

サーバの設定

- [ライセンスの管理, 21 ページ](#)
- [Prime Collaboration Provisioning からの相互起動, 25 ページ](#)
- [Prime Collaboration サーバの統合, 26 ページ](#)
- [Prime Collaboration のシングル サインオン, 28 ページ](#)
- [Prime Collaboration Provisioning の SSL の有効化, 32 ページ](#)
- [Prime Collaboration Provisioning での OpenSSL の更新, 35 ページ](#)
- [SSL ポートの変更, 37 ページ](#)
- [LDAP および ACS サーバを使用するための Provisioning の設定, 37 ページ](#)
- [Prime Collaboration Provisioning サーバのタイム ゾーンの設定, 39 ページ](#)

ライセンスの管理

Prime Collaboration Provisioning を使用するには、Provisioning イメージライセンスと 1 つ以上のスケール ライセンスが必要です。イメージ ライセンスがない場合は、製品が評価モードのままになります。また、スケールライセンスによって、プロビジョニングできる電話機の数が増加されます。

[ライセンスステータス情報 (License Status Information)] ページには、機能名、使用可能なライセンス数、使用されているライセンス数、有効期限が表示されます (このページを表示するには、[管理 (Administration)] > [システムの設定 (System Configuration)] > [ライセンス管理 (License management)] の順番に移動し、右側にある [ライセンス ステータス (License Status)] アイコンをクリックします)。

Prime Collaboration Provisioning Standard では、使用可能な機能の下に、委任、ワークフロー、テンプレート、および NBI 機能がリストされます。Prime Collaboration Provisioning Advanced のライセンスを購入した場合、これらの機能が有効な機能のリストに表示されます。



(注) 分散インストールの場合、2 台のサーバ間のネットワーク接続が失われた後に再確立されるか、Provisioning データベース (PostgreSQL データベース) サーバだけが再起動されると、Provisioning サーバにログインできず、[ライセンスステータス情報 (Licensing Status Information)] ページにライセンス エラーが表示されることがあります。エラー メッセージには、すべての機能を利用できないことが記されています。この場合、アプリケーションサーバのプロビジョニング サービスを再起動します。

- Provisioning イメージライセンスと、管理対象の電話の MAC アドレス数に合わせた 1 つ以上のスケール ライセンスを購入できます。スケール ライセンスは追加可能なライセンスで、1 つの Provisioning インスタンスあたり最大 150,000 です。イメージライセンスが存在する必要があります。これがないと、製品は評価モードのままになります。
- オプションの Provisioning NBI には、個別のライセンス (Provisioning API ライセンス) 購入が必要です。Prime Collaboration Provisioning は、Provisioning NBI を有効にする前にライセンスの有無を確認します。
- Provisioning のアプリケーションプログラミング インターフェイス (API) は、Cisco Prime Collaboration Provisioning Northbound Interface (Provisioning NBI) と呼ばれています。これは、Provisioning のプロビジョニング機能の大半をカバーする SOAP ベースの Web サービス リクエストのセットです。詳細については、次の Provisioning NBI のマニュアルを参照してください。



(注) Provisioning NBI を使用するには、追加機能ライセンスを購入する必要があります。基本の (電話機限定) Provisioning ライセンスを購入しても、Provisioning NBI は使用できません。

ライセンスディレクトリに複数のイメージライセンスファイルが存在する場合、Prime Collaboration Provisioning は、(ファイルの日付に基づいて) 最新のイメージライセンス ファイルを選択して使用します。

[ライセンス管理 (License Management)] ページからライセンス ファイルを追加すると、エラーが発生した場合に、Prime Collaboration Provisioning はそのライセンス ファイルを検証して適切な確認メッセージを表示します。以下の場合にライセンスファイルを追加すると、失敗する可能性があります。

- ライセンス ファイルが不適切 (Provisioning アプリケーションに Assurance ライセンスが追加されている)
- MAC アドレスが不正確
- ライセンスのバージョンが不適切
- ライセンス ファイルが破損している、または変更されている
- ライセンス数が一致しない

手動でアップロードしたライセンス ファイルは、[ライセンス管理 (License Management)] ページで表示できます。

ライセンス取得プロセス

次の手順は、新規インストール（およびアップグレード）、スケール ライセンス、および Provisioning API ライセンスに適用されます。

手順

-
- ステップ 1** Product Authorization Key (PAK) の入手：PAK は、Cisco.com で Prime Collaboration Provisioning を登録するために使用され、リソース制限が含まれます。
購入した差分ライセンスごとに PAK が提供されるので、その PAK を使用してライセンス ファイルを入手する必要があります。
- ステップ 2** ライセンス ファイルの入手：Cisco.com で PAK を登録すると、ライセンス ファイルを取得できます。
- ステップ 3** [ライセンス管理 (License Management)] ページから Prime Collaboration Provisioning にライセンス ファイルをインポートします。Prime Collaboration Provisioning がインストール済みで、ライセンス ファイルをアップグレードする場合は、Prime Collaboration Provisioning にライセンス ファイルを登録する必要があります。
-

Prime Collaboration Provisioning へのライセンス ファイルの追加

Prime Collaboration Provisioning のスタンドアロンまたは統合アプリケーションにライセンス ファイルを追加するには、次の手順を実行します。

Prime Collaboration Provisioning のスタンドアロンにライセンス ファイルを追加するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [ライセンス管理 (License Management)] ページに進みます。
- 統合モードでは、[管理 (Administration)] > [ライセンス管理 (License Management)] を選択します。
 - スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning アプリケーションで、[管理 (Administration)] > [システムの設定 (System Configuration)] > [ライセンス管理 (License management)] を選択します。
- ステップ 2** [ライセンス管理 (License management)] ページで [追加 (Add)] をクリックします。

(注) Cisco Prime Collaboration Provisioning Standard モードから Cisco Prime Collaboration Provisioning Advanced ライセンス モードに更新している場合は、新しいライセンス ファイルを追加してから、[削除 (Delete)] オプションを使用して [ライセンス管理 (License management)] ページにリストされている古いライセンス ファイル ([アップロード時間 (Upload Time)] カラムを参照) をすべて削除する必要があります。

ステップ 3 [ライセンス ファイルの追加 (Add License File)] ウィンドウで、ライセンス ファイルをアップロードして [OK] をクリックします。

新しく追加されたライセンス ファイル情報は、[ライセンス ステータス (License Status)] ペインに表示されます。複数のライセンスを購入した場合は、**ステップ 2** および **ステップ 3** を繰り返して、追加ライセンスのインストールを完了します。

ライセンス ファイルを削除するには、[ライセンス管理 (License management)] ページで、ライセンス ファイルを選択して [削除 (Delete)] をクリックします。

Prime Collaboration の Standard モードと Advanced モード間の切り替え

Prime Collaboration Assurance でも、Prime Collaboration Provisioning でも、Prime Collaboration は Standard モードから Advanced モードへ切り替える機能が提供されています。

次の表に、さまざまなシナリオでの切り換えを示します。

表 4: Prime Collaboration Provisioning における Standard モードから Advanced モードへの切り換え

インストールモード	Standard から Advanced Evaluation	Standard から Advanced (ライセンスを購入)	Advanced Evaluation から Advanced (ライセンスを購入)	Advanced Evaluation から Standard
Prime Collaboration Provisioning	N/A	はい。(ユーザ インターフェイスの右上の隅にある [Upgrade] アイコンをクリックし、[Add Licenses] をクリックします。[License Management] ページで、[Add] をクリックし、Advanced モードのライセンス ファイルをアップロードします。)	はい。(ユーザ インターフェイスの右上の隅にある [Upgrade] アイコンをクリックし、[Add Licenses] をクリックします。[License Management] ページで、[Add] をクリックし、Advanced モードのライセンス ファイルをアップロードします。)	該当なし

統合モードでは、Standard モードから Advanced モードに切り替えるプロビジョニングもあります。次のいずれかのアップグレードを行えます。

- [One application only] : Prime Collaboration Assurance でのみ Standard モードから Advanced モードに切り替えて、同じ（インストールされている）モードで Prime Collaboration Provisioning へのアクセスを続行できます。
- [Both the applications] : Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning の両方で、Standard モードまたは Advanced Evaluation モードから Advanced（ライセンスを購入）に切り替えることができます。

Prime Collaboration Provisioning からの相互起動

Prime Collaboration 10.0 以上では、Prime Collaboration Provisioning の相互起動機能を使用して Cisco Unified Communications 機能にアクセスできます。管理者権限を持つユーザは、Prime Collaboration Provisioning から相互起動して Cisco Unified Communications 製品を使用できます。相互起動の主な目的は、Cisco Unified Communications Manager、Unity Connection、IM and Presence サービスなど、設定済みデバイスの製品 UI のユーザ設定を管理者が Prime Collaboration Provisioning でアップデートする場合に、スムーズかつ継続的なワークフローを実現することです。

管理ユーザとして、Prime Collaboration Provisioning から次の目的のため相互起動を使用することができます。

- [\[インフラストラクチャ設定 \(Infrastructure Configuration\)\]](#) からのデバイスの相互起動
- [\[インフラストラクチャのセットアップ \(Infrastructure Setup\)\]](#) からの Serviceability の相互起動。「[デバイスの追加](#)」を参照してください。
- [\[ユーザプロビジョニング \(User Provisioning\)\]](#) からの CUCM の関連リンクの相互起動。
「[\[ユーザプロビジョニング \(User Provisioning\)\]](#) からの CUCM と Unity Connection の相互起動に関するリンク」を参照してください。



(注)

- 相互起動は admin 権限を持つユーザのみが使用でき、10.0 バージョン以降の Cisco Unified Communications Manager、Unity Connection、Presence Services でサポートされます。これらのデバイスの旧バージョン（10.0 よりも前）を Prime Collaboration Provisioning に追加すると、管理者としてネイティブ起動リンクのみが表示されます。

ただし、バージョン 10.0 よりも前の Presence Service は、[インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)] ビューにネイティブリンクとして表示されません。これは、ネイティブリンクが Prime Collaboration の旧バージョンではサポートされていないためです。

- 相互起動に対するシングルサインオン (SSO) の有効化は必須ではありません。相互起動に対して SSO を有効にしていない場合は、プロセッサ (Cisco Unified Communications Manager、Unity Connection、Presence Service) を初めて相互起動するときに、ログインクレデンシャルを指定する必要があります (信頼できるセキュリティ証明書リストへの Web サイトの追加を要求されたときに、そのまま続行して指定します)。ただし、後続の試行では、セッションが進行中で起動している限りプロセッサを相互起動するためにログインする必要はありません。SSO を有効にするには、「[Prime Collaboration のシングルサインオン](#)」を参照してください。
- ブラウザ設定によっては、相互起動時にブラウザの新しいタブまたはウィンドウが開く場合があります。該当するアプリケーションの製品マニュアルでブラウザの互換性を参照してください。

Prime Collaboration サーバの統合

音声エンドポイントとビデオエンドポイントの両方をモニタリングしたり、Unified Communications のシステムをプロビジョニングしたりするために Prime Collaboration Assurance アプリケーションおよび Prime Collaboration Provisioning アプリケーションの統合を選択すると、Prime Collaboration Assurance システムおよび Prime Collaboration Provisioning システムの両方の機能を活用できます。

Prime Collaboration Provisioning の接続

サーバを統合するには:

はじめる前に

Prime Collaboration サーバを統合する前に、次の手順を実行します。

デフォルトでは、Prime Collaboration Assurance サーバはセキュアモード (HTTPS) で動作しますが、Prime Collaboration Provisioning サーバは非セキュア (HTTP) モードで動作します。Prime Collaboration Provisioning サーバを HTTPS モードに設定し、コンテンツが混在する問題を回避する必要があります。SSL を有効にする方法の詳細については、『[Cisco Prime Collaboration 10.0 Provisioning User Guide](#)』の「[Setting up the server](#) (サーバの設定)」の項を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** Prime Collaboration Assurance サーバで、[Administration] > [System Setup] > [Assurance Setup] > [Cisco Prime 360 Integration] の順に移動します。
- ステップ 2** [Prime Collaboration Provisioning Server Setup] で、接続する Prime Collaboration Provisioning アプリケーション サーバの IP アドレスを指定します。
- ステップ 3** プロトコルを選択して、ポートの詳細を入力します。
HTTPS の使用を推奨します。
- HTTP の場合、Prime Collaboration Assurance および Provisioning のサーバで使用するポートは 80 です。HTTPS の場合は Prime Collaboration Assurance は 443、Prime Collaboration Provisioning は 46443 です。
- データ転送に使用するポートの詳細については、『[Required Ports for Prime Collaboration](#)』を参照してください。
- ステップ 4** Prime Collaboration Provisioning サーバの接続をテストします。
- ステップ 5** [Attach] をクリックします。
Prime Collaboration Provisioning アプリケーションを Prime Collaboration Assurance に接続後、UI を更新し、UI の [Design and Deploy] のタブを表示します。
- ステップ 6** HTTPS プロトコルを選択した場合は、[Getting Started] ページの [Test Provisioning Certificate] をクリックし、Prime Collaboration Provisioning サーバの SSL 証明書をテストします。
-

Windows Internet Explorer:

統合アプリケーションを起動すると、「Do you want to view only the web page content that was delivered securely」というメッセージが表示されます。

ポップアップ ダイアログボックスから [No] を選択した場合は、Prime Collaboration Provisioning のすべてのページに適切なデータが表示されます。

ポップアップ ダイアログボックスから [Yes] を選択した場合は、Prime Collaboration Provisioning のすべてのページにデータが表示されません。ただし、Microsoft IE 9.0 および 10.0 では、セキュリティ警告が表示されず、Prime Collaboration Provisioning のすべてのページに適切なデータが表示されます。

Internet Explorer 10.0 および Internet Explorer 11.0

統合モードで Prime Collaboration UI を起動する場合、[証明書のテストプロビジョニング (Test Provisioning Certificate)] をクリックした後でも Provisioning UI を起動できないことがあります。エラーメッセージ「無効なセキュリティ証明書のためコンテンツがブロックされています (Content Blocked due to Invalid Security Certificate)」が表示されます。

この問題を回避するには、次のタスクを実行します。

- 1 アドレス バーで、[証明書エラー (Certificate Error)] > [証明書の表示 (View certificates)] をクリックします。

- 2 [証明書 (Certificate)] ダイアログ ボックスで、[証明書のインストール (Install Certificate)] をクリックして、[次へ (Next)] をクリックします。
- 3 [証明書をすべて次のストアに配置する (Place All Certificates)] オプションを選択して、証明書ストアを参照します。
- 4 [物理ストアを表示する (Show Physical Stores)] チェック ボックスをオンにします。
- 5 [信頼されたルート証明機関：ローカルコンピューター (Trusted Root Certificate Authorities—Local Computer)] オプションを選択します。
- 6 [OK] をクリックし、[完了 (Finish)] をクリックします。
- 7 ステップ 2 から 4 を繰り返します。
- 8 [信頼された発行元：ローカルコンピューター (Trusted Publishers—Local Computer)] オプションをクリックして、[完了 (Finish)] をクリックします。
- 9 Internet Explorer を再起動すると、証明書のエラーは起きなくなります。

Mozilla Firefox:

混合コンテンツをサーバに表示するには、アドレス バーの [Shield] アイコンをクリックし、[Keep Blocking] ドロップダウンの [Disable Protection] を選択します。

統合後:

- Prime Collaboration Provisioning UI が Prime Collaboration Assurance と統合され、Prime Collaboration Provisioning にログインしている場合でも、プロビジョニング IP アドレスが Prime Collaboration Assurance にリダイレクトされます。
- Prime Collaboration Assurance から Prime Collaboration Provisioning の接続を解除すると、統合モードの Prime Collaboration Provisioning および Prime Collaboration Assurance で適切であったユーザ ロールもスタンドアロン アプリケーションに適用されます。
- Prime Collaboration Provisioning アプリケーションを再起動またはシャットダウンする場合は、必ず Prime Collaboration Assurance から接続解除してください。再起動プロセス後に統合することができます。

Prime Collaboration のシングル サインオン

Prime Collaboration は Security Assertion Markup Language (SAML) を使用して Prime Collaboration Assurance および Prime Collaboration Provisioning でのシングル サインオン (SSO) を可能にする管理者権限をユーザに提供します。

Prime Collaboration では、マルチサーバの SAN 証明書およびエンドユーザの SAML SSO はサポートされません。

次の UC アプリケーションを相互起動するように Prime Collaboration Provisioning で SSO を有効にできます。

- Cisco Unified Communications Manager

- Cisco Unity Connection
- Cisco Unified Presence



(注) ログイン クレデンシャルを必要とせずにアプリケーションを相互起動するには、それらのアプリケーションの SSO を必ず Prime Collaboration と同じ IdP サーバで設定します。

SSO を有効にする前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- Prime Collaboration Provisioning が Secure Socket Layer (SSL) を使用するように設定されています。Provisioning の SSO を有効にする前に SSL を有効にする必要があります。Prime Collaboration Provisioning で SSL を有効にする手順については、『[Cisco Prime Collaboration Provisioning Guide](#)』の「**Enabling SSL for Prime Collaboration Provisioning**」のセクションを参照してください。



(注) デフォルトでは、Prime Collaboration Assurance の SSL は有効になっています。

- Prime Collaboration Provisioning での LDAP の同期を介して、または Prime Collaboration Assurance で LDAP 管理ユーザを手動で作成することにより、システムに少なくとも 1 人の LDAP 管理ユーザが存在するようになります。

Prime Collaboration Provisioning でユーザに管理者権限を提供する方法については、『[Cisco Prime Collaboration Provisioning Guide](#)』の「*Managing Users*」の章を参照してください。

- Identity Provider (IdP) サーバは、単一ホストのアプリケーションおよびサービス プロバイダーが提供するその他多くのアプリケーションへのアクセスに SSO を使用できるようにします。サービス プロバイダーとはアプリケーションをホストする Web サイトです。次に、サポートされているサードパーティ IdP サーバを示します。

- Open Access Manager (OpenAM)
- Ping ID
- Active Directory Federation Services (ADFS)
- Oracle Identity Manager

IdP サーバをセットアップする手順については、『[SAML SSO Deployment Guide for Cisco Unified Communication Applications, Release 10.0\(1\)](#)』を参照してください。

- IdP サーバからのアイデンティティ プロバイダーのメタデータ ファイルをダウンロードし、ローカル システムに保存します。

シングルサインオンを有効にするには、以下を実施します。

手順

-
- ステップ 1** [Administration] > [Single Sign-on] を選択します。
- ステップ 2** [Enable SSO] をクリックします。
- 「Enabling SSO redirects you to the IdP server for authentication from the next login」という警告メッセージが表示されます。アプリケーションにアクセスするには、正常に認証される必要があります。
- (注) 前述の前提条件が満たされていない場合は、[Enable SSO] は無効になっていま
- ステップ 3** [Continue] をクリックします。
- ステップ 4** シングル サインオンを有効にするには、SSO ウィザードに示される手順に従います。
- ローカル システムから IdP メタデータ ファイルを見つけ、[Import IdP Metadata] をクリックします。
 - [Download Trust Metadata file] をクリックします。
 - IdP サーバを起動し、ダウンロードした信頼メタデータ ファイルをインポートします。
- (注) これは、SSO を有効にするための手動の手順です。SSO のテストを進める前に、IdP サーバで信頼範囲 (CoT) を作成し、ログアウトする必要があります。
- SSO のテスト セットアップを実行するには、[Valid Administrative Usernames] ドロップダウンからユーザ名を選択します。
- (注) ほかのユーザ名を使用して IdP サーバにログインすると、管理者アカウントがロックされる可能性があります。
- [Run SSO Test] をクリックし、IdP サーバ、Prime Collaboration のアプリケーション、およびシングル サインオン間の接続をテストします。
- 「Unable to do Single Sign-On or Federation」というエラー メッセージが表示された場合は、次の手順を実行します。
- エンド ユーザ クレデンシャルを使用して手動で IdP サーバにログインし、認証が成功したかどうかを確認します。
 - Trust Metadata ファイルが IdP サーバで正常にアップロードされているかどうかを確認します。
 - Prime Collaboration サーバと IdP サーバが同じ信頼範囲内にあるかどうかを確認します。
- [Finish] をクリックします。
- 統合モードでは、Prime Collaboration は Provisioning セットアップを使用して Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unity Connection、Cisco Unified Presence のアプリケーションを相互起動します。
-

SSO のトラブルシューティングおよびログ

- SSO を有効化している間に Prime Collaboration サーバからログアウトしている場合は、ブラウザを閉じて Prime Collaboration アプリケーションを再起動することを推奨します。これは、

Prime Collaboration サーバでのセッションが期限切れになっても、IdP サーバセッションはまだアクティブである可能性があるためです。

- Prime Collaboration Provisioning の場合は `/opt/cupm/sep/logs` ディレクトリ、Prime Collaboration Assurance の場合は `/opt/emms/tomcat/webapps/emsam/log/sso` ディレクトリでログ ファイル (`ssosp*.log`) を見つけることができます。
- SSO を有効化中は、Prime Collaboration のホスト名が設定され、DNS の一部であることを確認します。

IdP サーバがダウンしている場合は、次のことが可能です。

- リカバリ URL (`https://<PCserver IP アドレス または DNS に含まれているホスト名>/ssosp/local/login`) を使用します。
- CMD ユーティリティからのシングルサインオンの無効化。

Prime Collaboration アプリケーションで CMD ユーティリティから SSO を無効化するには、以下を実施します。

- SSH とポート 22 (Prime Collaboration Assurance の場合は 26) を使用して Prime Collaboration Provisioning サーバにログインします。
- Prime Collaboration Provisioning の場合は `/opt/cupm/sep/build/bin` ディレクトリ、Prime Collaboration Assurance の場合は `/opt/emms/emsam/bin` に移動します。次の表に基づいて `cpcmconfigssso.sh` ファイルの `<Operation>` および `<Value>` エントリを追加します。

操作は次のとおりです。	値は次のとおりです。
1 : シングル サインオン ステータスを取得	N/A
2 : リカバリ URL ステータスを取得	N/A
3 : シングル サインオン ステータスを設定	False (注) CLI から SSO を有効にすることはできません。SSO を有効にするには、UI プロシージャを使用します。
4 : リカバリ URL ステータスを設定	True または False

- SSO を無効にするには、次のコマンドを実行します。

`cpcmconfigssso.sh 3 false`



(注) デフォルトでは、リカバリ URL は有効になっています。セキュリティ上の理由から無効にする場合は、`false` に設定します。

Prime Collaboration Provisioning の SSL の有効化

OpenSSL を有効にする前に、Prime Collaboration Assurance から Prime Collaboration Provisioning を切断済みであることを確認してください。



(注)

- SSL は Prime Collaboration Assurance ではデフォルトで有効になりますが、SSL を Prime Collaboration Provisioning で有効にすることは必須ではありません。
- Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning を統合した場合は、SSL を Prime Collaboration Provisioning で有効にしてから、Prime Collaboration Provisioning と Prime Collaboration Assurance を SSL の設定中に指定したポート番号に再接続します。デフォルトでは OpenSSL はポート番号 443 で有効になっていますが、この設定は変更できます。

手順

ステップ 1 Cisco.com から OpenSSL1.0.1g-PC10-Linux.zip をダウンロードします。Provisioning サーバに root ユーザとしてログインし、zip ファイルを /opt/cupm フォルダにコピーします。次のコマンドを使用して zip ファイルを解凍します。

```
unzip OpenSSL1.0.1g-PC10-Linux.zip
```

解凍すると、/opt/cupm に OpenSSL1.0.1g-PC10-Linux フォルダが作成されます。

ステップ 2 次のコマンドを使用して、/opt/cupm にバックアップディレクトリを作成します。

```
mkdir <backupdirectoryname>
```

/opt/cupm/httpd に移動します。次のコマンドを実行して、/opt/cupm/httpd の下にある bin、lib、modules、ssl フォルダをバックアップします。

```
cp -R ssl/ /opt/cupm/<backup_directory_name>/ssl
cp -R bin/ /opt/cupm/<backup_directory_name>/bin
cp -R lib/ /opt/cupm/<backup_directory_name>/lib
cp -R modules/ /opt/cupm/<backup_directory_name>/modules
```

ステップ 3 /opt/cupm/OpenSSL1.0.1g-PC10-Linux に移動します。次のコマンドを使用して、/opt/cupm/OpenSSL1.0.1g-PC10-Linux フォルダから /opt/cupm/httpd フォルダに bin、lib、modules、ssl フォルダをコピーします。

```
unalias cp
cp -R ssl/* /opt/cupm/httpd/ssl/
cp -R bin/* /opt/cupm/httpd/bin/
cp -R lib/* /opt/cupm/httpd/lib/
cp -R modules/* /opt/cupm/httpd/modules/
```

(注) ファイルのコピー中、既存のファイルを上書きするプロンプトが表示されたら、[すべてはい (Yes to All)] を選択します。SSH ファイル転送でファイルをコピーする場合は、[自動選択 (Autoselect)] を選択していることを確認します。

ステップ 4 新しい lib ファイルからの (オペレーティングシステム ライブラリ ファイルへの) リンクを、次のように作成します：`ln -s /opt/cupm/httpd/lib/libssl.so.1.0.0 /lib64 ln -s /opt/cupm/httpd/lib/libcrypto.so.1.0.0 /lib64`。

ステップ 5 `/opt/cupm/httpd/bin` ディレクトリに移動して、アクセス権限用に次のコマンドを実行します：`chmod 777 openssl`。

ステップ 6 次のコマンドを実行してキーを作成します：`./openssl genrsa -out /opt/cupm/httpd/mycorp.com.key 1024`。

ステップ 7 次のコマンドを実行して SSL 証明書を作成します：`./openssl req -new -key /opt/cupm/httpd/mycorp.com.key -x509 -out /opt/cupm/httpd/mycorpcom.crt -days 365`。
`mycorpcom.crt` は証明書名で、`mycorp.com.key` はキー名です。

キーと証明書が `opt/cupm/httpd` フォルダに作成されます。

サンプル出力：

- Country Name (2 letter code) [AU]:US
- State or Province Name (full name) [Some-State]:CA
- Locality Name (eg, city)[]:CA
- Organization Name (eg, company) [Internet Widgits Pty Ltd]:mycorp, LLC
- Organizational Unit Name (eg, section)[]:Sales
- Common Name (eg, YOUR name)[]:
- Email Address []:you@mycorp.com

ステップ 8 `/opt/cupm/httpd/conf` にある `ssl.conf` ファイルのバックアップを作成します。

ステップ 9 VI エディタを使用して、`ssl.conf` ファイルの次の行を更新します。

- `SSLCertificateFile conf/server.crt` を `SSLCertificateFile /opt/cupm/httpd/mycorpcom.crt` に置き換えます。
- `SSLCertificateKeyFile conf/server.key` を `SSLCertificateKeyFile /opt/cupm/httpd/mycorp.com.key` に置き換えます。

ステップ 10 Apache サーバを設定します ([Apache サーバの設定](#), (34 ページ) を参照)。

Apache サーバの設定

手順

-
- ステップ 1** Prime Collaboration Provisioning システムにルートユーザとしてログインし、`/opt/cupm/httpd/conf`にある `httpd.conf` ファイルのバックアップを作成します。
- ステップ 2** VI エディタを使用して、`httpd.conf` ファイルの次の行を更新します。
`#Include conf/extra/httpd-ssl.conf`
 これを次のように更新します。
`Include conf/ssl.conf`
- ステップ 3** 次のコマンドを実行し、Apache サーバを再起動します。
`/opt/cupm/httpd/bin# ./apachectl -k stop`
`/opt/cupm/httpd/bin# ./apachectl -k start -DSSL`
-



(注)

- Prime Collaboration Provisioning アプリケーションの開始時に `https` をデフォルトで有効にするには、ルートユーザとしてログインし、`/opt/cupm/cupm-full-service.sh` および `opt/cupm/cupm-app-service.sh` ファイルの次の行を変更します。次に、Prime Collaboration Provisioning サービスを再起動します。
`$PM_BASE/httpd/bin/apachectl -k start &` を `$PM_BASE/httpd/bin/apachectl -k start -DSSL &` へ
`$PM_BASE/httpd/bin/apachectl -k stop &` を `$PM_BASE/httpd/bin/apachectl -k stop -DSSL &` へ
 - SSH コンソールから次のコマンドを使用して、ポート 80 または 443 が有効（リスニングポート）であることを確認します。
`#lsof -i :443`
`#lsof -i :80`
 - `ssl.conf` ファイルにポート 443 を設定することをお勧めします。Listen 443 を必要なポートに変更します。
 - HTTPS を排他的に実行する場合は、`/opt/cupm/httpd/conf/httpd.conf` ファイルの行「Listen 80」をコメントアウトして HTTP を無効にし、Apache サーバを再起動する必要があります。
-

SSL ポートの変更

Prime Collaboration Provisioning によって SSL 用に使用されるポートを変更するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Prime Collaboration Provisioning システムで、（/opt/cupm/httpd/conf にある）ssl.conf ファイルを開きます。
- ステップ 2** 次の行のポート番号を変更します。
Listen 443
VirtualHost _default_:443
(注) ポート番号の変更後、Prime Collaboration へアクセスするときに新しいポート番号を入力します。
- ステップ 3** 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。
- ステップ 4** Apache サーバを再起動します。
-

Prime Collaboration Provisioning での OpenSSL の更新

脆弱性を修正する最新の openssl を Cisco.com からダウンロードできます。

Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning を統合している場合は、OpenSSL をアップグレードする前に必ず、Prime Collaboration Provisioning を Prime Collaboration Assurance から切り離してください。

手順

-
- ステップ 1** Cisco.com から OpenSSL1.0.1g-PC10-Linux.zip をダウンロードします。Provisioning サーバに root ユーザとしてログインし、zip ファイルを /opt/cupm フォルダにコピーします。次のコマンドを使用して zip ファイルを解凍します。
unzip OpenSSL1.0.1g-PC10-Linux.zip
解凍すると、/opt/cupm に OpenSSL1.0.1g-PC10-Linux フォルダが作成されます。
- ステップ 2** 次のコマンドを使用して、/opt/cupm にバックアップディレクトリを作成します。
mkdir <backupdirectoryname>
/opt/cupm/httpd に移動します。次のコマンドを実行して、/opt/cupm/httpd の下にある bin、lib、modules、ssl フォルダをバックアップします。

cp -R ssl/ /opt/cupm/<backup_directory_name>/ssl
cp -R bin/ /opt/cupm/<backup_directory_name>/bin
cp -R lib/ /opt/cupm/<backup_directory_name>/lib
cp -R modules/ /opt/cupm/<backup_directory_name>/modules
- ステップ 3** /opt/cupm/OpenSSL1.0.1g-PC10-Linux に移動します。次のコマンドを使用して、/opt/cupm/OpenSSL1.0.1g-PC10-Linux フォルダから /opt/cupm/httpd フォルダに bin、lib、modules、ssl フォルダをコピーします。

unalias cp
cp -R ssl/* /opt/cupm/httpd/ssl/

```
cp -R bin/* /opt/cupm/httpd/bin/
cp -R lib/* /opt/cupm/httpd/lib/
cp -R modules/* /opt/cupm/httpd/modules/
```

(注) ファイルのコピー中、既存のファイルを上書きするプロンプトが表示されたら、[すべてはい (Yes to All)] を選択します。SSH ファイル転送でファイルをコピーする場合は、[自動選択 (Autoselect)] を選択していることを確認します。

ステップ 4 次のようにして、新しい lib ファイルから (オペレーティングシステムのライブラリ ファイルに) リンクを作成します。

```
ln -s /opt/cupm/httpd/lib/libssl.so.1.0.0 /lib64
ln -s /opt/cupm/httpd/lib/libcrypto.so.1.0.0 /lib64
```

ステップ 5 /opt/cupm/httpd/bin ディレクトリに移動し、次のアクセス権限用のコマンドを実行します。

```
chmod 777 openssl
```

ステップ 6 次のコマンドを実行してキーを作成します。

```
./openssl genrsa -out /opt/cupm/httpd/<yourkey.key> 1024
```

ステップ 7 次のコマンドを実行して SSL 証明書を作成します。

```
./openssl req -new -key /opt/cupm/httpd/<yourkey.key> -x509 -out
/opt/cupm/httpd/<yourcert.crt> -days 365
```

yourcert.crt は証明書の名前、yourkey.key はキーの名前です。

サンプル出力 :

- Country Name (2 letter code) [AU]:US
- State or Province Name (full name) [Some-State]:CA
- Locality Name (eg, city) []:CA
- Organization Name (eg, company) [Internet Widgits Pty Ltd]:mycorp, LLC
- Organizational Unit Name (eg, section) []:Sales
- Common Name (eg, YOUR name) []:
- Email Address []:you@mycorp.com

ステップ 8 /opt/cupm/httpd/conf/ssl.conf ファイルの次の行を更新して、証明書をキー ファイルにマッピングします。

– SSLCertificateFile /opt/cupm/httpd/mycorpcom.crt を SSLCertificateFile /opt/cupm/httpd/yourcert.crt に置き換えます。

– SSLCertificateKeyFile /opt/cupm/httpd/mycorp.com.key を SSLCertificateKeyFile /opt/cupm/httpd/yourkey.key に置き換えます。

(注) /opt/cupm/httpd に古い証明書がある場合は、それらを削除してください。

ステップ 9 次のコマンドを使用して Apache サーバを再起動します。

```
/opt/cupm/httpd/bin# ./apachectl -k stop
/opt/cupm/httpd/bin# ./apachectl -k start -DSSL
```

SSL ポートの変更

Prime Collaboration Provisioning で SSL に使用されるポートを変更するには、次の操作を行います。

手順

ステップ 1 Prime Collaboration Provisioning システムで、`/opt/cupm/httpd/conf` にある `ssl.conf` ファイルを開きます。

ステップ 2 次の行のポート番号を変更します。

```
Listen 443
```

```
VirtualHost_default_: 443
```

```
ServerName www.example.com:443
```

```
RewriteRule ^/?(.*) https://%{SERVER_NAME}:443/$1 [R,L]
```

(注) ポート番号を変更した後は、Prime Collaboration Provisioning にアクセスするときに新しいポート番号を入力する必要があります

ステップ 3 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

ステップ 4 `/opt/cupm/httpd/conf` にある `httpd.conf` ファイルを開きます。

ステップ 5 次の行のポート番号を変更します。

```
RewriteRule ^/?(.*) https://%{SERVER_NAME}:443/$1 [R,L]
```

ステップ 6 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

ステップ 7 次のコマンドを使用して Apache サーバを再起動します。

```
/opt/cupm/httpd/bin# ./apachectl -k stop
```

```
/opt/cupm/httpd/bin# ./apachectl -k start -DSSL
```

LDAP および ACS サーバを使用するための Provisioning の設定

認証に Access Control Server (ACS) または LDAP サーバを使用するように Prime Collaboration Provisioning を設定できます。ACS サーバは認証のみに使用されますが、LDAP サーバを使用して読み取り、書き込み、同期を実行できます。



(注)

- ACS サーバを追加する場合は、Provisioning サーバを ACS クライアントとして追加する必要があります (TACACS とともに)。
- LDAP サーバに対して SSL を有効にするには、[LDAP サーバまたはサードパーティ証明書のために SSL を有効化する](#)、(38 ページ) を参照してください。
- ACS または LDAP サーバを削除する前に、それがドメインに割り当てられていないことを確認します。ACS または LDAP サーバは、ドメインごとに有効化されます。ACS または LDAP サーバを追加したら、それをドメインに割り当てる必要があります。それによって、ドメイン内のすべてのユーザがその ACS または LDAP サーバに対して認証されます。ACS または LDAP サーバがドメインに関連付けられていない場合、そのドメインのすべてのユーザはローカルに認証されます。globaladmin は常にローカルで認証されます。

Cisco Secure Access Control Server を使用するよう Provisioning を設定する場合は、次の点に注意してください。

- [テスト接続 (Test Connection)] ボタンをクリックすると、IP アドレスの接続だけがチェックされます。
- 共有秘密キーは、認証にのみ使用されます。
- 誤った共有秘密キーを入力した場合、Provisioning にログインしようとする、不正な秘密キーであることを示すエラーが表示されます。ACS の設定中に生成された SSK を使用してください。
- Provisioning は ACS 4.2 のみをサポートしています。

LDAP サーバまたはサードパーティ証明書のために SSL を有効化する

Prime Collaboration Provisioning のユーザ インターフェイスを使用して、Prime Collaboration Provisioning SSL 証明書の更新または LDAP サーバ証明書をインポートできます。手順は次のとおりです。

はじめる前に

- 1 サードパーティ証明書で SSL を有効するには、サードパーティ証明書の PEM 形式 (.key および .cert ファイルを含む zip ファイル) をインポートします。この形式では、Apache サーバで推奨されているように、証明書と秘密キーを 2 つの個別のファイルとして提供します。
- 2 LDAP サーバで SSL を有効にするには、証明書の .cer 形式で SSL 証明書をインポートします。

手順

- ステップ 1 [管理 (Administration)] > [システムメンテナンス (System Maintenance)] > [更新 (Updates)] を選択します。
- ステップ 2 [追加 (Add)] をクリックします。[SSL証明書の追加 (Add SSL Certificate)] ポップアップ ダイアログ ボックスが表示されます。
- ステップ 3 ファイルを選択して、[アップロード (Upload)] をクリックして、SSL 証明書をインポートします。
- ステップ 4 Prime Collaboration Provisioning を再起動します。
- ステップ 5 [LDAPサーバの設定 (LDAP Server Configuration)] ページに移動し、[SSLを使用 (Use SSL)] チェック ボックスをオンにします。
(注) Prime Collaboration Provisioning で SSL 証明書を削除するには、[削除 (Delete)] をクリックします。

Prime Collaboration Provisioning サーバのタイム ゾーンの設定

統合サーバのタイム ゾーン設定を変更するには、Provisioning を Assurance から切断し、タイム ゾーン設定を変更します。

グリニッジ標準時 (GMT) とも呼ばれる、うるう秒で更新される協定世界時 (UTC) を指定できます。

Provisioning サーバでタイム ゾーンを変更するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 インストール中に作成したアカウントを使用して、Prime Collaboration Provisioning サーバにログインします。デフォルトでは、管理アカウントです。
- ステップ 2 次のコマンドを入力して、サポートされているタイム ゾーンのリストを表示します。
`cm/admin# show timezones`
- ステップ 3 Prime Collaboration Provisioning サーバのタイム ゾーンを設定するには、次のコマンドを入力します。
`cm/admin(config)# config t`
`cm/admin(config)# clock timezone US/Pacific`
`cm/admin(config)# exit`
- ステップ 4 実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーするには、次のコマンドを入力します。
`cm/admin# write memory`

- ステップ 5** ルート アカウントを使用して、Prime Collaboration Provisioning にログインします。
- ステップ 6** `cd /opt/cupm/sep` を実行します。
- ステップ 7** `dfc.properties` ファイルの次のプロパティを更新して、オフセットを更新します。
`dfc.gui.utc_offset=<applicable offset for your geographic location>`
 たとえば、IST タイムゾーンにいる場合は、「`dfc.gui.utc_offset=+0530`」と入力します。
- ステップ 8** サービスを再起動します。
`/etc/init.d/pmservers stop`
`/etc/init.d/pmservers start`
- (注) Provisioning サーバを Assurance に接続すると、Assurance のタイム ゾーン設定が統合サーバに表示されます。ただし、Provisioning のダッシュボードには Provisioning のタイム ゾーンだけが表示されます。
- (注) Provisioning サーバを Assurance に接続すると、Assurance UI に Assurance のタイム ゾーン設定が表示されます。ただし、Provisioning の UI には Provisioning のタイム ゾーンが表示されます。

Provisioning のスタンドアロン サーバで、Provisioning のホーム ページの右上隅から [タイム ゾーン (Time Zone)] アイコンを選択し、タイム ゾーンを変更することもできます。[タイムゾーンの設定(UTCオフセット) (Time Zone Settings (UTC Offset))] ページで、新しい UTC オフセットと場所の詳細を入力し、[適用 (Apply)] をクリックします。

Prime Collaboration Provisioning の統合およびスタンドアロン アプリケーションでは、Provisioning ホーム ページの右上隅にある [タイムゾーン (Time Zone)] アイコンを選択して、タイム ゾーンを変更することもできます。[タイムゾーンの設定(UTCオフセット) (Time Zone Settings (UTC Offset))] ページで、新しい UTC オフセットと場所の詳細を入力し、[適用 (Apply)] をクリックします。



- (注) Prime Collaboration の統合アプリケーションでは、[タイムゾーン (Time Zone)] アイコンを使用して行った変更は Provisioning の UI にのみ反映されます (Assurance のタイムゾーンは変更されません)。



- (注) UI で変更したタイム ゾーンは、アプリケーションをログアウトするまで持続します。再びログインすると、そのサーバのタイム ゾーンのみが UI に表示されます。タイム ゾーンを永続的に変更するには、サーバのタイム ゾーンを更新した後に、上記の手順を行います。



第 3 章

Prime Collaboration Provisioning でのデバイスの管理

- [デバイス管理の概要, 41 ページ](#)
- [デバイスの追加, 42 ページ](#)
- [デバイスの削除, 50 ページ](#)
- [Cisco Jabber サービスの有効化, 51 ページ](#)

デバイス管理の概要

Prime Collaboration Provisioning を使用するには、まず、IP テレフォニー環境の一部である IP コミュニケーション インフラストラクチャ デバイスを追加する必要があります。

デバイスを追加したら、Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unity システム、Cisco Unified Presence のデータを Prime Collaboration Provisioning と同期させます。これにより、既存のアクティブなユーザとサービスが Prime Collaboration Provisioning に入力され、すべてのインフラストラクチャとユーザの情報が一元的に表示されます。

Provisioning では、Cisco IOS ルータもサポートされます。Cisco IOS ルータ デバイスを Prime Collaboration Provisioning に追加すると、そのルータは汎用 IOS ルータとして Prime Collaboration Provisioning に表示されます。Prime Collaboration Provisioning は、汎用 IOS ルータ機能を介してルータに追加の音声機能を設定できます。

コール プロセッサは、Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unified Communications Manager Express のデバイスの各インスタンスのプロキシです。ユニファイドメッセージ プロセッサは、Cisco Unity、Cisco Unity Express、または Cisco Unity Connection のデバイスの各インスタンスのプロキシです。ユニファイドプレゼンス プロセッサは、Cisco Unified Presence の各インスタンスのプロキシです。これらの用語はそれぞれのデバイスの代用として使用されています。

デバイスの追加

ユーザに対してサービスをプロビジョニングするには、デバイスを Prime Collaboration Provisioning に追加する必要があります。Prime Collaboration Provisioning に追加できるデバイスのリストについては、『[Supported Devices for Prime Collaboration Provisioning - Standard and Advanced](#)』を参照してください。

デバイスを Prime Collaboration Provisioning に追加する際は、次の点に注意してください。

- デバイスを Prime Collaboration Provisioning に追加する前に、Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unified Communications Manager Express、Cisco Unity、Cisco Unity Connection、Cisco Unity Express のデバイスが正しく設定されていることを確認します。これらのデバイスの設定の詳細については、『[Setting Up Devices for Prime Collaboration Provisioning](#)』を参照してください。
- クラスタ環境用にセットアップされたインフラストラクチャ デバイス（Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unity Connection、および Cisco Unified Presence）の場合、パブリッシャ情報とクレデンシャルのみを追加します。
- Prime Collaboration Provisioning で汎用 IOS ルータを設定する方法は、Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unity デバイスの場合とは大幅に異なります。最大の違いは、一般的な IOS ルータは同期化されず、特定のドメインやサービスエリアには関連付けられないことです。
- Prime Collaboration Provisioning で Cisco Unified Communications Manager Express に基づいてコールプロセッサを作成する前に、次の操作を実行する必要があります。
 - 電話番号の自動割り当てを無効にします。これは、Cisco IOS インターフェイスから実行します。
 - Cisco Unified Communications Manager Express の電話自動登録を無効にします。

デバイスを Provisioning に追加するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [設計 (Design)] > [インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)] を選択します。
- ステップ 2** [インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)] ページで、[追加 (Add)] をクリックし、デバイスを Prime Collaboration Provisioning に追加します。
- ステップ 3** [デバイスの追加 (Add Device)] ウィンドウで、ドロップダウンリストから必要なアプリケーションを選択し、名前や IP アドレスなどの必須情報を入力します。フィールドの説明については、次の表を参照してください。
- (注) デバイス名に使用できる文字は、スペース、英数文字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9)、アンダースコア (_)、ハイフン (-)、ピリオド (.)、およびアットマーク (@) です。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

Prime Collaboration Provisioning にデバイスが追加されます。ページの下部に 2 つのステータスメッセージが表示されます。1 つはデバイスの追加が成功したかどうかを示し、もう 1 つは [テスト接続 (Test Connection)] 上にあり、接続テストが成功したかどうかを示します。複数のアプリケーションを持つデバイスは、テーブル上で個別のデバイスとして追加されます。

- (注) Cisco Unity Connection 10.0 以上のバージョンを追加する場合は、Unity Connection 管理者とオペレーティング システム (OS) 管理者の両方のクレデンシャルを追加する必要があります。

デバイスの詳細を表示するには、[クイックビュー (Quick View)] をポイントします。クイックビューでは、同期の開始、同期ログの表示、デバイスの接続テスト、Cisco Unified CM Serviceability と Cisco Unity Connection Serviceability の相互起動を実行できます。クイックビューでは、Jabber サービス ([ユニファイドコミュニケーションサービス (Unified Communication Services)] ページまたは Getting Started Wizard から有効化) のステータス、およびデバイスのセルフプロビジョニング (Getting Started Wizard で有効化) も表示されます。

デバイスの詳細を更新または変更するには、[編集 (Edit)] をクリックします。

Prime Collaboration Assurance からデバイスをインポートするには、[インポート (Import)] をクリックします。[デバイスのセットアップ (Device Setup)] ページに、Assurance 上のデバイスがリストされます (リストには管理対象状態のデバイスのみが表示されます)。インポートするデバイスを選択し、[選択したデバイスのインポート (Import Selected Devices)] をクリックします。



- (注)
- Assurance からのデバイスのインポートは、統合モードに限り実行できます。
 - Provisioning にすでにあるデバイスはインポートできません。
 - Cisco Unity Express (CUE) はインポートできません。

一部のデバイス (IP アドレスが同じデバイス) にはアプリケーションが複数あります。アプリケーションが複数あるデバイスを追加する場合は、最初のデバイスを追加して保存します。最初のデバイスを Provisioning に追加したら、2 番目のアプリケーションを選択して、もう一度デバイスを追加します。デバイスを保存します。[デバイスのセットアップ (Device Setup)] テーブルに両方のデバイスが表示されます。

Prime License Manager および Deployment Manager は、[インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)] ページから追加できます。これらのデバイスを追加すると、Prime License Manager と Deployment Manager のリンクが [管理 (Administration)] メニューに表示されます。Prime License Manager または Deployment Manager のログイン ページを相互起動するには、Prime License Manager または Deployment Manager のリンクをクリックします。



- (注) Prime Collaboration Provisioning には、License Manager と Deployment Manager のデバイスを 1 つだけ追加できます。別の Prime License Manager または Deployment Manager デバイスを追加しようとすると、エラー メッセージが表示されます。

表 5: コール プロセッサのフィールド

フィールド	説明
[LDAP統合 (LDAP Integration)]	<p>オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [なし (None)] : CUCM で LDAP 同期と認証をイネーブルにしておらず、プロビジョニング UI でのみ LDAP 同期を実行する場合に、このオプションを選択します。 (注) 10.x 以降では、このフィールドを [なし (None)] に設定するよう推奨されています。 • [同期 (Synchronization)] : CUCM で LDAP 同期のみをイネーブルにした場合に、このオプションを選択します。 • [同期および認証 (Synchronization and Authentication)] : CUCM で LDAP 同期と認証をイネーブルにした場合に、このオプションを選択します。 <p>選択する値は、Cisco Unified Communications Manager で設定された値と正確に一致する必要があります。 Cisco Unified Communications Manager が外部 Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) と統合されている場合、ユーザは Provisioning によって作成されず、Cisco Unified Communications Manager を通じて同期されます。</p> <p>サービスをプロビジョニングするときに Cisco Unified Communications Manager でユーザが使用可能な状態にない場合、ワークフロー サブシステムは事前に定義された時間（デフォルトでは 24 時間）、そのユーザが Cisco Unified Communications Manager で使用可能になるのを待ってから、サービスのプロビジョニングを継続します。</p> <p>この 24 時間の待機時間は、Provisioning の ipt.properties ファイルで設定できます。次の設定を変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • dfc.oem.extdir.retries : 24 • dfc.oem.extdir.retry_interval : 3600 <p>(注) LDAP 統合を使用できるのは、Cisco Unified Communications Manager バージョン 5.0 以降の場合だけです。</p>
[エクステンションモビリティの詳細 (Extension Mobility Details)] (オプション)	
[サービス名 (Service Name)]	コールプロセッサに設定されたエクステンションモビリティサービスの名前。

フィールド	説明
[サービス URL (Service URL)]	<p>コールプロセッサに設定されたエクステンションモビリティサービスの URL。</p> <p>http://<ip-address>/emapp/EMAppServlet?device=#DEVICENAME#</p> <p>ip-address は、エクステンションモビリティがインストールされているサーバの名前または IP アドレスです。</p> <p>(注) Prime Collaboration Provisioning で入力するサービス名とサービス URL は、Cisco Unified Communications Manager のサービス名とサービス URL と一致する必要があります。</p>

表 6: ユニファイドメッセージプロセッサのフィールド

フィールド	説明
[ボイスメールパイロット番号 (Voicemail Pilot Number)] このオプションは Getting Started Wizard でのみ使用できます。	ボイスメールメッセージにアクセスするためにダイヤルする電話番号。
[LDAP統合 (LDAP Integration)] (注) このオプションは、Cisco Unity Connection だけで使用できます。	<p>Cisco Unity Connection が外部 LDAP と統合されるかどうかを指定します。</p> <p>ボイスメールアカウントをプロビジョニングするときに [Yes] を選択した場合は、Prime Collaboration Provisioning によって Cisco Unity Connection の LDAP ユーザリストが検索されます。ユーザ名がリストで見つかり、ユーザの詳細がインポートされ、ボイスメールアカウントがプロビジョニングされます。</p> <p>[No] を選択した場合、Prime Collaboration Provisioning は LDAP ユーザリストを検索せず、ボイスメールアカウントをプロビジョニングする通常のプロセスに従います。</p> <p>(注) Prime Collaboration Provisioning で LDAP 同期を実行する前に、必ず Call Manager で LDAP 同期を実行することが推奨されています。</p>

フィールド	説明
[ユーザ名 (Username)]	<p>このフィールドでは大文字と小文字が区別されます。 このフィールドに指定するユーザ名は、次のものと一致する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unity : データベース パスワード • Cisco Unity Connection : Cisco Unity Connection 管理者権限を持っている任意のユーザ • Cisco Unity Express : Cisco Unity Express がインストールされているルータのユーザ名
[パスワード (Password)]	<p>このフィールドでは大文字と小文字が区別されます。 このフィールドに指定するパスワードは、次のものと一致する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unity : データベース パスワード • Cisco Unity Connection : 管理者パスワード • Cisco Unity Express : Cisco Unity Express がインストールされているルータのパスワード
[OS管理者名 (OS Administrator Name)] (注) このオプションは、Cisco Unity Connection 10.0以上でのみ使用できます。	OS 管理者名は、Cisco Unity Connection のインストール中に作成されます。
[OS管理者パスワード (OS Administrator Password)] (注) このオプションは、Cisco Unity Connection 10.0以上でのみ使用できます。	OS 管理者パスワードは、Cisco Unity Connection のインストール中に作成されます。
[イネーブルパスワード (Enable Password)]	Cisco Unity Express がインストールされているルータのイネーブルパスワード。

フィールド	説明
[インポートによる作成 (Create by Import)]	Cisco Unity に新しいボイスメール アカウントが作成されたとき、Exchange サーバに新しいアカウントを作成するかどうかを示します。 このフィールドを選択した場合、Exchange サーバにユーザアカウントは作成されません。ユーザ アカウントは、Exchange サーバにすでに存在する場合に限り関連付けられます。
(オプション) [回線ユーザ名 (Line User Name)]	Cisco Unity Express モジュールのユーザ名。
[回線ユーザパスワード (Line User Password)]	Cisco Unity Express モジュールのパスワード。
[サービスエンジンインターフェイス番号 (Service Engine Interface Number)]	ルータ上の Cisco Unity Express サービス エンジンのインターフェイス番号。

表 7: LDAP および ACS サーバ設定のフィールド

フィールド	説明
[LDAPサーバタイプ (LDAP Server Type)]	LDAP サーバのタイプ。 次のオプションを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft AD サーバまたは Microsoft Active Directory アプリケーション モード (ADAM) • Lightweight Directory Services Prime Collaboration Provisioning によってサポートされる Microsoft AD バージョンについては、『 Supported Devices for Prime Collaboration Provisioning 』を参照してください。
[バックアップサーバポート (Backup Server Port)]	バックアップ AAA サーバのポート番号。
[管理識別名 (Admin Distinguished Name)]	LDAP ディレクトリへのアクセス権を所有する LDAP マネージャの管理ユーザ ID。 たとえば、userID = jdoe のユーザ John Doe は「John Doe」と入力する必要があります。 (注) 管理者が Windows ドメイン「Cisco」のユーザである場合は、「admin」と入力します (cisco\admin などのドメインプレフィックスが付いたユーザ名は機能しません)。

フィールド	説明
[管理パスワード (Admin Password)]	管理ユーザのパスワード (LDAP マネージャ)。
[LDAP ユーザ検索ベース (LDAP User Search Base)]	<p>ユーザの検索ベース。LDAP サーバはこのベースに基づいてユーザを検索します。</p> <p>検索ベースを入力するときは、CN または OU の詳細を入力する必要があります。dc=cisco,dc=com では動作しません。CN または OU の各部を指定する必要があります。次の例を参考にしてください。</p> <p>cn=users,dc=eta,dc=com.</p> <p>2 種類のユーザ グループを設定している場合は、次のように入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • OU=Organization, OU=Accounts, DC=aaa, DC=com • OU=Service, OU=Accounts, DC=aaa, DC=com <p>入力する検索ベースは、「OU=Accounts, DC=aaa, DC=com」となります。</p> <p>OU=Organization ユーザ グループのユーザが Admin DN として設定されている場合、Organization ユーザ グループのユーザは全員が Prime Collaboration にログインできますが、Services ユーザ グループのユーザはログインできません。同様に、OU=Services ユーザ グループ内のユーザが Admin DN として設定されている場合は、Services ユーザ グループのユーザは全員が Prime Collaboration にログインできますが、Organization ユーザ グループのユーザはログインできません。</p> <p>Admin DN としてトップ レベルでユーザを設定した場合は、そのレベル以下のすべてのユーザが Prime Collaboration にログインできます。たとえば、OU=Accounts ユーザ グループ内のユーザが Admin DN として設定されている場合は、Organization ユーザ グループと Services ユーザ グループのユーザ全員が Prime Collaboration にログインできます。</p> <p>(注) 検索ベースに特殊文字を入力すると、LDAP 認証に失敗します。</p>
[SSLを使用 (Use SSL)]	Prime Collaboration Provisioning で、Prime Collaboration Provisioning と AAA サーバ間の転送チャネルとして Secure Socket Layer (SSL) 暗号化を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[ACS認証プロトコル (ACS Authentication Protocol)]	ACS サーバによって認証に使用されるプロトコル。

フィールド	説明
[データ暗号化を有効にする (Enable Data Encryption)]	Prime Collaboration Provisioning と ACS サーバ間のデータの暗号化を有効にします。

Cisco Unity Connection デバイスの操作

Cisco Unity Connection のクラスタリングとフェールオーバーをサポートするため、次の点に注意してください。

- Cisco Unity Connection クラスタ サーバペアを含む Cisco Unity Connection を追加する場合は、そのペアのパブリッシャ サーバだけを追加します。
- プライマリ Cisco Unity Connection がセカンダリ Cisco Unity Connection にフェールオーバーする場合、IP アドレスをセカンダリ デバイスに変更できます。その場合、Prime Collaboration Provisioning はフェールバックが発生する前にセカンダリ デバイスと通信します。

ネットワークに複数のロケーションがある場合は、Cisco Unity Connection サーバまたは Cisco Unity Connection クラスタのすべてのロケーションを、Prime Collaboration Provisioning に個々に追加します。

この設定で Cisco Unity を使用する場合、Cisco Unified Communications Manager ボイスメール ポートを設定します。

これらのデバイスの詳細については、『[Setting Up Devices for Prime Collaboration Provisioning](#)』を参照してください。

[インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)] からの Serviceability の相互起動

Prime Collaboration Provisioning では、管理者は、設定済みの Cisco Unity Connection および Cisco Unified Communications Manager から、それぞれ Cisco Unity Connection Serviceability と Cisco Unified Serviceability を相互起動できます。



(注) Serviceability の相互起動は、Cisco Unified Communications Manager デバイスと Cisco Unity Connection デバイスに対してのみサポートされています。

Serviceability の相互起動を利用すると、Serviceability の UI にアクセスして、デバイスのサーバを直接操作できます。Cisco Unified Communications Manager での Serviceability の詳細については、『[Cisco Unified Serviceability Administration Guide](#)』を参照してください。同様に、Cisco Unity Connection での Serviceability の詳細については、『[Administration Guide for Cisco Unity Connection Serviceability](#)』を参照してください。

Serviceability の相互起動機能を使用すると、Prime Collaboration Provisioning では、すべての管理対象ノードでサービスのアクティブ化、非アクティブ化、開始、および停止を（直接）行うことができます。デバイステーブルで Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unity Connection

をポイントし、[クイックビュー (Quick View)] アイコンをクリックして、[操作 (Actions)] ペインの [Serviceability] 相互起動リンクをクリックします。

Cisco TelePresence Management Suite の追加

Cisco Unified Communications Manager と同期する Cisco TelePresence Management Suite (TMS) デバイスをディスカバリ デバイスに追加すると、ビデオエンドポイントのスケジュールを有効にできます。このスケジュールは Cisco TMS でのみ実行され、スケジュールの UI は、Prime Collaboration Provisioning から起動することができます。

手順

-
- ステップ 1** Cisco TMS を追加します（「デバイスの追加」の手順を参照）。
- ステップ 2** アプリケーション ユーザを Cisco TMS に関連付けます。プロビジョニングする Cisco Unified Communications Manager ごとに、Cisco TMS に関連付けるアプリケーションを選択できます。[展開 (Deploy)] > [ユニファイドコミュニケーションサービス (Unified Communication Services)] を選択します。[TMSサービス (TMS Service)] で Cisco Unified Communications Manager のアプリケーション ユーザを選択し、[適用 (Apply)] をクリックします。アプリケーション ユーザは、[標準CCM管理ユーザ (Standard CCM Admin Users)] グループや [標準CTI有効 (Standard CTI Enabled)] グループに属している必要があります。
- [標準AXL APIアクセス (Standard AXL API Access)]、[標準CCM管理ユーザ (Standard CCM Admin Users)]、[標準CTI有効 (Standard CTI Enabled)]、[標準CUレポート (Standard CUReporting)]、[標準リアルタイム追跡収集 (Standard RealtimeAndTraceCollection)]、[標準サービスアビリティ (Standard SERVICEABILITY)]
- ステップ 3** エンドポイントをプロビジョニングします。「[ユーザのサービスのオーダー](#)」を参照してください。スケジュールを有効にするには、[サービス固有の設定 (Service Specific Configuration Layout)] で、[スケジュールの有効化 (Enable Scheduling)] をクリックします。特定のサービス エリアに関連付けられているアプリケーション ユーザ用に、Cisco Unified Communications Manager でエンドポイントが追加されてプロビジョニングされます。
- (注) エンドポイントの新しい順序を作成する場合は、異なる Cisco Unified Communications Managers をポイントする多数のサービスを設定できます。このとき、それぞれの Cisco Unified Communications Manager に使用できるサービス エリアを選択する必要があります ([ユニファイドコミュニケーションサービス (Unified Communication Services)] で)。
-

デバイスの削除

Prime Collaboration Provisioning からデバイスを完全に削除するには、[インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)] ページを使って削除する必要があります。デバイスを削除する場合は、次のポイントに注意してください。

- アクティブなリリース済みオーダーがない（回復不能または回復可能なエラーを含む）。
- アクティブなバッチ プロジェクトがない。
- 同期の実行中でない。

これらの条件が満たされていない場合にデバイスを削除しようとする、ページにメッセージが表示されます。削除が完了するまで、アクティビティは実行しないでください。

- AAA サーバを削除する前に、それがドメインに割り当てられていないことを確認します。
- デバイス上に保留中のオーダーがないようにしてください。
- デバイスを削除する前に、システムに古いエントリが入るのを避けるために、ドメインの同期化を実行します。

デバイスを削除するには、次の手順を実行します。

手順

-
- | | |
|---------------|---|
| ステップ 1 | Prime Collaboration Provisioning をメンテナンス モードにします。（ メンテナンス モード 、 (321 ページ) を参照）。 |
| ステップ 2 | [設計 (Design)] > [インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)] を選択します。 |
| ステップ 3 | [インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)] ページで、削除するデバイスを選択して [削除 (Delete)] をクリックします。 |
| ステップ 4 | 確認ダイアログボックスで、[OK] をクリックして削除を実行します。 |
-

Cisco Jabber サービスの有効化

Prime Collaboration Provisioning で、デバイスの Cisco Jabber サービスを有効にすることができます。Cisco Jabber サービスを使用すると、インスタント メッセージングやプレゼンスと連携させることができます。

10.6 以降では、管理者権限を使用して最大 5 つのタイプの Cisco Jabber を選択できます。

- Cisco Jabber Video for BlackBerry
- Cisco Jabber for Desktop
- Cisco Jabber for Android
- Cisco Jabber for iPhone
- Cisco Jabber for Tablet



(注) Cisco Jabber サービスは、Cisco Unified Communications Manager 9.1.1 以上のバージョンと、Cisco Unified Presence でのみ利用できます。

コール プロセッサの Cisco Jabber サービスを有効にするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [展開 (Deploy)] > [ユニファイドコミュニケーションサービス (Unified Communication Services)] を選択します。
- ステップ 2** [ユニファイドコミュニケーションサービス (Unified Communication Services)] ページで、[有効 (Enable)] をクリックします。
- ステップ 3** [SIP プロファイル (SIP Profile)]、[サービスプロファイル (Service Profile)]、および[ソフトキー テンプレート (Softkey Template)] フィールドとサービス パラメータ情報を入力して、[適用 (Apply)] をクリックします。これらのフィールドの詳細については、[インフラストラクチャ設定製品のフィールド](#)、(457 ページ) を参照してください。[オーダーの表示 (View Order)] をクリックすると、[ユーザレコード (User Record)] ページでオーダーの詳細を確認できます。Jabber サービスを有効にした日付が表示されます。
- (注) コールプロセッサの Cisco Jabber サービスを有効にした後は、編集も無効化もできなくなります。
-



第 4 章

ドメイン、サービス エリア、ユーザ権限、サービス テンプレートの管理

- [ドメイン、サービス エリア、ユーザ ロール、サービス テンプレートの概要, 53 ページ](#)
- [ドメインの追加, 55 ページ](#)
- [サービス エリア, 56 ページ](#)
- [サービス エリアの追加, 57 ページ](#)
- [ユーザ権限の追加, 64 ページ](#)
- [サービス テンプレートの作成, 68 ページ](#)

ドメイン、サービス エリア、ユーザ ロール、サービス テンプレートの概要

デバイスを追加した後は、最初にドメインを作成してから、サービス エリア、ユーザ ロール、サービス テンプレートを追加する必要があります。

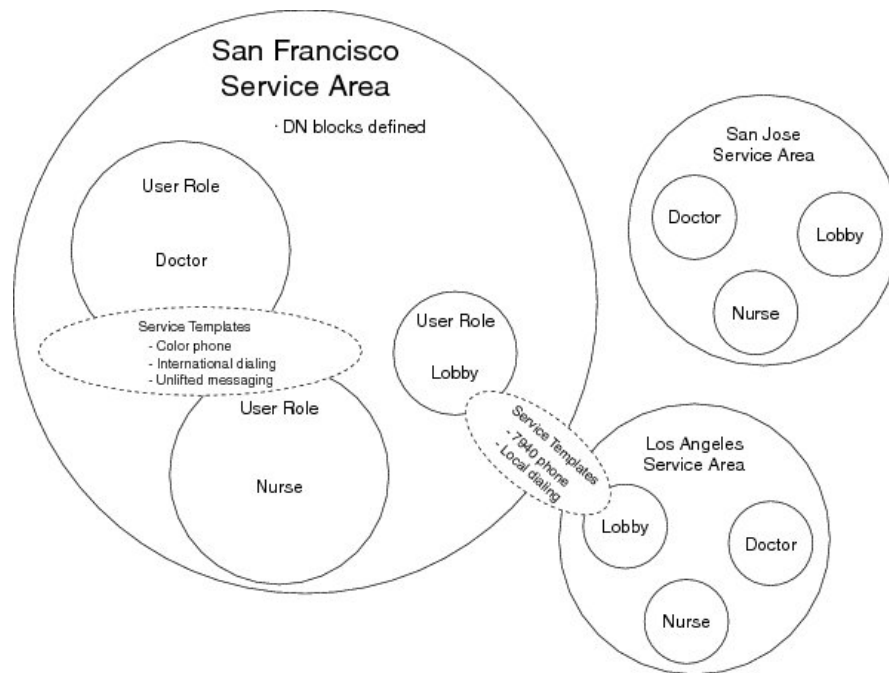
Prime Collaboration Provisioning 10.0 以上のバージョンでは、[ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)] ページ ([設計 (Design)] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)]) を選択) に、すべてのユーザ プロビジョニング タスクの設定の要約が示されます。一元化されたビューを使用して、1 つのユーザ インターフェイスでドメイン、サービス エリア、ユーザ ロール、サービス テンプレートを管理することができます。

ユーザ プロビジョニングをセットアップするには、以下の操作を実行します。

- **ドメインの追加および設定：**ドメインを追加して設定し、ユーザグループの運用上の機能を定義します。
- **サービスエリアの追加および設定：**サービスエリアを設定します。具体的には、ルートパーティションとデバイス プールの選択、サービス エリアにアクセスできるユーザ タイプの指定、電話番号ブロックの設定を行います。

- ユーザロールの追加および設定：ユーザロールを追加し、特定タイプのユーザロールによってプロビジョニングできるサービスを割り当てます。
- サービステンプレートの追加および設定：プロビジョニング属性を設定します。プロビジョニング属性はサービスの起動時にサービスに適用される各種設定です。

図 1: ドメイン、サービスエリア、ユーザロール、サービステンプレート



導入は、地理的なロケーションに基づいて行うことができます。上記の例では、音声の導入が西海岸地域の都市で予定されています。西海岸はドメインに該当します。ドメイン同期ルール、ポリシー、管理権限が西海岸ドメインで定義されます。サンノゼ、ロサンゼルス、サンフランシスコは、サービスエリアです。これらの都市の Doctor（医師）、Nurse（看護師）、Lobby assistant（ロビーアシスタント）のユーザロールには、IP テレフォニーとメッセージングサービスをプロビジョニングする必要があります。これらの IP テレフォニーとメッセージングサービスは、サービステンプレートで定義されます。Doctor と Nurse ユーザロールは、国際電話の使用を許可するサービステンプレートによって割り当てられます。一方、Lobby ユーザロール用に定義されたサービステンプレートでは、市内通話だけが許可されます。

ユーザインターフェイス（[設計（Design）]>[ユーザプロビジョニングのセットアップ（User Provisioning Setup）]）では、左側のペインにドメイン、サービスエリア、ユーザロール、サービステンプレートが一覧表示されます。右側のペインには対応するテーブルが表示されます。[ユーザプロビジョニングのセットアップ（User Provisioning Setup）] ページに入力すると、デフォルトで[ドメイン（Domains）] テーブルが表示されます。すべてのドメインのリストを表示するには、[すべてのドメイン（All Domains）] をクリックします。展開するには矢印アイコンをクリックします。ドメインを展開すると、そのドメインのサービスエリア、ユーザロール、サービステンプレートを表示できます。さらに、サービスエリアとユーザロールを展開すると、複数のユーザロールと、そのドメインに関連付けられているサービスエリアのリストを表示できます。

ドメインの追加

ドメインとは、ユーザのグループです。グループごとにシステムユーザを1名以上任命し、そのユーザにドメイン内のユーザに対するサービスの管理を任せることができます。また、ドメインにはルールまたはポリシーを設定できます。これらのルールとポリシーは、そのドメイン内のユーザのサービスに適用されます。ドメイン内の運用に共通のポリシーを適用することも可能です。

1人のユーザが複数のドメインを管理できます（そのユーザに適切な承認権限が割り当てられている場合）。ユーザのすべてのサービスは、そのユーザを追加するときに指定したサービスドメインでプロビジョニングされます（ユーザを追加するには、[\[展開 \(Deploy\)\] > \[ユーザプロビジョニング \(User Provisioning\)\]](#) を選択します）。

ドメインを作成した後、新しいドメインにアクセスできるサービスエリアとユーザ権限を追加できます。サービステンプレートを作成し、サービスエリアとユーザ権限に割り当てることもできます。また、1つのサービステンプレートを、サービスエリアとユーザ権限の複数の組み合わせに関連付けることも可能です。[サービスエリアの追加](#)、[\(57 ページ\)](#) および [ユーザ権限の追加](#)、[\(64 ページ\)](#) を参照してください。

ドメインを作成するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [\[設計 \(Design\)\] > \[ユーザプロビジョニングのセットアップ \(User Provisioning Setup\)\]](#) を選択します。
- ステップ 2** [\[追加 \(Add\)\]](#) をクリックし、[\[ドメイン \(Domains\)\]](#) ページで新しいドメインを追加します。
- ステップ 3** [\[コールプロセッサ \(Call Processors\)\]](#)、[\[メッセージプロセッサ \(Message Processors\)\]](#)、[\[同期ルール \(Synchronization Rules\)\]](#)、[\[LDAP設定 \(LDAP Settings\)\]](#) などの必要なフィールドに入力し、[\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックします。[\[名前 \(Name\)\]](#) フィールドにドメイン名を入力する必要があります。使用できる文字は、スペース、英数字（A～Z、a～z、0～9）、および特殊文字 `_-./:;=?@^{' } [] | ~` です。
- [\[同期ルール \(Synchronization Rules\)\]](#) ペインで、ドメイン同期ルールを設定できます。Cisco Unified Communications Manager および Unity Connection の [\[同期ルール \(Synchronization Rules\)\]](#) を選択します。特定の同期ルールの詳細については、[\[?\]](#) アイコンをポイントします。ビジネスルールの詳細な説明については、[ドメイン同期に関するビジネスルール](#)、[\(87 ページ\)](#) を参照してください。
-

- ドメインの設定後、ドメインの同期を実行します。詳細については、[ドメインの同期の概要](#)、[\(84 ページ\)](#) を参照してください。
- LDAP 設定フィールドの更新については、[LDAP サーバと Provisioning の同期](#)、[\(93 ページ\)](#) を参照してください。

既存のドメインを編集するには、左ペインでドメインのリストを展開し、編集するドメインをクリックします。また、[すべてのドメイン (All Domains)] をクリックし、テーブルからドメインを選択して [編集 (Edit)] をクリックする方法もあります。

ドメインの削除

ドメインを削除すると、サービスエリア、ユーザ権限、サービステンプレート、ルール、電話番号ブロックが削除されます。また、エンドポイント、電話番号、ライセンス機能、および Unified Presence ユーザ設定のインスタンスが、グローバル リソース ネームスペースに移動します。

ドメインの削除の実行中は、ドメインの削除が完了するまで、ドメイン内でアクティビティを実行しないでください。

ドメインを削除する前に、システムをメンテナンスモードにする必要があります。また、ドメインを削除する前に、次の前提条件を満たす必要があります。

- アクティブなリリース済みオーダーがない（回復不能または回復可能なエラーを含む）。
- アクティブなバッチ プロジェクトがない。
- ドメインの同期の実行中でない。
- コール プロセッサまたはユニファイド メッセージ プロセッサの同期の実行中でない

手順

-
- | | |
|---------------|--|
| ステップ 1 | Prime Collaboration Provisioning をメンテナンス モードにします（ メンテナンス モード 、 (321 ページ) を参照）。 |
| ステップ 2 | [設計 (Design)] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)] を選択します。 |
| ステップ 3 | 削除するドメインを選択し、[削除 (Delete)] をクリックします。 |
| ステップ 4 | [OK] をクリックします。
[ドメイン (Domain)] リスト ページを更新し、ステータスを確認します。 |
-

サービス エリア

サービス エリアとは、地理的、組織的、または技術的な境界を超えて IP テレフォニー サービスとメッセージング サービスを構成および管理するために使用する、ドメイン内のグループのことです。サービスエリアは、一般的にはサービスを提供するロケーションとして機能し、オーダー処理の際に使用するプロビジョニング属性値を決定するテンプレートのメカニズムを提供します。

サービス エリアは、ビジネスの視点から見たサービスを、そのサービスを提供する技術にマッピングします。

また、サービス エリアは、そのサービス エリアにプロビジョニングされるユーザについて、ロケーション、デバイス プール、およびルート パーティションの各割り当てでどれを使用するのかを指定することにより、Cisco Unified Communications Manager のパーティションとサービス クラスを処理します。

たとえば、Cisco Unified Communications Manager に関連付けられたサービス エリアでは、Cisco Unified Communications Manager 内で各製品が使用するデバイス グループ、ルート パーティション、ロケーション、および外線電話番号マスクが定義されます。

この場合、サービス エリアを設定するときに、サービス エリアに対して選択したコール プロセッサに基づいて、サービス エリアに割り当て可能なルート パーティションのリストが提示されます。サービス エリアに関連付けられたルート パーティションがない場合、電話番号と回線は Cisco Unified Communications Manager のデフォルト ルート パーティションに作成されます。また、主要なボイス メール設定とコール 転送動作もサービス エリアによって決定されます。

Cisco Unity および Cisco Unity Connection ユニファイド メッセージ プロセッサでは、ユニファイド メッセージ プロセッサをサービス エリアに割り当てる場合、加入者 テンプレートと加入者 サービス クラス (CoS) を設定できます (加入者 テンプレートと加入者 CoS にはそれぞれ、Text-To-Speech (TTS) 機能が有効なものと無効なものがあります)。これらのテンプレートは、サービス エリアでのユーザのボイス メール プロビジョニングに使用できます。



(注)

コール プロセッサとして Cisco Unified Communications Manager Express を設定したサービス エリアでは、デバイス プールだけを選択に使用できます。ルート パーティションは使用できません。

サービス エリアの追加

サービス エリアを設定するときは、次の操作を実行できます。

- コール プロセッサと関連するオブジェクト (Cisco Unified Communications Manager ではルート パーティション、デバイス プールなど) を指定することにより、サービス エリアを対応するコール プロセッサ オブジェクトにマッピングします。同様に、サービス エリアをユニファイド メッセージ プロセッサとユニファイド プレゼンス プロセッサにマッピングします。

開始ウィザードでドメインに[コール プロセッサ (Call Processor)]を追加した場合、[コーリング サーチ スペース (Calling Search Spaces (CSS))]、[リージョン (Region)]、[ロケーション (Location)]、[デバイス プール (device pool)]などのフィールドが自動設定されます。

- サービス エリアのユーザ タイプを指定します (サービス エリアから製品をオーダーできるのは、サービス エリア内のユーザだけです)。

ドメイン ルールの DefaultUserType に基づくデフォルトのユーザ権限は[従業員 (Employee)]です。

- サービス エリア ユーザの電話番号ブロックを作成します。

- 選択したコールプロセッサにプレゼンスプロセッサが関連付けられている場合に、ユニファイドプレゼンスプロセッサの設定にプレゼンスプロセッサを表示します。



(注) サービスエリアをドメインに割り当てた後で、別のドメインに移動することはできません。また、コールプロセッサ、ユニファイドメッセージプロセッサ、またはユニファイドプレゼンスプロセッサをサービスエリアに割り当てた後で、それらを変更することもできません。

サービスエリアを追加するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [設計 (Design)] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)] を選択します。
- ステップ 2** サービスエリアを作成するドメインを選択します。
- ステップ 3** ドメインを展開して [サービスエリア (Service Area)] を選択します。
- ステップ 4** [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 5** [サービスエリアの設定 (Service Area Configuration)] ページで、必要なフィールドに入力して [保存 (Save)] をクリックします。次の表に必須フィールドを示します。

既存のサービスエリアを編集するには、左ペインでサービスエリアのリストを展開し、編集するサービスエリアをクリックします。また、テーブルからサービスエリアを選択し、[編集 (Edit)] をクリックする方法もあります。

既存のサービスエリアの情報のコピーを作成するには、表でサービスエリアを選択して、[コピー (Copy)] をクリックします。

表 8: サービスエリア設定のフィールド

フィールド	説明
[共通デバイス設定 (Common Device Config)]	<p>サービスエリアの共通のデバイス設定。[共通デバイス設定 (Common Device Config)] では、次の設定を制御できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ソフトキー テンプレート (Softkey Template)] • [ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)] • [ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)] • [ユーザロケール (User Locale)] • [MLPP 通知 (MLPP Indication)] • [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] • [MLPP ドメイン (MLPP Domain)] <p>(注) このフィールドが表示されるのは、Cisco Unified Communications Manager 6.0 を選択した場合だけです。</p>
[ロケーション (Location)]	デバイスに割り当てられるロケーション。サービスエリアを追加する場合、開始ウィザードでドメインに関連付けられたいずれかのコールプロセッサを追加しているなら、このフィールドは任意です。
[パーティション (Partition)]	サービスエリアのルート パーティション。これは、Cisco Unified Communications Manager のパーティションと同じです。
[デバイスプール (Device Pool)]	サービスエリアのデバイス プール。
[音声ゲートウェイ参照 (Voice Gateway References)]	サービスエリアの音声ゲートウェイ参照。
[電子メールプロセッサ (Email Processors)] Exchange サーバ:	<p>Cisco Unity Connection に対してのみ使用可能で、Internet Message Access Protocol (IMAP) クライアントのサポート用に外部 Exchange Server と統合されます。</p> <p>Cisco Unity Connection で IMAP 用の Exchange Server を設定するには、Cisco Unity Connection システムで [システム設定 (System Settings)] > [外部サービス (External Services)] > [新規追加 (Add New)] を選択し、必要なフィールドに入力します。</p>

フィールド	説明
[TTS が有効でない加入者テンプレート (Subscriber Template without TTS Enabled)]	ユニファイドメッセージプロセッサのユーザに対してユニファイドメッセージングを有効無効にするために使用される加入者テンプレート。
[TTS が有効な加入者 CoS (Subscriber CoS with TTS Enabled)]	<p>ユニファイドメッセージプロセッサのユーザに対してユニファイドメッセージングを有効にするために使用される、サービスクラステンプレート。これは、加入者テンプレートとともに使用されます。</p> <p>CoS の TTS を有効にするには、Cisco Unity Connection で次の設定を行う必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unity Connection 8.x の場合は、次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ [IMAP クライアントを使用したボイスメールへのアクセスを許可する (Allow Users to Access Voice Mail Using an IMAP Client)] フィールド ([ライセンス機能 (Licensed Features)] の下) を選択します。 ◦ [高度な機能へのアクセスを許可する (Allow Access to Advanced Features)] フィールドおよび [テキスト/スピーチ (TTS) を使用したExchange電子メールへのアクセスを許可する (Allow Access to Exchange Email by Using Text to Speech (TTS))] フィールド ([ライセンス機能 (Licensed Features)] の下) を選択します。
[TTS が有効でない加入者 CoS (Subscriber CoS without TTS Enabled)]	ユニファイドメッセージプロセッサの加入者に対してユニファイドメッセージングを有効にするために使用される、サービスクラステンプレート。これは、加入者テンプレートとともに使用されます。
[電話番号ブロック (Directory Number Blocks)]	サービスエリアに割り当てられている電話番号ブロック。 電話番号ブロックの追加 , (63 ページ) を参照してください。

- [共通デバイス設定 (Common Device Config)]、[ロケーション (Location)] および [パーティション (Partition)] フィールドは、Cisco Unified Communications Manager にのみ適用されます。
- [TTS が有効な加入者 CoS (Subscriber CoS with TTS Enabled)]、および [TTS が有効でない加入者 CoS (Subscriber CoS without TTS Enabled)] フィールドは、Unity および Unity Connection にのみ適用されます。

サービスエリアの削除

サービスエリアを削除するには、次の条件が満たされている必要があります。

- システムがメンテナンス モードである。
- アクティブなリリース済みオーダーがない（回復不能または回復可能なエラーを含む）。
- アクティブなバッチ プロジェクトがない。
- ドメインの同期の実行中でない。
- プロセッサの同期の実行中でない。

これらの条件が満たされていない場合、サービスエリアを削除しようとする、削除操作は開始されないというメッセージがページに表示されます。

サービスエリアの削除の実行中は、そのサービスエリアの削除が完了するまでアクティビティは実行されません。

手順

-
- | | |
|--------|--|
| ステップ 1 | Prime Collaboration Provisioning をメンテナンス モードにします（ メンテナンス モード 、 (321 ページ) を参照）。 |
| ステップ 2 | [設計 (Design)] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)] を選択します。 |
| ステップ 3 | ドメインを展開して [サービスエリア (Service Area)] をクリックします。 |
| ステップ 4 | 目的のサービスエリアを選択して [削除 (Delete)] をクリックします。 |
| ステップ 5 | 確認ダイアログボックスで、[OK] をクリックしてサービス エリアを削除します。 |
-

電話番号ブロック

電話番号ブロック内の番号は、それらが作成される Cisco Unified Communications Manager に対して相対的です。Prime Collaboration Provisioning では、電話番号は Cisco Unified Communications Manager と同様に処理されます。

サービスのオーダーを作成する際に電話番号ブロックがないサービスエリアを選択する場合は、選択された回線番号だけを使用できます。

電話番号インベントリを使用して個々の電話番号を設定することも可能です。詳細については、[電話番号の管理](#)、[\(190 ページ\)](#) を参照してください。

次の表に、電話番号のブロックを作成するためのフィールドを示します。

表 9: [電話番号ブロック (Directory Number Blocks)] フィールドの説明

フィールド	説明
[プレフィックス (Prefix)]	電話番号ブロックのプレフィックス。
[最初の番号 (First Number)]	電話番号ブロックの最初の番号。
[最後の番号 (Last Number)]	ブロックの最後の電話番号。
[最小長 (Minimum Length)]	プレフィックスを除く電話番号の最小桁数。番号にゼロを埋めるためにシステムによって使用されます。
[ブロックサイズ (Block Size)]	このフィールドは、[サービスエリア (Service Area)] ページを保存した後に入力されます。

E.164 のサポート

Cisco Unified Communications Manager バージョン 7.x 以降を使用している場合は、Provisioning で国際エスケープ文字 + を設定できます。これにより、電話ユーザが、着信側に関連付けられる国際直接ダイヤルプレフィックス/国際エスケープコードを記憶し、入力する必要なしに、コールを発信できるようになります。デュアルモード電話などの電話モデルによっては、電話ユーザは電話のキーパッドで + をダイヤルできます。その他の場合、電話ユーザは、+ を含むコールログディレクトリ エントリにアクセスすることによって、コールに返信できます。

国際エスケープ文字 + は、完全な E.164 番号形式の国際アクセスコードを示します。たとえば、NANP 番号には、形式 +1 214 555 1234 で、E.164 国際形式が含まれます。+ は、各国のサービスプロバイダーが国際アクセスコードに置換し、グローバルダイヤルプランを形成するための先行文字です。

+ または \+ を入力して、国際エスケープ文字を示すことができます。

E.164 形式の電話番号を使用する場合は、次の点に注意してください。

- 電話番号では、番号の先頭 (プレフィックス) だけで、国際エスケープ文字を設定できます (\+5678、+0034 など)。
- サポートされているパターンに対して国際エスケープ文字を設定するために、パターンまたは電話番号フィールドに \+ または + を入力できます。
- [選択した回線 (Chosen Line)] オプションを使用し、オーダーした回線に対して E.164 形式の電話番号を割り当て可能です。
- E.164 は、Cisco Unified Communications Manager Express ではサポートされていません。
- Cisco Unity Connection 7.x および 8.x バージョンで E.164 形式の電話番号回線に対してボイスメールをプロビジョニングする際に、Provisioning は電話番号から + 記号を削除して、内線番

号を自動的に設定します。オーダーの完了後に、電話番号は（+記号付きで）[代行内線番号（Alternate Extension）]フィールドに自動的に入力されます。Unity Connection 9.0 以上のバージョンでは、E.164 形式の電話番号がサポートされるので、元の電話番号（+記号付き）が内線番号フィールドに表示されます。

- 拡張電話サービス、ユニファイドメッセージングサービス、メッセージングサービスなどのバンドル製品をオーダーする際に、[自動割り当て回線（Auto-assigned Line）]タイプのオプションを選択した場合は、オーダーの作成中にボイスメール製品の[代行内線番号（Alternate Extension）]フィールドは自動的に入力されません。代行内線番号は、使用可能な位置の末尾に追加され、オーダーの完了時に表示されます。

[選択した回線（Chosen Line）]タイプのオプションを選択した場合、代行内線は[ボイスメールの詳細オーダー設定（Voicemail Advanced Order Configuration）]ページで、使用可能なインデックス（1、2、3 など）が自動的に入力されます。

- ミートミーパターン、コールパークパターン（およびダイレクトコールパークなどの関連するすべてのコールパーク機能）、およびコールピックアップパターンは、国際的なエスケープ文字（+）をサポートしていません。そのため、[インフラストラクチャ設定（Infrastructure Configuration）]ページでこれらの機能に対して設定したパターンフィールドに、+ を入力することはできません。

Provisioning は、次に対する [電話番号（Directory Number）]フィールドで、「+」文字をサポートします。

- 電話番号（DN）ブロック（サービスエリアの下）
- EM アクセス回線および RDP 回線製品
- プロビジョニング属性
 - スピードダイヤル
 - ビジーランプフィールド
 - コール転送
- インフラストラクチャ製品
 - 同報リスト
 - 基本コールキューイング

電話番号ブロックの追加

新しい電話番号ブロックを追加するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [設計 (Design)] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)] を選択します。
- ステップ 2** 左のセレクトペインでドメインおよびサービスエリアを展開し、目的のサービスエリアを選択します。
- ステップ 3** [電話番号ブロック (Directory Number Block(s))] フィールドで、[行の追加 (Add Row)] をクリックします。
- ステップ 4** 目的のフィールドに入力して、[保存 (Save)] をクリックします。
-



- (注) [最小長 (Minimum Length)] フィールドは、プレフィックスを除く電話番号の最小桁数です。番号にゼロを埋めるためにシステムによって使用されます。たとえば、Prefix = 408、First Number = 0、Last Number = 100、Minimum Length = 4 の場合、電話番号ブロックの範囲は 4080000 ~ 4080100 になります。
-

編集するには、電話番号ブロックを選択して[編集 (Edit)] をクリックします。必要な変更を行って、[保存 (Save)] をクリックします。変更をキャンセルするには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。

電話番号ブロックを削除するには、[削除 (Delete)] をクリックします。

ユーザ権限の追加

ユーザ権限は、ユーザがオーダーできる製品とサービスを制御します。

デフォルトのユーザ権限は次のとおりです。

- [従業員 (Employee)] : 新しいユーザに割り当てられるデフォルトの権限です。
[従業員 (Employee)] ユーザ権限は、組織内での従業員の標準的な設定に合わせておく必要があります。[従業員 (Employee)] ユーザ権限をニーズに合わせて設定しておかないと、従業員ユーザ レコードに、必要なオプションが記録されなくなります。
- [エグゼクティブ (Executive)]
- [疑似 (Pseudo)] : 関連するユーザのない電話のオーダーに使用されます。[疑似 (Pseudo)] ユーザはコール マネージャに登録されておらず、名前の変更も削除も行えません。

最初にユーザを追加してから ([ユーザの追加](#), (211 ページ) を参照)、ユーザに疑似ユーザ権限を割り当てます。

疑似ユーザは、電話と電話番号インベントリの管理を実行できます。

これらのユーザ権限は、Cisco Prime Collaboration Provisioning の各ドメインに存在します。ユーザ権限の各セットは、各ドメインで事前定義済みのユーザ権限を追加、削除、変更することでカスタマイズできます。

ユーザ権限を追加するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [設計 (Design)] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)] を選択します。
- ステップ 2** [すべてのドメイン (All Domains)] ペインで特定のドメインを展開し、[ユーザ権限 (User Roles)] をクリックします。
- ステップ 3** 特定のドメイン ページの [ユーザ権限 (User Roles)] で、[追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 4** [ユーザ権限の設定 (User Role Configuration)] ページで、ユーザ権限名、タイプ、ドメイン、回線、サービス、サービス バンドルの必須詳細情報を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** (任意) ユーザ権限の作成と共にサービスをプロビジョニングするには、自動サービス プロビジョニングを有効にします。詳細については、[自動サービス プロビジョニング](#)、(66 ページ) を参照してください。
[ユーザを追加](#)するときに、ユーザ権限に基づいて自動プロビジョニングパラメータを選択できます。これを選択すると、ユーザに割り当てられているユーザ権限に対して選択したサービスが自動的にプロビジョニングされます。
- 自動サービス プロビジョニングを有効にしない場合は、サービスがプロビジョニングされることなく、ユーザ権限が作成されます。ユーザに対して手動でサービスをプロビジョニングできます ([展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] を選択します)。
- ステップ 6** (任意) [サービステンプレート割り当てテーブル (Service Template Assignment Table)] で自動プロビジョニングで使用可能なテンプレートを一覧表示します。自動プロビジョニングに使用されるデフォルトテンプレートは、[自動プロビジョニングに使用 (use for auto-provisioning)] カラムに [yes] と表示されています。テンプレートを編集するには、行を選択して [編集 (Edit)] をクリックし、チェックボックスをオンにして自動プロビジョニングの使用を有効にします。それぞれのカラムからさまざまなサービス、サービス エリア、テンプレートを選択し、それらを保存できます。[自動プロビジョニングに使用 (use for auto-provisioning)] カラムに [yes] が表示され、選択したテンプレートが自動プロビジョニングに使用されます。
- ステップ 7** 続行するには [保存 (Save)] をクリックします。
-

- ユーザ権限を設定するには、目的のユーザ権限を選択し、特定のドメインのユーザ権限で [編集 (Edit)] をクリックします。
- ユーザ権限を削除するには、目的のユーザ権限を選択し、特定のドメインのユーザ権限で [削除 (Delete)] をクリックして [OK] をクリックします。
- ユーザ権限クイック ビューには、ユーザ権限に対して選定されたドメイン、エンドポイントの数、サービス、サービス バンドルが表示されます。

また、自動プロビジョニングの有効または無効も表示されます。有効になっている場合は、自動プロビジョニングに対して選定されているエンドポイント、サービス、サービスバンドルがユーザ権限クイック ビューに表示されます。サービス テンプレート クイック ビューには、特定のサービス エリアとユーザ権限の組み合わせに対して自動プロビジョニングが使用されるかどうかが表示されます。詳細については、「[サービス テンプレート クイック ビュー](#)」を参照してください。

ユーザ権限とサービスの関連付け

特定のエンドポイントに権限が関連付けられているユーザだけが、そのサービスをオーダーできます。エンドポイントとサービス、個々のサービスのオーダーを作成するか、またはバンドルされたサービスをオーダーできます。[ユーザのサービスのオーダー](#)、(247 ページ) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1 [設計 (Design)] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)] を選択します。
 - ステップ 2 [すべてのドメイン (All Domains)] ペインで特定のドメインを展開し、[ユーザ権限 (User Roles)] をクリックします。
 - ステップ 3 選択したドメイン ペインの [ユーザ権限 (User Roles)] で [追加 (Add)] をクリックします。
 - ステップ 4 ユーザ権限の名前を指定し、目的のエンドポイント、回線、サービス、およびサービス バンドルと関連付けます。[エンドポイント (Endpoints)]、[サービス (Services)]、および[サービスバンドル (Service Bundles)] は必要な数だけ選択できます。
(注) ユーザ権限の設定を変更するには、[ユーザ権限 (User Roles)] を選択します。特定のドメインの [ユーザ権限 (User Roles)] で、目的のユーザ権限を選択して [編集 (Edit)] をクリックします。
 - ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。
-

自動サービス プロビジョニング

自動サービス プロビジョニング機能を使用すると、新規ユーザに対してサービスを自動的にプロビジョニングできます。自動サービス プロビジョニングは、Unified Communications 10.x 以上のアプリケーションでサポートされます。

ユーザ ロールに対して自動サービス プロビジョニングを有効にする場合は、サービス エリア (自動プロビジョニングで使用) と、ユーザ ロールに割り当てられているユーザに対して自動的にプロビジョニングできるサービスを選択する必要があります。ユーザ ロールの追加については、[ユーザ権限の追加](#)、(64 ページ) を参照してください。

次のサービスに対して自動サービス プロビジョニングを有効にできます。

- エンドポイント
- 回線
- シングルナンバーリーチ（モビリティ、リモート接続先プロファイル、およびリモート接続先プロファイル回線を有効にする）
- IM & Presence
- ボイスメール
- エクステンション モビリティ アクセス
- エクステンション モビリティ 回線
- Cisco Jabber

エンドポイント サービスに対して自動サービスプロビジョニングを有効にする際は、次のオプションを選択できます。

- [デフォルトエンドポイント (Default Endpoint)] : このオプションを選択した場合は、ユーザに対してデフォルトで自動プロビジョニングされるエンドポイントモデルを選択する必要があります。
- [セルフプロビジョニングされたエンドポイント (Self-Provisioned Endpoint)] : このオプションを選択した場合、ユーザは管理者に連絡せずに各自のエンドポイントをプロビジョニングできます。ユーザは、ネットワークにエンドポイントを接続して、ユーザを識別するためのいくつかの指示に従うことにより、エンドポイントを追加できます。ユーザがセルフプロビジョニングできるエンドポイントの最大数も指定できます。

ユーザに対してセルフプロビジョニングを有効にすると、そのユーザ向けにエンドポイントのない回線が自動的に作成されます。この回線には、後でセルフプロビジョニング エンドポイントを追加できます。

シングルナンバーリーチ サービスに対して自動プロビジョニングを有効にした場合、ユーザは Cisco Unified Communications Manager の Self-Care ポータルにアクセスしてシングルナンバーリーチをアクティブに必要があります。Cisco Unified Communications Manager で使用できるセルフプロビジョニング機能については、『[Cisco Unified Communications Manager Administration Guide](#)』を参照してください。

ユーザロールまたはユーザに対して自動サービスプロビジョニングを有効にする場合は、次の点に注意してください。

- 自動サービスプロビジョニングは、(Provisioning ユーザインターフェイス、バッチプロビジョニング、Add User NAPI を介して追加された、または LDAP サーバから同期された) 新規ユーザにのみ適用できます。既存のユーザに対して自動サービスプロビジョニングを開始することはできません。
- 自動サービスプロビジョニングは、ドメインの同期および CUCM 変更通知によって Cisco Prime Collaboration Provisioning に追加されたユーザに対してはサポートされません。

- ユーザロールを作成するときに、自動サービスプロビジョニングに対して複数の回線サービスを選択すると、回線のプロビジョニングに使用された電話番号が回線サービス間で共有されます。
- LDAPと同期されたユーザのユーザロールは、ドメインフィルタに基づいてマッピングされます。
- 新規ユーザを作成する際は、そのユーザに対して複数のユーザロールを選択できますが、自動プロビジョニングに対しては1つのデフォルトのユーザロールのみを選択できます。
- 新規ユーザに対して自動サービスプロビジョニングを有効にする場合は、自動プロビジョニングに使用するデフォルトのサービスエリアも指定する必要があります。
- 自動プロビジョニングの回線タイプとして[自動割り当て回線 (Auto-Assigned Line)]を選択する場合は、選択済みのサービスエリアに電話番号ブロックが設定され、プロビジョニングに利用可能な電話番号が含まれている必要があります。サービスエリアに利用可能な電話番号ブロックがない場合は、自動プロビジョニングのサービスエリアを選択するときに、[ユーザの追加 (Add User)] ページに[自動割り当て回線 (Auto-Assigned Line)] 回線タイプオプションが表示されません。
- 回線タイプとして[選択した回線 (Chosen Line)]を選択する場合は、電話番号も入力する必要があります。入力しないと、自動プロビジョニングに対してユーザの詳細が保存されません ([保存して続行 (Save and Continue)] をクリックすると、確認メッセージが表示されます)。
- エクステンション モビリティ回線はエクステンション モビリティ アクセスがあるユーザに対してのみ、自動プロビジョニングできます。
- Cisco Prime Collaboration Provisioning は、自動プロビジョニングされた電話にダミーの MAC アドレスを割り当てます。
- ユーザロールに対して自動サービスプロビジョニングを有効するときに、Jabberサービスを選択すると、そのユーザロールに割り当てられているユーザに Jabber および関連する回線サービスが自動プロビジョニングされます。ユーザロールに対してエンドポイント サービスと Jabber サービスの両方を選択すると、Cisco Prime Collaboration Provisioning は、共有 DN を備えた2つの回線を自動的にプロビジョニングする一方で、エンドポイントと Jabber サービスを自動プロビジョニングします。
- Jabber クライアントのボイスメール/ビジュアル ボイスメール機能を設定するには、ユーザは、Provisioning Self-Care ポータルまたは[暗証番号/パスワードの管理 (Manage PIN/Password)] オプションを使用して、Unity Connection の Web パスワードを更新する必要があります。

サービステンプレートの作成

サービステンプレートには、サービスのプロビジョニング属性が含まれます。サービステンプレートでは、プロビジョニング属性を使用して複数の属性を設定できます。プロビジョニング属性は、サービスのアクティベーション時に適用される設定です。

オーダーの際、Prime Collaboration Provisioning では、設定されたプロビジョニング属性がサービス エリア設定とともに考慮され、プロビジョニングする最終的な製品構成が決定されます。



- (注) サービス エリアとサービス テンプレートを作成する前に、インフラストラクチャの同期を完了する必要があります。



- (注) テンプレートを [オーダーの追加 (Add Order)] または [オーダーの変更 (Change Order)] ウィザードに表示するには、サービス テンプレートをサービス エリアとユーザ権限の組み合わせに割り当てる必要があります。

プロビジョニング属性の内容を設定するには、管理者権限を持っている必要があります ([権限ロールの概要](#), (222 ページ) を参照)。

[プロビジョニング属性](#), (333 ページ) に、設定可能なすべてのプロビジョニング属性を示します。すべてのエンドポイント タイプまたはすべての Cisco Unified Communications Manager バージョンに、すべての属性を適用できるとは限りません。Provisioning の設定によっては、一部の属性を使用できない場合があります。

サービス テンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 [設計 (Design)] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)] を選択します。
- ステップ 2 [すべてのドメイン (All Domains)] ペインで、ドメインを選択します。
- ステップ 3 [サービステンプレート (Service Templates)] をクリックし、テンプレート名、プロセッサなどの必要な情報を入力します。
- ステップ 4 サービスを選択し、サービスの必須のプロビジョニング属性を入力します。詳細については、[プロビジョニング属性](#), (333 ページ) を参照してください。デフォルトのプロビジョニング属性はすべて、デフォルトで入力されます。
- ステップ 5 サービス エリアとユーザ権限をサービス テンプレートに追加するには、[行の追加 (Add Row)] をクリックします。サービス エリアとユーザ権限を選択して、[保存 (Save)] をクリックします。編集するには、[編集 (Edit)] をクリックして割り当てを変更します。

作成済みのテンプレートを編集または削除できます。サービステンプレートを別のドメインに新しい名前で作成するには、[コピー先 (Copy To)] をクリックします。



- (注) [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] のサービス テンプレートの設定中に、デバイスで使用できないユーザ ロケールを選択すると、そのオーダーは失敗します。

新しいオーダーを作成する際に、[サービス テンプレート (Service Template)] ドロップダウン リストから作成済みのサービス テンプレートを選択できます。新しいオーダーの作成については、[ユーザのサービスのオーダー](#)、(247 ページ) を参照してください。

サービス テンプレート クイック ビューには、テンプレートとサービス エリアおよびユーザ ロールとの関連付けが表示されます。選択したサービス テンプレートが特定のユーザ ロールに対する自動プロビジョニングで使用されるかどうかを示されます。

サービス テンプレートへのキーワードの追加

Prime Collaboration Provisioning では、サービス テンプレートの作成時またはサービスのオーダー時に、プロビジョニング属性にキーワードを追加するオプションを提供します。複数のキーワードを追加し、各キーワードの長さを指定することもできます。

サービス テンプレートを使用してサービスをオーダーすると、これらのキーワードは、テンプレートで定義されたユーザ情報に自動的に置き換えられます。

サービス テンプレートでは、次のキーワードがサポートされています。

- FIRSTNAME
- LASTNAME
- USERID
- EXTENSION
- CONTACTEMAIL
- COMPANY
- MIDNAME
- DEPT
- EMAIL
- EMPID
- MANAGER
- COUNTRY
- TITLE
- CITY
- STATE
- ZIP
- CORPEMAIL : 電話機、回線、ボイスメールをオーダーする際に使用します。複数のボイスメール アカウントがある場合、このキーワードは最初のボイスメール アカウントの社内電子メールにマッピングされ、最初の社内電子メールが削除されると、次のものにマッピングされます。

キーワードを編集するには、[キーワードリストの編集 (Edit Keyword List)] をクリックします。[キーワードリスト (Keyword List)] ページで、キーワードと値を変更することができます。[削除 (Remove)] チェックボックスをオンにすると、リストからキーワードを削除できます。キーワードリスト全体を削除するには、[キーワードリストの削除 (Remove Keyword List)] アイコンをクリックします。

次の表に、各サービスタイプの新しいキーワードをサポートするプロビジョニング属性を一覧します。

表 10: プロビジョニング属性のキーワードのサポート

エンドポイントタイプ	プロビジョニング属性	ドメインルール
Endpoint\Extension Mobility Access\Remote Destination Profile	[デバイスの説明 (Device Description)]	DescriptionString
Line\ Extension Mobility Line\ Remote Destination Profile Line	<ul style="list-style-type: none"> • [回線の説明 (Line Description)] • [呼び出し表示 (Alerting Name)] • [ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)] • [表示(内部発信者 ID) (Display (Internal Caller ID))] • [ASCII 表示(内部発信者 ID) (ASCII Display (Internal Caller ID))] • [ASCII 回線テキストラベル (ASCII Line Text Label)] • [回線テキストラベル (Line Text Label)] (この属性は回線およびエクステンション モビリティ回線にのみ適用されます。) • [外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)] 	LineDisplayString

エンドポイントタイプ	プロビジョニング属性	ドメインルール
[ボイスメール (Voicemail)]	<ul style="list-style-type: none"> • [ボイスメールエイリアス (Voicemail Alias)] • [ボイスメール表示名 (Voicemail Display Name)] • [イニシャル (Initials)] • [役職 (Title)] • [従業員 ID (Employee ID)] • [ボイスメール企業電子メール アドレス (Voicemail Corporate Email Address)] • [市区町村郡 (City)] • [都道府県 (State)] • [郵便番号 (Postal Code)] • [国 (Country)] • [部署名 (Department)] • [マネージャ (Manager)] • [課金 ID (Billing ID)] 	-
[ユーザサービス (User Service)]	[セルフプロビジョニングユーザ ID (Self-Provisioning User ID)]	-

システムデフォルト値の使用方法

[オーダーの追加 (Add Order)] ウィザード、[変更オーダー (Change Order)] ウィザード、[テンプレートの設定 (Template Settings)] ページで、必須ではない属性のドロップダウンリストに [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] が表示されます。デバイスで [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] が有効な値になっている場合は、ドロップダウン リストからオプションを選択しないと、これらの属性のシステムデフォルト値がプロビジョニングされます。必須ではない属性のデフォルト値がすでに設定されている場合は、その属性の指定値が表示され、

ドロップダウンリストのオプションの1つとして[システムデフォルトを使用 (Use System Default)]が表示されます。

ドロップダウンリストで使用可能なオプションに「デフォルト」という言葉が含まれている場合 ([デフォルトの言語を使用 (Use Default Language)]、[電話のデフォルトを使用 (Use Phone Default)]、[デフォルトのシステムポリシーを使用 (Use Default System Policy)]、[デフォルト (Default)] など)、[システムデフォルトを使用 (Use System Default)] はドロップダウンリストに表示されません。



(注) [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] は、[プロトコル (Protocol)] フィールドには表示されません。

必須の属性では、デフォルト値がすでに設定されている場合、指定されたデフォルト値が表示されます。デフォルト値が設定されていない場合は、ドロップダウンリストから値を選択する前に、ドロップダウンリストの最初のオプションが表示されます。ドロップダウンリストが空白で、その属性のデフォルト値が設定されていない場合は、[選択する (Make a Selection)] が表示されます。[選択する (Make a Selection)] は、次の Provisioning フィールドに表示されます。

- [選択されているエンドポイント (Selected Endpoint)]
- [選択されている回線 (Selected Line)]
- [回線タイプ (Line Type)]
- [エンドポイントタイプ (Endpoint Type)]
- [EM 電話のタイプ (EM Phone Type)]

[システムデフォルトを使用 (Use System Default)] または [選択する (Make a Selection)] は、ボイスメールおよびユニファイドメッセージング製品では表示されません。

[サービステンプレート (Service Template)] フィールドでドロップダウンリストから値を選択していない場合は、[未選択 (Not Selected)] が表示されます。

Cisco Unified Communications Manager 9.0 以下の場合は、Cisco IP Phone 8961、9951、および 9971 のエクステンションモビリティアクセスサービステンプレートの作成時に、[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] 属性で [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] を選択する必要があります。

また、[iPhone 用エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access for iPhones)] をオーダーする際、次の属性にデフォルト値を使用すると、オーダーが失敗する場合があります。

- [DND オプション (DND Option)]
- [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] (設定専用属性)
- [MLPP 通知 (MLPP Indication)]

[iPhone 用エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access for iPhones)] をオーダーする際は、これらの属性に次の値を使用してサービステンプレートを作成し、オーダーの作成中にテンプレートを適用することをお勧めします。

- [DND オプション (DND Option)] - [コール拒否 (Call Reject)]
- [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] - [無効 (Disable)]
- [MLPP 通知 (MLPP Indication)] - [オフ (Off)]

電話のプロビジョニング属性の制限

CUPM_BLANK キーワード ([バッチ操作ファイルでのキーワードの使用, \(178 ページ\)](#) を参照) を使用するバッチを介した変更オーダーは、Cisco Unified Communications Manager ユーザインターフェイスで共通の設定のチェックボックスを上書きする、電話プロビジョニング属性に影響しません。この現象は、電話のプロビジョニング時に Cisco Unified Communications Manager が Provisioning にこれらの属性のデフォルト値を返さないために発生します。これに該当するのは、次のプロビジョニング属性です。

- [参加および直接転送ポリシー (Join And Direct Transfer Policy)]
- [電話をオンにする時刻 (Phone On Time)]
- [電話をオフにする時刻 (Phone Off Time)]
- [電話オフのアイドルタイムアウト (Phone Off Idle Timeout)]
- [オーディオアラートを有効にする (Enable Audible Alert)]
- [EnergyWise ドメイン (EnergyWise Domain)]
- [EnergyWise エンドポイントのセキュリティシークレット (EnergyWise Endpoint Security Secret)]
- [EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides)]
- [自動ポート同期 (Automatic Port Synchronization)]
- [ディスプレイ放置時自動消灯 (Display Idle Timeout)]
- [着信コール時に点灯 (Display On When Incoming Call)]

プロビジョニング属性のトランスフォーメーションテンプレートの設定

[回線テキストラベル (Line Text Label)] および [ASCII 回線テキストラベル (ASCII Line Text Label)] 属性では、プロビジョニング属性フィールドにトランスフォーメーションテンプレートを入力し、電話に表示される電話番号の桁を操作することができます。電話番号のマスキングの桁変換を行うと、何を表示するかを選択できます。

テンプレートでは、プロビジョニング属性のテキスト文字列内にトランスフォーメーションマスクを埋め込むことで、電話番号の任意の桁を削除、挿入、順序変更、または変更することができます。

1 つのトランスフォーメーションテンプレートには、1 つまたは複数のトランスフォーメーションマスクが含まれます。

トランスフォーメーションマスクでは次の文字を使用できます。

- **W** または **w** : 電話番号の桁を、同じ位置に左から表示します。
- **X** または **x** : 電話番号の桁を、同じ位置に右から表示します。
- **.** (ピリオド) : 電話番号の同じ位置にある桁を無視します。
- **数字** : 出力にそのまま表示されます。
- **%** (パーセント記号) : デリミタです。
- **** (バックスラッシュ) : デリミタ (エスケープ文字) です。

マスクでこれ以外の文字を使用した場合、マスクはマスクとして認識されず、文字は通常のテキストとして扱われます。

テンプレートの設定時には、次のことに注意してください。

- トランスフォーメーションマスクに **W** と **X** が両方含まれている場合は、有効なマスクとして認識されず、通常のテキストとして扱われます。ただし、テンプレートに複数のマスクが含まれる場合は、同じテンプレート内の別のマスクで **W** と **X** を使用することができます。
- エスケープ文字 (****) のプレフィックスを含まないデリミタ文字は、トランスフォーメーションマスクの一部の有効なデリミタとして認識されない場合、通常の文字として扱われます。エスケープ文字は、通常のコンテキストとトランスフォーメーションマスクを区切る必要がある位置でだけ使用できます。
- テンプレートの最大文字数は 60 文字です。

表 11 : トランスフォーメーションテンプレートのサンプル, (75 ページ) に、トランスフォーメーションテンプレートのサンプルのリストを示します。このサンプルで使用する電話番号は 1234567891 です。

表 11 : トランスフォーメーションテンプレートのサンプル

テンプレート	結果
%XXX%	891
%WWW%	123
%XXX.....%	123
%XXXXX%	7891
%.....WWW%	7891
%...WWW%	456

テンプレート	結果
%XXX....%	456
%9XXX0000%	94560000
%..9WWW0000%	94560000
%55585XX000%	5558567000
%55585WW000%	5558567000
%WWXX%	%WWXX%
(%WWW%) %...WWW%- %XXXXX%	(123) 456-7891
John Smith x%XXXXXX%	John Smith x67891
%John Smith\%x%XXXXXX%	%John Smith%x67891
%WWW% Engineering	123 Engineering



第 5 章

プロセッサ、ユーザ、ドメインの同期

- プロセッサ、ユーザ、ドメインの同期の概要, 77 ページ
- インフラストラクチャ同期とユーザ同期, 80 ページ
- ドメインの同期の概要, 84 ページ
- ドメインの同期, 86 ページ
- スケジュールの同期化, 90 ページ
- ディレクトリ検索の同期の同期元の設定, 92 ページ
- LDAP サーバと Provisioning の同期, 93 ページ

プロセッサ、ユーザ、ドメインの同期の概要

Prime Collaboration Provisioning では、次の 3 種類の同期が行われます。

- インフラストラクチャの同期：Prime Collaboration Provisioning で使用される、個々のユーザ固有ではないデバイスからすべてのオブジェクトを検出します。Prime Collaboration Provisioning がユーザ サービスを設定できるように、事前にデバイス内にインフラストラクチャ データが存在している必要があります。
- ユーザの同期：個々のユーザに関連するすべてのオブジェクトを検出します。
- ドメインの同期：ユーザの同期中に検出された既存のユーザをドメインに配置します。

Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unity システムのデータを同期させ、次にドメインと同期させると、Prime Collaboration Provisioning に既存のアクティブなユーザとサービスが入力され、すべてのインフラストラクチャとユーザ情報が統合されたビューが提供されます。

同期を実行する前に、次の点に注意してください。

- インフラストラクチャの同期とユーザの同期では、デバイスから情報が取得されます。これらは、単方向の同期です。これらの同期の実行時、Provisioning はデバイスを更新しません。

すべてのデバイスでインフラストラクチャの同期とユーザの同期が完了してから、ドメインの同期を開始してください。

- 同期は任意の順序で別々に実行できます。ただし、データの整合性を維持するため、次の順序で連続して実行することをお勧めします。

1 インフラストラクチャの同期

2 ユーザの同期

- 新たに Provisioning をインストールしたら、まずインフラストラクチャの同期を実行する必要があります。一度に複数の同期を実行しないでください。
- 必ずデバイスの接続を確認しておいてください。同期を実行する前に、デバイスの詳細クイックビューから [操作 (Actions)] ペインの [テスト接続 (Test Connection)] をクリックします。テスト結果が、デバイスの詳細クイックビューに表示されます。
- テスト接続に成功してから、ユニファイドメッセージプロセッサを同期してください。テスト接続のステータスが [処理中 (In Progress)] または [失敗 (Failed)] の場合にユニファイドメッセージプロセッサの同期を開始すると、同期に失敗します。
- コールプロセッサまたはユニファイドメッセージプロセッサを同期した後で、デバイスのタイプを変更しないでください。たとえば、Cisco Unified Communications Manager を追加した場合は、コールプロセッサのタイプを Cisco Unified Communications Manager Express に変更しないようにします。
- ドメインを同期した後は、Prime Collaboration Provisioning を使用して個々のユーザアカウントを直接管理できます。基盤となる Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unity システムを使用する必要はありません。
- アウトオブバンドで設定を行うと（プロセッサに対して直接設定を行い、Provisioning との同期を行わないと）、オーダーに失敗することがあります。Prime Collaboration Provisioning は、プロビジョニングを行うプロセッサと常に同期させる必要があります。

Cisco Unified Communications Manager 10.0 以上のバージョンでは、変更通知機能が自動的に有効化されます。この機能は、Cisco Unified Communications Manager 10.0 よりも前のバージョンではサポートされません。



(注)

10.6 リリースから、変更通知機能は、Prime Collaboration Provisioning がメンテナンスモードで実行されている場合でもサポートされます。

Cisco Unified Communications Manager のインフラストラクチャまたはユーザ設定に対する更新は、5 分おきに Provisioning と自動的に同期されます。これにより、Cisco Unified Communications Manager との同期を毎日または頻繁に行う必要がなくなります。

変更通知の一環として、ユーザレコードも更新され、新たな追加のサービスが含まれます。Cisco Unified Communications Manager の変更通知の同期の開始時刻と終了時刻を表示するには、クイックビューを起動し、[操作 (Actions)] ペインの [詳細ログの表示 (View Detailed Log)] をクリックします。

次のサービスとインフラストラクチャ オブジェクトが Cisco Unified Communications Manager から自動的に同期されます。

- コール パーク (Call Park)
- コール ピックアップ グループ (Call Pickup Group)
- CallManagerGroup
- Css
- CmcInfo
- CommonPhoneConfig
- CommonDeviceConfig
- CtiRoutePoint
- デバイス プロファイル (Device Profile)
- DateTimeGroup
- DeviceMobility
- エンドポイント (Endpoint)
- FacInfo
- 位置情報 (GeoLocation)
- ハント リスト (Hunt List)
- ハント パイロット (Hunt Pilot)
- H323Gateway
- 回線 (Line)
- 回線グループ (Line Group)
- Location
- MediaResourceList
- MediaResourceGroup
- ミートミー (MeetMe)
- PhysicalLocation
- リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)
- ルート リスト (Route List)
- ルート パターン (Route Pattern)
- RoutePartition
- ルート グループ (Route Group)
- SipProfile

- SipTrunk
- TransPattern
- UcService
- ユーザ (User)
- ボイスメール プロファイル (VoiceMail Profile)
- ボイスメール パイロット (VoiceMail Pilot)
- VG224
- VG310
- VG320

インフラストラクチャ同期とユーザ同期

インフラストラクチャ同期を実行すると、デバイスのインフラストラクチャ データが同期します。インフラストラクチャ同期では、複数のユーザによって使用されるデバイス情報が取得されます。

インフラストラクチャ設定製品とユーザを同期するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [設計 (Design)] > [インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)] を選択します。
- ステップ 2** 同期を実行するデバイスの [クイックビュー (Quick View)] をポイントします。
- ステップ 3** 次のいずれかを実行します。

- インフラストラクチャ同期を実行するには、[インフラストラクチャ同期の開始 (Start Infrastructure Synchronization)] をクリックします。
- ユーザ同期を実行するには、[ユーザ同期の開始 (Start User Synchronization)] をクリックします。

同期の進行状況が、[同期ステータス (Synchronization Status)] の下の [クイックビュー (Quick View)] に表示されます。

- ステップ 4** [詳細ログの表示 (View Detailed Logs)] をクリックします。
- 同期ログが作成され、割り当てられなかったオブジェクトが表示されます。また、デバイスから不明な要素が取得された場合は、警告メッセージも示されます。このログは同期を実行するたびに上書きされます。

(注) 警告メッセージの「予期しない要素がスキップされました (Skipped unexpected element)」は無視してかまいません。このメッセージは、デバイスから送信された項目が Provisioning でサポートされていないことを示します。

インフラストラクチャ同期またはユーザ同期の状態が長時間変わらない場合は、Nice サービスが実行されていることを確認してください。サービスが実行中であるかどうかをチェックするには、次のコマンドを実行します。

```
ps -aef | grep nice
```

Nice サービスが停止している場合は、サービスを再起動してから、インフラストラクチャ同期またはユーザ同期をやり直します。

アナログ電話を管理する場合は、`ipt.properties` ファイルを更新する必要があります。このファイルで、`dfc.ipt.cisco.callmanager.analog_phone_support` を Y に更新してから、ユーザ同期を実行します。ユーザ同期が完了してから、Provisioning を再起動する必要があります。

Provisioning が同期する Cisco Unified Communications Manager オブジェクトのリストについては、[同期される Cisco Unified Communications Manager オブジェクト](#)、(82 ページ) を参照してください。

インフラストラクチャ同期を実行すると、Provisioning のユニファイドメッセージング インフラストラクチャ データがユニファイドメッセージ プロセッサと同期します。

- **SubscriberTemplate** : Cisco Unity、Cisco Unity Connection、および電子メール メッセージ プロセッサの加入者テンプレート。
- **UnifiedMessagingFeatureSpecification** : Cisco Unity、Cisco Unity Connection、および電子メール メッセージ プロセッサのサービス クラス。

ユーザ同期を実行すると、Provisioning のユニファイドメッセージング ユーザ データがユニファイドメッセージ プロセッサと同期します。

- **UMInfo** : ユーザのボイスメールおよび電子メール情報に関連する、Cisco Unity、Cisco Unity Connection、および Cisco Unity Express のユーザ。
- **VoiceMailInfo** : UMInfo および EmailInfo に関連する、Cisco Unity、Cisco Unity Connection、および Cisco Unity Express のユーザ。
- **EmailInfo** : VoiceMailInfo および UMInfo に関連する、Cisco Unity および Cisco Unity Connection のユーザ。



(注) Cisco Unity Express の同期中にデバイス接続エラーが発生した場合は、Cisco Unity Express システム上の Telnet セッションをすべて閉じてから、同期化をやり直します。Cisco Unity Express で同時に許可される Telnet セッションは 1 つだけです。Cisco Unity Express デバイスで別の Telnet セッションが開いている場合、Prime Collaboration Provisioning をそのデバイスと同期させることはできません。



(注) IM and Presence 9.0 以上のバージョンは、Cisco Unified Communications Manager と統合されています。そのため、IM and Presence 9.0 以上のバージョンではユーザ同期が無効になっています。ユーザ情報は Cisco Unified Communications Manager から直接同期されます。

IM and Presence の場合、インフラストラクチャ同期を使用して、ユーザ設定インフラストラクチャデータを Provisioning と同期します。



(注) Cisco Unified Communications Manager をアップグレードしてからユーザ同期を手動で実行し、変更通知設定を同期する必要があります。

同期される Cisco Unified Communications Manager オブジェクト

次の表に、Provisioning でインフラストラクチャおよびユーザの同期中に同期される Cisco Unified Communications Manager オブジェクトを示します。

表 12: インフラストラクチャの同期によって同期される **Cisco Unified Communications Manager** オブジェクト

<ul style="list-style-type: none"> • [AAR グループ (AAR Group)] • [コールパーク (Call Park)] • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] • [クライアント識別コード (Client Matter Codes)] • [Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified CM Group)] • [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] • [共通デバイス設定 (Common Device Config)] • [会議ブリッジ (Conference Bridge)] • [日時設定 (Date Time Setting)] • [日時グループ (Date/Time Group)] • [デバイスモビリティ情報 (Device Mobility Info)] • [デバイスモビリティグループ (Device Mobility Group)] • [デバイスプール (Device Pool)] • [デバイスプロフィール (Device Profile)] • [ダイヤルプラン (Dial Plan)] • [ダイヤルプランタグ (Dial Plan Tag)] • [番号削除指示 (Digit Discard Instruction)] • [パスワードルータの有効化 (Enable Password Router)] • [強制承認コード (Forced Authorization Codes)] 	<ul style="list-style-type: none"> • [ゲートキーパー (Gatekeeper)] • [位置情報 (Geo Location)] • [位置情報の設定 (Geo Location Configuration)] • [位置情報フィルタ (Geo Location Filter)] • [ハントグループ (Hunt Group)] • [ハントリスト (Hunt List)] • [ハントパイロット (Hunt Pilot)] • [H323 ゲートウェイ (H323 Gateway)] • [H323 トランク (H323 Trunk)] • [回線グループ (Line Group)] • [ロケーション (Location)] • [MLPP ドメイン (MLPP Domain)] • [メディアリソースグループ (Media Resource Group)] • [メディアリソースリスト (Media Resource List)] • [ミーティング番号/パターン (Meet-Me Number/Pattern)] • [メッセージ待機 (Message Waiting)] • [MOH 音源 (MOH Audio Source)] 	<ul style="list-style-type: none"> • [パーティション (Partition)] • [電話プロフィール (Phone Profile)] • [電話テンプレート (Phone Template)] • [プレゼンスグループ (Presence Group)] • [物理ロケーション (Physical Location)] • [リージョン (Region)] • [リモート接続先プロフィール (Remote Destination Profile)] • [リソースプライオリティネームスペースリスト (Resource Priority Namespace List)] • [リソースプライオリティネームスペースネットワークドメイン (Resource Priority Namespace Network Domain)] • [ルートフィルタ (Route Filter)] • [ルートグループ (Route Group)] • [ルートリスト (Route List)] • [ルートパーティション (Route Partition)] • [ルートパターン (Route Pattern)] 	<ul style="list-style-type: none"> • [SIP トランク (SIP Trunk)] • [SIP プロファイル (SIP Profile)] • [ソフトウェアテンプレート (Softkey Template)] • [SRST] • [トランスレーションパターン (Translation Pattern)] • [UC サービスプロフィール (UC Service Profile)] • [VG202] • [VG204] • [VG224] • [VG310] • [VG320] • [VG350] • [VG ボイスメールパイロット (VGVoicemail Pilot)] • [ボイスメールパイロット (Voicemail Port)] • [ボイスメールプロフィール (VoiceMail Profile)]
---	--	--	--

表 13: ユーザの同期によって同期される *Cisco Unified Communications Manager* オブジェクト

<ul style="list-style-type: none"> • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] • [デバイスプール (Device Pool)] • [電話番号 (Directory Number)] 	<ul style="list-style-type: none"> • [IP Phone] • [ライセンス機能 (License Capabilities)] 	<ul style="list-style-type: none"> • [回線 (Line)] • [ロケーション (Location)] • [電話 (Phone)] 	<ul style="list-style-type: none"> • [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] • [リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line)] • [ユーザ (User)]
--	---	---	--

コール プロセッサ同期中のエラー メッセージ

コール プロセッサの同期中に発生する一部のエラー メッセージを示します。

[詳細ログ (Detailed Log)] ページに、Cisco Unified Communications Manager デバイスと同期できなかった項目が示されます。たとえば、このページには次のようなメッセージが表示されます。

```
Completed. But the following objects could not be
synchronized: [SecurityProfile, DialPlanTag, SIPTrunk, PhoneTemplate, DigitDiscardInstruction]
```

不完全な同期化が起こる原因としては、次のことが考えられます。

- ネットワークの問題により、項目が適切に同期できなかった。これが原因かどうかを確認するには、`nice.log` ファイルを分析します。ファイルに次の情報が表示されている場合は、ネットワークの問題が原因である可能性があります。

```
java.security.PrivilegedActionException:com.sun.xml.messaging.saaaj.SOAPEXceptionImpl:Message
send failed.
```

- 項目の設定に問題がある。この場合は、`nice.log` ファイルをコピーして、Cisco Technical Assistance Center (TAC) に連絡してください。

ドメインの同期の概要

ドメインの同期では、同期からデータを集約します。ドメイン同期の実行中にデバイスがアクセスされることはありません。

ドメインの同期中、Prime Collaboration Provisioning は以下を実行します。

- ユーザおよびユーザのサービスとプロビジョニングインベントリを同期し、新しいユーザを作成して、レコードを更新します。

- ユーザがログインできるように、ユーザアカウントを同期させ、Prime Collaboration Provisioning を更新します（ログインはセルフケア ルールが有効な場合にのみ作成されます。[ビジネス ルールの説明](#), (135 ページ) を参照）。
- サービスをサービス エリアに関連付けます。
- Cisco Unity、Unity Connection、または Unity Express の割り当てられたボイスメール電話番号を、Cisco Unified Communications Manager のボイスメール電話番号と同期させます。
- Cisco Unity、Unity Connection、または Unity Express のボイスメール、電子メール、ユニファイド メッセージングのデータを、Provisioning のユーザ情報に関連付けます。

ドメインの同期に使用される基準は、ビジネス ルールによって決定します（[ドメイン同期に関するビジネス ルールの設定](#), (88 ページ) を参照）。

ドメインを完全に同期するには、ドメイン内の各デバイスのインフラストラクチャとユーザの同期を実行してから、ドメインの同期を実行する必要があります。



(注) ドメイン内のデバイスがすでに同期されている場合は、ドメインの同期も実行することをお勧めします。

ドメインの同期を実行するときは、次のことに注意してください。

- Cisco Unified Communications Manager Express とのユーザの同期によって Provisioning にユーザを追加する場合、姓、名、電話番号、および部署名データは Provisioning に取得されません。[ユーザの管理 (Manage Users)] ページのこれらのフィールドには、[不明 (Unknown)] と表示されます。
ユーザ情報は Provisioning を介してアップデートできますが、この情報は Cisco Unified Communications Manager Express システムに適用され、ephone 記述フィールドのユーザに関する既存の情報をすべて書き換える点にご注意ください。
- 同期は一度に 1 種類だけ実行します。すべての同期を連続して実行してください。
- ドメインおよびサービス エリアに存在するデバイスが Cisco Unified Communications Manager Express だけであり、その Cisco Unified Communications Manager Express で ephone username コマンドが設定されていない場合は、ドメインの同期中に Provisioning でユーザが作成されません。Cisco Unified Communications Manager Express ですべてのユーザに対して ephone username コマンドが設定されていることを確認してください。
- デバイス プロファイルは、Cisco Unified Communications Manager で [エクステンションモビリティ (Extension Mobility)] サービスに登録されている場合に限り、ユーザのレコードにエクステンション モビリティ アクセス製品として追加されます。
- サービス エリアに追加した Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Presence を 9.0 バージョンにアップグレードする場合、次のサービスはユーザ レコードから削除されます。
 - [プレゼンスを有効にする (Enable Presence)]
 - [プレゼンスクライアントを有効にする (Enable Presence Client)]

° [クライアントユーザ設定 (Client User Settings)]

ユーザ レコードが、ユーザ サービス製品の詳細で更新されます。

サービス エリアに Cisco Unified Communications Manager 8.x と Cisco Unified Presence 8.x がある場合、[プレゼンスを有効にする (Enable Presence)]、[プレゼンスクライアントを有効にする (Enable Presence Client)]、および [クライアントユーザ設定 (Client User Settings)] 製品の詳細は、ユーザ レコードに保持されます。

- Prime Collaboration Provisioning では、エンタープライズ レベルでサービスを有効または無効にして、デバイス プロファイルをプロビジョニングできます。

デバイス プロファイルにサービスが関連付けられている場合、そのデバイス プロファイルは、一致するサービス URL が見つかった場合にだけ、ユーザに関連付けられます。



(注) デバイス プロファイルにサービスが関連付けられていない場合、またはサービスがエンタープライズレベルで有効になっている場合でも、エクステンション モビリティ サービスは、ユーザに関連付けることができます。

- Prime Collaboration Provisioning では、エンタープライズ レベルでサービスを有効または無効にして、デバイス プロファイルをプロビジョニングできます。

デバイス プロファイルにサービスが関連付けられている場合、そのデバイス プロファイルは、一致するサービス URL が見つかった場合にだけ、ユーザに関連付けられます。

- ドメインの同期後、ユーザレコード内のユーザに関連付けられているすべてのサービスが更新されます。サービスエリアを設定せずに、ユーザに関連付けられているサービスを変更、キャンセル、または編集することができます。
- アップグレードしたサーバでは、ユーザの同期後にドメインの同期を実行して、電子メールサービスを削除し、ユニファイド メッセージング サービスをボイスメールにマージする必要があります。

ドメインの同期

ドメインを同期するには、次の手順を実行します。

手順

- | | |
|--------|---|
| ステップ 1 | [設計 (Design)] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)] を選択します。 |
| ステップ 2 | [ドメイン (Domains)] テーブルから、同期するドメインの [クイックビュー (Quick View)] をポイントし、[ドメイン同期の開始 (Start Domain Synchronization)] をクリックします。 |

ドメインの同期が正常に開始されたことを示すポップアップが表示されます。クイックビューの[前回の同期 (Last Synchronization)] フィールドに、同期のステータスが開始時刻および完了時刻とともに表示されます。

同期ルールが設定されていないと、ドメインの同期を開始できません。同期ルールの詳細については、[ドメイン同期に関するビジネス ルールの設定](#)、(88 ページ) を参照してください。

ドメイン同期に関するビジネス ルール

ビジネス ルールは、ドメインにユーザを追加するための基準を決定します。

ドメインの同期が適切に機能するには、次のルールの中の 1 つ以上が設定されている必要があります。

- [すべてのユーザを同期 (Sync All Users)] (Unified CM) : これを有効にした場合は、ドメイン内すべてのコール プロセッサの全ユーザ アカウントが、同期されているドメインに割り当てられます。このルールは、[部署名が一致 (Match Department)] ルールよりも優先されます。
- [既存のユーザのみを同期 (Sync Only Existing Users)] : これを有効にした場合は、ドメインの同期によって新しいユーザが作成されません。ドメイン内の既存のユーザのサービスだけが同期されます。
- [属性で同期 (Sync by Attribute)] : 次のオプションがあります。
 - [部署名が一致 (Match Department)] : これを有効にした場合は、コール プロセッサ ユーザ アカウントの部署名コードがルール設定で指定されたリスト内の部署名コードと一致する場合に限り、そのユーザ アカウントがドメインの同期時に関連付けられます。
 - [ロケーションが一致 (Match Location)] : これを有効にした場合は、コール プロセッサ ユーザ アカウントの電話のロケーションがルール設定で指定されたリスト内の電話と一致する場合に限り、そのユーザ アカウントがドメインの同期時に関連付けられます。
 - [デバイスプールが一致 (Match Device Pool)] : これを有効にした場合は、コール プロセッサ ユーザ アカウントの電話またはリモート接続先プロファイルに設定されたデバイス プール値が、ルール設定で指定されたリスト内のデバイス プール値と一致する場合に限り、そのユーザ アカウントがドメインの同期時に関連付けられます。

残りのドメイン同期ルールは、上記のルールと共存します（優先順位はありません）。共存型のドメイン同期ルールは次のとおりです。

- [すべてのユーザを同期 (Sync All Users)] (Unity Connection) : このルールを有効にした場合は、特定のメッセージ プロセッサの全ユーザ アカウントが、Provisioning のドメインに割り当てられます。そうでない場合は、特定のメッセージ プロセッサのユーザ アカウントのうち、コール プロセッサに一致するユーザ アカウントがあるものだけが割り当てられます。

- [Unity Connectionからプライマリユーザを同期 (Sync Primary User From Unity Connection)] : これを有効にした場合、ユーザ情報は関連付けられたメッセージプロセッサのアカウントから更新されます。そうでない場合、これらの情報はコール プロセッサから更新されます。



(注) 必須のルールを 1 つも有効にせずにドメインの同期を実行しようとする、[ドメインの同期 (Synchronize Domain)] ページに、いずれかのルールを有効にする必要があることを伝えるメッセージが表示されます。このページの[同期ルールの設定 (Configure Synchronization Rules)] リンクをクリックすると [ドメイン同期ルールの設定 (Configure Domain Sync Rules)] ページが開き、そこで必要なドメイン同期ルールを設定できます。詳細については、「[ドメインの同期の概要](#)」を参照してください。

必須のルールが 2 つ以上有効になっている場合は、その中の 1 つだけが適用されます。

ルールの優先順位は次のとおりです。

- 1 [すべてのユーザを同期 (Sync All Users)] (Unified CM)
- 2 [既存のユーザのみを同期 (Sync Only Existing Users)]
- 3 [部署名が一致 (Match Department)]
- 4 [ロケーションが一致 (Match Location)]
- 5 [デバイスプールが一致 (Match Device Pool)]

[すべてのユーザを同期 (Sync All Users)] (Unified CM) ルールが有効になっている場合、他のすべてのルール設定は無視されます。[既存のユーザのみを同期 (Sync Only Existing Users)] ルールが有効になっている場合は、最後の 3 つのルール設定が無視されます。最後の 3 つのルールは加法的です。つまり、このうち 2 つのルールが有効な場合は、その両方の制約を満たすユーザだけが同期されます。

ドメイン同期に関するビジネス ルールの設定

ドメインの同期が適切に機能するには、ドメイン同期のビジネス ルールを設定する必要があります。



ヒント

各ビジネス ルールの説明は、ルールの横の情報アイコン上にカーソルを配置すると表示されます。

手順

- ステップ 1** [設計 (Design)] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)] を選択します。
- ステップ 2** [ドメイン (Domains)] リスト ページで、ドメインを選択して[編集 (Edit)] をクリックします。
- ステップ 3** [ドメインの設定 (Domain Configuration)] ページで、[同期ルール (Synchronization Rules)] エリアまでスクロール ダウンします。
- ステップ 4** 必要なルールを選択します。
ドメインの同期が適切に機能するには、コールプロセッサの同期ルールを少なくとも 1 つ選択する必要があります。[属性で同期 (Sync by Attribute)] ルールを選択した場合は、[属性で同期 (Sync by Attribute)] ルールで、オプションを少なくとも 1 つ選択する必要があります。
ドメイン同期ルールの設定の詳細については、[ドメイン同期に関するビジネス ルール](#)、(87 ページ) を参照してください。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

ドメイン同期のログ メッセージ

ここでは、ドメイン同期ログ レポートに表示される可能性のある一部のメッセージについて説明します。

The Phone SEP123123123123 could not be added to the customer record because a service area with the following properties could not be found: (次のプロパティを持つサービス エリアが見つからなかったため、電話 SEP123123123123 を顧客レコードに追加できませんでした。)

表示されている設定のサービス エリアに、電話を割り当てることができませんでした。

この問題を解決するには、同じ設定でサービス エリアを作成するか、Cisco Unified Communications Manager で電話の設定を変更します。

Duplicate username encountered. So skipping the creation of this user: TestUser from the Call Processor: TestCCM (ユーザ名の重複が発生しました。このユーザの作成はスキップされます。コール プロセッサからのテストユーザ : TestCCM)

同じ ID のユーザが Provisioning に存在しますが、ID の大文字と小文字の区別が異なることを示します。このユーザに属するサービスは同期されません。

この問題を解決するには、Cisco Unified Communications Manager から一方のユーザを削除します。

No matching voicemail info found for directory number 123400000 (電話番号 123400000 に一致するボイスメール情報が見つかりませんでした。)

同期で、電話番号に対するボイスメールを検出できませんでした。この問題は、ユニファイドメッセージ プロセッサで同期が実行されなかった (そのためボイスメールが Provisioning に存在

しない) か、または電話番号に対応するボイスメール情報が見つからなかった場合に発生する可能性があります。

この問題を解決するには、ユニファイドメッセージプロセッサでユーザの同期を実行するか、適切な設定でサービス エリアを作成します。

The device profile line Line 1 - 123400000 could not be added to the customer record because a service area with the following properties could not be determined in the domain Cisco: Call Processor: TestCCM (次のプロパティを持つサービス エリアをドメイン **Cisco** で特定できなかったため、デバイス プロファイル回線 **1 - 123400000** を顧客レコードに追加できませんでした。コール プロセッサ : **TestCCM**)

表示されている設定のサービスエリアに、デバイスプロファイルの回線を割り当てることができませんでした。

この問題を解決するには、同じ設定でサービスエリアを作成するか、Cisco Unified Communications Manager で回線の設定を変更します。

スケジュールの同期化

Provisioning には、プロセッサとドメインの定期的な同期のスケジュールリングに使用できる、コマンドライン スクリプト ユーティリティが用意されています。同期スクリプトを使用することにより、複数の時間帯に異なる間隔で同期操作のサブセットを定期的にスケジュールすることができます。sync.sh ファイルは、/opt/cupm/sep/build/bin/ フォルダにあります。

同期をスケジュールするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** SSH を使用して root で Provisioning サーバにログインします。
 - ステップ 2** **crontab -e** と入力し、vi エディタで crontab ファイルのコピーを編集します。
 - ステップ 3** **i** キーを押して、挿入モードに切り替えます。
 - ステップ 4** 定期的に同期を実行するには、次のコマンドを入力します。

minute hour day-of-the-month month day-of-week command-to-be-executed
値は次のとおりです。

- Minute : 有効な範囲は 0 ～ 59 です。
- Hour : 有効な範囲は 0 ～ 23 です。
- Day of the month : 有効な範囲は 1 ～ 31 です。
- Month : 有効な範囲は 1 ～ 12 です。
- Day of the week : 有効な範囲は 0 ～ 6 です (日曜日が 0) 。

たとえば、コール プロセッサの同期を毎日午後 3:24 に実行するには、次のように入力します。

```
24 15 * * * /opt/cupm/sep/build/bin/sync.sh callprocessor
```


メッセージプロセッサの同期を毎日午後 8:24 に実行するには、次のコマンドを入力します。

```
24 20 * * * /opt/cupm/sep/build/bin/sync.sh messageprocessor
```

コマンドラインスクリプトユーティリティのオプションの詳細については、[コマンドラインスクリプトユーティリティのオプション](#)、(91 ページ) を参照してください。

(注) 他の cron コマンドの情報を表示するには、**man 5 crontab** を実行します。

ステップ 5 ESC キーを押して挿入モードを終了し、: を押してコマンドラインに切り替えます。

ステップ 6 wq と入力し、結果を書き込んでエディタを終了します。

ステップ 7 **crontab -l** と入力して、ファイルが保存されたことを確認します。

コマンドラインスクリプトユーティリティのオプション

コマンドラインスクリプトユーティリティには以下のオプションがあります。

一括同期の使用 : `./sync.sh [callprocessor | messageprocessor | presenceprocessor | activedirectory | domain | all] [<option>]`

一括同期は、指定したクラスのすべてのオブジェクトに対する同期操作を呼び出します。各プロセッサのインフラストラクチャと加入者の両方の同期が実行されます。同期の順序は、コールプロセッサ、ユニファイドメッセージプロセッサ、プレゼンスプロセッサ、ドメインの順になります。

詳細同期の使用 : `./sync.sh [-g <filename>] [<option>]`

詳細同期は、書式設定されたファイルで指定された同期操作を呼び出します。値は次のとおりです。

- **<filename>** は、**<object class>.<object name>: <sync type>** の適切な書式の行が含まれるテキストファイルです。次のようになります。
 - `cp.Test-UCM: infra`
 - `mp.all: sub`
 - `pp.all: both` — [presenceprocessor] 一括同期と同じです
 - `ad.all: — ActiveDirectory` 一括同期
 - `domain.Test-Dom:`
- **<option>** : (オプション フィールド) 次のオプションを使用できます。
 - **test** : 同期を実行することなくスクリプトを実行できますが、同期されるプロセッサおよびドメインが表示されます。
 - **abortonfail** : 同期エラーの発生後に、スクリプトを中止するように指示します。パラメータが指定されていない場合、エラーが発生してもしなくても同期スクリプトが動作を継続します。

- ° **forcedomainsync** : ドメイン内の 1 つのデバイスで同期が失敗してもドメインの同期を実行できます。このパラメータが指定されていない場合、デバイスの同期エラーが発生すると、ドメインの同期が続行されません。
- ° **parallel** : デバイスの同期を並列で実行します。
- ° **help** : 使用方法に関する情報を表示します。

たとえば、詳細同期を、毎週土曜日の午後 1:15 に実行する場合、次のコマンドを入力します。

```
15 13 * * 6 /opt/cupm/sep/build/bin/sync.sh -g granularsyncfilename
```

ディレクトリ検索の同期の同期元の設定

ユーザデータ サービス (UDS) を設定するには、ディレクトリ ソースを設定する必要があります。ディレクトリ ソースには、LDAP サーバまたはコール プロセッサを指定できます。LDAP サーバがディレクトリ ソースとして設定されている場合、UDS は **Prime Collaboration Provisioning** で無効化されます。デフォルトでは、LDAP サーバがディレクトリ ソースとして設定されます。UDS を有効にするには、コール プロセッサをディレクトリ ソースとして設定する必要があります。

LDAP と統合されているコール プロセッサがある場合は、UDS を有効にすることはできません。UDS を有効にした後、LDAP に統合したコール プロセッサを **Prime Collaboration Provisioning** に追加すると、**Prime Collaboration Provisioning** はディレクトリ ソースを LDAP サーバとして設定することによって、UDS を自動的に無効化します。

ユーザの最初のサービスをオーダーしたプロセッサは、そのユーザのホーム クラスタになります。

UDS が有効な状況にユーザをホーム クラスタから削除すると、**Provisioning** によって他のコール プロセッサ クラスタから対応するユーザが削除されます。

ディレクトリ検索の同期は、新しいコール プロセッサを追加する際に有効にできます。また、後から有効にすることもできます。

ディレクトリ検索の同期の同期元を設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [展開 (Deploy)] > [ユニファイドコミュニケーションサービス (Unified Communication Services)] を選択します。
- ステップ 2** [ディレクトリ データ用に Communication Manager を使用する (Use Communication Manager for Directory Data)] をクリックします。
- ステップ 3** [適用 (Apply)] をクリックします。
ディレクトリ検索の同期を行うとユーザの詳細が 9.x 以降のすべてのコール プロセッサに追加されることを示す警告メッセージが表示されます。ユーザの数によっては、この操作に数時間かかったり、システムのパフォーマンスに影響を与えたりする場合があります。

- ステップ 4** [はい (Yes)] をクリックして続行します。
[有効 (Enable)] ボタンが[ディレクトリ データにコミュニケーション マネージャを使用する (Use Communication Manager for Directory Data)] の横に表示されます。
- ステップ 5** ディレクトリ 検索の同期を実行するには、[有効 (Enable)] をクリックします。
- (注) [有効 (Enable)] をクリックした後にコールプロセッサを追加して、同期が自動で行われない場合は、UCS から同期を手動で行うか、ディレクトリ 検索をディセーブルしてから再度イネーブルにする必要があります。このタスクが完了するまでに数時間かかる場合があります。
- [ユニファイドコミュニケーション サービス (Unified Communication Services)] ページが更新され、影響を受ける各クラスタの同期ステータスが表示されます。同期に失敗した場合は、エラー メッセージとログ ファイルへのリンクが表示されます。

LDAP サーバと Provisioning の同期

Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバの情報を Prime Collaboration Provisioning と同期させることができます。Provisioning はこの情報を利用して、新規ユーザの作成、既存ユーザ情報の更新、ユーザの削除を行います。LDAP サーバの同期を設定して、どのアクションを実行するのかを決定します。

LDAP サーバを使用するための Prime Collaboration Provisioning の設定方法については、[LDAP および ACS サーバを使用するための Provisioning の設定](#)、(37 ページ) を参照してください。

LDAP サーバの同期の設定

LDAP サーバの同期を設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [設計 (Design)] > [ユーザプロビジョニングのセットアップ (User Provisioning Setup)] を選択します。
- ステップ 2** [ドメイン (Domains)] テーブルからドメインを選択し、[編集 (Edit)] をクリックします。
- ステップ 3** [ドメインの設定 (Domain Configuration)] ページで LDAP サーバを選択します。
- ステップ 4** [LDAP 設定 (LDAP Settings)] ペインで、Prime Collaboration Provisioning が LDAP サーバから収集する情報を設定します (このページのフィールドの説明については、を参照してください) 。
- ステップ 5** LDAP サーバでのすべての変更を Prime Collaboration Provisioning に同期させるには、以下を選択します。
- [モード (Mode)] : [認証および同期 (Authentication and Synchronization)]。
 - [既存ユーザの詳細の更新 (Update existing user details)] : [すべてのフィールド (All fields)]。

- [LDAPユーザ削除時のアクション (Action when LDAP users deleted)] : [ユーザのみ削除 (Delete user only)]。
- [ユーザ検索ベース (User Search base)] : ユーザ検索ベースを入力します。
 (注)
 - CUCM とは異なり、Prime Collaboration Provisioning はドメインで 1 つのユーザ検索ベースのみをサポートします。ただし、複数のユーザ検索のため複数のドメインを作成できます。
 - CUCM で Provisioning UI を通して LDAP ユーザを追加する場合は、Provisioning ドメインと CUCM のユーザ検索ベースは同じである必要があります。
- [同期のクエリーのフィルタ処理 (Filter query for sync)] : [全ユーザの同期 (Synchronize all users)]。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

スケジュールを同期するには、[LDAP設定 (LDAP Settings)] ペインで、[同期間隔 (Synchronization Interval)] および [同期開始日 (Synchronization Start Date)] を設定します。

[ドメインの設定 (Domain Configuration)] ページの内容を保存したら、ドメインを選択して、[クイックビュー (Quick View)] をポイントします。次に、[LDAP同期の開始 (Start LDAP Synchronization)] を選択します。

LDAPの同期が終わると、レポートが作成されます。このレポートには、同期中に実行できなかった操作がリストされます。LDAP サーバに入力されたデータの誤りやユーザ設定の誤りなどが原因で、操作が失敗する場合があります。



(注) ドメインに関連付けられている LDAP サーバは削除できません。LDAP サーバを削除するには、ドメインから削除する必要があります。

新規展開の場合は、LDAP サーバからインポートしたユーザのサービスをオーダーするときに、Getting Started Wizard によって Cisco Unified Communications Manager に LDAP サーバの詳細 (LDAP ディレクトリ、認証、システム設定など) がプッシュされます。Cisco Unified Communications Manager はそのユーザを LDAP ユーザとして記録します。LDAP ユーザとして記録されたユーザは、LDAP サーバで設定されたクレデンシャルを使用して、Cisco Unified Communications Manager の Self-Care ポータルにログインできます。



(注) Prime Collaboration Provisioning 10.5 にアップグレードした後は、Provisioning で LDAP の同期を実行する必要があります。これを行わないと、LDAP からインポートされたユーザが Cisco Unified Communications Manager で LDAP ユーザとして記録されません。

ブラウンフィールド展開の場合は、次の手順を実行してください。

- 1 Cisco Unified Communications Manager での認証が無効になるように ([エンドユーザ用LDAP認証の使用 (Use LDAP Authentication for End Users)] 属性に対して [No] を選択する必要があります

ます)、LDAP 認証用のインフラストラクチャ テンプレートを作成します ([設計 (Design)] >[インフラストラクチャ テンプレート (Infrastructure Templates)])。 バッチ プロジェクトを介して Cisco Unified Communications Manager にこの設定をプッシュします。

- 2 Cisco Unified Communications Manager での LDAP 同期が無効になるように、LDAP システム用のインフラストラクチャテンプレートを作成します。 Microsoft ADサーバを選択した場合は、[ユーザ ID 用 LDAP 属性 (LDAP Attribute for User ID)] フィールドに値として「sAMAccountName」を入力する必要があります。 Microsoft ADAM または Lightweight Directory Services を選択した場合は、[ユーザ ID 用 LDAP 属性 (LDAP Attribute for User ID)] フィールドに値として「uid」を入力する必要があります。 バッチプロジェクトを介して Cisco Unified Communications Manager にこの設定をプッシュします。
- 3 Cisco Unified Communications Manager での認証が再度有効になるように ([エンドユーザ用LDAP 認証の使用 (Use LDAP Authentication for End Users)] 属性に対して [Yes] を選択する必要があります)、LDAP 認証用のインフラストラクチャテンプレートを作成します。 バッチプロジェクトを介して Cisco Unified Communications Manager にこの設定をプッシュします。
- 4 Prime Collaboration Provisioning でユーザにサービスをプロビジョニングする前に、Provisioning UI からインフラストラクチャ同期を実行して、Cisco Unified Communications Manager で LDAP ディレクトリを識別する必要があります。

表 14 : [LDAP設定 (LDAP Settings)] フィールド

フィールド	説明
[モード (Mode)]	<ul style="list-style-type: none"> • [認証のみ (Authentication Only)] : LDAP サーバは、ユーザ認証にのみ使用されます。 • [認証および同期 (Authentication and Synchronization)] : LDAP サーバは、ユーザ認証とユーザ情報取得の両方に使用されます。
[既存ユーザの詳細の更新 (Update Existing User Details)]	<ul style="list-style-type: none"> • [すべてのフィールド (All fields)] : LDAPサーバでユーザ情報が変更されると、Provisioning でも同じ情報が更新されます。 • [更新しない (Do not update)] : LDAPサーバでユーザ情報が変更された場合に、Provisioning でユーザ情報が更新されません。

フィールド	説明
[LDAP ユーザ削除時のアクション (Action when LDAP users deleted)]	<ul style="list-style-type: none"> • [Provisioning で変更を行わない (Do not make changes in Provisioning)] : LDAP サーバでユーザが削除されても、Prime Collaboration Provisioning の対応するユーザは削除されません。 • [Provisioning にサービスがないユーザを削除する (Delete user if there are no services in Provisioning)] : LDAP サーバでユーザが削除されると、Prime Collaboration Provisioning 内にサービスを持っていないユーザは、Prime Collaboration Provisioning から削除されます。Prime Collaboration Provisioning 内にサービスを持っている場合、そのユーザは削除されません。 • [Provisioning でユーザを削除する (Delete user in Provisioning)] : LDAP サーバでユーザが削除されると、Prime Collaboration Provisioning 内にサービスを持っている場合でも、Prime Collaboration Provisioning の対応するユーザが削除されます。 • [ユーザを削除し、プロビジョニングとCUCMのサービスを残す (Delete user, but keep services in Provisioning and CUCM)] : ユーザが LDAP サーバから削除されると、対応するユーザは Prime Collaboration Provisioning と Cisco Unified Communications Manager から削除されます。 <p>(注) CUCM 10.5 以降のバージョンでは、CUCM の LDAP ユーザは、LDAP 同期によって Prime Collaboration Provisioning から削除されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Provisioning および CUCM からユーザとすべてのサービスを削除する (Delete user and all services from Provisioning and CUCM)] : LDAP サーバでユーザが削除されると、デバイスと Prime Collaboration Provisioning の対応するユーザとサービスが削除されます。ユーザが Cisco Unified Communications Manager の LDAP ユーザではない場合、そのユーザは Prime Collaboration Provisioning と Cisco Unified Communications Manager から削除されます。ユーザが Cisco Unified Communications Manager の LDAP ユーザである場合、そのユーザは Cisco Unified Communications Manager から削除されません。
[ユーザ検索ベース (User Search Base)]	<p>ユーザの検索ベース。Provisioning は、ベース下でユーザを検索します。これらは、CN-Users、DC-Cisco、DC-com です。</p> <p>これらの検索ベースは LDAP の同期に限り使用され、認証には使用されません。</p> <p>Microsoft Active Directory サーバで、dsquery user コマンドを使用して完全なユーザ検索ベースをリストできます。</p>

フィールド	説明
[フィールドマッピング (Field Mapping)]	<p>特定の LDAP ユーザ フィールドに対応する、Cisco Unified Communications Manager 内のユーザフィールドをリストします。Prime Collaboration Provisioning では、以下のフィールドのみ設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• [連絡先電話番号 (Contact phone number)] : 電話番号または ipPhone を選択します。• [連絡先電子メール (Contact email)] : メールまたは sAMAccountName を選択します。• [ユーザ ID (User ID)] : [ユーザ ID (User ID)] では、LDAP サーバの次のフィールドをマッピングできます。<ul style="list-style-type: none">◦ employeeNumber◦ mail◦ sAMAccountName◦ telephoneNumber◦ userPrincipalName• [ミドルネーム (Middle Name)] : middleName または initials を選択します• [ディレクトリ URI (Directory URI)] : mail、msRTCSIP-primaryuseraddress、または none を選択します。 <p>Provisioning と LDAP サーバの全フィールドのマッピングリストについては、表 15 : LDAP フィールドのマッピング、(99 ページ) を参照してください。</p>

フィールド	説明
[同期のクエリーのフィルタ処理 (Filter Query for Synchronization)]	<ul style="list-style-type: none"> • [全ユーザの同期 (Synchronize all users)] : すべてのユーザが同期されます。 • [簡易クエリー (Simple query)] : 次のフィールドの組み合わせを使用して、クエリーを設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ [ユーザ ID (User ID)] ◦ [部署名 (Department)] ◦ [連絡先電話番号 (Contact phone number)] ◦ [タイトル (Title)] ◦ [名 (First Name)] ◦ [姓 (Last Name)] ◦ マネージャ ID : Active Directory 統合におけるものと同様に、完全に適格なマネージャ ID を提供します。たとえば、ユーザ ID が jdoe の John Doe というユーザの場合 : CN=jdoe,<user search base> ◦ [ディレクトリ URI (Directory URI)] ◦ [連絡先電子メール (Contact email)] ◦ [市区町村 (City)] ◦ [都道府県 (State)] ◦ [オフィス (Office)] ◦ [提供会社 (Company)] ◦ [番地 (Street)] ◦ [私書箱 (P. O. Box)] ◦ [郵便番号 (Zip Code)] ◦ [国 (Country)] ◦ [連絡先 Fax 番号 (Fax Number)] ◦ [IP フォン番号 (IP Phone Number)] ◦ 文字列を部分的に検索するには、アスタリスク (*) を使用します。 <p>[詳細クエリ (Advanced query)] : LDAP クエリーは、次の例のように入力できます。</p> <p>(&(sAMAccountName=johndoe)(department=Cisco*)(mail=john@cisco.com))</p>

次の表は、Prime Collaboration Provisioning と LDAP サーバ間のフィールドのマッピングを示しています。指定した Provisioning フィールドのデータは、対応する LDAP フィールドのユーザデータに同期されます。

表 15: LDAP フィールドのマッピング

Provisioning フィールド	LDAP フィールド
<p>[電話番号 (Phone number)]</p> <p>(注) プロビジョニングユーザの場合、このフィールドが空であるなら、回線のオーダー時にこのフィールドに回線電話番号が自動的に割り当てられます。</p>	<p>telephoneNumber または ipPhone number。</p> <p>(注) LDAPユーザの場合、このフィールドが空であるなら、回線のオーダー時にこのフィールドに回線電話番号は割り当てられません。</p>
<p>[電子メール (Email)]</p>	<p>mail または sAMAccountName</p>
<p>[ユーザ ID (User ID)]</p>	<p>[ユーザ ID (User ID)] では、LDAP サーバの次のフィールドをマッピングできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • employeeNumber • mail • sAMAccountName • telephoneNumber • userPrincipalName
<p>[名 (First Name)]</p>	<p>givenName。</p>
<p>[姓 (Last Name)]</p>	<p>sn。</p>
<p>[ミドルネーム (Middle Name)]</p>	<p>middleName または initials</p>
<p>[ディレクトリ URI (Directory URI)]</p>	<p>mail、msRTCSIP-primaryuseraddress、または none</p>
<p>[マネージャ ID (Manager ID)]</p>	<p>manager</p>
<p>[部署名 (Department)]</p>	<p>department</p>
<p>[タイトル (Title)]</p>	<p>title</p>

Provisioning フィールド	LDAP フィールド
[自宅の番号 (Home Number)]	homephone
[携帯電話番号 (Mobile Number)]	mobile
[ポケベルの番号 (Pager Number)]	pager



(注) LDAP サーバのタイプを Microsoft ADAM または Lightweight Directory Services として設定した場合は、[sAMAccountName] ではなく [ユーザ ID (User ID)] ドロップダウン リストに uid が一覧表示されます。

LDAP サーバのユーザを同期する際、ユーザタイプが自動サービスプロビジョニングに対して有効である場合、次のフィルタを使用できます。これらのフィルタは、自動サービスプロビジョニングで使用するデフォルト サービス エリアおよびユーザ権限を特定するのに役立ちます。

表 16 : LDAP 同期のフィルタ

LDAP フィルタ	説明
ドメイン LDAP フィルタ	ユーザを割り当てる各ドメインを指定するには、このフィルタを使用します。
サービス エリア LDAP フィルタ	ユーザを割り当てる各サービスエリアを指定するには、このフィルタを使用します。ドメインにサービス エリアが設定されていない場合、サービスエリア LDAP フィルタは有効になりません。

LDAP フィルタ	説明
ロール LDAP フィルタ	<p>ユーザを割り当てる各ユーザ ロールを指定するには、このフィルタを使用します。このフィルタを設定しない場合、LDAP サーバから同期されたユーザはデフォルトのロールにマッピングされます。自動プロビジョニングが有効になっているユーザ ロールにユーザをマッピングすると、設定されているサービスがそのユーザに対して自動的にプロビジョニングされます。</p> <p>(注) 同期モードとして [認証のみ (Authentication Only)] を選択した場合、サービス エリア フィルタとユーザ ロール フィルタは有効になりません。また、どちらのフィルタも自動プロビジョニングが有効な場合にのみ適用されます。</p>

サービス エリア フィルタを作成する際は、以下を設定できます。

- [内線ブロックから新しい回線を割り当て (Assign new line from the extension block)]
- [LDAP 同期された電話番号にマスクを適用 (Apply mask to LDAP synchronized telephone numbers)] LDAP 同期番号に適用するマスク値を [マスク (Mask)] フィールドに入力できます。マスク値を入力する場合は、次の点に注意してください。
 - [マスク (Mask)] フィールドで有効な値は、0 ～ 9、プラス記号 (+)、大文字の x (X)、後ろにプラス記号が付いたバックスラッシュ (\+) です。
 - 値は、+、\+、X、または数字 (0 ～ 9) から開始できます。
 - 数字と X の組み合わせも可能です (例:12XXX、+XX234、XX231XXX)。
 - E.164 文字 (+ と \+) は値の先頭でのみ使用できます。これらの文字は数字または X の間では使用できません。

Provisioning は、数字以外の文字を除去してから LDAP 同期番号にマスクを適用し、回線を適宜プロビジョニングします。



- (注) [マスク (Mask)] フィールドは、[LDAP 同期された電話番号にマスクを適用 (Apply Mask to LDAP Synchronized Telephone Numbers)] チェック ボックスをオンにした場合にのみ有効になります。

[マスク (Mask)] オプションは、LDAP サーバから同期されたユーザにのみ使用できます。また、マスク番号は、LDAP ユーザに対して回線を自動プロビジョニングするときのみ使用されます。

- [内線ブロックから新しい回線を割り当て (Assign new line from the extension block)] チェックボックスをオンにすると、LDAP 同期番号が存在する場合でも、Provisioning は DN ブロックから電話番号を選択して、回線を適宜プロビジョニングします。
- [LDAP 同期された電話番号にマスクを適用 (Apply Mask to LDAP Synchronized Telephone Numbers)] チェックボックスをオンにした場合：
 - LDAP 同期番号がない場合、Prime Collaboration Provisioning はユーザに対して回線サービスをプロビジョニングしません。
 - LDAP 同期番号がある場合、Prime Collaboration Provisioning は LDAP 同期番号にマスクを適用し、そのマスクされた番号を使用して回線を自動プロビジョニングします。
- 両方のチェックボックスをオンにすると、LDAP 同期番号がマスクされ、マスクされた DN が回線の自動プロビジョニングに使用されます。LDAP 同期番号がない場合、Prime Collaboration Provisioning は DN ブロックから番号を選択し、回線を適宜プロビジョニングします。
- 両方のチェックボックスをオフにすると、LDAP 同期番号が回線のプロビジョニングに使用されます。

ドメイン クイック ビューで LDAP 同期の詳細を表示できます。ドメイン クイック ビューの [詳細ログの表示 (View Detailed Logs)] をクリックすると、LDAP 同期ログを表示できます。

LDAP 同期レポート

ここでは、[LDAP同期 (LDAP Synchronization)] レポートに表示される可能性のある一部のメッセージについて説明します。

The following users were not created because they are already present in another Domain: user1, user2 (次のユーザは別のドメインにすでに存在しているため、作成されませんでした : user1、user2)

表示されているユーザはLDAPサーバに存在しますが、すでに別のドメインに存在しているため、現在のドメイン内の Provisioning に作成できませんでした。

この問題を解決するには、他方のドメインからユーザを削除して、LDAPの同期を再実行します。

Deletion of User and associated services failed for the following users: UserId, OrderId, Status (次のユーザに対するユーザと関連付けられたサービスの削除に失敗しました : UserId、OrderId、ステータス)

このメッセージは、[ユーザとサービスを削除 (Delete user with Services)] が有効になっているときに、デバイスおよび Provisioning からのユーザとサービスの削除に失敗した場合に表示されます。デバイスのサービスを削除するため、ユーザごとに 1 つのオーダーが作成され、オーダーのステータスがオーダー ID 別に上のレポートに表示されます。これらのユーザと対応するサービスを手動で削除する必要があります。上のレポートに表示されるユーザ ID のリンクをクリックして、これらのユーザ アカウントにアクセスすることができます。

The following user and associated services were deleted successfully: UserId, OrderId, Status（次のユーザと関連付けられたサービスの削除に成功しました：**UserId**、**OrderId**、ステータス）

このメッセージは、[ユーザとサービスを削除（Delete user with Services）] が有効になっているときに、デバイスおよび Provisioning からユーザとサービスの削除に成功した場合に表示されます。

The following users were not deleted because the delete option was not set: user1 user2（次のユーザは削除オプションが設定されていないため、削除されませんでした：**user1**、**user2**）

これらのユーザは LDAP サーバでは削除されていますが、[削除しない（Do not delete）] が有効であるため、LDAP の同期中に削除されませんでした。

この問題を解決するには、[ユーザのみ削除（Delete User Only）] または [ユーザとサービスを削除（Delete user with Services）] オプションを有効にし、LDAP 同期をもう一度実行します。

特別な電話番号の同期

リリース 9.5 より前の Prime Collaboration Provisioning では、エンドポイントが Prime Collaboration Provisioning によって管理される電話番号（DN）のみが同期化され、Cisco Unified Communications Manager によって設定された DN については十分な情報がありません。Cisco Unified Communications Manager で設定されるいくつかの特別な DN のインスタンスが存在する場合があります。

次のような特別な電話番号があります。

- Cisco Unified Communications Manager に搭載されている、Prime Collaboration Provisioning によって管理されない DN 機能。インターコムの DN などです。
- Prime Collaboration Provisioning によって管理されないエンドポイントに接続している DN。



（注） Provisioning によるエンドポイントのサポートが制限され、Cisco Unified Communications Manager で使用可能な一部のエンドポイントがサポートされません。

Prime Collaboration Provisioning 10.0 では、ユーザの同期化の一部として特別な DN をすべて同期させることができます。この機能はデフォルトで無効になっています。この機能を有効にするには、次のプロパティを /opt/cupm/sep/ipt.properties ファイルに追加する必要があります。

```
dfc.ipt.cisco.ccm.sync.orphanDN=true
```



（注） ipt.properties ファイルを更新した後で、変更を有効にするために cupm サービスを再起動する必要があります。

この機能が有効になっている場合、プロビジョニング オーダーは Provisioning によって検証されるようになり、Cisco Unified Communications Manager に送信されてエラーが発生することはありません。

Provisioning と特別な DN の条件は次のとおりです。

Prime Collaboration Provisioning から実行されるプロビジョニング アクティビティでそのような特別な DN の再利用が試行されると、プロビジョニング エラーが発生する可能性があります。

- DN がすでに使用されている場合は、プロビジョニング回線の自動割り当て時に回線がプロビジョニングされません。
- プロビジョニング回線を手動で選択すると、プロビジョニング中に Prime Collaboration Provisioning でエラーが発生します。



第 6 章

Provisioning のテンプレートの設定

- [設定テンプレートの概要, 105 ページ](#)
- [顧客ドメインテンプレート, 128 ページ](#)
- [Provisioning で事前に作成された機能, 128 ページ](#)
- [インフラストラクチャ設定の概要, 129 ページ](#)
- [電話ボタンテンプレートの設定, 134 ページ](#)
- [ビジネス ルールの概要, 135 ページ](#)
- [バッチプロビジョニング, 154 ページ](#)

設定テンプレートの概要

設定テンプレートを使用して、Unified Communications Manager、Unified Communications Manager Express、Unity Express、Unity、Unity Connection、および汎用 IOS ルータを設定できます。[インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)] ページを使用すると、デバイスの設定を追加、編集、削除することができます。

設定テンプレートを使用すると、一貫性を維持して Cisco Unified Communications の音声インフラストラクチャを自動設定できます。Provisioning では、Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unified Communications Manager Express、および Cisco Unity Express の初期設定や再設定に使用するテンプレートを作成できます。



(注)

[インフラストラクチャテンプレート (Infrastructure Templates)] メニューは、Prime Collaboration Provisioning Advanced でのみサポートされます。このメニューは、Prime Collaboration Provisioning Standard では使用できません。

テンプレートそのものには、無制限の数のオブジェクトを設定できます。実際のオブジェクトの数は、テンプレートの実行（デバイスへのプッシュ）に要する時間のみで制限されます。

一般的な事前には作成された Cisco IOS テンプレートを作成すると、Cisco IOS の一般的なルータ機能が設定されている Provisioning でサポートされる任意のデバイスに、特定の機能を自動設定することができます。

テンプレートにはサブテンプレートも設定可能です。これにより、共通で使用する種類の設定情報を、上位レベルのテンプレート全体にわたって繰り返し使用できます。Cisco Unified Communications Manager Express および Cisco Unity Express のテンプレートは、Cisco IOS ソフトウェアのテキストまたは Cisco CLI のテキストをキーワード付きで備えています。

Provisioning のテンプレートには、20 種類以上のオブジェクトを設定できます。このオブジェクトの種類には、デバイス プール、ルート パーティション、コーリングサーチ スペース、ルート リスト、ルート グループ、ルート パターンなどがあります。テンプレート内のオブジェクトは、その属性にキーワードを埋め込むことができます。

デバイスにテンプレートをプッシュするとき、オプションのキーワードを指定して、プロビジョニング操作中に使用する（置き換える）キーワードの値を定義できます。

設定テンプレートを使用すると、オフィス、場所、リモート サイト、組織オーバーレイの新規ロールアウトなど、さまざまな状況で利用できる設定の標準セットを定義できます。

設定テンプレートを使用すると、次のことを実行できます。

- 新しい Unified Communications Manager、Unified Communications Manager Express、Unity、Unity Connection、Unity Express、および一般的な IOS ルータの設定
- 既存の Unified Communications Manager、Unified Communications Manager Express、Unity Express、または一般的な IOS ルータの展開の拡大（たとえば、新しいサイトまたはロケーションの展開）

設定テンプレートを作成するには、インフラストラクチャ設定製品を設定テンプレートに追加する必要があります。[インフラストラクチャ設定製品のフィールド](#)、(457 ページ) には、Provisioning で利用可能なインフラストラクチャ設定製品が示されています。

インフラストラクチャ設定テンプレートのすべてのフィールドが、すべてのバージョンの Cisco Unified Communications Manager に適用できるわけではありません。

最大 5 レベルのネストされたテンプレートを作成できます。ネストされたテンプレートをループさせることはできません。

デバイス用のインフラストラクチャ設定製品

次の表に、Provisioning で使用可能なインフラストラクチャ設定製品を示します。

Unified Communications Manager リリース用のインフラストラクチャ設定製品

表 17: インフラストラクチャ設定製品 (Unified Communications Manager リリース)

インフラストラクチャ設定製品	Cisco Unified Communications Manager						
	8.0.x	8.5.x	8.6.x	9.0	9.1.1	9.1.2	10.x
[アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[Cisco ファクスリレー (Cisco Fax Relay)]	N	N	Y	Y	Y	Y	Y
[Cisco Unified Communications Manager グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]	N	N	Y	Y	Y	Y	Y
[CTI ルートポイント (CTI Route Point)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[コールパーク (Call Park)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[コールキューイング (Call Queuing)]	N	N	N	Y	Y	Y	Y

インフラストラクチャ設定製品	Cisco Unified Communications Manager						
	8.0.x	8.5.x	8.6.x	9.0	9.1.1	9.1.2	10.x
[コールサーチスペース (Call Search Space)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[共通デバイス設定 (Common Device Config)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]	N	N	N	N	Y	Y	Y
[クライアント識別コード (Client Matter Code)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[日時グループ (Date/Time Group)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[説明 (Description)]	N	N	Y	Y	Y	Y	Y
[デバイスプール (Device Pool)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[デバイスモビリティグループ (Device Mobility Group)]	N	N	N	N	N	N	Cisco Unified Communications Manager 10.5 以上でサポート

インフラストラクチャ設定製品	Cisco Unified Communications Manager						
	8.0.x	8.5.x	8.6.x	9.0	9.1.1	9.1.2	10.x
[デバイスモビリティ情報 (Device Mobility Info)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[Telnet を有効にする (Enable Telnet)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[強制承認コード (Forced Authorization Codes)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[位置情報フィルタ (Geo Location Filter)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[位置情報の設定 (Geo Location Configuration)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[H323 ゲートウェイ (H323 Gateway)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[ハントリスト (Hunt List)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[ハントパイロット (Hunt Pilot)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y

インフラストラクチャ設定製品	Cisco Unified Communications Manager						
	8.0.x	8.5.x	8.6.x	9.0	9.1.1	9.1.2	10.x
[IOS Enhanced Conference Bridge]	N	N	N	N	N	N	Cisco Unified Communications Manager 10.5 以上でサポート
[IP Phone サービス (IP Phone Services)]	N	N	N	N	N	N	Cisco Unified Communications Manager 10.5 以上でサポート
[回線グループ (Line Group)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[ロケーション (Location)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[MAC アドレス(最後の 10 文字) (MAC Address (Last 10 Characters))]	N	N	Y	Y	Y	Y	Y
[メディアリソースグループ (Media Resource Group)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y

インフラストラクチャ設定製品	Cisco Unified Communications Manager						
	8.0.x	8.5.x	8.6.x	9.0	9.1.1	9.1.2	10.x
[ミートミー会議 (Meet-Me Conference)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[ミートミー番号/パターン (Meet-Me Number/Pattern)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[モデム パススルー (Modem Passthrough)]	N	N	Y	Y	Y	Y	Y
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[スロット 0 のモジュール (Module in Slot 0)]	N	N	Y	Y	Y	Y	Y
[MT パッケージ機能 (MT Package Capability)]	N	N	Y	Y	Y	Y	Y
[パーティション (Partition)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[物理ロケーション (Physical Location)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y

インフラストラクチャ設定製品	Cisco Unified Communications Manager						
	8.0.x	8.5.x	8.6.x	9.0	9.1.1	9.1.2	10.x
[リソースプライオリティネームスペースリスト (Resource Priority Namespace List)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[リソースプライオリティネームスペースネットワークドメイン (Resource Priority Namespace Network Domain)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[RES パッケージ機能 (RES Package Capability)]	N	N	Y	Y	Y	Y	Y

インフラストラクチャ設定製品	Cisco Unified Communications Manager						
	8.0.x	8.5.x	8.6.x	9.0	9.1.1	9.1.2	10.x
[RTP パッケージ機能 (RES Package Capability)]	N	N	Y	Y	Y	Y	Y
[RTCP レポート間隔(秒) (RTP Report Interval (secs))]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[RTP 到達不能のオンとオフ (RTP Unreachable OnOff)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[RTP 到達不能タイムアウト(ミリ秒) (RTP Unreachable timeout (ms))]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[ルートグループ (Route Group)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[ルートリスト (Route List)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[ルートパーティション (Route Partition)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y

インフラストラクチャ設定製品	Cisco Unified Communications Manager						
	8.0.x	8.5.x	8.6.x	9.0	9.1.1	9.1.2	10.x
[ルートパターン (Route Pattern)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[サービスパラメータ (Service Parameter)]	N	N	N	N	N	N	Cisco Unified Communications Manager 10.5 以上でサポート
[サービスプロファイル (Service Profile)]	N	N	N	N	Y	Y	Y
[簡易 SDP (Simple SDP)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[SIP トランク (SIP Trunk)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[SIP プロファイル (SIP Profile)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[SST パッケージ機能 (SST Package Capability)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[T.38 ファクスリレー (T38 Fax Relay)]	N	N	Y	Y	Y	Y	Y

インフラストラクチャ設定製品	Cisco Unified Communications Manager						
	8.0.x	8.5.x	8.6.x	9.0	9.1.1	9.1.2	10.x
[トランスレーションパターン (Translation Pattern)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[UC サービス (UC Service)]	N	N	N	N	Y	Y	Y
[Unified CM グループ (Unified CM Group)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[VG202]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[VG204]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[VG224]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[VG350]	N	N	N	N	N	N	Y
[ボイスリージョン (Voice Region)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[Voiceport]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[ボイスメールパイロット (Voicemail Pilot)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[ボイスメールプロファイル (VoiceMail Profile)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y

Cisco Unified Communications Manager - Session Management Edition 用のインフラストラクチャ設定製品

表 18: インフラストラクチャ設定製品 (Cisco Unified Communications Manager - Session Management Edition)

インフラ ストラク チャ設定 製品	Cisco Session Management Edition						
	8.0.x	8.5.x	8.6.x	9.0	9.1.1	9.1.2	10.x
[SIP トラン ク (SIP Trunk)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[SIP プロ ファイル (SIP Profile)]	Y	N	Y	Y	Y	Y	Y

Cisco Unified Message Processor 用のインフラストラクチャ設定製品

表 19: インフラストラクチャ設定製品 (Cisco Unified Message Processor)

インフラ ストラク チャ設定 製品	Cisco ユニファイド メッセージ プロセッサ						
	8.0.x	8.5.x	8.6.x	9.0	9.1.1	9.1.2	10.x
[同報リス ト (Distribution List)] (Cisco Unity Connection) 1	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[同報リス ト (Distribution List)] (Cisco Unity)	Y	N	Y	Y	Y	Y	Y

インフラ ストラク チャ設定 製品	Cisco ユニファイドメッセージ プロセッサ						
	8.0.x	8.5.x	8.6.x	9.0	9.1.1	9.1.2	10.x
[同報リス ト (Distribution List)] (Cisco Unity Connection) 1	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[コールハ ンドラ (Call Handlers)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[サービ ス クラス (Class of Service)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[同報リス ト (Distribution List)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[ディレク トリハン ドラ (Directory Handlers)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[インタ ビューハ ンドラ (Interview Handlers)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[加入者テ ンプレー ト (Subscriber Template)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y

¹ [同報リスト (Distribution List)] (Cisco Unity Connection) は、Cisco Unified Communications Manager 8.0.3 以降でサポートされます。

表 20: インフラストラクチャ設定製品 (Cisco ユニファイド プレゼンス プロセッサ)

インフラストラクチャ 設定製品	Cisco ユニファイド プレゼンス プロセッサ					
	8.0.x	8.5.x	8.6.x	9.0	9.1.1	10.x
[オーディオ プロファイル (Audio Profile)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[CIP プロ ファイル (CIP Profile)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[会議プロ ファイル (Conferencing Profile)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[CTI ゲート ウェイプロ ファイル (CTI Gateway Profile)]	Y	Y	Y	Y	Y	Y
[LDAP プロ ファイル (LDAP Profile)]	Y	N	Y	Y	Y	Y
[ボイスメー ルプロファ イル (VoiceMail Profile)]	Y	N	Y	Y	Y	Y

設定テンプレートの作成

最初に、設定テンプレートを作成してから、そのテンプレートに項目を追加します。追加できる項目は、個々のオブジェクトまたは既存の設定テンプレートのいずれかです。



- (注) [インフラストラクチャテンプレート (Infrastructure Templates)] メニューは、Prime Collaboration Provisioning Advanced でのみサポートされています。このメニューは、Prime Collaboration Provisioning Standard ではサポートされていません。

手順

- ステップ 1** [設計 (Design)] > [インフラストラクチャテンプレート (Infrastructure Templates)] を選択します。
- ステップ 2** [設定テンプレートのセットアップ (Set Up Configuration Template)] ページで、[新規 (New)] アイコンをクリックします。
- ステップ 3** 表示されたプロンプトに設定テンプレートの名前を入力し、[OK] をクリックします。

既存の設定テンプレートを更新するには、テンプレートを選択して必要な情報を更新します。

名前を変更するには、作成済みのテンプレートをクリックします。名前の変更ダイアログボックスで、名前を変更して [保存 (Save)] をクリックします。

設定テンプレートを削除するには、[設定テンプレートの削除 (Remove Configuration Template)] をクリックします。

設定テンプレートをコピーするには、[設定テンプレートのコピー (Copy Configuration Template)] をクリックします。元のテンプレート名に `_copy` が追加され、設定テンプレートのコピーが作成されます。

設定テンプレートへの項目の追加

追加できる項目は、個々のオブジェクトまたは既存の設定テンプレートのいずれかです。



- (注) [インフラストラクチャテンプレート (Infrastructure Templates)] メニューは、Prime Collaboration Provisioning Advanced でのみサポートされます。このメニューは、Prime Collaboration Provisioning Standard では使用できません。

これらのインフラストラクチャ オブジェクトの名前を指定する際は、その名前に変数 `DOMAIN` と `SERVICEAREA` を含めることで、それぞれが属するドメインまたはサービスエリアに基づく一意の名前を指定できます。

設定テンプレートを送信するとき、Provisioning は DOMAIN と SERVICEAREA をそれぞれドメイン名とサービスエリア名に置き換えるため、新しいオブジェクトには自動的に一意の名前が割り当てられます。これは、Provisioning による Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unified Communications Manager Express、または Cisco Unity Express 上でのパーティション化に必要なインフラストラクチャ要素になります。

設定は、設定テンプレートで定義された順に行われます。これらのオブジェクトの自動設定に関する依存関係は、オブジェクトを手動で設定する場合と同じです。したがって、設定テンプレートでは適切な順序でオブジェクトを定義する必要があります。

これらの依存関係に関する詳細、およびその他の要件については、Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unified Communications Manager Express、または Cisco Unity Express の該当するマニュアルを参照してください。

多くのインフラストラクチャ設定製品のフィールドでは、リストに項目を追加し、リスト内で項目を上下に移動できます。インフラストラクチャ設定製品のフィールドのリストには、Cisco Unified Communications Manager にすでに存在する項目だけが表示されます。設定テンプレートの送信時に作成される項目を設定テンプレートで定義することもできます。新しい項目は、設定テンプレートが送信後に限り存在します。これらの項目が、同じ設定テンプレート内の他の項目の必要条件になる場合があります。

このため、Provisioning では、手動でリストにオプションを追加できるようになっています。たとえば、同じ設定テンプレートでルートパーティションとコーリングサーチスペースを定義できます。設定テンプレートでコーリングサーチスペース項目を定義するにはルートパーティションを指定する必要がありますが、ルートパーティションはまだ作成されていないため、設定テンプレートのオプションとしてルートパーティションは表示されません。

設定テンプレートに項目を追加するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [設計 (Design)] > [インフラストラクチャテンプレート (Infrastructure Templates)] を選択します。
- ステップ 2** [既存の設定テンプレートの選択 (Choose an Existing Configuration Template)] アイコンをクリックして、目的の設定テンプレートを選択します。
- ステップ 3** [新規項目の追加 (Add a New Item)] をクリックします。
- ステップ 4** [追加 (Add)] フィールドで、次のいずれかを実行します。
- 新しい項目を作成するには、[新規項目 (New Item)] を選択して [ステップ 5](#) に進みます。
 - 既存の設定テンプレートを追加するには、[名前 (Name)] をクリックして次の手順を実行します。
 - 1 目的の設定テンプレート名を選択して [保存 (Save)] をクリックします。設定テンプレートが追加されます。
 - 2 [ステップ 6](#) に進みます。

ステップ 5 プロセッサタイプと項目タイプを選択します。プロセッサタイプごとにタスクを実行するには、[設定テンプレートに新しい項目を追加するためのデバイスおよび項目タイプ](#)、(121 ページ) を参照してください。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

設定テンプレートの項目の順序を変更するには、フィールドの横の上または下向き矢印キーを押します。項目が移動します。テンプレート項目とインフラストラクチャ設定製品のフィールドの項目を変更できます。すべての項目の順序が変更されることに注意してください。フィールドの項目の順序を変更できる場合は、そのフィールドの横に上および下向き矢印が表示されます。

設定テンプレート項目を編集するには、[編集 (Edit)] アイコンをクリックします。[設定テンプレート項目の編集 (Edit a Configuration Template Item)] ページで、ドロップダウンの横のプラス記号 (+) をクリックし、項目をリストにさらに追加します。名前を入力し、[OK] をクリックします。

テンプレートから項目を削除するには、項目の横の [削除 (Remove)] をクリックします。

項目のコピーを作成するには、コピーする項目の [コピー (Copy)] アイコンをクリックします。

設定テンプレートに新しい項目を追加するためのデバイスおよび項目タイプ

表 21 : 設定テンプレートに新しい項目を追加するためのデバイスおよび項目タイプ

デバイスタイプ	項目タイプ	手順
Unified CME	[Unified CME IOS テンプレート (Unified CME IOS Template)]	<p>1 適切な Cisco IOS コマンドを入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager Express および一般的な IOS ルータの場合は、Cisco IOS コマンドは設定端末モードでデバイスに適用されます。Cisco IOS コマンドの <i>configure terminal</i> および <i>exit</i> が内部でコマンドに追加されます。</p> <p>Cisco Unity Express の場合、コマンドを設定端末モードで実行させるには、テンプレートの先頭に <i>configure terminal</i> コマンドを追加する必要があります。</p> <p>(注) サブモジュールモード コマンドの入力を必要とするデバイスの場合は、サブモジュールモードの開始と終了のコマンドを入力する必要があります。また、Provisioning では、入力したコマンドの構文はチェックされません。</p> <p>2 [保存 (Save)] をクリックします。項目が設定テンプレートに追加されます。</p>

デバイス タイプ	項目タイプ	手順
Unity Express	[Unified CME IOS テンプレート (Unified CME IOS Template)]	<p>1 適切な Cisco IOS コマンドを入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager Express および一般的な IOS ルータの場合は、Cisco IOS コマンドは設定端末モードでデバイスに適用されます。Cisco IOS コマンドの <code>configure terminal</code> および <code>exit</code> が内部でコマンドに追加されます。</p> <p>Cisco Unity Express の場合、コマンドを設定端末モードで実行させるには、テンプレートの先頭に <code>configure terminal</code> コマンドを追加する必要があります。</p> <p>(注) サブモジュール モード コマンドの入力を必要とするデバイスの場合は、サブモジュールモードの開始と終了のコマンドを入力する必要があります。また、Provisioning では、入力したコマンドの構文はチェックされません。</p> <p>2 [保存 (Save)] をクリックします。項目が設定テンプレートに追加されます。</p>
[一般的な IOS ルータ (Generic IOS Router)]	[一般的な IOS ルータ(テンプレート) (Generic IOS Router Template)]	<p>1 適切な Cisco IOS コマンドを入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager Express および一般的な IOS ルータの場合は、Cisco IOS コマンドは設定端末モードでデバイスに適用されます。Cisco IOS コマンドの <code>configure terminal</code> および <code>exit</code> が内部でコマンドに追加されます。</p> <p>(注) サブモジュール モード コマンドの入力を必要とするデバイスの場合は、サブモジュールモードの開始と終了のコマンドを入力する必要があります。また、Provisioning では、入力したコマンドの構文はチェックされません。</p> <p>2 [保存 (Save)] をクリックします。項目が設定テンプレートに追加されます。</p>

デバイス タイプ	項目タイプ	手順
[一般的な IOS ルータ (Generic IOS Router)]	[一般的な IOS ルータ(既成) (Generic IOS Router Pre-built)]	<ol style="list-style-type: none"> 1 事前に作成されたテンプレートを含むディレクトリを選択します。 次の点に注意してください。 <ul style="list-style-type: none"> • ディレクトリがドロップダウン リストに表示されない場合は、[一般的なIOSルータ(既成) (Generic IOS Router Pre-built)] テンプレートを Cisco.com からダウンロードします。 • アナログ音声ゲートウェイを設定するディレクトリとして、[アナログ音声ゲートウェイの設定 (Analog Voice Gateway Configurations)] を選択します。 2 自動設定に使用する事前に作成されたテンプレートのファイル名を選択します。 テンプレートで使用するすべてのキーワードに対するキーワードリストエントリのセットが表示され、読み取り専用の [コマンド (Commands)] フィールドが表示されます。 3 キーワードに、CLI で置き換えられる値を設定します。 このリストにキーワードを少なくとも 1 つ入力する必要があります。または、すでに作成済みのキーワードリストを使用できます。 4 [保存 (Save)] をクリックします。 項目が設定テンプレートに追加されます。
Unified CM	ドロップダウン リストからイン フラストラク チャ設定製品を 選択します。	<p>リストからインフラストラクチャオブジェクトを選択すると、画面が更新され、選択したオブジェクトのオプションが表示されます。表示されるオプションは、選択したオブジェクトによって異なります (各インフラストラクチャ設定製品のフィールドの説明については、デバイス用のインフラストラクチャ設定製品、(106 ページ) を参照してください) 。</p> <p>必要に応じてフィールドに入力します。 ドロップダウン リストに必要な項目が含まれていない場合があります。 項目が設定テンプレートに追加されます。</p>

デバイスタイプ	項目タイプ	手順
Unity Connection	ドロップダウンリストからインフラストラクチャ設定製品を選択します。	リストからインフラストラクチャオブジェクトを選択すると、画面が更新され、選択したオブジェクトのオプションが表示されます。表示されるオプションは、選択したオブジェクトによって異なります（各インフラストラクチャ設定製品のフィールドの説明については、 デバイス用のインフラストラクチャ設定製品 、(106 ページ) を参照してください）。 必要に応じてフィールドに入力します。項目が設定テンプレートに追加されます。
Unity	ドロップダウンリストからインフラストラクチャ設定製品を選択します。	リストからインフラストラクチャオブジェクトを選択すると、画面が更新され、選択したオブジェクトのオプションが表示されます。表示されるオプションは、選択したオブジェクトによって異なります（各インフラストラクチャ設定製品のフィールドの説明については、 デバイス用のインフラストラクチャ設定製品 、(106 ページ) を参照してください）。 必要に応じてフィールドに入力します。項目が設定テンプレートに追加されます。

キーワード リストの新規作成とキーワードの追加

設定テンプレートを作成する際に同じ定義パラメータを複数回使用する場合は、キーワード置換を設定すると操作が簡単になります。キーワード置換を使用して文字列を作成し、その文字列を設定テンプレートに入力すると、その文字列は対応する値に置き換えられます。



(注)

[インフラストラクチャテンプレート (Infrastructure Templates)] メニューは、Prime Collaboration Provisioning Advanced でのみサポートされます。このメニューは、Prime Collaboration Provisioning Standard では使用できません。

手順

- ステップ 1 [設計 (Design)] > [インフラストラクチャテンプレート (Infrastructure Templates)] を選択します。
- ステップ 2 [既存の設定テンプレートの選択 (Choose an Existing Configuration Template)] アイコンをクリックし、必要なテンプレートを選択します。
- ステップ 3 [設定テンプレートのセットアップ (Set Up Configuration Template)] ページで、キーワード置換リストの横の [キーワードリストの新規作成 (Creating a New Keyword List)] アイコンをクリックします。
- ステップ 4 キーワードリストの名前を入力して [OK] をクリックします。
- ステップ 5 [キーワード (Keyword)] フィールドに、ドル記号 (\$) で始まる文字列を入力します。
たとえば、次のような文字列を入力します。

`${Region}`

注意 すべてのキーワードを `${}` で囲まず、キーワードの終わりに文字を追加しないと、キーワードの置換は失敗します。

- ステップ 6 [値 (Value)] フィールドに、対応する値を入力します。たとえば、「San Jose」と入力します。
- ステップ 7 [更新 (Update)] をクリックし、[完了 (Done)] をクリックします。
これで、この例では、`${Region}` という文字列を入力した場合に、その文字列が San Jose という値に置き換えられます。

キーワードや対応する値をさらに追加することもできます。追加したら [完了 (Done)] をクリックします。

テンプレートを使用した設定の生成

設定テンプレートを適用するには、該当するドメイン、サービスエリア、またはデバイスに設定テンプレートを送信します。



- (注) [インフラストラクチャテンプレート (Infrastructure Templates)] メニューは、Prime Collaboration Provisioning Advanced でのみサポートされます。このメニューは、Prime Collaboration Provisioning Standard では使用できません。

手順

-
- ステップ 1** テンプレートの [設定テンプレートのセットアップ (Set Up Configuration Template)] ページを開きます ([設定テンプレートの作成, \(119 ページ\)](#) を参照)。
- ステップ 2** (オプション) ドメインを選択します。サービスエリアとデバイスのリストに、選択したドメインに属するサービス エリアとデバイスが表示されます。ドメインが選択されない場合は、Provisioning 内のすべてのデバイスがリストに表示されます。
- ステップ 3** サービス エリアとデバイスの一方または両方を選択します。サービス エリアを選択するとデバイス リストが更新され、選択したサービス エリアに属するデバイスだけが表示されます。サービスエリアまたはデバイスを選択すると、各テンプレート項目に[サポート対象 (Supported)] と[サポート対象外 (Unsupported)] のいずれかが表示されます。サポートされていない項目は、選択したデバイスまたはサービス エリア内のデバイスに対して有効なテンプレート項目ではありません。そのようなテンプレート項目は、生成されたテンプレートには追加されません。
- ステップ 4** (オプション) キーワードリストを選択します。これは、テンプレートにキーワードが含まれている場合にだけ必要です。キーワード リストの作成については、[キーワード リストの新規作成とキーワードの追加, \(124 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 5** [設定の生成 (Generate Configuration)] をクリックし、[OK] をクリックします。設定が生成されて [バッチプロジェクト (Batch Project)] ページが表示されます。設定のプロビジョニングのスケジュールについては、[バッチプロジェクトの管理, \(179 ページ\)](#) を参照してください。
-

設定テンプレートのインポートとエクスポート

テンプレート インポート/エクスポート ツール (configtemplate.sh) を使用すると、Provisioning サーバとの間で設定テンプレートのインポートやエクスポートを実行できます。

configtemplate.sh ファイルは、/opt/cupm/sep/ipt/bin フォルダにあります。

テンプレート インポート/エクスポート ツールを使用するときは、次のことに注意してください。

- テンプレートを別の Provisioning サーバにインポートするときに、インポート対象のテンプレートに特定のコール プロセッサ固有の属性が含まれている場合は、テンプレートをインポートする Provisioning サーバでそのコール プロセッサを追加して同期する必要があります。
- エクスポートされた設定テンプレート ファイルに変更を加えないでください。
- ネストしているテンプレートを別々にインポート/エクスポートしないでください。
- all オプションを使用するときは、すべてのファイルが同じディレクトリに存在している必要があります。そうでない場合は、インポートに失敗します。
- ネストしているテンプレートの 1 つを指定したときに、そのテンプレートに従属するテンプレートはインポート/エクスポートされません。従属するテンプレートは個別にインポート/

エクスポートする必要があります。まとめてインポート/エクスポートするには、**all** オプションを使用します。このときに、すべての従属ファイルが指定したディレクトリに存在している必要があります。

この方法で、事前に作成された Cisco IOS テンプレートをエクスポートすることはできません。事前に作成されたテンプレートは、Provisioning データベースには格納されません。これらのテンプレートは、ios-pre-built ディレクトリのサブディレクトリにコピーされた際、自動的にインポートされます。

設定テンプレートのインポート

手順

ステップ 1 Provisioning システムで、コマンドプロンプトを開きます。

ステップ 2 コマンドプロンプトで /opt/cupm/sep/ipt/bin フォルダに移動し、コマンド `./configtemplate.sh -import <XML file name> -d <directory>` を実行します。値は次のとおりです。

- **<XML file name>** : インポートするテンプレートの名前。
(注) **<XML file name>** の代わりに **all** を指定することもできます。これを指定すると、ディレクトリに存在するすべてのテンプレート (xml ファイル) がインポートされます。
- **<directory>** : インポートするファイルが存在するディレクトリ。これはオプションです。この引数を省略した場合のデフォルトは、現在のディレクトリです。

例 : `./configtemplate.sh -import RoutePattern.xml -d /opt/cupm/templates`

(注) コマンドをインポートする前に、フォルダ内のファイルが .xml ファイルだけであることを確認してください。

設定テンプレートのエクスポート

設定テンプレートをエクスポートするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Provisioning システムで、コマンドプロンプトを開きます。

ステップ 2 コマンドプロンプトで /opt/cupm/sep/ipt/bin フォルダに移動し、コマンド `./configtemplate.sh -export <template name> -d <directory>` を実行します。値は次のとおりです。

- **<template name>** : エクスポートするテンプレートの名前。
<template name> の代わりに **all** を指定することもできます。これを指定すると、存在するすべてのテンプレートがエクスポートされます。

- **<directory>** : ファイルのエクスポート先のディレクトリ。これはオプションです。この引数を省略した場合のデフォルトは、現在のディレクトリです。

例: `./configtemplate.sh -export RoutePattern -d /opt/cupm/templates`

- (注) テンプレートをエクスポートする場合は、常に新しいディレクトリ名を使用してください。既存のディレクトリ名を使用すると、新しいテンプレートが正しくエクスポートされません。

顧客ドメインテンプレート

複数のドメインを実装する場合は、実装に必要なデフォルトのビジネスルールとユーザタイプに従って、顧客ドメインテンプレートを設定できます。

新しく作成したドメインは、顧客ドメインテンプレートからビジネスルールとユーザタイプの標準セットを継承します。これらのビジネスルールとユーザタイプは、ドメインの作成後に各ドメインの要件に応じて変更できます。顧客ドメインテンプレートに対して加えた変更は、それ以降に新しく作成されるドメインにだけ反映されます。

顧客ドメインテンプレートは、Provisioning のインストール時にデフォルトで作成されます。顧客ドメインテンプレートを設定する際は、新規ドメインに対してビジネスルールやユーザ権限を指定するのと同じように、ビジネスルールやユーザ権限を指定します。

これらの新しい Provisioning 機能を使用するには、顧客ドメインテンプレートを編集する必要があります。

Provisioning で事前に作成された機能

Provisioning は、事前に作成されたテンプレート ファイル用に次の追加機能を提供します。

- キーワード用の一般的な Cisco IOS テンプレート形式を使用して、`swconfig.txt` ファイル内のキーワードを指定できます。

一般的な Cisco IOS テンプレートの形式は次のとおりです。

`${KEY_WORDNAME}`

Provisioning では、具体的にはダッシュ (-) など、一般的な Cisco IOS テンプレートでサポートされる追加文字をキーワード名に含めることができます。

事前に作成された Cisco IOS の形式は次のとおりです。

`@KEYWORD_NAME`

- キーワード値をデフォルトに設定するため、およびキーワード値を検証するために、`Config-UserGuide-<Name>.txt` ファイルに、次の 3 つのオプションのカラムを追加できます。
 - **Type** : キーワード検証を判断するための 4 つのタイプの 1 つ。タイプには、STRING、NUMERIC、IPV4、および IPV6 があります。事前に作成されたテンプレートに関連付けられているローカル キーワードリストに値を入力すると、その値が検証され、検証

が失敗した場合はエラー メッセージが表示されます。テンプレート項目を保存する前に、エラーを修正する必要があります。

° Default Value : ローカル キーワード リストを作成する際に初期的に使用される値。

° Length : STRING タイプの長さは、この値を超えることはできません。

任意のキーワードに値 CUPM_SKIP を使用できますが、この値を含む行は、デバイスに送信される Cisco IOS コマンドには含まれません。

Provisioning でサポートされない事前に作成された機能

キーワード名が空の角カッコ ([]) で終了している場合は、このキーワードに複数の値を割り当てることができることを意味しています。Provisioning では、1 つの値のみを設定できます。

インフラストラクチャ設定の概要

Provisioning の [インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)] ページでは、コール プロセッサおよびユニファイドメッセージプロセッサのインフラストラクチャ設定を見ることができます。このページで、コール プロセッサおよびユニファイドメッセージプロセッサの設定の追加、編集、削除を行うことができます。また、保留中の操作の表示や、操作のスケジュールも可能です ([インフラストラクチャ設定タスクのスケジュール](#), (132 ページ) を参照)。

インフラストラクチャ設定を使用するには、[インフラストラクチャ設定管理 (Infrastructure Configuration Management)] 承認権限が割り当てられ、対応するインフラストラクチャ製品に対する権限が割り当てられている必要があります ([インフラストラクチャ設定の権限の管理](#), (226 ページ) を参照)。

インフラストラクチャ設定製品のフィールドの説明については、[デバイス用のインフラストラクチャ設定製品](#), (106 ページ) を参照してください。

インフラストラクチャ設定機能は、Cisco Unified Communications Manager デバイスに基づくコール プロセッサと、Cisco Unity または Cisco Unity Connection のみに基づくユニファイドメッセージ プロセッサに適用されます。

[インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)] からのデバイスの相互起動

Prime Collaboration Provisioning では、管理者は CUCM、Unity Connection、IM and Presence サービスなどの設定済みデバイスを、[インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)] ページから相互起動することができます。特定のデバイスを相互起動する場合は、そのデバイスの UI にアクセスして、相互起動した特定のデバイスのサーバを直接操作できます。

オブジェクトセレクト ウィジェットでデバイスをポイントし、[クイックビュー (Quick View)] アイコンをクリックして、使用するデバイスのバージョンと IP アドレスを表示します。デバイス

のクイックビューから実行できる操作のリストについては、「[デバイスの追加](#)」を参照してください。



(注)

- Cisco TMS を相互起動するには、TMS サーバで HTTPS を有効にする必要があります。HTTPS が無効な場合は、相互起動ウィンドウで URL を HTTP に変更する必要があります。

- CUCM を相互起動すると、[検索およびリスト (Find and List)] ページが表示されます。CUCM で特定の操作を実行する方法については、次のマニュアルを参照してください。

『[Cisco Unified Communications Manager Administration Guide, Release 10.0](#)』

Unity Connection で特定の操作を実行する方法については、次のマニュアルを参照してください。

『[System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 10.0](#)』

IM and Presence サービスで特定の操作を実行する方法については、次のマニュアルを参照してください。

『[Monitoring Cisco Unified Communications Manager IM and Presence, Release 10.0](#)』

インフラストラクチャ設定インスタンスの追加

インフラストラクチャ設定インスタンスを追加するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 [展開 (Deploy)] > [インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)] を選択します。使用できるすべてのデバイスが左ペインにリストされます。
- ステップ 2 デバイスのインフラストラクチャ製品を表示するには、それぞれのデバイスを展開します。
- ステップ 3 相互起動 ([\[インフラストラクチャ設定 \(Infrastructure Configuration\)\] からのデバイスの相互起動](#)) するインフラストラクチャ製品をクリックするか、ネイティブに起動します。
 - 相互起動すると、そのデバイスの [検索およびリスト (Find and List)] ページが表示されます。[新規追加 (Add New)] をクリックし、必要な情報を入力して [保存 (Save)] をクリックします。
 - 一部のインフラストラクチャ製品 (バージョン 10.0 以前) はネイティブに起動します。ここでは、Provisioning 内で設定し、製品インスタンスを追加できます。次の手順を実行します。
 - 1 [追加 (Add)] をクリックして、[インフラストラクチャ設定 - 製品インスタンスの設定 (Infrastructure Configuration - configure Product Instance)] ページで必要な情報を入力します。フィールドの横のアスタリスクは、必須フィールドを示します。インフラストラクチャ設定製品のフィールドの説明については、[インフラストラクチャ設定製品のフィールド](#)、(457 ページ) を参照してください。

- 2 [適用 (Apply)] または [下書きとして保存 (Save as Draft)] をクリックします。
[適用 (Apply)] では、設定がただちにデバイスへ送信されます。[下書きとして保存 (Save as Draft)] では、設定がローカルにのみ保存されます。後でサービスをデバイスに送信するには、[適用 (Apply)] をクリックするか、インフラストラクチャ設定のスケジュール機能を使用します ([インフラストラクチャ設定タスクのスケジュール](#), (132 ページ) を参照してください)。

また、[下書きとして保存 (Save as Draft)] を選択すると、オブジェクトのプロビジョニング状態が [追加未実行 (Uncommitted Add)] となります (プロビジョニング状態の詳細については、[インフラストラクチャプロビジョニングの状態](#), (133 ページ) を参照してください)。動作ステータスは非アクティブです。つまり、オブジェクトはまだデバイスに送信されていません。

- (注) [適用 (Apply)] をクリックすると、デバイスが再起動し、進行中のコールが予期せず終了します。

インフラストラクチャ設定インスタンスをネイティブ起動用にコピーするには、[コピー (Copy)] をクリックします。[インフラストラクチャ設定 - 製品インスタンスの設定 (Infrastructure Configuration - configure Product Instance)] ページで、[下書きの設定 (Draft Configuration)] タブをクリックして必要な情報を入力します。フィールドの横のアスタリスクは、必須フィールドを示します。[適用された設定 (Applied Configuration)] タブには、設定済みのインスタンスが表示されます。[適用 (Apply)] または [下書きとして保存 (Save as Draft)] をクリックします。インフラストラクチャ設定インスタンスが「copy of」というプレフィックス付きで保存されます。

ネイティブ起動用のインフラストラクチャ設定インスタンスを削除するには、次のいずれかを実行します。

- ただちに設定済みのインスタンスをデバイスから削除するには、[削除 (Delete)] をクリックします。
- オーダーを後でプッシュする場合は、[削除のスケジュール (Schedule Delete)] をクリックします。
- 設定済みのインスタンスがローカルに保存されて残っている場合は、[下書きの削除 (Delete Draft)] をクリックします。

オブジェクトのプロビジョニング状態が [削除未実行 (Uncommitted Delete)] となります (プロビジョニング状態の詳細については、[インフラストラクチャプロビジョニングの状態](#), (133 ページ) を参照してください)。動作ステータスはアクティブです。

[下書きの削除 (Delete Draft)] を実行しても、他のインフラストラクチャ製品やユーザ サービスでそのインスタンスを引き続き使用できます。たとえば、あるルートパーティションに削除対象のマークが付いている場合も、そのルートパーティションは回線または電話製品やコーリングサーチスペースで選択可能です。

インフラストラクチャ設定インスタンスをネイティブ起動用に編集するには、変更するインスタンスをクリックします。[下書きの設定 (Draft Configuration)] タブで、必要な変更を行います。フィールドの横のアスタリスクは、必須フィールドを示します。必要な情報を入力します。

[適用 (Apply)] または [下書きとして保存 (Save as Draft)] をクリックし、変更を保存します。



(注)

Cisco Unified Communications Manager 内で数値が指定されている設定値を消去するには、値として 0 を入力する必要があります。値を消去しただけでは、Cisco Unified Communications Manager 内の設定は解除されません。

インフラストラクチャ設定タスクのスケジュール

インフラストラクチャ設定のスケジュール機能を使用すると、保留中の操作を持つインスタンスをグループ化してプロビジョニングをスケジュールすることができます。

インフラストラクチャ設定をスケジュールするには、タスクを作成する必要があります。タスクに保留中の設定を追加できます。この設定とは、追加、変更、または削除の操作です。2 つ以上のプロセッサからの保留中の項目を同じタスクに入れることができます。また、このタスクのスケジュールは、決められた時間に実行するように設定することも、別のタスクの実行が正常終了した後に実行するように設定することも可能です。

インフラストラクチャ設定のスケジュールされたタスクを表示するには、[スケジュール設定 (Schedule Configuration)] をクリックします ([展開 (Deploy)] > [インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)] を選択)。

結果を絞り込むには、検索機能を使用します。検索機能を使用するには、結果ページの [フィルタの表示 (Show Filter)] をクリックし、検索条件を表示します。

インフラストラクチャ設定タスクは開始タイプに基づきます。

タスクの開始タイプが日時の場合、タスクの実行はスケジュールされた日時に開始されます。そのタスクの項目がすべて指定されたオーダーが作成されます。タスクのステータスが [処理中 (In Progress)] に変化し、それ以降は変更も削除もできなくなります。タスク内のすべての項目が正常に完了した場合は、タスクのステータスが [完了 (Completed)] に変化します。何らかの詳細が失敗すると、タスク全体が中止されます。中止または失敗したタスクを再実行することはできません。新しいタスクを作成する必要があります。

開始タイプが別のタスクの場合は、別のタスクの正常完了後に、目的のタスクが開始されます。別のタスクが異常終了した場合、このタスクが開始されることはありません。このことは、[タスクのリスト (List of Tasks)] ページに表示されます。



(注)

タスクを作成した後で、そのステータスが [処理中 (In Progress)]、[完了 (Completed)]、または [失敗 (Failed)] の場合は、目的のタスクを更新できません。タスクが開始される前は、スケジュールの日時の変更や、タスクの一部として送信する保留中の項目の追加と削除を行うことができます。

手順

-
- ステップ 1** [展開 (Deploy)] > [インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)] を選択します。
- ステップ 2** [インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)] ページで [スケジュール設定 (Schedule Configuration)] をクリックします。
- ステップ 3** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 4** [スケジュール保留設定 - タスクの設定 (Schedule Pending Configuration - Configure Task)] ページで、名前の説明などの必要な情報を入力します。操作タイプとして、インフラストラクチャ設定インスタンスの追加、修正、または削除を設定できます。1 つのタスクで複数の操作を実行できません。選択できる操作タイプは 1 つだけです。
- ステップ 5** タスクの詳細を選択 (三角のアイコンをクリック) し、目的の値を選択して [選択 (Select)] をクリックします。
- ステップ 6** [スケジュール保留設定 - タスクの設定 (Schedule Pending Configuration - Configure Task)] ページで [保存 (Save)] をクリックします。
-

スケジュールされたインフラストラクチャ設定タスクを削除するには、[スケジュール保留設定 - タスクの設定 (Schedule Pending Configuration - Configure Task)] ページで [削除 (Delete)] をクリックします。

インフラストラクチャ設定タスクを消去するには、Provisioning をメンテナンスモードにする必要があります。インフラストラクチャ設定のスケジュール タスク ([完了 (Completed)]、[失敗 (Failed)]、および [中断 (Aborted)]) は、システムに保存されます。これらのタスクは定期的に消去できます。データを消去するアクティビティはすべて、[データメンテナンスの設定 (Data Maintenance Configuration)] ページから実行されます。データのパージの詳細については、[Provisioning のデータ消去の有効化](#)、(319 ページ) を参照してください。

インフラストラクチャ プロビジョニングの状態

インフラストラクチャ設定要求は、インフラストラクチャ設定アクティビティを実行するときに使用されます。

インフラストラクチャ設定プロセスが取る状態は、次のとおりです。

- [追加未実行 (Uncommitted Add)] : 設定はローカルに作成されていますが、デバイス上には存在しません。
- [追加処理中 (Add in Progress)] : 保留中設定の処理が進行中であり、オーダーを通して設定が行われている途中です。この状態では、変更を行うことはできません。
- [追加失敗 (Add Failed)] : このオブジェクトに対する操作に失敗しました。
- [追加をスケジュール済み (Add Scheduled)] : 保留中の設定済みオブジェクトを処理するタスクのスケジュールが設定済みであり、実行待ちです。この状態では、変更を行うことはできません。

- [更新未実行 (Uncommitted Update)] : デバイス上に存在するオブジェクトがローカルでは変更済みですが、まだデバイスに送信されていません。
- [更新処理中 (Update in progress)] : 変更操作がオーダーの一部として進行中です。この状態では、変更を行うことはできません。
- [更新失敗 (Updated Failed)] : 変更操作に失敗しました。
- [更新をスケジュール済み (Update Scheduled)] : デバイス上のオブジェクトを変更するための保留中設定が、タスクの一部としてスケジュールされています。この状態では、変更を行うことはできません。
- [削除未実行 (Uncommitted Delete)] : デバイス上に存在するオブジェクトに削除対象のマークが付いています。このオブジェクトの削除は、まだデバイスに対して要求されていません。
- [削除処理中 (Delete in progress)] : 削除操作がオーダーの一部として進行中です。この状態では、変更を行うことはできません。
- [削除失敗 (Delete Failed)] : 削除操作に失敗しました。
- [削除をスケジュール済み (Delete Scheduled)] : オブジェクトをデバイスから削除するための保留中設定が、タスクの一部としてスケジュールされています。この状態では、変更を行うことはできません。

電話ボタン テンプレートの設定

特定の電話タイプで利用できる最大回線数は、電話ボタン テンプレートを使用して設定します。

Cisco Unified Communications Manager の電話ボタン テンプレートは、電話で利用できる回線数およびスピードダイヤル数と、電話上でそれらが表示される場所を指定するものです。旧式の電話モデルの場合はテンプレートが固定されており、つまり、回線は電話上の特定のボタンに直接マッピングされます。新しい電話モデルは、より動的なボタン構造を備えています。たとえば、Cisco 7960 には 6 つのボタンがあり、それぞれが 1 つの回線またはスピードダイヤルに対応しています。

Cisco Unified Communications Manager のインフラストラクチャを同期する際、Provisioning では Cisco Unified Communications Manager で定義されているすべての電話ボタン テンプレートが取得されます。電話ボタンテンプレートには標準的なセットが必ず 1 つは存在するため、どの電話タイプにも最低 1 つのテンプレートが存在します。

コールプロセッサの各電話ボタン テンプレートの最大回線数を表示できます。空白または負の値は、無制限として扱われます。

電話ボタン テンプレートの最大回線数を表示するには、[管理 (Administration)] > [システム設定 (System Configuration)] > [電話ボタンテンプレート (Phone Button Templates)] を選択します。[電話ボタンテンプレート設定 (Phone Button Template Configuration)] ページで、コールプロセッサを選択して [最大回線情報の表示 (View Maximum Line Information)] をクリックします。

デフォルトの電話ボタンテンプレートを指定するには、[管理 (Administration)] > [システム設定 (System Configuration)] > [電話ボタンテンプレート (Phone Button Templates)] を選択します。[電話ボタンテンプレート設定 (Phone Button Template Configuration)] ページで、コールプロセッサを選択します。電話タイプを選択して [テンプレートリストの更新 (Update Template List)] をクリックします。[電話ボタンテンプレートの設定の編集フォーム (Phone Button Template Configuration Edit Form)] で、テンプレートを選択して [更新 (Update)] をクリックします。

ビジネス ルールの概要

Prime Collaboration Provisioning には、その内部でのコンポーネントの使用方法を定めた、一連の定義済みビジネス ルールが含まれています。これらのビジネス ルールは、オーダーの処理、同期処理の動作、およびシステム内のさまざまなオブジェクトのデフォルト値を制御します。

ビジネス ルールはドメイン レベルで適用されます。Prime Collaboration Provisioning をインストールするときに、各自のビジネス プロセスに従って顧客ドメイン テンプレートにビジネス ルールを設定します。新規ドメインを作成すると、そのドメインは顧客ドメインテンプレートから標準的なビジネスルールのセットを継承します。その後、必要に応じてそれぞれの新規ドメインのビジネス ルールを変更できます。顧客ドメイン テンプレートに対して加えた変更は、それ以降に新しく作成されるドメインにだけ反映されます。顧客ドメインテンプレートの詳細については、[顧客ドメイン テンプレート](#)、(128 ページ) を参照してください。

新規ドメインは、ビジネス ルールに加えてデフォルトのユーザ権限情報も継承し、そのドメイン内に配置されるユーザ用の Inventory Manager Instance Browser、サービスエリア、および音声端末内にフォルダが自動作成されます。

ルールは、データ主導型 (Prime Collaboration Provisioning では [データ (Data)] フィールドを使用)、イネーブル/ディセーブル主導型、またはその両方に行うことができます。どちらが該当するかは、ルールの説明で示されます。



(注) [データ (Data)] フィールドまたは [有効 (Enabled)] フィールドが該当しない一部のビジネス ルールでは、[N/A] と表示されます。ユーザがフィールドに入力した事項のうち、[N/A] とマークされているものはすべてシステムによって無視されます。

ビジネス ルールの説明

表 22 : [ビジネス ルールの説明](#) では、すべての標準的なビジネス ルールをアルファベット順に示し、それらのデフォルトのデータと有効な設定についても説明します。

表 22: ビジネス ルールの説明

ルール	説明
AssignSoftPhoneName	<p>ワークフローでプロビジョニングされている SoftPhone に、一意の名前を割り当てます。この名前はコール プロセッサが、[データ (Data)] フィールドの値をプレフィックスとして使用し、そこに CTI ポートのカウンタ番号 +1 を追加して自動的に生成します。コール プロセッサはこのプレフィックスと CTI ポートのカウンタ番号の組み合わせがすでに使用中であるかどうかをチェックし、使用中の場合は一意の組み合わせになるまで CTI ポートのカウンタ番号に 1 を加えていきます。</p> <p>Data SoftPhone_</p> <p>Enabled true (n/a)</p>
ChangeUnityPasswordOnNextLogin	<p>有効な場合、Cisco Unity または Cisco Unity Connection のユーザは、Prime Collaboration Provisioning でパスワードがリセットされた後、パスワードの変更を強制されます。このルールでは [データ (Data)] フィールドは使用されず、システムによって無視されます。</p> <p>Data <blank></p> <p>Enabled false</p>
ChangeCCMPasswordOnNextLogin	<p>有効な場合、Cisco Unified CM ユーザは、Prime Collaboration Provisioning でパスワードがリセットされた後、パスワードの変更を強制されます。このルールでは [データ (Data)] フィールドは使用されず、システムによって無視されます。</p> <p>Data <blank></p> <p>Enabled false</p> <p>ChangeCCMPasswordOnNextLogin ルールは、Cisco Unified Communications Manager でユーザの追加中にデフォルトで有効になります。そのため、Prime Collaboration Provisioning でユーザのオーダーをプロビジョニングする場合は、そのユーザに対して ChangeCCMPasswordOnNextLogin ルールが有効になっていることを確認してください。</p>

ルール	説明
ChangeProvisioningPasswordOnNextLogin	<p>有効な場合、Prime Collaboration Provisioning のユーザは、Prime Collaboration Provisioning でパスワードがリセットされた後、パスワードの変更を強制されます。このルールでは[データ (Data)]フィールドは使用されず、システムによって無視されます。</p> <p>Data <blank> Enabled true</p>
CreateSelfCareAccounts	<p>有効な場合、新しいユーザが独自にオーダーを行うことができるように、新しいユーザのログイン アカウントが自動的に作成されます。このルールが無効になっている場合も、ログイン アカウントは作成されますが、そのアカウントで独自にオーダーを行うことはできません。</p> <p>Data <blank> Enabled true</p>
DefaultCallManagerPassword	<p>新しい Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unified Communications Manager Express のアカウントに対し、ユーザの電話または回線の初回オーダー時に作成されたデフォルトのパスワードを設定します。このパスワードは、Cisco SoftPhone でユーザが割り当てた回線にアクセスする際にも使用できます。最低文字数は 5 文字です。</p> <p>Data admin123 Enabled true (n/a)</p>
DefaultCallManagerPIN	<p>ユーザを Cisco Unified Communications Manager でアクティブ化する際に使用するデフォルトの暗証番号を設定します。Cisco Unified Communications Manager では、ユーザは回線または電話がそのユーザについてオーダーされたときに初めてアクティブ化されます。このルールは、初回に暗証番号を設定する際以外、Provisioning では使用されません。最低文字数は 5 文字です。</p> <p>Data 12345 Enabled true</p>

ルール	説明
DefaultCUPMPassword	<p>Self-Care アカウントのデフォルトのパスワードを指定します。デフォルトではユーザ パスワードは空で、管理者がユーザ ウィザードでユーザのパスワードを変更するまでユーザはログインできません。デフォルト パスワードを指定するには、[データ (Data)]フィールドでデフォルトパスワードを指定し、[有効 (Enabled)]を[はい (True)]に設定する必要があります。</p> <p>(注) 新しいパスワード値は、パスワード ポリシーに一致する必要があります。</p> <p>Data <blank></p> <p>Data true</p>
DefaultDeviceProfile	<p>エクステンション モビリティ対応の電話に使用します。デフォルト設定の[なし (None)] (または空欄のまま) では、このルールは使用されません。</p> <p>Data NONE</p> <p>Enabled true (n/a)</p>
DefaultUnitySubscriberPassword	<p>Cisco Unified Messaging システム (Cisco Unity、Cisco Unity Connection など) 上の新しいボイスメールアカウントにデフォルト パスワードを設定します。ワークフローでは [データ (Data)]の値が初期パスワードとして使用されます。Cisco Unity または Cisco Unity Connection では、この値を整数にする必要があります。Cisco Unity および Cisco Unity Connection では、12345 のような明白な値は拒否されます。このルールでは [有効 (Enabled)]フィールドは使用されず、システムによって無視されます。</p> <p>DefaultUnitySubscriberPassword ルールでは、[データ (Data)]フィールドに入力されたデフォルトパスワードの長さは検証されません。場合によっては、Cisco Unity および Cisco Unity Connection に異なるクレデンシャル ポリシーが設定されていることがあります。</p> <p>Provisioning の管理者は、デバイスに設定されているポリシーに応じて、これらのルールにデフォルト パスワードを入力する必要があります。これらのルールに入力されたデフォルトパスワードがデバイスで受け入れられない場合、デフォルト操作へのリセット クレデンシャルに失敗し、デバイスからエラー メッセージが返されます。</p> <p>Data 053421</p> <p>Enabled true (n/a)</p>

ルール	説明
DefaultCallManagerDigestCredentials	<p>ダイジェスト クレデンシャルのデフォルト パスワードを指定します。デフォルト パスワードを指定するには、[データ (Data)] フィールドにパスワードを入力し、[有効 (Enabled)] を [はい (True)] に設定する必要があります。</p> <p>(注) 新しいパスワード値は、パスワード ポリシーに一致する必要があります。</p> <p>Data <blank></p> <p>Enabled true</p>
DefaultUserType	<p>新しいユーザにデフォルトで割り当てるユーザ タイプを指定します。[データ (Data)] フィールドの値には、有効なユーザタイプの名前が含まれていなければなりません。</p> <p>(注) このルールは、組織の大部分を構成するユーザ 権限に設定する必要があります。これにより、ドメイン同期の際に大部分のユーザが正しく設定されます。</p> <p>Data Employee</p> <p>Enabled true (n/a)</p>
DefaultWebAccessPassword	<p>Cisco Unified Messaging システム (Cisco Unity、Cisco Unity Connection など) 上の新しいボイスメール アカウントに Web アクセス用のデフォルト パスワードを設定します。ワークフローでは[データ (Data)] の値が初期パスワードとして使用されます。このルールでは [有効 (Enabled)] フィールドは使用されず、システムによって無視されます。</p> <p>DefaultWebAccessPassword ルールでは、[データ (Data)] フィールドに入力されたデフォルト パスワードの長さは検証されません。場合によっては、Cisco Unity および Cisco Unity Connection に異なるクレデンシャル ポリシーが設定されていることがあります。</p> <p>Provisioning の管理者は、デバイスに設定されているポリシーに応じて、これらのルールにデフォルト パスワードを入力する必要があります。これらのルールに入力されたデフォルト パスワードがデバイスで受け入れられない場合、デフォルト操作へのリセット クレデンシャルに失敗し、デバイスからエラー メッセージが返されます。</p> <p>Data Admin123</p> <p>Enabled true (n/a)</p>

ルール	説明
DescriptionString	<p>新しい電話、新しいユーザ デバイス プロファイル (EM_Access) 、および新しいユーザに使用されるデフォルトの説明ストリングです。FIRSTNAME、LASTNAME、USERID、および EXTENSION というキーワードはそれぞれ、ユーザの名、姓、ユーザ ID および内線番号に置き換えられます (この情報はユーザの電話に追加される最初の行です) 。</p> <p>オーナー変更オーダーの場合、このルールからデフォルト値が自動的に適用されます。新しい電話オーナーの名前、姓、ユーザ ID、内線番号が使用されます。</p> <p>(注) 電話の説明を以前に設定したままにする場合、このルールを無効にします。</p> <p>Data FIRSTNAME LASTNAME USERID EXTENSION</p> <p>Enabled true (n/a)</p>
DNAutoReservation	<p>有効な場合、回線がキャンセルされると、回線に関連付けられた電話番号が自動的に元のオーナーのために予約されます。</p> <p>Data <blank></p> <p>Enabled false</p>
DNAutoReservationTimeout	<p>電話番号が [予約済み (Reserved)] 状態で保持される期間 (日:時間) を指定します。</p> <p>Data 7:0</p> <p>Enabled true</p>
DirectoryNumberBlockValidation	<p>有効な場合、電話番号が電話番号ブロックの範囲内ないと、オーダー回線はブロックされます。このルールでは [データ (Data)] フィールドは使用されず、システムによって無視されます。</p> <p>Data <blank></p> <p>Enabled false</p>

ルール	説明
ExternalNumberMasks	<p>有効な場合、オーダーのサービス エリアに関連付けられた [外線番号 (External Number)] マスクが、このサービス エリアに対してオーダーされた回線の回線表示の [外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)] 値として使用されます。 電話の変更をオーダーする場合、このルールの値は前回の電話サービスのオーダーから継承されます。ただし前回のオーダー時に値が設定されなかった場合は、[サービスエリア (Service Area)] の値が使用されます。</p> <p>(注) このルールには、Cisco Unified Communications Manager で外部電話マスクに使用するものと同じ値を使用できます。</p> <pre>Data <blank> Enabled true</pre>
IsAuthorizationRequiredForAddOrder	<p>有効な場合、プロビジョニングを実行するには、まず承認者が追加オーダーを承認する必要があります。無効な場合は、自動的に追加オーダーが承認されます。</p> <p>(注) このルールは、バッチ プロビジョニングまたは Provisioning NBI を使用してオーダーを行う場合には適用されません。</p> <pre>Data <blank> Enabled false</pre>
IsAuthorizationRequiredForOrder	<p>有効な場合、プロビジョニングを実行するには、まず承認者がオーダーを承認する必要があります。無効な場合は、自動的にオーダーが承認されます。</p> <p>(注) このルールは、バッチ プロビジョニングまたは Provisioning NBI を使用してオーダーを行う場合には適用されません。</p> <pre>Data <blank> Enabled false</pre>
IsAuthorizationRequiredForChangeOrder	<p>有効な場合、プロビジョニングを実行するには、まず承認者が変更オーダーを承認する必要があります。無効な場合は、自動的に変更オーダーが承認されます。</p> <p>(注) このルールは、バッチ プロビジョニングまたは Provisioning NBI を使用してオーダーを行う場合には適用されません。</p> <pre>Data <blank> Enabled false</pre>

ルール	説明
LineDisplayString	<p>電話回線の内部発信者 ID の表示形式の構成に使用されるテンプレート スtring です。無効な場合は、FIRSTNAME LASTNAME がデフォルトに設定されます。このルールは、サービス エリアで Cisco Unified Communications Manager Express がコールプロセッサとなっている場合は適用されません。</p> <p>[表示(内部発信者ID) (Display (Internal Caller ID))] プロビジョニング属性のデフォルト値は、このルールから適用されます。バッチプロビジョニングまたは Prime Collaboration Provisioning ユーザ インターフェイスを介して CUPM_BLANK または空の値を指定した場合、[表示(内部発信者ID) (Display (Internal Caller ID))] プロビジョニング属性の値はこのルールで設定されます。</p> <p>したがって、[表示(内部発信者ID) (Display (Internal Caller ID))] プロビジョニング属性に空の値を設定する場合は、このルールを有効にして、値が空であることを確認する必要があります。</p> <p>(注) コールプロセッサの場合は、[名 (First Name)] および [姓 (Last Name)] のフィールドに入力できる文字の合計数は 30 文字になります。この上限を超えた状態でオーダーを作成した場合、コールプロセッサからエラーが送信されます。</p> <p>Data FIRSTNAME LASTNAME</p> <p>Enabled true</p>
[部署名が一致 (Match Department)]	<p>有効な場合、コールプロセッサのユーザ アカウントは、指定された値リストの値と一致する部門コード値に基づいて、この Provisioning ドメインに関連付けられます。部門コード値のリストは、二重引用符 (") で囲み、セミコロン (;) で区切る必要があります。部門コード値には、ワイルドカード文字 (* または %) を含めることができます。</p> <p>たとえば、[データ (Data)] フィールドでは次のように指定します。</p> <p>"Dept 1";"";"Dept 2"</p> <p>コールプロセッサのユーザ アカウントのうち、Dept 1 または Dept 2 に属するもの、あるいは部門コードが設定されていないものが、ドメインに関連付けられます。</p>

ルール	説明
[デバイスプールが一致 (Match Device Pool)]	<p>有効な場合は、コール プロセッサのユーザ アカウントの電話がデータ フィールドで指定されたデバイス プール値を持っている場合に限り、そのユーザ アカウントがこの Provisioning ドメインに関連付けられます。デバイス プール値には、ワイルドカード文字 (* または %) を含めることができます。また、Cisco Unified Communications Manager の名前の値 (Prime Collaboration Provisioning ではコール プロセッサ名) を前に付ける必要があります。値は二重引用符 (") で囲み、セミコロン (;) デリミタで区切る必要があります。</p> <p>次に、例を示します。</p> <pre>"CUCM1:DevicePool1";"CUCM2:Device*2"</pre> <p>コール プロセッサ CUCM1 にデバイス プール DevicePool1 の電話またはリモート接続先プロファイルを持つユーザ、およびコール プロセッサ CUCM2 にデバイス プール DevicePool2 の電話またはリモート接続先プロファイルを持つユーザが、ドメインに関連付けられます。</p> <pre>Data <blank></pre> <pre>Enabled false</pre>
[ロケーションが一致 (Match Location)]	<p>有効な場合は、コール プロセッサのユーザ アカウントの電話がデータ フィールドで指定されたロケーション値を持っている場合に限り、そのユーザ アカウントがこの Provisioning ドメインに関連付けられます。ロケーション値には、ワイルドカード文字 (* または %) を含めることができます。また、Cisco Unified Communications Manager の名前の値 (Prime Collaboration Provisioning ではコール プロセッサ名) を前に付ける必要があります。値は二重引用符で囲み、セミコロン (;) デリミタで区切る必要があります。</p> <p>次に、例を示します。</p> <pre>"CUCM1:Location1";"CUCM2:Loc*2"</pre> <p>コール プロセッサ CUCM1 にロケーション Location1 の電話を持つユーザ、およびコール プロセッサ CUCM2 にロケーション Location2 の電話を持つユーザが、ドメインに関連付けられます。</p> <pre>Data <blank></pre> <pre>Enabled false</pre>

ルール	説明
MonitorPhoneReturnEnabled	<p>有効な場合、[データ (Data)]フィールドで指定したユーザグループに割り当てられた追加のワークフローアクティビティを実装することで、電話が返されたかどうかを追跡します。</p> <p>Data Shipping</p> <p>Enabled false</p>
NameDialingInfo	<p>このストリングは、自動アテンダント名ダイヤル ストリングの構成に使用されます。FIRSTNAME LASTNAME は置き換えられますが、EXTENSION は置き換えられません。</p> <p>(注) この機能を使用できるのは、Cisco Unified Communications Manager バージョン 3.3.3 だけです。</p> <p>Data FIRSTNAME LASTNAME</p> <p>Enabled true</p>
PhoneAssignmentDoneBy	<p>電話のオーダー ワークフローのうち、割り当ての手順の遂行を担当するユーザ グループを指定します。</p> <p>有効なオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [受領 (Receiving)] • [出荷 (Shipping)] • [割り当て (Assignment)] • [オーダーオーナー (OrderOwner)] (オーダーを開始したユーザ) • [なし (None)] (ワークフローにより自動的に電話と MAC アドレスを割り当てる) <p>Data None</p> <p>Enabled true (n/a)</p> <p>(注) このルールは、Prime Collaboration Provisioning Advanced でのみ使用できます。Prime Collaboration Provisioning Standard は、PhoneAssignmentDoneBy ルールをサポートしていません。</p>

ルール	説明
PhoneReceiptDoneBy	<p>電話のオーダー ワークフローのうち、受領の手順の遂行を担当するユーザまたはユーザ グループを指定します。受領手順は、ユーザが実際に電話を受領したことを示します。</p> <p>有効なオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">• [受領 (Receiving)]• [出荷 (Shipping)]• [割り当て (Assignment)]• [オーダーオーナー (OrderOwner)] (オーダーを開始したユーザ)• [なし (None)] (手順をスキップ) <p>Data None</p> <p>Enabled true (n/a)</p> <p>(注) このルールは、Prime Collaboration Provisioning Advanced でのみ使用できます。Prime Collaboration Provisioning Standard は、PhoneReceiptDoneBy ルールをサポートしていません。</p>
PhoneReservationTimeout	<p>電話がシステム内で予約済みのままとなる期間 (日数) を指定します。無効な場合、電話は無期限で予約済みとなります。</p> <p>Data 10</p> <p>Enabled true (n/a)</p>

ルール	説明
PhoneShippingDoneBy	<p>電話のオーダー ワークフローのうち、出荷の手順の遂行を担当するユーザを指定します。有効なオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [受領 (Receiving)] • [出荷 (Shipping)] • [割り当て (Assignment)] • [オーダーオーナー (OrderOwner)] (オーダーを開始したユーザ) • [なし (None)] (手順をスキップ) <p>Data None</p> <p>Enabled true (n/a)</p> <p>(注) このルールは、Prime Collaboration Provisioning Advanced でのみ使用できます。Prime Collaboration Provisioning Standard は、PhoneShippingDoneBy ルールをサポートしていません。</p>
PseudoUserID	<p>[関連付けられたユーザ (Associated Users)]機能を使用せずに [電話のエクスポート (Export Phones)]によって生成されたエクスポートされたデータ ファイルの [NewUserID] フィールドを構築するために使用されます。次のキーワードがサポートされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DIRECTORYNUMBER : 電話の 1 行目の [電話番号-ルートパーティション (Directory Number-Route Partition)] の値に置き換えられます。 • MACADDRESS : (Softphone の) MAC アドレスまたはデバイス名に置き換えられます。 • RANDOMNUMBER : 自動的に生成される 6 桁のランダムな番号に置き換えられます。 <p>このルールが無効な場合、[関連付けられたユーザ (Associated Users)]機能を使用せずに [電話のエクスポート (Export Phones)]を使用することはできません。</p> <p>Data pseudo-DIRECTORYNUMBER</p> <p>Enabled true (n/a)</p>

ルール	説明
PurgeUponUmRemoval	<p>有効な場合、ユーザの Cisco Unity アカウントが削除されると、ユーザの電子メールおよびボイスメールはシステムから消去されます。</p> <p>(注) このルールは、[データ (Data)] フィールドで [はい (True)] または [いいえ (False)] を指定することで、有効と無効を切り替えます。</p> <p>Data false</p> <p>Enabled true (n/a)</p>
DirectoryNumberBlockListing	<p>データは、[単一 (Single)] または [すべて (All)] にできます。[単一 (Single)] の場合、選択したサービスエリアに割り当てられた電話番号ブロックが表示されます。[すべて (All)] の場合、ドメイン内のすべてのサービスエリアに割り当てられた電話番号ブロックを表示します。</p> <p>Data <blank></p> <p>Enabled false</p>
[すべてのユーザを同期 (Sync All Users)] (コールプロセッサ)	<p>有効な場合は、ドメインの同期時に、ドメイン内のすべてのコールプロセッサの全ユーザアカウントが、同期されているドメインに割り当てられます。無効な場合は、ドメインと同じ部門のユーザだけがドメインに割り当てられます。</p> <p>Data <blank></p> <p>Enabled false</p>
[すべてのユーザを同期 (Sync All Users)] (Unity Connection)	<p>このルールが有効になっている場合は、特定のユニファイドメッセージプロセッサのすべてのユーザアカウントが Provisioning ドメインに割り当てられます。そうでない場合は、特定のユニファイドメッセージプロセッサのユーザアカウントのうち、コールプロセッサに一致するユーザアカウントがあるものだけが割り当てられます。</p> <p>Data <blank></p> <p>Enabled false</p>
[既存のユーザのみを同期 (Sync Only Existing Users)]	<p>有効な場合、ドメインの同期時に新しいユーザは作成されません。ドメイン内の既存のユーザのサービスだけが同期されます。</p> <p>Data <blank></p> <p>Enabled false</p>

ルール	説明
[Unity Connectionからプライマリユーザを同期 (Sync Primary User From Unity Connection)]	<p>有効な場合、ユーザの情報は関連付けられたユニファイドメッセージプロセッサのアカウントから更新されます。そうでない場合、これらの情報はコールプロセッサから更新されます。ルールが有効な場合は、ユニファイドメッセージプロセッサ ID も指定できます。ユーザが複数のユニファイドメッセージプロセッサにアカウントを持っている場合、この ID が優先されます。この値は空欄にしておくことも可能で、その場合は優先順位を設定しないことを意味します。</p> <p>Data <blank></p> <p>Enabled false</p>

ビジネス ルールの設定

ビジネスルールを変更する場合は、まずドメインを選択する必要があります。変更できるのは、ルールの値と、ルールを有効にするかどうかです。ルール名や説明は変更できません。

すべてのビジネス ルールには次のようなプロパティがあります。[データ (Data)] および [有効 (Enabled)] の各フィールドを修正できます。

プロパティ	説明
[ルール名 (Rule Name)]	ルールの名前。
[説明 (Description)]	ルールの詳細な説明。
[データ (Data)]	ルールに設定する値。
[有効 (Enabled)]	ルールを適用するかどうかを指定します。有効な値は[はい (true)] または [いいえ (false)] です。



(注) 各ビジネス ルールについての資料は注意深く読み、[データ (Data)] プロパティと [有効 (Enabled)] プロパティを適切に設定してください。



(注) Provisioning には、ビジネス ルールのデフォルトのリセット機能はありません。ビジネス ルールの変更した後でデフォルト設定に戻したくなった場合は、手動で設定を変更する必要があります。

次の手順は、AssignSoftPhoneName ルールを例に、ルールのプロパティを変更する方法を説明したものです。

手順

- ステップ 1 [管理 (Administration)] > [システムの設定 (System Configuration)] > [ルール (Rules)] を選択します。
- ステップ 2 [ルール設定 (Rule Configuration)] ページで、ルールを変更するドメインを選択します。
- ステップ 3 [ルールの設定 (Configure Rule)] からルールを選択します。
- ステップ 4 [編集 (Edit)] アイコンをクリックします。[データ (Data)] および [有効 (Enabled)] の各フィールドがアクティブになります。
- ステップ 5 必要な変更を行って、[保存 (Save)] をクリックします。AssignSoftPhoneName ルールに変更が加えられます。
ドメイン同期ルールを設定するには、[ドメイン同期ルールの設定 (Configure Domain Synchronization Rules)] を選択し、同期ルールを選択します。詳細については、[ドメイン同期に関するビジネス ルールの設定](#)、(88 ページ) を参照してください。

Provisioning を設定する場合は、ビジネス ルールの使用方法と Provisioning のコンポーネントの動作方法を計画することが重要です。少なくとも、次のルールについて考慮する必要があります。

- AssociateAllUsersInCallProcessor
- CreateSelfCareAccounts
- EmailSender
- IsAuthorizationRequiredForAddOrder
- IsAuthorizationRequiredForOrder
- IsAuthorizationRequiredForChangeOrder
- MailHost
- OrderProvisionedEmailTemplate
- OrderRejectedEmailTemplate
- PhoneAssignmentDoneBy
- PhoneReceiptDoneBy
- PhoneShippingDoneBy
- DirectoryNumberBlockValidation

- DirectoryNumberBlockListing

ビジネス ルールの設定の使用シナリオ

ユーザのアクセス、製品、およびオーダーの設定例について、次のリストで説明します。

表 23: ビジネス ルールの設定の使用シナリオ

使用シナリオ	ビジネス ルール
ユーザのアクセスの設定	<p>次のビジネス ルールを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザが回線を使用して、自動的にその番号を自分用に予約する場合 <ul style="list-style-type: none"> ◦ [DNAutoReservation] : 予約の切り替え ◦ [DNReservationTimeout] : 番号を予約する期間 • ユーザのセルフケア アカウントを設定する <ul style="list-style-type: none"> ◦ [CreateSelfCareAccounts] ◦ [DefaultCUPMPassword] • 新規ユーザのデフォルトのユーザ タイプを割り当てる <ul style="list-style-type: none"> ◦ [DefaultUserType] • 電話インベントリを管理するために特定のドメインのユーザを割り当てる <ul style="list-style-type: none"> ◦ [DomainPhoneManagement] ◦ [PhoneReservationTimeout] • ユーザ タイプを管理するためにユーザを割り当てる <ul style="list-style-type: none"> ◦ [DomainUserTypeConfiguration]

製品の設定	<ul style="list-style-type: none">• Cisco Unified Communications Manager で名前を CTI ポートに割り当てる<ul style="list-style-type: none">◦ [AssignSoftPhoneName] : デフォルト値についてはルールを参照• 電話番号を予約する<ul style="list-style-type: none">◦ [DNReservationTimeout]• 電話がキャンセルされた後に返されたかどうかを追跡する<ul style="list-style-type: none">◦ [MonitorPhoneReturnEnabled]
-------	--

サービスの設定	
---------	--

- Cisco Unity アカウントまたは Cisco Unified Communications Manager アカウントにデフォルトのパスワードを使用する
 - [DefaultCallManagerPassword]
 - [DefaultCallManagerPIN]
 - [DefaultUnitySubscriberPassword]
- オーダーが却下されるか、または完了したときに電子メールを送信する（電子メールを送信しないオプションもある）
 - （注） Provisioning で電子メール機能を使用するには、[EmailSender] と [MailHost] の両方を有効にする必要があります。
 - [EmailSender]
 - [MailHost]
 - [OrderProvisionedEmailTemplate]
 - [OrderRejectedEmailTemplate]
- 承認が必要なオーダーのタイプをチェックする
 - [IsAuthorizationRequiredForAddOrder]
 - [IsAuthorizationRequiredForOrder]
 - [IsAuthorizationRequiredForChangeOrder]
- 手動で入力された DN を、1 つのサービスエリアまたは同じドメイン内のすべてのサービス エリアの DN 範囲と照合して検証します。
 - DirectoryNumberBlockValidation
 - DirectoryNumberBlockListing
- 電話の割り当て、出荷、および受け取りを処理する
 - [PhoneAssignmentDoneBy]
 - [PhoneReceiptDoneBy]
 - [PhoneShippingDoneBy]

- ボイスメール/電子メールの一方または両方のアカウントがキャンセルされたときに、キャンセルされたボイスメール/電子メールの一方または両方のアカウントのメッセージを削除する
 - [PurgeUponUmRemoval]

バッチ プロビジョニング

ユーザを作成してサービスを自動的にプロビジョニングするには、バッチ プロビジョニングを使用します。バッチ プロビジョニングを使用すると、新しい事業所の展開やレガシー システムからの移行を簡単に行うことができます。

1 人のユーザの場合は、ユーザ サービスを個別にオーダーできます。しかし、大量のサービスをプロビジョニングするときは、これらを 1 つのバッチにまとめたほうが便利です。バッチ プロビジョニングを使用すると、複数のタイプのオーダーを含む単一のバッチを作成できます。

バッチ プロビジョニングを使用して、（LDAP 設定の有無にかかわらず）ドメインを追加、更新、キャンセルすることができます。また、バッチ プロビジョニングを使用してユーザ ロールを追加、更新、削除することもできます。

展開された Cisco Unified Communications アプリケーション上でのみ実行する BAT ファイルとは異なり、Provisioning のバッチは Provisioning で管理される 1 つまたは多数のアプリケーションで実行できます。

バッチは、Prime Collaboration Provisioning にアップロードした後ただちに実行するか、スケジュールを設定して別の日時に実行します。

また、種類が異なる複数のサービスを 1 つのバッチ操作で処理することもできます。たとえば、電話とボイスメールの追加と変更を 1 つのバッチにまとめることが可能です。

バッチ プロビジョニングを使用して、次のインフラストラクチャ オブジェクトを追加、変更、キャンセルすることができます。

- App user
- コールサーチスペース (Call Search Space)
- Cisco IOS Conference Bridge
- サービス クラス (Class of Service)
- 日時グループ (Date/Time Group)
- デバイス モビリティ グループ (Device Mobility Group)
- デバイス プール (Device Pool)
- 外部サービス (External Service)

- ゲートウェイ設定 (Gateway Settings)
- LDAP 認証 (LDAP Authentication)
- LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)
- ロケーション (Location)
- メディア リソース グループ (Media Resource Group)
- メディア リソース グループ リスト (Media Resource Group List)
- メッセージ待機の On/Off (Message Waiting On/Off)
- 電話ボタン テンプレート (Phone Button Template)
- 電話用 (NTPPhone NTP Reference)
- 物理ロケーション (Physical Location)
- ポート グループ (Port Group)
- プロキシの構成設定 (Proxy Configuration Setting)
- ルート パーティション (Route Partition)
- ルート パターン (Route Pattern)
- サービス パラメータ (Service Parameter)
- サービス プロファイル (Service Profile)
- SIP プロファイル (SIP Profile)
- SIP Trunk
- SIP トランク セキュリティ プロファイル (SIP Trunk Security Profile)
- SRST
- 加入者テンプレート (Subscriber Template)
- TFTP サーバ (TFTP Server)
- トランスレーション パターン (Translation Pattern)
- トランク (Trunk)
- UC サービス- CTI (UC Service - CTI)
- UC サービス- IM and Presence (UC Service - IM and Presence)
- UC サービス- ボイスメール (UC Service - Voicemail)
- Unified CM グループ (Unified CM Group)
- ユニバーサル デバイス テンプレート (Universal Device Template)
- ユニバーサル回線テンプレート (Universal Line Template)
- ユーザ プロファイルのプロビジョニング (User Profile Provision)

- ボイス リージョン (Voice Region)
- ボイスメールパイロット (Voicemail Pilot)
- ボイスメール プロファイル (Voicemail Profile)
- ダイレクト コール パーク (Directed Call Park)
- 機能管理ポリシー (Feature Control Policy)



(注) [ダイレクト コール パーク (Directed Call Park)] および [機能管理ポリシー (Feature Control Policy)] インフラストラクチャオブジェクトは、バッチを使用して追加のみできます。バッチを使用して変更またはキャンセルはできません。これらのインフラストラクチャオブジェクトは設定テンプレート ([インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)] および [インフラストラクチャテンプレート (Infrastructure Templates)] ユーザインターフェイス) ではサポートされません。

バッチ操作ファイルの作成

バッチ プロビジョニングを実行するには、次の操作を実行する必要があります。

- 1 ユーザとプロビジョニングするサービスを記述したスプレッドシートを作成し (通常は電話と回線を含める)、そのスプレッドシートをタブ区切りのテキストファイル (バッチ操作ファイル) に変換します。



(注) Excel を使用してバッチファイル (.txt) を編集し、更新されたスプレッドシートをタブ区切りのテキストファイルとして保存する場合は、特殊文字 (特にカンマ) が含まれる値に二重引用符が追加されることがあります。これは、スプレッドシートをタブ区切りのテキストファイルに変換するときに、Excel によって特殊文字に二重引用符が追加されるためです。これらの引用符は、バッチプロジェクトを実行する際にエラーの原因となる可能性があります。これを避けるには、バッチプロジェクトを実行する前にタブ区切りのテキストファイルから二重引用符を削除する必要があります。

- 2 バッチ操作ファイルを Provisioning のバッチ プロジェクトにアップロードします。
- 3 バッチプロジェクトを実行するか、後で実行するためにスケジュールします。Provisioning では、ファイルに記述されたデータに基づいて、ユーザの作成と、回線および電話のプロビジョニングが行われます。

スケジュールしたプロジェクトのリスト、および実行中のプロジェクトの詳細を表示することもできます。

オーダーのプロビジョニング中は、ステータスが [完了 (Completed)] と表示されます。[完了 (Completed)] リンクをクリックして、目的のデバイスに関連する更新を表示します。

バッチ操作ファイルには、カラム ヘッダーを 1 行含める必要があります。データ カラムは任意の順序でかまいませんが、タブ区切りのテキストファイルに保存する必要があります。データの編集には、最終的にここで示すガイドラインに準拠したファイルが作成されるなら、どのようなテキストエディタを使用してもかまいません。たとえば、Microsoft Excel でバッチ ファイルを作成し、それをタブ区切りのファイルとしてエクスポートできます。

バッチ操作ファイルのフィールド

バッチ操作ファイルに必要なカラム

次の表に、すべてのバッチ操作ファイルに必要なカラムを示します。

表 24: バッチ操作ファイルに必要なカラム

カラム	説明
[オーダータイプ (Order Type)]	<p>オーダータイプ。有効なオプションは次のとおりです（大文字と小文字が区別されます）。</p> <ul style="list-style-type: none"> • add • cancel • change: ボイスメール、電子メール、またはユニファイドメッセージングには使用できません。 • addUser: 複数のユーザを一度に追加します。1 人のユーザとそのユーザ用の製品を追加する場合は、Add オーダータイプを使用します。一度に複数のユーザを追加する場合は、addUser オーダータイプを使用します。 • changeUser: 複数のユーザの情報を一度に変更します。 • deleteUser: 複数のユーザを一度に削除します。 • addServiceArea: 複数のサービス エリアを一度に追加します。 • changeServiceArea: 複数のサービス エリアを一度に変更します。 • deleteServiceArea: 複数のサービス エリアを一度に削除します。 • addServiceTemplate: 複数のサービス テンプレートを一度に追加します。 • changeServiceTemplate: 複数のサービス テンプレートを一度に変更します。 • addDomain: 複数のドメインを一度に追加します。 • changeDomain: 複数のドメインを一度に変更します。 • deleteDomain: 複数のドメインを一度に削除します。

カラム	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • 以下は、同報リストのバッチ プロビジョニングに固有です。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ Add-New-Members : 同報リストに新しいメンバーを追加します。 ◦ Remove-Members : 同報リストからメンバーを削除します。 • addDevice : 複数のデバイスを一度に追加します。 • updateDevice : 複数のデバイスを一度に変更します。 • deleteDevice : 複数のデバイスを一度に削除します。 • 以下は、アナログ電話のバッチ プロビジョニングに固有です。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ add : アナログ電話またはアナログ電話と回線を追加します。 アナログ音声ゲートウェイ コンフィギュレータがロードされ、音声ポート IOS テンプレートとダイヤル ピア IOS テンプレートがプロビジョニングされるアナログ電話を追加します。 ◦ change : アナログ電話を変更または交換します。 ◦ cancel : アナログ電話をキャンセルします。 Unified Communications Manager 内で電話がキャンセルされ、デバイスから音声ポートとダイヤル ピアが削除されます。
[ユーザ ID (User ID)]	<p>オーダーをどのユーザ ID に対してプロビジョニングするのかを指定します。</p> <p>addServiceArea、changeServiceArea、および deleteServiceArea の場合は、このフィールドを空のままにできます。</p> <p>すべてのインフラストラクチャ製品で、ユーザ ID は <i>icadmin</i> です。</p>

カラム	説明
[製品名 (Product Name)]	<p>製品名。 入力値はオーダー タイプによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Add orders : オーダー可能な製品 (バンドルを含む) でなければなりません。サブタイプは指定できません (たとえば、「Cisco 7960」ではなく「Endpoint」を使用する必要があります)。 アナログ電話をオーダーする場合は、ipt.properties ファイル内の <code>dfc.ipt.cisco.callmanager.analog_phone_support</code> を Y に更新します。 • Cancel : ユーザのレコードに含まれるオプションの製品名を指定できます。これにはバンドルは含まれません。 従属オブジェクトは、その親が削除されると自動的に削除されます。 • Change : オーダー可能な製品にする必要があります。 • addUser および deleteUser : 空白のままにします (何かを入力しても無視されます)。 • addServiceArea、changeServiceArea、deleteServiceArea、addServiceTemplate、changeServiceTemplate : 空白のままにします。
[サービスエリア (Service Area)]	<p>オーダーの対象となるサービス エリアの名前。</p> <p>addUser および deleteUser の場合は空白のままにします (何かを入力しても無視されます)。</p> <p>すべてのインフラストラクチャ製品について、プロセッサ名が指定されている場合、サービスエリアは不要です。 プロセッサ名が指定されていない場合は、[サービスエリア (Service Area)] と [ドメイン (Domain)] の名前が必要です。</p>
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	<p>次の条件に該当する場合は、必ず入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 製品名が電話 (または電話を含むバンドル) またはエクステンション モビリティ アクセス (またはエクステンション モビリティ アクセスを含むバンドル) である。 • 電話タイプが仮想電話 ([CTI ポート (CTI Port)] など) でない。 • Cisco Unified Communications Manager に関連付けられたサービス エリアでオーダーされた。
[ドメイン (Domain)]	<p>ユーザまたはサービスに関連付けられたドメインの名前。</p>
[エンドポイントタイプ (Endpoint Type)]	<p>エンドポイントのタイプ。 電話機としてエンドポイントタイプを選択した場合は、サポートされる電話機のモデル (たとえば Cisco 7960) を選択します。</p>

カラム	説明
[MAC アドレス (MAC Address)]	エンドポイントの MAC アドレス。 moveService : Cisco IP Communicator、コール プロセッサ バージョン 5 未満では、MAC アドレスを使用します。 バージョン 5 以上では、デバイス名を使用します。

ユーザの新規作成に関連するバッチ操作ファイルのカラム

次の表に、ユーザを新規作成するときに使用される追加のカラムを示します（[バッチ操作ファイルのフィールド](#)、[\(157 ページ\)](#) は、すべてのバッチ操作ファイルに必須のカラムです）。

表 25 : ユーザの新規作成に関連するバッチ操作ファイルのカラム

カラム	説明
[名 (First Name)]	(オプション) ユーザの名。
[姓 (Last Name)]	ユーザの姓。
[ドメイン (Domain)]	新規ユーザを配置するドメイン。
[電話番号 (Phone Number)]	(オプション) 新規ユーザの電話番号。
[電子メール (Email)]	(オプション) 新規ユーザの電子メール アドレス。
[部署名 (Department)]	(オプション) 新規ユーザの部署名。
[ユーザ権限 (User Roles)]	(オプション) 新しいユーザのユーザ権限。 1 名のユーザに対して複数のユーザ権限を追加できます (ユーザ権限はセミコロンで区切ります)。 (注) ドメインでサポートされていないユーザ権限は無視されます。有効なユーザ権限がユーザに割り当てられていない場合、そのユーザは作成されず、バッチ オーダーは失敗します。
[PMPassword]	(オプション) Provisioning のユーザ パスワード。

ユーザの削除に関連するバッチ操作ファイルのカラム

次の表に、ユーザを削除するときに使用される追加のカラムを示します（[バッチ操作ファイルのフィールド](#)、[\(157 ページ\)](#) は、すべてのバッチ操作ファイルに必須のカラムです）。

表 26: ユーザの削除に関連するバッチ操作ファイルのカラム

カラム	説明
[ドメイン (Domain)]	(オプション) ユーザが存在するドメイン。
[OnlyFromCUPM]	<p>(オプション) このカラムが有効な場合 (Y に設定されている場合)、ユーザのユーザレコード上のサービスはすべてグローバルリソース名前空間に移動し、実際のデバイス上のユーザまたはそのサービスは削除されません。このカラムが無効な場合、ユーザは Provisioning とデバイスの両方から削除されます。</p> <p>ヒント: [OnlyFromCUPM] を有効にしてあるユーザを削除した場合、そのユーザは削除後にドメインを同期したときに再び作成され (ユーザがドメイン同期ルールに適合する場合)、対応するサービスがユーザのユーザレコードに追加されます。別の方法として、適切なドメインに手動でユーザを作成した後、ドメインの同期を実行して対応するサービスを取得することもできます。これにより、ドメイン間でユーザを移動したり、サービスエリア間でユーザ サービスを移動したりすることが可能となります。</p>

デバイスの追加、変更、または削除のためのバッチ操作ファイルのカラム

次の表は、デバイスの追加、更新、削除で使用する特別なカラムを示しています。



- (注) デバイスを削除するバッチプロジェクトを実行する前に、Prime Collaboration Provisioning がメンテナンスモードであることを確認してください ([メンテナンスモード](#), (321 ページ) を参照)。

表 27: デバイスの追加、変更、または削除のためのバッチ操作ファイルのカラム

カラム	説明
[DeviceType]	デバイスのタイプ。
[IPAddress]	デバイスの IP アドレス。
[DeviceName]	デバイスの名前。
[NewDevicename]	デバイスの名前を変更し、新しい名前を指定します。
[Capability <number>]	機能に割り当てられる番号。
[Capability <number>] が Unified Communications Manager の場合、次のヘッダーが有効です。	

カラム	説明
• Capability<number> Version	Unified Communications Manager デバイスのバージョン。
• Capability<number> IPAddress	Unified Communications Manager デバイスの IP アドレス。
• Capability<number> Action	Unified Communications Manager デバイスにアクセスするアクション。
• Capability<number> UserName	Unified Communications Manager デバイスにアクセスするためのユーザ名。
• Capability<number> Password	Unified Communications Manager デバイスにアクセスするためのパスワード。
• Capability<number> ConfirmPassword	Unified Communications Manager デバイスにアクセスするためのパスワードの確認。
• Capability<number> Protocol	Unified Communications Manager デバイスのプロトコル。
• Capability<number> LDAPDirectoryIntegration	LDAP 統合が必要かどうかを指定します。
• Capability<number> EMServiceName	エクステンション モビリティ サービスの名前。
• Capability<number> EMServiceURL	エクステンション モビリティ サービスの URL。
[Capability<number>] が Unity Connection の場合、次のヘッダーが有効です。	
• Capability<number> Version	Unity Connection デバイスのバージョン。
• Capability<number> IPAddress	Unity Connection デバイスの IP アドレス。
• Capability<number> Action	Unity Connection デバイスに関連付けられたアクション。
• Capability<number> UserName	Unity Connection デバイスにログインするユーザ名。

カラム	説明
• Capability<number> Password	Unity Connection デバイスにアクセスするためのパスワード。
• Capability<number> ConfirmPassword	Unity Connection デバイスにアクセスするためのパスワードの確認。
[Capability<number>] が Unity Express の場合、次のヘッダーが有効です。	
• Capability<number> Version	Unity Express デバイスのバージョン。
• Capability<number> CUELineUserName	Unity Express デバイスにログインするユーザ名。
• Capability<number> CUE Line Password	ユーザ名に関連付けられた回線パスワード。
• Capability<number> ConfirmCUELinePassword	Unity Express デバイスにアクセスするためのパスワードの確認。
• Capability<number> Service EngineInterfaceNumber	サービス エンジンのインターフェイス番号。
Unity カラムが定義されている場合は、次のカラムが適用されます。	
• [IPアドレス (IP Address)]	Unity デバイスの IP アドレス。
• [バージョン (Version)]	Unity デバイスのバージョン。
• [ユーザ名 (Username)]	Unity デバイスにアクセスするためのユーザ名。
• [パスワード (Password)]	ユーザ名に関連付けられたパスワード。
• [Capability<number> createbyImport]	詳細をインポートすることによってデバイスを作成します。

カラム	説明
• [Capability<number> UMPPORT]	Unity のポート。
Unified Presence カラムが定義されている場合は、次のカラムが適用されます。	
• [Capability<number> Version]	Unified Presence デバイスのバージョン。
• [Capability<number> IPAddress]	Unified Presence デバイスの IP アドレス。
• [Capability<number> Action]	Unified Presence デバイスに関連付けられたアクション。
• [Capability<number> UserName]	Unified Presence デバイスにアクセスするためのユーザ名。
• [Capability<number> Password]	ユーザ名に関連付けられたパスワード。
• [Capability<number> ConfirmPassword]	パスワードの確認。
• [Capability<number> Protocol]	Unified Presence デバイスのプロトコル。
Call Manager Express カラムが定義されている場合は、次のカラムが適用されます。	
• [Capability<number> Version]	Call Manager Express デバイスのバージョン。
IOS カラムを持つルータが定義されている場合は、次のカラムが適用されます。	
• [DeviceProtocol]	Cisco IOS ルータ デバイスのプロトコル。
• [DeviceUserName]	Cisco IOS ルータ デバイスに関連付けられたユーザ名。
• [DevicePassword]	ユーザ名に関連付けられたパスワード。
• [DeviceConfirmPassword]	パスワードの確認。
• [DeviceEnablePassword]	Cisco IOS ルータ デバイスのパスワードを有効にします。

カラム	説明
• [ConfirmDeviceEnablePassword]	デバイスを有効にするパスワードの確認。



(注) バッチ プロビジョニングを使用して LDAP サーバを追加することもできます。

複数サービス エリアの追加と変更に関連するバッチ操作ファイルのカラム

次の表に、ユーザを削除するときに使用される追加のカラムを示します（[バッチ操作ファイルのフィールド](#)、[\(157 ページ\)](#) は、すべてのバッチ操作ファイルに必須のカラムです）。

表 28：複数サービス エリアの追加と変更に関連するバッチ操作ファイルのカラム

カラム	説明
[ドメイン (Domain)]	サービス エリアが属するドメインの名前。
[ユーザ権限 (User Roles)]	addServiceArea の場合にだけ使用されます。空白のままにできます。使用する場合は、ユーザ権限をセミコロンで区切って指定します。
[コールプロセッサ名 (Call Processor Name)]	指定されたサービス エリア内のコール プロセッサの名前。
次のカラムが適用されるのは、[コールプロセッサ名 (Call Processor Name)] カラムが定義されている場合だけです。	
• [エンドポイントプロトコル (Endpoint Protocol)]	値は SCCP または SIP です。値が何も指定されない場合のデフォルトは SCCP です。
• [エンドポイントコールサーチスペース (Endpoint Call Search Space)]	エンドポイントのコーリング サーチ スペース。
• [回線コールサーチスペース (Line Call Search Space)]	回線のコーリング サーチ スペース。

カラム	説明
<ul style="list-style-type: none"> • [共通デバイス設定 (Common Device Config)] 	エンドポイントの共通デバイス設定。
<ul style="list-style-type: none"> • [ロケーション (Location)] 	エンドポイントのロケーション。
<ul style="list-style-type: none"> • [ルートパーティション (Route Partition)] 	回線のルート パーティション。
<ul style="list-style-type: none"> • [デバイスプール (Device Pool)] 	エンドポイントのデバイス プール。
[ユニファイドメッセージプロセッサ名 (Unified Message Processor Name)]	指定されたサービス エリア内のユニファイドメッセージプロセッサの名前。
次のカラムが適用されるのは、[ユニファイドメッセージプロセッサ名 (Unified Message Processor Name)] カラムが定義されている場合だけです。	
<ul style="list-style-type: none"> • [TTSのない加入者テンプレート (Subscriber Template Without TTS)] [加入者テンプレート (Subscriber Template)] 	<p>指定されたユニファイドメッセージプロセッサ内で定義されている、TTS が有効になっていない TTS 無効加入者テンプレートの 1 つ。</p> <p>指定されたユニファイドメッセージプロセッサ内で定義されている、TTS 有効または無効加入者テンプレートの 1 つ。</p>
<ul style="list-style-type: none"> • [TTSのある加入者COS (Subscriber COS With TTS)] 	指定されたユニファイドメッセージプロセッサ内で定義されている TTS 有効加入者 COS の 1 つ。
<ul style="list-style-type: none"> • [TTSのない加入者COS (Subscriber COS Without TTS)] 	指定されたユニファイドメッセージプロセッサ内で定義されている TTS 無効加入者 COS の 1 つ。

カラム	説明
[電話番号ブロック (Directory Number Blocks)]	<p>サービス エリアへの電話番号ブロックの追加は、サービス エリア バッチ プロビジョニングの拡張機能です。</p> <p>データ形式は、<Prefix>:<First Number>:<Last Number>:<Minimum Length>;<Prefix>:<First Number>:<Last Number>:<Minimum Length> です。</p> <p>デリミタ「;」は、複数の電話番号ブロックの設定で使用します。</p> <p>ユーザは、changeServiceArea 操作中に CUPM_BLANK キーワードを使用して既存のすべての電話番号ブロックを削除できます。</p> <p>changeServiceArea 操作では、CUPM_SKIP キーワードを使用して以前の値を維持することが可能です。</p>

アナログ電話またはアナログ電話サービスを追加するためのバッチ操作ファイルのカラム

表 29: アナログ電話またはアナログ電話サービスを追加するためのバッチ操作ファイルのカラム

カラム	説明
[アナログ音声ゲートウェイ 参照 (Analog Voice Gateway Reference)]	選択したアナログ電話に関連付けられた[アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference)] フィールド。
[Voiceport]	[アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference)] に関連付けられた Voiceport。
[電話番号 (Directory Number)]	アナログ電話に関連付けられた電話番号。



(注) VG310、VG320、VG350 アナログ音声ゲートウェイ モデル用のアナログ電話をオーダーするには、バッチ ファイルに [スロット (Slot)] カラムと [サブユニット (Subunit)] カラムを含める必要があります。

アナログ電話を交換するためのパッチ操作ファイルのカラム

表 30: アナログ電話を交換するためのパッチ操作ファイルのカラム

カラム	説明
[アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference)]	既存の [アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference)] と置き換える新しい [アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference)] フィールド。
[VoicePort]	既存の [Voiceport] と置き換える新しい [Voiceport] フィールド。



- (注) VG310、VG320、VG350 アナログ音声ゲートウェイ モデル用のアナログ電話を置き換えるには、パッチ ファイルに [スロット (Slot)] カラムと [サブユニット (Subunit)] カラムを含める必要があります。

アナログ電話を変更するためのパッチ操作ファイルのカラム

表 31: アナログ電話を変更するためのパッチ操作ファイルのカラム

カラム	説明
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	帯域幅不足が原因でコールがブロックされた場合に、収集された (発信側) 番号の他のルーティング方法を決定するために検索される、ルート パーティションのコレクションを指定します。



- (注) VG310、VG320、VG350 アナログ音声ゲートウェイ モデル用のアナログ電話を変更するには、パッチ ファイルに [アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference)]、[スロット (Slot)]、[サブユニット (Subunit)] カラムを含める必要があります。

システム コール ハンドラのパッチ操作ファイルのカラム

次の表は、パッチ プロビジョニングを介してシステム コール ハンドラを追加する際に使用される特別なカラムを示しています (表 24: パッチ操作ファイルに必要なカラム, (157 ページ) には、すべてのパッチ操作ファイルの必須カラムが示されています)。

表 32: システム コール ハンドラの追加に関連するバッチ操作ファイルのカラム

縦棒グラフ	説明
[プロセッサ名 (Processor Name)]	Unity Connection サーバの名前
[表示名 (Display Name)]	コールハンドラの識別に役立つ名前を入力します。
[コールハンドラテンプレート (Call Handler Template)]	新しいコール ハンドラの基礎となるコール ハンドラ テンプレートを指定します。
[検索範囲 (Search Scope)]	発信者がコール ハンドラからダイヤルした内線番号と特定の検索範囲内のオブジェクトをマッチさせるために適用する、検索範囲を指定します。
[言語 (Language)]	Unity Connection が発信者に対して再生するハンドラのシステム プロンプトの言語を指定します。

次の表は、バッチ プロビジョニングを介してシステム コール ハンドラの属性を更新する際に使用される特別なカラムを示しています (表 24: バッチ操作ファイルに必要なカラム, (157 ページ) には、すべてのバッチ操作ファイルの必須カラムが示されています)。

表 33: システム コール ハンドラの属性の更新に関連するバッチ操作ファイルのカラム

縦棒グラフ	説明
[プロセッサ名 (Processor Name)]	Unity Connection サーバの名前
[表示名 (Display Name)]	コールハンドラの識別に役立つ名前を入力します。
[電話システム (Phone System)]	コール ハンドラに使用する電話システムを指定します。
[アクティブなスケジュール (Active Schedule)]	リストからスケジュールを選択して、標準および時間外のグリーティングを再生する日時と、グリーティング後に Unity Connection が実行するアクションを指定します。
[タイムゾーン (Time Zone)]	コール ハンドラに必要なタイム ゾーンを指定します。
[言語 (Language)]	Unity Connection が発信者に対して再生するハンドラのシステム プロンプトの言語を指定します。
[内線 (Extension)]	電話システムでコール ハンドラへの接続に使用される内線番号を入力します。
[パーティション (Partition)]	オブジェクトが属するパーティションを指定します。

縦棒グラフ	説明
[検索範囲 (Search Scope)]	発信者がコール ハンドラからダイヤルした内線番号と特定の検索範囲内のオブジェクトをマッチさせるために適用する、検索範囲を指定します。

次の表は、バッチ プロビジョニングを介してシステム コール ハンドラをキャンセルする際に使用される特別なカラムを示しています（表 24：バッチ操作ファイルに必要なカラム，（157 ページ）には、すべてのバッチ操作ファイルの必須カラムが示されています）。

表 34：システム コール ハンドラのキャンセルに関連するバッチ操作ファイルのカラム

縦棒グラフ	説明
[プロセッサ名 (Processor Name)]	Unity Connection サーバの名前
[表示名 (Display Name)]	コール ハンドラの表示名を入力します。

バッチ プロビジョニングを介してグリーティングと発信者入力 of の属性を変更できます。グリーティングと発信者入力 of の属性を変更するバッチ ファイルを作成する場合は、次の点に注意してください。

- 次の属性はバッチ ファイル内に 3 つのヘッダー（カラム）を持っています。1 番目のカラムはコール管理要素（コール ハンドラ、インタビュー ハンドラ、ディレクトリ ハンドラなど）、2 番目のカラムはコールの送信先、3 番目のカラムはハンドラカンバセーションの値（転送を試みる (Attempt Transfer)] または [グリーティングへ直接移行する (Go Directly to Greetings)]）を表します。
 - [グリーティング後 (After Greeting)]
 - [操作 (Action)]
- [グリーティング (Greeting)] ステータス属性に対して [有効期限 (Enabled Until)] オプションを選択した場合は、mm-dd-yyyy hh:mm AM（または PM）の形式で [時間超過 (Time Expires)] 属性の値を入力する必要があります。

ディレクトリ ハンドラのバッチ操作ファイルのカラム

次の表は、バッチ プロビジョニングを介してディレクトリ ハンドラを追加および更新する際に使用される特別なカラムを示しています（表 24：バッチ操作ファイルに必要なカラム，（157 ページ）には、すべてのバッチ操作ファイルの必須カラムが示されています）。

表 35: ディレクトリ ハンドラの属性の追加および更新に関連するバッチ操作ファイルのカラム

縦棒グラフ	説明
[プロセッサ名 (Processor Name)]	Unity Connection サーバの名前
[表示名 (Display Name)]	ディレクトリ ハンドラの識別に役立つ名前を入力します。
[言語 (Language)]	Unity Connection が発信者に対して再生するハンドラのシステム プロンプトの言語を指定します。
[内線 (Extension)]	電話システムでディレクトリ ハンドラへの接続に使用される内線番号を入力します。
[パーティション (Partition)]	オブジェクトが属するパーティションを指定します。
[音声を有効にする (Voice Enabled)]	音声認識オプション付き Unity Connection システムの場合、音声ディレクトリ ハンドラを作成するには、このオプションを有効にします。
[音声認識のしきい値 (Speech Confidence Threshold)]	Unity Connection がユーザの発話をボイス コマンドや受信者名として認識する程度を調整するには、この設定を使用します。
[すべての名前を再生する (Play All Names)]	名前を入力して検索するように発信者に求めるのではなく、発信者が選択できるようディレクトリ内のユーザの名前を再生する場合は、この設定を使用します。
[検索範囲 (Search Scope)]	ディレクトリ ハンドラの検索範囲を指定します。
[サービス クラス (Class of Service)]	ディレクトリ ハンドラの検索対象を、ローカル Unity Connection サーバ上の特定のサービス クラスに割り当てられているユーザに限定します。
[システム同報リスト (System Distribution List)]	ディレクトリ ハンドラの検索対象を、特定のシステム同報リストのメンバーに限定します。
[サーチスペース (Search Space)]	ディレクトリ ハンドラの検索対象を、特定のサーチスペースのメンバーであるパーティションに関連付けられているユーザと連絡先に限定します。
[検索条件の順序 (Search Criteria Order)]	発信者がユーザ名の入力に使用する方法を指定します。

縦棒グラフ	説明
[検索結果の動作 (Search Results Behavior)]	<p>検索結果の動作を指定するには、この設定を使用します。</p> <p>[音声を有効にする (Voice Enabled)] オプションを true に設定した場合は、次の属性の値を指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [一意に一致した場合に自動的にルーティングする (Route Automatically on a Unique Match)] • [各名前とともに内線番号をアナウンスする (Announce Extension with Each Name)] • [各名前とともに市区町村をアナウンスする (Announce City with Each Name)] • [各名前とともに部署名をアナウンスする (Announce Department with Each Name)] <p>[音声を有効にする (Voice Enabled)] オプションを false に設定した場合は、[検索結果の動作 (Search Results Behavior)] カラムで次の属性に値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [一意に一致した場合に自動的にルーティングする (Route Automatically on a Unique Match)] • [発信者入力を常に要求する (Always Request Caller Input)] <p>[一致した名前を内線番号形式でアナウンスする (Announce Matched Names Using Menu Format)] 属性または [一致した名前をメニュー形式でアナウンスする (Announce Matched Names Using Menu Format)] 属性の値を指定する場合は、[一致した名前をアナウンス (Announce Matched Names Using)] カラムを使用します。</p>
[一意に一致した場合に自動的にルーティングする (Route Automatically on a Unique Match)]	このオプションを選択すると、Unity Connection は、ユーザに割り当てられている内線番号にコールをルーティングします。発信者に一致について確認を求めることはありません。
[各名前とともに内線番号をアナウンスする (Announce Extension with Each Name)]	このオプションを有効にすると、Unity Connection でユーザの内線番号を含むユーザのメニューが表示されます。

縦棒グラフ	説明
[各名前とともに市区町村をアナウンスする (Announce City with Each Name)]	複数が一致した場合に、Unity Connection が一致した各ユーザの市区町村をアナウンスするように設定するには、このオプションを有効にします。
[各名前とともに部署名をアナウンスする (Announce Department with Each Name)]	複数が一致した場合に、Unity Connection が一致した各ユーザの部署名をアナウンスするように設定するには、このオプションを有効にします。
[発信者入力を常に要求する (Always Request Caller Input)]	このオプションを選択すると、Unity Connection は、発信者を指定されたユーザの内線番号にルーティングする前に、発信者に一致について確認を求めます。
[一致した名前をアナウンス (Announce Matched Names Using)]	<p>[一致した名前を内線番号形式でアナウンスする (Announce Matched Names Using Extension Format)] オプションが有効な場合、Unity Connection は、一致したユーザの名前と内線番号を発信者にアナウンスします。</p> <p>[一致した名前をメニュー形式でアナウンスする (Announce Matched Names Using Menu Format)] オプションが有効な場合、Unity Connection は発信者にユーザのメニューを示します。このオプションが有効な場合、次の属性の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [各名前とともに内線番号をアナウンスする (Announce Extension with Each Name)]
[最大一致数 (Maximum Number of Matches)]	発信者のキー入力に複数のユーザが一致した場合に、発信者に対して表示する一致名の最大数を示します。

次の表は、バッチプロビジョニングを介してディレクトリハンドラをキャンセルする際に使用される特別なカラムを示しています (表 24 : バッチ操作ファイルに必要なカラム, (157 ページ) には、すべてのバッチ操作ファイルの必須カラムが示されています)。

表 36 : ディレクトリ ハンドラのキャンセルに関連するバッチ操作ファイルのカラム

縦棒グラフ	説明
[プロセッサ名 (Processor Name)]	Unity Connection サーバの名前
[表示名 (Display Name)]	ディレクトリ ハンドラの表示名を入力します。

バッチプロジェクトを使用して発信者入力の変性を変更できます。発信者入力の変性を変更するバッチファイルを作成する場合は、次の点に注意してください。

次の変性はバッチファイル内に3つのヘッダー（カラム）を持っています。1 番目のカラムはコール管理要素（コールハンドラ、インタビューハンドラ、ディレクトリハンドラなど）、2 番目のカラムはコールの送信先、3 番目のカラムはハンドラカンバセーションの値（[転送を試みる（Attempt Transfer）] または [グリーティングへ直接移行する（Go Directly to Greetings）]）を表します。

- [発信者が終了する場合（If Caller Exits）]
- [入力がない場合（If No Input）]
- [選択されていない場合（If No Selection）]
- [発信者がゼロを押す場合（If Caller Presses Zero）]

異なるサービスに基づいてバッチ操作ファイルに必要な変性の詳細情報については、

『http://docwiki.cisco.com/wiki/Cisco_Prime_Collaboration_Provisioning_Batch_File_Attributes』を参照してください。

バッチ操作ファイルの作成に関するガイドライン

サンプルバッチファイルを Cisco.com からダウンロードしてください。サンプルのバッチファイルには、必要に応じて別のカラムを追加できます。

バッチ操作ファイルを作成する場合は、次のガイドラインに従います。

- バッチ操作の値を作成する際、複数の値を入力するには、コロンデリミタを使用する必要があります。たとえば、複数のルートパーティションを含む新しい CallingSearchSpace を作成する際は、RP1:RP2:RP3 を使用します。
- バッチ操作ファイルにコメントを追加するには、コメントの前に #（シャープ記号）を付けます。そのバッチに関するあらゆる情報を追加できます。バッチ操作ファイルのインポート時、これらのコメントは無視されます。
次に、例を示します。

- ### The Domain ID and Last Name are mandatory fields.
- # This is to deploy a new site.

- 複数のカラムを追加せずに複数の製品タイプをバッチ操作ファイルに含めるには、>>（二重大なり記号度）を挿入します。>> は、バッチ操作ファイルのヘッダー行の先頭に挿入する必要があります。

次に、例を示します。

```
>>OrderType UserID ProductName ServiceArea Domain ProcessorName Name
add icadmin Route SampleServiceArea Alberta cucm10.176 kpart-1
Partition

>>OrderType UserID ProductName ServiceArea DeviceType DeviceName
deleteDevice UserID MediaServer cucm10.177 10.0.0
#Device Pool

>>OrderType UserID ProductName ServiceArea Domain ProcessorName Name
cancel icadmin Device Pool SampleSA Alberta cucm10.176 DP_Alberta
```



(注) 二重大なり記号 (>>) を挿入する必要があります。二重大なり記号の代わりに一重の大なり記号 (>) を使用すると、バッチ操作ファイルはインポートされますが、オーダーに失敗します。

- 作成するユーザに Self-Care アカウントを与える場合は、該当するすべてのドメインについて CreateSelfCareAccounts ルールを有効にする必要があります。
- ProductName が電話（または電話を含むバンドル）で、なおかつ[電話のタイプ (Phone Type)] が仮想電話 ([CTI ポート (CTI Port)] など) でない場合は、MAC アドレスが必要です。
- 電話を変更するときは、新しい MAC アドレスが必要です。
- 製品をキャンセルするときは、オブジェクト名が必要です ([回線 (Line)] 製品と [エクステンションモビリティ回線 (Extension Mobility Line)] 製品を除く)。
- リモート接続先プロファイルおよび[エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access)] 製品をキャンセルする場合は、名前が必要です。
- ProductName が [電話 (Phone)] の場合は、MAC アドレスが必要です。
- ProductName が [ボイスメール (Voicemail)] の場合は、ボイスメール エイリアスが必要です。
- [回線 (Line)] 製品または [エクステンションモビリティ回線 (Extension Mobility Line)] 製品をキャンセルするときは、電話番号とルート パーティションが必要です。
- [VG202] 製品、[VG 204] 製品および [VG 224] 製品を削除すると、デバイスおよび Provisioning のすべての電話が削除されます。削除に関する警告メッセージが表示されます。メッセージの確認後にのみ、電話が削除されます。電話に関連付けられた顧客レコードを消去するには、ドメインの同期を実行する必要があります。
- ProductName が電話（または電話を含むバンドル）またはエクステンションモビリティアクセス（またはエクステンションモビリティアクセスを含むバンドル）で、[電話のタイプ (Phone Type)] が仮想電話 ([CTI ポート (CTI Port)]) でなく、なおかつ Cisco Unified Communications Manager だけに関連付けられたサービスエリアでオーダーされた場合は、[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] が必要です。

- Cisco Unity デバイス (Cisco Unity、Cisco Unity Connection、Cisco Unity Express) では、一部の製品とサービスはサポートされていません。指定されたサービス エリアのデバイスでサポートされていない製品がパッチ操作ファイルに設定されている場合、パッチプロビジョニングは失敗します。
- 手動オーダー入力プロセスでユーザが入力する必要がある製品属性は、パッチプロジェクトで同等のオーダーを正常に完了するためにも必要となります。次に例を示します。
 - [電話のタイプ (Phone Type)] : オーダーする製品が電話または電話を含むバンドルの場合は、電話のタイプ (Cisco 7960 や Cisco 7912 など) を指定します。
 - [回線タイプ (Line Type)] : オーダーする製品が回線または回線を含むバンドルの場合は、回線のタイプ ([自動割り当て回線 (Auto-Assigned Line)] や [選択した回線 (Chosen Line)] など) を指定します。
 - [電話番号 (Directory Number)] : ProductName が [回線 (Line)] で、タイプが [選択した回線 (Chosen Line)] の場合は必須です。また、そのオーダーだけでは依存関係が満たされない製品をオーダーする場合は (たとえば、単一の [回線 (Line)] をオーダーする場合など)、従属オブジェクトを指定するカラムが必要です。
 - [ルートパーティション (Route Partition)] : ProductName が [回線 (Line)] で [オーダータイプ (Order Type)] が [変更 (Change)] の場合は必須です。
- オーダーする製品に、そのオーダーだけでは満たされない依存関係がある場合は (たとえば、単一の [回線 (Line)] をオーダーする場合など)、従属オブジェクトを指定するカラムが必要です。次に例を示します。
 - [選択されている電話 (SelectedPhone)] : 回線を追加する電話の MAC アドレス。
 - [選択されている回線 (SelectedLine)] : SelectedLine 値は製品名に基づいて指定する必要があります。
 - [リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line)] にボイスメールを追加する場合は、次の形式で値を入力してください: {RDP プロファイル名} 電話番号。
 - [回線 (Line)] 製品にボイスメールを追加する場合は、次の形式で値を入力してください: {電話タイプ: MAC アドレス} 電話番号。
 - [EM 回線 (EM Line)] 製品にボイスメールを追加する場合は、次の形式で値を入力してください: {電話タイプ: プロファイル名} 電話番号。
 - エンドポイントのない [回線 (Line)] にボイスメールを追加する場合は、電話番号のみを入力します。



(注) [回線 (Line)] 製品にルート パーティションがある場合は、電話番号と共にルートパーティションを入力します (例: ボイスメールを [リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line)] に追加する場合は、次の形式で値を入力します: {RDP プロファイル名}電話番号/ルート パーティション)。

- [選択されているボイスメール (SelectedVoicemail)] : ユニファイド メッセージングを追加するボイスメールの電話番号。
- [選択されているEMアクセス (SelectedEM_Access)] : EM_Line を追加する EM_Access (デバイス プロファイル) の名前。

バンドルに基本製品のインスタンスが複数含まれている場合は、属性のカラム名の末尾に (1)、(2)、などを付ける必要があります (たとえば、[回線タイプ(1) (Line Type(1))] や [電話番号(1) (Directory Number(1))] など)。

- バンドル製品で、製品属性名が別の基本製品のものと同一である場合は、区別するために製品名を属性に付加します。

たとえば、コーリングサーチスペースという属性は、電話と回線の両方にあります。[電話サービス (Phone Service)] という製品に対しては、[電話コーリングサーチスペース (Phone Calling Search Space)] と [回線コーリングサーチスペース (Line Calling Search Space)] を指定できます。

- スピードダイヤル情報は次の方法で指定できます。

- 直接 : 1つのカラムで情報を指定する場合に使用します。カラムヘッダーは [スピードダイヤル情報 (Speed Dial Info)] です。必要な形式は index:number:label で、これをセミコロンで区切ってスピードダイヤルごとに繰り返します。index はスピードダイヤルの位置 (1、4、5 など)、number は電話番号、label はスピードダイヤル名です。たとえば、1:8675306:Joe;4:888:Voicemail のようになります。

この形式を使用して別の回線を追加する場合は、それまでにカラムに入力したスピードダイヤル情報をすべて再入力して、新しいスピードダイヤル情報を追加する必要があります。

この形式は、スピードダイヤルの初期設定時に使用することをお勧めします。既存のスピードダイヤルのリストにスピードダイヤルを追加する場合は、次の項目で説明する形式を使用する必要があります。

- 一致するカラムのセット : Speed Dial n (n はスピードダイヤルの位置) と Speed Dial n Name という 1 組のカラムを使用します。この形式を使用すると、既存のスピードダイヤルリストの末尾に新しいスピードダイヤルが追加されます。

次に例を示します。

```
Speed Dial 1 Speed Dial 1 Name Speed Dial 4 Speed Dial 4 Name
8675306 Joe 888 Voicemail
```

カンマを挿入することでスピードダイヤル番号の間隔を空けることができます。1 個のカンマにより、2 秒間の遅延が設定されます。スピードダイヤル電話番号には任意の数のカンマを挿入することができます。

- 回線グループ情報を指定する際は、LineGroupName:position という形式をセミコロンで区切って回線グループごとに繰り返します。LineGroupName は回線グループの名前です。position は選択した回線グループ内の電話番号の位置で、値として last (または LAST)、または 1 ~ 100 の数字を指定できます。たとえば、LG1:1;LG2:5;LG3:last のようになります。

別の回線を追加する場合は、すべての回線グループ情報を入力する必要があります。回線グループのカラムヘッダーは、[回線グループ(1) (Line Groups(1))] や [回線グループ(2) (Line Groups(2))] のようにする必要があります。

- カラムのインスタンスが複数ある場合 (たとえば、電話番号が複数ある場合など) は、各インスタンスのカラム名の末尾に (1) や (2) などを指定する必要があります (たとえば、[電話番号(1) (Directory Number(1))] や [電話番号(2) (Directory Number(2))] など)。
- Cisco Unified Communications Manager Express の電話および回線設定テンプレートでは、区切り文字としてチルダ (~) を使用する必要があります。たとえば、username AAAAA password BBBBBBBB~pin 676771 のようになります。この属性のカラムヘッダーは、[CME電話設定テンプレート (CME Phone Configuration Template)] です。
- Cisco Unified Communications Manager 内で数値が指定されているプロビジョニング属性の値の設定を解除するには、値として 0 を入力する必要があります。値を空にするだけでは、Cisco Unified Communications Manager でプロビジョニング属性は設定解除されません。
- ボイスメールアカウントをオーダーするときに、[選択した回線 (Chosen Line)] オプションを使用して E.164 形式の電話番号を選択した場合、Provisioning は電話番号から + 記号を削除して、内線番号を設定します。ただし、[代行内線番号 (Alternate Extension)] フィールドは、自動的に入力されません。バッチファイルの [代行内線番号 (Alternate Extension)] フィールドに、(+ 記号付きで) 電話番号を入力する必要があります。
- UTF-8 形式で詳細を入力できますが、ファイルのエンコーディングは UTF-8 または BOM なし UTF-8 にする必要があります。BOM なし UTF-8 のエンコーディングは、Notepad++ などの高度なテキストエディタで使用できます。UTF-8 エンコーディングは、Notepad エディタで使用できます。ファイルのエンコーディングとして UTF-8 または BOM なし UTF-8 を指定しないと、UTF-8 文字列は判読不能な文字列に変換されます。

バッチ操作ファイルでのキーワードの使用

特定の機能を実行するには、バッチ操作ファイルで次のキーワードを使用します。

- CUPM_BLANK: 追加オーダータイプの場合は、その属性に対して値はプロビジョニングされません。変更オーダータイプの場合は、現在の属性値がクリアされるか (該当する場合)、プロセッサによって要求されるデフォルト値に設定されます。



(注) 設定専用属性に対して変更オーダー タイプを使用するときに、属性が列挙型であり、有効値のスタティックリストをサポートする場合は（たとえば[コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー（Calling Search Space Activation Policy）]）、CUPM_BLANK は効果を持たなくなり、古い値が維持されます。

- CUPM_SKIP : 操作ファイルの処理時にこのプロビジョニング属性をスキップします。この属性は、オーダー中に設定されません。前の設定値が保持されます。
CUPM_SKIP を追加オーダー タイプとともに使用するときは、すべての属性がスキップ可能とは限りません。次に示す属性はスキップされません。
- 必須属性（たとえば[デバイスプール（Device Pool）]や[ロケーション（Location）]）はスキップされません。このような属性には、サービス エリア レベルのプロビジョニング属性設定が使用されます。
- [デバイスの説明（Device Description）]と[表示(内部発信者ID)（Display (Internal Caller ID)）]。これらの設定にはルールがあるため、そのルールに基づく値が使用されます。

バッチ プロジェクトの管理

バッチプロビジョニングサポートは、Unified Communications Manager、Unity Connection、Unity、Presence Processor、Unity Express、Call Manager Express、および Generic IOS Router のすべてのデバイスに提供されています。管理権限を持つユーザは、バッチプロビジョニングを使用してデバイスをプロビジョニングできます。

すべてのデバイスのサンプル バッチ ファイルは、opt/cupm/sep/ipt/config/sample/batchProvisioning ディレクトリにあります。

バッチ操作ファイルを作成したら、そのファイルが属するバッチプロジェクトを作成する必要があります。バッチ操作ファイルをアップロードすると、その内容がバッチ操作に変換され、バッチ操作ファイル内のすべてのバッチ操作に共通するカラムが表示されます。

バッチ操作ファイルは、バッチ操作間の依存関係に従って正しい順序でアップロードする必要があります。これらの依存関係の詳細については、[バッチ操作ファイルの作成に関するガイドライン](#)、(174 ページ) を参照してください。

バッチプロジェクトを作成するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1

[展開 (Deploy)] > [バッチプロビジョニング (Batch Provisioning)] を選択します。
- ステップ 2

[バッチプロジェクトの設定 (Configure a Batch Project)] ページで [新規 (New)] アイコンをクリックします。
- ステップ 3

[バッチプロジェクトの新規作成 (Create a New Batch Project)] ページで、バッチ プロジェクトの名前を入力してメモを追加します。
- ステップ 4

[作成 (Create)] をクリックします。 バッチ プロジェクトの作成後は、1 つまたは複数のバッチ操作ファイルをバッチ プロジェクトにアップロードできます。
- ステップ 5

[バッチプロジェクトの設定 (Configure a Batch Project)] 画面で、[バッチ操作ファイルのアップロード (Upload a Batch Action File)] をクリックします。
- ステップ 6

[バッチ操作ファイルのアップロード (Upload a Batch Action file)] ページで、次のいずれかを実行します。
 - [アップロードするファイル (File to Upload)] フィールドに、アップロードするファイルの完全なディレクトリ パスとファイル名を入力します。
 - [参照 (Browse)] をクリックし、アップロードするファイルを探してクリックします。
- ステップ 7

[アップロード (Upload)] をクリックします。
- ステップ 8

次のいずれか、または複数の操作を行います。
 - (この手順を繰り返して) 別のバッチ操作ファイルをアップロードします。
 - バッチプロジェクトをただちに実行するか、後で実行するためにスケジュール設定します。バッチプロジェクトのキャンセル、一時停止、その他の操作については、次の表を参照してください。
 - バッチ プロジェクトを後で実行するためにスケジュールします ([バッチ プロジェクトの管理](#), (179 ページ) を参照) 。

Provisioning では現在、バッチプロジェクトまたはバッチ操作ファイルを編集することはできません。その代わりに、バッチ操作ファイルを手動で更新してから、そのファイルを新しいバッチプロジェクトにアップロードし、不要になったバッチプロジェクトを削除できます。

不要になったバッチ プロジェクトは削除可能です。バッチプロジェクトを削除するには、バッチプロジェクト名の横にある [削除 (Delete)] アイコンをクリックします。

表 37: バッチ プロジェクトの管理

バッチ操作	手順
-------	----

バッチ プロジェクトをただちに実行する	<ol style="list-style-type: none"> 1 [バッチプロジェクトの設定 (Configure a Batch Project)] ページで、[セレクト (Chooser)] アイコンをクリックして必要なバッチ プロジェクトを選択します。 2 [プロジェクトスケジュール (Project Schedule)] ペインで[現在 (Now)] をクリックします。 3 [OK] をクリックします。バッチプロジェクトが開始され、ステータスが[処理中 (In Progress)] に変化します (画面を更新するには、[更新 (Refresh)] アイコンをクリックします)。バッチプロジェクトが完了したら、ステータスが[完了 (Complete)] に変化します。
バッチプロジェクトをスケジュールまたはスケジュール変更する	<ol style="list-style-type: none"> 1 [プロジェクトスケジュール (Project Schedule)] ペインで、[スケジュール日の選択 (Select Schedule Date)] アイコンをクリックします。 表示されるダイアログボックスで、日時、協定世界時 (UTC) オフセット、または必要に応じてロケーションを指定します。 2 [選択 (Select)] をクリックします。 時計アイコンが[ステータス (Status)] セクションに表示され、バッチプロジェクトがスケジュールされたことを示します。 (注) インフラストラクチャ設定用に作成されたバッチプロジェクトは、エラーがあると再起動できません。

<p>パッチ プロジェクトをキャンセルする</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 必要なパッチ プロジェクトを選択します。 2 [プロジェクトスケジュール (Project Schedule)] ペインで [中断 (Abort)] をクリックします。 3 [OK] をクリックしてパッチ プロジェクトをキャンセルします。 <p>実行中のパッチプロジェクトをキャンセル (中止) できます。この場合、Provisioning で進行中の操作はすべて完了しますが、残りの操作は実行されません。</p>
<p>プロジェクトを一時停止する</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 必要なパッチ プロジェクトを選択します。 2 [プロジェクトスケジュール (Project Schedule)] ペインで、[プロジェクトの一時停止の日時 (Project Pause Date/Time)] の横にある [一時停止 (Pause)] をクリックします。 <p>[OK] をクリックして確定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 [更新 (Refresh)] アイコンをクリックします。プロジェクトのステータスが [一時停止 (Paused)] に変化します。 4 次の選択肢があります。 <ul style="list-style-type: none"> • パッチ プロジェクトを再開するには、[再開 (Restart)] をクリックします。パッチ プロジェクトが再開されます。 • パッチ プロジェクトをキャンセルするには、[中断 (Abort)] をクリックします。パッチ プロジェクトがキャンセルされます。 <p>パッチ プロジェクトを一時停止すると、Provisioning で進行中の操作はすべて完了しますが、それ以上の操作は実行されません。</p>

<p>一時停止するバッチプロジェクトをスケジュールする</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 [バッチプロジェクトの設定 (Configure a Batch Project)] ページの [実行の一時停止 (Pause Execution)] セクションで、[プロジェクトの一時停止の日時 (Project Pause Date/Time)] の横にある [セクタ (Chooser)] アイコンをクリックします。 2 [OK] をクリックして確定します。[日時の選択 (Select Date and Time)] ダイアログボックスが表示されます。 3 日付と時刻、および必要に応じて UTC オフセットまたは場所を指定し、[選択 (Select)] をクリックします。日付と時刻が [実行の一時停止 (Pause Execution)] の横に表示され、バッチプロジェクトの一時停止がスケジュールされたことを示します。 <p>バッチプロジェクトの一時停止をスケジュールできます。これはたとえば、バッチプロジェクトを後で開始するためにスケジュールしたにもかかわらず、そのプロジェクトを予定されているメンテナンス停止期間の前に確実に停止させる場合などに役立ちます。</p>
<p>スケジュールされたバッチプロジェクトをキャンセルする</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 [バッチプロジェクトの設定 (Configure a Batch Project)] ページの [プロジェクトスケジュール (Project Schedule)] ペインで、[プロジェクト開始日時 (Project Start Date/Time)] の横にある [クリア (Clear)] アイコンをクリックします。 2 [OK] をクリックして確定します。 <p>スケジュールしたバッチプロジェクトは、まだ処理が開始されていない場合、キャンセルできます。</p>
<p>バッチプロジェクトに対してスケジュールされた一時停止をキャンセルする</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 [プロジェクトスケジュール (Project Schedule)] セクションで [クリア (Clear)] アイコンをクリックします。 2 [OK] をクリックして確定します。バッチプロジェクトに対してスケジュールされた一時停止がクリアされます。

バッチ プロジェクトの詳細を表示する	<p>[バッチプロジェクト操作 (Batch Project Actions)] ペインで [表示 (View)] をクリックします。</p> <p>[バッチ操作の詳細の表示 (View Batch Action Details)] ページが表示されます。このページには、バッチプロジェクト操作の設定情報がすべて表示されます。</p> <p>バッチプロビジョニングでは、ユーザ権限を持つユーザは、エンドポイントのオーダー中に新しいエンドポイントを追加できます。疑似ユーザもエンドポイントに追加可能です。</p>
バッチプロジェクトの現在のステータスを表示する	<p>[バッチプロジェクトの設定 (Configure a Batch Project)] ページで、[バッチプロジェクト操作 (Batch Project Actions)] ペインに各バッチプロジェクト操作のステータスが表示されます。</p> <p>特定の状態 ([処理中 (In Progress)]、[完了 (Completed)] など) にあるオーダーを表示するには、バッチプロジェクトを選択し、[バッチプロジェクト操作 (Batch Project Actions)] ペインでフィルタを選択します。</p> <p>バッチプロジェクトが完了した後、ユーザのユーザレコードをチェックして、オーダーが処理されたことも確認できます。</p> <p>また、管理者は、バッチプロジェクトで現在実行されている単一オーダーの詳細を確認するために、[マイアクティビティ (My Activities)] を使用してワークフローにおける各オーダーの実行状況を表示することができます ([展開 (Deploy)] > [アクティビティ (Activities)] > [マイアクティビティ (My Activities)])。</p>



第 7 章

インベントリの管理

- [エンドポイント インベントリの管理, 185 ページ](#)
- [電話番号の管理, 190 ページ](#)
- [インベントリの検索, 194 ページ](#)

エンドポイント インベントリの管理

エンドポイント インベントリを使用してエンドポイントを追加、更新、または削除できます。電話番号の追加と更新、特定ユーザ向けの電話番号の予約、および [予約済み (Reserved)] 状態の指定期間が経過した電話番号のクリアが可能です。

上記に加えて、どのユーザにも関連付けられていないエンドポイントを検索して、それらの未使用のエンドポイントを特定のユーザに関連付けることができます。

Cisco Prime Collaboration Provisioning は、社内資産管理インベントリ システム内のすべてのサービスとユーザに関する情報を追跡します。この情報は管理者によって閲覧できます。管理者は、HTML 形式または Microsoft Excel 形式でレポート テンプレートを生成できる、高度な検索を作成して保存することが可能です。

ドメインに基づくエンドポイント インベントリ レポートを表示できます。[エンドポイント インベントリ (Endpoint Inventory)] ページには、次の詳細が表示されます。

表 38: [エンドポイント インベントリ管理 (Endpoint Inventory Management)] ページのフィールドの説明

フィールド	説明
[コール プロセッサ (Call Processor)]	コール プロセッサのリスト。
[モデル (Model)]	エンドポイント モデルのリスト。

フィールド	説明
[エンドポイント (Endpoint)]	ドメイン、モデル、MACアドレス、およびステータスを指定して、新しいエンドポイントを追加できます。[選択 (Chooser)] アイコンをクリックして、既存のエンドポイントのリストを表示することも可能です。
[ドメイン (Domains)]	管理されているドメインのリスト。
[モデル (Model)]	エンドポイント タイプのリスト。
[MACアドレス (MAC Address)]	個々のエンドポイントを特定する 16 進値。MAC アドレスの長さは 12 文字にする必要があります。有効な値は英数字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9) です (例 : 201B79989002) 。
[ステータス (Status)]	<p>エンドポイントのステータス。可能な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [使用中 (In-use)] : このエンドポイントはいずれかのユーザが使用中です。 • [予約済み (Reserved)] : このエンドポイントは特定のユーザ向けに予約されています。 • [使用可能 (Available)] : このエンドポイントは使用可能であり、手動または自動でユーザに割り当てることができます。 • [戻し済み (Returned)] : このエンドポイントはインベントリに戻されましたが、インベントリへの到着は未確認です。 • [プロビジョニング (Provisioning)] : このエンドポイントは現在プロビジョニング中です。
[予約対象 (Reserved For)] (オプション)	エンドポイントの利用者として予約されている特定のユーザ。
[予約日時 (Reserved On)] (オプション)	エンドポイントの利用期間として予約されている日付。エンドポイント情報を追加または更新すると自動的に表示されます。
[予約タイムアウト (Reservation Timeout)] (オプション)	<p>エンドポイントが予約中として保持される日数。この予約のタイムアウトは、それぞれの Provisioning 管理者が設定するので、このフィールドは編集できません。</p> <p>ドメインのエンドポイント予約タイムアウトは、endpointReservationTimeout ルールで決まります (ビジネス ルールの概要, (135 ページ) を参照) 。</p>



(注) ユーザは **Self-Care** オプションを使用して、回線の設定、サービスの管理、エンドポイントのオプションの設定をすばやく簡単に行うことができます。詳細については、[個人設定のカスタマイズ](#)、(234 ページ) を参照してください。

[オーダー (Ordering)] 承認権限が割り当てられているユーザは、次のタスクを実行してエンドポイント インベントリを管理できます。

タスク	説明	手順
ユーザが関連付けられていないエンドポイントの検索	どのユーザにも関連付けられていないエンドポイントを検索して、それらのエンドポイントを特定のユーザに割り当てることができます。	<ol style="list-style-type: none"> 1 [展開 (Deploy)] > [プロビジョニング インベントリ (Provisioning Inventory)] > [エンドポイントの管理 (Manage Endpoints)] を選択します。 2 エンドポイントを選択し、[選択したエンドポイントをユーザに割り当てる (Assign Selected Endpoints to User)] をクリックします。 (注) 異なるコールプロセッサに関連付けられた複数のエンドポイントを選択した場合は、ドメイン全体でそれぞれのコールプロセッサに関連付けられているユーザが一覧表示されます。 3 ユーザを選択し、オーダーを作成する場合は [保存 (Save)] をクリックします。

タスク	説明	手順
追加	すべてのユーザが利用可能なエンドポイントを追加するか、または特定のユーザに対してエンドポイントを指定することができます。	<p>1 [展開 (Deploy)] > [プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory)] > [エンドポイントの管理 (Manage Endpoints)] を選択します。</p> <p>2 [エンドポイントインベントリ管理 (Endpoint Inventory Management)] ページに値を入力して[追加 (Add)] をクリックします。 エンドポイント インベントリの詳細については、エンドポイントインベントリの管理, (185 ページ) を参照してください。</p> <p>(注) サードパーティ製デバイスは、Prime Collaboration Provisioning で SIP デバイスとして追加する必要があります。 詳細については、『Supported Devices for Prime Collaboration Provisioning』 を参照してください。</p>

タスク	説明	手順
エンドポイント情報の更新	エンドポイント情報を変更できません。	<ol style="list-style-type: none"> 1 [展開 (Deploy)] > [プロビジョニング インベントリ (Provisioning Inventory)] > [エンドポイントの管理 (Manage Endpoints)] を選択します。 2 [エンドポイント (Endpoint)] フィールドで[選択 (Chooser)] アイコンをクリックします。 (注) 全桁を指定した MAC アドレスまたは一部の桁を指定した MAC アドレスに基づいて、エンドポイントを検索できます。指定する MAC アドレスの先頭または末尾に、ワイルドカード文字としてアスタリスク (*) を使用できます。ただし、MAC アドレスの途中には使用できません。検索基準に SEP は指定しないでください。 3 [エンドポイントの選択 (Choose an Endpoint)] ダイアログボックスで、目的のエンドポイントを選択します。 4 必要に応じてエンドポイントを更新し、[更新 (Update)] をクリックします。詳細については、エンドポイント インベントリの管理, (185 ページ) を参照してください。 (注) [使用中 (In-use)] 状態のエンドポイントは更新できません。

タスク	説明	手順
エンドポイントの削除	エンドポイントをインベントリ リストから削除できます。	<p>[エンドポイントインベントリ管理 (Endpoint Inventory Management)] ページで [選択 (Chooser)] アイコンをクリックします。</p> <p>[エンドポイントの選択 (Choose an Endpoint)] ダイアログ ボックスで、目的のエンドポイントを選択して [削除 (Remove)] をクリックします。</p> <p>[使用中 (In-use)] 状態のエンドポイントは削除できません。</p> <p>どのユーザにも関連付けられていないエンドポイントは、孤立エンドポイントと呼ばれます。これらのエンドポイントを特定して、不要な場合は削除することができます。孤立エンドポイントを特定するには、[エンドポイントインベントリ管理 (Endpoint Inventory Management)] ページで [ユーザが関連付けられていないエンドポイントの検索 (Search Endpoints Without Associated User)] をクリックします。孤立エンドポイントを削除するには、リストから 1 つまたは複数のエンドポイントを選択し、[選択したエンドポイントの削除 (Delete Selected Endpoints)] をクリックします。</p>
有効期限が切れた予約のクリア	<p>必要に応じて、予約期限が切れたエンドポイントをすべてインベントリから削除できます。</p> <p>エンドポイントの有効期限が切れた予約をクリアし、エンドポイントのステータスを [予約済み (Reserved)] から [使用可能 (Available)] に変更できます。</p>	[エンドポイントインベントリ管理 (Endpoint Inventory Management)] ページで、該当するドメインを選択して [有効期限が切れた予約のクリア (Clear Expired Reservations)] をクリックします。

電話番号の管理

ほとんどの場合、サービスエリア電話番号ブロック (DNB) を使用して、電話番号が割り当てられます。ただし、プロビジョニング インベントリでは、各サービス エリアに関連付けられた電話番号を明示的に追跡 (保存および管理) できます。

電話番号の追加と更新、特定ユーザ向けの電話番号の予約、および [予約済み (Reserved)] 状態の指定期間が経過した電話番号のクリアが可能です。



- (注) [電話番号を予約済み (Reserved)] 状態に保持できる期間を変更するには、DNReservationTimeout ルールを修正します。詳細については、[ビジネス ルールの概要](#)、(135 ページ) を参照してください。

電話番号のステータスは、[使用中 (In-use)]、[予約済み (Reserved)]、または [使用可能 (Available)] のいずれかになります。

回線が追加されると、Cisco Prime Collaboration Provisioning は次のプロセスを通じて電話番号を割り当てます。

- 1 該当のユーザ向けに予約済みのディレクトリがあるかどうか確認します。
- 2 [使用可能 (Available)] 状態の電話番号を確認します。
- 3 使用可能な次の電話番号のサービス エリア DNB を確認します。

ドメインのサービスエリア コンポーネントでは、個々の電話番号ではなく DNB を作成できます。ユーザに電話番号が割り当てられた後、Cisco Prime Collaboration Provisioning は個々の電話番号を追跡します。

[電話番号インベントリ (Directory Number Inventory)] ページには、次の詳細が表示されます。

表 39: [電話番号インベントリ管理 (Directory Number Inventory Management)] ページのフィールド

フィールド	説明
[電話番号 (Directory Number)]	追加または更新する電話番号を指定します。
[コールプロセッサ/ルートパーティション (Call Processor/Route Partition)]	電話番号の追加先とするコールプロセッサおよびルートパーティション。 (注) この時点では、電話番号は追加されません。電話番号を要求するオーダーを受け取ると、コール プロセッサに追加するために、ここで指定した電話番号が予約されます。
[ステータス (Status)]	電話番号のステータス。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • [使用中 (In-use)] : いずれかのユーザが現在使用中です。 • [予約済み (Reserved)] : 特定のユーザ向けに特定の期間、予約されています。 • [使用可能 (Available)] : 使用可能で、いずれかのユーザに割り当てることができます。

フィールド	説明
[予約対象 (Reserved For)] (オプション)	電話番号の予約先とするユーザの指定先。
[予約日時 (Reserved On)] (オプション)	電話番号を予約した日付。エンドポイント情報を追加または更新すると自動的に表示されます。

インベントリの電話番号を管理するため、次のタスクを実行できます。

タスク	説明	手順
追加	<p>電話番号を追加すると、その番号のステータスを指定して、特定のユーザ向けに予約できます。</p> <p>別々のコールプロセッサであれば、それぞれに同じ電話番号が存在してもかまいません。電話番号を追加する場合は、コールプロセッサとルートパーティションの両方を指定する必要があります。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 [展開 (Deploy)] > [プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory)] > [電話番号の管理 (Manage Directory Numbers)] を選択します。 2 [電話番号インベントリ管理 (Directory Number Inventory Management)] ページで、[新しい電話番号の追加 (Add New Directory Number)] をクリックします。右ペインの各フィールドが編集可能になります。 3 目的のフィールドに入力し (表 39 : [電話番号インベントリ管理 (Directory Number Inventory Management)] ページのフィールドを参照)、[保存 (Save)] をクリックします。

タスク	説明	手順
電話番号の更新	<p>電話番号を検索し、選択して更新できます。</p> <p>(注) ステータスが [使用中 (In-use)] の電話番号は更新できません。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 [展開 (Deploy)] > [プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory)] > [電話番号の管理 (Manage Directory Numbers)] を選択します。 2 [電話番号 (Directory Number)] フィールドで、次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • 目的の電話番号がわかっている場合は、その番号を入力して [検索 (Search)] をクリックします。 • アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用し、電話番号を検索します。 [電話番号の選択 (Choose a Directory Number)] ダイアログボックスで、目的の電話番号をクリックします。 3 [現在の電話番号の更新 (Update Current Directory Number)] をクリックします。右ペインの各フィールドが編集可能になります。 4 目的のフィールドに入力し (表 39 : [電話番号インベントリ管理 (Directory Number Inventory Management)] ページのフィールドを参照)、[保存 (Save)] をクリックします。
有効期限が切れた予約のクリア	電話番号の有効期限の予約をクリアして、その電話番号を利用可能プールに戻すことができます。	<p>[電話番号インベントリ管理 (Directory Number Inventory Management)] ページで、[有効期限が切れた予約のクリア (Clear Expired Reservations)] をクリックします。</p> <p>電話番号を予約状態に保持する日数を設定するには、ビジネス ルールの概要、(135 ページ) を参照してください。</p>
電話番号の削除	使用中の番号は削除できません。	[電話番号インベントリ管理 (Directory Number Inventory Management)] ページで、電話番号を選択して [削除 (Delete)] をクリックします。

インベントリの検索

[管理 (Administration)] 承認権限が割り当てられている場合は、インスタンス ブラウザを使用してプロビジョニングインベントリを参照および検索できます。次のオブジェクトがインスタンスセレクトアに表示されます。

オブジェクト	説明
グローバル リソース	ルート パーティション、コーリング サーチ スペース、コール ピックアップ グループなどのインフラストラクチャ データを表示します。
製品カタログ	表示された情報を編集しないでください。製品のリストを表示する場合は、Provisioning NBI SDK に含まれる製品カタログの外部バージョンを参照してください。データのスキーマは、SDK のサブディレクトリ <code>productcatalog/schema</code> にあります。製品の定義は、SDK のサブディレクトリ <code>productcatalog/metadata</code> にあります。すべての必須属性とオプションの属性を定義する XML ファイルが、製品ごとに 1 つずつあります。
ユーザ	Provisioning のすべてのユーザとそのロケーションが表示されます。
ドメイン	固有の電話番号、エンドポイント、ルール、およびサービス エリア。

基本検索または詳細検索を使用して、インベントリ オブジェクトを検索できます。基本検索を使用すると、そのプロパティを基にしてオブジェクトのインスタンスを検索できます。詳細検索を使用すると、より詳細な検索条件を指定できます。

顧客、プロパティ、関連付け、ネームスペースなどの複数の制約を組み込んで、検索結果を制限することが可能です。また、検索で返されるプロパティを指定することもできます。詳細検索をレポートとして保存すると、カテゴリに分類可能です。レポートを作成できるのは、管理者だけです。

基本検索の実行

インスタンス ブラウザを使用すると、特定のオブジェクトのインスタンスを対象とした基本検索を実行できます。基本検索では、検索パラメータはクラスのプロパティに基づいています。

インスタンス検索の最初の手順は、基となるクラスを指定することです。次の方法で、検索条件と結果の表示方法を指定できます。

- キーワードまたは部分キーワードを指定します。ワイルドカードとしてアスタリスク (*) を使用します。
- クラス名とラベル プロパティのどちらに従って結果を表示するかを指定します。

- 検索対象を特定のドメインに制限します。
- 抽象、関連付け、インターフェイス クラスを含めるか、または除外します。

インスタンスの基になっているクラスを特定すると、そのクラスのプロパティに基づく検索条件を指定して、検索を絞り込むことができます。検索できるプロパティの数は、クラスによって異なります。

手順

-
- | | |
|---------------|--|
| ステップ 1 | [展開 (Deploy)] > [プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory)] > [インベントリブラウザ (Inventory Browser)] を選択します。 |
| ステップ 2 | インスタンス ブラウザで [検索 (Search)] アイコンをクリックし、次に [オブジェクトクラス (Object Class)] セレクタ アイコンをクリックします。 |
| ステップ 3 | [クラス検索 (Class Search)] 画面で検索パラメータを入力し、[検索 (Search)] をクリックします。[検索可能プロパティ (Searchable Properties of)] ペインに検索結果が表示されます。 |
-

詳細検索の実行

詳細検索を実行すると、特定のオブジェクトクラス内のインベントリインスタンスを検索できます。詳細検索は、将来の使用に備えて保存できます。

手順

-
- | | |
|---------------|---|
| ステップ 1 | [展開 (Deploy)] > [プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory)] を選択します。 |
| ステップ 2 | 次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none">• [インベントリブラウザ (Inventory Browser)] をクリックし、基本検索を使用してクラスを選択してから、[詳細 (Advanced)] をクリックします。• [インベントリ検索 (Inventory Search)] をクリックし、[レポートの作成 (Create Reports)] をクリックしてからクラスを選択します。 |
| ステップ 3 | 該当する制約を追加します。プロパティ、関連付け、ネームスペース、または顧客を使用して、検索を制約できます。 |
| ステップ 4 | 使用可能なプロパティのリストから、検索で戻すプロパティのリストを作成します。 |
| ステップ 5 | 必要に応じてプロパティへのパスを作成し、検索で返される関連プロパティを指定します。 |
| ステップ 6 | 必要に応じてオブジェクトへのパスを作成し、検索で返される関連オブジェクトを指定します。検索結果には、選択したオブジェクトを含むインスタンスだけが含まれます。 |

- ステップ 7** 検索結果にネームスペースとオブジェクト クラスを含めるのか、除外するのかを指定します。
- ステップ 8** 検索を実行します。

制約

[制約の追加 (Add Constraint)] セクションを使用して、検索の制約を定義します。詳細検索では、次の制約を使用できます。

制約	説明
[プロパティ (Properties)]	指定したプロパティ条件を満たすオブジェクトに結果を制限します。プロパティの制約は、大文字と小文字を区別するようにも、区別しないようにも設定できます。値のすべてが一致した場合だけ結果に返すようにも、一部が一致した場合も返すようにも指定できます。
[関連付け (Associations)]	指定した関連付けのパスを使用して、他のオブジェクトと関連付けられている（または関連付けられていない）オブジェクトに結果を制限します。関連付けのパスを使用すると、ソース オブジェクトと照会されるオブジェクトとの関係を、複数の関連付けクラスに広げることができます。
[ネームスペース (Namespaces)]	指定したネームスペースに含まれる（または含まれていない）オブジェクトに結果を制限します。
[顧客 (Customers)]	特定の顧客に関連付けられているオブジェクトに結果を制限します。

プロパティの制約の定義

特定のプロパティの制約に合うオブジェクトだけを選択する検索を定義できます。たとえば、特定のモデル番号を持つインスタンスだけを検索結果に含めるような制約を定義することが可能です。この場合、プロパティの制約は、特定のオブジェクトのプロパティを検索する場合のフィルタとして機能します。

プロパティの制約を定義する場合は、次の条件を使用できます。

- [次と等しい (Equals)] : 選択したプロパティの値と等しい値を指定します。
- [次を含む (Contains)] : 選択したプロパティの値に含まれる値を指定します。
- [次と等しくない (Not equal to)] : 選択したプロパティの値と等しくない値を指定します。
- [次を含まない (Does not contain)] : 選択したプロパティの値に含まれない値を指定します。

- [次の範囲 (In range)] : 指定した範囲内の Date プロパティを持つ値を指定します。この演算子を使用できるのは、オブジェクトに Date プロパティが指定されていて、クラス定義プロパティに reportable=true が設定されている場合だけです。

演算子を選択したら、値を指定することも、フィールドを空白にしておくこともできます。値を指定する場合はデフォルト値になりますが、検索を実行するユーザが必要に応じて値を変更できます。フィールドを空白にしておいた場合は、後で検索を実行するユーザが、そのプロパティの制約の値を指定できます。

プロパティの制約を定義するには、次の手順を実行します。

手順

-
- | | |
|---------------|---|
| ステップ 1 | [詳細インスタンス検索 (Advanced Instance Search)] 画面の [制約の追加 (Add Constraint)] リストから、プロパティを選択します。 |
| ステップ 2 | [追加 (Add)] をクリックします。使用可能な条件がリストに表示されます。 |
| ステップ 3 | 使用可能な条件のリストから、適切な演算子を選択して [追加 (Add)] をクリックします。 |
| ステップ 4 | 適切なプロパティを選択します。 |
| ステップ 5 | [値 (Value)] フィールドで、次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none">• 制約のデフォルト値を指定します。• フィールドを空白のままにして、ユーザが独自の制約を指定できるようにします。 |
| ステップ 6 | 検索で大文字と小文字を区別しないようにするには、[大文字と小文字を区別しない (Ignore Case)] を有効にします。 |
| ステップ 7 | [追加 (Add)] をクリックします。 |
| ステップ 8 | 制約の追加を続行する場合は、ステップ 1 ~ 7 を繰り返します。 |
| ステップ 9 | 複数の制約を定義した場合は、必要に応じて [オペランド (Operand)] カラムの <i>and</i> または <i>or</i> 演算子を指定します。 |
-

他のオブジェクトと関連する、または関連しないオブジェクトを選択する検索を定義できます。たとえば、特定タイプの音声端末に関連する回線の検索を定義して、他のタイプの音声端末を除外することができます。また、範囲内でソートしたり、2 ~ 6 本の回線を所有するすべてのエンドポイントを検索したりすることも可能です。

関連付けの制約を定義する場合は、次の条件を使用できます。

- [関連付け (Associated with)] : 検索クラスを他のオブジェクトインスタンスに関連付けるオブジェクトインスタンスと、関連付けのパスを指定する際に使用します。
- [関連付けられていません (Not associated with)] : 検索クラスに関連付けないオブジェクトインスタンスを指定する際に使用します。

- [範囲を指定して関連付け (Associated with range)] : 検索クラスに関連付けるオブジェクトインスタンスの範囲を指定する際に使用します。この条件を選択する場合は、適切な関連付け、条件、および数量の情報を入力する必要があります。

演算子を選択したら、制約のオブジェクトインスタンスを選択する必要があります。関連付けるオブジェクトインスタンスを選択する手順は、各演算子によって異なります。

[関連付け (Associated With)] 演算子を使用する制約の定義

[関連付け (Associated With)] 演算子を使用して制約を定義するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1 [制約の追加 (Add Constraint)] リストから [関連付け (Associations)] を選択します。
 - ステップ 2 [追加 (Add)] をクリックします。
 - ステップ 3 使用可能な条件のリストから、[関連付け (Associated with)] を選択して [追加 (Add)] をクリックします。
 - ステップ 4 [制約の追加 (Add Constraint)] セクションの [インスタンス (Instance)] フィールドで、[検索 (Search)] アイコンをクリックします。
 - ステップ 5 [クラスへ (To Class)] リストで、オブジェクトインスタンスに関連付けるクラスを選択し、[適用 (Apply)] をクリックします。
 - ステップ 6 [関連付けごと (By Association)] リストで適切な関連付けを選択し、[適用 (Apply)] をクリックします。
 - ステップ 7 [別名で参加 (Participating As)] リストで、クラスの適切な権限を選択し、[適用 (Apply)] をクリックします。
 - ステップ 8 [クラスへ (To Class)] フィールドに他のクラスを指定するには、ステップ 5 ~ 7 を繰り返します。
 - ステップ 9 特定のオブジェクトインスタンスへの制約を制限するには、[検索 (Search)] アイコンをクリックして、そのインスタンスを検索します。
デフォルトでは、制約は特定のインスタンスに制限されていません。
 - ステップ 10 [追加 (Add)] をクリックして選択内容を保存します。
 - ステップ 11 定義済みの制約を追加するには、[追加 (Add)] をクリックします。
 - ステップ 12 複数の制約を定義した場合は、必要に応じて [オペランド (Operand)] カラムの *and* または *or* 演算子を選択します。
-

[範囲で関連付け (Associated with range)] 演算子を使用する制約の定義

[範囲で関連付け (Associated with range)] 演算子を使用して制約を定義するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [制約の追加 (Add Constraint)] リストから [関連付け (Associations)] を選択します。
- ステップ 2** [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 3** 使用可能な条件のリストから、[範囲で関連付け (Associated with range)] 条件を選択して [追加 (Add)] をクリックします。
選択した制約が [制約の追加 (Add Constraint)] セクションに追加されます。
- ステップ 4** [関連付け (Associations)] リストから、検索に使用する関連付けクラスを選択します。
- ステップ 5** [条件 (Condition)] リストから、検索に適した条件を選択します。
- ステップ 6** [数量 (Quantity)] フィールドに、条件が一致する必要があるインスタンスの数を入力し、[追加 (Add)] をクリックします。
[選択した制約 (Selected Constraints)] セクションに制約が表示されます。
- ステップ 7** 制約の追加を続行する場合は、ステップ 1 ～ 6 を繰り返します。
- ステップ 8** 複数の制約を定義した場合は、必要に応じて [オペランド (Operand)] カラムの *and* または *or* 演算子を選択します。
-

ネームスペースの制約の定義

ネームスペースの制約を使用して、検索を制限したり、特定のネームスペースを除外したりします。

手順

-
- ステップ 1** [制約の追加 (Add Constraint)] リストからネームスペースを選択して、[追加 (Add)] をクリックします。[制約の追加 (Add Constraint)] セクションにネームスペースが表示されます。
- ステップ 2** 次のいずれかを実行します。
- 検索にネームスペースを指定するには、[次と等しい (Equals)] を選択します。
 - 検索からネームスペースを除外するには、[次と等しくない (Not Equal To)] を選択します。
- ステップ 3** [値 (Value)] リストに使用可能なネームスペースが表示されます。
- ステップ 4** [値 (Value)] リストからネームスペースを選択して、[追加 (Add)] をクリックします。[選択した制約 (Selected Constraints)] セクションに制約が表示されます。
- ステップ 5** 制約の追加を続行する場合は、ステップ 1 ～ 4 を繰り返します。
- ステップ 6** 複数の制約を定義した場合は、必要に応じて [オペランド (Operand)] カラムの *and* または *or* 演算子を選択します。
-

デフォルトでは、各インスタンスのネームスペース、オブジェクトクラス、およびオブジェクトの値は、詳細検索の結果に表示されます。デフォルト値の他に、詳細検索で表示する値を選択できます。

[検索結果に表示するプロパティ (Properties to Return)] セクションには、検索されるオブジェクトクラスの使用可能なプロパティと、検索で返されるプロパティが表示されます。[検索結果に表示するプロパティ (Properties to Return)] セクションを使用すると、検索を拡張して、プロパティ値のリストを表示できます。

検索結果に表示する関連プロパティ

[検索結果に表示する関連プロパティ (Associated Properties to Return)] セクションでは、検索で返される関連するオブジェクトクラスのプロパティを特定します。[検索結果に表示する関連プロパティ (Associated Properties to Return)] セクションを使用すると、検索を拡張して、関連するオブジェクトのプロパティ値のリストを含めることができます。

手順

-
- ステップ 1** [関連プロパティ (Associated Properties)] セクションで、[追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 2** [クラスへ (To Class)] リストで、オブジェクトクラスを選択します。
- ステップ 3** [適用 (Apply)] をクリックします。
- ステップ 4** [関連付けごと (By Association)] リストで適切な関連付けを選択し、[適用 (Apply)] をクリックします。
- ステップ 5** 選択したクラスの適切な権限を選択します。[適用 (Apply)] をクリックします。
- ステップ 6** 次のいずれかを実行します。
- [クラスへ (To Class)] リストから、オブジェクトクラスを選択します。[適用 (Apply)] をクリックします。必要なクラスを追加したら、ステップ 2 ~ 3 を繰り返します。
 - [プロパティの選択 (Select Property of)] リストから、ステップ 2 で選択したクラスのプロパティを選択します。[適用 (Apply)] をクリックします。
- ステップ 7** [追加 (Add)] をクリックします。新しく関連付けたプロパティが検索画面に表示されます。
-



ヒント

プロパティを削除するには、[削除 (Remove)] チェックボックスをオンにしてから、[削除 (Remove)] ボタンをクリックします。

[検索結果に表示する関連オブジェクト (Associated Objects to Return)] セクションでは、検索で返される関連するオブジェクトクラスを特定します。[検索結果に表示する関連オブジェクト (Associated Objects to Return)] セクションを使用すると、検索を拡張して、特定のクラスの関連するオブジェクトのリストを含めることができます。

検索レポートの作成

将来の使用に備えて、詳細検索の内容を保存できます（[詳細検索の実行](#)、[\(195 ページ\)](#) を参照）。これらを検索レポートと呼びます。また、Cisco Prime Collaboration Provisioning には使用可能なサンプルの検索レポートが用意されていますが、独自の検索レポートを作成することもできます。サンプルの検索レポートは編集できません。

手順

- ステップ 1 [展開 (Deploy)] > [プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory)] > [インベントリ検索 (Inventory Search)] を選択します。
- ステップ 2 [検索レポート (Search Reports)] ページで、[新規 (New)] アイコンをクリックします。
- ステップ 3 [クラス検索 (Class Search)] ダイアログボックスで、検索フィールドにクラスを入力するか、表示されたクラスのいずれか 1 つを選択します。
- ステップ 4 [インスタンス検索 (Instance Search)] ページで、検索条件を入力して [保存 (Save)] をクリックします。[インスタンス検索 (Instance Search)] ページの使用方法については、[詳細検索の実行](#)、[\(195 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 5 レポートの名前を入力し、そのレポートのカテゴリを選択します。
- ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。[詳細検索 (Advanced Search)] ページに戻り、ここで検索を開始できます。

検索レポートの実行

検索を検索レポートとして保存すると、そのレポートを実行することができます。検索レポートを実行する前に、検索結果を現在のブラウザ ウィンドウに表示するか、新しいウィンドウに表示するのを選択できます。

手順

- ステップ 1 [展開 (Deploy)] > [プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory)] > [インベントリ検索 (Inventory Search)] を選択します。
- ステップ 2 [検索レポート (Search Reports)] ページで、実行するレポート（サンプル検索レポートの 1 つまたは作成した検索レポート）をクリックします。
- ステップ 3 必要に応じて制約の値を変更します。
- ステップ 4 別のブラウザ ウィンドウに検索結果を表示するには、[新しいウィンドウで結果を開く (Open results in a new window)] を選択します。
- ステップ 5 次のいずれかを実行します。
 - 検索を実行して検索結果を表示するには、[検索 (Search)] をクリックします。

- 検索を実行して検索結果を Excel スプレッドシートに書き込むには、[Excel] をクリックします。

検索レポートを編集するには、[検索レポート (Search Reports)] ページで、編集する検索レポートの横にある [編集 (Edit)] アイコンをクリックします。

検索レポートを削除するには、[検索レポート (Search Reports)] ページで、削除する検索レポートの隣にある [編集 (Edit)] アイコンをクリックします。[検索オプション (Search Options)] セクションで [削除 (Delete)] をクリックします。



第 8 章

Provisioning のダッシュボードとレポート

- [Provisioning のダッシュボードとレポートの概要, 203 ページ](#)

Provisioning のダッシュボードとレポートの概要

一般的に、運用担当者は毎日ダッシュボードの画面を見て、IPテレフォニー環境をモニタします。Cisco Prime Collaboration Provisioning には3つのダッシュボードがあります。その内容は次のとおりです。

- グローバル管理ダッシュボード：プロセッサ、デバイス、ドメイン、ユーザの操作ステータスについてのリアルタイム情報を管理します。
- ドメイン管理ダッシュボード：ドメインに関連したデバイスおよびユーザの操作ステータスについてのリアルタイム情報を管理します。
- ユーザダッシュボード：実行中、保留中、および失敗したオーダーの詳細を管理します。ユーザダッシュボードは、管理、オーダー、および Self-Care 権限以外のユーザに表示されます。

Provisioning のダッシュボードの利点は次のとおりです。

- 情報へのアクセスが簡単：プロセッサのキャパシティ、デバイスの同期ステータス、保留中のオーダー、展開の詳細を表示できます。また、ログイン済みのユーザおよびロックされているユーザも表示できます。
- カスタマイズが簡単：ダッシュボードの変更およびパーソナライズが可能であるため、見たいものを表示するようにダッシュボードのレイアウトを設定できます。
- 軽量の GUI：データは Unified のダッシュボードに表示されます。外部ポップアップウィンドウの使用は最小化されています。

グローバル管理ダッシュボード

ホームダッシュボードでは、重要な統計情報ならびにプロセッサの詳細、保留中のオーダー、デバイス同期のステータス、ドメインと展開の詳細、およびログイン済みのユーザとロックされているユーザを表示できます。

このダッシュボードは [ホーム (Home)] の下で使用できます。

これらの情報すべてを単一のページに表示できるため、複数のページ間を移動する必要はありません。また、ダッシュボードに示されたリンクをクリックして、関連する詳細情報を表示することもできます。

ライセンスで許可されている音声端末数（エンドポイント数）および使用されている音声端末数の詳細が円グラフで示されます。この円グラフを表示するためには、Adobe Flash Player をシステムにインストールする必要があります。インストールされていない場合は、インストールするように求められます。

次の表に、グローバル管理、ドメイン管理、およびユーザダッシュボードで使用可能なダッシュレットを示します。

表 40 : Provisioning のダッシュボード

ダッシュレット	説明	グローバル管理	ドメイン管理	ユーザ管理
[容量 (Capacity)]	このペインには、プロセッサ関連の詳細がリストされます。プロセッサのリスト、使用可能なライセンス数、および使用されているライセンス数を表示できます。このペインには、使用可能なライセンス数および使用されているライセンス数がグラフィック表示されます。	X	—	—
[保留中のオーダーのステータス (Pending Order Status)]	実行中、保留中、および失敗したオーダーのステータスのリストを表示できます。オーダー番号がハイパーリンクとして示されるため、そのリンクにアクセスしてオーダーの詳細を確認できます。ユーザは、承認および割り当てを待機しているオーダーのリストも表示できます。オーダー関連の詳細については、 オーダーの管理 、(243 ページ) を参照してください。	X	X	X

ダッシュレット	説明	グローバル管理	ドメイン管理	ユーザ管理
[デバイス同期ステータス (Device Sync Status)]	デバイスおよびデバイスの同期の詳細を示すリストを表示できます。同期のステータスと完了日が示されます。このペインには検索フィルタがあり、デバイスの名前およびタイプに基づいてデバイスを検索できます。[デバイス同期ステータス (Device Sync Status)] で利用可能な情報は読み取り専用です。同期の詳細については、 プロセッサ、ユーザ、ドメインの同期 、(77 ページ) を参照してください。	X	X	—
[展開の詳細 (Deployment Details)]	ドメイン グループとドメイン グループの設定の詳細を示すリストを表示できます。ドメイン名にアクセスすると、[ドメインの設定 (Domain Configuration)] 画面を起動できます。ユーザ数、およびドメインに関連付けられているサービス エリアが、同期完了日と一緒に表示されます。 このペインには検索フィルタがあり、同期完了日に基づいて特定のドメイン、ユーザ、サービス エリアを検索できます。[展開の詳細 (Deployment Details)] ペインで利用可能な情報は読み取り専用です。ドメインおよびドメイン設定の詳細については、 ドメインの追加 、(55 ページ) を参照してください。	X	X	—

ダッシュレット	説明	グローバル管理	ドメイン管理	ユーザ管理
[ログインしたユーザ (Logged-In Users)]	アクティブセッションを表示し、単一または複数のアクティブセッションをログアウトさせることができます。このペインでは、アクティブセッションの詳細を表示できます。同時ログインの最大数の詳細については、『 System Capacity for Cisco Prime Collaboration 』を参照してください。[ログアウト (Logout)] ボタンを使用すると、単一または複数のアクティブセッションを終了できます。このペインは、グローバル管理権限を持っている場合にのみ使用可能です。 アクティブセッションの表示またはログアウト, (228 ページ) を参照してください。	X	—	—
[ロックされたユーザ (Locked Users)]	このペインでは、ロックされているユーザのリストを表示できます。[ロック解除 (Unlock)] ボタンを使用すると、ロックされているユーザのロックを解除できます。このペインは、グローバル管理ユーザ権限を持っている場合にのみ使用可能です。	X	—	—

Provisioning のレポート

Cisco Prime Collaboration Provisioning には、次の設定済みレポート セットが用意されています。

レポート	説明
[サービスエリア (Service Area)]	Cisco Prime Collaboration Provisioning に設定されているすべてのサービスエリアに対して、コールプロセッサ、メッセージプロセッサ、ルートパーティション、ユーザ ロール、電話番号ブロックの詳細が表示されます。

レポート	説明
[リソース設定 (Resource Configuration)]	各コールプロセッサの関連付けられたドメイン、デバイスプール、サービス エリアを表示します。 各メッセージプロセッサのユーザ名、IP アドレス、関連付けられたドメイン、ユーザテンプレートも表示します。
[サービス設定 (Service Configuration)]	サービス カタログを表示します。 使用可能なテレフォニー製品、インフラストラクチャ設定製品、サービスをリストします。 また、すべてのドメインの各ユーザ権限に関連付けられたサービスとエンドポイントも表示します。
[エンドポイントインベントリ (Endpoint Inventory)]	すべてのエンドポイントのMACアドレス、デバイス名、ドメイン、サービス エリア、電話ボタンテンプレート、タイプ、コールプロセッサ、コーリングサーチスペース、ルートパーティション、デバイスプール、およびユーザ ID を表示します。
[DNインベントリ (DN Inventory)]	Cisco Prime Collaboration Provisioning に設定されているすべての電話番号に対して、コールプロセッサ、ルートパーティション、コールピックアップグループ、使用状態、予約状態が表示されます。
[電話番号ブロック (Directory Number Block)]	Cisco Prime Collaboration Provisioning に設定されているすべての電話番号ブロックに対して、サービス エリア、最初の番号、最後の番号、ブロック サイズ、最小長が表示されます。
[監査証跡 (Audit Trail)]	<p>次のイベントを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザのログイン • ユーザのログアウト • パスワードまたは PIN の変更 • パスワードまたは PIN のリセット • ボイスメール アカウントのロック解除 • アカウントのロック • アカウントのロック解除 • タイムアウト <p>監査証跡レポートの詳細については、監査トライアルレポート、(209 ページ) を参照してください。</p>

レポート	説明
[エンドポイント/回線不一致 (Endpoint/Line Mismatch)]	<p>次のエンドポイント/回線不一致レポートを使用して、エンドポイントに関連付けられていない回線を特定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [回線未割り当てのユーザ (Users without Lines)] • [回線割り当て済み/エンドポイント未割り当てのユーザ (Users with Lines but No Endpoints)] • [未割り当ての回線 (Unassigned Lines)]

Provisioning のレポートを表示するには、[レポート (Reports)] > [インタラクティブレポート (Interactive Reports)] > [Provisioning のレポート (Provisioning Reports)] を選択します。

[レポート (Reports)] メニューの [Communications Manager のレポート (Communication Manager Reporting)] リンクをクリックし、[Communications Manager のレポート (Communication Manager Reporting)] ページを起動します。このページには、Cisco Prime Collaboration Provisioning に設定されているすべての Communication Manager デバイスが一覧表示されます。特定の Communication Manager リンクをクリックすると、Cisco Unified Reporting アプリケーションが、その Communication Manager に対して相互起動されます。

エンドポイント インベントリ レポートの生成

エンドポイント インベントリ レポートを生成するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [レポート (Report)] > [インタラクティブレポート (Interactive Reports)] > [エンドポイントインベントリ (Endpoint Inventory)] を選択します。
- ステップ 2** ドメインとエンドポイント モデルを選択します。
- ステップ 3** 次のいずれかを実行します。
- 検索を実行して検索結果を表示するには、[検索 (Search)] をクリックします。
 - 検索を実行して検索結果を .tsv 形式で表示するには、[エクスポート (Export)] をクリックします。検索結果は、タブ区切り値の形式でエクスポートされます。
- ステップ 4** 設定をデフォルトに変更するには、[リセット (Reset)] をクリックします。
- ステップ 5** [レポートをスケジュールする日時の選択 (Select date and time to schedule report)] リンクをクリックします。
- ステップ 6** 予定表のウィンドウから日付と時刻を選択します。
- ステップ 7** UTC オフセットまたは場所の詳細を選択します。
- ステップ 8** [選択 (Select)] をクリックして、レポートのスケジュール日時を設定します。

サーバで、スケジュールされたレポートが `opt\cupm\sep\ipt\config\reports\Endpoint_Inventory_Search<Report Generated Time>.tsv` に保存されます。

- (注) 検索されたエンドポイントが 5000 を超える場合は、最初の 5000 検索レコードだけがレポートに表示されます。5000 を超えるエンドポイントのレポート全体を表示するには、[エクスポート (Export)] または [スケジュール (Schedule)] オプションを使用できます。また、[ドメイン (Domain)] および [モデル (Model)] フィルタを使用して、検索範囲を絞り込んでレポート サイズを縮小できます。

[エンドポイントの管理 (Manage Endpoints)] ページから [エンドポイントインベントリ (Endpoint Inventory)] レポートを生成することも可能です。

- 1 [展開 (Deploy)] > [プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory)] > [エンドポイントの管理 (Manage Endpoints)] を選択します。
- 2 [ドメイン (for domain)] フィールドで、レポート表示の対象とするドメインを選択します。
- 3 [エンドポイントの検索 (Search Endpoint)] をクリックします。
[エンドポイントインベントリレポート (Endpoint Inventory Report)] で、エンドポイントの横の [編集 (Edit)] をクリックし、[エンドポイントインベントリ管理 (Endpoint Inventory Management)] ページを起動します。このフィールドにはエンドポイントの情報が入力されています。



- (注) エンドポイント インベントリを検索するには、ポリシー グループまたは管理者グループのメンバーとしてログインしている必要があります。

監査トライアル レポート

次の表に、監査トライアル レポートに表示されるフィールドを示します。

フィールド	説明
[操作 (Action)]	これには、ログイン、ログアウト（または管理者による強制ログアウト）、タイムアウト（UI が 30 分以上アイドル状態）、（ログイン試行回数の超過による）アカウントのロック、ユーザまたはボイスメールのアカウントのロック/ロック解除、パスワード/PIN の変更、パスワード/PIN のリセットなどが含まれます。
[実行者 (Performer)]	操作を実行したユーザ。ユーザまたは管理者の場合があります。タイムアウトなどのシステム操作を除きます。タイムアウトの場合、アクションはプログラム (Prime Collaboration Provisioning) により実行されます。
[実行者ドメイン (Performer Domain)] および [ユーザドメイン (User Domain)]	実行者またはユーザが属するドメイン グループ。globaladmin の場合、ドメインのグループ化はこのシステムアカウントには適用されないため、実行者およびユーザ ドメインは表示されません。

フィールド	説明
[ユーザ (User)]	実行されたイベント/操作の対象者。
[プロセッサ (Processor)]	ログインしたユーザの IP アドレスが表示されます。
[日付 (Date)]	イベントの日付と時刻。
[説明 (Description)]	ユーザがログインしていた時間（時間:分:秒の形式）が表示されます。
[結果 (Result)]	実行された操作が成功したかどうかが表示されます。たとえば、パスワード変更の試行が失敗した場合は、その結果がパスワード UI および監査トライアル レポートに反映されます。

監査ログ トライアル レポートを使用してオーダーを追跡することもできます。これは、ユーザによって実行されたアクティビティを追跡し、操作がいつ実行されたのか識別するために役立ちます。たとえば、ユーザのログインイベントまたはログアウトイベントに基づいて、特定のユーザがログイン中に作成したオーダーを検索できます。ユーザによって作成されたオーダーを検索するには、[展開 (Deploy)]>[履歴の検索 (Search History)]を選択し、[作成者 (Author)]フィールドにユーザ ID を入力します。



第 9 章

ユーザの管理

・ [ユーザの管理, 211 ページ](#)

ユーザの管理

ユーザとは、アクティブな IP テレフォニー サービスを利用しているユーザを意味します。Cisco Prime Collaboration Provisioning では、ユーザの追加、ユーザ情報の同期、サービスの再適用、ユーザ情報の更新、ドメイン固有のユーザ権限が可能です。

ユーザ権限とは、組織内でユーザが持っている権限を指します。この権限に応じて、各ユーザが利用できるサービスが決まります。ユーザ権限は、システム側で事前に定義しておきます。



(注)

アウトオブバンドで設定を行う場合（プロセッサに対して直接設定を行うが、Cisco Prime Collaboration Provisioning との同期を行わない場合）は、オーダーに失敗することがあります。Cisco Prime Collaboration Provisioning は、プロビジョニングするプロセッサと常に同期させる必要があります。

ユーザの追加

ユーザを追加するには、以下の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 [展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] を選択します。
- ステップ 2 [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] ページで、[追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 3 [ユーザの追加 (Add User)] ウィンドウで、[ユーザ ID (User ID)]、[ドメイン (Domain)]、[姓 (Last name)] を入力します。さらに、必要に応じて他のフィールドに値を入力します。

[追加設定 (Additional Settings)] ペインを展開して、ロケーションおよび連絡先の詳細を入力します。

特定のドメインまたはユーザ権限のクイック ビューを起動するには、ドメインやユーザ権限の選択時に、ドロップダウン メニューをクリックして、[クイックビュー (Quick View)] アイコンにマウスを移動します。

ステップ 4 [保存してプロビジョニングを開始 (Save and Begin Provisioning)] ドロップダウンで、次の操作を実行します。

- 詳細を保存し、ユーザの [サービスのプロビジョニング (Service Provisioning)] ページを開くには、[保存してプロビジョニングを開始 (Save and Begin Provisioning)] をクリックします。
- 詳細を保存し、別のユーザを追加するには、[保存して追加を続行 (Save and Add Another)] をクリックします。
- 詳細を保存して[ユーザの追加 (AddUser)] ウィンドウを閉じるには、[保存して閉じる (Save and Close)] をクリックします。

- (注)
- サービスが関連付けられているユーザを削除する場合は、ユーザを削除する前にサービスの関連付けを解除するように通知されます。
 - ユーザを追加するには、[インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)] ページの [LDAP 統合 (LDAP integration)] フィールドを [なし (None)] にする必要があります。
 - ユーザ ID は一意でなければなりません。大文字と小文字は区別されません。使用できる文字は、英数文字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9)、アンダースコア (_)、ハイフン (-)、ピリオド (.)、アポストロフィ (')、スペース ()、およびアットマーク (@) です。
 - LDAP 統合プロビジョニング ドメインのローカル ユーザは CUCM でのみローカル ユーザとなります。
 - LDAP ユーザの場合、[追加設定 (Additional Settings)] ペインにある [マネージャのユーザ ID (Manager User ID)]、[ディレクトリ URI (Directory URI)]、および [ボイスメールの電子メール ID (Voicemail email ID)] 以外のすべてのフィールドは、LDAP 同期を実行する場合にのみ LDAP の値で更新されます。
 - Cisco Unified Communications Manager Express や Cisco Unity Express のユーザ名を作成する場合は、[名 (First Name)] および [姓 (Last Name)] のフィールドにアルファベットだけを入力してください。それ以外のタイプの文字を使用した場合、ユーザのオーダーは失敗します。
 - コールプロセッサのユーザ名を作成する場合、[名 (First Name)] および [姓 (Last Name)] のフィールドに入力できる文字の合計数は 30 文字です。この上限を超えた状態でプロビジョニングすると、コールプロセッサからエラーメッセージが送信されます。
 - 疑似権限では、コールプロセッサでユーザが関連付けられていないエンドポイントをプロビジョニングできます。
 - ユーザの権限を選択する際は、組織内での従業員の標準的な設定に合わせて、デフォルトまたは Employee ユーザ権限を設定しておく必要があります。デフォルトまたは Employee ユーザ権限をニーズに合わせて設定しておかないと、従業員ユーザ レコードに必要なオプションが記録されなくなります。
 - DefaultUserType ルール (権限ロールの概要、(222 ページ)) は、デフォルトとして設定するユーザ権限を制御します。Cisco Prime Collaboration Provisioning では、Employee ユーザ権限がデフォルトのユーザ権限として設定されます。Cisco Prime Collaboration Provisioning でドメインのデフォルトのユーザ権限名を更新する場合は、DefaultUserType ルールをそのドメインの新しいデフォルトの権限名に更新してください。
 - ユーザ名を変更しても、(エンドポイントや回線を以前のユーザ名でオーダーしている場合は) ユーザのエンドポイントや回線の説明フィールドは変更されません。
 - Cisco Unified Communications Manager Express および Cisco Unity Express の場合は、[名 (First Name)] および [姓 (Last Name)] のフィールドにはアルファベットだけを入力してください。それ以外のタイプの文字を使用した場合、ユーザのオーダー

は失敗します。

- Cisco Unified Communications Manager の場合は、[名 (First Name)] および [姓 (Last Name)] のフィールドに入力できる文字の合計数は 30 文字になります。
- ユーザにサービスが関連付けられていない場合は、ユーザの削除について確認を求めるメッセージが表示されます。
- ユーザからサービスの関連付けが解除されても、サービスはデバイス（プロセッサ）から削除されず、関連付けも解除されません。Provisioning 内で関連付けが解除されるだけです。
- この後にドメインの同期が実行されると、同期ルールに応じてユーザが再度作成され、サービスをユーザに関連付けることができます。

[ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] からの CUCM と Unity Connection の相互起動に関するリンク

Prime Collaboration Provisioning では、管理者は選択したユーザに対して、マネージャの設定とアシスタントの設定の相互起動を許可することができます。管理者は、Prime Collaboration Provisioning からユーザ、エンドポイント、および回線に関するリンク ページを相互起動できます。Manager と Assistant の設定を相互起動する場合は、UI にアクセスして、サーバで直接アクションを実行できます。シングルサインオンを使用すると、いくつかのアプリケーションを相互起動できます。詳細については、「[Prime Collaboration のシングル サインオン](#)」を参照してください。

ユーザ向けのボイスメールサービスをプロビジョニングする場合、ボイスメールサービスからの相互起動リンクは、[通知デバイス (Notification Devices)]、[代行内線番号 (Alternate Extensions)]、[グリーティング (Greetings)]、[プライベート同報リスト (Private Lists)] となります。

Manager の設定と Assistant の設定の相互起動リンクを表示するには、[サービスの詳細 (Service Details)] ページで [ユーザ サービス (User Services)] ([展開 (Deploy)] > [ユーザ プロビジョニング (User Provisioning)] でユーザを選択) にマウス ポインタを移動し、[クイックビュー (Quick View)] アイコンをクリックします。

単一ユーザの移動

はじめる前に

単一ユーザの移動を行う前に、以下のことを確認します。

- このタスクを実行するには、管理者特権が必要です。
- ユーザは、サービス エリアに関係なく、同じコール プロセッサに属していればドメイン間で移行できます。
- ユーザは、同じドメインとコール プロセッサに属していればサービス エリア間で移行できます。

- ユーザは、異なるクラスタにある場合でも移動できます。

単一のユーザをドメイン間で移動するには、次を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] ページで、ユーザを選択して、[移動 (Move)] をクリックします。
[ユーザの移動 (Move User)] ウィンドウが開き、単一のユーザの移動に関するオプションが表示されます。
- ステップ 3** [新規ドメイン (New Domain)] ドロップダウンリストから、ユーザの移動先となる新しいドメインを選択します。
- ステップ 4** [新規サービスエリア (New Service Area)] ドロップダウン リストからサービス エリアを選択します。このドロップダウンでは、ユーザに設定されたサービスに基づいてドメイン内のサービス エリアがリストされます。たとえば、ユーザがボイスメール サービスを有効にしている場合、Cisco Unified Communications Manager に関連付けられていないサービス エリアは、このドロップダウンにはリストされません。
- ステップ 5** [すべてのサービスに適用 (Apply to All Services)] をクリックして、すべてのサービスを新しいサービス エリアに適用します。
新しい設定でサービスを更新する場合でも、サービスを選択し、その特定のサービスのための新しいサービス エリアとテンプレートを選択できます。
選択したサービスにサービス エリアの属性設定だけを適用するには、[サービスエリアとテンプレートの設定を保持 (Keep Service Area and Template Settings)] チェック ボックスをオンにします。
(注) このチェック ボックスをオンにすると、サービス テンプレート設定は適用できません。
- ステップ 6** 設定を保存し、[ユーザの移動 (Move User)] をクリックすると、単一のユーザの移動が開始されます。
移動が正常に完了すると、そのユーザに新しいオーダーが作成されます。
(注) 移動ステータスを表示するには、[クイック ビュー (Quick View)] にマウス ポインタを置きます。
-

バルク ユーザの移動

はじめる前に

バルク ユーザの移動を行う前に、以下のことを確認します。

- このタスクを実行するには、管理者特権が必要です。

- 一括移動に選択されたすべてのユーザは、同じドメインとクラスタに属する必要があります。
- 一括移動はマルチクラスタのユーザには実行できません。

ユーザをドメイン間で移動するには、次を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] ページで、ユーザを選択して、[移動 (Move)] をクリックします。
[一括移動 (Bulk Move)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** [新規ドメイン (New Domain)] ドロップダウンリストから、ユーザの移動先となる新しいドメインを選択します。
- ステップ 4** [新規サービスエリア (New Service Area)] ドロップダウンリストからサービス エリアを選択します。
- ステップ 5** 移動とともに新しいサービスエリアを設定する場合は、[エンドポイント設定 (Endpoint Settings)] と [回線の設定 (Line Settings)] を選択します。
この手順は任意です。この手順をスキップすると、既存のサービスエリアの設定で、新しいサービス エリアにユーザを移動します。
- ステップ 6** 一括移動を開始するには、[ユーザの移動 (Move User)] をクリックします。
移動が正常に完了すると、そのユーザに新しいオーダーが作成されます。
- (注) 一括移動のステータスを表示するには、[クイックビュー (Quick View)] にカーソルを置くか、[一括移動ステータス (Bulk Move Status)] をクリックして移動の詳細情報を表示します。
-

テキスト ファイルによるユーザのインポート

Cisco Prime Collaboration Provisioning では、以下の方法によって、一度の操作で複数のユーザをインポートできます。

- テキスト ファイル (TXT) 形式のファイルの使用
- LDAP サーバの使用

個々のユーザを追加する方法については、[ユーザの追加](#)、(211 ページ) を参照してください。
テキスト ファイルを使用してユーザをインポートするには、以下の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] > [ユーザのインポート (Import Users)] の順にクリックします。
- ステップ 2** [ユーザのインポート (Import Users)] ダイアログボックスで、[From File] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 3** [参照 (Browse)] をクリックして、ユーザ インポート ファイルを選択します。
参考のために、[ユーザのインポート (Import Users)] ダイアログボックスで使用可能なサンプル インポート ファイルをダウンロードできます。Excel でサンプル ファイル (.txt) を編集して、更新したスプレッドシートをタブ区切りテキスト ファイルとして保存し、そのファイルをインポートできます。[OrderType]、[UserID]、[LastName]、[Domain] は必須フィールドです（残りのフィールドは必須ではありません。空白のままにすることができます）。
- ユーザに対して自動プロビジョニングを有効にする場合は、[DoNotAutoProvisionServices] フィールドに「False」を設定する必要があります。さらに、[Auto-Provisioning ServiceArea] フィールドと [Auto-Provisioning Line Type] フィールドにも値を入力する必要があります。回線タイプとして [選択した回線 (Chosen Line)] を選択した場合は、[Auto-Provisioning Directory Number] フィールドに値を入力する必要があります。
- (注) [ユーザID (User ID)] フィールドで使用できる文字は、英数文字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9)、アンダースコア (_)、ハイフン (-)、ピリオド (.)、アポストロフィ (')、スペース ()、およびアットマーク (@) です。
- ステップ 4** [インポート (Import)] をクリックします。
インポートするファイルを選択するまで、[インポート (Import)] ボタンは無効のままです。[インポート (Import)] ボタンをクリックすると、[ユーザのインポート (Import Users)] ページにファイルのインポート ステータスが表示されます。前回インポートしたファイルのインポート ステータスを表示するには、[View Last File Import Status] をクリックします。
- Cisco Prime Collaboration Provisioning は、ファイルにより提供される詳細情報に基づいてユーザを作成します。自動プロビジョニングを有効にすると（「True」に設定すると）、Cisco Prime Collaboration Provisioning は、アップロードされたファイルの自動プロビジョニング パラメータに基づき、ユーザに対してデフォルトのサービスをプロビジョニングします。

LDAP サーバからのユーザのインポート

ユーザを LDAP サーバからインポートするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [展開 (Deploy)]>[ユーザプロビジョニング (User Provisioning)]>[ユーザのインポート (Import Users)] の順にクリックします。
- ステップ 2** [ユーザのインポート (Import Users)] ダイアログボックスで、[From LDAP] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 3** ドメインを選択します。
DN 番号なしで同期化されたユーザ向けに選択したドメインで、電話番号ブロックが 使用できることを確認します。
- ステップ 4** [インポート (Import)] をクリックします。
最新の LDAP 同期レポートを表示するには、[最新のLDAP同期レポートの表示 (View Last LDAP Sync Report)] をクリックします。
(注) 自動プロビジョニングが有効になっているユーザロールにユーザをマッピングすると、設定されているサービスがそのユーザに対して自動的にプロビジョニングされます。
詳細については、[LDAP サーバの同期の設定](#)、(93 ページ) を参照してください。
-

ユーザ パスワードの管理

パスワードを変更したり、デフォルトにリセットしたり、アプリケーションへの初期ログイン後にパスワードを変更するようユーザに求めたりすることができます。パスワードを管理するには、適切な権限 ([表 41 : 権限ロールの説明](#)) が必要です。

次の情報を更新できます。

- Provisioning のログイン パスワード
- Cisco Unified Communications Manager のパスワード



(注) Cisco Unified Communications Manager が外部認証を使用するように設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager のパスワードは変更できません。Cisco Prime Collaboration Provisioning では、パスワードが（実際には更新されていないなくても）更新されていると示されます。

- Cisco Unified Communications Manager の暗証番号
- Cisco Unified Communications Manager Express のパスワード
- Cisco Unity Subscriber のパスワード
- Cisco Unity Connection の暗証番号
- Cisco Unity Connection Web のパスワード

Cisco Unity Connection Web のパスワードをリセットするときに、新しいパスワードが必要な長さに達しない場合は、次のエラーが発生します：Unity Connection Password: Failed to reset credential: The credential minimum length check failed. Minimum length = 8 (Unity Connection パスワード: クレデンシャルのリセットに失敗しました。クレデンシャルの最小長チェックに失敗しました。最小長 = 8)

- Unified CM の MLPP パスワード

このパスワードは、([サービスのプロビジョニング (Service Provisioning)] ページで) ユーザサービスの [MLPP ユーザ ID 番号 (MLPP User Identification Number)] と [MLPP 優先認証レベル (MLPP Precedence Authorization Level)] を設定した場合に限り、[暗証番号/パスワードの管理 (Manage PIN/Password)] オプションを使用して変更できます。

パスワードには、少なくとも次のうちのいずれか3種類を組み合わせる必要があります。

- 大文字の英字
- 小文字の英字
- 数字
- 特殊文字

パスワードを変更したり、パスワードを Provisioning システムのデフォルトにリセットしたり、アプリケーションへの次回ログイン時にパスワードを変更するようユーザに求めたりすることができます。ユーザパスワードのデフォルト値については、Provisioning 管理者、マネージドサービスプロバイダー、または企業の IT 部署にお問い合わせください。

デフォルトのパスワードは、次のルールによって制御されます。

- DefaultCUPMPassword
- DefaultCallManagerPassword
- DefaultCallManagerPIN
- DefaultCallManagerDigestCredentials
- DefaultUnitySubscriberPassword
- DefaultWebAccessPassword

ルールの詳細については、「[ビジネス ルールの概要](#)」を参照してください。



(注) ユーザのパスワードをリセットした後で、パスワードの変更に必要なデフォルト値をユーザに通知する必要があります。

パスワードを変更したり、パスワードをリセットしたり、アプリケーションへの次回ログイン時にパスワードを変更するようユーザに求めたりするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** 該当ユーザの [ユーザの管理 (Manage User)] ページを開きます (「[ユーザの追加](#)」を参照)。
- ステップ 2** [パスワードの管理 (Manage Passwords)] をクリックします。
- ステップ 3** [パスワード管理 (Password Management)] ページで、修正する [パスワード (Password)]、[暗証番号 (PIN)]、または [ダイジェスト信用証明書 (Digest Credentials)] を選択できます。ドロップダウンリストから変更するパスワードを選択します。
- ステップ 4** 次のいずれかを実行します。
- パスワードを変更するには、新しいパスワードを指定して (確定し)、[適用 (Apply)] をクリックします。
 - パスワードをデフォルトに設定するには、[パスワードのリセット (Reset Password)] をクリックします。
 - アプリケーションへの次回ログイン時にパスワードを変更するようユーザに求めるには、[ユーザにプロンプトを表示する (Prompt User)] をクリックします。
- ステップ 5** [完了 (Done)] をクリックして確定します。
-

パスワード作成中は次のルールが適用されます。

- ユーザ名と同じ文字列や、ユーザ名を逆にした文字列はパスワードに使用できません。
- パスワードでは、4 回以上続けて同じ文字を繰り返すことはできません。
- 次の文字列はパスワードに使用できません。
 - Cisco またはその逆
 - Cisc0 (o の代わりにゼロを使用)
 - C!sco (i の代わりに感嘆符を使用)
 - Ci\$co (s の代わりにドル記号を使用)
 - 以前のパスワードの大文字と小文字を変えたもの
- パスワードには、小文字、大文字、特殊文字、および数字を含める必要があります。
- 必要な最小文字数は 8 文字です (デフォルトの文字数ですが、変更できます)。
- 許容される最大文字数は 80 文字です (デフォルトの文字数ですが、変更できます)。

Cisco Prime Collaboration Provisioning では、パスワードポリシーは passwordpolicy.properties というファイル名で opt/cupm/sep に保存されます。必要に応じて、プロパティファイルを修正してパスワードポリシーを変更できます。パスワードポリシーを修正した場合は、常に Cisco Prime Collaboration Provisioning を再起動する必要があります。



(注)

- Cisco Prime Collaboration Provisioning を Assurance サーバと統合する予定の場合は、管理者ユーザの Assurance パスワード ポリシーに必ず準拠してください。
- Cisco Prime Collaboration Provisioning のユーザは、パスワードを使用してコールプロセッサにログインし、自分に関連付けられているエンドポイントの設定詳細を表示して編集できます。

Cisco Unified Communications Manager Express では各ユーザに関連付けられるエンドポイントは 1 つのみですが、Cisco Prime Collaboration Provisioning ではこの制限が解消され、各ユーザに複数のエンドポイントに関連付けられるようになりました。

Cisco Unified Communications Manager Express では、2 つ目以降のエンドポイントに同じユーザ名を使用し、その後にチルダ (~) と 1 から始まるシーケンス インデックスを付けることによって新しいユーザが作成されます (たとえば、TestUser と TestUser~1)。ユーザが Cisco Unified Communications Manager Express の Web インターフェイスを介してエンドポイントの詳細を表示するためには、正しいユーザ名を使用する必要があります。

Cisco Prime Collaboration Provisioning でパスワードの値を変更すると、Cisco Unified Communications Manager Express の対応するユーザ名がすべて変更されます。

ユーザの同期

Cisco Prime Collaboration Provisioning のユーザデータは、コールプロセッサおよび Unity Connection のユーザデータと同期しています。同期の詳細については、「[ドメインの同期の概要](#)」を参照してください。

ユーザを同期させる際には、次の点に注意してください。

- 最初に Cisco Unified Communications Manager Express でユーザを作成し、その後、Cisco Prime Collaboration Provisioning と同期させると、そのユーザのユーザ名と電話番号のフィールドに [不明 (Unknown)] と表示されることがあります。

ユーザ情報は Cisco Prime Collaboration Provisioning を介してアップデートできますが、この情報は Cisco Unified Communications Manager Express システムに適用され、ephone 記述フィールドの既存のユーザ情報がすべて上書きされるので注意してください。

- ドメインおよびサービス エリアに存在するデバイスが Cisco Unified Communications Manager Express だけであり、Cisco Unified Communications Manager Express で ephone username コマンドが設定されていない場合は、ドメインの同期中、Cisco Prime Collaboration Provisioning でユーザが作成されません。

Cisco Unified Communications Manager Express ですべてのユーザに対して ephone username コマンドが設定されていることを確認してください。

- Cisco Unified Communications Manager Express では、ephone コンフィギュレーション モードで button コマンドを使用する場合、区切り文字としてコロン (:) だけを使用してください。Cisco Prime Collaboration Provisioning では、button コマンドの区切り文字としてコロンのみが

サポートされています。他の区切り文字を使用した場合、Cisco Prime Collaboration Provisioning では [ユーザ レコードの詳細 (User Record Details)] ページに回線が表示されません。エンドポイントだけが表示されます。

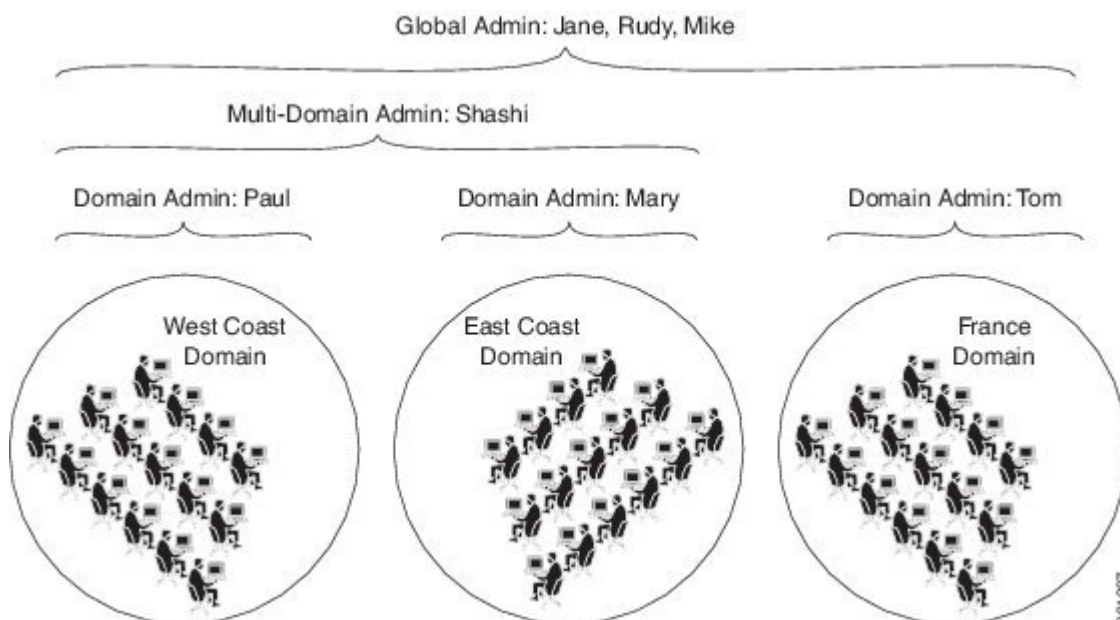
手順

-
- ステップ 1** [展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] を選択します。
- ステップ 2** ユーザのリストから、[クイックビュー (Quick View)] をポイントして [ユーザの同期 (Synchronize User)] をクリックします。
- (注) ドメインのユーザ数が多い場合は、同期に数分かかることがあります。
-

権限ロールの概要

Provisioning には、2 種類のユーザロール (グローバルロールとドメイン固有のロール) があります。Provisioning ユーザは、各自のロールに基づいて Provisioning でのさまざまなタスクの実行を許可されます ([権限ロールの概要](#), (222 ページ) および [表 41: 権限ロールの説明](#), (223 ページ) を参照)。次の例では、ドメイン管理者は特定のドメインに対して管理権限を持っています。管理者は、割り当てられたドメインに対してポリシーとルールを設定できます。複数ドメインの管理者は、複数のドメインに対して権限を持っています。グローバル管理者はすべての Provisioning 機能にアクセスできます。

図 2: Provisioning におけるグローバル ロールとドメイン固有のロール



Prime Collaboration Provisioning の Standalone アプリケーションと統合アプリケーションの両方でユーザ権限を作成できます。

新しくインストールされた Provisioning サーバ（ユーザ データを含む）と Assurance サーバを統合する際は、Assurance と Provisioning の両方に共通するユーザを作成するか、Provisioning の権限のみを作成することが可能です。Provisioning サーバに既存のユーザデータを接続すると、[ユーザ管理（User Management）] ページで globaladmin ロールと domain-admin ロールが自動的に同期されます。

次の点に注意してください。

- Provisioning を Assurance サーバに接続する前に作成された globaladmin ユーザと domain-admin ユーザだけが、統合された UI で自動的に同期されます。同期後に、globaladmin と domain-admin は Assurance の [ヘルプデスク（Helpdesk）] 権限を付与されます。詳細については、『[Cisco Prime Collaboration Assurance Advanced guide](#)』を参照してください。

Provisioning を Assurance サーバに接続する前に作成された globaladmin と domain-admin 以外のユーザは同期されません。たとえば、[オーダー（Ordering）] 権限、[承認（Approval）] 権限などを持つユーザは同期されません。これらのユーザは、統合された UI にログインできません。

- Provisioning を Assurance サーバに接続する前に作成された globaladmin と domain-admin 以外のユーザは同期されません。たとえば、[オーダー（Ordering）] 権限、[承認（Approval）] 権限などを持つユーザは同期されません。これらのユーザは、統合された UI にログインできません。
- 統合モードでは、[ユーザ管理（User Management）] ページで複数ドメインと単一ドメインのユーザを作成できます。
- [アクティビティ（Activity）] 権限は、Prime Collaboration Provisioning Advanced でのみ使用できます。このメニューは、Prime Collaboration Provisioning Standard ではサポートされていません。
- Prime Collaboration Provisioning Standard でオーダーを作成する際は、MAC アドレスまたはダミー MAC アドレスが必要です。

グローバル管理者ロールとドメイン管理者ロール以外に、Provisioning ユーザはオーダー ロールとアクティビティ ロールを持つことができます。オーダー ロールを持つ Provisioning ユーザは、特定ドメインのユーザ向けにオーダーを作成できます。詳細については、[表 41：権限ロールの説明](#)、(223 ページ) を参照してください。

表 41：権限ロールの説明

承認権限	説明
[グローバルな権限（Global Roles）]	
[管理（Administration）]	すべての Provisioning 機能にアクセスできます。
[メンテナンス（Maintenance）]	システムのクリーンアップアクティビティを設定できます。 「メンテナンス モード」を参照してください。

承認権限	説明
[ドメインの権限 (Roles for Domain)]	<p>ドロップダウンリストで、承認権限を設定するドメインを選択します。選択した権限は、選択したドメインにだけ適用されます。すべての使用可能なドメインに同じ承認権限を適用するには、[すべてのドメインに適用 (Apply to all domains)] を選択します。</p> <p>(注) 管理者が [すべてのドメインに適用 (Apply to all domains)] を選択した場合、全ドメインのユーザの既存の権限は、現在の選択内容で上書きされます。</p>
[ポリシー (Policy)]	電話ボタンテンプレートの表示、ユーザロールの修正、およびエンドポイント インベントリの追加または更新を行うことができます。
[インフラストラクチャ設定管理 (Infrastructure Configuration Management)]	インフラストラクチャ設定オブジェクトをプロビジョニングできます。この権限を選択する場合は、[権限プロファイル (Permission Profile)] ボックスからプロファイルも選択する必要があります。
[権限プロファイル (Permission Profile)]	この承認権限が割り当てられているインフラストラクチャ設定オブジェクトユーザが設定できる権限を設定します (権限の設定の詳細については、 インフラストラクチャ設定の権限の管理 , (226 ページ) を参照してください) 。
[SelfCareUser]	<p>自分のサービスを管理することを許可されています。回線の設定、サービスの管理、およびエンドポイント オプションの設定をすばやく簡単に実施できます。</p> <p>(注) [SelfCareUser] チェック ボックスは、そのドメインの CreateSelfCareAccounts ルールが有効になっている場合のみ使用できます。</p>
[オーダー権限 (Ordering Roles)]	これらの権限を割り当てられたユーザは、他のユーザや自分自身のオーダーを発行できます。
[オーダー (Ordering)]	<p>許可する操作:</p> <ul style="list-style-type: none"> ドメイン内のユーザの追加、削除、またはアップデート ドメイン内のユーザ権限の追加、削除、またはアップデート (ドメイン ルールで許可されている場合) ドメイン内のインベントリへのエンドポイントの追加、インベントリのエンドポイントの削除またはアップデート (ドメイン ルールで許可されている場合) ドメイン内の詳細ユーザ情報の検索と表示 ドメイン内のユーザに対するオーダーの発行

承認権限	説明
[詳細オーダー（Advanced Ordering）]	[オーダー（Ordering）] 権限によって指定されているすべての機能にアクセスできます。また、[オーダーエントリ（Order Entry）] ページの [詳細オーダー（Advanced Ordering）] オプションにもアクセスできます。
[詳細割り当て（Advanced Assignment）]	オーダー権限ロールによって指定されているすべての機能にアクセスできます。また、オーダーの入力時にエンドポイントの MAC アドレスを割り当てることができます。
[アクティビティ権限（Activity Roles）] これらの権限のいずれかを割り当てられたユーザは、オーダー処理中にグループに割り当てられているアクティビティを実行できます。	
[承認（Approval）]	オーダーを受け入れて承認を完了できます。
[割り当て（Assignment）]	MACアドレスを割り当てるユーザアクティビティを受け入れることができます。
[出荷（Shipping）]	オーダーを受け入れて出荷を完了できます。
[受領（Receiving）]	オーダーを受け入れて受領を完了できます。

ユーザ権限の編集



- (注) グローバルな権限はシステム全体に適用され、ドメイン権限はユーザが属するドメインにだけ適用されます。

表 41：権限ロールの説明には、スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning と統合アプリケーションの Provisioning の両方で利用可能な承認権限が示されています。

スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning と統合アプリケーションの両方で、[ユーザ管理（User Management）] ページからこれらの承認権限を作成し、管理することができます。

統合アプリケーションで承認権限を管理するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 [管理（Administration）] > [ユーザ管理（User Management）] を選択します。
- ステップ 2 編集するユーザ名を選択して [編集（Edit）] をクリックします。
- ステップ 3 必要な変更を保存します。

スタンドアロンの *Prime Collaboration Provisioning* アプリケーションで承認権限を管理するには、次の手順を実行します。

- ステップ 4** [管理 (Administration)] > [ユーザとデバイスのアクセス管理 (Users and Device Access Management)] > [ユーザ管理 (User Management)] を選択します。
- ステップ 5** [ユーザの管理 (Manage User)] ページで、[ユーザID (User ID)] フィールドの横の [選択 (Chooser)] アイコンをクリックします。
- ステップ 6** 割り当てられた権限フィールドの横にある [編集 (Edit)] をクリックします。[ユーザ認証権限の割り当て (Assign User Authorization Roles)] ページが表示されます。
ヒント [承認権限の管理 (Manage Authorization Roles)] をクリックして [ユーザ認証権限の割り当て (Assign User Authorization Roles)] ページにアクセスすることもできます。
- ステップ 7** ユーザに割り当てる権限を選択します。
- ステップ 8** [更新 (Update)] をクリックします。
- ステップ 9** [完了 (Done)] をクリックします。

[ユーザ管理 (User Management)] ページでは、次の情報を変更できます。

- ユーザ氏名
- ユーザの名
- ユーザの姓
- ユーザの電子メール
- グローバル プロビジョニング権限 (管理またはメンテナンス)
- ドメインのプロビジョニング権限

統合モードでは、Add User 機能により作成されたユーザは Web クライアントにのみ適用され、これらのユーザは CLI から Assurance サーバや Provisioning サーバにログインできません。

インフラストラクチャ設定の権限の管理

[インフラストラクチャ設定の権限プロパティ (Infrastructure Configuration Permission Profiles)] ページで、[インフラストラクチャ設定管理 (Infrastructure Configuration Management)] 承認権限を持つユーザが、設定目的でいずれかのインフラストラクチャ設定製品のアクセス権を持つように権限を設定します。

インフラストラクチャ設定の権限プロファイルの作成

手順

- ステップ 1 [管理 (Administration)]>[ユーザとデバイスのアクセス管理 (Users and Device Access Management)]>[インフラストラクチャ設定権限 (Infrastructure Configuration Permissions)] を選択します。
- ステップ 2 [インフラストラクチャ設定の権限プロファイル (Infrastructure Configuration Permission Profiles)] ページで、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3 [権限プロファイル設定 (Permission Profile Configuration)] ページで、名前を入力します。使用できる文字は、英数文字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9)、アンダースコア (_)、ハイフン (-)、ピリオド (.)、スペース ()、およびアットマーク (@) です。
- ステップ 4 (オプション) 説明を入力します。
- ステップ 5 [サービス (Services)] ペインで、設定できるようにするプロファイルの製品を選択します。
- ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

インフラストラクチャ設定の権限プロファイルの更新

手順

- ステップ 1 [管理 (Administration)]>[権限プロファイル (Permission Profiles)] を選択します (スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning アプリケーションで、[管理 (Administration)]>[ユーザとデバイスのアクセス管理 (Users and Device Access Management)]>[インフラストラクチャ設定権限 (Infrastructure Configuration Permissions)] を選択すると表示されます)。
- ステップ 2 [インフラストラクチャ設定の権限プロファイル (Infrastructure Configuration Permission Profiles)] ページで、更新するプロファイルをクリックします。
- ステップ 3 [権限プロファイル設定 (Permission Profile Configuration)] ページで、目的の変更を行います。
- ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

インフラストラクチャ設定の権限プロファイルの削除

手順

- ステップ 1 [管理 (Administration)]>[権限プロファイル (Permission Profile)] を選択します (スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning アプリケーションで、[管理 (Administration)]>[ユーザとデ

バイスのアクセス管理 (Users and Device Access Management)]>[インフラストラクチャ設定権限 (Infrastructure Configuration Permissions)]を選択すると表示されます)。

ステップ 2 [インフラストラクチャ設定の権限プロファイル (Infrastructure Configuration Permission Profiles)] ページで、削除するプロファイルをクリックします。

ステップ 3 [インフラストラクチャ設定の権限プロファイル (Infrastructure Configuration Permission Profiles)] ページで、[削除 (Delete)] をクリックします。

ユーザのユーザ レコードへのアクセス

スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning アプリケーションにアクセスするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [展開 (Deploy)]>[ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] を選択します。

ステップ 2 目的のユーザをクリックします。

ステップ 3 [サービスのプロビジョニング (Provision Services)] をクリックします。

アクティブセッションの表示またはログアウト

アクティブセッションを表示し、単一または複数のアクティブセッションをログアウトさせることができます。

手順

ステップ 1 スタンドアロンモードでは、[管理 (Administration)]>[ユーザとデバイスのアクセス管理 (Users and Device Access Management)]>[ログインしたユーザ (Logged In Users)] を選択します。 コンバージドモードでは、[レポート (Reports)]>[管理レポート (Administrative Reports)]>[ログオンしたユーザ (Who Is Logged On)] を選択します。

[ログインしたユーザ (Logged In Users)] ページが表示され、アクティブセッションのリストが表示されます。

ステップ 2 単一または複数のセッションをキャンセルするには、終了するセッションを選択します。

ステップ 3 [ログアウト (Log out)] をクリックします。

選択したセッションおよびユーザが、サーバからログアウトされます。

(注) [ログインしたユーザ (Logged In Users)] および [ロックされたユーザ (Locked Users)] にアクセスできるのは globaladmin だけです。

グローバル検索ツールの使用方法

検索ツールを使用して、次の作業を実行できます。

- ユーザの特定
- MAC アドレスの特定
- 電話番号の特定

表示ペインの上部にある検索フィールドを使用して検索するには、次の手順を実行します。

手順

-
- | | |
|---------------|--|
| ステップ 1 | ホームページの右上隅にあるドロップダウンリストから、[Provisioningデータ (Provisioning Data)] を選択します。 |
| ステップ 2 | 検索フィールドのドロップダウン リストから [ユーザID (User ID)]、[姓 (Last Name)]、[MAC アドレス (MAC Address)]、または [電話番号 (Directory Number)] を選択します。 |
| ステップ 3 | 有効な情報を入力します。 |
| ステップ 4 | Enter を押して検索を開始します。完全一致がある場合は、そのユーザまたはエンドポイント デバイスに移動します。 |
-



第 10 章

Prime Collaboration Self-Care の使用方法

- [Prime Collaboration Self-Care の概要, 231 ページ](#)

Prime Collaboration Self-Care の概要

Prime Collaboration が提供する Self-Care ポータルでは、ユーザ名やパスワードなどのプリファレンス設定を制御できます。Self-Care ポータルを使用して、自分のアカウントやサービスを更新することができます。Self-Care 機能によって、回線設定の変更、サービスの管理、電話オプションの設定が可能になります。

Cisco Unified Communications Manager 10.0 以上のバージョンでは、新たな Self-Care 機能が導入されました。この Self-Care 機能には Cisco Unified CM からのみアクセスできます。Prime Collaboration Self-Care、つまり Cisco Unified CM 10.x 以前の Prime Collaboration Provisioning の Self-Care は引き続き使用できます。



(注)

Prime Collaboration Self-Care は、CM ベースの Self-Care に加えて、Cisco Unified CM 10.0 以上および Cisco Unity Connection 10.0 以上でも使用可能です。Prime Collaboration Self-Care を使用しない場合、管理者は [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] ページの [Prime Collaboration Self-Care を有効 (Enable Prime Collaboration Self-Care)] チェックボックスをオフにする必要があります。

Cisco Unified Communications Manager Self-Care は、Cisco Unified CM 10.0 以上と Cisco Unity Connection 10.0 以上のみの環境、または、ユーザが 1 つの Cisco Unified CM 10.x クラスタでのみサービスを受けている環境でを使用することをお勧めします。



(注)

Cisco Unified Communications Manager が 2 名以上のユーザ間で共有されているときに、1 名以上のユーザが LDAP を使用している場合は、Cisco Unified Communications Manager のバージョンにかかわらず Prime Self-Care が使用されます。

Prime Collaboration Self-Care を有効にするには、[Self-Care アカウントの作成](#)、(232 ページ) を参照してください。

CM ベースの Self-Care を有効にするには、[『Cisco Unified Communications Self Care Portal User Guide』](#) を参照してください。

Self-Care アカウントの作成

Prime Collaboration Provisioning のスタンドアロンまたは統合アプリケーションでは、Self-Care アカウントを作成できます。作成するユーザごとに Self-Care を有効または無効にできます。



(注)

- Self-Care 権限を割り当てるには、新しいドメインを作成する際に `CreateSelfCareAccounts` ルールを有効にする必要があります。 `CreateSelfCareAccounts` ルールは、デフォルトで無効になっています。
- Self-Care Migration Utility を実行して、既存のドメインの Self-Care 権限を割り当てることもできます。これにより、既存のユーザの Self-Care 権限が有効になります。詳細については、[Self-Care ユーザ移行スクリプト](#)、(240 ページ) を参照してください。
- [SelfCareUser] チェックボックスは、`CreateSelfCareAccounts` ルールが有効な場合にのみ使用できます。
- ユーザの作成後、そのユーザは、`globaladmin` または `domain-admin` がアカウントパスワードを変更した後に限り、Self-Care にログインできるようになります。デフォルトでは、ユーザのパスワードは空です。[DefaultCUPMPassword] データ フィールドでデフォルトのパスワードを指定し、[有効 (Enabled)] を [はい (true)] に設定して、デフォルトのパスワードを設定します。

ユーザの Self-Care アカウントを作成するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 [展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] を選択します。
- ステップ 2 [ユーザの追加 (Add User)] をクリックして、[Prime Collaboration Self-Careを有効 (Enable Prime Collaboration Self-Care)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 3 必要なユーザ情報を入力して保存します。

バッチ プロビジョニングを使用した Self-Care の有効化と無効化

新しいユーザの作成時に、バッチ プロビジョニングを使用して Self-Care を有効にできます。Self-Care をユーザに対して有効にするには、バッチ操作ファイルで承認権限を `SelfCareUser` として提供します。

バッチプロビジョニングを使用して、既存ユーザの Self-Care 権限の有効または無効を切り替えることもできます。有効にする場合は SelfCareUser として承認権限を提供し、無効にする場合はバッチ操作ファイルで何も提供しません。



(注) Self-Care アカウントを作成するには、ドメインに対して CreateSelfCareAccounts ルールを有効にする必要があります。

バッチ プロビジョニングの詳細については、[バッチ プロジェクトの管理](#)、(179 ページ) を参照してください。

Prime Collaboration Self-Care の開始

ユーザ権限に応じて Self-Care を開始できます。



(注) IE 10 を使用している場合、Self-Care ポータルを正常に機能させるには [標準 (Standards)] モードを選択する必要があります。

Self-Care 権限だけを持つユーザは、ログイン後にセルフケア ポータルが表示されます。

手順

ステップ 1 ブラウザで `http://<provisioning-ip>/cupm/selfcareuser/Login` と入力します。

ステップ 2 Self-Care クレデンシャルを使用してログインします。
ユーザには Self-Care 権限しかないため、アクセスできるのは Self-Care メニューだけです。このようなユーザは Provisioning メニューを利用できません。

[個人設定 (Personal Settings)] からの Prime Collaboration Self-care の開始

ユーザに他の承認権限 ([メンテナンス (Maintenance)]、[オーダー (Ordering)]、[アクティビティ (Activity)] 権限など) に加えて [Self-Care] 権限もある場合は、[個人設定 (Personal Settings)] から Self-Care を開始できます。

[個人設定 (Personal Settings)] を開始するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** クレデンシャルを使用して Provisioning にログインします。
- ステップ 2** [展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] を選択します。
- ステップ 3** ユーザを選択して [サービスのプロビジョニング (Provision Services)] をクリックします。
- ステップ 4** [個人設定 (Personal Settings)] を選択し、選択したユーザの Self-Care オプションを更新します。
-

ユーザのクイック ビューから、[Self-Careの開始 (Launch Self-Care)] をクリックできます。

個人設定のカスタマイズ

Self-Care を使用すると、次の電話の用途に関して、個々の属性や個人の初期設定を設定できます。

- スピードダイヤル番号、サイレント機能のオプション、および保留音の設定などの電話オプション
- エクステンション モビリティとシングル ナンバー リーチのオプションを設定できる、プロフィールのオプション
- コールの転送、発信者 ID、通知など、特定の電話回線のオプション
- パスワード、暗証番号 (PIN) など、電話のユーザに関するユーザ オプション

/opt/cupm/sep/ipt.properties ファイルを更新して、Self-Care ポータルの [電話の設定 (Phone Settings)]、[回線の設定 (Line Settings)]、および [ユーザ設定 (User Settings)] に表示される機能の表示と非表示を切り替えることができます。たとえば、[電話の設定 (Phone Settings)] の機能を設定する場合は、次のように入力します。

```
enabled features for Phone Settings should be provided as follows:
General,SpeedDials,DoNotDisturb,Locale,MusicOnHold,Others
dfc.ipt.selfcare.phone.features=General,SpeedDials,DoNotDisturb,Locale,MusicOnHold,Others#
```



- (注) ipt.properties ファイルを更新するには、ルートユーザとしてログインする必要があります。変更を有効にするためには、cupm サービスを再起動する必要があります。
-

Self-Care オプションを設定するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** ブラウザで次を入力します : <http://<provisioning-ip>/cupm/ipt/selfcare/home.html>。
- ステップ 2** ユーザ名とパスワードを入力します。
- Self-Care ポータル画面が表示されます。 Self-Care ポータル画面は、次の要素で構成されます。

- 電話カラーセル：（画面左下の）電話カラーセルには、設定可能な電話とサービスプロファイルのアイコンがあります。アイコンのいずれかの横側をクリックすると、追加の電話またはプロファイルを表示できます。
- メイン メニュー：（電話カラーセル右側の）メイン メニューのオプションは、[電話の設定（Phone Settings）]、[回線の設定（Line Settings）]、および [ユーザ設定（User Settings）] です。電話カラーセルで選択した内容に応じて、[電話の設定（Phone Settings）] オプションは、[エクステンションモビリティの設定（Extension Mobility Settings）] または [シングル ナンバー リーチの設定（Single Number Reach Settings）] に変化します。
- 設定エリア：選択したメイン メニューの設定可能なカテゴリが次に表示されます。[スピードダイヤル（Speed Dials）] などのカテゴリをクリックすると、画面の右側に設定可能なオプションが表示されます。

ステップ 3 電話カラーセルで、設定する電話またはプロファイルを選択します。

ステップ 4 [回線の設定（Line Settings）] メニューで、設定するオプションに対応する適切な回線を選択していることを確認します。

Self-Care ポータルで設定可能なオプションは次のとおりです。

- [電話機またはエクステンション モビリティ設定（Phone or Extension Mobility Settings）] の設定
- [シングル ナンバー リーチの設定（Single Number Reach Settings）] の設定
- [回線の設定（Line Settings）] の設定
- [ユーザ設定（User Settings）] の設定

電話およびエクステンション モビリティの設定

次の表に、Self-Care を使用して実行できる電話とエクステンション モビリティの設定を示します。

表 42：電話およびエクステンション モビリティの設定

設定	説明	手順
[一般（General）]	電話の MAC アドレスを更新します。	[電話の設定（Phone Settings）] > [MAC アドレス（MAC Address）] を選択し、電話の有効な MAC アドレスを入力して、[保存（Save）] をクリックします。

設定	説明	手順
[スピードダイヤル (Speed Dials)]	スピードダイヤル用の電話番号を追加します。 スピードダイヤルの間隔を空けるには、数字の間にカンマを追加します。任意の数のカンマを追加できます。カンマ1個あたりのデフォルトの遅延は2秒間です。	[電話の設定 (Phone Settings)]>[スピードダイヤル (Speed Dials)]を選択し、[追加 (Add)]をクリックします。必要な情報を入力し、[保存 (Save)]をクリックします。
[サイレント (Do Not Disturb)]	[サイレント (Do Not Disturb)]機能を有効または無効にします。 [サイレント (Do Not Disturb)]機能が有効になっているとき、着信コールがあった場合に実行するアクションを選択します。	[電話の設定 (Phone Settings)]>[サイレント (Do Not Disturb)]を選択し、[[サイレント]を有効にする (Enable Do Not Disturb)]チェックボックスをオンにします。
[ロケール (Locale)]	作業とネットワークでサポートする時間と言語のロケールを選択します。	[電話の設定 (Phone Settings)]>[ロケール (Locale)]を選択し、[ユーザロケール (User Locale)]ドロップダウンリストから場所を選択し、[保存 (Save)]をクリックします。
[保留音 (Music On Hold)]	保留にしたときに再生される音楽のソースを選択します。	[電話の設定 (Phone Settings)]>[保留音 (Music On Hold)]を選択し、コールを保留にしたときに再生する音源を[ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)]ドロップダウンリストから選択して、[保存 (Save)]をクリックします。
[その他 (Others)]	次のオプションを有効または無効にします。 <ul style="list-style-type: none"> • スピーカーフォン • スピーカーフォンとヘッドセット • ビデオ • PC ポートの使用 • エクステンション モビリティ 	[電話の設定 (Phone Settings)]>[その他 (Others)]を選択し、各オプションのチェックボックスを必要に応じてオンまたはオフにして [保存 (Save)]をクリックします。

回線の設定

次の表に、選択した電話またはプロフィールの各回線で使用可能な回線の設定を示します。

表 43: 回線の設定

設定	説明	手順
[コール転送 (Call Forward)]	デフォルトのコール転送オプションを設定します。外部または内部の着信コールの転送をカスタマイズします。	[回線の設定 (Line Settings)] を選択し、[コール転送 (Call Forward)]、[発信者ID (Caller ID)]、[通知 (Notification)]、または [保留音 (Music On Hold)] を選択して更新し、[保存 (Save)] をクリックします。
[発信者 ID (Caller ID)]	発信者 ID オプションを設定します。	
[通知 (Notification)]	着信コールとメッセージの通知のオーディオおよびビジュアル オプションを設定します。	
[保留音 (Music On Hold)]	コールを保留にしたときに再生される音楽のソースを選択します。	

ユーザ設定

使用可能な [ユーザ設定 (User Settings)] のオプションを、次のリストで説明します。

表 44: ユーザ設定

設定	説明	手順
[情報 (Information)]	名前を更新します。 自分の電子メール アドレスを入力します。 プライマリ Phone を選択します。	[ユーザ設定 (User Settings)] を選択し、[情報 (Information)]、[パスワード (Password)]、または [暗証番号 (PIN)] を選択して更新し、[保存 (Save)] をクリックします。
[パスワード (Password)]	パスワードを更新します。	
[暗証番号 (PIN)]	暗証番号を更新します。	

共通 Self-Care タスク

次の表に、ユーザが実行できるすべての共通 Self-Care タスクを示します。

表 45: 共通 Self-Care タスク

タスク	手順
パスワードを変更する	[ユーザ設定 (User Settings)] > [パスワード (Passwords)] を選択します。
暗証番号を変更する	[ユーザ設定 (User Settings)] > [暗証番号 (PIN)] を選択します。 (注) 電話とボイスメールの暗証番号を変更できます。電話の暗証番号は、Cisco Unified Communications Manager (またはエクステンション モビリティの) の暗証番号をリセットし、ボイスメールは Unity Connection の暗証番号をリセットします。
スピーカフォンの使用を無効にする	[電話の設定 (Phone Settings)] > [その他 (Others)] を選択し、[スピーカフォンの無効化 (Disable Speakerphone)] チェックボックスをオンにします。
エクステンションモビリティを有効にする	[電話の設定 (Phone Settings)] > [その他 (Others)] を選択し、[Ciscoエクステンションモビリティ (Cisco Extension Mobility)] チェックボックスをオンにします。
ビデオ コールを有効にする	[電話の設定 (Phone Settings)] > [その他 (Others)] を選択し、[ビデオを有効にする (Enable Video)] チェックボックスをオンにします。
コールを転送する	[回線の設定 (Line Settings)] > [コール転送 (Call Forward)] を選択し、着信コールを転送するオプションを設定します。
電子メール情報を提供する	[ユーザ設定 (User Settings)] > [情報 (Information)] を選択し、電子メール アドレスを入力します。
プライマリ デバイスとして異なる電話を選択します。	[ユーザ設定 (User Settings)] > [情報 (Information)] を選択し、[プライマリデバイス (Primary Device)] ドロップダウン リストから優先デバイスを選択します。
コールおよびメッセージ通知を選択する	[回線の設定 (Line Settings)] > [通知 (Notification)] を選択し、着信コールとメッセージの通知オプションを選択します。

タスク	手順
コール保留音のソースを選択する	[電話の設定 (Phone Settings)] > [保留音 (Music On Hold)] を選択し、ユーザまたはネットワークによってコールが保留にされたときに使用する音源を選択します。

シングルナンバー リーチの設定

シングルナンバー リーチ機能では、別の電話番号とビジネス IP 電話番号を関連付けることができます。ビジネス電話番号にコールが着信すると、そのコールは Cisco Prime Collaboration Provisioning によって自動転送され、ビジネス電話機と指定された電話機が鳴ります。このような方法で、シングルナンバーリーチ機能により、受信者の場所にかかわらず、発信者は単一の番号をダイヤルして受信者に電話をかけることができます。

シングルナンバー リーチ用の代替番号を設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 電話カルーセルで、リモート接続先プロファイルに関連付けられているアイコンを選択します。
- ステップ 2** [シングルナンバー リーチの設定 (Single Number Reach Settings)] > [代替番号 (Alternate Numbers)] を選択します。
- ステップ 3** 表「[表 46：シングルナンバー リーチのフィールドの説明](#)」に従って情報を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 4** 必要に応じて、[新規追加 (Add New)] をクリックして別の代替番号を追加します。

表 46：シングルナンバー リーチのフィールドの説明

フィールド	説明
[代替番号 (Alternate Number)]	プライマリ電話でコールを受信したときに、Cisco Prime Collaboration Provision がそのコールを転送する代替番号を入力します。
[説明 (Description)]	(オプション) 代替番号の説明を入力します。
[リーチミーエニウェアを有効にする (Enable Reach Me Anywhere)]	このチェックボックスをオンにすると、着信コールで複数の電話機が同時に鳴ります。
[これはモバイルデバイスです (This is a mobile device)]	モバイルデバイス用の代替番号の場合は、このチェックボックスをオンにします。

フィールド	説明
[代替番号を呼び出し始めるまでの時間: 秒 (Allow me ... seconds to answer)]	プライマリ電話でコールが応答されるまで Cisco Prime Collaboration Provision が待機する時間の長さを入力します (1/10 秒単位)。この時間が経過すると、コールは代替番号に転送されます。
[代替番号を呼び出し続ける時間: 秒 (Continue ringing the alternate number for ... seconds)]	Cisco Prime Collaboration Provision が代替番号の呼び出し音を鳴らす時間の長さを入力します (1/10 秒単位)。
[コールを代替番号に接続しないようにする猶予時間: 秒 (If the alternate number answers within ... seconds)]	代替デバイスにコールを転送した後、そのデバイスにコールを接続するまで Cisco Prime Collaboration Provision が待機する時間の長さを入力します (1/10 秒単位)。この待機時間を設定すると、コールによってボイス メールなどの自動応答がデバイス上で開始されないように防止することができます。
[回線の関連付け情報 (Line Association Information)]	この代替番号に関連付ける回線のチェックボックスをオンにします。

Self-Care ユーザ移行スクリプト

SelfCareMigrationUtility は、移行中または CLI から移行後に起動できます。このツールは、CreateSelfCareAccounts ルールおよび DefaultCUPMPasswd ルールセットを持つドメイン内のすべてのユーザを処理します。

このツールは /opt/cupm/sep/ipt/bin から CLI を経由して実行できます。また、実行はグローバル（全ドメイン対象）でも単一ドメインでも可能です。

スクリプトを実行するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 /opt/cupm/sep/ipt/bin へ移動します。

ステップ 2 次を実行します。./SelfCareMigrationUtility.sh ALL ENABLE

- ALL : すべてのドメインを示します。
 - ENABLE : 指定したドメインの全ユーザに対するセルフケアを有効にします。
- セルフケア オプションを無効にするには、次の手順を実行します。

```
./SelfCareMigraionUtility.sh ALL DISABLE
```

スクリプトはドメイン レベルでも実行できます。 これを実行するには、次の手順を実行します。

```
./SelfCareMigrationUtility.sh DOMAIN NAME [ENABLE | DISABLE]
```

移行の詳細については、『[Cisco Prime Collaboration Upgrade and Migration Guide](#)』を参照してください。



第 11 章

オーダーの管理

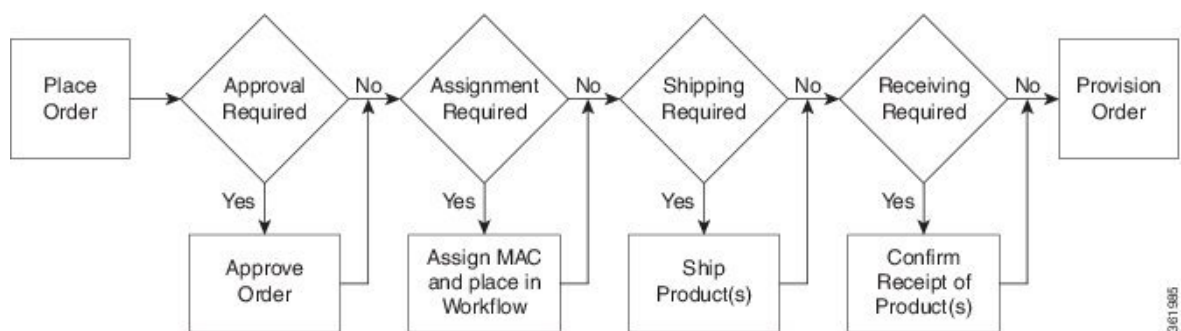
- [オーダーの概要, 244 ページ](#)
- [サポートされる Cisco Unity サービス, 245 ページ](#)
- [ユーザのサービスのオーダー, 247 ページ](#)
- [コール プロセッサに対する回線とエンドユーザの関連付け, 269 ページ](#)
- [共有エンドポイントと共有回線のオーダー, 271 ページ](#)
- [エンドポイントのない回線のオーダー, 275 ページ](#)
- [ボイスメール サービスのオーダー, 275 ページ](#)
- [プレゼンス サービスのオーダー, 291 ページ](#)
- [ユーザへのユーザ プロファイルの関連付け, 295 ページ](#)
- [ユーザが関連付けられていないエンドポイントの管理, 296 ページ](#)
- [既存のエンドポイントの交換, 297 ページ](#)
- [エンドポイントのオーナーの変更, 298 ページ](#)
- [回線情報の変更, 299 ページ](#)
- [ボイスメール アカウントのロック解除, 300 ページ](#)
- [オーダーの検索, 301 ページ](#)
- [オーダーの処理, 301 ページ](#)
- [ワーク オーダーの状態, 306 ページ](#)
- [電子メール通知, 306 ページ](#)

オーダーの概要

個々のサービスまたはバンドルサービスをプロビジョニングできます。オーダー権限ロールを持つユーザ（表 41：権限ロールの説明，（223 ページ）を参照）は、自分のオーダーや他のユーザのオーダーを追加、変更、キャンセルできます。

Cisco Prime Collaboration Provisioning に含まれる自動化エンジンは、Cisco Prime Collaboration Provisioning の設定方法に基づくサービス アクティベーションやビジネス フローなど、オーダー処理を実行します。オーダー処理には、承認、割り当て、出荷、受領など、複数のワークフローが関連しています（詳細については図 3：オーダーの処理，（244 ページ）を参照してください）。個々のワークフロー アクティビティを有効または無効にして、ドメインごとに異なるプロビジョニング ユーザ ロールに割り当てることができます（オーダー ロールについては表 41：権限ロールの説明，（223 ページ）を参照してください）。アクティビティのいずれかが有効になっている場合は、割り当てられたプロビジョニング ユーザが適切なアクションを実行するまでオーダー処理が停止します。そのアクションが確認されると、処理が続行され、無効になっているアクティビティが Cisco Prime Collaboration Provisioning によって自動的に確認されます。

図 3：オーダーの処理



オーダーのプロビジョニングに要する時間は場合によって異なります。オーダーが正常に完了したかどうかを確認するには、当該ユーザのユーザ レコードにアクセスします（[展開（Deploy）] > [ユーザプロビジョニング（User Provisioning）] を選択します）。[ユーザレコードオプション（User Record Options）] ペインにサービスが一覧表示され、[View Orders] セクションにサービスのステータスが [完了（Complete）] と表示されます。また、オーダー番号によるオーダーの検索も実行できます。



（注） システムが長時間アイドル状態になると、最初のオーダーが作成されるまでに通常よりも時間がかかることがあります。

オーダーを作成する際は、次の点に注意してください。

- メッセージ プロセッサ（Cisco Unity、Cisco Unity Connection、Cisco Unity Express）でサービスをオーダーしている場合、どのサービスも利用できません。これは、プロセッサがすべてのサービスをサポートしているわけではないからです。 [サポートされる Cisco Unity サービス](#)

ス、(245 ページ) には、Cisco Unity プロセッサでオーダー可能またはオーダー不可の音声サービスの一覧が示されています。

- Cisco Unified Communications Manager Express または Cisco Unity Express でサービスをオーダーしている場合、Cisco IOS CLI コマンドの入力 ([詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] ペインでのプロビジョニング属性の設定) は、慎重に行ってください。設定できる内容は、自分の権限ロールによって制限されません。
- 属性の中には、特定のプロトコルの特定のエンドポイントタイプでサポートされないものがあります。エンドポイントのオーダーを作成する際は、選択したエンドポイントタイプとプロトコルでサポートされる属性の値だけを設定してください。これに従わないと、サービスを正常にプロビジョニングできません。
- Cisco Prime Collaboration Provisioning は、Cisco Unified Communications Manager のインターコム コーリング サーチ スペースやインターコム ルートパーティションなど、サポートされていないインフラストラクチャ オブジェクトを同期させます。これらのサポートされないオブジェクトをプロビジョニング サービスで使用する と、エラーが発生します。
- Enable Voice Gateway 機能のプロパティを「N」に設定すると、[Order Entry] 画面にアナログ エンドポイントが表示されます。プロパティを「Y」に設定した場合、この画面にアナログ エンドポイントは表示されません。
- アナログ エンドポイントをオーダーするには、[サービスエリアの設定 (Service Area Configuration)] 画面のサービスエリアに [音声ゲートウェイ参照 (Voice Gateway References)] を追加する必要があります。

サポートされる Cisco Unity サービス

次の表に、Cisco Unity によってサポートされる製品とサービスを示します。

表 47: サポートされる Cisco Unity 製品およびサービス

メッセージ プロセッサ	サービス
-------------	------

Cisco Unity	<p>オーダー可能なもの：</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ボイスメールおよび電子メール (Voicemail and Email)] (バンドル) • [ユニファイドメッセージング (Unified Messaging)] • [ユニファイドメッセージングサービス (Unified Messaging Service)] • [メッセージングサービス (Messaging Service)] <p>オーダー不可能なもの：</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ボイスメール (Voicemail)] または [電子メール (Email)] • [拡張エンドポイントサービス (Enhanced Endpoint Service)]
Cisco Unity Connection	<p>オーダー可能なもの：</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ボイスメールおよび電子メール (Voicemail and Email)] (バンドル) • [ボイスメール (Voicemail)] または [電子メール (Email)] • [拡張エンドポイントサービス (Enhanced Endpoint Service)] • [ユニファイドメッセージング (Unified Messaging)] • [ユニファイドメッセージングサービス (Unified Messaging Service)] • [メッセージングサービス (Messaging Service)]

Cisco Unity Express	<p>オーダー可能なもの：</p> <ul style="list-style-type: none"> • [拡張エンドポイントサービス（Enhanced Endpoint Service）] • [ボイスメール（Voicemail）] <p>オーダー不可能なもの：</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ユニファイドメッセージングサービス（Unified Messaging Service）] • [メッセージングサービス（Messaging Service）] • [ボイスメールおよび電子メール（Voicemail and Email）]（バンドル） • [ユニファイドメッセージング（Unified Messaging）] • [電子メール（Email）]（個別）
---------------------	--

ユーザのサービスのオーダー

すべてのサービスのオーダー作成は同じ基本手順に従います。

ユーザは必ずしもすべてのサービスにアクセスできるわけではありません。特定のユーザレコードに表示されるサービスのリストは、次の項目によって異なります。

- ユーザに割り当てられているユーザ権限、およびユーザが利用できるドメインとサービスエリア。
- サービスエリア内で配信をサポートするリソースを利用できるかどうか（たとえば、Unified Messaging を提供するには、Cisco Unity または Cisco Unity Connection システムを利用できる必要があります）。
- Provisioning システムの設定。

サービスの依存関係は次のとおりです。

- 回線には既存のエンドポイントが必要です。
- ボイスメールおよび電子メールには既存の回線が必要です。
- ユニファイドメッセージングには電子メールが必要です。
- エクステンション モビリティ回線にはエクステンション モビリティ アクセスが必要です。

ユーザのサービスをオーダーするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 [展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] を選択します。
- ステップ 2 [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] ページで、ユーザを選択します。
- ステップ 3 [ユーザサービスの詳細 (User Service Details)] ページで [新規サービス (New Service)] をクリックします。
- ステップ 4 ドロップダウン リストからサービス エリアを選択します。マウス ポインタを [クイックビュー (Quick View)] アイコンの上に置くと、ドロップダウン リストにサービス エリアの情報が表示されます。
- ステップ 5 [続行 (Continue)] をクリックします。
プロビジョニング可能なすべてのサービスが表示されます。[表 48 : Provisioning のサービス, \(250 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 6 プロビジョニングするサービスを選択し、[続行 (Continue)] をクリックします。
(注) ユーザのリストにエンドポイントが表示されない場合は、指定したユーザのユーザ権限をエンドポイントに関連付ける必要があります。ユーザ権限をエンドポイントに関連付ける方法については、[ユーザ権限の追加, \(64 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 7 [サービスのプロビジョニング (Service Provisioning)] ページで、[オーダー入力 (Order Entry)] ウィザードに従ってサービスの必要情報を入力します (必須フィールドの詳細については、[表 49 : \[オーダーエントリ \(Order Entry\)\] のフィールド, \(261 ページ\)](#) を参照してください)。オーダーを作成する際は、次の点に注意してください。
 - [サービスタイプ] 情報 (<Service Type> Information) および [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] ペインには、選択したサービスの仕様が表示されます。
 - [詳細オーダー (Advanced Order)] または [管理者 (Administrator)] 承認権限が割り当てられているユーザは、[詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] ペインにアクセス可能です。ただし、[詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] を使用しなくても、オーダーを完了したりエンドポイントをプロビジョニングしたりすることができます。プロビジョニング属性の詳細については、[プロビジョニング属性, \(333 ページ\)](#) を参照してください。
(注) Cisco Unified Communications Manager 内で数値が指定されているプロビジョニング属性の値の設定をクリアするには、値として 0 を入力する必要があります。値を指定せずにフィールドを空白のままにしても、プロビジョニング属性の値はクリアできません。
 - サービス テンプレートを選択する場合、キーワードの基本情報属性はユーザ情報に自動的に置き換えられます。また、サービスのオーダー プロセスでキーワードを入力できます。詳細については、[サービス テンプレートの作成, \(68 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 8 [続行 (Continue)] をクリックしてオーダーを作成します。
- ステップ 9 [確認 (Confirm)] をクリックして [OK] をクリックします。[サービスの詳細 (Service Details)] ページにオーダー番号を表示できます。[プロビジョニング履歴 (Provisioning History)] ペインを

チェックして、オーダーステータスを確認します。特定のオーダーを検索するには、[オーダーの検索](#)、[\(301 ページ\)](#) を参照してください。

グローバル検索オプション（ホームページの右隅にある検索）を使用して、ユーザIDと姓、MACアドレス、電話番号を検索できます。

- ユーザIDと姓の検索では、英数字（A～Z、a～z、0～9）、ハイフン（-）、下線（_）、ドット（.）、アットマーク（@）、スペース、アポストロフィを使用できます（例：AASJKUser006、AAS*、AA*、*SJKUser006、3242#@!#####&@!*@(3)、AANewRDUser00*）。
- MACアドレスの検索では、英数字（A～Z、a～z、0～9）、ダッシュ（-）、ピリオド（.）、アンダースコア（_）を使用できます（例：0024C444C3C6、0024*、*24）
- [電話番号（Directory Number）]検索では、英数字、ピリオド、アンダースコアを使用できません。電話番号では、+、?、()、-などの特殊文字を使用できます（例：+0000057、\+0000*、\+*、*0000*、*57）。

- (注)
- グローバル検索オプションでMACアドレスを使用して電話番号を検索する場合は、xxxxxxxxxxxxxの形式を使用します。
 - 検索結果をより速く取得するため、検索文字列には最低3文字を入力することをお勧めします。

オーダーしたサービスのプロビジョニング属性を表示するには、[サービスの詳細（Service Details）] ページで目的のサービスをポイントし、[操作（Actions）] リストの[表示（View）] をクリックします。

オーダーしたサービスにユーザのメモを追加するには、[サービスの詳細（Service Details）] ページで目的のサービスをポイントし、[操作（Actions）] リストの[ユーザのメモ（User Notes）] をクリックします。

作成したサービスのテンプレートを作成するには、クイックビューから[テンプレートの作成（Create Template）] をクリックします。必要な詳細を入力して[テンプレートの作成（Create Template）] をクリックします。すべての値が入力された、サービスのテンプレートが作成されます。

多数のサービスを展開している場合は、それらのアクティビティを1つのアクティビティにまとめることができます。Cisco Prime Collaboration Provisioning のバッチプロビジョニング機能を使用すると、複数のタイプのオーダーを含む単一のバッチを作成できます。また、種類が異なる複数のサービスを1つのバッチ操作で処理することもできます。

バッチプロジェクトを設定するには、[展開（Deploy）] > [バッチプロビジョニング（Batch Provisioning）] を選択します。

- バッチプロビジョニングの詳細については、[バッチプロビジョニング](#)、[\(154 ページ\)](#) を参照してください。



- (注) サービスのプロビジョニング中に [セキュリティ プロファイル (Security Profile)] のプロビジョニング属性を選択してエラーが発生した場合は、オーダーが正常に完了するように [保護デバイス (Protected Device)] オプションのチェックボックスをオフにします。 クラスタとデバイスのセキュリティ モードが Cisco Unified Communications Manager のクラスタ用に適切に設定されていることを確認します。 Cisco Unified Communications Manager のセキュリティ パラメータの詳細については、『[Cisco Unified Communications Manager Security Guide](#)』の「Cluster and Security Modes」の項を参照してください。

表 48 : *Provisioning* のサービス

サービス	説明
[モビリティサポートの有効化 (Enable Mobility Support)]	<p>現在選択されているコールプロセッサで、選択されているユーザのモビリティを有効にします。デフォルトのパラメータを使用してオーダーする場合は、次のプロビジョニング属性が使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [モビリティの有効化 (Enable Mobility)] : [はい (True)] • [モバイルボイスアクセスの有効化 (Enable Mobile Voice Access)] : [はい (True)] • [最大デスクピックアップ待機時間 (Max Desk Pickup Wait Time)] : 1000 ミリ秒 • [リモート接続先の制限 (Remote Destination Limit)] : 4 • [プライマリユーザデバイス (Primary User Device)] <p>このサービスは Cisco Unified Communications Manager 6.0.x 以降だけで利用できます。</p>
[プレゼンスを有効にする (Enable Presence)]	<p>コールプロセッサでユーザの Presence Server ライセンスを有効にして、プレゼンス メッセージングを更新できるようにします。このオプションは Cisco Unified Communications Manager 8.x 以降だけで利用できます。サービスをユーザ権限に関連付けるまで、このオーダー向けサービスは表示できません (ユーザ権限の追加, (64 ページ) を参照)。</p>

[プレゼンスクライアントを有効にする (Enable Presence Client)]	<p>コールプロセッサでユーザの Unified Personal Communicator ライセンスを有効にして、Cisco Unified Personal Communicator を使用できるようにします。これは、[プレゼンスクライアントを有効にする (Enable Presence Client)] および [クライアントユーザ設定 (Client User Settings)] のバンドルです。</p> <p>[プレゼンスクライアントを有効にする (Enable Presence Client)] は Cisco Unified Communications Manager 8.x 以降だけで利用できます。このサービスは、[プレゼンスを有効にする (Enable Presence)] をオーダーする場合にのみ利用できます。</p> <p>サービスをユーザ権限に関連付けるまで、このオーダー向けサービスは表示できません (ユーザ権限の追加, 64 ページ) を参照)。</p>
[拡張モビリティサービス (Enhanced Mobility Service)]	<p>選択したコールプロセッサの選択したユーザ向けのエクステンションモビリティ デバイス プロファイル、回線、ボイスメールを含みます。</p> <p>このバンドルでは、エクステンション モビリティ、回線、ボイスメールなどの標準プロビジョニング サービスを 1 つのオーダーで作成できます。サービスをユーザ権限に関連付けるまで、このオーダー向けサービスは表示できません (ユーザ権限の追加, 64 ページ) を参照)。</p>
[拡張モビリティサービスとユニファイドメッセージング (Enhanced Mobility Service with Unified Messaging)]	<p>選択したコールプロセッサの選択したユーザ向けのエクステンションモビリティ デバイス プロファイル、回線、ボイスメール、電子メール、ユニファイドメッセージングを含みます。</p> <p>サービスをユーザ権限に関連付けるまで、このオーダー向けサービスは表示できません (ユーザ権限の追加, 64 ページ) を参照)。</p>
[クライアントユーザ設定 (Client User Settings)]	<p>ユニファイドプレゼンス プロセッサで Unified Personal Communicator のユーザ設定を有効にします。[クライアントユーザ設定 (Client User Settings)] は、[クライアントサービスの有効化 (Enable Client Service)] または [プレゼンスサービス (Presence Service)] などのバンドル サービスを通じてのみオーダーできます。</p> <p>サービスをユーザ権限に関連付けるまで、このオーダー向けサービスは表示できません (ユーザ権限の追加, 64 ページ) を参照)。</p>

<p>[SoftPhoneサポートを有効にする (Enable SoftPhone Support)]</p>	<ul style="list-style-type: none"> • パーソナル コンピュータと物理エンドポイントの併用（両方が同時に鳴ります）、または CTI ポート (Cisco Unified Communications Manager で定義されている仮想電話) の使用を有効化します。 • Cisco Unified Communications Manager Express ではサポートされません。また、Cisco Unified Communications Manager Express をベースとしたコールプロセッサからオーダーする場合もサポートされません。 • 使用可能なすべてのコールプロセッサがすでに SoftPhone をサポートしている場合は、サービスリストに表示されません。使用可能な特定のコールプロセッサに対して有効なサービスエリアのリストが表示されます。 • オーダー時に、ユーザのコンピュータのサーバ名または IP アドレスを [関連付けられたPC (Associated PC)] フィールドに指定します。 • サービス エリアに基づいてこのサービスを有効にできるのは、複数のサービスエリアが関連付けられていても Unified CM ごとに 1 回限りです。 • CTI ポートを使用する Cisco SoftPhone だけに適用されます。Cisco IP Communicator は Cisco Unified Communications Manager との通信に CTI ポートを使用しませんが、MAC アドレスを持つ物理エンドポイントとして機能します。Cisco IP Communicator をオーダーするには、物理エンドポイントをオーダーし、Cisco IP Communicator をエンドポイントタイプとして選択する必要があります。 • Cisco Jabber for Desktop が Cisco Jabber for Desktop クライアント上のデスクトップ電話として機能するために必要です。
--	---

<p>[拡張エンドポイントサービス (Enhanced Endpoint Service)]</p>	<p>エンドポイント、回線、ボイスメールを含みます。回線はオーダーしたエンドポイントに自動的に関連付けられ、ボイスメールは自動的に回線に関連付けられます。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager Express で [拡張エンドポイントサービス (Enhanced Endpoint Service)] のオーダーを作成する際は、コール転送プロビジョニング属性を入力する必要があります。オーダーの入力時に、[詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] をクリックし、[ボイスメール設定テンプレート (Voicemail Configuration Template)] プロビジョニング属性で次のコマンドを入力します : <code>call-forward busy <voice mail port/dn> call-forward noan <voice mail port/dn> timeout <seconds></code>。Cisco Unity Express のサービス エリアでは、[ボイスメール表示名 (Voice Mail Display Name)] フィールドに英数字のみを入力します。それ以外のタイプの文字を使用した場合、ユーザのオーダーは失敗します。</p> <p>Cisco Unity Express のサービス エリアでは、インフラストラクチャまたはユーザの同期中にオーダーを追加、変更、またはキャンセルすることはできません。</p>
---	--

<p>[エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access)] または [回線でのエクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access with Line)]</p>	<p>ユーザが特定のエンドポイント タイプにログインして、自分のエンドポイントのデバイス プロファイルを適用できるようにします。 このサービスは単独で利用できるか、または回線にバンドルされています。</p> <p>Cisco Prime Collaboration Provisioning にコールプロセッサを追加するときに、コールプロセッサに対してオプションのエクステンションモビリティの詳細を入力した場合にのみ、オーダーに対して [エクステンションモビリティ (Extension Mobility)] を使用できます。</p> <p>SIP 電話がサポートされているサービス エリアで [エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access)] のオーダーを作成する際は、7911、7941、7942、7945、7961、7962、7965、7970、7971、または 7975 の Cisco Unified IP Phone の場合にだけ、電話ボタンテンプレートを選択します。</p> <p>選択した電話ボタンテンプレートでエクステンションモビリティがサポートされていない場合は、オーダーが失敗します。</p> <p>また、[iPhone用エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access for iPhones)] をオーダーする際、次の属性にデフォルト値を使用すると、オーダーが失敗する場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [DND オプション (DND Option)] • [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] (設定専用属性) • [MLPP 通知 (MLPP Indication)] <p>[iPhone 用エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access for iPhones)] をオーダーする際は、これらの属性に次の値を使用してサービステンプレートを作成し、オーダーの作成中にテンプレートを適用することをお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [DND オプション (DND Option)] - [コール拒否 (Call Reject)] • [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] - [無効 (Disable)] • [MLPP 通知 (MLPP Indication)] - [オフ (Off)]
<p>[エクステンションモビリティ回線 (Extension Mobility Line)]</p>	<p>Cisco Unified Communications Manager で、デバイスプロファイルに対してオーダーされたディレクトリ番号または回線です。ユーザがすでに [エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access)] を所有している場合にアップグレードとしてオーダーできます。</p>

[Cisco Jabber サービス (Cisco Jabber Service)]	<p>Jabber サービスをオーダーできます。 [Cisco Jabberサービス (Cisco Jabber Service)] は、Cisco Jabber for Tablet、Cisco Jabber for Desktop、Cisco Jabber for Android、Cisco Jabber for BlackBerry、Cisco Jabber for iPhone に対してオーダー可能です。 [Cisco Jabber サービス (Cisco Jabber Service)] をオーダー ページで表示するには、ユーザ権限タイプとして少なくとも [従業員 (Employee)] が必要です。</p> <p>Prime Collaboration 9.0 から Prime Collaboration 9.5 バージョンにアップグレードしている場合は、このサービスをユーザ権限に関連付けるまでオーダー用として表示されません。 (ユーザ権限の追加, (64 ページ) を参照。)</p> <p>(注) [選択したサービスに回線をプロビジョニングする (Provision Line for Selected Services)] チェック ボックスをオンにして、選択した Cisco Jabber サービスに共有回線をプロビジョニングします。</p>
[回線 (Line)]	<p>[回線 (Line)] サービスはエンドポイントの有無に関わらず、ユーザに対してプロビジョニング可能です。 新しい [回線 (Line)] サービスのプロビジョニングでは、出荷、割り当て、受領、または追跡 (返品用) の手順は必要ありません。</p> <p>[回線 (Line)] サービスの横にある [アップグレード (Upgrade)] の指示は、既存のエンドポイント用に [回線 (Line)] がオーダーされることを示します。</p> <p>コールプロセッサでは、回線の表示が 30 文字を超えることはできません。 名と姓を組み合わせた文字が 30 文字を超えないようにしてください。 この上限を超えた状態でオーダーを作成した場合、コールプロセッサからエラーが送信されます。</p> <p>[回線 (Line)] サービスのエンドユーザの関連付けは自動的にプロビジョニングされます。 詳細については、ユーザ権限の追加, (64 ページ) を参照してください。</p>
[共有エンドポイントの回線 (Line on a Shared Endpoint)]	<p>共有[共有エンドポイントの回線 (Line on a Shared Endpoint)] は、ユーザが同じ物理エンドポイントで独自の別回線を必要としている場合にオーダーします。 このサービスをプロビジョニングすると、エンドポイントとそのすべての回線が各ユーザのレコードに表示されます。</p> <p>ユーザ レコード内で共有されているエンドポイントの横に、[共有 (Shared)] アイコンが表示されます。</p>
[メッセージングサービス (Messaging Service)]	<p>エンドポイント、回線、ボイスメール、電子メールで構成されます。</p>

<p>[エンドポイント (Endpoint)]</p>	<p>関連付けられた回線または電話番号のないエンドポイントをオーダーします。 回線または電話番号に関連付けることはできません。</p> <p>SIP フォンでは、7911、7941、7942、7945、7961、7962、7965、7970、7971、7975 の Unified IP Phone に対してのみ [エクステンション モビリティ (Extension Mobility)] を有効にするため、[はい (Yes)] を選択します。 [エクステンションモビリティ (Extension Mobility)] は、他の SIP 電話ではサポートされていません。</p> <p>エンドポイント名のガイドラインは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Unified Personal Communicator : <ul style="list-style-type: none"> ◦ ユーザ名と一致している必要があります (UPC では、オーダーがプロビジョニングされた後に自動的にエンドポイント名に追加されます) 。 ◦ 大文字 (A ～ Z) または数字 (0 ～ 9) を含める必要があります。 他の文字は無視されます。 ◦ UPC の後に 12 文字を追加することができます。 <p>たとえば、ユーザ名が <code>john_jackson</code> の場合は、<code>JOHNJACKSON</code> と入力します。</p> • Cisco Jabber for iPhone : <ul style="list-style-type: none"> ◦ プレフィックス TCT を含める必要があります (これを入力しない場合は、Cisco Prime Collaboration Provisioning に よって自動的に追加されます) 。 ◦ プレフィックスを含んで 15 文字未満にする必要があります。 ◦ 含めることができるのは英数字 (A ～ Z、a ～ z、0 ～ 9) だけです。 Cisco Prime Collaboration Provisioning は、エンドポイントに情報をプッシュする前に小文字を大文字に変換します。 • CTI ポート : 1 ～ 15 文字の英数字 (A ～ Z、a ～ z、0 ～ 9) 、アンダースコア (_) 、ハイフン (-) 、またはピリオド (.) を含める必要があります。 • IP Communicator : 1 ～ 15 文字の英数字 (A ～ Z、a ～ z、0 ～ 9) 、アンダースコア (_) 、ハイフン (-) 、またはピリオド (.) を含める必要があります。 <p>Cisco Services Framework : 1 ～ 15 文字の英数字 (A ～ Z、a ～ z、0 ～ 9) を含める必要があります。</p> <p>(注) エンドポイント属性は、選択したエンドポイントタイプでサポートされる機能に基づいて表示されます。</p>
------------------------------	--

<p>[エンドポイントサービス (Endpoint Service)]</p>	<p>新しいエンドポイントと回線を追加します。</p> <p>[エンドポイントサービス (Endpoint Service)]をオーダーする場合、回線の最大数は電話タイプの電話ボタンテンプレートによって異なります（電話ボタンテンプレートが使用可能な場合）。Cisco Unified Communications Manager Express では電話ボタンテンプレートを使用できないため、回線の最大数は各エンドポイントタイプの製品カタログで定義されます。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager Express のエンドポイント サービス オーダーを作成する際は、Cisco Prime Collaboration Provisioning が常に二重回線で ephone-dn をプロビジョニングすることに注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Prime Collaboration Provisioning は、常に二重回線で ephone dn をプロビジョニングします。 • ユーザの同期中、Cisco Prime Collaboration Provisioning は、単一回線、二重回線、および八重回線ですべての ephone-dn を同期させます。 • エンドポイントには孤立した ephone-dn (ephoneによって使用されていない ephone-dn、または ephone に関連付けられていない ephone-dn) を持たせないでください。 <p>(注) エンドポイント属性は、選択したエンドポイントタイプでサポートされる機能に基づいて表示されます。</p>
<p>[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)]</p>	<p>ユーザ用の[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)]をオーダーしてユーザの属性を設定し、シングルナンバー リーチ (SNR) をサポートする[リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line)]を選択または設定できるようにします。</p> <p>[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)]では、オーナーの変更と交換の操作がサポートされません。</p> <p>サービスをユーザ権限に関連付けるまで、このオーダー向けサービスは表示できません (ユーザ権限の追加, (64 ページ) を参照)。</p>

<p>[リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line)]</p>	<p>1 つの [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] で、無制限の [リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line)] をオーダーします。[リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line)] は、回線の自動割り当てまたは選択されたタイプをサポートします。</p> <p>ユーザ間で [リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line)] を共有でき、同じ接続先を [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)]、[回線 (Line)]、および [モビリティアクセス回線の有効化 (Enable Mobility Access Line)] で共有できます。この場合、回線のすべてのタイプが共有回線として表示されます。</p> <p>[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] では、[回線 (Line)] サービスでオーダーするように [ボイスメール (Voice Mail)] または [エクステンションモビリティ (Extension Mobility)] をオーダーできます。</p> <p>[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] のオーダーは、ユーザ権限では可能ですが、疑似ユーザでは実行できません。</p> <p>サービスをユーザ権限に関連付けるまで、このオーダー向けサービスは表示できません (ユーザ権限の追加, (64 ページ) を参照)。</p>
<p>[リモート接続先プロファイルサービス (Remote Destination Profile Service)]</p>	<p>このコール プロセッサを共有するためにすべてのサービス エリアの [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] サービスを有効にします。また、[リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line)] を追加します。</p> <p>[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] のオーダーは、ユーザ権限では可能ですが、疑似ユーザでは実行できません。</p> <p>サービスをユーザ権限に関連付けるまで、このオーダー向けサービスは表示できません (ユーザ権限の追加, (64 ページ) を参照)。</p>

<p>[シングルナンバーリーチサービス (Single Number Reach Service)]</p>	<p>[モビリティの有効化 (Enable Mobility)]、モビリティの有効化、および[リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line)]を設定します。</p> <p>デスクトップ電話でモビリティを動作させるには、次の手順を実行する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [電話 (phone)] および [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] で、[回線 (Line)] を共有するように設定します。 • [リモート接続先 (Remote Destination)] に使用される [ユーザID (User ID)] を [オーナー (Owner)] に設定します。 • Cisco Unified Communications Manager でソフトキー テンプレートを作成して、これをデスクトップ電話に割り当てます。 Cisco Prime Collaboration Provisioning では、ソフトキーのカスタマイズはサポートされていません。 Cisco Unified Communications Manager で、テンプレートをカスタマイズする必要があります。 <p>サービスをユーザ権限に関連付けるまで、このオーダー向けサービスは表示できません (ユーザ権限の追加, 64 ページ) を参照)。</p> <p>(注) ユーザに対してモビリティサポートの有効化 (Enable Mobility Support) サービスをオーダー済みの場合は、そのユーザに対してシングル ナンバー リーチ (Single Number Reach) サービスをオーダーできません ([ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] ページでは、そのユーザに対して [シングルナンバーリーチサービス (Single Number Reach Service)] オプションが表示されません)。</p>
<p>[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging)]</p>	<p>すでに電子メールとボイスメールを所有している場合は、[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging)] 機能を追加するオーダーを作成できます。 [ユニファイドメッセージング (Unified Messaging)] 機能により、ボイスメールからの電子メールの取得と、電子メールからのボイスメールの取得が可能になります。</p> <p>Cisco Unity では、テキスト/スピーチ (TTS) 機能を有効化することになります。 Cisco Unity Connection では、TTS 機能と Internet Mail Access Protocol (IMAP) 機能を有効化することになります。</p> <p>[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging)] サービスの横にある [アップグレード (Upgrade)] の指示は、[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging)] 機能を含めるように既存の電子メールとボイスメールがアップグレードされることを示します。</p>

<p>[ユニファイドメッセージングサービス (Unified Messaging Service)]²</p>	<p>[ユニファイドメッセージングサービス (Unified Messaging Service)] のオーダーには、回線、エンドポイント、ボイスメール、電子メール、ユニファイドメッセージング サービスが含まれます。</p> <p>ユーザが利用できるサービスのリストは、ユーザ権限と Provisioning のシステム設定に基づきます。必要なサービスを含めるようにこのリストを変更する場合は、Provisioning の管理者に問い合わせてください。</p>
<p>[ユーザ サービス (User Services)]</p>	<p>コール プロセッサでユーザのプレゼンス サービス設定を有効にすることで、プレゼンス メッセージングを有効にします。</p> <p>[ユーザ サービス (User Services)]を設定するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Provisioning にプレゼンス サーバを追加し、インフラストラクチャの同期を実行します。 2 オーダーに使用するサービスエリアにプレゼンス サーバを追加します。 <p>(注) [ユーザ サービス (User Services)] は Cisco Unified Communications Manager 9.x で利用できます。</p> <p>(注) Cisco Unified Communications Manager 10.0 以上では、[ユーザ サービス (User Services)]はオーダー可能なサービスとして使用できなくなります。サービスのオーダーを作成するとデフォルトで追加されます。</p>
<p>[ボイスメールおよび電子メール (Voicemail and Email)] (バンドル)</p>	<p>ユーザがすでに回線を所有している場合は、追加の [ボイスメールおよび電子メール (Voicemail and Email)] サービスのオーダーを作成します。</p> <p>[ボイスメールおよび電子メール (Voicemail and Email)] サービスの横にある [アップグレード (Upgrade)] の指示は、ボイスメールと電子メールを含めるように [回線 (Line)] サービスがアップグレードされることを示します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager Express でボイスメールのオーダーを作成する際は、コール転送プロビジョニング属性を入力する必要があります。オーダーを入力する際に、[詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] をクリックし、[ボイスメール設定テンプレート (Voicemail Configuration Template)] プロビジョニング属性で、次のコマンドを入力します：call-call-forward busy <voice mail port/dn> forward noan <voice mail port/dn> timeout <seconds></p>

[ボイスメール (Voicemail)] (個別)	<p>ユーザがすでに回線を所有している場合は、追加の [ボイスメール (Voicemail)] サービスのオーダーを作成します。</p> <p>[ボイスメール (Voicemail)] サービスの横にある [アップグレード (Upgrade)] の指示は、ボイスメールを含めるように [回線 (Line)] サービスがアップグレードされることを示します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager Express でボイスメールのオーダーを作成する際は、コール転送プロビジョニング属性を入力する必要があります。 オーダーを入力する際に、[詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] をクリックし、[ボイスメール設定テンプレート (Voicemail Configuration Template)] プロビジョニング属性で、次のコマンドを入力します：call-forward busy <voice mail port/dn> call-forward noan <voice mail port/dn> timeout <seconds></p>
[電子メール (Email)] (個別) 3	<p>ユーザがすでに回線を所有している場合は、追加の [電子メール (Email)] サービスのオーダーを作成します。</p> <p>[電子メール (Email)] サービスの横にある [アップグレード (Upgrade)] の指示は、電子メールを含めるように [回線 (Line)] サービスがアップグレードされることを示します。</p>

- ² Cisco Unity の [電子メール (Email)] または [ユニファイドメッセージングサービス (Unified Messaging Service)] をオーダーした後、[ユーザレコード詳細 (User Record Details)] ページの電子メール アドレスに完全なドメイン情報が付加されるまでには初期遅延があります。 完全な電子メールアドレスを表示するには、オーダー後にユーザの同期およびドメインの同期を実行する必要があります。
- ³ Cisco Unity の [電子メール (Email)] または [ユニファイドメッセージングサービス (Unified Messaging Service)] をオーダーした後、[ユーザレコード詳細 (User Record Details)] ページの電子メール アドレスに完全なドメイン情報が付加されるまでには初期遅延があります。 完全な電子メールアドレスを表示するには、オーダー後にユーザの同期およびドメインの同期を実行する必要があります。

表 49: [オーダーエントリ (Order Entry)] のフィールド

GUI 要素	説明
[関連付けられたPC (Associated PC)]	SoftPhone のサポートで使用するコンピュータの名前 (DNS による解決が可能なもの) または IP アドレスです。
[電子メールID (Email ID)]	電子メール ID を入力します。 スペースを含めることはできません。
[表示名 (Display Name)] (電子メール)	電子メールの [差出人 (From)] フィールドで使用する名前を入力します。

[エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility)]	[はい (Yes)] または [いいえ (No)] を選択します。
[エクステンションモビリティ回線 (Extension Mobility Line)]	次のいずれかを選択します。[自動割り当て回線 (Auto-Assigned Line)] : システムが自動的に電話番号を割り当てます。 [選択した回線 (Chosen Line)] : ユーザが電話番号を指定します。 電話番号にダッシュやスペースを含めることはできません。
[回線タイプ (Line Type)]	<p>次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [自動割り当て回線 (Auto-Assigned Line)] : システムが自動的に電話番号を割り当てます。 • [選択した回線 (Chosen Line)] : ユーザが電話番号を指定します。電話番号にダッシュやスペースを含めることはできません。 <p>回線が設定された後で、ページ右側の保存アイコンをクリックして設定を保存します。</p> <p>選択すると、ページに[詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] オプションが表示されます。回線のプロビジョニング属性を設定します。[回線のコピー (Copy Line)] フィールドから回線を選択して[完了 (Done)] をクリックし、同じエンドポイントで設定した回線のプロビジョニング属性をコピーすることもできます。</p>

[電話番号 (Directory Number)]	<p>電話番号をフィールドに直接入力することも、[番号の選択 (Select a Number)] をクリックして電話番号を選択することもできます。</p> <p>[番号の選択 (Select a Number)] ウィンドウで、次のいずれかを行えます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 [既存ディレクトリ番号を選択 (Select an Existing Directory Number)] ペインで、既に関連付けられている電話番号を選択します。 このペインは次が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • ユーザに関連付けられた予約電話番号。 • ユーザの回線サービスに関連付けられた電話番号。 <p>または</p> 2 [利用可能なディレクトリ番号を検索 (Search for an Available Directory Number)] ドロップダウンで、次から検索条件を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 個別の番号 (どのブロックにも割り当てられていない) : 検索する特定の番号を入力します。 • DN ブロック : オーダーが行われる単一または複数のサービスエリアで設定される電話番号のブロックが表示されます。 <p>[電話番号 (Directory Number)] フィールドに入力する番号を選択します。</p>
[回線の位置 (Line Position)]	<p>オーダー処理中は、エンドポイントで使用可能な回線の位置のリストページが表示されます。回線の位置の横には、その回線の位置が使用可能であるかどうかが表示されます。</p> <p>回線の位置のページでは、次の操作が可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 回線タイプの設定 : 対象回線の横の [未割り当て (Not Assigned)] をクリックし、次のページで回線タイプを設定します。回線が設定された後で、ページの右側の保存アイコンをクリックして設定を保存します。 • 回線の位置の変更 : 回線の位置の横にある上または下向き矢印キーを押します。 <p>Cisco Unified Communications Manager Express またはエクステンションモビリティアクセス回線では、回線の位置がサポートされていません。</p>
[選択されているエンドポイント (Selected Endpoint)]	<p>リストからエンドポイントを選択します。</p>

[MACアドレス (MAC Address)]	(オプション) MAC アドレスを選択するか、または入力します。 アナログエンドポイントの場合は、選択した音声ポートに基づいて MAC アドレスが生成されます。
[エンドポイントタイプ (Endpoint Type)]	リストからエンドポイント タイプを選択します。
[プロトコル (Protocol)]	プロトコルを選択します。 エンドポイントは SCCP と SIP の両方、またはそのいずれかをサポートします。 [プロビジョニング属性 (Provisioning Attribute)] で設定されたデフォルトのプロトコルでプロビジョニングします。
[ターゲットエンドポイント (Target Endpoint)]	リストから対象のエンドポイントを選択します。
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	使用可能な電話ボタン テンプレートのリストです。
[サービステンプレート (Service Template)]	使用可能なサービス テンプレートのリストです。
[アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference)]	<p>アナログ音声ゲートウェイ参照を選択します。</p> <p>ユーザの同期を実行する前に、インフラストラクチャの同期を実行する必要があります。 ユーザの同期において、同期されたアナログ エンドポイントが IM には存在しない音声ゲートウェイ参照に関連付けられていた場合、その音声ポートインスタンスの作成および関連付けはスキップされます。 その結果、Cisco Prime Collaboration Provisioning を使用してそのアナログ エンドポイントを管理できなくなります。</p> <p>アナログ エンドポイントの同期および IM インスタンスの作成は、バージョン 6.x 以上のコール プロセッサでのみ実行できます。 バージョン 5.x 以下のコール プロセッサでは、アナログ エンドポイントのインスタンス作成はスキップされます。これは、アナログ音声ゲートウェイがバージョン 6.x 以上のコール プロセッサでのみサポートされるためです。</p> <p>[アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference)] フィールドは、ゲートウェイの説明と英数字の参照番号を含めるために拡張されます。 音声ゲートウェイのインフラストラクチャ サービスの設定中にゲートウェイの説明が入力されると、その説明が [アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference)] フィールドに表示されます。</p>
[名前 (Name)]	[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] の名前が表示されます。

[説明 (Description)]	[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] の説明が表示されます。
[選択されているリモート接続先プロファイル (Selected Remote Destination Profile)]	選択された [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] の名前が表示されます。
[サービスエリア (Service Area)]	使用可能なサービス エリアのリストです。 [サービスエリア (Service Area)] にユニファイドメッセージプロセッサとして Unity Connection が設定されており、Unity Connection に外部電子メールサーバがない場合は、Provisioning で [電子メール (Email)] のオーダーを行う際に、オプションとして [サービスエリア (Service Area)] が表示されません。
[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging)]	[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging)] を有効にできる、使用可能な電子メールのリストです。
[ダミーMACアドレスの使用 (Use Dummy MAC Address)]	Tool for Auto-Registered Phones Support (TAPS) 電話に使用されます。 このチェックボックスをオンにすると、Provisioning はシステムで一意的なダミー MAC アドレスを持つ電話を作成します。 TAPS 電話を Cisco Unified Communications Manager でプロビジョニングし、実際の MAC アドレスに更新した後、Provisioning でユーザとドメインの同期を実行する必要があります。 それによって、Provisioning 内のダミー MAC アドレスが実際の MAC アドレスに更新されます。 ダミーのエンドポイントがオーダーされた後の変更オーダーやキャンセル オーダーでは、ユーザやドメインの同期は必要ありません。
[ボイスメールエイリアス (Voicemail Alias)]	ボイスメールのエイリアスを入力します。
[ボイスメール表示名 (Voicemail Display Name)]	ボイスメールの表示名を入力します。
[Voiceport]	[アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference)] フィールドに基づいて、該当する音声ポートが設定されます。 占有されているポートおよび使用可能なポートのリストを表示できます。 オーダー用に選択できるのは使用可能なポートだけです。

<p>[詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)]</p>	<p>オーダーしたサービスの使用可能なプロビジョニング属性がリストされます。このページでは、オーダーを作成する際のプロビジョニング属性を設定できます (プロビジョニング属性の詳細については、サービステンプレートの作成, (68ページ) を参照してください)。[詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] オプションの横のプラス記号 (+) をクリックし、このペインを展開します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager 内で数値が指定されているプロビジョニング属性の値の設定を解除するには、値として 0 を入力する必要があります。値をクリアしただけでは、Cisco Unified Communications Manager 内のプロビジョニング属性は解除されません。</p> <p>[詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] は、[詳細オーダー (Advanced Ordering)] 承認権限が割り当てられているユーザだけが使用できます。</p>
<p>[予約済みのエンドポイントを選択する (Choose a reserved endpoint)]</p>	<p>予約済みのエンドポイントがリストされている検索ページを開きます。予約済みのエンドポイントは特定のユーザのために予約されています。</p>

[エンドポイントのコ ピー (Copy endpoint)]	
------------------------------------	--

ユーザ権限でサポートされているシステムのエンドポイントがすべてリストされている検索ページを開きます。エンドポイントをコピーして、既存のエンドポイントと同じ設定で新しいエンドポイントをプロビジョニングすることができます。

設定をコピーするには、検索ページでエンドポイントを選択して [OK] をクリックし、エンドポイントの設定を新しいエンドポイントにコピーすることを確認します。

この機能を使用できるのは、[詳細オーダー (Advanced Ordering)] 権限を持つユーザだけです。

グローバルアクセスを行うことができる場合は、エンドポイントが同じコールプロセッサに属していれば、管理対象のエンドポイントと管理対象外のエンドポイントを含めた、ユーザがオーダー可能なすべてのエンドポイントをコピーできます。

ドメインアクセスを行うことができる場合は、エンドポイントが同じコールプロセッサに属していれば、ユーザがオーダー可能であり、さらにユーザが管理可能なドメイン内にある管理対象エンドポイントだけをコピーできます。

これは、各エンドポイントに固有の設定が存在するため、すべての設定が新しいエンドポイントにコピーされるわけではないからです。次の設定は新しいエンドポイントにコピーされません。

- [電話番号 (Directory Number)]
- [MACアドレス (MAC Address)]
- [エンドポイントの説明 (Endpoint Description)]

エンドポイントがコピーされても、サービスは新しいエンドポイントにコピーされません。たとえば、回線、ボイスメール、電子メールがエンドポイントに存在する場合、これらは新しいエンドポイントにコピーされません。さらに、エンドポイントに関連付けられている設定専用の属性もコピーされません。

[エンドポイントのコピー (Copy endpoint)] を使用してコピーできるのは、オーダーの作成時に設定されたプロビジョニング属性だけです。

コピーされたエンドポイントの Cisco Unified Communications Manager のバージョンで属性がサポートされない場合、またはコピーされたエンドポイントのタイプで属性がサポートされない場合、その属性は新しいエンドポイントでクリアされます。

アナログ電話のみ、別のアナログ電話にコピーすることができます。IP Phone をアナログ電話にコピーすることはできません。

エンドポイントをコピーする場合、追加オーダー時に設定されたプロビジョニング属性はコピーされるだけです。

	<p>オーダーが完了すると、Cisco Unified Communications Manager で、[共通設定の上書き（Overriding Common settings）]チェックボックスがオンになります。つまり、新しいエンドポイントのデフォルト属性は変更されています。</p>
<p>[オーダー可能な Cisco Jabber サービス（Orderable Cisco Jabber Services）]</p>	<p>Cisco Jabber サービスは、Cisco Unified Communications Manager で Jabber を有効にした場合のみオーダー可能です。Cisco Unified Communications Manager の Jabber を有効にするには、[展開（Deploy）]>[ユニファイドコミュニケーションサービス（Unified communication Services）]を選択します。</p> <p>リストから Jabber サービスを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Jabber for Tablet • Cisco Jabber for iPhone • Cisco Jabber for Desktop • Cisco Jabber for Blackberry • Cisco Jabber for Android

コールプロセッサに対する回線とエンドユーザの関連付け

Provisioning の次の回線サービスのいずれかをオーダーすると、回線とエンドユーザの関連付けが自動的に作成されます。

- [回線（Line）]
- [共有エンドポイントの回線（Line on a Shared Endpoint）]
- [エクステンションモビリティ回線（Extension Mobility Line）]
- [リモート接続先プロファイル回線（Remote Destination Profile Line）]

関連付けは、次のルールに基づいて作成されます。

- 回線サービスの追加オーダーの場合は、エンドユーザの関連付けが、すべての回線サービスに対してコールプロセッサ上で自動的にプロビジョニングされます。
- 回線サービスの変更オーダーの場合は、関連付けが次のように作成されます。
 - ユーザの関連付けが存在しない場合は、オーダーを行ったユーザ ID と回線サービスとの間で関連付けがプロビジョニングされます。
 - ユーザの関連付けが存在していて、オーダーを行ったユーザ ID がすでに関連付けられている場合は、その関連付けが保持されます。

- ユーザの関連付けが存在していて、オーダーを行ったユーザ ID が関連付けられていない場合は、既存のユーザとともにオーダーを行ったユーザに対して、新しい関連付けがプロビジョニングされます。
- 回線サービスのキャンセルオーダーの場合は、サービス自体がデプロビジョニングされているため、ユーザの関連付けもまた Cisco Unified Communications Manager から削除されます。
- エンドポイントオーダーを変更または交換する場合は、エンドポイントのタイプに基づいてサポートされる値を入力する必要があります。有効な値を入力しないと、オーダーは回復不能な状態になります。たとえば、iPhone および Nokia では特定の値のセットがサポートされます。
- エンドポイントの交換オーダーの場合は、古いエンドポイントのユーザの関連付けが保持されます。
- オーナー変更の場合は、次のようになります（IP Phone にのみ適用）。
 - 以前のオーナーの回線に関連付けられているユーザは、新しいオーナーの関連付けに置き換える必要があります。
 - 登録ユーザから疑似ユーザにエンドポイントのオーナーを変更する場合は、関連付けがデプロビジョニングされます。
 - 疑似ユーザから通常のユーザにオーナーを変更する場合は、関連付けが追加されます。

Cisco Prime Collaboration Provisioning によって回線がプロビジョニングされていない場合は、回線が Provisioning と同期された後に、Cisco Unified Communications Manager で回線とユーザの関連付けが作成されないことがあります。

この場合は、Line to End-user Association ユーティリティを実行する必要があります。このユーティリティを実行しないと、プライマリ内線以外の回線のプレゼンス ステータスがレポートされず、シングルナンバー リーチ サービスが正しく動作しなくなります。

Line to End-user Association ユーティリティの実行に関する詳細については、http://www.cisco.com/en/US/products/ps12363/prod_installation_guides_list.htmlを参照してください。

ユーザの同期中、Cisco Prime Collaboration Provisioning はコール プロセッサの回線オブジェクトのユーザ関連付けをすべて同期させます。

- 6.0.x 以降のバージョンの Cisco Unified Communications Manager だけが、この関連付けでプロビジョニングされます。
- この関連付けは、疑似ユーザには提供されません。



(注)

関連付けられたユーザのリストに設定されている特定のユーザを削除することはできません。この制限を回避するには、Cisco Unified Communications Manager から手動でユーザ関連付けを削除し、Cisco Unified Communications Manager を Cisco Prime Collaboration Provisioning と同期させます。

共有エンドポイントと共有回線のオーダー

Cisco Prime Collaboration Provisioning 内で共有エンドポイントと共有回線の両方を設定できます。次のシナリオが可能です。

- 共通共有回線：複数のユーザが異なるエンドポイントから同じ回線を共有します。
- プライマリ共有回線：複数のユーザが異なるエンドポイントから同じ回線を共有しますが、すべてのユーザについて1人のユーザの回線ディスプレイ（ヘルプデスクなど）が使用されます。ユーザは、共有回線とは別に独自の回線を所有することもできます。
- 共有エンドポイント：複数のユーザが同じエンドポイントを共有しますが、そのエンドポイントから別々の回線を所有します。

共有エンドポイントおよび共有回線をオーダーする際は、次の点に注意してください。

- ボイスメール、電子メール、およびユニファイドメッセージングを装備している回線がすでに存在する共有エンドポイントに対して、2番目のユーザが回線をオーダーした場合、それらの1番目の回線の製品は、そのユーザのユーザレコードに表示されません。共有回線をオーダーした場合も同様です。
- 2番目のユーザが共有エンドポイントを削除した場合、その共有エンドポイントは1番目のユーザのユーザレコードに引き続き表示され、Cisco Unified Communications Manager にも引き続き存在します。ただし、2番目のユーザが共有エンドポイントの回線を削除した場合、その回線は1番目のユーザのユーザレコードから削除され、Cisco Unified Communications Manager からも削除されます。
- 2番目のユーザが共有回線を削除した場合、その共有回線は Cisco Unified Communications Manager 上で2番目のユーザのエンドポイントから削除されます。ただし、1番目のユーザのユーザレコードには引き続き表示され、Cisco Unified Communications Manager 上で1番目のユーザのエンドポイントにも引き続き存在します。
- 1番目のユーザは、2番目のユーザの回線に対して新しいボイスメールをオーダーしないようにしてください（オーダーした場合は、ボイスメールが独自のユーザレコードに表示されます）。この場合、ボイスメールはすでに同じ電話番号で存在するため、Cisco Unity で2番目のボイスメールは機能しません。
- 共有回線に設定されている電話番号のプロビジョニング属性に対して行われた変更も、電話番号が同じすべての回線に適用されます。新規の共有回線には、既存の回線の電話番号属性が適用されます。
- 1番目のユーザが共有回線またはエンドポイントを削除すると、その共有回線またはエンドポイントの関連付けは2番目のユーザに移ります。

共通共有回線の設定

複数のユーザが各自のエンドポイントで回線を使用することによって同じ電話番号を共有する、というシナリオを設定できます。

- ユーザ名はそれぞれ、各自のエンドポイントにおける共有回線上に表示されます。
 - 他の人に電話をかけると、発信者 ID にはユーザ名が表示されます。
 - 各ユーザのエンドポイントと共有回線は、各自のユーザ レコードに表示されます。
- 共通共有回線を設定するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] を選択します。
 - ステップ 2** サービスをプロビジョニングするユーザの横のチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 3** [サービスのプロビジョニング (Provision Services)] をクリックします。
 - ステップ 4** [ユーザサービスの詳細 (User Service Details)] ページで [新規サービス (New Service)] をクリックします。
 - ステップ 5** [サービスエリア (Service Area)] を選択して [続行 (Continue)] をクリックします。
 - ステップ 6** [共有エンドポイントの回線 (Line on a Shared Endpoint)] を選択し、[続行 (Continue)] をクリックしてオーダー処理を開始します。
 - ステップ 7** 次の手順を実行します。
 - [共有エンドポイントタイプの回線用に選択した回線 (Chosen Line for the line on a shared endpoint type)] を選択します。
 - 回線の [回線の位置 (Line Position)] を選択します。
 - ターゲット エンドポイントを指定します。
 - 共有回線の電話番号を指定します。
 - ステップ 8** [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] ペインを展開します。
 - ステップ 9** [電話番号情報 (Directory Number Information)] ペインで、ディレクトリの [ルートパーティション (Route Partition)] を選択します。
 - ステップ 10** [詳細設定 (Advanced Configuration)] のその他のペインに必須情報を入力し、[確認 (Confirm)] をクリックします。
 - ステップ 11** 残りの各ユーザについて上記の手順を繰り返します。
-

プライマリ共有回線の設定

複数のユーザが各自のエンドポイントから同じ回線を共有するものの、プライマリ ユーザの回線ディスプレイが他のユーザよりも優先される、というシナリオを設定できます。

- 1 人のプライマリ ユーザと 1 人または複数のセカンダリ ユーザの全員が、同じ回線を共有できます。
- プライマリ ユーザの回線ディスプレイは、すべてのユーザのエンドポイントにおける共有回線上に表示されます。
- セカンダリ ユーザが共有回線を使用してコールを発信すると、発信者 ID に、プライマリ ユーザの回線ディスプレイが表示されます。
- セカンダリ ユーザのユーザ レコードには、共有回線と、各自の回線が表示されます。
- プライマリ ユーザのユーザ レコードには、3 つの共有エンドポイントおよび 3 つの回線のすべてと、個々のユーザの回線が表示されます。

プライマリ共有回線の設定手順の例

このシナリオでは、ヘルプ デスクがプライマリ ユーザであり、セカンダリ ユーザ 1 および 2 と回線を共有しています。

ユーザ	回線ディスプレイ	宛先番号
プライマリ ユーザ	[ヘルプデスク (Help Desk)]	123
ユーザ 1	[ユーザ 1 (User 1)]	321
ユーザ 2	[ユーザ 2 (User 2)]	345



(注) すべてのエンドポイントについて、共有回線に対応するキャパシティを備えたエンドポイントモデルを選択していることを確認してください。

手順

-
- ステップ 1** [展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザ 1 (User 1)] をクリックして [新規サービス (New Service)] をクリックします。
- ステップ 3** [サービスエリア (Service Area)] を選択して [続行 (Continue)] をクリックします。
- ステップ 4** [エンドポイントサービス (Endpoint Service)] を選択して [続行 (Continue)] をクリックします。
- ステップ 5** [未割り当て (Not Assigned)] リンクをクリックして回数のタイプを割り当てます。
- ステップ 6** 電話番号を 321 と指定します。エンドポイントおよびサービスのオーダーを作成できます。個々のサービスのオーダーを作成するか、バンドルされたサービスをオーダーできます。
- ステップ 7** ユーザ 2 について [ステップ 1 ～ステップ 6](#) を繰り返しますが、電話番号を 345 と指定します。
- ステップ 8** プライマリ ユーザ (ヘルプ デスク) について [ステップ 1 ～ステップ 6](#) を繰り返しますが、宛先番号を 123 と指定します。
- ステップ 9** [ステップ 1](#) を繰り返します。
- ステップ 10** [プライマリユーザ (Primary User)] をクリックします。
- ステップ 11** 新しい [共有エンドポイントの回線 (Line on Shared Endpoint)] を選択し、必ず次の手順を実行します。
- [選択した回線 (Chosen Line)] を選択します。
 - 電話番号を 123 と指定します。
 - ユーザ 1 のエンドポイントの MAC アドレスを選択します。
- ステップ 12** ユーザ 2 のエンドポイントの MAC アドレスを選択します。
[ステップ 10](#) を繰り返し、必ず次の手順を実行します。
 [選択した回線 (Chosen Line)] を選択します。
 電話番号を 123 と指定します。
- ステップ 13** [確認 (Confirm)] をクリックします。
-

2 人以上のユーザが同じエンドポイントを共有するものの、それぞれ独自の回線と回線ディスプレイ情報を持つ、というシナリオを設定できます。

- 各ユーザの回線ディスプレイは、共有エンドポイントの各自の回線に表示されます。
- 他の人に電話をかけると、発信者 ID には、該当するユーザの回線ディスプレイが表示されます。
- 各ユーザレコードには、共有エンドポイント、各自の回線、他のユーザの回線がリストされます。

エンドポイントのない回線のオーダー

Cisco Prime Collaboration Provisioning では、関連付けられているエンドポイントがない回線や共有回線をオーダーすることができます。ユーザは、[ユーザプロビジョニング (Provisioning)] ページ ([展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)]) から、または Self-Care から追加できます (Self-Care については、[Prime Collaboration Self-Care の使用方法](#), (231 ページ) を参照してください)。ユーザ インターフェイスを介して、またはバッチ プロビジョニングで一括して、エンドポイントのない回線を追加できます。



(注) この機能は Cisco Unified Communications Manager 10.0 以上でサポートされます。また、小規模、中規模、および大規模などのすべての展開モデルでサポートされています。

回線にエンドポイントを追加するには、[サービスの詳細 (Service Details)] ペインにリストされている回線サービスをポイントし、[エンドポイントの接続 (Attach Endpoint)] オプションをクリックします。また、クイック ビューの [エンドポイントの切断 (Detach Endpoint)] オプションを使用すると、関連付けられているエンドポイントを回線から切断できます。

Self-Care から登録したエンドポイントを管理するために、Self-Care から関連付けた後で、エンドポイントを再同期する必要があります。

エンドポイントのキャンセル中に、エンドポイントの回線サービスを保持することができます。エンドポイント サービスをキャンセルしたら、保持されている回線は、エンドポイントのない回線と見なされます。Cisco Prime Collaboration Provisioning では、エンドポイントのない回線にボイスメール サービスや電子メール サービスを追加できます。

次のエンドポイント/回線不一致レポートを使用して、エンドポイントに関連付けられていない回線を特定できます。

- [回線未割り当てのユーザ (Users with No Line)]
- [回線割り当て済み/エンドポイント未割り当てのユーザ (Users with Lines and No Endpoint)]
- [未割り当ての回線 (Unassigned Lines)]

このレポートを生成するには、[レポート (Reports)] > [エンドポイント/回線不一致レポート (Endpoint/Line Mismatch Reports)] をクリックして、目的のレポートの横にある [エクスポート (Export)] をクリックします。

ボイスメール サービスのオーダー

ボイスメール サービスをオーダーするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 [展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] を選択します。
- ステップ 2 対象のユーザをクリックします。
- ステップ 3 [ユーザサービスの詳細 (User Service Details)] ページで [新規サービス (New Service)] をクリックします。
- ステップ 4 ドロップダウン リストからサービス エリアを選択します。マウス ポインタを [クイックビュー (Quick View)] アイコンの上に置くと、ドロップダウン リストにサービス エリアの情報が表示されます。
- ステップ 5 [続行 (Continue)] をクリックします。
- ステップ 6 [ボイスメールサービス (Voicemail service)] を選択して [続行 (Continue)] をクリックします。
- ステップ 7 [サービスのプロビジョニング (Service Provisioning)] ページで、次の手順を実行します。
 - [基本ボイスメール情報 (Basic Voicemail Information)] ペインで、必要な情報を入力します。
 (注) サービスエリアに対して Exchange サーバが設定されている場合にのみ、テキスト/スピーチ (TTS) 対応サービス テンプレートと非対応サービス テンプレートが [サービステンプレート (Service Template)] ドロップダウン リストに表示されます。サービス エリアで Exchange サーバが設定されていない場合は、TTS 非対応のサービス テンプレートのみが [サービステンプレート (Service Template)] ドロップダウン リストに表示されます。
 - [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] ペインで、次のタブに必要な情報を入力します。
 - [一般 (General)] (フィールドの説明については、表 50 : [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] - [一般 (General)] , (277 ページ) を参照してください) 。
 - [受信したメッセージ (Received Messages)] (フィールドの説明については、表 51 : [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] - [受信したメッセージ (Received Messages)] , (280 ページ) を参照してください) 。
 - [コールの動作 (Call Behavior)] (フィールドの説明については、表 52 : [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] - [コールの動作 (Call Behavior)] , (282 ページ) を参照してください) 。
 - [電話メニュー (Phone Menu)] (フィールドの説明については、表 53 : [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] - [電話メニュー (Phone Menu)] , (285 ページ) を参照してください) 。
 - [送信したメッセージ (Sent Messages)] (フィールドの説明については、表 54 : [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] - [送信したメッセージ (Sent Messages)] , (287 ページ) を参照してください) 。
 - [代替 ID (Alternate Identities)] 。

(注) [一般 (General)]、[受信したメッセージ (Received Messages)]、[コールの動作 (Call Behavior)]、[電話メニュー (Phone Menu)]、[送信したメッセージ (Sent Messages)]、および[代替ID (Alternate Identities)] タブは、Unity Connection 10.x 以上で表示されます。

ステップ 8 [続行 (Continue)] をクリックします。

ステップ 9 [確認 (Confirm)] をクリックして [OK] をクリックします。

表 50: [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] - [一般 (General)]

フィールド	説明
[クロスサーバ転送先内線番号 (Cross-Server Transfer Extension)]	ユーザが別のユーザへコールを転送しようとしたがクロス サーバ転送が失敗した場合に、転送コールをリリースする内線番号を入力します。
[発信ファクスサーバ (Outgoing Fax Server)]	ユーザに適用可能なファクス サーバを選択します。
[パーティション (Partition)]	オブジェクトが属するパーティションを選択します。 パーティションはグループ化されてサーチ スペースになります。サーチ スペースは、ユーザまたは外部発信者が Unity Connection と対話しているときに到達できるオブジェクト (ユーザや同報リスト など) の範囲を定義するために使用されます。
[検索範囲 (Search Scope)]	ユーザ アカウントに適用するサーチ スペースを選択します。
[電話システム (Phone System)]	ユーザの内線番号が作成された電話システムを選択します。

<p>[サービス クラス (Class of Service)]</p>	<p>UnityConnection デバイスで設定されたサービス クラス (COS) を一覧表示します。TTS 対応 COS のいずれかを選択すると、ボイスメール アカウントに対してユニファイドメッセージング サービスが有効になります。TTS 非対応 COS を選択した場合は、ボイスメールアカウントに対してユニファイドメッセージング サービスが無効になります。</p> <p>サービス エリアに対して Exchange サーバが設定されている場合にのみ、TTS 対応 COS オプションと非対応 COS オプションが [サービス クラス (Class of Service)] ドロップダウン リストに表示されます。サービス エリアで Exchange サーバが設定されていない場合は、非対応 COS オプションのみが表示されます。</p> <p>ボイスメールのオーダー中に [サービス クラス (Class of Service)] ドロップダウン リストから値を選択しない場合は、そのサービス エリアに割り当てられている加入者テンプレートに基づいてサービス クラスが設定されます。</p> <p>ボイスメールアカウントに対してユニファイドメッセージング サービスが有効になっている場合、サービス一覧ページには、ボイスメール サービスに対してテキスト/スピーチ アイコンが表示されます。ボイスメールクイックビューには、ボイスメールアカウントに割り当てられているサービスクラス、およびそのボイスメールアカウントに対してユニファイドメッセージング サービスが有効になっているかどうかが表示されます。</p> <p>(注) このオプションは、Cisco UnityConnection 8.0.3 以上のバージョンで使用できます。</p> <p>(注) ボイスメールアカウントを追加する場合、このフィールドへの入力オプションです。ただし、ボイスメールのオーダーを変更する場合には必須です。</p>
<p>[Exchange サーバ (Exchange Server)]</p>	<p>このフィールドは、ボイスメール のオーダーを変更する場合にのみ表示されます。</p> <p>ボイスメールアカウントに対してユニファイドメッセージング サービスが有効になっている場合、このフィールドには、そのボイスメール アカウント用のメールボックスが作成されている Exchange サーバの名前が表示されます。</p> <p>ボイスメールアカウントに対してユニファイドメッセージング サービスが無効になっている場合は、そのサービス エリアに設定されているすべての Exchange サーバがこのドロップダウン リストに表示されます。</p>
<p>[アクティブなスケジュール (Active Schedule)]</p>	<p>リストからスケジュールを選択して、標準および時間外のグリーンディングを再生する日時と、グリーンディング後のUnityConnection によるアクションを指定します。</p>

[ディレクトリに登録 (List in Directory)]	企業ディレクトリにユーザを登録するには、このチェックボックスをオンにします。外部発信者は、このディレクトリを使用してユーザにアクセスします。
[メッセージの配信失敗時に不達確認を送信する (Send Non-Delivery Receipts on Failed Message Delivery)]	メッセージの配信失敗時に不達確認 (NDR) メッセージを送信者ヘルトするには、このチェックボックスをオンにします。
[既知の内線から発信するときの暗証番号をスキップする (Skip PIN When Calling From a Known Extension)]	この内線番号から発信するとき、ユーザに暗証番号の入力を要求しないようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[短い予定表キャッシングポール間隔を使用する (Use Short Calendar Caching Poll Interval)]	このチェックボックスをオンにすると、[予定表：短い予定表キャッシングポール間隔(分) (Calendars: Short Calendar Caching Poll Interval (In Minutes))] フィールドに設定された頻度に従ってユーザの Outlook カレンダー情報が更新されます。
[次回ログイン時に自己登録を設定する (Set for Self-Enrollment at Next Sign-In)]	このチェックボックスをオンにすると、ユーザは次回ログイン時に名前と標準グリーティングを記録して暗証番号を設定し、企業ディレクトリに登録するかどうかを選択するように求められます。
[ロケーション (Location)]	
[アドレス (Address)]	ユーザの番地を入力します。
[ビル名 (Building)]	ユーザが居るビル名を入力します。
[市区町村 (City)]	市区町名を入力します。
[都道府県 (State)]	都道府県名を入力します。
[郵便番号 (Postal Code)]	郵便番号を入力します。
[国 (Country)]	国名を入力します。
[タイムゾーン (Time Zone)]	ユーザの適切なタイムゾーンを選択します。
[言語 (Language)]	ユーザの適切な言語を選択します。
[マネージャ (Manager)]	マネージャの名前を入力します。
[部署名 (Department)]	ユーザの部署名を入力します。
[課金ID (Billing ID)]	アカウント情報、部署名、プロジェクトコードなど、組織固有の情報に使用できる課金 ID。

表 51 : [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] - [受信したメッセージ (Received Messages)]

フィールド	説明
[最大メッセージ長 (Maximum Message Length)]	識別できない発信者が残すことのできるメッセージの録音時間を、秒単位で設定します。
[発信者がメッセージを編集できる (Callers Can Edit Messages)]	発信者がメッセージを再生、追加、再録音、または削除できるようにするプロンプトを再生するには、このチェックボックスをオンにします。
[メッセージの緊急性 (Message Urgency)]	<p>識別できない発信者または明示的にサインインしていないユーザがメッセージを残した場合に、Unity Connection によって許可されるアクションを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [通常にする (Mark Normal)] : 識別できない発信者が残したメッセージに対して、緊急のマークを付けません。 • [緊急にする (Mark Urgent)] : 識別できない発信者が残したすべてのメッセージに緊急のマークを付けます。 • [発信者が選択できる (Ask Callers)] : メッセージに緊急のマークを付けるかどうかについて、Unity Connection から識別できない発信者に問い合わせます。
[プライベートメッセージ (Message Sensitivity)]	<p>識別できない発信者または明示的にサインインしていないユーザがメッセージを残した場合に、Unity Connection によって許可されるアクションを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [通常にする (Mark Normal)] : 識別できない発信者が残したメッセージに対して、プライベートのマークを付けません。 • [プライベートにする (Mark Private)] : 識別できない発信者が残したすべてのメッセージにプライベートのマークを付けます。 • [発信者が選択できる (Ask Callers)] : メッセージにプライベートのマークを付けるかどうかについて、Unity Connection から識別できない発信者に問い合わせます。
[セキュアにする (Mark Secure)]	識別できない発信者または明示的にサインインしていないユーザがこのユーザに残したメッセージに対して、Unity Connection でセキュアのマークを付けるには、このチェックボックスをオンにします。

[録音後のメッセージの再生 (Play After Message Recording)]	<p>識別できない発信者または明示的にサインインしていないユーザがメッセージを送信した後に、Unity Connection によって許可されるアクションを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [メッセージを再生しない (Do Not Play Recording)] : メッセージ送信後に録音メッセージは再生されません。 • [システムデフォルトメッセージを作成する (System Default Recording)] : メッセージ送信後にデフォルトのシステム録音メッセージを再生します。 • [メッセージを再生する (Play Recording)] : メッセージ送信後にカスタマイズされた録音メッセージを再生します。
[メッセージの選択 (Recording Selection)]	このフィールドは、[録音後のメッセージの再生 (Play After Message Recording)] フィールドの [メッセージを再生する (Play Recording)] オプションを選択した場合に限り有効になります。
[発信者に使用する言語 (Language That Callers Hear)]	発信者にシステム プロンプトを再生するときの言語を選択します。
[メッセージ後のアクション (After Message Action)]	このフィールドは、[録音後のメッセージの再生 (Play After Message Recording)] フィールドの [メッセージを再生する (Play Recording)] オプションを選択した場合に限り有効になります。
[開封確認要求へ応答する (Respond to Requests for Read Receipts)]	発信者にシステム プロンプトを再生するときの言語を選択します。
[メッセージエージングポリシー (Message Aging Policy)]	<p>発信者がメッセージを残した後に Unity Connection によって実行されるアクションを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [コールアクション (Call Action)] : 該当するアクションをリストから選択します。 • [コールハンドラ (Call Handler)] : 指定したシステム コールハンドラにコールを送信します。 • [インタビューハンドラ (Interview Handler)] : 指定したインタビュー ハンドラにコールを送信します。 • [ディレクトリハンドラ (Directory Handler)] : 指定したディレクトリ ハンドラにコールを送信します。 • [カンバセーション (Conversation)] : 指定したカンバセーションにコールを送信します。 • [メールボックスを持つユーザ (User with Mailbox)] : 指定したユーザ内線番号にコールを送信します。

[メールボックスクォータのシステム設定の使用 (Use System Settings for Mailbox Quotas)]	メールボックス クォータのシステム設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。
[警告クォータ (Warning Quota)]	ユーザのメールボックスがこのサイズに達すると、そのユーザは、メールボックスが最大許容サイズに達しつつあることを警告されます。
[送信クォータ (Send Quota)]	ユーザのメールボックスがこのサイズに達すると、そのユーザはボイス メッセージを送信できなくなります。
[送信/受信クォータ (Send/Receive Quota)]	ユーザのメールボックスがこのサイズに達すると、そのユーザはボイス メッセージを送受信できなくなります。
[メッセージアクション (Message Actions)]	
[ボイスメール (Voicemail)]	ユーザがボイス メッセージを受信したときに、Unity Connection によって実行されるアクションを選択します。
[電子メール (Email)]	ユーザが電子メール メッセージを受信したときに、Unity Connection によって実行されるアクションを選択します。
[ファクス (Fax)]	ユーザがファクス メッセージを受信したときに、Unity Connection によって実行されるアクションを選択します。
[開封確認 (Receipt)]	ユーザが開封確認を受信したときに、Unity Connection によって実行されるアクションを選択します。

表 52: [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] - [コールの動作 (Call Behavior)]

フィールド	説明
[発信者入力キー (Caller Input Keys)]	発信者入力の設定を編集するには、該当するキーを選択します。
[追加入力待機時間 (Wait for Additional Digits)]	ロックされていないキーを発信者が 1 つ押した後で、Unity Connection が追加入力を待機する時間の長さを示します。
[付加番号を有効にする (Enable Prepend Digits)]	コール ハンドラおよびユーザ メールボックスで先頭に追加される数字を使用して短縮内線番号をシミュレートするには、このチェックボックスをオンにします。
[付加番号 (Prepend Digits)]	発信者がユーザのグリーティングを聞いている間に、ダイヤルした内線番号に対して先頭に追加される数字を入力します。
[代替ルール (Alternate Rule)]、[終了ルール (Closed Rule)]、[標準ルール (Standard Rule)]	
[ルールステータス (Rule Status)]	ルールを有効にするか無効にするかを指定します。

[日時 (Date/Time)]	ルールが特定の終了日まで有効である場合に、ルールが無効になる日時を示します。
[コールの転送先 (Transfer Calls To)]	<p>次のいずれかの設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [グリーティング (Greeting)] : このオプションを選択した場合、コールは次の宛先に転送されます。 ユーザ設定の場合 : ユーザ グリーティング (ユーザの電話機で呼び出し音は鳴りません) 。 コールハンドラ設定の場合 : コールハンドラ グリーティング。 • [内線 (Extension)] : コールの転送先となる内線番号を入力します。
[内線 (Extension)]	電話システムでオブジェクトへの接続に使用される内線番号。
[転送タイプ (Transfer Type)]	<p>Unity Connection によるコールの転送方法を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [スイッチヘリリースする (Release to Switch)] : Unity Connection は自動的に発信者を保留にし、内線番号をダイヤルして、コールを電話システムにリリースします。回線が話し中であるか応答しない場合、コールは電話システム (Unity Connection ではない) からユーザまたはハンドラのグリーティングに転送されます。この転送タイプを使用すると、Unity Connection で着信コールをより迅速に処理できます。[スイッチヘリリースする (Release to Switch)] 設定は、電話システムでコール転送が有効である場合に限り使用してください。 • [転送を監視する (Supervise Transfer)] : Unity Connection が電話受付係の役割を果たして、転送を処理します。回線が話し中であるか応答しない場合、コールは Unity Connection (電話システムではない) からユーザまたはハンドラのグリーティングに転送されます。監視転送は、コールの転送を電話システムで実行するかどうかにかかわらず使用できます。 <p>転送オプションは間接的なコールだけに適用されます。識別できない発信者や別のユーザが直接ユーザの内線番号をダイヤルした場合、転送オプションは適用されません。</p>
[待機する呼び出し回数 (Rings to Wait For)]	ユーザまたはハンドラのグリーティングを再生する前に、内線番号を呼び出す回数を選択します。

<p>[「お電話を転送しております」のプロンプトを再生 (Play the "Wait While I Transfer Your Call" Prompt)]</p>	<p>転送の実行中に、Unity Connection から発信者に対して「お電話を転送しております (Wait while I transfer your call) 」というプロンプトが再生されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p>
<p>[内線が話し中の場合 (If Extension Is Busy)]</p>	<p>電話が話し中である場合の Unity Connection によるコールの処理方法を示します。 コールを保留にしている間はポートが使用されるため、保留のオプションは必要以上に使用しないことをお勧めします。</p>
<p>[コール接続時に通知する (Tell Me When the Call Is Connected)]</p>	<p>ユーザが電話に応答したときに Unity Connection で「お電話を転送しております (transferring call) 」というプロンプトが再生されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>[スイッチヘリリースする (Release to Switch)]が選択されているか、[コールの転送先 (Transfer Calls To)]が[グリーティング (Greeting)]オプションに設定されている場合、このオプションは使用できません。</p>
<p>[コールの宛先を通知する (Tell Me Who the Call Is For)]</p>	<p>ユーザが電話に応答したときに Unity Connection で「<ユーザまたはコール ハンドラの録音名> の方にお電話がはいっています (call for <recorded name of user or call handler>) 」または「<ダイヤルされた内線番号> の方にお電話がはいっています (call for <dialed extension number>) 」というプロンプトが再生されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。 この設定は、電話を複数のユーザで共有している場合、またはユーザがダイヤルされた複数の内線番号のコールを受け付ける場合に使用します。</p> <p>[スイッチヘリリースする (Release to Switch)]が選択されているか、[コールの転送先 (Transfer Calls To)]が[グリーティング (Greeting)]オプションに設定されている場合、このオプションは使用できません。</p>
<p>[コールを取るか確認する (Ask Me If I Want to Take the Call)]</p>	<p>コールを転送する前に、コールを受け付けるかどうかを Unity Connection からユーザに問い合わせるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>[スイッチヘリリースする (Release to Switch)]が選択されているか、[コールの転送先 (Transfer Calls To)]が[グリーティング (Greeting)]オプションに設定されている場合、このオプションは使用できません。</p>

[発信者の名前を確認する (Ask for the Caller's Name)]	<p>Unity Connection から発信者に対して名前を言うように要求する場合は、このチェックボックスをオンにします。ユーザが電話に応答すると、Unity Connection からコールが転送される前に「...様からのお電話です (Call from...) 」というプロンプトが再生されます。</p> <p>[スイッチヘリリリースする (Release to Switch)]が選択されているか、[コールの転送先 (Transfer Calls To)]が[グリーティング (Greeting)]オプションに設定されている場合、このオプションは使用できません。</p>
---	---

表 53 : [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] - [電話メニュー (Phone Menu)]

フィールド	説明
[タッチトーンカンパセーションメニュースタイル (Touchtone Conversation Menu Style)]	タッチトーン カンパセーションに使用するメニュー スタイルを選択します。
[タッチトーンカンパセーション (Touchtone Conversation)]	ユーザがメッセージを電話で再生および管理するときに再生される、タッチトーンカンパセーションスタイルを選択します。
[ガイドンス音量 (Conversation Volume)]	カンパセーションがユーザに再生されるとき音量レベルを選択します。
[ガイドンス速度 (Conversation Speed)]	ユーザにプロンプトが再生されるとき速度を選択します。
[メッセージロケータでメッセージの検索を有効にする (Enable Finding Messages with Message Locator)]	ユーザが電話でメッセージを確認するときに他のユーザおよび識別できない発信者からのボイスメッセージを検索できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[メッセージロケータのソート順 (Message Locator Sort Order)]	<p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ラストイン、ファーストアウト (Last In, First Out)] • [ファーストイン、ラストアウト (First In, Last Out)] <p>[メッセージロケータでメッセージを検索 (Finding Messages with Message Locator)]の [有効 (Enabled)] チェックボックスと併せて使用して、ユーザが個々のメッセージを電話で検索できるようにします。</p>
[時間フォーマット (Time Format)]	ユーザが電話でメッセージを再生するときに、Unity Connection でタイムスタンプの再生に使用される時間形式を示します。
[メニューに応答するとき (When Responding to Menus)]	

[メニューの繰り返し回数 (Times to Repeat Menu)]	ユーザがメニューに応答しないときに、Unity Connection でそのメニューを繰り返す回数を指定します。有効値の範囲は0～10 です。
[最初のタッチトーンを待つ(ミリ秒) (Wait for First Touchtone (Milliseconds))]	Unity Connection で、メニューの再生後にユーザが最初のキーを押すか、ボイス コマンドを発音するまで待機する時間を指定します。有効値の範囲は 500 ～ 10,000 ミリ秒です。 デフォルト設定：5,000 ミリ秒
[名前、内線番号、暗証番号を待つ(ミリ秒) (Wait for Names, Extensions, and PINs (Milliseconds))]	メッセージの宛先指定、パスワードまたは暗証番号の更新、コール転送またはメッセージ通知の番号の変更などのためにユーザ名または内線番号を入力する場合に、ユーザがキーを押した後、次のキーを押すまで Unity Connection が待機する時間を指定します。有効値の範囲は 1,000 ～ 10,000 ミリ秒です。 デフォルト設定：3,000 ミリ秒
[複数桁のメニューオプションを待つ(ミリ秒) (Wait for Multiple Digit Menu Options (Milliseconds))]	Unity Connection で、ユーザが特定の電話メニューで使用可能なキーの組み合わせの最初の数字を表すキーを押してから、新たなキーを押すまで待機する時間を指定します。有効値の範囲は 250 ～ 5,000 ミリ秒です。 デフォルト設定：1,500 ミリ秒
[サインイン後に再生 (After Sign-In, Play)]	適切なチェックボックスをオンにして、ユーザのサインイン後に Unity Connection によって再生される内容を示します。
[カンバセーション終了後 (When Exiting the Conversation)]	次のいずれかのアクションを選択して、カンバセーション終了時の Unity Connection によるユーザの送信先を示します。 <ul style="list-style-type: none"> • [コールアクション (Call Action)] : 該当するアクションをリストから選択します。 • [コールハンドラ (Call Handler)] : 指定したシステム コールハンドラにコールを送信します。 • [インタビューハンドラ (Interview Handler)] : 指定したインタビュー ハンドラにコールを送信します。 • [ディレクトリハンドラ (Directory Handler)] : 指定したディレクトリ ハンドラにコールを送信します。 • [カンバセーション (Conversation)] : 指定したカンバセーションにコールを送信します。 • [メールボックスを持つユーザ (User with Mailbox)] : 指定したユーザ内線番号にコールを送信します。

表 54 : [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] - [送信したメッセージ (Sent Messages)]

フィールド	説明
[メッセージ音量 (Message Volume)]	ユーザが電話でメッセージの本文やファクスメッセージの録音された音声コメントを再生するときに、Unity Connection によって再生されるメッセージの音量レベルを選択します。
[メッセージ再生速度 (Message Speed)]	ユーザが電話でメッセージの本文やファクスメッセージの録音された音声コメントを再生するときに、Unity Connection によるメッセージの再生速度を選択します。
[メッセージの早送り位置(ミリ秒) (Fast Forward Message by (milliseconds))]	ユーザがメッセージを聞いている途中で早送りしたときに、Unity Connection が前方へスキップする時間を指定します。
[メッセージの巻き戻し位置(ミリ秒) (Rewind Message by (milliseconds))]	ユーザがメッセージを聞いている途中で巻き戻したときに、Unity Connection が後方へスキップする時間を指定します。
[開封済みメッセージ再生数 (For Saved Messages Play Count)]	このチェックボックスをオンにすると、開封済みメッセージの合計件数を、Unity Connection が通知します。
[下書きメッセージ再生数 (For Draft Messages Play Count)]	このチェックボックスをオンにすると、下書きとして保存されたメッセージの件数を、Unity Connection が通知します。
[メッセージの前にメッセージタイプメニューを再生 (Play Message Type Menu Before Messages)]	このチェックボックスをオンにすると、ユーザが電話で Unity Connection にサインインしたとき、Unity Connection がメッセージタイプメニューを再生します。
[メニューが自動的に次のメッセージに進んだ後 (After the Menu Automatically Advance to the Next Message)]	Unity Connection で、ユーザが [メッセージ後 (After Message)] メニューのオプションで [保存 (Save)] や [削除 (Delete)] などのアクションを実行しなくても、メッセージスタック内の次のメッセージに自動的に進むようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[新規および開封済みメッセージを削除する場合に確認する (Confirm When Deleting New and Saved Messages)]	このチェックボックスをオンにすると、ユーザが電話で新規および保存済みのメッセージを削除する場合に、Unity Connection はメッセージの削除を選択したことについて確認します。ユーザが削除済みメッセージにアクセスできない場合は、このチェックボックスをオンにすることを検討してください。
[新規メッセージ再生時にアナウンス (For New Messages, Play)]	新規のマークが付いたメッセージの合計数をアナウンスするように Unity Connection を設定するには、必要に応じてチェックボックスをオンにします。
[メッセージ再生中に切断されたとき (When Disconnected During Message Playback)]	

[メッセージブックマークの作成 (Create a Message Bookmark)]	メッセージの再生中にコールが切断されたとき、またはユーザが切断したときに、メッセージのブックマークを作成するように Unity Connection を設定するには、このチェックボックスをオンにします。
[新規メッセージのマーク (Mark a New Message)]	ユーザがメッセージの本文にアクセスしてから切断するか、メッセージの管理方法を示す前に切断された場合に、そのメッセージに新規のマークを付けるように Unity Connection を設定するか、または開封済み（読み取り済み）のマークを付けるように設定するのかわを示します。
[各メッセージの再生時にアナウンス (For Each Message, Play)]	
[送信者情報 (Sender's Information)]	このチェックボックスをオンにすると、 Unity Connection はメッセージを再生した後に、メッセージの送信者に関する情報を再生します。
[内線番号を含める (Include Extension)]	[送信者情報 (Sender's Information)] チェックボックスと併用します。メッセージの再生後に、メッセージを残したユーザの録音名と内線番号を再生するように Unity Connection を設定するには、このチェックボックスをオンにします。
[送信者の ANI (Sender's ANI)]	[送信者情報 (Sender's Information)] チェックボックスと併用します。識別できない発信者によって残されたメッセージの場合は、このチェックボックスをオンにしてメッセージを再生した後で電話番号（ANI または発信者 ID）情報を提供するように Unity Connection へ指示します。
[新しいメッセージの再生順序 (New Message Play Order)]	<p>ユーザに対する Unity Connection による新規メッセージの再生順序を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [メッセージタイプによる並び替え (Sort by Message Type)] : メッセージタイプを選択し、上および下向き矢印をクリックしてメッセージタイプのリストを並び替えます。 • [並び替え順序 (Then By)] : [日付の新しいメッセージを優先 (Newest First)] または [日付の古いメッセージを優先 (Oldest First)] を選択し、Unity Connection による新規メッセージまたは開封済みメッセージの再生順序を指定します。 <p>緊急メッセージは、開封確認を除いて、メッセージタイプごとに常に通常のメッセージの前に再生されることに注意してください（開封確認は送信時刻で並び替えられます）。</p>

[保存メッセージの再生順序 (Saved Message Play Order)]	ユーザに対する Unity Connection による開封済みメッセージの再生順序を示します。
[削除済みメッセージの再生順序 (Deleted Message Play Order)]	[日付の新しいメッセージを優先 (Newest First)] または [日付の古いメッセージを優先 (Oldest First)] を選択し、削除したメッセージの再生順序を指定します。 (注) 緊急メッセージは、開封確認を除いて、メッセージタイプごとに常に通常のメッセージの前に再生されます (開封確認は送信時刻で並べ替えられます) 。
[送信メッセージの設定 (Send Message Settings)]	
[ユーザは、このサーバ上のユーザにブロードキャストメッセージを送信できる (User Can Send Broadcast Messages to Users on This Server)]	ユーザがローカルの Unity Connection サーバ上の全ユーザにブロードキャストメッセージを送信できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[ユーザは、サーバに保存されたブロードキャストメッセージを更新できる (User Can Update Broadcast Messages Stored on This Server)]	ユーザがブロードキャストメッセージを編集できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、ユーザは、ローカルの Unity Connection サーバ上の全ユーザにブロードキャストメッセージも送信できるようになります。
[メッセージの宛先と送信先 (Message Addressing and Sending)]	
[受信者の入力方法 (Enter a Recipient By)]	メッセージを他のユーザ宛てに指定するときに、カンパセーションでユーザに要求する入力方法を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [姓、名の順 (Spelling the Last Name Then First Name)] • [内線番号順 (Entering the Extension)] • [名、姓の順 (Spelling the First Name Then Last Name)]
[受信者を名前で確認する (Confirm Recipient by Name)]	ユーザを宛先として指定したときに、選択した名前の確認プロンプトを再生する場合は、このオプションを有効にします。
[各受信者の後に名前を追加する (Continue Adding Names After Each Recipient)]	複数の受信者にメッセージを送信および転送するとき、各受信者の後に名前の追加を続けることをユーザに求めるように Unity Connection を設定するには、このオプションを有効にします。
[通話が切断されたとき、または自分が切断したとき (When a Call Is Disconnected or the User Hangs Up)]	ユーザがメッセージの送信、応答、または転送を処理しているときにコールが切断された場合に、メッセージを送信するように Unity Connection を設定するか、またはメッセージを破棄するように設定するのかを示します。 コールは意図的に切断されることもあれば、ユーザが電話を切ったり、携帯電話のバッテリーが切れたり、圏外になったりする場合など、不意に切断されることもあります。

[下書きメッセージの保存をユーザに許可する (Allow Users to Save Draft Messages)]	ユーザが作成中のメッセージを下書きとして保存するかどうかを選択できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[メッセージの転送または応答時に緊急フラグを保持する (Retain Urgency Flag When Forwarding or Replying to Messages)]	ユーザが電話インターフェイスを使用して緊急メッセージを送信したり、緊急メッセージに返信したりするとき、緊急フラグを維持するように Unity Connection を設定するには、このチェックボックスをオンにします。

ボイスメールのパスワードまたは PIN の変更

ユーザのボイスメールのパスワードまたは PIN を変更するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 [展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] を選択します。
- ステップ 2 [クイックビュー (Quick View)] アイコンの上にカーソルを置いて、ユーザのクイック ビューを起動します。
- ステップ 3 [パスワード/暗証番号の管理 (Manage Passwords/PINs)] をクリックします。
- ステップ 4 [ユーザの管理 (Manage User)] ページで、[パスワードの選択 (Select Password)] ドロップダウンリストから [Unity Connection の暗証番号 (Unity Connection PIN)] を選択し、ユーザのボイスメールの暗証番号を変更します。 Unity Connection の Web アプリケーション パスワードを変更するには、[Unity Connection Web のパスワード (Unity Connection Web Password)] を選択します。
- ステップ 5 [完了 (Done)] をクリックします。

[ユーザの管理 (Manage Users)] ページで追加した Unity Connection のパスワードまたは PIN は、そのユーザ用に作成されたすべてのボイスメール アカウントに適用されます。個々のボイスメールアカウントのパスワードまたは PIN を変更するには、[サービスの詳細 (Service Details)] ページで、ボイスメールサービスの横に表示されている [クイックビュー (Quick View)] アイコンにカーソルを移動し、[パスワード/暗証番号 (Password/PIN)] をクリックします。また、[ボイスメールの管理 (Manage Voicemail)] ページでもパスワードや PIN を変更できます。次の表に、[ボイスメールの管理 (Manage Voicemail)] ページの [パスワード/暗証番号 (Password/PIN)] 設定エリアに表示されるフィールドを示します。

フィールド	説明
[管理者がロックする (Locked by Administrator)]	ユーザが Cisco Unity Connection にアクセスできないようにするには、このチェックボックスをオンにします。 ユーザがボイスメールにアクセスできないようにするには、このチェックボックスをオンにしてボイスメールの暗証番号を設定します。

フィールド	説明
[ユーザによる変更不可 (User Cannot Change)]	ユーザがパスワードや暗証番号を変更できないようにするには、このオプションをオンにします。 この設定は、複数のユーザがアクセスできるアカウントに対する使用が最も適しています。 このオプションを選択する場合は、[無期限にする (Does Not Expire)] チェックボックスもオンにします。
[次回ログイン時に、ユーザによる変更が必要 (User Must Change at Next Sign-In)]	一時的なパスワードまたは暗証番号を設定しており、ユーザが Cisco Unity Connection に次回サインインするとき、ユーザに新しいパスワードまたは暗証番号の設定を求める場合は、このオプションを選択します。
[無期限にする (Does Not Expire)]	このチェックボックスをオンにすると、システムからユーザに対するこのクレデンシャルの変更要求が拒否されます。 このチェックボックスは、通常、高いセキュリティを必要としないユーザや、複数の人物に利用される可能性があるアカウントに対して使用します。 このチェックボックスをオンにした場合、該当するユーザはこのクレデンシャルをいつでも変更できます。
[認証ルール (Authentication Rule)]	選択したユーザ パスワードまたは暗証番号の設定に適用する認証ポリシーを選択します。

プレゼンス サービスのオーダー

プレゼンス サービスをオーダーするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 [展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] を選択します。
- ステップ 2 サービスをプロビジョニングするユーザの横のチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3 [サービスのプロビジョニング (Provision Services)] をクリックします。
- ステップ 4 [ユーザサービスの詳細 (User Service Details)] ページで [新規サービス (New Service)] をクリックします。
- ステップ 5 [サービスエリア (Service Area)] を選択して [続行 (Continue)] をクリックします。
- ステップ 6 [ユーザサービス (User Services)] を選択してから [続行 (Continue)] をクリックし、ユーザサービス製品を設定します。

(注) [ユーザサービス (User Services)] は Cisco Unified Communications Manager 9.x で利用できます。 Provisioning 9.0 にアップグレードすると、ユーザサービスをオーダーに使用できなくなります。 対応するユーザ権限にこのサービスを手動で関連付ける必要があります。 [ユーザ権限とサービスの関連付け](#)、(66 ページ) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager 10.0 以上では、[ユーザサービス (User Services)] はオーダー可能なサービスとして使用できなくなります。サービスのオーダーを作成するとデフォルトで追加されます。

「ユーザサービスの入力フィールド」の表に、ユーザサービスのさまざまな設定フィールドを示します。

ステップ 7 [続行 (Continue)] をクリックします。

ステップ 8 [オーダーの確認 (Order Confirmation)] ページで、[確認 (Confirm)] をクリックします。

表 55: ユーザ サービスの入力フィールド

フィールド	説明
[サービステンプレート (Service Template)]	使用するサービステンプレートを選択します。
[サービス設定の有効化 (Enable Service Settings)]	
[Unified CM IM and Presence のユーザを有効にする (Enable User for Unified CM IM and Presence)]	Unified CM IM and Presence を有効または無効にするために使用します。
[ホームクラスタ (Home Cluster)]	該当クラスタが、ユーザに対してホームクラスタであるかどうかを示します。
[UC サービスプロファイル (UC Service Profile)]	サービスプロファイルをユーザに関連付けるために使用します。
[ユーザプロファイル (User Profile)]	ユーザに関連付けられたプロファイルを示します。
[ユーザロケール (User Locale)]	ドロップダウンリストから、ユーザに関連付けるロケールを選択します。そのユーザロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。
[ユーザ情報 (User Information)]	

[セルフプロビジョニングユーザ ID (Self-Provisioning User ID)]	<p>Cisco Unified Communications Manager 10.0 以上では、回線サービスのオーダーを作成すると、セルフプロビジョニングユーザ ID が（プライマリ内線番号に基づいて）ユーザの電話番号にデフォルトで追加されます。セルフプロビジョニングユーザ ID を変更するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [ユーザサービス (User Services)] の横に表示される [クイックビュー (Quick View)] アイコンにカーソルを置き、[変更 (Change)] をクリックします。 2. [オーダーの変更 (Change Order)] ページで、セルフプロビジョニングユーザ ID を更新して [続行 (Continue)] をクリックします。 3. [詳細の確認 (Confirm Details)] ページで [確認 (Confirm)] をクリックします。 <p>Cisco Unified Communications Manager 9.x では、[セルフプロビジョニングユーザ ID (Self-Provisioning User ID)] フィールドが表示されません。</p>
[エクステンションモビリティ (Extension Mobility)]	
[デフォルトのプロファイル (Default Profile)]	ドロップダウンリストから、このユーザのデフォルトのエクステンションモビリティプロファイルを選択します。
[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (Subscribe Calling Search Space)]	ドロップダウンリストボックスから、ユーザのプレゼンス要求に使用するコーリングサーチスペースを選択します。ドロップダウンリストからユーザのコーリングサーチスペースを選択しない場合、SUBSCRIBE コーリングサーチスペースのデフォルトは [なし (None)] に設定されます。
[クラスタ間のエクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility Cross Cluster)]	このユーザが、クラスタ間のシスコエクステンションモビリティ機能を使用できるようにする場合に、このチェックボックスをオンにします。
[電話番号の割り当て (Directory Number Association)]	

[プライマリ内線 (Primary Extension)]	このフィールドは、ユーザのプライマリ電話番号を表します。
[モビリティ情報 (Mobility Information)]	
[モバイルボイスアクセスの有効化 (Enable Mobile Voice Access)]	ユーザがモバイル ボイス アクセス自動音声応答 (IVR) システムにアクセスしてモバイルコネクト コールを起動し、モバイル コネクト機能をアクティブまたは非アクティブにできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[デスクピックアップの最大待機時間 (Maximum Wait Time for Desk Pickup)]	携帯電話からデスクトップ電話に転送されたコールをユーザがピックアップするまでに許可する、最大時間をミリ秒単位で入力します。
[MLPP(Multilevel Precedence and Preemption)認証設定 (Multilevel Precedence and Preemption Authorization Settings)]	
[MLPP ユーザ ID 番号 (MLPP User Identification Number)]	MLPP ユーザ ID 番号は 6 ～ 20 桁の数字で構成する必要があります。
[MLPP 優先認証レベル (MLPP Precedence Authorization Level)]	優先認証レベルは、[標準 (Routine)] から [エグゼクティブオーバーライド (Executive Override)] までの、任意の標準優先レベルに設定できます。
[グループと権限 (Groups and Roles)]	
[グループ (Groups)]	<p>このリスト ボックスは、エンドユーザ レコードが保存された後で表示されます。このリスト ボックスには、エンドユーザが属するグループが表示されます。ユーザを 1 つまたは複数のユーザグループに追加するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 [追加 (Add)] ボタンをクリックします。 2 ユーザを追加するグループを特定し、グループの横のチェックボックスをオンにします。 3 ウィンドウの下部にある [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。 <p>グループからユーザを削除するには、[グループ (Groups)] リスト ボックスでグループを選択し、[削除 (Remove)] ボタンをクリックします。</p>

[権限 (Roles)]	このリストボックスには、ユーザに割り当てられている権限が表示されます。
---------------	-------------------------------------

ユーザへのユーザ プロファイルの関連付け

ユーザに対して Self-Care を有効にするには、対象のユーザにユーザ プロファイルを割り当てる必要があります。

ユーザ サービスにはユーザ プロファイル プロビジョニング属性が含まれます。また、ユーザ サービスにはすべての設定済みユーザ プロファイルが表示されます。サービスをオーダーする際に、ユーザに対する目的のプロファイルを選択することができます。

ユーザ プロファイル属性は、ユーザ サービスのサービス テンプレートにも表示されます。ユーザ プロファイルがサービス エリア レベルで設定されている場合は、ユーザに対して最初のオーダーが作成された際に、値がサービス エリア から取得されて対象のユーザに関連付けられます。



(注) ユーザ プロファイル属性は、Cisco Unified Communications Manager 10.x 以上でサポートされません。

Cisco Prime Collaboration Provisioning でユーザ データ サービス (UDS) 機能を有効にすると、すべてのクラスタのユーザがプロビジョニングされますが、最初のオーダーが行われるクラスタのユーザにのみユーザ プロファイルが割り当てられます。

ユーザへのユーザ プロファイルの自動割り当て

サービス テンプレートを使用してユーザ プロファイル属性をサービス エリア レベルで設定し、そのユーザ プロファイルをユーザに自動的に関連付けることができます。ユーザ作成時に、ユーザ プロファイルの値が該当するサービス エリア から取得され、[ユーザの追加 (Add User)] 要求に追加されます。

ユーザへのユーザ プロファイルの手動割り当て

ユーザ プロファイルをユーザに手動で割り当てるには、ユーザ サービスを設定する必要があります。目的のユーザ プロファイルをドロップダウン リストから選択してオーダーを作成し、ユーザ プロファイルをユーザに関連付ける必要があります。

設定済みのユーザ プロファイルは、ユーザ サービスを更新すると変更できます。ユーザ プロファイルがユーザに対して設定されている場合、設定済みのユーザ プロファイル値は [サービスの詳細 (Service Details)] ページに表示されます。



(注) ユーザ同期の一環として、ユーザ プロファイルがコール プロセッサからインポートされ、プロビジョニング インベントリに保存されます。

ユーザが関連付けられていないエンドポイントの管理

[疑似 (Pseudo)] ユーザ権限では、コールプロセッサでユーザが関連付けられていないエンドポイントをプロビジョニングすることができます。

疑似ユーザ向けのエンドポイントのプロビジョニングは通常のユーザ向けと同じですが、ユーザがコールプロセッサで作成されない点が異なります。疑似ユーザ向けの次の基本サービスを含むサービスをオーダーできます。

- エンドポイント (すべてのエンドポイント タイプを含む)
- 回線
- ボイスメール
- 電子メール
- ユニファイド メッセージング

ユーザにサービスが設定されていない場合だけ、ユーザ権限を [疑似 (Pseudo)] から通常の権限に変更したり、その逆の変更を行ったりすることができます。

次の手順は、ユーザが関連付けられていないエンドポイントを疑似または既存のユーザに関連付ける方法を示します。

手順

-
- | | |
|---------------|---|
| ステップ 1 | ユーザが関連付けられていないすべてのエンドポイントをファイルにエクスポートします (ユーザが関連付けられていないエンドポイントのエクスポート , (296 ページ) を参照)。 |
| ステップ 2 | エクスポートしたファイルを修正して、各エンドポイントを新しい疑似ユーザまたは対象の既存ユーザに関連付けます。 |
| ステップ 3 | 修正したファイルを使用してバッチ操作ファイルを作成し、次にバッチプロジェクトを実行します (バッチ プロビジョニング , (154 ページ) を参照)。 |
| ステップ 4 | バッチプロジェクトの完了では、ドメインの同期を実行してエンドポイントにサービスエリアを割り当て、エンドポイントがユーザ レコードに表示されるようにする必要があります。 |
- (注) サービス エリアがファイルに表示される場合は、ドメインの同期が実行されるとエンドポイントがサービス エリアに割り当てられます (完全に一致する場合)。ドメインが限定されない同期ルールを使用するように設定されている場合、エンドポイントは最初に利用可能なサービス エリアに割り当てられます。
-

ユーザが関連付けられていないエンドポイントのエクスポート

ユーザが関連付けられていないエンドポイントをエクスポートして、実際のユーザ名または疑似ユーザ名でバッチ インポートすることができます。



- (注) エクスポートできるのは、ハードウェア電話です。 ソフトフォンやエクステンション モビリティはエクスポートできません。

手順

- ステップ 1** [展開 (Deploy)] > [プロビジョニングインベントリ (Provisioning Inventory)] > [エンドポイントの管理 (Manage Endpoints)] を選択します。
- ステップ 2** [エンドポイントインベントリ管理 (Endpoint Inventory Management)] ページで、コールプロセスとエンドポイント モデルを選択して [ユーザが関連付けられていないエンドポイントの検索 (Search Endpoints Without Associated User)] をクリックします。
- ステップ 3** [ユーザが関連付けられていないエンドポイント (Endpoints Without Associated Users)] ページで、エクスポートするエンドポイントの横のチェック ボックスをオンにして [選択したエンドポイントのエクスポート (Export Selected Endpoints)] をクリックします。
- ステップ 4** エンドポイントのバッチインポート用にエクスポートされたファイルを使用する場合は、[ユーザが関連付けられていないエンドポイントのエクスポート (Export Endpoints without Associated Users)] ダイアログ ボックスで、ユーザ ID のドメインとサフィックスを指定します。
- ステップ 5** [エクスポート (Export)] をクリックします。

既存のエンドポイントの交換

交換機能を使用して、ユーザの既存のエンドポイントを交換したり、エンドポイントの MAC アドレスを変更したり、または他のエンドポイントの設定を更新したりできます。



- (注) 交換機能では、割り当てられた回線の位置を変更できません。

同じエンドポイントタイプを選択するか、ユーザが利用できるその他のエンドポイントタイプのリストから選択できます。ユーザがアクセスできるエンドポイントタイプは、ユーザ権限と、交換するエンドポイントの回線数によって決まります。必要な回線数をサポートしていないエンドポイントは、変更オーダー処理では利用できません。

エンドポイントを交換すると、そのすべての回線が新しいエンドポイントに移されます。新しいエンドポイントに割り当てられるサービス エリアは、元のエンドポイントのものと同じです。

[オーダー (Ordering)] 承認権限を持つユーザは、自分のエンドポイントや他のユーザのエンドポイントを交換できます。

交換エンドポイント オーダーを送信する際は、次の点に注意してください。

- Cisco Prime Collaboration Provisioning でサポートされておらず、エンドポイント交換オーダーの作成以前からエンドポイントに存在していた属性は、デフォルト値にリセットされるか、

エンドポイントから破棄されます。Cisco Prime Collaboration Provisioning でサポートされる属性のリストについては、[プロビジョニング属性の説明](#)、(333 ページ) を参照してください。

- 元のエンドポイントに割り当てられていた回線は、新しく追加したエンドポイントに関連付けられます。ただし、新しく選択されて関連付けられたエンドポイント ボタン テンプレートで、元のエンドポイントと同じ数（またはそれ以上）だけ割り当てられた回線がサポートされている必要があります。
- エンドポイント交換オーダーを実行すると、ドメイン用に設定されたサービスだけが維持されます。それ以外のサービスがエンドポイントに存在する場合、それらのサービスは削除されます。
- 属性の中には、特定のプロトコルの特定のエンドポイントタイプでサポートされないものがあります。エンドポイントのオーダーを作成する場合は、選択したエンドポイントタイプとプロトコルによってサポートされる属性の値を設定するだけです。これらを設定しないと、オーダーは失敗する可能性があります。
- エンドポイント オーダーを交換する場合は、エンドポイント タイプに基づいて [DND オプション (DND Option)] 属性に、サポートされる値を指定する必要があります。Nokia や iPhone などのいくつかのエンドポイントでは、この属性について値が 1 つしかサポートされませんが、他のエンドポイントでは最大で 3 つまたは 4 つの値がサポートされます。[DND オプション (DND Option)] に不適切な値を入力すると、そのオーダーは交換されません。

ユーザのエンドポイントを交換するには、[サービス (Services)] ペインで交換するエンドポイントにマウスを置き、[操作 (Actions)] リストの [交換 (Replace)] をクリックします。

エンドポイントまたはサービスの基本および詳細設定を変更するには、[操作 (Actions)] リストの [変更 (Change)] をクリックします。



- (注) すべてのバージョンの Provisioning で、ボイスメールエイリアスを変更できるわけではありません。Cisco Unity Connection については、すべてのバージョンでボイスメールエイリアスを変更できます。8.0 よりも前のバージョンの Cisco Unity では、ボイスメールの変更において選択済みのボイスメールエイリアスまたは回線を変更することはできませんが、表示名は変更できます。

エンドポイントのオーナーの変更

エンドポイントのオーナーを、同じドメイン内のあるユーザから別のユーザに変更できます。

エンドポイントのオーナーを変更するには、[サービス (Services)] ペインで変更するエンドポイントの上にマウスのカーソルを合わせて、[操作 (Actions)] リストの [オーナーの変更 (Change Owner)] をクリックします。

エンドポイントのオーナーを変更すると、そのエンドポイントに関連付けられているすべてのサービス（[回線（Line）]、[電子メール（Email）]、[ボイスメール（Voicemail）]、[ユニファイドメッセージング（Unified Messaging）] など）も変更されます。

必要に応じて、[電子メールID（Email ID）] と [表示名（Display Name）] に異なる値を入力します。電子メールのID、電子メールの表示名、ボイスメールのエイリアス、またはボイスメールの表示名を変更しない場合、ユニファイドメッセージプロセッサのサービスは変更されません。変更されるのは、古いオーナーと新しいオーナーに対する Provisioning 内のユーザ レコードだけです。

ただし、これらの設定のうちいずれかが変更された場合、ユニファイドメッセージプロセッサのボイスメールアカウントおよび電子メールアカウントは、いったん非アクティブにされた後で、再びアクティブにされます。

新しいオーナーに割り当てられるサービス エリアは、元のオーナーのサービス エリアと同じです。



(注) [オーダー（Ordering）] または [詳細オーダー（Advanced Ordering）] 権限を持つユーザは、各自のエンドポイントまたは他のユーザの電話に対して、これらの変更を行うことができます。

ユーザのログインID（姓名）を含む属性は、ドメインルールやユーザのプロビジョニング属性に応じて、新しいユーザの情報とともに更新されます。

ユーザのログインIDを含む可能性がある属性は次のとおりです。

- [エンドポイントの説明（Endpoint Description）]
- [呼び出し表示（Alerting Name）]（オンライン）
- [エンドポイントオーナーユーザ ID（Endpoint Owner User ID）]
- [ASCII 表示(内部発信者ID)（ASCII Display (Internal Caller ID)）]
- [ASCII 回線テキストラベル（ASCII Line Text Label）]
- [回線テキストラベル ASCII 呼び出し表示（Line Text Label ASCII Alerting Name）]

エンドポイントのオーナーを変更する場合は、次のポイントに注意します。

回線が移動すると、新しいユーザと古いユーザの電話番号とプライマリ内線は、それに合わせて更新されます。

エンドポイントが共有されている場合は、エンドポイントのオーナーを変更できません。[オーナーの変更（Change Owner）] ボタンは表示されません。

関連付けられているサービスのいずれかに対して処理中のオーダーがある場合は、警告メッセージが表示され、続行できません。

回線情報の変更

回線の詳細を変更するオーダーを送信できます。次の回線の詳細を変更できます。

- 電話番号
- 回線の位置
- プロビジョニング属性

[回線 (Line)]、[共有エンドポイントの回線 (Line on Shared Endpoint)]、および[エクステンションモビリティ回線 (Extension Mobility Line)] 製品の詳細を変更できます。

[回線 (Line)] 製品には 2 組のプロビジョニング属性があります。1 つは電話番号レベルのもので、もう 1 つは回線レベルのものです。複数の回線で同じ電話番号を共有している場合、電話番号レベルで設定されたプロビジョニング属性は共通となり、回線間で共有されます。ある回線のプロビジョニング属性を変更すると、すべての回線に影響を与えます。

回線レベルで設定されたプロビジョニング属性は共有されません。ある回線のプロビジョニング属性を変更しても、他の回線には影響を与えません。

回線の詳細を更新するには、[サービス (Services)] ペインで、変更する回線をポイントして [操作 (Actions)] リストの [変更 (Change)] をクリックします。

ボイスメール アカウントのロック解除

(ユーザエラーまたはシステムエラーが原因で) ボイスメール アカウントがロックされた場合は、Cisco Prime Collaboration Provisioning からロックを解除できます。

次のアカウントのロックを解除できます。

- ボイスメール アカウント : Cisco Unity デバイス、Cisco Unity Connection デバイス、および Cisco Unity Express デバイスの場合
- Web アクセス アカウント : Cisco Unity Connection デバイスの場合

はじめる前に

ボイスメールアカウントのロックを解除するには、Cisco Unity デバイスまたは Cisco Unity Connection デバイスを設定する必要があります ([Prime Collaboration Provisioning でのデバイスの管理](#), (41 ページ) を参照してください) 。

手順

-
- ステップ 1** [展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] を選択します。
 - ステップ 2** 対象のユーザをクリックします。
 - ステップ 3** [サービス (Services)] ペインで、ロックを解除するボイスメールをポイントします。オプションボタンが付いた [操作 (Actions)] リストが表示されます。ここで、選択した製品に対して操作を実行することができます。
 - ステップ 4** [ロック解除 (Unlock)] をクリックします。

(注) Cisco Unity Connection では、ボイスメール アカウントか Web アクセス アカウントのいずれかを選択できる場合があります。ロックを解除する対象のアカウントを選択します。

ステップ 5 [確認 (Confirm)] をクリックして [OK] をクリックします。

オーダーの検索

次のいずれかの情報を使用して、オーダーを検索できます。

- オーダー情報 :
 - オーダー番号
 - 作成者 : オーダーを作成した人
 - オーダー ステータス
 - 拡張ステータス : オーダーの状態 (プロビジョニング中、承認待ち、出荷待ちなど)
- ユーザ情報 :
 - ログイン
 - 氏名
 - 電話番号
 - 電子メール
 - 部署名
 - ドメイン
- オーダー日
- 要求された納入日

オーダーを検索するには、[展開 (Deploy)] > [履歴の検索 (Search History)] を選択します。検索ページで、検索情報を入力して [検索 (Search)] をクリックします。

[エクスポート (Export)] をクリックし、検索の詳細をタブ区切りファイルとしてエクスポートすることができます。オーダーのあらゆる変更をこのレポートに表示できます。

オーダーの処理

ユーザのオーダーの送信が完了すると、オーダーが承認されて出荷されます。これらの手順は、Provisioning システムがどのように設定されたのかに応じて、自動的に実行される場合や、ユーザによる処理が必要になる場合があります。

オーダー処理の段階では、4つのアクティビティがユーザに割り当てられる可能性があります。これらのアクティビティは、ドメインに対して設定されたルールに基づいて割り当てられます。ルールの詳細については、[ドメイン同期に関するビジネスルール](#)、(87 ページ) を参照してください。

- オーダーの承認：プロビジョニングの実行にはオーダーの承認が必要です。オーダーを拒否することもできます。このユーザには[承認 (Approval)] 承認権限が割り当てられている必要があります。この割り当ては、次のルールによって制御されます。
 - IsAuthorizationRequiredForAddOrder
 - IsAuthorizationRequiredForChangeOrder
 - IsAuthorizationRequiredForCancelOrder
- 割り当て：MAC アドレスをエンドポイントに割り当てます。このユーザには[割り当て (Assignment)] 権限が割り当てられている必要があります。この割り当ては、PhoneAssignmentDoneBy ルールによって制御されます。
- 出荷：オーダーを出荷します。このユーザには[出荷 (Shipping)] 承認権限が割り当てられている必要があります。この割り当ては PhoneShippingDoneBy ルールによって制御されます。
- 受領：[受領 (Receiver)] ユーザ権限を持つユーザが実行します。オーダーしたエンドポイントを受領したことを示します。この割り当ては PhoneReceiptDoneBy ルールによって制御されます。



(注) Provisioning 管理者は、これらのアクティビティの割り当て方法を設定できます。

オーダーの承認

オーダーを承認するには、[承認 (Approval)] 承認権限が割り当てられている必要があります ([権限ロールの概要](#)、(222 ページ) を参照)。

オーダーが承認または却下された後で、オーダーが作成された対象のユーザに電子メールが送信されます。電子メールを送信するには、次のビジネスルールを有効にする必要があります ([ビジネスルールの概要](#)、(135 ページ) を参照)。

- EmailSender
- MailHost
- OrderProvisionedEmailTemplate
- OrderRejectedEmailTemplate

ユーザの設定済みの電子メール アカウントに、電子メールが送信されます。



- (注) オーダーが却下された場合は、ユーザレコードでオーダーステータスが[キャンセル (Cancel)] に設定され、プロビジョニングは実行されません。オーダーに問題が生じ、ユーザがエラー処理ワークフロー手順でオーダーの残りを中止することを選択した場合は、そのオーダーステータスが[保留 (Hold)] に設定されます。

手順

- ステップ 1 [展開 (Deploy)] > [アクティビティ (Activities)] > [マイアクティビティ (My Activities)] を選択します。
- ステップ 2 [マイアクティビティ (My Activities)] ページで処理するオーダーをクリックします。
- ステップ 3 [表示アクティビティ (Viewing Activity)] ページで[承認 (Accept)] をクリックします。
表示されている[表示アクティビティ (Viewing Activity)] ページに、[メモの追加 (Add a Note)] フィールドが追加されます。

(注) オーダーを却下したり、別のユーザまたはグループにオーダーを委任したりすることもできます。アクティビティを委任した場合は、新しいユーザまたはグループにそのアクティビティが割り当てられます。
- ステップ 4 エンドポイントのMACアドレスを入力して、[手順の完了 (Step Complete)] をクリックします。

エンドポイントの出荷

Provisioning システムの設定内容によっては、この手順が不要となる場合があります。管理者が出荷を有効にした場合は、この手順を実行するために[出荷 (Shipping)] 承認権限が割り当てられている必要があります ([権限ロールの概要](#), (222 ページ) を参照)。エンドポイントの出荷は、MAC アドレスの割り当てと出荷の 2 部構成になっています。

手順

- ステップ 1 [展開 (Deploy)] > [アクティビティ (Activities)] > [マイアクティビティ (My Activities)] を選択します。
- ステップ 2 [マイアクティビティ (My Activities)] ページで出荷するオーダーをクリックします。
- ステップ 3 [表示アクティビティ (Viewing Activity)] 画面で[承認 (Accept)] をクリックします。[表示アクティビティ (Viewing Activity)] エンドポイントの[割り当て (Assignment)] ページで、[MAC アドレス (MAC Address)] フィールドがアクティブになります。
- ステップ 4 [MAC アドレス (MAC Address)] フィールドに 16 進値を入力します。有効な値は英数字 (A ~ Z, a ~ z, 0 ~ 9) です。値の長さは 12 文字にする必要があります。

(注) MAC アドレスは、エンドポイントのステッカー、およびハンドセットのエンドポイント設定ディスプレイで参照できます。

- ステップ 5 必要な情報を追加したら、[手順の完了 (Step Complete)] をクリックします。
- ステップ 6 [マイアクティビティ (My Activities)] ページで [更新 (Refresh)] アイコンをクリックします。
- ステップ 7 [マイアクティビティ (My Activities)] ページに表示されるオーダーをクリックします。
- ステップ 8 [表示アクティビティ形式 (Viewing Activities Form)] ページで [承認 (Accept)] をクリックします。
- ステップ 9 [手順の完了 (Step Complete)] をクリックします。オーダーを作成しなかった場合、オーダーは [マイアクティビティ (My Activities)] ページに表示されなくなります。

エンドポイントを承認するために、[マイアクティビティ (My Activities)] ページで必要なオーダーをクリックし、[承認 (Accept)] をクリックします。エンドポイントを承認するには、[受領 (Receiving)] 承認権限が割り当てられている必要があります。

サービスのキャンセル

サービスをキャンセルするには、キャンセル オーダーを発行する必要があります。サービスをキャンセルすると、その製品に関連付けられているすべてのサービスもキャンセルされます。関連付けられているサービスのリストについては、[表 56 : 関連付けられているサービスのリスト](#)、[\(305 ページ\)](#) を参照してください。



- (注) [シングルナンバー リーチ サービス (Single Number Reach Service)] については、[モビリティの有効化 (Enable Mobility)] サービスをキャンセルしても、[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] サービスまたは [リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line)] サービスはキャンセルされません。また、[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] サービスをキャンセルしても [モビリティの有効化 (Enable Mobility)] サービスはキャンセルされません。

手順

- ステップ 1 [展開 (Deploy)] > [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] を選択します。
- ステップ 2 対象のユーザをクリックします。[サービス (Services)] ペインで、キャンセルするサービスの上にマウスのカーソルを合わせます。オプション ボタンが付いた [操作 (Actions)] リストが表示されます。ここで、選択したサービスに対して操作を実行することができます。
- ステップ 3 [キャンセル (Cancel)] をクリックし、[オーダーキャンセelfォーム (Order Cancel Form)] ペインで [送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 4 [OK] をクリックして確定し、[完了 (Done)] をクリックします。キャンセルされたオーダーが、[オーダーの表示 (View Orders)] ペインに完了ステータスで表示されます。

(注) サービスのセクションで、サービス名の横に情報アイコン (i) が表示され、そのサービスに対してオーダーが実行中であることが示されます。オーダーの処理が完了すると、情報アイコンは表示されなくなります。

オーダーの処理が完了すると、キャンセルされたサービスは、サービスの [ユーザ レコードの詳細 (User Record Details)] ペインに表示されなくなります。

表 56: 関連付けられているサービスのリスト

サービス名	関連付けられているサービス
[ボイスメール (Voicemail)]	[電子メール (Email)]、[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging)]。
[電子メール (Email)]	[ボイスメール (Voicemail)]、[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging)]。 (注) Cisco Unity Connection では、[電子メール (Email)] がキャンセルされた場合でも [ボイスメール (Voicemail)] は残ります。
[回線 (Line)]	[電子メール (Email)]、[ボイスメール (Voicemail)]、[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging)]。
[エンドポイント (Endpoint)]	[回線 (Line)]、[電子メール (Email)]、[ボイスメール (Voicemail)]、[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging)]。 (注) [エンドポイント (Endpoint)] をキャンセルすると、関連付けられている電話番号が Cisco Unified Communications Manager から削除されます。
[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)]	[リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line)]。 (注) [リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line)] をキャンセルすると、関連付けられている電話番号が Cisco Unified Communications Manager から削除されます。

ワーク オーダーの状態

ここでは、オーダーが入力された後に遷移する状態について説明します。

ワーク オーダーの状態は次のとおりです。

- [初期 (Initial)]
- [解放 (Released)]
- [完了 (Completed)]
- [保留 (Hold)]

オーダーが発行されると、ワーク オーダーが作成されて [初期 (Initial)] 状態になります。ワークフローの実行が開始されると、オーダーは [解放 (Released)] 状態に移行します。ワークフローが完了すると、オーダーはすべての手順が成功して [完了 (Complete)] 状態に移行するか、または手順のいずれかが失敗して [保留 (Hold)] 状態に移行します。[保留 (Hold)] 状態に変化するオーダーについては、ワーク オーダーの発行元によって、オーダーが失敗したか、この変化が自動的に発生したのかを確認しなければならない場合があります。

ワーク オーダーには拡張ステータス フィールドもあります。オーダーが実行中の場合、拡張ステータスは [プロビジョニング中 (Being Provisioned)] となります。オーダーが失敗すると、拡張ステータスは [回復可能なエラー (Recoverable Error)] または [回復不可能なエラー (Unrecoverable Error)] となります。オーダーがユーザの操作を待っている場合、拡張ステータスは特定の待機ステータスに設定されます。待機状態は通常、割り当てのために使用されますが、出荷または受領時に使用されることもあります。拡張ステータスの変更は、ワーク オーダーが変化している状態でも行われます。

ワーク オーダーが失敗すると、[解放 (Released)] 状態から [保留 (Hold)] 状態への移行動作は、ワーク オーダーを送信する際の次の状態によって異なります。

- Provisioning NBI が [解放 (Released)] 状態から [保留 (Hold)] 状態へ移行します。
- Provisioning ユーザインターフェイスが [解放 (Released)] 状態のままになり、そのオーダーに対するアクションを待機します。
- バッチプロビジョニングは、拡張ステータスによって異なります。障害が回復可能なエラーである場合、オーダーは [解放 (Released)] 状態のままになり、アクションを待機します。障害が回復不可能なエラーである場合、オーダーは [保留 (Hold)] 状態に移行します。

電子メール通知

電子メール通知を使用すると、次のようなクリティカルイベントを表示できるため、通知の管理性が向上します。

- オーダーの承認
- オーダー エラー

- 同期エラー

通知は次の 2 つのレベルで設定できます。

- [ドメイン設定 (Domain Settings)] : ドメインでのオーダーの承認、割り当て、出荷、および受領などのワークフロー イベント。 [ドメイン通知テンプレートの設定](#), (307 ページ) および [ドメイン通知の設定](#), (309 ページ) を参照してください。
- [システム設定 (System Settings)] : オーダーエラーや同期エラーのようなイベントの場合。 [システム通知の設定](#), (310 ページ) を参照してください。



(注) グローバル管理とドメイン管理の権限を持つユーザのみが通知を設定できます。

システムとドメインの通知設定をテストして、SMTP ホストおよびその他の設定が有効であることを確認できます。 [通知設定のテスト](#), (312 ページ) を参照してください。



(注) プロビジョニング通知オプションは、スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning アプリケーションでのみ使用できます。これらのオプションは、統合アプリケーションでは使用できません。

ドメイン通知テンプレートの設定

[オーダーの承認 (Order Approvals)]、[割り当ての処理 (Handle Assignment)]、[出荷の処理 (Handle Shipping)]、および[受領の処理 (Handle Receiving)]などのドメイン固有のイベントの通知設定は、ドメインレベルで設定できます。ドメイン通知テンプレートは、システムで作成される新しいドメインに適用される値を設定するために使用できます。また、システム内の既存のすべてのドメインに、テンプレートから値を適用するように選択することもできます。

手順

- ステップ 1** [管理 (Administration)] > [プロビジョニング通知管理 (Provisioning Notification Management)] > [ドメイン設定 (Domain Settings)] を選択します。
- ステップ 2** [通知設定-ドメイン設定 (Notification Configuration - Domain Settings)] ページで、必要に応じてドメインテンプレートを変更します。
[電子メール設定 (Email Settings)] ペインでは、SMTP サーバの詳細と [送信元アドレス (From Address)] の値がシステム設定から継承され、読み取り専用形式で表示されます。これらの設定はドメインテンプレートで変更できません。ただし、特定のドメインについては、これらの設定を上書きできます。

- ステップ 3** 表示される [集計 (Aggregation)] ウィンドウと [エスカレーション (Escalation)] ウィンドウのタイムスロットを設定します。
- ステップ 4** [テスト設定 (Test Settings)] をクリックして、SMTP ホストやその他の詳細が正しく設定されていることを確認します。テスト通知設定を行うには、[通知設定のテスト、\(312 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 5** [通知イベント (Notification Events)] ペインで、通知を送信する必要があるイベントを選択します。
- (注) [ワークフロー保留アクティビティ (Workflow Pending Activity)] フィールドには、[オーダーの承認 (Order Approvals)]、[割り当ての処理 (Handle Assignment)]、[出荷の処理 (Handle Shipping)]、[受領の処理 (Handle Receiving)] などのイベントが含まれます。
- ステップ 6** [承認通知グループ (Approval Notification Group)]、[割り当て通知グループ (Assignment Notification Group)]、[出荷通知グループ (Shipping Notification Group)]、[受信通知グループ (Receiving Notification Group)] の各ペインで、次のことを行います。
- [外部電子メールアドレス (External email addresses)] : 通知を送信する電子メールアドレスを入力します。
 - [集計ウィンドウ (Aggregation Window)] : イベントが発生するとすぐに、ドメイン イベントの通知が集計されるか、または送信されるのかを指定する設定を選択します。値が [未設定 (<Not Set>)] の場合は集計されず、イベントが発生するとすぐに通知が送信されます。
- その他の値の場合は、イベントの発生後、[集計 (Aggregation)] ウィンドウで設定された時間だけシステムが待機します。待機中に他の関連イベントが発生すると、このようなすべてのイベントの詳細が集計された通知が単一の電子メールに送信されます。
- (注) イベントはワークフローイベントタイプに基づきます。承認通知と割り当て通知は別の電子メールに集計されます。
- [エスカレーションウィンドウ (Escalation Window)] : ワークフローイベントでの非アクティブによって、システム管理者へのエスカレーション電子メールが送信されるかどうかを指定する設定を選択します。値が [未設定 (<Not Set>)] の場合、エスカレーションの電子メールは送信されません。
- その他の値は、トリガーされたイベントに対してアクション (例: オーダーの承認) が実行されない場合、指定された時間の経過後に、システム管理者への電子メールの送信をシステムに対してトリガーします。
- ステップ 7** 次のいずれかを実行します。
- 将来作成されるドメインのデフォルト値として設定を保存するには、[ドメインテンプレート のみに適用 (Apply to domain template only)] をクリックします。
 - 既存のドメインに通知設定を適用するには、[すべてのドメインに適用 (Apply to all domains)] をクリックします。

ドメイン通知の設定

[オーダーの承認 (Order Approvals)]、[割り当ての処理 (Handle Assignment)]、[出荷の処理 (Handle Shipping)]、および[受領の処理 (Handle Receiving)]などのドメイン固有のイベントの通知設定は、ドメインレベルで設定できます。このページの設定は、テンプレートの設定後にドメインが作成された場合、またはテンプレートの作成時に[すべてのドメインに適用 (Apply to all domains)]オプションが選択された場合に、ドメイン通知テンプレートから継承されます。

手順

- ステップ 1 [管理 (Administration)] > [プロビジョニング通知管理 (Provisioning Notification Management)] > [ドメイン設定 (Domain Settings)] を選択します。
- ステップ 2 [通知設定-ドメイン設定 (Notification Configuration - Domain Settings)] ページで、ドロップダウンリストから目的のドメインを選択します。ページが更新され、選択したドメインに固有の通知設定が表示されます。
- ステップ 3 [電子メール設定 (Email Settings)] ペインで、次の SMTP サーバの詳細を入力します。
 - [メールサーバ名 (Mail Server Name)] : SMTP サーバのホスト名または IP アドレス (例 : mailer.company.com)。
 - [メールサーバポート (Mail Server Port)] : SMTP サーバ ポート。デフォルト以外のポートが使用されている場合のオプション設定です。
 - [メールサーバユーザ名 (Mail Server User Name)] : SMTP サーバ アカウントのユーザ名。認証された SMTP サーバが使用される場合にだけ指定します。
 - [メールサーバユーザパスワード (Mail Server User Password)] : SMTP サーバ アカウントのパスワード。認証された SMTP サーバが使用される場合にだけ指定します。
 - [送信元アドレス (From address)] : Provisioning 通知内の「from」アドレスとして使用する電子メール アドレス (例 : ProvisioningManagerNotification@company.com)。
- ステップ 4 [テスト設定 (Test Settings)] をクリックして、SMTP ホストやその他の詳細が正しく設定されていることを確認します。テスト通知設定を行うには、[通知設定のテスト](#)、(312ページ) を参照してください。
- ステップ 5 [通知イベント (Notification Events)] ペインで、通知を送信するイベントを選択します。[ワークフロー保留アクティビティ (Workflow Pending Activity)] フィールドには、[オーダーの承認 (Order Approvals)]、[割り当ての処理 (Handle Assignment)]、[出荷の処理 (Handle Shipping)]、[受領の処理 (Handle Receiving)] などのイベントが含まれます。
- ステップ 6 [承認通知グループ (Approval Notification Group)] ペインで、外部電子メールアドレスの場合に、通知を送信する電子メール アドレスを入力します。
承認通知グループは、ドメイン内でオーダーの承認を実行する権限を持つユーザのグループです。ドメインに対してこの権限を持つようにシステム内で設定されたユーザは、[システムユーザ (System Users)] として表示されます。このようなユーザには常に承認イベントが通知されます。

ステップ 7 [割り当て通知グループ (Assignment Notification Group)]、[出荷通知グループ (Shipping Notification Group)]、および[受信通知グループ (Receiving Notification Group)] ペインで、外部電子メールアドレスの場合に、通知を送信する電子メールアドレスを入力します。

割り当て通知グループは、ドメイン内で電話オーダーの MAC アドレスを割り当てる権限を持つユーザのグループです。ドメインに対してこの権限を持つようにシステム内で設定されたユーザは、[システムユーザ (System Users)] として表示されます。このようなユーザには常に承認イベントが通知されます。

出荷通知グループは、ドメイン内で出荷アクティビティを実行する権限を持つユーザのグループです。ドメインに対してこの権限を持つようにシステム内で設定されたユーザは、[システムユーザ (System Users)] として表示されます。このようなユーザには常に出荷イベントが通知されます。

受信通知グループは、ドメイン内で受領アクティビティを実行する権限を持つユーザのグループです。ドメインに対してこの権限を持つようにシステム内で設定されたユーザは、[システムユーザ (System Users)] として表示されます。このようなユーザには常に受領イベントが通知されます。

ステップ 8 [保存 (Save)] をクリックして設定を適用します。

割り当て通知グループに送信される通知の集計とエスカレーションの設定は変更することができます。[ドメイン通知テンプレートの設定](#)、(307 ページ) を参照してください。

システム通知の設定

通知設定は、同期エラーやオーダーエラーなどのシステムイベントに対応する通知を管理するために、システム レベルで設定できます。

手順

ステップ 1 [管理 (Administration)] > [プロビジョニング通知管理 (Notification Management)] > [システム設定 (System Settings)] を選択します。

ステップ 2 [電子メール設定 (Email Settings)] ペインで、次の SMTP サーバの詳細を入力します。

- [メールサーバ名 (Mail Server Name)] : SMTP サーバ名または IP アドレス (例 : mailer.company.com) 。
- [メールサーバポート (Mail Server Port)] : SMTP サーバ ポート。デフォルト ポートが使用される場合、このフィールドはオプションです。
- [メールサーバユーザ名 (Mail Server User Name)] : SMTP サーバ アカウントのユーザ名。認証された SMTP サーバが使用される場合にだけ指定します。
- [メールサーバユーザパスワード (Mail Server User Password)] : SMTP サーバ アカウントのパスワード。認証された SMTP サーバが使用される場合にだけ指定します。

- [メールサーバユーザパスワードの確認 (Confirm Mail Server User Password)] : 確認のために SMTP サーバ アカウントのパスワードを再入力します。
- [送信元アドレス (From address)] : Cisco Prime Collaboration Provisioning が通知の送信に使用する電子メール アドレス (例: CUPMNotification@company.com)。

ステップ 3 [テスト設定 (Test Settings)] をクリックして、SMTP ホストやその他の詳細が正しく設定されていることを確認します。テスト通知設定を行うには、[通知設定のテスト](#), (312 ページ) を参照してください。

ステップ 4 [電子メールコンテンツ URL パラメータ (Email Content URL Parameters)] ペインで、次の詳細を入力します。これらは、電子メールコンテンツに表示される URL を構築するために使用されます。

- [プロトコル (Protocol)] : Cisco Prime Collaboration Provisioning にアクセスするためのプロトコル。
- [ホスト (Host)] : Cisco Prime Collaboration Provisioning にアクセスするためのホスト名または IP アドレス。
- [ポート (Port)] : Cisco Prime Collaboration Provisioning へのアクセスに使用するポート (80 以外のポートを使用する場合にのみ必要)。

(注) [電子メールコンテンツ URL パラメータ (Email Content URL Parameters)] ペインのフィールドには、関連情報が自動的に入力されます。

ステップ 5 [通知イベント (Notification Events)] ペインで、通知を送信する必要があるイベントを選択します。

ステップ 6 [通知グループの管理 (Administration Notification Group)] ペインで、次の詳細を入力します。

- [外部電子メールアドレス (External Email Addresses)] : 選択したシステム イベントの電子メール通知を送信する、ユーザまたはメーリングリストの電子メール ID。電子メールアドレスがシステム内で指定されている場合は、通知が管理者に送信されます。このリストは、[システムユーザ (System Users)] フィールドに読み取り専用テキストとして表示されます。
- [集計ウィンドウ (Aggregation Window)] : イベントが発生するとすぐに、システム イベントの通知が集計されるか、または送信されるのかを指定する設定を選択します。値が [未設定 (<Not Set>)] の場合は集計されず、イベントが発生するとすぐに通知が送信されます。

その他の値の場合は、イベントの発生後、[集計 (Aggregation)] ウィンドウで設定された時間だけシステムが待機します。待機中に他の関連イベントが発生すると、このようなすべてのイベントの詳細が集計された通知が単一の電子メールに送信されます。

(注) イベントはタイプに基づいて集計されます。同期エラーとオーダー エラーは別の電子メールに集計されます。

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

通知設定のテスト

システムおよびドメインの通知設定をテストして、SMTP ホストやその他の詳細が正しく設定されていることを確認できます。

通知設定をテストするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 次のいずれかを選択します。

- [管理 (Administration)] > [プロビジョニング通知管理 (Provisioning Notification Management)] > [システム設定 (System Settings)]
- [管理 (Administration)] > [プロビジョニング通知管理 (Provisioning Notification Management)] > [ドメイン設定 (Domain Settings)]

ステップ 2 [テスト設定 (Test Settings)] をクリックし、電子メール アドレスを [テスト電子メールの送信先 (Send Test Email To)] フィールドに入力します。

ステップ 3 [テスト電子メールの送信 (Send test email)] をクリックし、現在の設定を使用して電子メールを送信します。

(注) テストに失敗した場合はエラーメッセージが表示されます。設定で必要な変更を行い、もう一度テストを実行します。ただし、テストに成功しても、設定が自動的に保存されることはありません。必ず [テスト電子メールの設定 (Test Email Settings)] ペインを閉じ、設定を保存してください。



第 12 章

サーバの保守

- ログ ファイルの管理, 313 ページ
- システム設定の管理, 318 ページ
- ローカリゼーション言語の管理, 319 ページ
- Provisioning のデータ消去の有効化, 319 ページ
- メンテナンス モード, 321 ページ
- バックアップと復元の実行, 322 ページ
- 単一マシンの Provisioning データベースのバックアップ, 323 ページ
- 単一マシンの Provisioning データベースの復元, 324 ページ
- 分散データベース用の Provisioning のバックアップ, 326 ページ
- 分散データベース用の Provisioning の復元, 327 ページ
- Provisioning ユーザ インターフェイスを使用したバックアップのスケジュール, 329 ページ

ログ ファイルの管理

Prime Collaboration Provisioning は、Service Enabling Platform (SEP) モジュール (sep.log)、Network Interface and Configuration Engine (NICE) サービス (nice.01.log)、Unified CM AXL の応答とリクエスト、Unity Connection SQL クエリ、および Presence AXL の情報のアプリケーション ログ ファイルを記述します。

管理者は、次を使用してログ ファイルを管理できます。

- Cisco Prime Collaboration Provisioning ユーザ インターフェイス。[管理 (Administration)] > [システムメンテナンス (System Maintenance)] > [ロギングおよび Showtech ファイル (Logging and Showtech Files)] に移動すると、ログ ファイルの表示とダウンロードを行うことができます。

ロギングを無効にすることはできません。ただし、次の作業を実行できます。

- 必要に応じて、ログレベルを上げ、さらに多くのデータを収集する
- デフォルトのログレベル ([標準 (NORMAL)]) に戻す

使用可能なログレベルは次のとおりです。

- DETAIL
- [標準 (NORMAL)]
- [高 (HIGH)]

ログファイルは1時間ごと、またはログの最大サイズの上限に達するとバックアップされます。デフォルトの上限サイズは20 MBです（「[ログファイルの最大サイズの変更](#)」の項を参照）。ファイルは、sep.log.date stamp timestamp の形式で保存されます。

ログファイルは、サイズが5000 MBを超過またはログフォルダ内のログファイルの数が500を超過すると、Prime Collaboration Provisioning サーバから削除されます。これらのレベルを変更するには、「[ログの消去レベルの変更](#)」の項を参照してください。

ログレベルの変更 (GUI)

はじめる前に

このタスクを実行するには、管理者特権が必要です。

手順

-
- ステップ 1** [管理 (Administration)] > [システムメンテナンス (System Maintenance)] > [ロギングと Showtech (Logging and Showtech)] を選択します。
- ステップ 2** [ロギングレベルの表示と設定 (View and Set Logging Levels)] ペインで、既存のログレベルを参照して適切なレベルに変更できます。
使用可能なログレベルは次のとおりです。
- DETAIL（詳細なログ情報を提供し、より多くのディスク領域を使用）
 - NORMAL（基本情報を提供）
 - HIGH（高レベルログ情報のみを提供）
- (注) デフォルトでは、ログレベルは NORMAL に設定されます。Unified CM AXL の要求および応答のログを表示するには、ログレベルは Normal または Detail に設定する必要があります。
- ステップ 3** [設定の保存 (Save Settings)] をクリックします。
-

ログファイルの最大サイズの変更

手順

- ステップ 1** Prime Collaboration Provisioning システムで、`opt/cupm/sep` フォルダに移動します。インストール中にデフォルトの場所を受け入れた場合、インストール先は `/opt/cupm` になります。
- ステップ 2** `dfc.properties` ファイルを開き、`dfc.log.maxsize` プロパティを目的のレベルに変更します（デフォルトは 20 Mb）。
- ステップ 3** 変更を保存し、Prime Collaboration Provisioning サービスを再起動します。変更内容は Provisioning を再起動しないと有効になりません。再起動するには、次の手順を実行します。
- a) SSH を使用してサーバにログインします。
 - b) `/opt/cupm` フォルダに移動し、`./cupm-app-service.sh stop` コマンドを実行します。
 - c) 次のコマンドを実行して、サービスが停止しているかどうかを確認します。

```
ps -aef | grep startcupm
```

実行中のプロセスがある場合は、次のコマンドを実行して、それらのサービスを停止します。

```
kill -9 <processID1> <processID2>
```

```
ps -aef | grep nice
```

実行中のプロセスがある場合は、次のコマンドを実行して、それらのサービスを停止します。

```
kill -9 <processID1> <processID2>
```

- d) ポート 46009（JBoss が使用）が解放されているかどうかを確認します。

```
netstat -a | grep 46009
```

ポートが使用中の場合は、解放されるまで待ちます。

- ステップ 4** 次のコマンドを実行して、アプリケーション サービスを開始します。
- ```
execute ./cupm-app-service.sh start
```
- サービスが開始するまで待ちます。

## ログの消去レベルの変更

### 手順

- ステップ 1** Prime Collaboration Provisioning システムで、`/opt/cupm/sep` フォルダに移動します。インストール中にデフォルトの場所を受け入れた場合、インストール先は `/opt/cupm` になります。
- ステップ 2** `ipt.properties` ファイルを開き、次のいずれかまたは両方を実行します。

- ファイルの最大サイズのレベルを変更するには、`dfc.purgelog.maxused_mb` プロパティを適切なレベルに変更します。
- ログファイルの最大数のレベルを変更するには、`dfc.purgelog.maxlogsaved` プロパティを適切なレベルに変更します。

**ステップ 3** 変更を保存し、Prime Collaboration Provisioning サービスを再起動します。変更内容は Provisioning を再起動しないと有効になりません。

- a) SSH を使用してサーバにログインします。
- b) `/opt/cupm` フォルダに移動し、`./cupm-app-service.sh stop` コマンドを実行します。
- c) 次のコマンドを実行して、サービスが停止しているかどうかを確認します。

```
ps -aef | grep startcupm
```

実行中のプロセスがある場合は、次のコマンドを実行して、それらのサービスを停止します。

```
kill -9 <processID1> <processID2>
```

```
ps -aef | grep nice
```

実行中のプロセスがある場合は、次のコマンドを実行して、それらのサービスを停止します。

```
kill -9 <processID1> <processID2>
```

- d) ポート 46009 (JBoss が使用) が解放されているかどうかを確認します。

```
netstat -a | grep 46009
```

ポートが使用中の場合は、解放されるまで待ちます。

**ステップ 4** 次のコマンドを実行して、アプリケーション サービスを開始します。

```
execute ./cupm-app-service.sh start
```

サービスが開始するまで待ちます。

## Showtech ファイルの作成とダウンロード

はじめる前に

このタスクを実行するには、管理者特権が必要です。

手順

**ステップ 1** [管理 (Administration)] > [システムメンテナンス (System Maintenance)] > [ロギングと Showtech (Logging and Showtech)] を選択します。

**ステップ 2** [Showtechの生成 (Generate Showtech)] をクリックします。[Showtechの収集 (Collect Showtech)] ウィンドウが開きます。

**ステップ 3** 次の情報を入力します。

- [ファイル名 (File Name)] : 必須であるためファイル名を入力します。デフォルトでは、ShowTech-2014-12-01-012705 として自動入力されます。
- [期間 (Duration)] : 期間を選択します。
  - [範囲 (Range)] : デフォルトで、日付範囲はサーバインストール日です。この日付は変更できますが、必ず、開始日はサーバインストール日より後にし、終了日は現在のサーバの時刻以前にします。
  - [最後 (Last)] : このオプションでは相対的な期間を選択できます。
- [コンポーネントの選択 (Select Components)] : 必要なコンポーネントを選択します。デフォルトでは、すべてのコンポーネントが選択されています。

**ステップ 4** [収集の開始 (Start Collection)] をクリックすると、選択した期間で showtech 情報を収集できます。showtech の収集が完了すると、生成された showtech の zip ファイルを表で確認できます。

**ステップ 5** ファイルを解凍すると showtech の情報を表示できます。

---

## ログの参照

Cisco Prime Collaboration Provisioning では、オンラインのトラブルシューティングのために次のログを起動して表示することができます。

- アプリケーションと NICE のログ
- Apache のログ

### はじめる前に

このタスクを実行するには、管理者特権が必要です。

### 手順

---

**ステップ 1** [管理 (Administration)] > [システムメンテナンス (System Maintenance)] > [ロギングと ShowTech (Logging and ShowTech)] を選択します。

**ステップ 2** [ログの参照 (Browse Logs)] ペインで、目的のログをクリックします。各ログはサーバから取得され、トラブルシューティングのためにブラウザで表示できます。

---

## システム設定の管理

Cisco Prime Collaboration Provisioning では、プロビジョニング インターフェイスを使用してさまざまなシステム設定を管理できます。次の機能の設定をオンまたはオフにするオプションを提供しています。

- アナログ エンドポイント サポート (Analog Endpoint Support) : この設定は、アナログ エンドポイントのプロビジョニングを可能にします。
- メンテナンス モード ポップアップ 通知 (Maintenance Mode Popup Notification) : この設定を有効にすると、システムがメンテナンス モードになった場合に、ログインされているすべてのユーザにメッセージが表示されます。
- パスワード ポリシー の設定 (Password Policy Settings) : この設定では、ユーザ パスワードを管理することができます。パスワードの設定の詳細については、[ユーザ パスワードの管理](#)、(218 ページ) を参照してください。
- セルフケア機能のアクセス設定 (Self-Care Feature Access Settings) : この設定では、セルフケア アカウントにログインするとすべてのセルフケア機能へのアクセスが可能になります。この設定は無効にしないことを推奨します。



(注) デフォルトでは、すべてのシステム設定は有効になっています。

### はじめる前に

このタスクを実行するには、管理者特権が必要です。

### 手順

- ステップ 1 [管理 (Administration)] > [システムメンテナンス (System Maintenance)] > [設定 (Settings)] を選択します。
- ステップ 2 [システム設定 (System Settings)] ペインで、必須のチェック ボックスをオンまたはオフにして、[更新 (Update)] をクリックします。

## カスタム設定

カスタム設定はデバッグ用です。



(注) 設定が削除されている場合は、アプリケーションを再起動します。

[カスタム設定 (Custom Settings)] テキスト ボックスの値は、シスコ サポート担当者のみが設定するよう推奨されています。設定を試みないでください。不適切な値を設定すると、アプリケーションの動作が停止する場合があります。

## ローカリゼーション言語の管理

管理者は、Cisco Prime Collaboration Provisioning スタンドアロンインターフェイスから、新しい言語ファイルをアップロードするか、または既存の言語ファイルを変更して、ローカリゼーションを直接管理することができます。

新しい言語ファイルをアップロードするには、次を実行します。

### はじめる前に

このタスクを実行するには、管理者特権が必要です。

### 手順

- 
- |               |                                                                                                                                                                                                         |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>ステップ 1</b> | [管理 (Administration)] > [システムメンテナンス (System Maintenance)] > [更新 (Updates)] を選択します。[アプリケーションソフトウェアの更新 (Application Software Updates)] ページに、ローカリゼーションでサポートされる言語のリストが表で示されます。                              |
| <b>ステップ 2</b> | [アップロード (Upload)] をクリックします。[言語パックのアップロード (Upload a Language Pack)] ダイアログボックスで、新しい言語ファイルを選択して、[アップロード (Upload)] をクリックします。既存の言語に新しい言語パックがある場合、それを上書きするオプションがあります。新しい言語パックが正常にアップロードされたことを示すポップアップが表示されます。 |
| <b>ステップ 3</b> | ブラウザ設定を変更して、表示言語を選択します。                                                                                                                                                                                 |
| <b>ステップ 4</b> | ブラウザの表示を更新すると、Cisco Prime Collaboration Provisioning のインターフェイスが選択した言語に変更されたことが確認できます。                                                                                                                   |
- 

## Provisioning のデータ 消去の有効化

スケジュールした間隔でデータを消去するように Cisco Prime Collaboration Provisioning を設定できます。

Cisco Prime Collaboration Provisioning は、次のタイプのデータを保持します。

- オーダー：製品のプロビジョニング（エンドポイント、回線、ボイスメール、またはいずれかのバンドルなど）のオーダーが行われると、オーダーデータのオブジェクトが作成され、システムに保存されます。

- サービスアクション：製品のプロビジョニング中に、アプリケーションがデバイスと通信すると作成されるオブジェクト。デフォルトでは、サービスアクションデータの消去が有効になっています。
- タスク：インフラストラクチャ設定の更新のスケジュール。インフラストラクチャ設定によって、設定をローカルに保存できます。保存された設定はタスクに組み込み、デバイスにプッシュできます。
- ワークフロー：製品のオーダーが行われると、ワークフロー（承認、出荷、受領）を通過してから、サービスアクティベータに届きます。
- 監査証跡：PIN/パスワードの変更を行うと、それらはリセットされ、次のログオン時に変更が反映されます。変更に伴い、Unity や Unity Connection デバイス内のユーザのボイスメールがロック解除され、監査エントリが作成されます。



(注) データは、保持期間または保持数の基準に達すると消去されます。たとえば、データが保持期間より古い場合は削除されます。また、データの合計が保持数を超えると、データは削除されます。

## 手順

- ステップ 1** [管理 (Administration)] > [システムのセットアップ (System Setup)] > [データメンテナンス (Data Maintenance)] を選択します（スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning アプリケーションの操作については、表 1-1 を参照してください）。
- ステップ 2** 消去をスケジュールするデータの行にあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3** [日単位の保持期間 (Retention Time in Days)] カラムで、データを保持する日数を変更します（デフォルトは 7 日間で、サービスアクションの場合のみ 30 日間）。
- ステップ 4** [保持数 (Retention Count)] カラムで、保持するデータの数を選択します。
- (注) 保持数は、Provisioning で保持して消去しないオブジェクトの数です。たとえば、オーダー総数が 1000 で、保持数が 200 の場合、Provisioning では 800 のオーダーが消去され、最新の 200 オーダーだけが保持されます。

[保持数 (Retention Count)] のデフォルト設定は次のとおりです。

- [順序 (Orders)] : 最新の 100 オーダー
- [サービスアクション (ServiceAction)] : 無制限
- [タスク (Task)] : 50
- [ワークフロー (Workflow)] : 50
- [監査証跡 (Audit Trail)] : 50

- ステップ 5** (オプション) 消去されたデータを削除する前にファイルへエクスポートするには、[エクスポート後に消去 (Export Before Purge)] フィールドで [はい (Yes)] を選択し、データの保存先となるディレクトリの場所を入力します。  
エクスポートされるのはオーダー データとワークフロー データだけです。サービス アクション データはエクスポートされません。
- ステップ 6** 消去間隔を選択し (デフォルトは 24 時間)、[更新 (Update)] をクリックします。  
[消去情報 (Purging Information)] ペインに、次にスケジュールされている消去と前回の消去の時期が表示されます。
- プロビジョニング データを消去するには、[管理 (Administration)] > [システムのセットアップ (System Setup)] > [データメンテナンス (Data Maintenance)] を選択します (スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning アプリケーションでは、[管理 (Administration)] > [システムメンテナンス (System Maintenance)] > [データメンテナンス (Data Maintenance)] を選択します)。  
[データメンテナンスの設定 (Data Maintenance Configuration)] ページでデータを設定できます。

## メンテナンス モード

Cisco Prime Collaboration Provisioning をメンテナンス モードにすると、ドメイン/プロセッサ/サービス エリアの削除など、通常モードでは行えないユーザに影響を与える操作を実行できます。

管理者以外のすべてのユーザは、割り当てられた権限ごとに Provisioning 以外のすべてのページにアクセスできます。Provisioning のリンクは利用可能ですが、ユーザがこれらのページにアクセスしようとすると、「アプリケーションは、現在メンテナンス モードです (the application is currently in Maintenance mode)」というメッセージが表示されます。

### 手順

- ステップ 1** [管理 (Administration)] > [システムのセットアップ (System Setup)] > [Provisioning のセットアップ (Provisioning Setup)] > [メンテナンスモード (Maintenance Mode)] を選択します (スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning アプリケーションの UI 操作については、[Prime Collaboration Provisioning の統合またはスタンドアロン ユーザ インターフェイス](#)、(11 ページ) を参照してください)。  
[アプリケーションモード管理 (Application Mode Management)] ページが表示され、次のメッセージが表示されます。
- 「メンテナンスモードを終了すると、すべてのユーザのアクセスが回復します。プロセッサ(コールプロセッサ、ユニファイドメッセージプロセッサ)、LDAP および ACS サーバ、ドメイン、サービスエリアの削除操作は実行できなくなります。(Exiting Maintenance mode will restore access to all users. Delete operations on processors (Call Processors, Unified Message Processors), LDAP and ACS Servers, Domains, and Service Areas will no longer be available.)」
- ステップ 2** [メンテナンスモード開始までの遅延時間(分) (Delay Before Maintenance Mode Begins (mins))] ドロップダウン リストから遅延時間を選択します。選択可能な遅延時間は 1 ~ 60 分です。Cisco

Prime Collaboration Provisioning を即座にメンテナンス モードにするには、[即時 (Immediately)] を選択します。

- ステップ 3** [ログインしたユーザに表示するメッセージ (Message to Display to Logged-in Users)] で、メッセージを入力します。このメッセージはログインしたユーザの画面に表示されます。200 文字まで入力できます。
- ステップ 4** [メンテナンスモードの開始 (Enter Maintenance Mode)] をクリックし、次に [はい (Yes)] をクリックして確定します。  
ログイン ページに警告が表示され、システムの使用は管理権限を持つユーザに制限されることがユーザに通知されます。ドメインの削除など、通常モードでは使用できないメンテナンス オプションが使用可能になります。
- ステップ 5** ドメインの削除などのメンテナンス アクティビティを実行します。
- ステップ 6** メンテナンス アクティビティが完了したら、[メンテナンスモード (Maintenance Mode)] を選択します。
- ステップ 7** [メンテナンスモードの終了 (Exit Maintenance Mode)] をクリックします。  
ログインページの警告が消え、ユーザは通常通りにログインできるようになります。ドメインの削除などのメンテナンス オプションは、もう使用できません。

Cisco Prime Collaboration Provisioning がメンテナンス モードに入るときは、すべての管理者に電子メール通知が送信されます。電子メール通知を送信するには、次の通知イベントを有効にする必要があります。

[システムがメンテナンスモードを開始したときまたは終了したとき(ログインした管理者に電子メールが送信されます) (When system enters or exits Maintenance Mode (email will be sent to the logged in administrators)) ]

通知設定を行うには、[システム通知の設定](#)、(310 ページ) を参照してください。

## バックアップと復元の実行

Cisco Prime Collaboration Provisioning では、データをバックアップして復元できます。Provisioning のUIを使用して定期バックアップをスケジュールするか、あるいはシステムに管理者ユーザ (CLI ユーザ) としてログインし、手動でバックアップコマンドを実行できます。ただし復元コマンドは、システムに管理者ユーザ (CLI ユーザ) としてログインし、手動で実行する必要があります。

バックアップと復元のシナリオには次の 2 種類があります。使用するシナリオに適した手順を選択してください。

- 単一マシン用のバックアップと復元のシナリオ。同一インストールまたは新規インストールで使用します。このシナリオについては、[単一マシンの Provisioning データベースのバックアップ](#)、(323 ページ) および[単一マシンの Provisioning データベースの復元](#)、(324 ページ) を参照してください。
- 分散データベース用のバックアップと復元のシナリオ。同一インストール、同一 IP アドレスを使用した新規インストール、または新しい IP アドレスを使用した新規インストールで使用



します。このシナリオについては、[分散データベース用の Provisioning のバックアップ](#)、（[326 ページ](#)）および[分散データベース用の Provisioning の復元](#)、（[327 ページ](#)）を参照してください。



(注) ファイルをバックアップする場合は、そのファイルを別のファイルサーバに置く必要があります。また、バックアップデータは CD にも焼き付けてください。

Cisco Prime Collaboration Provisioning を使用すると、システムデータをバックアップして、全面的なシステム障害が発生した場合に別のシステムにそのデータを復元できます。別のシステムからのバックアップを復元する場合は、次の要件を満たす必要があります。

- データの復元先のアプリケーション サーバがバックアップ対象システムと同じ MAC アドレスを持つことを確認します（IP アドレスとホスト名は異なっても可）。
- 元のシステム（バックアップされるシステム）の MAC アドレスを別のシステムに割り当てることのできない場合は、新しいライセンス ファイル（新規 MAC アドレス用）の情報について Cisco TAC にお問い合わせください。
- 異なるシステムでデータのバックアップと復元を行う手順は、同一システムでデータのバックアップと復元を行う手順と同じです。

## 単一マシンの Provisioning データベースのバックアップ

この手順を実行するには、Provisioning データベース（PostgreSQL データベース）に管理者レベルでアクセスする必要があります。

### 手順

- ステップ 1** SSH を使用してルートでログインします（ポート 22）。
- ステップ 2** `/opt/cupm` フォルダに移動し、次のコマンドを入力してください。
- ```
./cupm-app-service.sh stop
```
- ステップ 3** 次のコマンドを使用して、Apache サービス、JBoss サービス、および NICE サービスを停止します。
- ```
ps -aef | grep startcupm
ps -aef | grep nice
kill -9 <startcupm process ID>
kill -9 <nice process ID>
```
- ステップ 4** 次のコマンドを使用して、対象のディレクトリに移動します。
- ```
cd /opt/postgres/9.0/bin
```

ステップ 5 次のコマンドを実行します。

```
./pg_dumpall -o -Upmadmin > /<backup_directory_name>/<backup_file_name>
```

値は次のとおりです。

- `pmadmin` : postgres ユーザ ID。
- `backup_directory_name` : バックアップ ファイルを置く場所のディレクトリ名。
- `backup_file_name` : バックアップはこのファイル名で作成されます。

ステップ 6 バックアップ フォルダで、次のファイルとディレクトリのコピーを作成します。

- `/opt/cupm/sep/dfc.properties`
- `/opt/cupm/sep/ipt.properties`
- `/opt/cupm/sep/dfc.keystore`
- `/opt/cupm/jboss/server/cupm/conf/login-config.xml`
- `/opt/cupm/jboss/server/cupm/deploy/dfc-ds.xml`

ステップ 7 次のコマンドを使用して、Apache サービス、JBoss サービス、および NICE サービスを開始します。

```
cd /opt/cupm
./cupm-app-service.sh start
```

単一マシンの Provisioning データベースの復元

はじめる前に

新規インストールに復元する場合は、この手順を開始する前に、システムを新規インストールで起動して稼働させます。この手順を実行するには、Provisioning データベース（PostgreSQL データベース）に管理者レベルでアクセスする必要があります。

データベースを新しいシステムに復元する場合は、次のポートが他のアプリケーションで使用されていないことを確認してください。

- `dfc.jboss.port=46008`
- `dfc.postgres.port=5432`
- `dfc.nice.rmi.registry.internal.port=46001`
- `dfc.webport=80`

ポートが他のアプリケーションで使用されている場合は、対象のポート番号を空いているポートに変更する必要があります。これらの設定は、`/opt/cupm/sep/dfc.properties` ファイルに定義されて

います。インストール中にデフォルトの場所を受け入れた場合、インストール ディレクトリは /opt/cupm になります。

手順

-
- ステップ 1** SSH を使用してルートでログインします（ポート 22）。
- ステップ 2** /opt/cupm フォルダに移動し、次のコマンドを入力して Apache、JBoss、NICE などのアプリケーション サービスを停止します。
- ```
./cupm-app-service.sh stop
```
- ステップ 3** 次のコマンドを使用して、アプリケーション サービスが停止したことを確認します。
- ```
ps -aef | grep startcupm
ps -aef | grep nice
kill -9 <startcupm process-id>
kill -9 <nice process-id>
```
- a) nice プロセスが postgres 接続をまだ保持しているかどうかチェックするには、次のコマンドを入力します：
- ```
ps -aef
```
- b) 次のプロセスを検索します：/opt/cupm/jvm/bin/java -server -classpath /opt/cupm/sep/lib/dom.jar:/opt/cupm/sep/lib/jaxbapi.jar:/opt/cupm/sep/lib/jaxb-impl.jar  
プロセスが実行中の場合は、次のコマンドを入力します。
- ```
kill -9 <Process-Id found earlier>
```
- ステップ 4** 同一インストールに復元する場合は、次の手順に進みます。新規インストールに復元する場合は、次のバックアップ ファイル（bak）をコピーします。
- ステップ 5** 次のコマンドを使用して、対象のディレクトリに移動します。
- ```
cd /opt/postgres/9.0/bin
```
- ステップ 6** 次のコマンドを実行して、データベースを復元します。
- ```
./CUPM-restore.sh <username> <password> /mnt/<backup_file_name>
```
- ここで、username は PostgreSQL 管理者のユーザ名です。デフォルトの管理者ユーザ名は pmadmin です。パスワードは globaladmin に入力したものと同じです。
- 次のエラーが表示された場合：
- ```
"dropdb: database removal failed: ERROR: database "cupm" is being accessed by other users"
```
- 次の手順を実行します。
- a) 次のコマンドを入力して、nice プロセスが postgres 接続をまだ保持しているかどうかをチェックします。
- ```
ps -aef
```
- b) 次のプロセスを探します：/opt/cupm/jvm/bin/java -server -classpath /opt/cupm/sep/lib/dom.jar:/opt/cupm/sep/lib/jaxbapi.jar:/opt/cupm/sep/lib/jaxb-impl.jar
プロセスが実行中の場合は、次のコマンドを入力します。
- ```
kill -9 <Process-Id found earlier>
```

c) 復元コマンド (./CUPM-restore.sh <username> <password> /mnt/<backup\_file\_name>) を再度実行します。

**ステップ 7** 同一インストールに復元する場合は、次の手順に進みます。新規インストールに復元する場合は、次のバックアップ ファイルをコピーします。

- /opt/cupm/sep/dfc.properties
- /opt/cupm/sep/ipt.properties
- /opt/cupm/sep/dfc.keystore
- /opt/cupm/jboss/server/cupm/conf/login-config.xml
- /opt/cupm/jboss/server/cupm/deploy/dfc-ds.xml

**ステップ 8** 次のコマンドを使用して、Apache サービス、JBoss サービス、および NICE サービスを開始します。

```
cd /opt/cupm
./cupm-app-service.sh start
```

## 分散データベース用の Provisioning のバックアップ

この手順を実行するには、Provisioning データベース (PostgreSQL データベース) に管理者レベルでアクセスできる必要があります。

### 手順

**ステップ 1** SSH を使用してルートでログインします (ポート 22)。

**ステップ 2** アプリケーション サーバの /opt/cupm フォルダに移動し、次のコマンドを入力します。

```
./cupm-app-service.sh stop
```

**ステップ 3** Prime Collaboration Provisioning アプリケーションサーバで、次のコマンドを使用して Apache サービス、JBoss サービス、および NICE サービスを停止します。

```
ps -aef | grep startcupm
ps -aef | grep nice
kill -9 <startcupm process id>
kill -9 <nice process id>
```

**ステップ 4** データベース サーバで、次のディレクトリに移動します。

```
cd /opt/postgres/9.0/bin
```

**ステップ 5** 次のコマンドを実行します。

```
./pg_dumpall -o -Upmadmin /opt/<backup_file_name>
```

値は次のとおりです。

- pmadmin : postgres ユーザ ID。

- `backup_directory_name` : バックアップ ファイルを置く場所のディレクトリ名。
- `backup_file_name` : バックアップはこのファイル名で作成されます。

**ステップ 6** アプリケーションサーバからバックアップフォルダに、次のファイルとディレクトリをコピーします。

- `/opt/cupm/sep/dfc.properties`
- `/opt/cupm/sep/ipt.properties`
- `/opt/cupm/sep/dfc.keystore`
- `/opt/cupm/jboss/server/cupm/conf/login-config.xml`
- `/opt/cupm/jboss/server/cupm/deploy/dfc-ds.xml`

**ステップ 7** Prime Collaboration Provisioning アプリケーションサーバで、次のコマンドを使用して Apache サービス、JBoss サービス、および NICE サービスを開始します。

```
cd /opt/cupm
./cupm-app-service.sh start
```

## 分散データベース用の Provisioning の復元

新規インストールに復元する場合は、同一 IP アドレスと新規 IP アドレスのどちらを使用する場合でも、この手順を開始する前にシステムを新規インストールで起動して稼働させます。

この手順を実行するには、Provisioning データベース（PostgreSQL データベース）に管理者レベルでアクセスできる必要があります。

データベースを新しいシステムに復元する場合は、次のポートが他のアプリケーションで使用されていないことを確認してください。

- `dfc.jboss.port=46008`
- `dfc.postgres.port=5432`
- `dfc.nice.rmi.registry.internal.port=46001`
- `dfc.webport=80`

ポートが他のアプリケーションで使用されている場合は、対象のポート番号を空いているポートに変更する必要があります。これらの設定は、`\sep\dfc.properties` ファイルに定義されています（インストール中にデフォルトの場所を受け入れた場合、インストール ディレクトリは `/opt/cupm` になります）。

また、次のいずれかの設定でシステム名を変更する必要があります。

- `dfc.postgres.host=<system name>`（データベースが 1 つのシステム上にある場合）
- `dfc.postgres.hostlist=<system name>`（データベースが複数のシステム上にある場合）

データベース サーバのデータベースの復元

アプリケーション サーバのサービスを停止するには、ステップ 1 ～ 3 を実行します。

## 手順

- ステップ 1** ポート 22 で SSH を使用して、**root** としてアプリケーション サーバにログインします。
- ステップ 2** アプリケーション サーバの **/opt/cupm** フォルダに移動し、次のコマンドを入力します。
- ```
./cupm-app-service.sh stop
```
- ステップ 3** Prime Collaboration Provisioning アプリケーション サーバで、次のコマンドを使用して Provisioning サービス Apache、JBoss、および NICE を停止します。

```
ps -aef | grep startcupm
ps -aef | grep nice
kill -9 <startcupm process id>
kill -9 <nice process id>
```

- a) **nice** プロセスが **postgres** 接続をまだ保持しているかどうかチェックするには、次のコマンドを入力します：

```
ps -aef
```

- b) 次のプロセスを検索します：**/opt/cupm/jvm/bin/java -server -classpath /opt/cupm/sep/lib/dom.jar:/opt/cupm/sep/lib/jaxbapi.jar:/opt/cupm/sep/lib/jaxb-impl.jar**
プロセスが実行中の場合は、次のコマンドを入力します。

```
kill -9 <Process-Id found earlier>
```

データベース サーバのデータベースを復元するには、次の手順を実行します。

- ステップ 4** 同一インストールに復元する場合は、次の手順に進みます。新規インストールに復元する場合は、データベース サーバの **/<backup_folder>** にバックアップ ファイル (**bak**) を貼り付けます。
- ステップ 5** データベース サーバの次のディレクトリに移動します。
- ```
cd /opt/postgres/9.0/bin
```
- ステップ 6** 次のコマンドを実行します。

```
./CUPM-restore.sh <username> '<password>' /<backup_folder>/<backup_file_name>
```

ここで、**username** は PostgreSQL 管理者のユーザ名です。デフォルトの管理者ユーザ名は **pmadmin** です。パスワードは **globaladmin** に入力したものと同じです。

(注) コマンド **./CUPM-restore.sh** が機能するには、必ずパスワードには特殊文字を含めず、単一引用符で囲みます。

- ステップ 7** 同一インストールに復元する場合は、次の手順に進みます。新規インストールに復元する場合は、データベース サーバで次のコマンドを実行します。

```
cd /opt/postgres/9.0/bin
./psql -Upmadmin -d cupm
select * from nicesyseng;
```

コンソール出力をチェックして、([host] カラム) に古い IP アドレスを含むエントリがあるかどうかを確認します。そのようなエントリが存在する場合は、次のコマンドを実行してそれらを削除します。

```
delete from nicesyseng where host='<old_IP_address>';
```

**ステップ 8** 次のコマンドを使用して、データベース サービスを再起動します。

```
cd /opt/cupm
./cupm-db-service.sh stop
./cupm-db-service.sh start
```

アプリケーション サーバのデータベースの復元

#### 手順

**ステップ 1** 同一インストールに復元する場合は、次の手順に進みます。 新規インストールに復元する場合は、次のバックアップ ファイルをコピーします。

- /opt/cupm/logs/install.log
- /opt/cupm/sep/dfc.properties
- /opt/cupm/sep/ipt.properties
- /opt/cupm/sep/dfc.keystore
- /opt/cupm/jboss/server/cupm/conf/login-config.xml
- /opt/cupm/jboss/server/cupm/deploy/dfc-ds.xml

**ステップ 2** opt/cupm/sep/dfc.properties のデータベース サーバの IP アドレス (postgres host) を更新します。

**ステップ 3** opt/cupm/jboss/server/cupm/deploy/dfc-ds.xml のデータベース サーバの IP アドレス (postgres host) を更新します。

**ステップ 4** 次のコマンドを使用して、Apache サービス、JBoss サービス、および NICE サービスを開始します。

```
cd /opt/cupm
./cupm-app-service.sh start
```

## Provisioning ユーザ インターフェイスを使用したバックアップのスケジュール

Provisioning ユーザ インターフェイスを使用して、Provisioning データベースの定期バックアップを作成できます。バックアップを実行するには、管理者としてログインする必要があります。Provisioning データベースのバックアップを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** [管理 (Administration)] > [システムメンテナンス (System Maintenance)] > [バックアップ管理 (Backup Management)] を選択します。
- ステップ 2** [バックアップ管理 (Backup Management)] ページで [新規 (New)] をクリックします。
- ステップ 3** [バックアップの新規作成 (Create New Backup)] ページでバックアップ タイトルを入力します。
- ステップ 4** [バックアップ接続 (Backup Connection)] ドロップダウン リストから、バックアップ ファイルの保存先として [SFTP]、[FTP] または [ローカル (Local)] を選択します。
- a) [SFTP] または [FTP] を選択した場合は、次の詳細を入力します。
- バックアップ ファイルを保存する必要があるサーバの IP アドレス。
  - バックアップ先までのパスとポートの詳細 (SFTP のみ)。
  - ユーザ名とパスワード情報。SFTP または FTP パスワードのテストはオプションです。
- b) ローカルを選択した場合、バックアップ ファイルは CUPM のローカル ディレクトリに保存されます。
- ステップ 5** ローカルバックアップでは、[バックアップ履歴 (BackupHistory)] ドロップダウンリストから、ローカル マシンに保存するバックアップ ファイル数を選択します。  
デフォルト値は 2 です。デフォルトでは、2 つの最新バックアップ ファイルを保存できます。最大 9 つの最新バックアップ ファイルを保存可能です。
- ステップ 6** スケジュールの詳細を入力して、バックアップをスケジュールします。  
表示される時刻は、サーバブラウザの時刻です。新規バックアップ ジョブのデフォルトの繰り返しタイプは [なし (None)] です。デフォルト設定でバックアップ ジョブを作成すると、バックアップがただちに開始されます。
- ステップ 7** スケジュールしたバックアップのステータス通知を受信する電子メールアドレスを入力します。  
複数の電子メールアドレスをカンマで区切って入力できます。
- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。[バックアップ管理 (Backup Management)] ページの [バックアップ (Backups)] テーブルに、スケジュールされたバックアップが表示されます。
- ステップ 9** [今すぐ実行 (Run Now)] をクリックし、ただちにバックアップを実行します。
- 

Prime Collaboration Provisioning は、バックアップ開始前にメンテナンス モードに入ります。すべてのログイン ユーザに対して、スケジュールされたバックアップの開始 10 分前に、Prime Collaboration Provisioning からログアウトされることを知らせる通知が表示されます。ユーザは、バックアップ開始前に作業を保存してログアウトする必要があります。さもないと、自動的にログアウトされて Prime Collaboration Provisioning にアクセスできなくなります。

バックアップテーブルには、各バックアップジョブのステータスと履歴の情報が表示されます。  
[次の実行時 (Next Run Time)] オプションには、次の定期スケジュールの詳細が示されます。



また、[前回の実行ステータス (Last Run Status)] 列には、前回実行したバックアップジョブのステータスが表示されます。バックアップジョブのステータスは、[スケジュール済み (Scheduled)]、[処理中 (In Progress)]、[成功 (Success)] または [失敗 (Failed)] です。

バックアップジョブがスケジュールされた時間に達すると、前回の実行ステータスが [スケジュール済み (Scheduled)] に変更されます。さらに 10 分後にメンテナンス モードに入ると、ステータスは [スケジュール済み (Scheduled)] から [処理中 (In Progress)] に変化します。

バックアップジョブが完了すると、ステータスは [成功 (Success)] または [失敗 (Failed)] になります。

任意のバックアップジョブの履歴を表示するには、[実行履歴カウント (Run History Count)] をクリックしてダイアログボックスを開きます。バックアップの開始時刻、終了時刻、ステータス、ファイルサイズを表示できます。また、実行履歴ログを削除できます。バックアップログが削除されてもバックアップ済みファイルは削除されません。

## バックアップジョブの管理

スケジュールされたジョブでは、次の操作を実行できます。

- 編集と削除：[スケジュール済み (Scheduled)] と [処理中 (In Progress)] のステータスでは、[編集 (Edit)] および [削除 (Delete)] オプションが無効になります。バックアップのステータスが [スケジュール済み (Scheduled)] と [処理中 (In Progress)] の場合は、そのバックアップジョブを編集または削除することはできません。同時に編集できるバックアップジョブは 1 つだけです。
- キャンセル：キャンセルできるのは、ステータスが [スケジュール済み (Scheduled)] または [処理中 (In Progress)] の実行中のバックアップジョブだけです。





付 録

# A

## プロビジョニング属性

- ・ [プロビジョニング属性の説明, 333 ページ](#)
- ・ [コール プロセッサのサポートされるプロビジョニング属性, 384 ページ](#)
- ・ [ユニファイド メッセージ プロセッサのサポートされるプロビジョニング属性, 453 ページ](#)
- ・ [プレゼンス サーバのサポートされるプロビジョニング属性, 455 ページ](#)

## プロビジョニング属性の説明

[表 57 : プロビジョニング属性の説明, \(333 ページ\)](#) に、設定可能なすべてのプロビジョニング属性を示します。すべてのエンドポイント タイプまたはすべての Cisco Unified Communications Manager バージョンに、すべての属性を適用できるとは限りません。Provisioning の設定によっては、一部の属性が使用できない場合があります。

[コール プロセッサのサポートされるプロビジョニング属性, \(384 ページ\)](#) および [ユニファイド メッセージ プロセッサのサポートされるプロビジョニング属性, \(453 ページ\)](#) は、コール プロセッサとユニファイドメッセージプロセッサの各バージョンでどの属性を使用できるかをそれぞれ示したものです。

[プレゼンス サーバのサポートされるプロビジョニング属性, \(455 ページ\)](#) にはプレゼンス プロセッサの属性が示されています。

表 57 : プロビジョニング属性の説明

| 属性                                             | 説明                              |
|------------------------------------------------|---------------------------------|
| [AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space) ] | 自動代替ルーティング (AAR) コーリングサーチ スペース。 |

|                                                          |                                                                                          |
|----------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| [AAR 接続先マスク (AAR Destination Mask) ]                     | 電話番号に自動代替ルーティング (AAR) の接続先マスクを設定します。                                                     |
| [AAR グループ (AAR Group) ]                                  | 自動代替ルーティング (AAR) グループ。                                                                   |
| [AAR キープコール履歴 (AAR Keep Call History) ]                  | 電話番号に自動代替ルーティング (AAR) のキープコール履歴を設定すると、宛先がコール転送履歴に保持されます。                                 |
| [AAR 設定 (AAR Settings) ] -- [ボイスメールの使用 (Use Voicemail) ] | このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration) ] ウィンドウの設定が使用されます。 |
| [管理ユーザ名 (Admin Username) ]                               | 管理ユーザのユーザ ID。デフォルトは admin です。<br>ユーザ名に apache、daemon、nobody、root、および shutdown は使用できません。  |
| [管理パスワード (Admin Password) ]                              | 管理ユーザのパスワード。                                                                             |

|                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[G.722 および iSAC コーデックのアドバタイズ (Advertise G.722 and iSAC Codecs) ]</p> | <p>エンドポイント アプリケーションが広帯域コーデックを Cisco Unified Communications Manager にアドバタイズするかどうかを指定します。</p> <p>コーデックのネゴシエーションには 2 つのステップがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• エンドポイント アプリケーションは、サポートされるコーデックを Cisco Unified Communications Manager にアドバタイズします (すべてのエンドポイントが同じコーデックのセットをサポートしているわけではありません)。</li> <li>• Cisco Unified Communications Manager が、コール試行に関連するすべてのエンドポイントからサポートされるコーデックのリストを取得すると、リージョンペア設定などのさまざまな要因に基づいて一般にサポートされるコーデックが選択されます。</li> </ul> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [システムデフォルトを使用 (Use System Default) ] : エンドポイントアプリケーションは[G.722コーデックのアドバタイズ (Advertise G.722 Codec) ] エンタープライズ パラメータで指定された設定に従います。</li> <li>• [無効 (Disabled) ] : エンドポイント アプリケーションは広帯域コーデックを Cisco Unified Communications Manager にアドバタイズしません。</li> <li>• [有効 (Enabled) ] : エンドポイント アプリケーションは広帯域コーデックを Cisco Unified Communications Manager にアドバタイズします。</li> </ul> |
| <p>[呼び出し表示 (Alerting Name) ]</p>                                        | <p>回線からコールを発信した際に表示される名前。</p> <p>このプロビジョニング属性を設定するときは、\${FIRSTNAME}、\${LASTNAME}、\${EXTENSION}、および \${USERID} の各キーワードを使用できます。これらのキーワードはそれぞれ、ユーザの名、姓、内線番号、ユーザ ID に置き換えられます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

|                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[代替ボイス<br/>メール内線番号<br/>(Alternate<br/>Voicemail<br/>Extensions) ]</p>                                   | <p>ボイスメール アカウントの 1 つ以上の代替内線番号。</p> <p>ボイスメールアカウントのオーダー中に、[詳細オーダー (Advanced Ordering) ] オプションを使用して、このプロビジョニング属性を設定できます ( <a href="#">ユーザのサービスのオーダー</a> , (247 ページ) を参照) 。</p> <p>[代替ボイスメール内線番号 (Alternate Voicemail Extensions) ] フィールドには、次の文字を入力できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 数字 (0 ～ 9)</li> <li>• アスタリスク (*)</li> <li>• ダッシュ (-)</li> <li>• プラス記号 (+)</li> <li>• パーセント (%)</li> <li>• バックスラッシュ (\)</li> <li>• エックス文字 (X)</li> <li>• 疑問符 (?)</li> </ul> |
| <p>[Android Market<br/>からのアプリ<br/>ケーションを許<br/>可 (Allow<br/>Applications<br/>from Android<br/>Market) ]</p> | <p>ユーザが Android Marketplace から Android アプリケーションをインストールできるかどうかを制御します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| <p>[Cisco AppHQ<br/>からのアプリ<br/>ケーションを許<br/>可 (Allow<br/>Applications<br/>from Cisco<br/>AppHQ) ]</p>       | <p>ユーザが Cisco AppHQ からアプリケーションをインストールできるかどうかを制御します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p>[不明な提供元<br/>からのアプリ<br/>ケーションを許<br/>可 (Allow<br/>Applications<br/>from Unknown<br/>Sources) ]</p>        | <p>URL から、あるいは電子メール、インスタント メッセージ (IM) 、またはセキュアデジタル (SD) カード経由で受け取った Android パッケージ (APK) から、ユーザが Android アプリケーションをデバイス上にインストールできるかどうかを制御します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

|                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [CTIからのデバイスの制御を許可 (Allow Control of Device from CTI) ]   | [はい (True) ] に設定した場合は、CTI でデバイスを制御およびモニタできます。有効な値は [はい (True) ] または [いいえ (False) ] です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| [EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides) ]    | EnergyWise ドメイン コントローラ ポリシーで、電力レベルの更新をエンドポイントに送信できるかどうかを指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [ユーザ定義 VPN プロファイルの許可 (Allow User-Defined VPN Profiles) ] | AnyConnect VPN クライアントを使用して VPN プロファイルを作成できるかどうかを制御します。無効にすると、ユーザは VPN プロファイルを作成できません。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| [代替番号 (Alternate Number) ]                               | プライマリ電話でコールを受信したときに、Cisco Prime Collaboration Provisioning がそのコールを転送する代替番号を入力します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| [常に VPN (Always on VPN) ]                                | 常にデバイスが VPN AnyConnect クライアントを起動し、Cisco Unified Communications Manager の設定済みの VPN プロファイルで接続を確立するかどうかを示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line) ]                 | 次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [オフ (Off) ] : 電話がアイドル状態になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、電話のユーザは、コールを受信した回線からコールに応答します。</li> <li>• [オン (On) ] : 電話機がアイドル状態 (オフフック) になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、このコールにはプライマリ回線が選択されます。他の回線のコールは鳴り続け、ユーザはそれらの回線を選択してこれらのコールに応答する必要があります。</li> <li>• [デフォルト (Default) ] : Cisco Prime Collaboration Provisioning では、[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line) ] サービス パラメータの設定が使用されます。</li> </ul> |

|                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する<br>(Always Use Prime Line for Voice Message) ] | <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [オン (On) ] : 電話がアイドル状態の場合、電話のユーザが電話のメッセージ ボタンを押すと、電話のプライマリ回線がボイス メッセージを受信するアクティブ回線になります。</li> <li>• [オフ (Off) ] : 電話がアイドル状態の場合、電話のメッセージ ボタンを押すと、ボイス メッセージが設定されている回線からボイス メッセージ システムに自動的にダイヤルされます。 ボイス メッセージがある回線が存在しない場合に、電話のユーザがメッセージ ボタンを押すと、プライマリ回線が使われます。</li> <li>• [デフォルト (Default) ] : Cisco Prime Collaboration Provisioning では、[ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message) ] サービス パラメータの設定が使用されます。</li> </ul> |
| [Android Debug Bridge (ADB) ]                                           | デバイス上で Android Debug Bridge (ADB) を有効または無効にします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| [アプリケーションダイヤルルール URL<br>(Application Dial Rules URL) ]                  | アプリケーションのダイヤル ルールの URL。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| [AppHQ ドメイン (AppHQ Domain) ]                                            | Cisco AppHQ のドメイン。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [市外局番 (Area Code) ]                                                     | サイトの市外局番。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name) ]                                   | <p>回線からコールを発信した際に表示される名前。 入力 は ASCII 文字で行うことができます。</p> <p>このプロビジョニング属性を設定するときは、\${FIRSTNAME}、\${LASTNAME}、\${EXTENSION}、および \${USERID} の各キーワードを使用できます。これらのキーワードはそれぞれ、ユーザの名、姓、内線番号、ユーザ ID に置き換えられます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| [ASCII 表示(内部発信者 ID)<br>(ASCII Display (Internal Caller ID)) ]           | <p>表示される内部発信者 ID。 このフィールドを空欄にしておいた場合は、内線番号が表示されます。 入力 は ASCII 文字で行うことができます。</p> <p>このプロビジョニング属性を設定するときは、\${FIRSTNAME}、\${LASTNAME}、\${EXTENSION}、および \${USERID} の各キーワードを使用できます。これらのキーワードはそれぞれ、ユーザの名、姓、内線番号、ユーザ ID に置き換えられます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                  |



|                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[ASCII 回線テキストラベル<br/>(ASCII Line Text Label) ]</p>  | <p>回線/エンドポイントの組み合わせについて、この電話番号を特定するテキスト。 入力 は ASCII 文字でだけ行うことができます。 このプロビジョニング属性を設定するときは、<code>\${FIRSTNAME}</code>、<code>\${LASTNAME}</code>、<code>\${EXTENSION}</code>、および <code>\${USERID}</code> の各キーワードを使用できます。</p> <p>これらのキーワードはそれぞれ、ユーザの名、姓、内線番号、ユーザ ID に置き換えられます。</p> <p>また、このフィールドにテンプレートを入力して、エンドポイントに表示される電話番号の桁を操作することもできます。</p> <p>テンプレートでは、テキスト文字列内にトランスフォーメーションマスクを埋め込むことで、電話番号の任意の桁を削除、挿入、順序変更、または変更することができます。</p> <p>トランスフォーメーションテンプレートの設定方法については、<a href="#">プロビジョニング属性のトランスフォーメーションテンプレートの設定</a>、(74 ページ) を参照してください。</p> <p>(注)      テンプレートではなく標準的なテキストを入力する場合は、このフィールドに 30 文字まで入力できます。 テンプレートを入力する場合の最大文字数は 60 文字になります。</p> |
| <p>[オーディオプロファイル<br/>(Audio Profile) ]</p>              | <p>ノイズの抑制やエコーなどのオーディオ設定を行います。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| <p>[認証サーバ URL<br/>(Authentication Server URL) ]</p>    | <p>エンドポイントの Web サーバに対する要求を検証するためにエンドポイントで使われる URL。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <p>[自動応答<br/>(Auto Answer) ]</p>                       | <p>自動応答のオプションを設定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <p>[自動割り込み<br/>(Auto Barge) ]</p>                      | <p>自動割り込みオプションを有効にするか、無効にするのかを指定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <p>[自動回線選択<br/>(Auto Line Select) ]</p>                | <p>自動での回線選択を有効にします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <p>[自動ポート同期<br/>(Automatic Port Synchronization) ]</p> | <p>エンドポイントで PC ポートと SW ポートを同じ速度およびデュプレックスに同期させることを有効にします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

|                                                                         |                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [BLFオーディオアラート設定 (電話がアイドルのとき) (BLF Audible Alert Setting (Phone Idle)) ] | <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [オン (On) ] : オーディオアラートを鳴らします。</li> <li>• [オフ (Off) ] : オーディオアラートを鳴らしません。</li> <li>• [デフォルト (Default) ]</li> </ul> |
| [BLF オーディオアラート設定 (電話がビジーのとき) (BLF Audible Alert Setting (Phone Busy)) ] | <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [オン (On) ] : オーディオアラートを鳴らします。</li> <li>• [オフ (Off) ] : オーディオアラートを鳴らしません。</li> <li>• [デフォルト (Default) ]</li> </ul> |
| [BLF プレゼンスグループ (BLF Presence Group) ]                                   | <p>この電話番号をモニタできるエンドユーザとアプリケーションユーザを指定するグループ。</p>                                                                                                                                      |
| [Bluetooth]                                                             | <p>Bluetooth デバイスを有効にするか、無効にするのかを指定します。</p>                                                                                                                                           |

|                                                                 |  |
|-----------------------------------------------------------------|--|
| <p>[ ビジーランプ<br/>フィールド情報<br/>(Busy<br/>Lampfield<br/>Info) ]</p> |  |
|-----------------------------------------------------------------|--|

デバイスの電話番号または SIP URI のステータスをリアルタイムでモニタするために使用します。これは Cisco Unified Communications Manager の Cisco Unified Presence 機能の一部です。

この属性の設定フィールドを、次のリストで説明します。

- [インデックス (Index)] : 数字 (1 ~ 199) を入力します。
- [接続先 (Destination)] : 次のいずれかのタスクを実行して、SIP URI または電話番号をビジー ランプフィールドとして設定します。

- SIP 電話の場合は、SIP URI を入力します。

- SIP または SCCP 電話の場合は、数値、アスタリスク (\*)、ポンド記号 (#) だけを使用して電話番号を入力するか、[電話番号 (Directory Number)] ドロップダウン リストから番号を選択します。

Cisco Unified Communications Manager 以外の電話番号をビジー ランプフィールドとして設定する場合は、その電話番号を入力します。

[接続先 (Destination)] フィールドを設定する場合は、[電話番号 (Directory Number)] ドロップダウン リストからオプションを選択しないでください。

このフィールドでは、数字 (0 ~ 9)、アスタリスク (\*)、ハッシュ記号 (#)、およびプラス記号 (+) を使用できます。

- [電話番号 (Directory Number)] : Cisco Unified Communications Manager データベースに存在する電話番号のリストを表示します。この設定は、[接続先 (Destination)] フィールドを設定しなかった場合に限り行ってください。

SCCP または SIP 電話の場合は、スピードダイヤルボタンを使用した際にダイヤルさせる番号を選択します。

このフィールドでは、数字 (0 ~ 9)、アスタリスク (\*)、ハッシュ記号 (#)、およびバックスラッシュとプラス記号 (\+) を使用できます。

- [ラベル (Label)] : 表示させるテキストを入力します。このフィールドは国際化をサポートしています。電話が国際化をサポートしていない場合、Provisioning では [ラベル ASCII (Label ASCII)] フィールドに入力したテキストが使用されます。

- [ラベル ASCII (Label ASCII)] : ビジー ランプフィールドに表示させるテキストを入力します。[ラベル ASCII (Label ASCII)] フィールドは、[ラベル (Label)] フィールドに入力したテキストの非国際化バージョンを表します。

[ラベル ASCII (Label ASCII)] フィールドは、Cisco Unified Communications Manager 6.1.3 以降でサポートされています。

- [コールピックアップ (Call Pickup)] : Cisco Unified IP Phone でビジー ランプフィールドボタンを電話番号に関連付けます。これによって、Cisco

|                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                               | <p>Unified Communications Manager で、電話番号からコールが受けられるのを待機しているときに、電話ユーザを通知できるようになります。</p> <p>電話番号はビジー ランプフィールド電話番号を示し、ビジー ランプフィールド電話番号への通話を受ける電話は、ビジー ランプフィールドのコール ピックアップ発信側を示します。</p> <p>バッチ プロビジョニングでビジー ランプフィールド情報を指定する場合は、次の形式を使用する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• バッチ プロビジョニングで Add、Change Order、UpdatePA を実行する場合 - Index:DirectoryNumber:Label:LabelAscii:Destination:Call Pickup;</li> </ul> <p>デバイスですでにビジー ランプフィールド値が設定されている場合は、既存の値がこの形式に置換されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• バッチ プロビジョニングで Add および Change Order を実行する場合 - &amp;Index:DirectoryNumber:Label:LabelAscii:Destination:Call Pickup;</li> </ul> <p>この形式は、ビジー ランプフィールドの特定の値を変更し、他の既存のビジー ランプフィールド値を保持するために使用されます。</p> |
| [ビジー トリガー (Busy Trigger) ]                    | 回線に一度に送られるコールの最大数。コールがこの数を超えると、ビジー信号が発生するか、コール転送に回されます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| [ビルトインブリッジ (Built In Bridge) ]                | 割り込み機能で、ビルトイン会議ブリッジの有効と無効を切り替えます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| [CTI 障害時コール転送 (Call Forward on CTI Failure) ] | 周辺のゲートウェイの障害時に指定した接続先へコールを転送するには、このチェック ボックスをオンにします。この属性は、[回線 (Line) ]、[エクステンションモビリティ回線 (Extension Mobility Line) ]、[リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ]、[共有電話の回線 (Line On a Shared Phone) ] サービスでサポートされます。この属性は、Self-Care ポータルでのみ使用できます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| [コールピックアップグループ (Call Pickup Group) ]          | ユーザが独自のグループ内で着信コールを受けることを可能にする電話番号。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

|                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [コールピックアップグループオーディオアラートの設定 (電話がアイドルのとき) (Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Idle)) ]    | このフィールドで、着信コールがコール ピックアップ グループのメンバーに送信する通知のタイプが判定されます。コールが着信した電話で応答されない場合、コール ピックアップ グループ内のアイドル中の電話で短い呼び出し音が聞こえるか ([一度鳴らす (Ring Once) ]) 、または何も聞こえません ([無効 (Disabled) ]) 。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| [コールピックアップグループオーディオアラートの設定 (電話がアクティブのとき) (Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Active)) ] | このフィールドで、着信コールがコール ピックアップ グループのメンバーに送信する通知のタイプが判定されます。コールが着信した電話で応答されない場合、コール ピックアップ グループ内の使用中の電話でビープ音のみが聞こえるか、または何も聞こえません ([無効 (Disabled) ]) 。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [発信者 ID (Caller ID) ]                                                                             | 発信者に割り当てられた ID を識別します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [発信者入力キー (Caller Input Keys) ]                                                                    | <p>発信者の入力キーを設定します。有効な属性は次のとおりです。</p> <p>[ロック済み (Locked) ] : [はい (True) ] または [いいえ (False) ]。</p> <p>[操作 (Action) ] : キーの操作を指定します。</p> <p>[内線 (Extension) ]</p> <p>[説明 (Description) ]</p> <p>[コールハンドラ (Call Handler) ]</p> <p>[ディレクトリハンドラ (Directory Handler) ]</p> <p>[インタビューハンドラ (Interview Handler) ]</p> <p>[メールボックスを持つユーザ (User with Mailbox) ]</p> <p>[転送を試す、またはグリーティングを実行 (Attempt Transfer Or Go Greeting) ]</p> <p>[会話 (Conversation) ]</p> <p>内線番号ダイヤリングが許可されるかどうか、および[追加入力待機時間 (Wait for Additional Digits) ] の値を指定できます。</p> |

|                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS) ]     | 発呼側トランスフォーメーション用のコーリング サーチ スペースを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| [コーリング サーチスペース (Calling Search Space) ]                       | コールの終了を試みる際にデバイスが検索できるパーティションを指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| [不在転送 CSS アクティベーションポリシー (Forward All CSS Activation Policy) ] | <p>[設定済み CSS を使用 (With Configured CSS) ] オプションを選択した場合、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration) ] ウィンドウで明示的に設定された不在転送コーリングサーチスペースにより、不在転送のアクティベーションと自動転送が制御されます。不在転送コーリング サーチ スペースが [なし (None)] に設定されている場合、CSS は不在転送のために設定されません。パーティションが設定された任意の電話番号への不在転送をアクティブにすることはできません。</p> <p>不在転送コーリング サーチ スペースを明示的に設定せずに、電話番号のコーリング サーチ スペースとデバイスのコーリング サーチ スペースを組み合わせる場合は、[コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy) ] で [アクティブなデバイス/回線 CSS を使用 (With Activating Device/Line CSS) ] を選択します。</p> |
| [CAPF 機能 (CAPF feature) ]                                     | <p>ページの [アプリケーションユーザ CAPF プロファイルの設定 (Application User CAPF Profile Configuration) ] ウィンドウを使用すると、セキュアなアプリケーション ユーザにローカルで有効な証明書を発行できます。証明書を発行し、その他のセキュリティ関連のタスクを実行すると、CTI Manager サービスとサーバでアクティブにされたアプリケーションの間で TLS 通信が開かれます。</p> <p>1 つのアプリケーション ユーザ CAPF プロファイルが、サーバのアプリケーションの 1 つのインスタンスに対応します。たとえば、クラスタ内の 2 台のサーバでアプリケーションをアクティブにする場合は、サーバごとに 1 つずつ、合計 2 つのアプリケーション ユーザ CAPF プロファイルを設定する必要があります。同じサーバで 2 つの異なるアプリケーションをアクティブにする場合は、サーバのアプリケーションごとに 1 つずつ、合計 2 つのアプリケーション ユーザ CAPF プロファイルを設定する必要があります。</p>        |
| [CIP プロファイル (CIP Profile) ]                                   | Cisco Unified Communications Manager CIP Web サービスのホスト名を設定します。このホスト名は、Unified Presence Client で電話サービスへのアクセス、認証、およびローカリゼーションに使用できます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

|                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Cisco カメラ<br>(Cisco Camera) ]                                                                   | エンドポイントにカメラが接続されている場合に、カメラ機能が有効かどうかを示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| [Cisco Discovery Protocol<br>(CDP) : PC ポート (Cisco Discovery Protocol<br>(CDP) : PC Port) ]      | 管理者は、ドックの PC ポート上で CDP を有効または無効にできます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [Cisco Discovery Protocol<br>(CDP) : スイッチポート (Cisco Discovery Protocol<br>(CDP) : Switch Port) ] | 管理者は、ドックのスイッチ ポート上で CDP を有効または無効にできます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [Cisco Usage and Error Tracking]                                                                 | Cisco Usage and Error Tracking システムに送信される使用状況情報のレベルを指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [CME 回線設定<br>テンプレート<br>(CME Line Configuration Template) ]                                       | <p>Cisco Unified Communications Manager Express の回線設定モードで実行される Cisco IOS コマンドを入力する、自由形式のテキスト フィールド。</p> <p>入力する CLI コマンドはすべて、正しい構文である必要があります。回線設定モードを変更するコマンド (<b>exit</b> など) は使用しないでください。</p> <p>このテンプレートでは、回線設定コマンド (<b>number</b> や <b>description</b> など) は使用しないでください。これらのコマンドは、回線製品をプロビジョニングするときに Cisco Prime Collaboration Provisioning によって行われた設定を上書きします。</p>                                                 |
| [CME 電話設定<br>テンプレート<br>(CME Phone Configuration Template) ]                                      | <p>Cisco Unified Communications Manager Express の電話設定モードで実行される Cisco IOS コマンドを入力する、自由形式のテキスト フィールド。</p> <p>入力する CLI コマンドはすべて、正しい構文である必要があります。回線設定モードを変更するコマンド (<b>exit</b> など) は使用しないでください。</p> <p>このテンプレートでは、電話設定コマンド (<b>mac-address</b>、<b>description</b>、<b>button</b>、<b>type</b>、<b>username</b> など) は使用しないでください。これらのコマンドは、エンドポイントをプロビジョニングするときに Cisco Prime Collaboration Provisioning によって行われた設定を上書きします。</p> |



|                                                      |                                                                                                               |
|------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [共通デバイス設定 (Common Device Configuration) ]            | 共通のデバイス設定（ソフトキー テンプレートやユーザ ロケールなど）。                                                                           |
| [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile) ]                | 電話機のパーソナライゼーション、VPN 情報、セキュア シェル情報など、共通の電話プロファイルの設定。                                                           |
| [企業写真ディレクトリ (Company Photo Directory) ]              | ユーザに関連するイメージのクエリーを実行してイメージを取得する URL を指定します。                                                                   |
| [会議プロファイル (Conferencing Profile) ]                   | プライマリ サーバ、スタンバイ サーバ、およびプロファイルに関連付けられたユーザなど、Cisco MeetingPlace に関する設定を行います。                                    |
| [企業電子メールアドレス (Corporate Email Address) ]             | 企業の IT 部署の電子メール アドレスを指定します。                                                                                   |
| [国コード (Country Code) ]                               | サイトの国番号を示します。                                                                                                 |
| [CTI ゲートウェイプロファイル (CTI Gateway Profile) ]            | プライマリ サーバ、スタンバイ サーバ、およびプロファイルに関連付けられたユーザなど、CTI ゲートウェイに関する設定を行います。                                             |
| [CUE ユーザ設定テンプレート (CUE User Configuration Template) ] | Cisco Unity Express の EXEC モードと設定モードの CLI コマンドを入力する、自由形式のテキスト フィールド。設定モードを開始したり終了したりするための、適切な CLI コマンドを格納します。 |

|                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [CUE ボイス<br>メール設定テン<br>プレート (CUE<br>Voicemail<br>Configuration<br>Template) ] | Cisco Unity Express のメールボックス設定モードの CLI コマンドを入力する、自由形式のテキスト フィールド。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [ディスプレイ<br>非点灯日 (Days<br>Display Not<br>Active) ]                             | デフォルトでディスプレイの電源がオフに設定される日を指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| [デフォルト<br>コールプロトコ<br>ル (Default Call<br>Protocol) ]                           | デバイスの標準通信プロトコル。デフォルト値は [SIP] です。<br>(注) Cisco Unified Communications Manager に登録する場合は、SIP プロトコルだけがサポートされます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [Unified CM の<br>接続障害の検出<br>(Detect Unified<br>CM Connection<br>Failure) ]    | <p>Cisco Unified Communications Manager への接続エラーをエンドポイント アプリケーションが検出する感度を指定します。この検出は、デバイスのバックアップ用 Cisco Unified Communications Manager/SRST へのフェールオーバーが発生する前に最初に実行されます。</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [標準 (Normal) ] (標準のシステム レートで発生する Unified CM 接続エラーの検出)。 Unified CM 接続エラーの高速認識のためには、[標準 (Normal) ] を選択します。</li> <li>• [遅延 (Delayed) ] ([標準 (Normal) ] の約 4 分の 1 の速度で発生する Unified CM 接続エラーの検出)。 接続自体で接続を再確立できるようにするためにフェールオーバーを少し遅らせる場合は、[遅延 (Delayed) ] を選択します。</li> </ul> <p>[標準 (Normal) ] と [遅延 (Delayed) ] の接続エラー検出の正確な時間の差は、常に変化する多数の変数に応じて異なります。これは有線イーサネット接続に適用されます。</p> |
| [デバイスの説<br>明 (Device<br>Description) ]                                        | デバイスの目的を特定する説明文。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| [デバイスモビ<br>リティモード<br>(Device<br>Mobility<br>Mode) ]                           | ローミングデバイスのコーリングサーチ スペース、地域、日時グループ、SRST参照先などのロケーション設定を動的に変更します。有効な値は、[オン (On) ]、[オフ (Off) ]、および [デフォルト (Default) ] です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|                                                          |                                                                                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [デバイスプール (Device Pool) ]                                 | デバイスが使用するデバイス プール。                                                                                                                                                                                 |
| [デバイスセキュリティモード (Device Security Mode) ]                  | デバイスと Cisco Unified Communications Manager との間で使用するセキュリティ モード（認証または暗号化）。                                                                                                                           |
| [ディレクトリ URI (Directory URI) ]                            | <p>オーダーされた回線の電話番号に関連付けるディレクトリ URI を入力します。username@host の形式で入力してください。ディレクトリ URI が属するパーティションも入力する必要があります。</p> <p>複数の URI を入力する場合は、[プライマリ (Primary) ] オプション ボタンをクリックして、内線のプライマリ ディレクトリ URI を示します。</p> |
| [ディレクトリ 検索ルール URL (Directory Lookup Rules URL) ]         | ディレクトリ検索ルールの URL。                                                                                                                                                                                  |
| [ディレクトリ URL (Directory URL) ]                            | エンドポイントがディレクトリ 情報を取得するサーバの URL。                                                                                                                                                                    |
| [スピーカフォンの無効化 (Disable SpeakerPhone) ]                    | デバイスのスピーカフォンを無効にします。                                                                                                                                                                               |
| [スピーカフォンとヘッドセットの無効化 (Disable Speakerphone And Headset) ] | デバイスのスピーカフォンおよびヘッドセットを無効にします。                                                                                                                                                                      |
| [USB を無効にする (Disable USB) ]                              | デバイスおよびドックの USB ポートを無効にします。                                                                                                                                                                        |

|                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [表示(内部発信者 ID) (Display (Internal Caller ID)) ] | 表示される内部発信者 ID。このフィールドを空欄にしておいた場合は、内線番号が表示されます。                                                                                                                                                                                                                    |
| [ディスプレイ 放置時自動消灯 (Display Idle Timeout) ]       | ディスプレイがユーザアクティビティによってアクティブになった後に、再び非アクティブになるまでの時間を指定する自由形式のフィールド。このフィールドを空白にした場合は、デバイスのデフォルト値は1時間になります。<br><br>最大値は24時間です。「1:30」と入力すると、1時間30分放置された後にディスプレイがオフになります。非アクティビティタイマーは、ユーザのアクティビティ中、継続的にリセットされます。                                                       |
| [ディスプレイ 点灯継続時間 (Display On Duration) ]         | プログラミングされたスケジュールによって電源がオンになったときに、ディスプレイがアクティブになるまでの時間を指定します。                                                                                                                                                                                                      |
| [ディスプレイ 点灯時刻 (Display On Time) ]               | ディスプレイの電源が自動的にオンになる時刻を指定します。                                                                                                                                                                                                                                      |
| [ダイジェスト ユーザ (Digest User) ]                    | ダイジェスト認証 (SIP セキュリティ) の設定に関連付けられるエンドユーザ。SIP 電話タイプのみがサポートされます。                                                                                                                                                                                                     |
| [着信コール時に点灯 (Display On When Incoming Call) ]   | デバイスがスクリーンセーバーモードのときにコールが着信した場合、ディスプレイがアクティブになります。                                                                                                                                                                                                                |
| [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert) ]         | [サイレント (Do Not Disturb) ]機能が有効になっている場合のエンドポイントでのコールの表示方法を指定します。有効な値は、[ビープ音のみ (Beep Only) ]、[無効 (Disable) ]、および[フラッシュのみ (Flash Only) ]です。                                                                                                                          |
| [DND オプション (DND Option) ]                      | 着信コールが[サイレント (Do Not Disturb) ]機能によってどのように処理されるのかを指定します。Cisco Unified Communications Manager 6.0.x でサポートされる有効な値は[呼出音オフ (Ringer Off) ]です。7.0.x では、[呼出音オフ (Ringer Off) ]、[コール拒否 (Call Reject) ]、および[共通の電話プロファイル設定を使用 (Use Common Phone Profile Setting) ]がサポートされます。 |
| [サイレント (Do Not Disturb) ]                      | エンドポイントで[サイレント (Do Not Disturb) ]を有効にします。有効な値は[はい (True) ]または[いいえ (False) ]です。                                                                                                                                                                                    |

|                                                                                        |                                                                                                                             |
|----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ドメイン名 (Domain Name) ]                                                                 | ドメインの名前です。                                                                                                                  |
| [緊急電話番号 (Emergency Numbers) ]                                                          | 緊急番号のカンマ区切りのリストです (例 : 911) 。これらの番号はSoftPhoneではなく、GSM からダイヤルされます。                                                           |
| [オーディオアラートを有効にする (Enable Audible Alert) ]                                              | オーディオ アラート メッセージを有効にします。                                                                                                    |
| [Cisco UCM アプリケーション クライアントを有効にする (Enable Cisco UCM App Client) ]                       | アプリケーション クライアントがデバイス上で動作するかどうかを制御します。アプリケーション クライアントが有効な場合は、Cisco Unified Communications Manager からインストールするアプリケーションを選択できます。 |
| [Cisco Unified Mobile Communicator を有効にする (Enable Cisco Unified Mobile Communicator) ] | Cisco Unified Mobile Communicator を有効にします。                                                                                  |
| [LDAP SSL を有効にする (Enable LDAP SSL) ]                                                   | LDAP への SSL 接続を有効にします。                                                                                                      |
| [LDAP ユーザ認証を有効にする (Enable LDAP User Authentication) ]                                  | LDAP トランザクションに対するクライアント ユーザ認証を有効にします。                                                                                       |
| [モバイルボイスアクセスの有効化 (Enable Mobile Voice Access) ]                                        | 現在選択されているコール プロセッサのユーザのモバイル ボイス アクセスを有効にします。                                                                                |

|                                                                                       |                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| [モビリティの有効化 (Enable Mobility) ]                                                        | 現在選択されているコールプロセッサのユーザのモビリティ機能を有効にします。                                   |
| [Power Save Plus を有効にする (Enable Power Save Plus) ]                                    | スケジュールに基づいてエンドポイントの電源をオフにする日を指定します。                                     |
| [再同期 MWI を有効にする (Enable ResyncMWI) ]                                                  | 追加されたユーザに対して、MWI と統合 Cisco Unified Communications Manager との再同期を有効にします。 |
| [Telnet を有効にする (Enable Telnet) ]                                                      | 管理者がエンドポイントの Telnet を有効または無効にすることを許可します。                                |
| [Unified CM IM and Presence のユーザを有効にする (Enable User for Unified CM IM and Presence) ] | [Unified CM IM and Presence] サービスを有効または無効にするために使用します。                   |
| [EnergyWise ドメイン (EnergyWise Domain) ]                                                | エンドポイントが参加している Energywise ドメインを指定します。                                   |
| [EnergyWise エンドポイントのセキュリティシークレット (EnergyWise Endpoint Security Secret) ]              | Energywise ドメイン内の通信に使用されるパスワードを指定します。                                   |
| [ファクスエラー修正モードのオーバーライド (Fax Error Correction Mode Override) ]                          | ファクス送信のエラー修正モード (ECM) を無効にするかどうかを指定します。                                 |

|                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ファクスモード (Fax Mode) ]                                          | ファクス モード (ファクス パススルーまたはT.38 ファクス リレー) を指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [機能管理ポリシー (Feature Control Policy) ]                           | <p>機能管理ポリシーを使用すると、特定の機能を有効または無効にして、エンドポイントに表示される特定の機能とソフトキーの外観を制御することができます。複数の機能管理ポリシーを設定することが可能です。機能管理ポリシーを設定した後、そのポリシーを個々のエンドポイントまたはエンドポイントグループに関連付ける必要があります。</p> <p>(注) [機能管理ポリシー (Feature Control Policy) ] 属性は、Cisco Cius、エクステンション モビリティ アクセス、Cisco Unified IP Phone 8961、9951、および 9971 でのみサポートされます。</p> |
| [不在転送 (Forward All) ]                                          | <p>すべてのコールを転送します。</p> <p>[不在転送の接続先 (Forward All Destination) ] フィールドでは、数字 (0 ～ 9)、プラス記号 (+)、アスタリスク (*)、ハッシュ記号 (#)、および大文字のエックス (X) を使用できます。</p>                                                                                                                                                                |
| [不在転送 - コーリングサーチスペース (Forward All - Calling Search Space) ]    | すべてのコーリングサーチスペースをコール転送します。                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| [話中転送(外部) (Forward Busy External) ]                            | 回線が使用中で、ビジー トリガーの設定値に達した場合に、コールを転送します。これは外部コール用です。                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [話中転送(内部) (Forward Busy Internal) ]                            | 回線が使用中で、ビジー トリガーの設定値に達した場合に、コールを転送します。これは内部コール用です。                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [転送呼情報 - 発信者名 (Forwarded Call Information - Caller Name) ]     | コール転送時に、発信者名を表示させます。                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| [転送呼情報 - ダイヤル番号 (Forwarded Call Information - Dialed Number) ] | コール転送時に、リダイレクトされた番号を表示させます。                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

|                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|----------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [転送呼情報 - 転送先番号<br>(Forwarded Call Information - Redirected Number) ] | コール転送時に、最初にダイヤルされた番号を表示させます。                                                                                                                                                                                                                                           |
| [無応答時転送(外部) (Forward No Answer External) ]                           | 応答がなく設定済みの無応答時の呼び出し時間に達した場合や宛先が未登録の場合に、コールを転送します。これは外部コール用です。                                                                                                                                                                                                          |
| [無応答時転送(内部) (Forward No Answer Internal) ]                           | 応答がなく設定済みの無応答時の呼び出し時間に達した場合や宛先が未登録の場合に、コールを転送します。これは内部コール用です。                                                                                                                                                                                                          |
| [カバレッジなし時転送(外部) (Forward No Coverage External) ]                     | カバレッジが使い切られたかタイムアウトし、カバレッジの関連付けられているハントパイロットで最終転送用の [個人の初期設定を使用 (Use Personal Preferences) ] が指定されている場合に、コールを転送します。これは外部コール用です。                                                                                                                                        |
| [カバレッジなし時転送(内部) (Forward No Coverage Internal) ]                     | カバレッジが使い切られたかタイムアウトし、カバレッジの関連付けられているハントパイロットで最終転送用の [個人の初期設定を使用 (Use Personal Preferences) ] が指定されている場合に、コールを転送します。これは内部コール用です。                                                                                                                                        |
| [CTI 障害時ボイスメール転送 (Forward on CTI Failure Voice Mail) ]               | [CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure) ] フィールドは、CTI ルートポイントおよび CTI ポートにのみ適用されます。この行の設定は、CTI ルートポイントまたは CTI ポートが失敗した場合に、この CTI ルートポイントまたは CTI ポートへの外部コールの自動転送をどのように扱うのかを指定します。<br>このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration) ] ウィンドウの設定が使用されます。 |
| [CTI 障害時転送の接続先 (Forward on CTI Failure Destination) ]                | この設定は、電話番号を制御するアプリケーションが失敗した場合に、接続されなかった内線コールが自動転送される電話番号またはディレクトリ URI を指定します。                                                                                                                                                                                         |



|                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [CTI障害時転送のコーリングサーチスペース<br>(Forward on CTI Failure Calling Search Space) ] | この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。<br>内線コールのコーリングサーチスペースを選択すると、外線コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] 設定に、この値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリングサーチスペースに自動転送する場合は、外線コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] で、別の設定値を選択する必要があります。 |
| [未登録外線の不在転送<br>(Forward Unregistered External) ]                          | 一時的に登録解除された宛先へのコールを再ルーティングします。これは外部コール用です。                                                                                                                                                                                         |
| [未登録内線の不在転送<br>(Forward Unregistered Internal) ]                          | 一時的に登録解除された宛先へのコールを再ルーティングします。これは内部コール用です。                                                                                                                                                                                         |
| [転送の遅延<br>(Forwarding Delay) ]                                            | エンドポイントがアクティブになったときに、内部スイッチがエンドポイントの PC ポートとスイッチポート間のパケット転送を開始するかどうかを示します。                                                                                                                                                         |
| [位置情報<br>(GeoLocation) ]                                                  | 地理的ロケーションフィルタおよび論理パーティションポリシーで使用する、地理的ロケーションを指定します。                                                                                                                                                                                |
| [Gratuitous ARP]                                                          | デバイスがネットワーク上にその存在を公表するために使用する、ARP パケットの受信を無効にします。                                                                                                                                                                                  |
| [保留復帰の呼び出し時間(秒)<br>(Hold Reversion Ring Duration (seconds)) ]             | 0～1200の数値（両端の値も含む）を入力して、保留している電話に戻されるコールのアラートを送信するまでの待機時間（秒単位）を指定します。                                                                                                                                                              |
| [保留復帰の通知間隔(秒)<br>(Hold Reversion Notification Interval (seconds)) ]       | 0～1200の数値（両端の値も含む）を入力して、保留している電話にリマインダアラートを送信する間隔（秒）を指定します。                                                                                                                                                                        |

|                                                              |                                                                   |
|--------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| [ホームクラス<br>タ (Home<br>Cluster) ]                             | このクラスタがエンド ユーザに対してホーム クラスタであるかどうかを示し<br>ます。                       |
| [フックフラッ<br>シュタイマー<br>(Hookflash<br>Timer) ]                  | 上限検証タイマーを指定します。                                                   |
| [アイドルタイ<br>マー (Idle<br>Timer) ]                              | [アイドル URL (Idle URL) ] オプションで指定した URL が表示されるまでの<br>時間の長さ (秒単位) 。  |
| [アイドル URL<br>(Idle URL) ]                                    | アイドルURL のタイマーで指定した時間だけエンドポイントが使用されなかつ<br>た場合、エンドポイントに表示される URL。   |
| [表示インジ<br>ケータを無視<br>(Ignore<br>Presentation<br>Indicators) ] | コールごとのコール表示制限の設定に使用します。有効な値は[はい (True) ]<br>または[いいえ (False) ] です。 |
| [情報 URL<br>(Information<br>URL) ]                            | エンドポイントに表示されるヘルプ テキストの URL。                                       |
| [サイト間アク<br>セスコード<br>(Inter Site<br>Access Code) ]            | クラスターティングのためのサイト間アクセス コードを指定します。                                  |
| [国際ダイヤル<br>桁数<br>(International<br>Dialing Digits) ]         | 国際アクセスのためにダイヤルする番号を指定します。                                         |
| [IVR パスワー<br>ド (IVR<br>Password) ]                           | IVR のパスワードです。                                                     |
| [回線をまたい<br>で参加 (Join<br>Across Lines) ]                      | このオプションが有効になっている場合、ユーザはエンドポイントに表示され<br>るさまざまな回線間のコールに参加できます。      |

|                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [参加および直接転送ポリシー (Join And Direct Transfer Policy) ] | 同じ回線および異なる回線での参加と、直接転送ポリシーを指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [LDAP フィールドマッピング (LDAP Field Mappings) ]           | フィールドのマッピングのセミコロンで区切られたリスト。指定されていないフィールドはデフォルトを使用します。                                                                                                                                                                                                                                                              |
| [LDAP の写真のロケーション (LDAP Photo Location) ]           | LDAPディレクトリ内の写真のロケーションを示す文字列。これはLDAP フィールドまたは URL です。                                                                                                                                                                                                                                                               |
| [LDAP プロファイル (LDAP Profile) ]                      | LDAP のディレクトリ情報、検索コンテキスト情報、サーバ情報、およびプロファイルに関連付けられたユーザを設定します。                                                                                                                                                                                                                                                        |
| [LDAP 検索ベース (LDAP Search Base) ]                   | LDAP 検索のための検索ベース。                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [LDAP サーバ (LDAP Server) ]                          | LDAP サーバ名または IP アドレスとポート（例：ldap.company.com:389）。ポートが指定されない場合、アプリケーションはバックエンドディレクトリサービスに最適なポートを選択します。                                                                                                                                                                                                              |
| [レガシーメールボックス (Legacy Mailbox) ]                    | <p>Octel アナログ ネットワークのノード上の Cisco Unity ユーザを特定するために使用される番号。</p> <p>また、このフィールドにテンプレートを入力して、表示される番号の桁を操作することもできます。</p> <p>テンプレートでは、テキスト文字列内にトランスフォーメーションマスクを埋め込むことで、電話番号の任意の桁を削除、挿入、順序変更、または変更することができます。</p> <p>トランスフォーメーションテンプレートの設定方法については、<a href="#">プロビジョニング属性のトランスフォーメーションテンプレートの設定</a>、(74 ページ) を参照してください。</p> |
| [回線グループ (Line Groups) ]                            | 電話番号の選択順序を指定するために使用します。Cisco Unified Communications Manager では、着信コールは回線グループ内のアイドル状態または待機中のメンバーに分配されます。                                                                                                                                                                                                             |

|                                                                                                                                                            |                                                         |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| [LLDP アセット ID (LLDP Asset ID) ]                                                                                                                            | 管理者はリンク層検出プロトコル (LLDP) のアセット ID を設定できます。                |
| [Link Layer Discovery Protocol (LLDP): PCポート (Link Layer Discovery Protocol (LLDP): PC Port) ]                                                             | 管理者は、ドックのPCポート上でリンク層検出プロトコル (LLDP) を有効または無効にできます。       |
| [Link Layer Discovery Protocol - Media Endpoint Discover (LLDP-MED): PCポート (Link Layer Discovery Protocol - Media Endpoint Discover (LLDP-MED): PC Port) ] | 管理者は、ドックのPCポート上でリンク層検出プロトコル (LLDP-MED) を有効または無効にできます。   |
| [(LLDP-MED): スイッチポート ((LLDP-MED): Switch Port) ]                                                                                                           | 管理者は、ドックのスイッチポート上でリンク層検出プロトコル (LLDP-MED) を有効または無効にできます。 |
| [LLDP 電源優先度 (LLDP Power Priority) ]                                                                                                                        | 管理者は、リンク層検出プロトコル (LLDP) 用の電源優先度を設定できます。                 |

|                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [回線テキストラベル (Line Text Label) ] | <p>このフィールドは、回線に電話番号を表示させない場合にだけ使用します。回線/エンドポイントの組み合わせについて、この電話番号を特定するテキストを入力します。このプロビジョニング属性を設定するときは、<code>\${FIRSTNAME}</code>、<code>\${LASTNAME}</code>、<code>\${EXTENSION}</code>、および <code>\${USERID}</code> の各キーワードを使用できます。これらのキーワードはそれぞれ、ユーザの名、姓、内線番号、ユーザ ID に置き換えられます。</p> <p>また、このフィールドにテンプレートを入力して、エンドポイントに表示される電話番号の桁を操作することもできます。テンプレートでは、テキスト文字列内にトランスフォーメーションマスクを埋め込むことで、電話番号の任意の桁を削除、挿入、順序変更、または変更することができます。</p> <p>トランスフォーメーションテンプレートの設定方法については、<a href="#">プロビジョニング属性のトランスフォーメーションテンプレートの設定</a>、(74 ページ) を参照してください。</p> <p>(注)      テンプレートではなく標準的なテキストを入力する場合は、このフィールドに 30 文字まで入力できます。テンプレートを入力する場合の最大文字数は 60 文字になります。</p> |
| [ローカル番号 (Local Number) ]       | <p>デバイスのローカル番号を示します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| [ロケーション (Location) ]           | <p>使用するロケーション。このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| [デバイスのロック (Lock Device) ]      | <p>このパラメータでは、管理者がデバイスをロックして、不正なユーザアクセスを防ぐことができます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [ロードサーバ (Load Server) ]        | <p>デバイスが、定義されている TFTP サーバではなく、代替サーバを使用して、ファームウェア ロードとアップグレードを取得することを示します。このオプションでは、ファームウェアのアップグレードに使用されるローカルサーバを指定して、特に WAN を介したアップグレードの場合に、インストール回数を減らすことができます。サーバのホスト名または IP アドレスを入力します (標準の IP アドレス形式を使用します)。指定されるサーバは TFTP サービスを実行している必要があり、TFTP パスにロードファイルが必要です。ロードファイルが見つからない場合、ロードがインストールされません。デバイスは TFTP サーバにリダイレクトされません。このフィールドが空白のままの場合、デバイスは指定された TFTP サーバを使用してロードファイルおよびアップグレードを取得します。</p>                                                                                                                                                                                                                                     |
| [ログサーバ (Log Server) ]          | <p>ログ メッセージの送信先となるリモート システムの IP アドレスとポートを指定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

|                                                           |                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ハン트グループにログイン (Logged Into Hunt Group) ]                  | エンドポイントが現在ハントリスト (グループ) にログインしていることを示します。有効な値は、[オン (On) ]および[オフ (Off) ]です。                                                                                                                                                                    |
| [ログ表示 (Logging Display) ]                                 | 許可されるコンソールへのログのタイプを指定します。                                                                                                                                                                                                                     |
| [最大デスクピックアップ待機時間 (Max Desk Pickup Wait Time) ]            | デスクの応答までの最大待機時間。                                                                                                                                                                                                                              |
| [最大ファクス速度 (Maximum Fax Rate) ]                            | ネゴシエートする最大ファクスレートを指定します。このパラメータは、Cisco ファクス リレーを使用するファクス送信だけに適用されます。                                                                                                                                                                          |
| [コール最大数 (Maximum Number of Calls) ]                       | 回線に送られるコールの最大数を決定します。                                                                                                                                                                                                                         |
| [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List) ]            | 使用するメディア リソース グループ リスト。これを使用しない場合、電話はデバイスプールで指定された電話にデフォルト設定されます。メディアリソース グループ リストは、優先順位順に並べられたメディア リソース グループから構成されます。アプリケーションは、[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List) ] で定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから必要なメディア リソース (保留音サーバなど) を選択します。 |
| [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required) ] | SIP 電話のコールに必要です。有効な値は [はい (True) ] または [いいえ (False) ] です。                                                                                                                                                                                     |
| [メッセージランプ待機ポリシー (Message Lamp Waiting Policy) ]           | ハンドセットのランプ点灯ポリシーを設定します。                                                                                                                                                                                                                       |

|                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [メッセージ<br>(Messages) ]                                         | メッセージ URL を設定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| [MLPP コーリン<br>グサーチスパー<br>ス (MLPP<br>Calling Search<br>Space) ] | 代替パーティターゲット (宛先) の番号に関連付けるコーリングサーチスペースです。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [MLPP ドメイン<br>(MLPP<br>Domain) ]                               | このデバイスに関連付けられた Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) ドメイン。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| [MLPP 通知<br>(MLPP<br>Indication) ]                             | <p>優先トーンを再生できるデバイスで、MLPP 優先コールを発信する際にその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>このプロビジョニング属性は、一部の Cisco IP Phone では設定解除できません。SIP 電話の場合は、この属性の設定を変更できません。</p> <p>影響を受ける Cisco IP Phone は、7905、7906、7911、7912、7940、7941、7941 G-GE、7942、7945、7960、7961、7961 G-GE、7962、7965、7970、7971、および 7975 です。</p> <p>[エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access) ] をオーダーする際は、どの電話ボタンテンプレートのプロビジョニング属性も設定解除できません。</p>                      |
| [MLPP 無応答時の呼び出し時間<br>(MLPP No<br>Answer Ring<br>Duration) ]    | 代替パーティの無応答時の呼び出し時間の長さ。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [MLPP プリエンプション<br>(MLPP<br>Preemption) ]                       | <p>デバイスプール内の、進行中のコールのプリエンプション機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを発信するときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>このプロビジョニング属性は、一部の Cisco IP Phone では設定解除できません。SIP 電話の場合は、この属性の設定を変更できません。</p> <p>影響を受ける Cisco IP Phone は、7905、7906、7911、7912、7940、7941、7941 G-GE、7942、7945、7960、7961、7961 G-GE、7962、7965、7970、7971、および 7975 です。</p> <p>[エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access) ] をオーダーする際は、どの電話ボタンテンプレートのプロビジョニング属性も設定解除できません。</p> |

|                                      |                                                                                                                                  |
|--------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [MLPP ターゲット (MLPP Target) ]          | 代替パーティの無応答ターゲット。                                                                                                                 |
| [モビリティ ユーザ ID (Mobility User ID) ]   | Nokia S60 または iPhone に関連付けられたユーザのユーザ ID を決定します。                                                                                  |
| [モジュール 1 (Module 1) ]                | デバイスで使用する展開モジュール。<br>エンドポイントを追加または変更するときは、サポートされる拡張モジュール (エンドポイントでサポートされるモジュール) を選択する必要があります。サポートされていない展開モジュールを選択すると、オーダーは失敗します。 |
| [モジュール 1 ロード名 (Module 1 Load Name) ] | 展開モジュール 1 のロード名。                                                                                                                 |
| [モジュール 2 (Module 2) ]                | デバイスで使用する展開モジュール。<br>エンドポイントを追加または変更するときは、サポートされる拡張モジュール (エンドポイントでサポートされるモジュール) を選択する必要があります。サポートされていない展開モジュールを選択すると、オーダーは失敗します。 |
| [モジュール 3 (Module 3) ]                | デバイスで使用する展開モジュール。<br>エンドポイントを追加または変更するときは、サポートされる拡張モジュール (エンドポイントでサポートされるモジュール) を選択する必要があります。サポートされていない展開モジュールを選択すると、オーダーは失敗します。 |
| [モジュール 2 ロード名 (Module 2 Load Name) ] | 展開モジュール 2 のロード名。                                                                                                                 |
| [モジュール 3 ロード名 (Module 3 Load Name) ] | 展開モジュール 3 のロード名。                                                                                                                 |



|                                                             |                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [モニタリング用コーリングサーチスペース<br>(Monitoring Calling Search Space) ] | <p>スーパーバイザの回線表示のモニタリング用コーリングサーチスペースに、エージェントの回線またはデバイスパーティションを含めてエージェントをモニタできるようにします。</p> <p>スーパーバイザの回線表示ウィンドウでモニタリング用コーリングサーチスペースを設定します。 ドロップダウン リスト ボックスから既存のコーリングサーチスペースを選択します。</p> |
| [ソフトキー表示タイマー<br>(more Soft Key Timer) ]                     | その他のソフト キーが押されると、表示されるソフト キーが初期設定に戻ります。                                                                                                                                               |
| [MSISDN]                                                    | Mobile Station Integrated Services Digital Network (MSISDN) 番号を指定します。この属性は、Cisco Cius および Cisco Jabber for Tablet でのみサポートされます。                                                        |
| [国内ダイヤル桁数 (National Dialing Digits) ]                       | 国内アクセスのためにダイヤルする番号を指定します。                                                                                                                                                             |
| [ネットワーク保留音源<br>(Network Hold Audio Source) ]                | ネットワークが保留操作を開始したときに再生される音源。                                                                                                                                                           |
| [ネットワークロケール<br>(Network Locale) ]                           | エンドポイントのユーザに関連付けられたネットワーク ロケーション。 ネットワーク ロケーションによって、特定のロケーションにあるエンドポイントをサポートする一連の詳細情報が識別されます。これには電話で使用するトーンやリズムの定義などが含まれます。                                                           |
| [オフネットアクセスコード<br>(Off-Net Access Code) ]                    | サイトのオフネット アクセス コードを示します。                                                                                                                                                              |

|                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [オーナーの<br>ユーザ ID<br>(Owner User<br>ID) ]                                                                         | <p>エンドポイントに割り当てられたユーザのユーザ ID を決定します。ユーザ ID は、そのエンドポイントから発信されたすべてのコールに関する呼詳細レコードに記録されます。この属性はディレクトリ検索に使用して、ディレクトリ URL をサポートすることができます。</p> <p>このプロビジョニング属性を設定するときは、<code>\${USERID}</code> キーワードを使用できます。このキーワードはユーザの ID に置き換えられます。</p> <p>Unified CM 9.0 以上では、エクステンションモビリティ サポート フラグを有効にした後でもユーザ ID を更新できます。</p> <p>Unified CM 9.0 以上では、エンドポイントの変更やオーナーの変更を行う際に、[オーナーのユーザ ID (Owner User ID) ] が自動的に更新されます。</p> <p>(注) Unified CM 9.0 以上では、エンドポイントのプロビジョニング中に値を指定しなくても、[オーナーのユーザ ID (Owner User ID) ] が自動的に更新されます。疑似ユーザのこの属性は、自動的に [なし (None) ] に設定されます。</p> |
| [パケットキャ<br>プチャ時間<br>(Packet Capture<br>Duration) ]                                                               | <p>パケットキャプチャの1つのセッションに割り当てられた最大時間 (分単位)。デフォルト設定は 0 で、範囲は 0 ～ 300 分です。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [パケットキャ<br>プチャモード<br>(Packet Capture<br>Mode) ]                                                                  | <p>このオプションは、暗号化シグナリング情報のトラブルシューティングを行う場合に設定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| [パークモニタ<br>リング転送非取<br>得時の接続先<br>(外部) (Park<br>Monitoring<br>Forward No<br>Retrieve<br>Destination<br>External) ] | <p>パークされている側が外部の場合、パークしたユーザの [パークモニタリング転送非取得時の接続先(外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External) ] パラメータに指定された接続先にコールが転送されます。[パークモニタリング転送非取得時の接続先(外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External) ] フィールドの値が空欄の場合、パークされた側のコールはパークしたユーザの回線にリダイレクトされます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| [パークモニタ<br>リング転送非取<br>得時の接続先<br>(内部) (Park<br>Monitoring<br>Forward No<br>Retrieve<br>Destination<br>Internal) ] | <p>パークされている側が内部の場合、パークしたユーザの [パークモニタリング転送非取得時の接続先(内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal) ] パラメータに指定された接続先にコールが転送されます。[パークモニタリング転送非取得時の接続先(内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal) ] フィールドの値が空欄の場合、パークされた側のコールはパークしたユーザの回線にリダイレクトされます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                   |

|                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [パークモニタリング復帰タイマー (Park Monitoring Reversion Timer) ] | このパラメータは、ユーザがパークしたコールを取得するようにユーザに求めるまで、Cisco Unified Communications Manager が待機する秒数を決定します。このタイマーは、ユーザがエンドポイントの [パーク (Park) ] ソフトキーを押すと開始されます。タイマーが時間切れになるとアラームが鳴ります。デフォルトは 60 秒です。                                                                                                                                                                                                                          |
| [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone) ]                   | ドロップダウンリストボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デフォルト (Default) ] : [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone) ] サービス パラメータに設定された値を使用します。</li> <li>• [オン (On) ] : 基本的なコールがマルチパーティ コールに変化すると、エンドポイントでトーンが再生されます。制御デバイス、つまりマルチパーティ コールの発信元がビルトインブリッジの場合、制御デバイスで [オン (On) ] を選択すると、すべての通話者に対してトーンが再生されます。</li> <li>• [オフ (Off) ] : 基本コールがマルチパーティ コールに変化しても、エンドポイントでトーンは再生されません。</li> </ul> |
| [PC ポート (PC Port) ]                                  | エンドポイントの PC ポートが有効か無効かを示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [PC ポートのリモート設定 (PC Port Remote Configuration) ]      | ドッキングされているときのデバイスの PC ポートの速度とデュプレックスのリモート設定を許可します。これは、デバイス上での手動設定よりも優先されます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [PC の音声 VLAN へのアクセス (PC Voice VLAN Access) ]         | エンドポイントの PC ポートに接続されたデバイスから音声 VLAN へのアクセスを許可するかどうかを示します。このオプションを [いいえ (No) ] (無効) に設定すると、接続された PC で音声 VLAN のデータを送受信することができなくなります。                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| [ピアファームウェア共有 (Peer Firmware Sharing) ]               | サブネット内の 1 台のデバイスがイメージファームウェアファイルを取得し、それを各ピアに配布できるようにするためのピアツーピアイメージ配信を有効または無効にします。これによって TFTP 帯域幅が減少し、ファームウェアのアップグレード時間が短縮されます。                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| [電話ロード名 (Phone Load Name) ]                          | Cisco IP Phone のカスタム ソフトウェアです。値は現在のモデルのデフォルト値を上書きします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| [電話オフのアイドルタイムアウト (Phone Off Idle Timeout) ]          | デバイスがアイドル状態になっている必要がある分数を指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

|                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [電話をオフにする時刻<br>(Phone Off Time) ]                              | [Power Save Plusを有効にする (Enable Power Save Plus) ] フィールドで選択された日数だけ電話の電源が自動的にオフになるのはいつかを指定します。                                                                                                                                                                                                        |
| [電話をオンにする時刻<br>(Phone On Time) ]                               | [Power Save Plus を有効にする (Enable Power Save Plus) ] フィールドで選択された日数だけ電話機の電源が自動的にオンになるのはいつかを指定します。                                                                                                                                                                                                      |
| [IP Communicator のポート範囲<br>(Port Ranges for IP Communicator) ] | IP Communicator のポート範囲。                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| [電力ネゴシエーション<br>(Power Negotiation) ]                           | <p>管理者は、電力ネゴシエーションを有効または無効にできます。[電力ネゴシエーション (Power Negotiation) ]機能は、この機能をサポートしているスイッチにドックが接続されると有効になります。</p> <p>スイッチがこの機能をサポートしていない場合、PoE を介してアクセサリの電源をオンにする前に、[電力ネゴシエーション (Power Negotiation) ] を無効にする必要があります。[電力ネゴシエーション (Power Negotiation) ] 機能が無効の場合、ドックはアクセサリの電源を最大 12.9 W まで上げることができます。</p> |
| [プレゼンスおよびチャットサーバ(プライマリ) (Presence and Chat Server (Primary)) ] | プライマリ プレゼンスとチャットのサーバのホスト名または IP アドレス。                                                                                                                                                                                                                                                               |
| [プレゼンスおよびチャットサーバタイプ<br>(Presence and Chat Server Type) ]       | プレゼンスとチャットのサーバのタイプ。                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

|                                                                                    |                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [プレゼンスとチャットのシングルサインオン (SSO) ドメイン (Presence and Chat Single Sign-On (SSO) Domain) ] | プレゼンスとチャットのサーバのシングルサインオンを有効または無効にします。                                                                                                                      |
| [プレゼンスグループ (Presence Group) ]                                                      | この電話番号をモニタできるエンド ユーザおよびアプリケーション ユーザを指定します。                                                                                                                 |
| [プレゼンスステータス (Presence Status) ]                                                    | スピードダイヤル番号とコール リストのエントリにプレゼンス情報が表示されるかどうかを示します。                                                                                                            |
| [プリセット Wi-Fi ネットワーク (Preset Wi-fi Networks) ]                                      | クライアントが自動的に登録を試行する、プリセットされた Wi-Fi ネットワークのカンマ区切りのリスト。                                                                                                       |
| [プライバシー (Privacy) ]                                                                | 同じ回線を共有する電話を持つユーザが、コールのステータスを表示したりコールを中断したりできるかどうかを指定します。                                                                                                  |
| [プライマリデバイス (Primary Device) ]                                                      | Cisco Unified Mobile Communicator がセカンダリ デバイスである場合に、[電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウで Cisco Unified Mobile Communicator を設定できるようにします。                  |
| [プライマリ電話 (Primary Phone) ]                                                         | アプリケーションに関連付けられている物理的な電話です。この属性は、Cisco IP Communicator、Cisco Jabber for Desktop、Cisco Unified Personal Communicator、および Cisco Jabber for iPhone でのみ使用できます。 |
| [プロキシサーバ URL (Proxy Server URL) ]                                                  | 電話の HTTP クライアントからローカル以外のホストアドレスに対するアクセスの HTTP 要求をプロキシするために使用する URL。                                                                                        |
| [品質改善サーバ (Quality Improvement Server) ]                                            | デバイスから品質向上レポートを収集するリモートシステムのホスト名または IP アドレスを指定します。                                                                                                         |

|                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [録音メディア<br>ソース<br>(Recording<br>Media Source) ]             | 次のいずれかのオプションを選択します。<br><br><ul style="list-style-type: none"> <li>• [ゲートウェイ優先 (Gateway Preferred) ] : 録音に対応するゲートウェイ経由でコールがルーティングされるときに、録音メディア ソースとして音声ゲートウェイが選択されます。</li> <li>• [電話優先 (Phone Preferred) ] : 録音メディア ソースとして電話が選択されます。</li> </ul> |
| [録音トーン<br>(Recording<br>Tone) ]                             | 電話で録音トーンが有効か無効かを指定します。                                                                                                                                                                                                                         |
| [録音トーンの<br>長さ (Recording<br>Tone Duration) ]                | 録音トーンがオーディオストリームに挿入される時間をミリ秒単位で指定します。                                                                                                                                                                                                          |
| [録音トーンの<br>ローカル音量<br>(Recording<br>Tone Local<br>Volume) ]  | ローカル側で再生される録音トーンのボリュームを指定します。                                                                                                                                                                                                                  |
| [録音トーンの<br>リモート音量<br>(Recording<br>Tone Remote<br>Volume) ] | リモート側で再生される録音トーンのボリュームを指定します。                                                                                                                                                                                                                  |
| [非通知着信拒<br>否 (Reject<br>Anonymous<br>Calls) ]               | 非通知コールを拒否する場合は、このボックスをオンにします。                                                                                                                                                                                                                  |
| [リモート接続<br>先の制限<br>(Remote<br>Destination<br>Limit) ]       | 現在選択されているコール プロセッサのユーザ用の、リモート接続先の最大数。                                                                                                                                                                                                          |
| [リモートノー<br>ド ID (Remote<br>Node ID) ]                       | Cisco Unity のユーザが関連付けられている Octel アナログ ネットワークのノードのシリアル番号です。                                                                                                                                                                                     |

|                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [再ルーティング CSS<br>(Rerouting CSS) ]                    | 再ルーティングに使用するコーリング サーチ スペース。 値の例は、CSSName です。                                                                                                                                                                                                                                       |
| [ビデオコールをオーディオとして再試行<br>(Retry Video Call as Audio) ] | コールを受信するビデオ エンドポイントにだけ適用されます。 この電話が、ビデオとして接続しないコールを受信した場合、そのコールはオーディオ コールとしての接続を試みます。                                                                                                                                                                                              |
| [DTMF 受信が必要 (Require DTMF Reception) ]               | SIP と SCCP を実行している電話で DTMF 受信を有効にするには。 このチェックボックスをオンにします。                                                                                                                                                                                                                          |
| [スクリーンロック必須<br>(Require Screen Lock) ]               | デバイス上で画面ロックが必要かどうかを示します。 [なし (None) ]が選択された場合、デバイスは暗証番号またはパスワードの入力を求めません。 [暗証番号 (PIN) ]または[パスワード (Password) ]のオプションでは、画面のロックを解除するためのパスワードを入力する必要があります。 [暗証番号 (PIN) ]は数字のパスワードで、少なくとも 4 桁の長さが必要です。 [パスワード (Password) ]はアルファベットのパスワードで、少なくとも 4 文字で構成され、1 文字は数字以外、1 文字は大文字にする必要があります。 |
| [リモートデバイス (Remote Device) ]                          | SCCP パイプで、リモート サイトへの接続時間の遅延が発生する場合に、このチェックボックスをオンにします。                                                                                                                                                                                                                             |
| [呼出音設定(電話がアクティブのとき) (Ring Setting (Phone Active)) ]  | 電話の別の回線にアクティブ コールがあるときに使用される呼び出し音の設定。                                                                                                                                                                                                                                              |
| [呼出音設定(電話がアイドルのとき) (Ring Setting (Phone Idle)) ]     | 電話の別の回線にアクティブ コールがあるときに使用される呼び出し音の設定。                                                                                                                                                                                                                                              |
| [部屋の名称<br>(Room Name) ]<br>(Exchange より)             | Exchange の会議室名 (TelePresence システム用) 。                                                                                                                                                                                                                                              |

|                                                                               |                                                                                                  |
|-------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ルートパーティション<br>(Route Partition) ]                                            | 電話番号が属するパーティション。                                                                                 |
| [RTCP]                                                                        | オーディオの統計情報を維持します。                                                                                |
| [スクリーン<br>ロックタイムアウト (Screen Lock Timeout) ]                                   | デバイスによって画面が自動的にロックされるまでの最大アイドル時間を分単位で示します。画面がロックされると、画面のロックを解除する際にユーザパスワードが要求されます。               |
| [SDIO]                                                                        | 電話の SDIO デバイスが有効であるか、無効であることを示します。                                                               |
| [不在転送のセカンダリコーリングサーチスペース<br>(Secondary Calling Search Space for Forward All) ] | ドロップダウンリストボックスからセカンダリ コーリングサーチスペースを選択します。                                                        |
| [セキュリティ<br>プロファイル<br>(Security Profile) ]                                     | 電話で使用するセキュリティ プロファイル。<br>(注) エンドポイントのオーダー作成中、選択したプロトコルおよびモデルに基づいて、セキュリティ プロファイル属性のデフォルト値が設定されます。 |
| [サービス URL<br>(Services URL) ]                                                 | Cisco IP Phone サービスの URL。                                                                        |



|                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| [設定専用属性<br>(SetOnly<br>Attributes) ] |  |
|--------------------------------------|--|

同期中にコールプロセッサから設定はできるものの、保存や取得はできないプロビジョニング属性のリスト。

プロビジョニング属性情報は、テキストフィールドに正確に入力する必要があります。 **Provisioning** はエントリを検証しません。 無効な値を入力した場合、オーダーが失敗することがあります。

変更オーダーを発行する場合、デバイスに設定されている既存の値は表示されず、値は空欄になります。

- 値を入力しない場合は、既存の値がデバイスに保存されます。
- 値を入力すると、新しい値がデバイスに設定されます。 キーワード **CUPM\_BLANK** を入力すると、空欄の値がデバイスに設定されます。

[プレゼンスグループ (Presence Group) ]、[デバイスモビリティモード (Device Mobility Mode) ]、または [SIP プロファイル (SIP Profile) ] の設定専用属性を設定する際には、**CUPM\_BLANK** 設定を使用しないでください。 これらは Cisco Unified Communications Manager の必須属性です。

(注) 次のプロビジョニング属性は、設定専用のプロビジョニング属性から完全に管理されるプロビジョニング属性に変換されます。

- [CTI からのデバイスの制御を許可 (Allow Control of Device from CTI) ]
- [デバイスモビリティモード (Device Mobility Mode) ]
- [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert) ]
- [ハントグループにログイン (Logged Into Hunt Group) ]
- [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required) ]
- [プレゼンスグループ(電話) (Presence Group (Phone)) ]
- [プライマリ電話 (Primary Phone) ]
- [SIP プロファイル (SIP Profile) ]
- [SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules) ]
- [SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space) ]
- [信頼されたリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point) ]

使用可能な設定専用属性は次のとおりです。

- [オーディオメッセージ受信インジケータのポリシー (Audible Message Waiting Indicator Policy) ] : 有効な値は [オフ (Off) ]、[オン (On) ]、および [デフォルト (Default) ] です。
- [BLF ダイレクトコールパーク (BLF Directed Call Park) ] : ユーザが設定

した使用可能なダイレクト コール パーク番号にコールを転送できます。  
設定専用のプロビジョニング属性である [BLF ダイレクトコールパーク  
(BLF Directed Call Park) ]を設定または設定解除するときは、次のガイド  
ラインに留意してください。

° 設定するときは、次のフォーマットを使用します。

```
index1:DN1:partition1:label1:labelascii1;
index2:DN2:partition2:label2:labelascii2
```

index = ダイレクト コール パークの位置 (1、2、3 など) 。

DN = 電話番号。

Label = BLF ダイレクト コール パーク名。

labelascii = BLF ダイレクト コール パークの名前を ASCII 文字で表した  
もの。これを各 BLF ダイレクト コール パークについて、セミコ  
ロンで区切りながら繰り返します。

° 設定を解除するときは、インデックスを指定し、その後に空の値を  
続ける必要があります (たとえば 1:::;) 。

|                                              |  |
|----------------------------------------------|--|
| [設定専用属性<br>(SetOnly<br>Attributes) ]<br>(続き) |  |
|----------------------------------------------|--|

- BLF ダイレクト コール パークのインデックスのセットのうち 1 つの設定を解除するときは、残す必要のある古い値をすべて指定し、設定を解除するインデックスに対しては空の値を入力する必要があります。情報は順に指定する必要があります。

たとえば、次に示すセットのうちインデックス 3 の設定を解除するとします。

```
1:10:RP_T341:XXX:XXXASCII;
2:100:BATS-PT-NYC-PHONE:YYY:YYYASCII;3:200:BATS-PT-NYC-PHONE:ZZZ:ZZZASCII;
```

次のとおりに入力する必要があります。

```
1:10:RP_T341:XXX:XXXASCII;2:100:BATS-PT-NYC-PHONE:YYY:YYYASCII;3:
::;
```

- [コールピックアップグループオーディオアラートの設定(電話がアクティブのとき)(Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Active))]: 着信コールがコール応答グループのメンバーに送る通知のタイプを決定します。有効な値は、[ビープ音のみ (Beep Only)]、[システムデフォルトを使用 (Use System Default)]、および[無効 (Disable)] です。
- [コールピックアップグループオーディオアラートの設定(電話がアイドルのとき) (Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Idle))]: 着信コールがコール応答グループのメンバーに送る通知のタイプを決定します。有効な値は、[一度鳴らす (Ring Once)]、[システムデフォルトを使用 (Use System Default)]、および[無効 (Disable)] です。
- [コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy)]: 有効な値は[システムデフォルトを使用 (Use System Default)]、[設定済みCSSを使用 (With Configured CSS)]、および[アクティブなデバイス/回線CSSを使用 (With Activating Device/Line CSS)] です。
- [Cisco Discovery Protocol (CDP)]: 管理者が CDP を有効または無効にできます。ネットワーク ポートでは CDP を無効にする必要があります。そのエンドポイントがシスコ以外のスイッチに接続されている場合は、ネットワーク ポートで CDP を無効にする必要があります。これは ATA 187 電話タイプだけに適用できます。デフォルト値は[有効 (Enabled)] です。
- [説明 (Description)]: 電話番号とルートパーティションの説明。説明には 50 文字まで使用できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、または山カッコ (<>) を含めることはできません。
- [モニタリング用コーリングサーチスペース (Monitoring Calling Search Space)]: スーパーバイザの回線表示のコーリングサーチスペースのモニタリングには、エージェントの回線またはエージェントのモニタリングを可能にするデバイスパーティションが含まれている必要があります。値の例は、MonitoringCSSName です。

- [MTP 優先発信コーデック (MTP Preferred Originating Codec) ] : メディアターミネーションポイントが SIP のコールに必要な場合は、使用するコーデックを選択します。有効な値は [711ulaw]、[711alaw]、[G729/G729a]、および [G729b/G729ab] です。
  - [録音プロファイル (Recording Profile) ] : エージェントの回線表示の記録プロファイルを判断します。デフォルトの設定は [なし (None) ] です。値の例は、RecordingProfileName です。
  - [不在転送のセカンダリコーリングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All) ] : コールの転送に使用します。値の例は、CSSName です。
  - [サービス (Services) ] : Cisco Unified IP Phone サービス。すべてのサービスは最初に Cisco Unified Communications Manager で設定する必要があります。値の例は、ServiceName1!ServiceURL1;ServiceName2!ServiceURL2 です。
- [サービス (Services) ] の設定を解除するには、キーワード CUPM\_BLANK を入力する必要があります。
- [SURL] : デバイス上に存在し、Provisioning ルールによって設定されるサービスにボタンを割り当てます。値の例は、buttonindex1:servicename1:label1:labelascii1;buttonindex2:servicename2:label2 です。
- SURL を設定するには、サービスの設定専用 Provisioning 属性を設定する必要があります。
- SURL の設定を解除するには、インデックスの後ろに空の値を入力します (1;;;2;;; など) 。

|                                                        |  |
|--------------------------------------------------------|--|
| <p>[設定専用属性<br/>(SetOnly<br/>Attributes) ]<br/>(続き)</p> |  |
|--------------------------------------------------------|--|

- [インピーダンス (Impedance)] : アナログ ポートのインピーダンスを指定します。この属性は ATA 187 電話タイプだけに適用できます。次の有効な値をセミコロンで区切って指定します。
  - 600 ohms complex;600 Ohms real;900 Ohms complex;900 ohms real;
  - 220 ohms + (820 ohms || 115nF);270 ohms + (750 ohms || 150nF);
  - 370 ohms + (620 ohms || 310nF);
  - 600r, line = 270 ohms + (750 ohms || 150nF);320 + (1050 || 230 nF), line = 12Kft;
  - 600r, line = 350 + (1000 || 210nF);200 ohms + (680 ohms || 100nF)
- [入力オーディオレベル (Input Audio Level)] : Cisco ATA FXS ポートの入力レベル制御 (アナログからデジタルへのパス) を指定します。この属性は ATA 187 電話タイプだけに適用できます。デフォルト値は NoDbPadding です。  
 有効な値は Minus14db、Minus13db、Minus12db、Minus11db、Minus10db、Minus9db、Minus8db、Minus7db、Minus6db、Minus5db、Minus4db、Minus3db、Minus2db、Minus1db、NoDbPadding、Plus1db、Plus2db、Plus3db、Plus4db、Plus5db、および Plus6db です。
- [出力オーディオレベル (Output Audio Level)] : Cisco ATA FXS ポートの出力レベル制御 (アナログからデジタルへのパス) を指定します。
- [発信者接続極性 (Caller Connect Polarity)] : Cisco ATA が発信側で、コールが接続される際の Cisco ATA FXS ポートの回線の極性を制御します。
- [発信者切断極性 (Caller Disconnect Polarity)] : Cisco ATA が発信側で、コールが接続を解除される際の Cisco ATA FXS ポートの回線の極性を制御します。
- [着信者接続極性 (Callee Connect Polarity)] : Cisco ATA が着信側で、コールが接続される際の Cisco ATA FXS ポートの回線の極性を制御します。
- [着信者切断極性 (Callee Disconnect Polarity)] : Cisco ATA が着信側で、コールが接続を解除される際の Cisco ATA FXS ポートの回線の極性を制御します。
- [コールシーケンス (Call Sequence)] : コール シーケンスを指定します。
- [オフフック検証タイマー(50~1000ミリ秒) (Offhook Validation Timer(50-1000ms))] : この検証タイマーの最小値および最大値は 50 ms と 1000 ms です。
- [オンフック検証タイマー(50~1000ミリ秒) (Onhook Validation Timer(50-1000ms))] : この検証タイマーの最小値および最大値は 50 ms と 1000 ms です。
- [フックフラッシュタイマー(100~1500ミリ秒) (Hookflash Timer



|                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                    | <p>(100-1500ms)) ] : このタイマーの最小値および最大値は 100 ms と 1500 ms です。</p> <p>• [オンフック遅延タイマー(0~155秒) (Onhook Delay Timer(0-155s)) ] : このタイマーの最小値および最大値は 0 ms と 155 ms です。</p>                                                                                                                                     |
| [SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules) ]    | Cisco Unified IP Phone にローカル ダイアルプランを提供し、コールが処理される前に、ユーザがキーを押したり、タイマーを待機したりする必要がないようにします。                                                                                                                                                                                                              |
| [設定へのアクセス (Settings Access) ]      | デバイス設定へのアクセス。                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| [SIP プロファイル (SIP Profile) ]        | SIP トランクおよび SIP エンドポイントに関連付けられている SIP 属性を指定します。これらの属性は、SIP 電話タイプだけに設定できます。                                                                                                                                                                                                                             |
| [サイトアクセスコード (Site Access Code) ]   | サイトのアクセス コードを指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| [ソフトキー テンプレート (Softkey Template) ] | Cisco IP Phone のソフトキーの設定を指定するソフトキー テンプレート。                                                                                                                                                                                                                                                             |
| [PC ポートへのスパン (Span to PC Port) ]   | <p>デバイスにおいて、ドックのネットワーク ポートで送受信したパケットを PC ポートへ転送するかどうかを指定します。</p> <p>診断目的で使用するモニタリングと記録用のアプリケーション（コールセンター環境で共通）や、ネットワーク パケットキャプチャ ツールなど、デバイス トラフィックのモニタリングを必要とするアプリケーションが PC ポート上で実行されている場合は、[有効 (Enabled) ] を選択します。</p> <p>この機能を使用するには、[PC の音声 VLAN へのアクセス (PC Voice VLAN Access) ] を有効にする必要があります。</p> |

|                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>[スピードダイヤル情報 (Speed Dial Info) ]</p>                            | <p>デバイスのスピードダイヤル設定を指定します。</p> <p>[スピードダイヤル設定 (Speed Dial Settings) ] ページには、次のフィールドがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [インデックス (Index) ]</li> <li>• [電話番号 (Directory Number) ]</li> <li>• [ラベル (Label) ]</li> </ul> <p>(注) スピードダイヤルの電話番号フィールドでは、数字 (0～9) 、アスタリスク (*) 、プラス記号 (+) 、およびハッシュ記号 (#) を使用できます。</p> <p>スピードダイヤルの電話番号フィールドでは、カンマ文字を使用してスピードダイヤルの間隔を空けることができます。電話番号の間に任意の数のカンマを挿入できます。カンマ 1 個あたりのデフォルトの遅延は 2 秒間です。</p> <p>カンマを使用して、スピードダイヤル番号を区切ることもできます。スピードダイヤル内のカンマは、Cisco Unified Communications Manager 9.x バージョン以降でサポートされます。</p> |
| <p>[SSH アクセス (SSH Access) ]</p>                                   | <p>デバイスが SSH 接続を受け入れるかどうかを示します。デバイスの SSH サーバ機能を無効にすると、ログ ファイルの収集などの特定のサポート機能がブロックされますが、通常の操作には影響しません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <p>[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (Subscribe Calling Search Space) ]</p> | <p>SIP トランクに接続するデバイス、サーバ、またはアプリケーションからのプレゼンス要求を Cisco Unified Communications Manager によってどのようにルーティングするのか設定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <p>[TTS が有効でない加入者 CoS (Subscriber CoS without TTS enabled) ]</p>  | <p>ユニファイドメッセージプロセッサの加入者アカウントでユニファイドメッセージングを無効にする際に使用するサービス クラス テンプレート。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <p>[TTS が有効な加入者 CoS (Subscriber CoS with TTS Enabled) ]</p>       | <p>ユニファイドメッセージプロセッサの加入者アカウントでユニファイドメッセージングを有効にする際に使用するサービス クラス テンプレート。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [TTSが有効でない加入者テンプレート<br>(Subscriber Template without TTS Enabled) ] | ユニファイドメッセージプロセッサの加入者アカウントでユニファイドメッセージングを無効にする際に使用するサービス テンプレート。                                                                                                                                                                                                              |
| [TTS が有効な加入者テンプレート<br>(Subscriber Template with TTS Enabled) ]     | ユニファイドメッセージプロセッサの加入者アカウントでユニファイドメッセージングを有効にする際に使用するサービス テンプレート。                                                                                                                                                                                                              |
| [スイッチ ID<br>(Switch ID) ]                                          | <p>Unity デバイスのボイスメールのプロビジョニング属性。[詳細オーダー (Advanced Ordering) ] 権限を持つユーザまたは管理者が、この属性を設定できます。</p> <p>整数だけが使用できます。 Unity Windows レジストリで、Cisco Unified Communications Manager に対応付けられた有効な値を見つけることができます。</p> <p>このフィールドは add voice mail 操作ではオプションで、change voice mail 操作では必須です。</p> |
| [スイッチポートのリモート設定 (Switch Port Remote Configuration) ]               | <p>ドッキングされているときのデバイスのスイッチポートの速度とデュプレックスのリモート設定を許可します。これは、デバイス上での手動設定よりも優先されます。</p> <p><b>注意</b> このポートを設定すると、デバイスがドック上にある場合にネットワーク接続が失われる可能性があります。</p>                                                                                                                        |
| [Telnet のパスワード (Telnet Password) ]                                 | Telnet にアクセスするためのパスワード。                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [Telnet ユーザ名 (Telnet Username) ]                                   | telnet shell ユーザのユーザ名。                                                                                                                                                                                                                                                       |
| [モバイルネットワークに転送 (Transfer to Mobile Network) ]                      | GSM へのハンドオフ機能のためのアクティベーションと方法。                                                                                                                                                                                                                                               |

|                                                                                       |                                                                                                                                                |
|---------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [UC サービスプロファイル (UC Service Profile) ]                                                 | サービス プロファイルをエンド ユーザに関連付けるために使用します。                                                                                                             |
| [不在ポート (Unattended Port) ]                                                            | <p>オンの場合は、不在ポート（たとえばボイスメールポート）へのコールのリダイレクトや転送が可能になります。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。</p>                                                |
| [緊急優先 (Urgent Priority) ]                                                             | Cisco Unified Communications Manager がすぐにコールをルーティングする必要がある場合は、このチェックボックスをオンにして、桁間タイミングを中断します。                                                  |
| [デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS) ] | デバイス プールで設定され、デバイスに割り当てられている発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、この属性を選択します。                                                                            |
| [信頼されたリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point) ]                                          | Cisco Unified Communications Manager が、このメディア エンドポイントに信頼されたリレー ポイント (TRP) を挿入できるようにします。有効な値は、[オフ (Off) ]、[オン (On) ]、および [デフォルト (Default) ] です。 |
| [ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source) ]                                                   | ユーザが保留操作を開始したときに再生される音源。                                                                                                                       |
| [ユーザロケール (User Locale) ]                                                              | エンドポイントのユーザに関連付けられたユーザの場所。ユーザロケールは、言語、フォント、日時の表示形式、英数字のキーボード テキスト情報など、ユーザをサポートするための一連の詳細情報を識別します。                                              |
| [ビデオ機能 (Video Capabilities) ]                                                         | 適切に準備された PC に接続したときに、エンドポイントがビデオコールに参加できるかどうかを示します。                                                                                            |
| [ボイスメールプロファイル (VoiceMail Profile) ]                                                   | プライマリ サーバ、スタンバイ サーバ、およびプロファイルに関連付けられたユーザなど、Unity/Unity Connection に関する設定を行います。                                                                 |

|                                                                           |                                                                                                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ボイスメールサーバ(バックアップ)<br>(Voicemail Server (Backup)) ]                       | バックアップ ビジュアル ボイスメール サーバのホスト名または IP アドレス。                                                                                                                                    |
| [ボイスメールサーバ(プライマリ)<br>(Voicemail Server (Primary)) ]                       | プライマリ ビジュアル ボイスメール サーバのホスト名または IP アドレス。                                                                                                                                     |
| [Web アクセス<br>(Web Access) ]                                               | エンドポイントの内部 Web サーバが有効 (Yes) か無効 (No) かを示します。無効の場合は、エンドポイントの Web ページにアクセスできません。                                                                                              |
| [Wifi]                                                                    | デバイス上の Wi-Fi が有効であるか、無効であることを示します。                                                                                                                                          |
| [Wi-Fi ホットスポットプロファイル (Wi-Fi Hotspot Profile) ]                            | ドロップダウン リスト ボックスから Wi-Fi ホットスポット プロファイルを選択します。<br><br>(注) [Wi-Fi ホットスポットプロファイル (Wi-Fi Hotspot Profile) ] 属性は、Cisco Desktop Collaboration Experience DX650 でのみサポートされます。      |
| [デバイスのワイプ (Wipe Device) ]                                                 | このパラメータでは、管理者がデバイス上のユーザデータおよび設定を消去できます。                                                                                                                                     |
| [ワイヤレス LAN プロファイルグループ (Wireless LAN Profile Group) ]                      | エンドポイントで使用可能なワイヤレス LAN プロファイル グループのリストを表示します。<br><br>(注) [ワイヤレス LAN プロファイルグループ (Wireless LAN Profile Group) ] 属性は、Cisco Desktop Collaboration Experience DX650 でのみサポートされます。 |
| [ワイヤレス LAN のビデオコール帯域幅 (kbps) (Wireless LAN Video Call Bandwidth (kbps)) ] | ビデオコールに割り当てられるワイヤレス帯域幅。有効な値の範囲は0～4000です。このフィールドを空白のままにしておくと、Cisco Unified Communications Manager のデフォルトの範囲値が使用されます。                                                         |

# コールプロセッサのサポートされるプロビジョニング属性

| 製品                          | プロビジョニング属性                              | Cisco Unified Communications Manager Express<br>Cisco Unified Communications Manager |       |       |     |       |       |      |
|-----------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|-----|-------|-------|------|
|                             |                                         | 8.0.x                                                                                | 8.5.x | 8.6.x | 9.0 | 9.1.1 | 9.1.2 | 10.x |
| [AAR 設定<br>(AAR Settings) ] | [ボイスメール<br>(Voicemail) ]                | N                                                                                    | N     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
|                             | [AAR 接続先マスク<br>(AAR Destination Mask) ] | N                                                                                    | N     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |
|                             | [AAR グループ<br>(AAR Group) ]              | N                                                                                    | N     | Y     | Y   | Y     | Y     | Y    |

|                                        |                                                                                                |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [代替番号<br>(Alternate<br>Numbers) ]      | [エンタープ<br>ライズ代替<br>番号の有効<br>化 (Enable<br>Enterprise<br>Alternate<br>Number) ]                  | N | N | N | N | N | N | Y |
|                                        | [番号マスク<br>(Number<br>Mask) ]                                                                   | N | N | N | N | N | N | Y |
|                                        | [クラスタ間<br>検索サービ<br>ス経由のア<br>ドバタイズ<br>(Advertise<br>via<br>Intercluster<br>Lookup<br>service) ] | N | N | N | N | N | N | Y |
|                                        | [ローカル<br>ルートパー<br>ティション<br>に追加<br>(Add to<br>Local Route<br>partition) ]                       | N | N | N | N | N | N | Y |
|                                        | [ルートパー<br>ティション<br>(Route<br>Partition) ]                                                      | N | N | N | N | N | N | Y |
|                                        | [優先 (Has<br>priority) ]                                                                        | N | N | N | N | N | N | Y |
|                                        | [優先 (Has<br>priority) ]                                                                        | N | N | N | N | N | N | Y |
| [ディレクトリ<br>URI<br>(Directory<br>URI) ] | [プライマリ<br>(Primary) ]                                                                          | N | N | N | Y | Y | Y | Y |
|                                        | [URL]                                                                                          | N | N | N | Y | Y | Y | Y |
|                                        | [パーティ<br>ション<br>(Partition) ]                                                                  | N | N | N | Y | Y | Y | Y |
|                                        | [アドバタイ<br>ズ<br>(Advertise) ]                                                                   | N | N | N | Y | Y | Y | Y |

|                                                     |                                                                                                |   |   |   |   |   |   |   |
|-----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [+E.164 代替<br>番号 (+E.164<br>Alternate<br>Numbers) ] | [+E.164 代替<br>番号の有効<br>化 (Enable<br>+E.164<br>Alternate<br>Number) ]                           | N | N | N | N | N | N | Y |
|                                                     | [番号マスク<br>(Number<br>Mask) ]                                                                   | N | N | N | N | N | N | Y |
|                                                     | [クラスタ間<br>検索サービ<br>ス経由のア<br>ドバタイズ<br>(Advertise<br>via<br>Intercluster<br>Lookup<br>service) ] | N | N | N | N | N | N | Y |
|                                                     | [ローカル<br>ルートパー<br>ティション<br>に追加<br>(Add to<br>Local Route<br>partition) ]                       | N | N | N | N | N | N | Y |
|                                                     | [ルートパー<br>ティション<br>(Route<br>Partition) ]                                                      | N | N | N | N | N | N | Y |
|                                                     | [優先 (Has<br>priority) ]                                                                        | N | N | N | N | N | N | Y |



|                                            |                                                 |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------------------------|-------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [モビリティサポートの有効化 (Enable Mobility Support) ] | [モバイルボイスアクセスの有効化 (Enable Mobile Voice Access) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                            | [モビリティの有効化 (Enable Mobility) ]                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                            | [最大デスクピックアップ待機時間 (Max Desk Pickup Wait Time) ]  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                            | [リモート接続先の制限 (Remote Destination Limit) ]        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                            | [プライマリデバイス (Primary Device) ]                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                  |                                                 |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------------------------------|-------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access) ] | [DND オプション (DND Option) ]                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                  | [応答不可 (Do Not Disturb) ]                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                  | [表示インジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                  | [モジュール 1 (Module 1) ]                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                  | [モジュール 2 (Module 2) ]                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                  | [MLPP ドメイン (MLPP Domain) ]                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                  | [MLPP 通知 (MLPP Indication) ]                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                  | [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption) ]              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                  | [ネットワークロケール (Network Locale) ]                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                  | [プライバシー (Privacy) ]                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                  | [Setting Access]                                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                  | 設定専用属性 :                                        |   |   |   |   |   |   |   |

|                                                                          |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| • [BLF<br>ダイレ<br>クト<br>コール<br>パーク<br>(BLF<br>Directed<br>Call<br>Park) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| • [DND<br>着信呼<br>警告<br>(DND<br>Incoming<br>Call<br>Alert) ]              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| • [サービ<br>ス<br>( <del>Service</del> ) ]                                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| • [SURL]                                                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [スピードダ<br>イヤル情報<br>(Speed Dial<br>Info) ]                                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ソフトキー<br>テンプレー<br>ト (Softkey<br>Template) ]                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ユーザ保留<br>音源 (User<br>Hold Audio<br>Source) ]                            | Y | Y | Y | Y |   | Y | Y |
| [ユーザロ<br>ケール<br>(User<br>Locale) ]                                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                             |                                                             |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [エクステンションモバイル回線 (Extension Mobility Line) ] | [AAR 接続先マスク (AAR Destination Mask) ]                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                             | [AAR グループ (AAR Group) ]                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                             | [AAR キープコール履歴 (AAR Keep Call History) ]                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                             | [呼び出し表示 (Alerting Name) ]                                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                             | [ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name) ]                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                             | [ASCII 表示 (内部発信者 ID) (ASCII Display (Internal Caller ID)) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                             | [ASCII 回線テキストラベル (ASCII Line Text Label) ]                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                             | [自動応答 (Auto Answer) ]                                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                             | [ビジートリガー (Busy Trigger) ]                                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                             |                                                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                            |   |   |   |   |   |   |   |
|------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [コールピックアップアップグループ (Call Pickup Group) ]                    |   |   |   |   |   |   |   |
| [コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ]                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [表示(内部発信者 ID) (Display (Internal Caller ID)) ]             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [外線電話番号マスク (External Phone Number Mask) ]                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [不在転送 (Forward All) ]                                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [話中転送(外部) (Forward Busy External) ]                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [話中転送(内部) (Forward Busy Internal) ]                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [転送呼情報 - 発信者名 (Forwarded Call Information - Caller Name) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                      |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [転送呼情報<br>- 発信者番号<br>(Forwarded<br>Call<br>Information -<br>Caller<br>Number) ]      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [転送呼情報<br>- ダイヤル番<br>号<br>(Forwarded<br>Call<br>Information -<br>Dialed<br>Number) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [転送呼情報<br>- 転送先番号<br>(Forwarded<br>Call<br>Information -<br>Redirected<br>Number) ]  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                   |                                                  |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------------|--------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [エクステンションモビリティ回線 (Extension Mobility Line) ] (続き) | [無応答時転送(外部) (Forward No Answer External) ]       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                   | [無応答時転送(内部) (Forward No Answer Internal) ]       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                   | [カバレッジなし時転送(外部) (Forward No Coverage External) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                   | [カバレッジなし時転送(内部) (Forward No Coverage Internal) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                   | [未登録外線の不在転送 (Forward Unregistered External) ]    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                   | [未登録内線の不在転送 (Forward Unregistered Internal) ]    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                   | [回線テキストラベル (Line Text Label) ]                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                   | [回線グループ (Line Groups) ]                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                   |                                                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                       |   |   |   |   |   |   |   |
|-------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [コール最大数<br>(Maximum Number of Calls) ]                |   |   |   |   |   |   |   |
| [Message Waiting Policy]                              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [MLPP コーリングサーチスペース<br>(MLPP Calling Search Space) ]   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [MLPP 無応答時の呼び出し時間<br>(MLPP No Answer Ring Duration) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [MLPP ターゲット<br>(MLPP Target) ]                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ネットワーク保留音源<br>(Network Hold Audio Source) ]          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration) ]              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [プライバシー<br>(Privacy) ]                                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |



|                                                         |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [ルートパーティション<br>(Route Partition) ]                      |   |   |   |   |   |   |   |
| [呼出音設定<br>(電話がアクティブのとき) (Ring Setting (Phone Active)) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [呼出音設定<br>(電話がアイドルのとき) (Ring Setting (Phone Idle)) ]    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                   |                                                                                                    |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [エクステンションモビリティ回線 (Extension Mobility Line) ] (続き) | 設定専用属性<br>• [オーディオメッセージ受信インジケータのポリシー (Audible Message Waiting Indicator Policy) ]                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                   | • [コールピックアップグループオーディオアラートの設定(電話がアクティブのとき) (Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Active)) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                   |                                                                                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|  |                                                                                                                                                                                                                                          |   |   |   |   |   |   |
|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|
|  |                                                                                                                                                                                                                                          |   |   |   |   |   |   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [コール<br/>ピック<br/>アップ<br/>グルー<br/>プオー<br/>ディオ<br/>アラ<br/>ートの設<br/>定(電話<br/>がアイ<br/>ドルの<br/>とき)<br/>(Call<br/>Pickup<br/>Group<br/>Audio<br/>Alert<br/>Setting<br/>(Phone<br/>Idle)) ]</li> </ul> |   |   |   |   |   |   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [コーリ<br/>ング<br/>サーチ<br/>スパー<br/>スのア<br/>クティ<br/>ベー<br/>ション<br/>ポリ<br/>シー<br/>(Calling<br/>Search<br/>Space<br/>Activation<br/>Policy) ]</li> </ul>                                              | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [説明<br/>(Data) ]</li> </ul>                                                                                                                                                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|  |                                                                                                                                                                                                                                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                                      |   |   |   |   |   |   |   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| •[モニタ<br>リング<br>用コー<br>リング<br>サーチ<br>スパー<br>ス<br>( <del>Mring</del><br>Calling<br>Search<br>Space) ] |   |   |   |   |   |   |   |
| •[プレゼ<br>ンスグ<br>ループ<br>( <del>Presene</del><br>Group) ]                                              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| •[録音オ<br>プショ<br>ン<br>( <del>Reordg</del><br>Option) ]                                                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| •[録音プ<br>ロファ<br>イル<br>( <del>Reordg</del><br>Profile) ]                                              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                                                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                                                            |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [不在転送のセカンダリコーリングサーチスペース (Sandy Calling Search Space for Forward All) ]</li> </ul> |   |   |   |   |   |   |   |
| [ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source) ]                                                                                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ボイスメールプロファイル (VoiceMail Profile) ]                                                                                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|    |                                                            |   |   |   |   |   |   |   |
|----|------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 回線 | [AAR 接続先マスク (AAR Destination Mask) ]                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|    | [AAR グループ (AAR Group) ]                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|    | [AAR キープコール履歴 (AAR Keep Call History) ]                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|    | [ボイスメール (Voicemail) ]                                      | N | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|    | [呼び出し表示 (Alerting Name) ]                                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|    | [ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name) ]                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|    | [ASCII 表示 (内部発信者 ID) (ASCII Display (Internal Caller ID))] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|    | [ASCII 回線テキストラベル (ASCII Line Text Label) ]                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|    | [自動応答 (Auto Answer) ]                                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|    |                                                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                                                                                                                             |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [ ビジー トリ<br>ガー (Busy<br>Trigger) ]                                                                                                                                                          |   |   |   |   |   |   |   |
| [ コールピッ<br>クアップゲ<br>ループ (Call<br>Pickup<br>Group) ]                                                                                                                                         | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ コーリング<br>サーチス<br>ペース<br>(Calling<br>Search<br>Space) ]                                                                                                                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ コール転送<br>およびコー<br>ルピック<br>アップ設定-<br>コーリング<br>サーチス<br>ペースのア<br>クティベー<br>ションポリ<br>シー (Call<br>Forward and<br>Call Pickup<br>Settings-<br>Calling<br>Search Space<br>Activation<br>Policy) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                                                                                                                                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                                                                                                                               |   |   |   |   |   |   |   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [コール転送<br>およびコー<br>ルピック<br>アップ設定-<br>不在転送の<br>セカンダリ<br>コーリング<br>サーチス<br>ペース (Call<br>Forward and<br>Call Pickup<br>Settings-<br>Secondary<br>Calling<br>Search Space<br>for Forward<br>All) ] |   |   |   |   |   |   |   |
| [コール転送<br>およびコー<br>ルピック<br>アップ設定-<br>CTI 障害時<br>転送: ボイス<br>メール (Call<br>Forward and<br>Call Pickup<br>Settings-<br>Forward On<br>CTI Failure:<br>Voicemail) ]                                 | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |
| [コール転送<br>およびコー<br>ルピック<br>アップ設定-<br>CTI 障害時<br>転送: 接続先<br>(Call<br>Forward and<br>Call Pickup<br>Settings-<br>Forward On<br>CTI Failure:<br>Destination) ]                                   | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                                                                                                                                               | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |



|                                                                                                                                                                                                |   |   |   |   |   |   |   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [コール転送<br>およびコール<br>ピックアップ<br>アップ設定-<br>CTI 障害時<br>転送: コーリ<br>ングサーチ<br>スペース<br>(Call<br>Forward and<br>Call Pickup<br>Settings-<br>Forward On<br>CTI Failure:<br>Calling<br>Search<br>Space) ] |   |   |   |   |   |   |   |
| [電話番号の<br>設定- BLFプ<br>レゼンスグ<br>ループ<br>(Directory<br>Number<br>Settings- BLF<br>Presence<br>Group) ]                                                                                            | N | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [電話番号の<br>設定- 非通知<br>着信拒否<br>(Directory<br>Number<br>Settings-<br>Reject<br>Anonymous<br>Calls) ]                                                                                              | N | N | N | Y | Y | Y | Y |
| [外線電話番<br>号マスク<br>(External<br>Phone<br>Number<br>Mask) ]                                                                                                                                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [不在転送<br>(Forward<br>All) ]                                                                                                                                                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                              |   |   |   |   |   |   |   |
|------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [話中転送(外部)<br>(Forward<br>Busy<br>External) ]                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [話中転送(内部)<br>(Forward<br>Busy<br>Internal) ]                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [転送呼情報<br>- 発信者名<br>(Forwarded<br>Call<br>Information -<br>Caller<br>Name) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                          |                                                                                      |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [回線<br>(Line) ] (続<br>き) | [転送呼情報<br>- 発信者番号<br>(Forwarded<br>Call<br>Information -<br>Caller<br>Number) ]      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [転送呼情報<br>- ダイヤル番<br>号<br>(Forwarded<br>Call<br>Information -<br>Dialed<br>Number) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [転送呼情報<br>- 転送先番号<br>(Forwarded<br>Call<br>Information -<br>Redirected<br>Number) ]  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [無応答時転<br>送(外部)<br>(Forward<br>No Answer<br>External) ]                              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [無応答時転<br>送(内部)<br>(Forward<br>No Answer<br>Internal) ]                              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [カバレッジ<br>なし時転送<br>(外部)<br>(Forward<br>No Coverage<br>External) ]                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          |                                                                                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                      |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [カバレッジ<br>なし時転送<br>(内部<br>(Forward<br>No Coverage<br>Internal) )]    |   |   |   |   |   |   |   |
| [未登録外線<br>の不在転送<br>(Forward<br>Unregistered<br>External) ]           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [未登録内線<br>の不在転送<br>(Forward<br>Unregistered<br>Internal) ]           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [CME 回線<br>設定テンプ<br>レート<br>(CME Line<br>Configuration<br>Template) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [回線グルー<br>プ (Line<br>Groups) ]                                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [回線テキス<br>トラベル<br>(Line Text<br>Label) ]                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [コール最大<br>数<br>(Maximum<br>Number of<br>Calls) ]                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [Message<br>Waiting<br>Policy]                                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                      |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [MLPP コー<br>リングサー<br>チスペース<br>(MLPP<br>Calling<br>Search<br>Space) ] |   |   |   |   |   |   |   |
| [MLPP 無応<br>答時の呼び<br>出し時間<br>(MLPP No<br>Answer Ring<br>Duration) ]  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [MLPP ター<br>ゲット<br>(MLPP<br>Target) ]                                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                          |                                                                                                                                                      |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [回線<br>(Line) ] (続<br>き) | [未取得時の<br>パーク モニ<br>タリング転<br>送の接続先<br>(外部) : ボ<br>イスメール<br>(Park<br>Monitoring<br>Forward No<br>Retrieve<br>Destination<br>External:<br>Voicemail) ] | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [未取得時の<br>パーク モニ<br>タリング転<br>送の接続先<br>(外部) : 接<br>続先 (Park<br>Monitoring<br>Forward No<br>Retrieve<br>Destination<br>External:<br>Destination) ]     | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [未取得時の<br>パーク モニ<br>タリング転<br>送の接続先<br>(外部) :<br>CSS (Park<br>Monitoring<br>Forward No<br>Retrieve<br>Destination<br>External:<br>CSS) ]              | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          |                                                                                                                                                      | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                                                                                   |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [未取得時の<br>パークモニ<br>タリング転<br>送の接続先<br>(内部):ボ<br>イスメール<br>(Park<br>Monitoring<br>Forward No<br>Retrieve<br>Destination<br>Internal:<br>Voicemail) ] |   |   |   |   |   |   |   |
| [未取得時の<br>パークモニ<br>タリング転<br>送の接続先<br>(内部):接<br>続先 (Park<br>Monitoring<br>Forward No<br>Retrieve<br>Destination<br>Internal:<br>Destination) ]     | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |
| [未取得時の<br>パークモニ<br>タリング転<br>送の接続先<br>(内部):<br>CSS (Park<br>Monitoring<br>Forward No<br>Retrieve<br>Destination<br>Internal:<br>CSS) ]             | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |
| [パークモニ<br>タリング復<br>帰タイマー<br>(Park<br>Monitor<br>Reversion<br>Timer) ]                                                                             | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                                                                                                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                      |   |   |   |   |   |   |   |
|------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [ルートパーティション (Route Partition) ]                      |   |   |   |   |   |   |   |
| [呼出音設定 (電話がアクティブのとき) (Ring Setting (Phone Active)) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [呼出音設定 (電話がアイドルのとき) (Ring Setting (Phone Idle)) ]    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ネットワーク保留音源 (Network Hold Audio Source) ]            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration) ]             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |



| [回線<br>(Line) ] (続<br>き) | 設定専用属<br>性 :                                                                                                                                                          |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|
|                          | • [オー<br>ディオ<br>メッ<br>セージ<br>受信イ<br>ンジ<br>ケータ<br>のポリ<br>シー<br>( <b>Audible</b><br>Message<br>Waiting<br>Indicator<br>Policy) ]                                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | • [コール<br>ピック<br>アップ<br>グルー<br>プオー<br>ディオ<br>アラ<br>ートの設<br>定(電話<br>がアク<br>ティブ<br>のとき)<br>(Call<br>Pickup<br>Group<br>Audio<br>Alert<br>Setting<br>(Phone<br>Active) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          |                                                                                                                                                                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|  |                                                                                                                                                                                                                                          |   |   |   |   |   |   |   |
|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [コール<br/>ピック<br/>アップ<br/>グルー<br/>プオー<br/>ディオ<br/>アラ<br/>ートの設<br/>定(電話<br/>がアイ<br/>ドルの<br/>とき)<br/>(Call<br/>Pickup<br/>Group<br/>Audio<br/>Alert<br/>Setting<br/>(Phone<br/>Idle)) ]</li> </ul> |   |   |   |   |   |   |   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [コーリ<br/>ング<br/>サーチ<br/>スパー<br/>スのア<br/>クティ<br/>ベー<br/>ション<br/>ポリ<br/>シー<br/>(Calling<br/>Search<br/>Space<br/>Activation<br/>Policy) ]</li> </ul>                                              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [説明<br/>(Data) ]</li> </ul>                                                                                                                                                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|  |                                                                                                                                                                                                                                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|  |                                                                                                                         |   |   |   |   |   |   |   |
|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [モニタリング用コーリングサーチスペース<br/>(<b>Monitoring Calling Search Space</b>) ]</li> </ul> |   |   |   |   |   |   |   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [プレゼンスグループ<br/>(<b>Presence Group</b>) ]</li> </ul>                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [録音オプション<br/>(<b>Recording Option</b>) ]</li> </ul>                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [録音プロファイル<br/>(<b>Recording Profile</b>) ]</li> </ul>                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|  |                                                                                                                         | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                                                                |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• [不在転送のセカンダリコーリングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All) ]</li> </ul> |   |   |   |   |   |   |   |
| [ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source) ]                                                                                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [緊急優先 (Urgent Priority) ]                                                                                                      | N | N | N | N | N | N | Y |
| [ボイスメールプロファイル (VoiceMail Profile) ]                                                                                            | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                  |                                                                  |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [すべてのデバイスの回線設定 (Line Settings for All Devices) ] | [保留復帰の呼び出し時間(秒) (Hold Reversion Ring Duration (seconds)) ]       | N | N | N | N | N | N | Y |
|                                                  | [保留復帰の通知間隔(秒) (Hold Reversion Notification Interval (seconds)) ] | N | N | N | N | N | N | Y |
|                                                  | [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone) ]                               | N | N | N | N | N | N | Y |

|                                             |                                                                                                                                             |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [Line (Index)<br>on Device<br>(DeviceName)] | [コールピッ<br>クアップグ<br>ループオー<br>ディオア<br>ラートの設<br>定(電話がア<br>イドルのと<br>き) (Call<br>Pickup Group<br>Audio Alert<br>Setting<br>(Phone<br>Idle)) ]    | N | N | N | N | N | N | Y |
|                                             | [コールピッ<br>クアップグ<br>ループオー<br>ディオア<br>ラートの設<br>定(電話がア<br>クティブの<br>とき) (Call<br>Pickup Group<br>Audio Alert<br>Setting<br>(Phone<br>Active)) ] | N | N | N | N | N | N | Y |
|                                             | [モニタリン<br>グ用コーリ<br>ングサーチ<br>スペース<br>(Monitoring<br>Calling<br>Search<br>Space) ]                                                            | N | N | N | N | N | N | Y |

|    |                                                                           |   |   |   |   |   |   |   |
|----|---------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 電話 | [AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space) ]                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|    | [G.722 および iSAC コーデックのアドバタイズ (Advertise G.722 and iSAC Codecs) ]          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|    | [Android Market からのアプリケーションを許可 (Allow Applications from Android Market) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|    | [不明な提供元からのアプリケーションを許可 (Allow Applications from Unknown Sources) ]         | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|    | [Cisco AppHQ からのアプリケーションを許可 (Allow Applications from Cisco AppHQ) ]       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                 |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [Cisco Marketplace からのアプリケーションを許可 (Allow Applications from Cisco Marketplace) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides) ]                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ユーザ定義 VPN プロファイルの許可 (Allow User-Defined VPN Profiles) ]                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [Android Debug Bridge (ADB) ]                                                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [アプリケーションダイヤルルール URL (Application Dial Rules URL) ]                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [AppHQ ドメイン (AppHQ Domain) ]                                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [認証サーバ URL (Authentication Server URL) ]                                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |



|                                             |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [自動回線選択 (Auto Line Select) ]                |   |   |   |   |   |   |   |
| [自動割り込み (Auto Barge) ]                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [自動ポート同期 (Automatic Port Synchronization) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [Bluetooth]                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ビルトインブリッジ (Built In Bridge) ]              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ビジーランプフィールド情報 (Busy Lampfield Info) ]      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [コールシーケンス (Call Sequence) ]                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [着信者接続極性 (Callee Connect Polarity) ]        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [着信者切断極性 (Callee Disconnect Polarity) ]     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [発信者接続極性 (Caller Connect Polarity) ]        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                          |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [ 発信者切断<br>極性 (Caller<br>Disconnect<br>Polarity) ]       |   |   |   |   |   |   |   |
| [ 発信者 ID<br>(Caller<br>ID) ]                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ コーリング<br>サーチス<br>ペース<br>(Calling<br>Search<br>Space) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                          |                                                                                            |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [電話<br>(Phone) ]<br>(続き) | [発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS) ]                                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [Cisco カメラ (Cisco Camera) ]                                                                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | Cisco Discovery Protocol (CDP)                                                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [Cisco Discovery Protocol (CDP) : PC ポート (Cisco Discovery Protocol (CDP) : PC Port) ]      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [Cisco Discovery Protocol (CDP) : スイッチポート (Cisco Discovery Protocol (CDP) : Switch Port) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [Cisco Usage and Error Tracking]                                                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          |                                                                                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                  |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [CME 電話<br>設定テンプレ<br>レート<br>(CME<br>Phone<br>Configuration<br>Template) ]        |   |   |   |   |   |   |   |
| [共通デバイ<br>ス設定<br>(Common<br>Device<br>Configuration) ]                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [共通の電話<br>プロファイ<br>ル<br>(Common<br>Phone<br>Profile) ]                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [企業写真<br>ディレクト<br>リ<br>(Company<br>Photo<br>Directory) ]                         | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ディスプレ<br>イ非点灯日<br>(Days<br>Display Not<br>Active) ]                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [Unified CM<br>の接続障害<br>の検出<br>(Detect<br>Unified CM<br>Connection<br>Failure) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [デバイスの<br>説明<br>(Device<br>Description) ]                                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|  |                                    |  |  |  |  |  |  |  |
|--|------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|
|  | [デバイス<br>プール<br>(Device<br>Pool) ] |  |  |  |  |  |  |  |
|--|------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|

|                          |                                                                     |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [電話<br>(Phone) ]<br>(続き) | [デバイスセキュリティ<br>モード<br>(Device Security Mode) ]                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [ダイジェストユーザ<br>(Digest User) ]                                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [ディレクトリ URL<br>(Directory URL) ]                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [ディレクトリ検索ルール URL<br>(Directory Lookup Rules URL) ]                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [スピーカ<br>フォンの無効化<br>(Disable SpeakerPhone) ]                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [スピーカ<br>フォンと<br>ヘッドセットの無効化<br>(Disable Speakerphone And Headset) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [ディスプレイ<br>放置時自動消灯<br>(Display Idle Timeout) ]                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          |                                                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                 |   |   |   |   |   |   |   |
|-------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [ディスプレイ点灯継続時間<br>(Display On Duration) ]        |   |   |   |   |   |   |   |
| [ディスプレイ点灯時刻<br>(Display On Time) ]              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [着信コール時に点灯<br>(Display On When Incoming Call) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [DND オプション<br>(DND Option) ]                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [USB を無効にする<br>(Disable USB) ]                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [応答不可<br>(Do Not Disturb) ]                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ドメイン名<br>(Domain Name) ]                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [緊急電話番号<br>(Emergency Numbers) ]                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [オーディオアラートを有効にする<br>(Enable Audible Alert) ]    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                          |                                                                                                                 |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [電話<br>(Phone) ]<br>(続き) | [LDAP ユー<br>ザ認証を有<br>効にする<br>(Enable<br>LDAP User<br>Authentication) ]                                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [Cisco UCM<br>アプリケー<br>ションクラ<br>イアントを<br>有効にする<br>(Enable<br>Cisco UCM<br>App<br>Client) ]                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [Cisco<br>Unified<br>Mobile<br>Communicator<br>を有効にす<br>る (Enable<br>Cisco Unified<br>Mobile<br>Communicator) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [LDAP SSL<br>を有効にす<br>る (Enable<br>LDAP<br>SSL) ]                                                               | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [LDAP ユー<br>ザ認証を有<br>効にする<br>(Enable<br>LDAP User<br>Authentication) ]                                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [Power Save<br>Plus を有効<br>にする<br>(Enable<br>Power Save<br>Plus) ]                                              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          |                                                                                                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |



|                                                                             |   |   |   |   |   |   |   |
|-----------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [Telnet を有効にする<br>(Enable Telnet) ]                                         |   |   |   |   |   |   |   |
| [EnergyWise エンドポイントのセキュリティシークレット<br>(EnergyWise Endpoint Security Secret) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [EnergyWise ドメイン<br>(EnergyWise Domain) ]                                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ファクスエラー修正モードのオーバーライド (Fax Error Correction Mode Override) ]                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ファクスモード (Fax Mode) ]                                                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [表示インジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators) ]                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [インピーダンス<br>(Impedance) ]                                                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                    |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [入力オーディオレベル (Input Audio Level) ]                  |   |   |   |   |   |   |   |
| [IVR パスワード (IVR Password) ]                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [参加および直接転送ポリシー (Join And Direct Transfer Policy) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [LDAP フィールドマッピング (LDAP Field Mappings) ]           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [LDAP の写真のロケーション (LDAP Photo Location) ]           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [LDAP サーバ (LDAP Server) ]                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [LDAP 検索ベース (LDAP Search Base) ]                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                                                                                                                                          |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [Link Layer<br>Discovery<br>Protocol<br>(LLDP) - PC<br>ポート<br>(Link Layer<br>Discovery<br>Protocol<br>(LLDP)- PC<br>Port) ]                                                                              |   |   |   |   |   |   |   |
| [Link Layer<br>Discovery<br>Protocol -<br>Media<br>Endpoint<br>Discover<br>(LLDP-MED):<br>PC ポート<br>(Link Layer<br>Discovery<br>Protocol -<br>Media<br>Endpoint<br>Discover<br>(LLDP-MED):<br>PC Port) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                          |                                                                                                                                                                                                                      |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [電話<br>(Phone) ]<br>(続き) | [Link Layer<br>Discovery<br>Protocol -<br>Media<br>Endpoint<br>Discover<br>(LLDPMED) :<br>スイッチ<br>ポート<br>(Link Layer<br>Discovery<br>Protocol -<br>Media<br>Endpoint<br>Discover<br>(LLDPMED) :<br>Switch<br>Port) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [LLDP 電源<br>優先度<br>(LLDP<br>Power<br>Priority) ]                                                                                                                                                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [デバイスの<br>ロック<br>(Lock<br>Device) ]                                                                                                                                                                                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [ログ表示<br>(Logging<br>Display) ]                                                                                                                                                                                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [最大ファク<br>ス速度<br>(Maximum<br>Fax Rate) ]                                                                                                                                                                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [モビリティ<br>ユーザ ID<br>(Mobility<br>User ID) ]                                                                                                                                                                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [モジュール<br>1 (Module<br>1) ]                                                                                                                                                                                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          |                                                                                                                                                                                                                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                      |   |   |   |   |   |   |   |
|------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [モジュール<br>2 (Module<br>2) ]                          |   |   |   |   |   |   |   |
| [モジュール<br>3 (Module<br>3) ]                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [転送の遅延<br>(Forwarding<br>Delay) ]                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [一般的な<br>IOS コマン<br>ド (Generic<br>IOS<br>Commands) ] | N | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [Gratuitous<br>ARP]                                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [フックフ<br>ラッシュタ<br>イマー<br>(Hookflash<br>Timer) ]      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [アイドル<br>URL (Idle<br>URL) ]                         | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [アイドルタ<br>イマー (Idle<br>Timer) ]                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [情報<br>(Information) ]                               | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [LLDP ア<br>セット ID<br>(LLDP<br>Asset ID) ]            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ロードサー<br>バ (Load<br>Server) ]                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| Location                                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                          |                                                                     |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [電話<br>(Phone) ]<br>(続き) | [ログサーバ<br>(Log<br>Server) ]                                         | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [メディアリ<br>ソースグ<br>ループリス<br>ト (Media<br>Resource<br>Group<br>List) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | Messages                                                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [MLPP ドメ<br>イン (MLPP<br>Domain) ]                                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [MLPP 通知<br>(MLPP<br>Indication) ]                                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [モジュール<br>1 ロード名<br>(Module 1<br>Load<br>Name) ]                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [モジュール<br>2 ロード名<br>(Module 1<br>Load<br>Name) ]                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [モジュール<br>3 ロード名<br>(Module 3<br>Load<br>Name) ]                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [ソフトキー<br>表示タイ<br>マー (more<br>Soft Key<br>Timer) ]                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [MLPP プリ<br>エンプショ<br>ン (MLPP<br>Preemption) ]                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                         |   |   |   |   |   |   |   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [ネットワーク<br>保留音源<br>(Network<br>Hold Audio<br>Source) ]                                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ネットワーク<br>ロケール<br>(Network<br>Locale) ]                                                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [オフフック<br>検証タイ<br>マー(50 ~<br>1000 ミリ秒)<br>(Offhook<br>Validation<br>Timer(50-1000ms) )] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [Onhook<br>Delay<br>Timer(0-155s)]                                                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                          |                                                                                        |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [電話<br>(Phone) ]<br>(続き) | [オンフック<br>検証タイ<br>マー(50 ~<br>1000 ミリ秒)<br>(Onhook<br>Validation<br>Time(50-1000ms) ) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [出力オー<br>ディオレベ<br>ル (Output<br>Audio<br>Level) ]                                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [オーナーの<br>ユーザ ID<br>(Owner<br>User ID) ]                                               | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [PC ポート<br>(PC Port) ]                                                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [PC ポート<br>のリモート<br>設定 (PC<br>Port Remote<br>Configuration) ]                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [PC の音声<br>VLAN への<br>アクセス<br>(PC Voice<br>VLAN<br>Access) ]                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [ピアファーム<br>ウェア共<br>有 (Peer<br>Firmware<br>Sharing) ]                                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [電話ロード<br>名 (Phone<br>Load<br>Name) ]                                                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          |                                                                                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |



|                                                                                            |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [電話オフの<br>アイドルタ<br>イムアウト<br>(Phone Off<br>Idle<br>Timeout) ]                               |   |   |   |   |   |   |   |
| [電話をオフ<br>にする時刻<br>(Phone Off<br>Time) ]                                                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [電話をオン<br>にする時刻<br>(Phone On<br>Time) ]                                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [IP<br>Communicator<br>のポート範<br>囲 (Port<br>Ranges for IP<br>Communicator) ]                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [電力ネゴシ<br>エーション<br>(Power<br>Negotiation) ]                                                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [プレゼンス<br>および<br>チャット<br>サーバ(プラ<br>イマリ)<br>(Presence<br>and Chat<br>Server<br>(Primary)) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [プレゼンス<br>および<br>チャット<br>サーバタイ<br>プ (Presence<br>and Chat<br>Server<br>Type) ]             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                                                     |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [プレゼンス<br>とチャット<br>のシングル<br>サインオン<br>(SSO)ドメイ<br>ン (Presence<br>and Chat<br>Single<br>Sign-On<br>(SSO)<br>Domain) ] |   |   |   |   |   |   |   |
| [プレゼンス<br>ステータス<br>(Presence<br>Status) ]                                                                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [プリセット<br>Wi-Fi ネット<br>ワーク<br>(Preset<br>Wi-fi<br>Networks) ]                                                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [プライバ<br>シー<br>(Privacy) ]                                                                                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [プロキシ<br>サーバ URL<br>(Proxy<br>Server<br>URL) ]                                                                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [品質改善<br>サーバ<br>(Quality<br>Improvement<br>Server) ]                                                                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [録音トーン<br>(Recording<br>Tone) ]                                                                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [録音トーン<br>の長さ<br>(Recording<br>Tone<br>Duration) ]                                                                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|  |                                                      |   |   |   |   |   |   |   |
|--|------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
|  | [録音トーンのローカル音量<br>(Recording Tone Local Volume) ]     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|  | [録音トーンのリモート音量<br>(Recording Tone Remote Volume) ]    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|  | [ビデオコールをオーディオとして再試行<br>(Retry Video Call as Audio) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|  | [スクリーンロック必須<br>(Require Screen Lock) ]               | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|  | [再ルーティング CSS<br>(Rerouting CSS) ]                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|  | [RTCP]                                               | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|  | [セキュリティプロファイル<br>(Security Profile) ]                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                          |                                                                                             |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [電話<br>(Phone) ]<br>(続き) | [サービス<br>(Service) ]                                                                        | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [設定へのア<br>クセス<br>(Settings<br>Access) ]                                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [SDIO]                                                                                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [スクリーン<br>ロックタイ<br>ムアウト<br>(Screen<br>Lock<br>Timeout) ]                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [ソフトキー<br>テンプレー<br>ト (Softkey<br>Template) ]                                                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [PC ポート<br>へのスパン<br>(Span to PC<br>Port) ]                                                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | [スピードダ<br>イヤル情報<br>(Speed Dial<br>Info) ]                                                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | 設定専用属<br>性                                                                                  |   |   |   |   |   |   | Y |
|                          | • [CTI か<br>らのデ<br>バイス<br>の制御<br>を許可<br>(Allow<br>Control<br>of<br>Device<br>from<br>CTI) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          |                                                                                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                          |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| • [BLF<br>ダイレ<br>クト<br>コール<br>パーク<br>(BLF<br>Directed<br>Call<br>Park) ] |   |   |   |   |   |   |   |
| • [デバイ<br>スモビ<br>リティ<br>モード<br>(Device<br>Mobility<br>Mode) ]            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| • [DND<br>着信呼<br>警告<br>(DND<br>Incoming<br>Call<br>Alert) ]              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| • [ハント<br>グルー<br>プにロ<br>グイン<br>(Logged<br>Into<br>Hunt<br>Group) ]       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|  |                                                                                                                                                              |   |   |   |   |   |   |   |
|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [メディア<br/>アター<br/>ミネー<br/>ション<br/>ポイン<br/>トが必<br/>須<br/>(Media<br/>Termination<br/>Point<br/>Required) ]</li> </ul> |   |   |   |   |   |   |   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [MTP<br/>優先発<br/>信コー<br/>デック<br/>(MTP<br/>Preferred<br/>Originating<br/>Codec) ]</li> </ul>                         | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [プレゼ<br/>ンスグ<br/>ループ<br/>(Presence<br/>Group) ]</li> </ul>                                                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                          |                                                                                     |   |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [電話<br>(Phone) ]<br>(続き) | • [プライマリ電話<br>(Primary Phone) ]                                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | • [サービス<br>(Service) ]                                                              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | • [SIP プロファイル<br>(SIP Profile) ]                                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | • [SUBSCRIBE<br>コーリング<br>サーチ<br>スペース<br>(Subscribe<br>Calling<br>Search<br>Space) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | • [SURL]                                                                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          | • [信頼されたリレーポイント<br>を使用<br>(Use Trusted Relay Point) ]                               | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                          |                                                                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                       |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules) ]                                                       |   |   |   |   |   |   |   |
| [スイッチポートのリモート設定 (Switch Port Remote Configuration) ]                                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [モバイルネットワークに転送 (Transfer to Mobile Network) ]                                         | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [Telnet のパスワード (Telnet Password) ]                                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [Telnet ユーザ名 (Telnet Username) ]                                                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source) ]                                                   | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |



|                                                                                                    |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [ユーザロ<br>ケール<br>(User<br>Locale) ]                                                                 |   |   |   |   |   |   |   |
| [ビデオ機能<br>(Video<br>Capabilities) ]                                                                | Y | Y | Y |   | Y | Y | Y |
| [ボイスメー<br>ルサーバ<br>(バックアッ<br>プ)<br>(Voicemail<br>Server<br>(Backup)) ]                              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ボイスメー<br>ルサーバ(プ<br>ライマリ)<br>(Voicemail<br>Server<br>(Primary)) ]                                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [Web アクセ<br>ス (Web<br>Access) ]                                                                    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [WiFi]                                                                                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [デバイスの<br>ワイプ<br>(Wipe<br>Device) ]                                                                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ワイヤレス<br>LAN のビデ<br>オコール帯<br>域幅(kbps)<br>(Wireless<br>LAN Video<br>Call<br>Bandwidth<br>(kbps)) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                               |                                                           |   |   |   |   |   |   |   |
|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] | [発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                               | [デバイスの説明 (Device Description) ]                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                               | [DND オプション (DND Option) ]                                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                               | [応答不可 (Do Not Disturb) ]                                  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                               | [表示インジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators) ]           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                               | [ネットワーク保留音源 (Network Hold Audio Source) ]                 | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                               | [プライバシー (Privacy) ]                                       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                               | [再ルーティング CSS (Rerouting CSS) ]                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                               |                                                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                                                                         |   |   |   |   |   |   |   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [デバイス<br>プールの発<br>呼側トラン<br>スフォー<br>メーション<br>CSS を使用<br>(Use Device<br>Pool Calling<br>Party<br>Transformation<br>CSS) ] |   |   |   |   |   |   |   |
| [ユーザ保留<br>音源 (User<br>Hold Audio<br>Source) ]                                                                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ユーザロ<br>ケール<br>(User<br>Locale) ]                                                                                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                       |                                                                            |   |   |   |   |   |   |   |
|-----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [リモート接続<br>先プロファイ<br>ル回線<br>(Remote<br>Destination<br>Profile Line) ] | [AAR 接続<br>先マスク<br>(AAR<br>Destination<br>Mask) ]                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                       | [AAR グ<br>ループ<br>(AAR<br>Group) ]                                          | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                       | [AAR キー<br>ブコール履<br>歴 (AAR<br>Keep Call<br>History) ]                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                       | [ASCII 呼び<br>出し表示<br>(ASCII<br>Alerting<br>Name) ]                         | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                       | [呼び出し表<br>示 (Alerting<br>Name) ]                                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                       | [ASCII 表示<br>(内部発信者<br>ID) (ASCII<br>Display<br>(Internal<br>Caller ID)) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                       | [ビジートリ<br>ガー (Busy<br>Trigger) ]                                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                       | [コールピッ<br>クアップグ<br>ループ (Call<br>Pickup<br>Group) ]                         | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                       | [表示(内部発<br>信者 ID)<br>(Display<br>(Internal<br>Caller ID)) ]                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                              |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [外線電話番号マスク<br>(External Phone Number Mask) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [不在転送<br>(Forward All) ]                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                               |                                                                                      |   |   |   |   |   |   |   |
|-------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [リモート接続<br>先プロファイ<br>ル回線<br>(Remote<br>Destination<br>Profile Line) ]<br>(続き) | [話中転送(外<br>部)<br>(Forward<br>Busy<br>External) ]                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                               | [話中転送(内<br>部)<br>(Forward<br>Busy<br>Internal) ]                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                               | [転送呼情報<br>- 発信者名<br>(Forwarded<br>Call<br>Information -<br>Caller<br>Name) ]         | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                               | [転送呼情報<br>- 発信者番号<br>(Forwarded<br>Call<br>Information -<br>Caller<br>Number) ]      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                               | [転送呼情報<br>- ダイヤル番<br>号<br>(Forwarded<br>Call<br>Information -<br>Dialed<br>Number) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                               | [転送呼情報<br>- 転送先番号<br>(Forwarded<br>Call<br>Information -<br>Redirected<br>Number) ]  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                               |                                                                                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                     |   |   |   |   |   |   |   |
|-----------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [無応答時転送(外部)<br>(Forward No Answer External) ]       |   |   |   |   |   |   |   |
| [無応答時転送(内部)<br>(Forward No Answer Internal) ]       | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [カバレッジなし時転送(外部)<br>(Forward No Coverage External) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [カバレッジなし時転送(内部)<br>(Forward No Coverage Internal) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [未登録外線の不在転送<br>(Forward Unregistered External) ]    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [未登録内線の不在転送<br>(Forward Unregistered Internal) ]    | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [回線グループ (Line Groups) ]                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [コール最大数<br>(Maximum Number of Calls) ]              | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                     | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|                                                                      |   |   |   |   |   |   |   |
|----------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [MLPP コー<br>リングサー<br>チスペース<br>(MLPP<br>Calling<br>Search<br>Space) ] |   |   |   |   |   |   |   |
| [MLPP 無応<br>答時の呼び<br>出し時間<br>(MLPP No<br>Answer Ring<br>Duration) ]  | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [MLPP ター<br>ゲット<br>(MLPP<br>Target) ]                                | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| [ネットワー<br>ク保留音源<br>(Network<br>Hold Audio<br>Source) ]               | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |



|                                                                               |                                                                                                                             |   |   |   |   |   |   |   |
|-------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| [リモート接続<br>先プロファイ<br>ル回線<br>(Remote<br>Destination<br>Profile Line) ]<br>(続き) | [無応答時の<br>呼び出し時<br>間 (No<br>Answer Ring<br>Duration) ]                                                                      | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                               | 設定専用属<br>性 :                                                                                                                |   |   |   |   |   |   |   |
|                                                                               | • [コーリ<br>ング<br>サーチ<br>スパー<br>スのア<br>クティ<br>ベー<br>ション<br>ポリ<br>シー<br>(Calling<br>Search<br>Space<br>Activation<br>Policy) ] | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                               | • [説明<br>(Data) ]                                                                                                           | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                               | • [プレゼ<br>ンスグ<br>ループ<br>(Presence<br>Group) ]                                                                               | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|                                                                               |                                                                                                                             | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |

|         |                                                                                                                                |   |   |   |   |   |   |   |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>• [不在転送のセカンダリコーリングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All) ]</li> </ul> |   |   |   |   |   |   |   |
|         | [ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source) ]                                                                                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
|         | [ボイスメールプロファイル (VoiceMail Profile) ]                                                                                            | Y | Y | Y | Y | Y | Y | Y |
| ユーザサービス | [Unified CM IM and Presence のユーザを有効にする (Enable User for Unified CM IM and Presence) ]                                          | N | N | N | Y | Y | Y | Y |
|         | [ホームクラスタ (Home Cluster) ]                                                                                                      | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |
|         | [UC サービスプロファイル (UC Service Profile) ]                                                                                          | N | N | Y | Y | Y | Y | Y |

## ユニファイドメッセージプロセッサのサポートされるプロビジョニング属性

表 58: ユニファイドメッセージプロセッサのサポートされるプロビジョニング属性

| 製品グループ                | プロビジョニング属性                                                  | Cisco Unity Express | Cisco Unity | Cisco Unity Connection |
|-----------------------|-------------------------------------------------------------|---------------------|-------------|------------------------|
| [ボイスメール (Voicemail) ] | [代替ボイスメール内線番号 (Alternate Voicemail Extensions) ]            | N                   | Y           | Y                      |
|                       | [CUEユーザ設定テンプレート (CUE User Configuration Template) ]         | Y                   | N           | N                      |
|                       | [CUEボイスメール設定テンプレート (CUE Voicemail Configuration Template) ] | Y                   | N           | N                      |
|                       | [再同期MWIを有効にする (Enable ResyncMWI) ]                          | N                   | Y           | N                      |
|                       | [レガシーメールボックス (Legacy Mailbox) ]                             | N                   | Y           | N                      |
|                       | [スイッチID (Switch ID) ]                                       | N                   | Y           | N                      |
|                       | [リモートノードID (Remote Node ID) ]                               | N                   | Y           | N                      |

| 製品グループ                              | プロビジョニング属性                                                     | Cisco Unity Express | Cisco Unity | Cisco Unity Connection |
|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------|---------------------|-------------|------------------------|
| [ユニファイドメッセージング (Unified Messaging)] | [UM無効時のサービスクラステンプレート (UM Disabling Class Of Service Template)] | N                   | Y           | Y                      |
|                                     | [UM有効時のサービスクラステンプレート (UM Enabling Class Of Service Template)]  | N                   | Y           | Y                      |
|                                     | [UM無効時の加入者テンプレート (UM Disabling Subscriber Template)]           | N                   | Y           | Y                      |
|                                     | [UM有効時の加入者テンプレート (UM Enabling Subscriber Template)]            | N                   | Y           | Y                      |

Unity Connection 10.x 以降でサポートされるボイスメール属性の詳細については、ボイスメールサービスのオーダー、(281 ページ) を参照してください。 [ボイスメールサービスのオーダー、\(275 ページ\)](#)。

# プレゼンスサーバのサポートされるプロビジョニング属性

表 59: プレゼンス サーバのサポートされるプロビジョニング属性

| 製品                                    | プロビジョニング属性                               | Cisco Unified Communications Manager |       |       |
|---------------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------------|-------|-------|
|                                       |                                          | 8.0.x                                | 8.5.x | 8.6.x |
| [クライアントユーザ設定 (Client User Settings) ] | [オーディオプロファイル (Audio Profile) ]           | Y                                    | Y     | Y     |
|                                       | [CIPプロファイル (CIP Profile) ]               | Y                                    | Y     | Y     |
|                                       | [CGIゲートウェイプロファイル (CTI Gateway Profile) ] | Y                                    | Y     | Y     |
|                                       | [会議プロファイル (Conferencing Profile) ]       | Y                                    | Y     | Y     |
|                                       | [LDAPプロファイル (LDAP Profile) ]             | Y                                    | Y     | Y     |
|                                       | [ボイスメールプロファイル (VoiceMail Profile) ]      | Y                                    | Y     | Y     |





付 録

# B

## インフラストラクチャ設定製品のフィールド

- ・ [インフラストラクチャ データ オブジェクトのフィールド, 457 ページ](#)

## インフラストラクチャデータオブジェクトのフィールド

設定テンプレートを作成するには、インフラストラクチャ設定製品を設定テンプレートに追加する必要があります。

インフラストラクチャ設定テンプレートのすべてのフィールドが、すべてのバージョンの Cisco Unified Communications Manager に適用できるわけではありません。



(注)

手動でテキストを入力するインフラストラクチャ設定製品フィールドのすべてにおいて、大文字と小文字が区別されます。

## CTI ルート ポイント設定製品フィールド

表 60 : CTI ルート ポイント設定製品フィールド

| フィールド               | 説明                 |
|---------------------|--------------------|
| [名前 (Name) ]        | インフラストラクチャ設定製品の名前。 |
| [説明 (Description) ] | 説明 (オプション) 。       |

| フィールド                                                      | 説明                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [デバイスプール (Device Pool) ]                                   | 使用可能なデバイスプールのリスト。デバイスプールは、このデバイスのプロパティのコレクション (Unified CM グループ、日時グループ、リージョン、デバイスの自動登録用コーリング サーチスペースなど) を指定します。                                                                                                              |
| [共通デバイス設定 (Common Device Config) ]                         | 共通のデバイス設定 (ソフトキー テンプレートやユーザ ロケール など) 。                                                                                                                                                                                      |
| [コールサーチスペース (Call Search Space) ]                          | 収集された (発信側) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるルート パーティションのコレクションを指定します。                                                                                                                                                               |
| [ロケーション (Location) ]                                       | このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。設定値の[なし (None) ]は、このルート ポイントで使用される帯域幅がロケーション機能によって追跡されないことを意味します。                                                                                                                         |
| [電話番号 (Directory Numbers) ]                                | 電話番号を入力します。これらの電話番号は、Cisco Unified Communications Manager に存在していない必要があります。                                                                                                                                                  |
| [電話番号のルートパーティション (Route Partition for Directory Numbers) ] | 使用可能なルート パーティション。                                                                                                                                                                                                           |
| [メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List) ]            | <p>メディア リソース グループの優先順位付けされたリストを提供します。アプリケーションは、[メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List) ]で定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから必要なメディア リソース (保留音サーバなど) を選択します。</p> <p>このフィールドが空白の場合は、デバイス プールで定義されたメディア リソース グループが使用されます。</p> |
| [ユーザロケール (User Locale) ]                                   | ユーザに関連付けられたユーザの場所。ユーザ ロケールは、言語、フォント、日時の表示形式、英数字のキーボード テキスト情報など、ユーザをサポートするための一連の詳細情報を識別します。                                                                                                                                  |
| [ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source) ]               | ユーザが保留操作を開始したときに再生される保留音の音源。                                                                                                                                                                                                |
| [ネットワーク保留音源 (Network Hold Audio Source) ]                  | ネットワークが保留操作を開始したときに再生される音源。                                                                                                                                                                                                 |



## コールパーク インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 61: コールパーク インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                              | 説明                                                                                                  |
|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [番号/範囲<br>(Number/Range) ]         | コールパーク内線番号または番号の範囲を入力します。<br>(注) [コールパーク (Call Park) ] テンプレートを使用して、異なるパーティション内の同じ範囲の番号を追加することができます。 |
| [説明 (Description) ]                | 説明 (オプション) 。                                                                                        |
| [ルートパーティション<br>(Route Partition) ] | 使用可能なルート パーティションのリスト。                                                                               |
| [Unified CM]                       | 使用可能な Cisco Unified Communications Manager のリスト。                                                    |

## コールピックアップグループインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 62: コールピックアップグループインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                | 説明                                                                                                                                                                                                                   |
|--------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                         | インフラストラクチャ設定製品の名前。                                                                                                                                                                                                   |
| [番号 (Number) ]                       | 一意の電話番号 (整数) 。                                                                                                                                                                                                       |
| [説明 (Description) ]                  | 説明 (オプション) 。                                                                                                                                                                                                         |
| [ルートパーティション<br>(Route Partition) ]   | 使用可能なルート パーティションのリスト。                                                                                                                                                                                                |
| [発呼側情報 (Calling Party Information) ] | コールピックアップグループへの視覚的な通知メッセージに発信者の識別情報を含めます。この設定が適用されるのは、[コールピックアップグループ通知ポリシー (Call Pickup Group Notification Policy) ] が [ビジュアルアラート (Visual Alert) ] または [オーディオおよびビジュアルアラート (Audio and Visual Alert) ] に設定されている場合だけです。 |

| フィールド                                                                      | 説明                                                                                                                                                                                                                 |
|----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [使用可能なメンバのコールピックアップグループ (Available Member Call Pickup Groups) ]            | 使用可能なコール ピックアップ グループのリスト。 コール ピックアップグループは、電話番号とパーティションではなく、グループの名前順にリストされます。                                                                                                                                       |
| [コールピックアップグループ通知ポリシー (Call Pickup Group Notification Policy) ]             | コール ピックアップ グループの通知ポリシーを設定します。                                                                                                                                                                                      |
| [コールピックアップグループ通知タイマー(秒) (Call Pickup Group Notification Timer (seconds)) ] | コールがダイヤル先の端末に最初に着信してから、コール ピックアップ グループ内の他の端末に通知が送信されるまでの遅延時間を設定します。                                                                                                                                                |
| [電話番号情報 (Directory Number Info) ]                                          | ルートパーティションを示した電話番号のリスト。 ユーザに関連付けられているか、リンクされている電話番号だけをコール ピックアップ グループに追加できます。<br><br>(注) 一度に追加または削除 (あるいは、追加と削除の組み合わせ) ができる電話番号は、200 個までです。                                                                        |
| [着信側情報 (Called Party Information) ]                                        | コール ピックアップ グループへの視覚的な通知メッセージに着信側の識別情報を含めます。 この設定が適用されるのは、[コールピックアップグループ通知ポリシー (Call Pickup Group Notification Policy) ]が[ビジュアルアラート (Visual Alert) ]または[オーディオおよびビジュアルアラート (Audio and Visual Alert) ]に設定されている場合だけです。 |

## コール サーチ スペース インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 63: コール サーチ スペース インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド               | 説明                 |
|---------------------|--------------------|
| [名前 (Name) ]        | インフラストラクチャ設定製品の名前。 |
| [説明 (Description) ] | 説明 (オプション) 。       |

| フィールド                                           | 説明                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [使用可能なルートパーティション (Available Route Partitions) ] | <p>使用可能なルートパーティションのリスト。ルートパーティションのリストは厳密には必要ありませんが、少なくとも 1 つの値を指定しておく必要があります。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager にすでに存在しているルートパーティションを参照するか、このコーリングサーチスペースよりも前に同じ設定テンプレートでルートパーティションを定義している必要があります。</p> |

## 共通デバイス設定製品のフィールド

表 64 : 共通デバイス設定製品のフィールド

| フィールド                                        | 説明                                                                                        |
|----------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                                 | インフラストラクチャ設定製品の名前。                                                                        |
| [ソフトキー テンプレート (Softkey Template) ]           | Cisco IP Phone のソフトキーの設定を指定するソフトキー テンプレート。                                                |
| [ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source) ] | ユーザが保留操作を開始したときに再生される保留音の音源。                                                              |
| [ネットワーク保留音源 (Network Hold Audio Source) ]    | ネットワークが保留操作を開始したときに再生される音源。                                                               |
| [ユーザロケール (User Locale) ]                     | ユーザに関連付けられたユーザの場所。ユーザ ロケールは、言語、フォント、日時の表示形式、英数字のキーボードテキスト情報など、ユーザをサポートするための一連の詳細情報を識別します。 |
| [MLPP 通知 (MLPP Indication) ]                 | デバイスプール内の優先トーン再生機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを発信するときにその機能を使用するかどうかを指定します。                         |
| [MLPPプリエンプション (MLPP Preemption) ]            | デバイス プール内の、進行中のコールのプリエンプション機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを発信するときにその機能を使用するかどうかを指定します。              |

| フィールド                      | 説明                                                               |
|----------------------------|------------------------------------------------------------------|
| [MLPP ドメイン (MLPP Domain) ] | このデバイスに関連付けられた Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) ドメイン。 |

## Unity 同報リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 65: Unity 同報リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                                                            | 説明                                                                                    |
|----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| [エイリアス (Alias) ]                                                                 | 同報リストのエイリアス名。                                                                         |
| [表示名 (Display Name) ]                                                            | 同報リストの名前。                                                                             |
| [内線 (Extension) ]                                                                | 電話システムが接続に使用する内線番号。                                                                   |
| [オーナー (Owner) ]                                                                  | ユーザまたは同報リスト用のコール ハンドラの所有者。                                                            |
| [オーナータイプ (Owner Type) ]                                                          | 所有者のタイプ。                                                                              |
| [電子メールサーバのアドレス帳に同報リストを表示 (Show Distribution List in Email Server Address Book) ] | 電子メール サーバのアドレス帳に同報リストを表示します。                                                          |
| [メンバリスト (Member List) ]                                                          | 同報リストに関連付けられたメンバーのリスト。Alias/MemberType の形式を使用します。<br><br>(注) デフォルトのシステム同報リストは削除できません。 |

## 共通電話プロファイル インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 66: 共通電話プロファイル インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                               | 説明 |
|-----------------------------------------------------|----|
| [共通の電話プロファイル情報 (Common Phone Profile Information) ] |    |

| フィールド                                         | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                                  | 共通の電話プロファイルを識別する名前を入力します（たとえば、「CPP_7905」）。この値には、1～50文字（英数字、ドット、ダッシュ、またはアンダースコアを含む）を指定できます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| [説明 (Description) ]                           | 共通の電話プロファイルの目的を指定します（たとえば「common phone profile for the 7905 phone」）。説明には、任意の言語で最大50文字を指定できますが、二重引用符（"）、パーセント記号（%）、アンパサンド（&）、バックスラッシュ（\）、山カッコ（<>）は使用できません。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| [電話ロック解除パスワード (Local Phone Unlock Password) ] | ローカル電話のロック解除に使用するパスワードを入力します。1～15文字を指定できます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [DND オプション (DND Option) ]                     | <p>電話でサイレント (DND) を有効にした場合、このパラメータでは、DND機能が着信コールをどのように処理するのか指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [コール拒否 (Call Reject) ] : このオプションは、着信コール情報をユーザに提示しないようにします。[DND着信呼警告 (DND Incoming Call Alert) ] パラメータの設定に応じて、電話はビープを再生するか、コールの点滅通知を表示します。</li> <li>• [呼出音オフ (Ringer Off) ] : このオプションは、呼び出し音をオフにしますが、着信コール情報はデバイスに表示するので、ユーザはコールを受け付けることができます。</li> </ul> <p>(注) SCCP を実行している 7940/7960 電話の場合、選択できるのは [呼出音オフ (Ringer Off) ] オプションだけです。携帯デバイスとデュアルモード電話の場合、[コール拒否 (Call Reject) ] オプションのみを選択できます。携帯デバイスまたはデュアルモード電話で [DNDコール拒否 (DND Call Reject) ] をアクティブにすると、デバイスにコール情報が表示されません。</p> |

| フィールド                                                                            | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [DND着信呼警告 (DND Incoming Call Alert) ]                                            | <p>DND の [呼出音オフ (Ringer Off) ] オプションまたは [コール拒否 (Call Reject) ] オプションを有効にした場合、このパラメータは電話でコールを表示する方法を指定します。</p> <p>ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [無効 (Disable) ] : このオプションは、コールを通知するビープ音とフラッシュの両方を無効にしますが、DND の [呼出音オフ (Ringer Off) ] オプションの場合、着信コール情報が表示されます。 [DNDコール拒否 (DND Call Reject) ] オプションの場合、コールアラートが表示されず、デバイスに情報が送信されません。</li> <li>• [ビープ音のみ (Beep Only) ] : このオプションは、着信コールがあると、電話のビープ音を再生します。</li> <li>• [フラッシュのみ (Flash Only) ] : このオプションを選択した場合、着信コールがあると、電話のフラッシュアラートだけが表示されます。</li> </ul> |
| [背景イメージ設定へのアクセスの有効化 (Enable End User Access to Phone Background Image Setting) ] | この共通の電話プロファイルを使用する電話のバックグラウンドイメージをエンドユーザが変更できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| [機能管理ポリシー (Feature Control Policy) ]                                             | [機能管理ポリシー (Feature Control Policy) ] の設定ですでに設定されている機能管理ポリシーを選択することができます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [セキュアシェル情報 (Secure Shell Information) ]                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [セキュアシェルユーザ (Secure Shell User) ]                                                | <p>セキュア シェル ユーザのユーザ ID を入力します。 Cisco Technical Assistance Center (TAC) では、トラブルシューティングやデバッグを行うときにセキュア シェルを使用します。 TAC にお問い合わせください。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が電話に SSH クレデンシャルを平文で送信しないようにするために、暗号化電話設定ファイルを設定する方法については、このリリースの『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                       |

| フィールド                                                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [セキュアシェルユーザのパスワード (Secure Shell User Password) ]         | <p>セキュア シェル ユーザのパスワードを入力します。 TAC にお問い合わせください。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が電話に SSH パスワードを平文で送信しないようにするために、暗号化電話設定ファイルを設定する方法については、このリリースの『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| [電話機のパーソナライゼーション情報 (Phone Personalization Information) ] |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization) ]               | <p>[電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization) ] 設定を使用すると、Cisco Unified Communications Widget の 1 つであり、電話の壁紙や呼び出し音のカスタマイズを可能にする Phone Designer と Cisco Unified IP Phone を連携できるようになります。</p> <p>[電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization) ] ドロップダウンリストボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [無効 (Disabled) ] : ユーザは、Phone Designer を使用して Cisco Unified IP Phone をカスタマイズできません。</li> <li>• [有効 (Enabled) ] : ユーザは、Phone Designer を使用して Cisco Unified IP Phone をカスタマイズできます。</li> <li>• [デフォルト (Default) ] : [電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウと [共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration) ] ウィンドウの両方で [デフォルト (Default) ] を選択した場合は、[電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization) ] エンタープライズ パラメータの設定が使用されます。 [共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration) ] ウィンドウで [デフォルト (Default) ] を選択したものの、[電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウでは [デフォルト (Default) ] を選択しなかった場合は、[電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウで指定した設定が使用されます。</li> </ul> <p>電話ユーザが電話をカスタマイズできるようにするには、Phone Designer をインストールして設定する必要があります。 Phone Designer をインストールして設定する前に、Phone Designer と連携する Cisco Unified IP Phone モデルを識別します (Phone Designer のマニュアルを参照)。 Phone Designer の詳細については、Phone Designer のマニュアルを参照してください。</p> |

| フィールド                                                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line) ]                             | <p>ドロップダウンリストボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [オフ (Off) ] : 電話がアイドル状態になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、電話のユーザは、コールを受信した回線からコールに応答します。</li> <li>• [オン (On) ] : 電話機がアイドル状態 (オフフック) になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、このコールにはプライマリ回線が選択されます。他の回線のコールの呼び出し音は鳴り続けます。電話のユーザは、他の回線を選択してこれらのコールに応答する必要があります。</li> <li>• [デフォルト (Default) ] : Cisco Unified Communications Manager は、Cisco CallManager サービスをサポートする [常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line) ] サービスパラメータの設定を使用します。</li> </ul>                                                                                                                       |
| [ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message) ] | <p>ドロップダウンリストボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [オン (On) ] : 電話がアイドル状態の場合に電話のメッセージボタンを押すと、電話のプライマリ回線がボイスメッセージを受信するアクティブな回線になります。</li> <li>• [オフ (Off) ] : 電話がアイドル状態の場合、電話のメッセージボタンを押すと、ボイスメッセージが設定されている回線からボイスメッセージシステムに自動的にダイヤルされます。Cisco Unified Communications Manager は常にボイスメッセージのある最初の回線を選択します。ボイスメッセージが設定されている回線が存在しない場合に電話のユーザが [メッセージ (Messages) ] ボタンを押すと、プライマリ回線が使用されます。</li> <li>• [デフォルト (Default) ] : Cisco Unified Communications Manager は、Cisco CallManager サービスをサポートする [ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message) ] サービスパラメータの設定を使用します。</li> </ul> |



| フィールド                                          | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [サービスのプロビジョニング (Services Provisioning) ]       | <p>このサービスを電話がどのようにサポートするのか、ドロップダウン リストで選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [内部 (Internal) ] : 電話の設定ファイルを使用して、サービスをサポートします。サービス URL がまだ更新されていないシスコ提供のデフォルト サービスには、このオプションまたは [両方 (Both) ] を選択します。サービス URL は <code>Application:Cisco/&lt;サービスの名前&gt;</code> という形式で表され、たとえば、<code>Application:Cisco/CorporateDirectory</code> のようになります。シスコの署名入りの Java MIDlet の場合は、設定ファイルでプロビジョニングされるため、[内部 (Internal) ] または [両方 (Both) ] を選択します。</li> <li>• [外部URL (External URL) ] : [外部URL (External URL) ] を選択すると、電話は電話の設定ファイルのサービスを無視し、サービス URL からサービスを取得します。サービスのサービス URL に独自の値を設定した場合は、[外部URL (External URL) ] または [両方 (Both) ] を選択する必要があります。[内部 (Internal) ] を選択すると、その設定した URL に関連付けられているサービスが電話で機能しません。</li> <li>• [両方 (Both) ] : [両方 (Both) ] を選択すると、電話は設定ファイルに定義されているサービスと、カスタム サービス URL から取得される外部アプリケーションの両方をサポートします。電話の設定ファイルからサービス情報を取得できる電話と、情報の取得にカスタム サービス URL だけを使用できる電話がネットワークにある場合は、[両方 (Both) ] を選択します。</li> </ul> |
| [VPN情報 (VPN Information) ]                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| [VPNグループ (VPN Group) ]                         | ドロップダウン リストから、電話の VPN グループを選択します。VPN グループの作成については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』の「Virtual Private Network Configuration」の章を参照してください。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [VPNプロファイル (VPN Profile) ]                     | ドロップダウン リストから、電話の VPN プロファイルを選択します。VPN プロファイルの作成については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』の「Virtual Private Network Configuration」の章を参照してください。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration) ] |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

| フィールド                                          | 説明                                                                                                                                   |
|------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [USBを無効にする (Disable USB) ]                     | <p>デバイスおよびドックの USB ポートを無効にします。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [いいえ (False) ]</p> <p>(注) このパラメータを有効にするには、デバイスをリセットする必要があります。</p> |
| [背面USBポート (Back USB Port) ]                    | <p>電話機の背面USBポートを有効にするか無効にするかを示します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [有効 (Enabled) ]</p>                                           |
| [側面USBポート (Side USB Port) ]                    | <p>電話機の側面USBポートを有効にするか無効にするかを示します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [有効 (Enabled) ]</p>                                           |
| [USBクラスの有効化/無効化 (Enable/Disable USB Classes) ] | <p>電話機の USB クラスを有効にするか無効にするかを示します。</p> <p>デフォルト : [オーディオクラス (Audio Class) ]</p>                                                      |
| [SDIO]                                         | <p>電話の SDIO デバイスが有効であるか、無効であるかを示します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [無効 (Disabled) ]</p>                                        |
| [Bluetooth]                                    | <p>電話の Bluetooth デバイスが有効であるか、無効であるかを示します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [有効 (Enabled) ]</p>                                    |
| [Bluetoothプロファイル (Bluetooth Profiles) ]        | <p>電話のどの Bluetooth プロファイルが有効であるか、無効であるかを示します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [ハンドフリー (Handsfree) ]</p>                          |
| [Cisco カメラ (Cisco Camera) ]                    | <p>電話の Cisco カメラが有効であるか、無効であるかを示します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [無効 (Disabled) ]</p>                                        |

| フィールド                                              | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Power Save Plus を有効にする (Enable Power Save Plus) ] | <p>Power Save Plus 機能を有効にするには、電話をスケジュールに従ってオフにする日を選択します。Ctrl キーを押しながら Power Save Plus を使用する日をクリックすると、複数の日付を選択できます。デフォルトは無効です (選択されている日はありません)。Power Save Plus モードを使用すると、[電話をオフにする時刻 (Phone Off Time) ] と [電話をオンにする時刻 (Phone On Time) ] フィールドで指定した期間に電話がオフになります。この期間は一般的に、組織の通常営業時間外に指定されます。Power Save Plus モードでは、電話をオンにする時刻になると電話が自動的にオンになります。このフィールドで日付を選択すると、e911 の考慮事項を示す通知メッセージが続けて表示されます。Power Save Plus を有効にすることによって、この通知で指定された条件に同意したことになります。</p> <p>Power Save Plus モードが有効になっている間、そのモード向け設定されたエンドポイントは緊急コールに対して無効になり、インバウンドコールを受信できません。このモードを選択することにより、次の条項に同意したものと見なされます。(I) モードが有効である間、緊急コールとコールの受信用の代替方法を責任を持って用意する必要があります。(II) シスコはこのモードの選択に関して何の責任を負いません。このモードを有効にすることは、お客様の責任で行っていただきます。(III) コール、発信、およびその他について、このモードを有効にした場合の影響をユーザにすべて通知する必要があります。</p> |
| [オーディオアラートを有効にする (Enable Audible Alert) ]          | <p>このチェックボックスがオンになっている場合、[電話をオフにする時刻 (Phone Off Time) ] フィールドで指定された時刻の 10 分前にオーディオアラートを再生するように電話が設定されます。ユーザにオーディオアラートで知らせるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは無効になっています。このチェックボックスが表示されるのは、[Power Save Plus を有効にする (Enable Power Save Plus) ] リスト ボックスで 1 日以上が選択されている場合だけです。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [いいえ (False) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

| フィールド                                                                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides) ]                    | <p>このチェックボックスにより、電話に電源レベルの更新を送信するための EnergyWise ドメイン コントローラのポリシーを許可するかどうかを決定します。いくつかの条件が適用されます。1 つ目に、[Power Save Plus を有効にする (Enable Power Save Plus) ] フィールドで 1 日以上を選択する必要があります。[Power Save Plus を有効にする (Enable Power Save Plus) ] リストボックスで日付が選択されていない場合、電話は、電話をオフにする EnergyWise の指示を無視します。2 つ目に、[Unified CM の管理 (Unified CM Administration) ] での設定は、EnergyWise がオーバーライドを送信した場合でも、スケジュールどおり有効になります。たとえば、[ディスプレイをオフにする時刻 (Display Off Time) ] が 22:00 (午後 10 時) に設定されていると仮定すると、[ディスプレイをオンにする時刻 (Display On Time) ] フィールドの値は 06:00 (午前 6 時) となり、[Power Save Plus を有効にする (Enable Power Save Plus) ] では 1 日以上が選択されています。EnergyWise が 20:00 (午後 8 時) に電話をオフにするように指示すると、この指示は、午前 6 時に設定された [電話をオンにする時刻 (Phone On Time) ] まで有効となります (電話ユーザによる介入が発生しないと仮定した場合)。午前 6 時になると、電話はオンとなり、[Unified CM の管理 (Unified CM Administration) ] の設定による電力レベル変更の受信を再開します。電力レベルを電話で再び変更するには、EnergyWise が電力レベル変更コマンドを新たに再発行する必要があります。さらに、すべてのユーザ操作が有効になり、EnergyWise によって電話の電源がオフにされた後に、ユーザがソフトキーを押して選択すると、ユーザの操作の結果として電話がオンになります。デフォルトでは、オフになっています。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [いいえ (False) ]</p> |
| [EnergyWise ドメイン (EnergyWise Domain) ]                                   | <p>このフィールドは、電話が参加する EnergyWise ドメインを定義します。EnergyWise ドメインは、Power Save Plus 機能のために必要です。[Power Save Plus を有効にする (Enable Power Save Plus) ] リストボックスで日付を選択した場合は、EnergyWise ドメインも指定する必要があります。デフォルトは空白です。</p> <p>最大長 : 127</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| [EnergyWise エンドポイントのセキュリティシークレット (EnergyWise Endpoint Security Secret) ] | <p>このフィールドは、EnergyWise ドメイン内で通信に使用されるパスワード (共有秘密) を定義します。EnergyWise ドメインおよび共有秘密は、Power Save Plus 機能のために必要です。[Power Save Plus を有効にする (Enable Power Save Plus) ] リストボックスで日付を選択した場合は、EnergyWise ドメインと共有秘密も指定する必要があります。デフォルトは空白です。</p> <p>最大長 : 127</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

| フィールド                                       | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [電話をオンにする時刻 (Phone On Time) ]               | <p>[Power Save Plusを有効にする (Enable Power Save Plus) ] リストボックスで選択された日付で、電話の電源が自動的にオンになる時刻を指定します。 24 時間形式で時間を入力します。00:00 は午前 0 時を表します。たとえば、午前 7:00 (0700) に電話を自動的にオンにするには、07:00 と入力します。午後 2:00 (1400) に電話をオンにするには、14:00 と入力します。このフィールドが空白の場合、電話は午前 00 時に自動的にオンになります。</p> <p>デフォルト : 00:00</p> <p>最大長 : 5</p>                                                                                                                                      |
| [電話をオフにする時刻 (Phone Off Time) ]              | <p>このフィールドは、[Power Save Plusを有効にする (Enable Power Save Plus) ] リストボックスで選択された日付で、電話の電源が自動的にオフになる時刻を指定します。 時間:分の形式で時刻を入力します。このフィールドが空白の場合、電話は午前 0 時 (00:00) に自動的にオフになります。</p> <p>(注) [電話をオンにする時刻 (Phone On Time) ] が空白 (または 00:00) で、[電話をオフにする時刻 (Phone Off Time) ] が空白 (または 24:00) の場合、電話はオンのままになり、EnergyWise によるオーバーライドの送信を許可しない限り、Power Save Plus 機能は事実上無効になります。</p> <p>デフォルト : 24:00</p> <p>最大長 : 5</p>                                       |
| [電話オフのアイドルタイムアウト (Phone Off Idle Timeout) ] | <p>このフィールドは、デバイスが給電側機器 (PSE) に電源オフを要求するまでに、デバイスがアイドル状態になっている必要がある時間 (分単位) を表します。このフィールドの値は以下の場合に有効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• デバイスがスケジュールどおり Power Save Plus モードになったが、ユーザの操作により Power Save Plus モードが解除された場合。</li> <li>• 接続スイッチで電話が再びオンになった場合。</li> <li>• [電話をオフにする時刻 (Phone Off Time) ] になったが、通話中の場合。</li> </ul> <p>単位は分です。指定できる範囲は 20 ~ 1440 です。これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : 60</p> <p>最小値 : 20</p> <p>最大値 : 1440</p> |

| フィールド                                        | 説明                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ディスプレイ非点灯日<br>(Days Display Not Active) ]   | このフィールドで、バックライトをデフォルトでオフのままにする日を指定します。一般的に、米国企業では[土曜日 (Saturday) ]と[日曜日 (Sunday) ]が指定されます。[土曜日 (Saturday) ]と[日曜日 (Sunday) ]をデフォルトにする必要があります。リストにはすべての曜日が含まれています。バックライトを土曜日と日曜日にオフにするには、ユーザはCtrlキーを押しながら[土曜日 (Saturday) ]と[日曜日 (Sunday) ]を選択します。               |
| [ディスプレイ点灯継続時間 (Display On Duration) ]        | プログラムされた時刻にディスプレイがオンになった後、ディスプレイのアクティブな状態を保つ時間の長さを示します。値を指定しない場合は、その日の終わりを示します。最大値は 24 時間です。この値は、自由形式の時間と分です。「1:30」を指定すると、1 時間 30 分だけディスプレイがアクティブになります。<br><br>デフォルト : 10:30<br>最大長 : 5                                                                       |
| [ディスプレイ放置時自動消灯 (Display Idle Timeout) ]      | ユーザ操作によってディスプレイがオンになった後、ディスプレイをオフにするまでの時間の長さを示します。この非アクティブタイマーは、ユーザのアクティビティ中、継続的にリセットされます。このフィールドを空白にした場合、事前に決定されたデフォルト値である 1 時間が電話で使用されます。最大値は 24 時間です。この値は、自由形式の時間と分です。「1:30」を指定すると、非アクティブ状態が 1 時間 30 分続いた後でディスプレイがオフになります。<br><br>デフォルト : 01:00<br>最大長 : 5 |
| [着信コール時に点灯 (Display On When Incoming Call) ] | デバイスがスクリーンセーブモードの場合にこの機能を有効にすると、コールを着信した時点でディスプレイがオンになります。これは必須フィールドです。<br><br>デフォルト : [有効 (Enabled) ]                                                                                                                                                        |
| [着信コールトーストタイマー (Incoming Call Toast Timer) ] | このパラメータは、トーストタイマーで新しい着信コール通知を表示する最大時間 (秒単位) を指定します。<br><br>これは必須フィールドです。<br><br>デフォルト : 5                                                                                                                                                                     |
| [ミュート機能の有効化 (Enable Mute Feature) ]          | ミュート機能を有効にし、7906/7911 でミュート ソフトキーを使用できるようにします。これは必須フィールドです。<br><br>デフォルト : [いいえ (False) ]                                                                                                                                                                     |

| フィールド                                                         | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [参加および直接転送ポリシー (Join And Direct Transfer Policy) ]            | <p>このフィールドは、同じ回線および異なる回線での参加および直接転送のポリシーを指定します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト: [同一回線、回線全体で有効 (Same line, across line enable) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| [G.722およびiSACコーデックのアドバタイズ (Advertise G.722 and iSAC Codecs) ] | <p>Cisco Unified IP Phone が G.722 オーディオコーデックを Cisco Unified CallManager にアドバタイズするかどうかを示します。コーデックのネゴシエーションでは、次の 2 つの手順が実行されます。最初に電話がサポートされるコーデックを Cisco Unified CallManager にアドバタイズします (すべてのエンドポイントが同じコーデックのセットをサポートしているわけではありません)。次に、Cisco Unified CallManager が、コール試行に関連するすべての電話からサポートされるコーデックのリストを取得すると、リージョンペア設定などのさまざまな要因に基づいて一般にサポートされるコーデックが選択されます。有効な値は、[システムデフォルトを使用 (Use System Default) ] (電話は、[G.722コーデックのアドバタイズ (Advertise G.722 Codec) ] エンタープライズ パラメータで指定された設定に従う)、[無効 (Disabled) ] (電話は G.722 を Cisco Unified CallManager にアドバタイズしない)、または [有効 (Enabled) ] (電話は G.722 を Cisco Unified CallManager にアドバタイズする) です。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト: [システムデフォルトを使用 (Use System Default) ]</p> |
| [ビデオコール (Video Calling) ]                                     | <p>有効な場合は、必要な機能を持った PC に接続されたときに、電話でビデオ コールを使用するかどうかを示します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト: [有効 (Enabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| [Wifi]                                                        | <p>電話上の Wi-Fi が有効になっているか、無効になっているかを示します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト: [有効 (Enabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [PCポート (PC Port) ]                                            | <p>電話の PC ポートが有効であるか、無効であるかを示します。電話の背面にある「10/100 PC」というラベルのポートは、ネットワーク接続を共有するために、PC またはワークステーションと電話を接続します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト: [有効 (Enabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

| フィールド                                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [PCポートへのスパン (Span to PC Port) ]                      | <p>電話において、電話ポートで送受信したパケットを PC ポートへ転送するかどうかを指定します。診断目的で使用されるモニタリングと記録用のアプリケーション（コールセンター環境で共通）や、ネットワークパケットキャプチャツールなど、IPPhoneのトラフィックのモニタリングを必要とするアプリケーションが PC ポート上で実行されている場合は、[有効 (Enabled) ]を選択します。この機能を使用するには、[PC の音声 VLAN へのアクセス (PC Voice VLAN Access) ]を有効にする必要があります。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[無効 (Disabled) ]</p>                         |
| [PC の音声 VLAN へのアクセス (PC Voice VLAN Access) ]         | <p>電話の PC ポートに接続されたデバイスから音声 VLAN へのアクセスを許可するかどうかを指定します。音声 VLAN へのアクセスを無効にすると、接続されている PC で音声 VLAN 上のデータを送受信できなくなります。また、電話によって送受信されたデータを PC で受信することもできなくなります。電話のトラフィックのモニタリングを必要とするアプリケーションが PC 上で実行されている場合は、[有効 (Enabled) ]を選択してください。これらには、モニタリングおよび録音アプリケーション、分析のためのネットワークモニタリングソフトウェアの使用が含まれます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[有効 (Enabled) ]</p> |
| [PCポートのリモート設定 (PC Port Remote Configuration) ]       | <p>電話の PC ポート速度とデュプレックスのリモート設定を許可します。この設定は電話の手動設定よりも優先されます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[無効 (Disabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                     |
| [スイッチポートのリモート設定 (Switch Port Remote Configuration) ] | <p>電話のスイッチポート速度とデュプレックスのリモート設定を許可します。この設定は電話の手動設定よりも優先されます。このポートの設定により、電話のネットワーク接続が失われる場合があることに注意してください。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[無効 (Disabled) ]</p>                                                                                                                                                                                        |
| [自動ポート同期 (Automatic Port Synchronization) ]          | <p>電話で PC ポートおよび SW ポートを同じ速度とデュプレックスに同期することを有効にします。自動ネゴシエーション用に設定されているポートのみが速度を変更します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[無効 (Disabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                           |



| フィールド                                                                                           | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Cisco Discovery Protocol (CDP) - スイッチポート (Cisco Discovery Protocol (CDP) Switch Port) ]        | <p>管理者が、スイッチ ポート上で Cisco Discovery Protocol (CDP) を有効または無効に設定できるようにします。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [有効 (Enabled) ]</p> <p>(注) この電話がシスコ以外のスイッチに接続されている場合のみ、ネットワーク ポート上の CDP を無効にする必要があります。詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i>』を参照してください。</p>                        |
| [Cisco Discovery Protocol (CDP) - PCポート (Cisco Discovery Protocol (CDP) PC Port) ]              | <p>管理者が、PC ポート上で Cisco Discovery Protocol (CDP) を有効または無効に設定できるようにします。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [有効 (Enabled) ]</p> <p>(注) PC ポートで CDP を無効にすると、Cisco VT Advantage や Unified Video Advantage がこの電話で適切に機能しなくなります。詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Administration Guide</i>』を参照してください。</p> |
| [LLDP-MED - スイッチポート (LLDP-MED-Switch Port) ]                                                    | <p>Media Endpoint Discover (LLDP-MED) : スイッチ ポート : 管理者は、スイッチ ポート上の Link Layer Discovery Protocol (LLDP-MED) を有効または無効にできます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [有効 (Enabled) ]</p>                                                                                                                                |
| [Link Layer Discovery Protocol (LLDP) - PCポート (Link Layer Discovery Protocol (LLDP)- PC Port) ] | <p>管理者は、PC ポート上で Link Layer Discovery Protocol (LLDP) を有効または無効にできます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [有効 (Enabled) ]</p>                                                                                                                                                                                      |
| [LLDPアセットID (LLDP Asset ID) ]                                                                   | <p>管理者は、Link Layer Discovery Protocol 用のアセット ID を設定できます。</p> <p>最大長 : 32</p>                                                                                                                                                                                                                                      |
| [LLDP電源優先度 (LLDP Power Priority) ]                                                              | <p>管理者は、Link Layer Discovery Protocol 用の電源優先度を設定できます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [不明 (Unknown) ]</p>                                                                                                                                                                                                     |

| フィールド                                                  | 説明                                                                                                                                                    |
|--------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [電力ネゴシエーション (Power Negotiation) ]                      | 管理者は、電力ネゴシエーションを有効または無効にできます。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト : [有効 (Enabled) ]                                                                             |
| [802.1X認証 (802.1x Authentication) ]                    | 802.1x 認証機能のステータスを指定します。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト : [ユーザ制御 (User Controlled) ]                                                                       |
| [FIPSモード (FIPS Mode) ]                                 | このパラメータは、電話の連邦情報処理標準 (FIPS) モードを設定します。 このオプションが有効な場合、電話は FIPS 140-2 レベル 1 準拠のデバイスです。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト : [無効 (Disabled) ]                     |
| [80ビットSRTCP (80-bit SRTCP) ]                           | SRTCP の 80 ビット認証タグを有効にします。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト : [無効 (Disabled) ]                                                                               |
| [常にVPN (Always on VPN) ]                               | 常にデバイスが VPN AnyConnect クライアントを起動し、Cisco Unified Communications Manager の設定済みの VPN プロファイルで接続を確立するかどうかを示します。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト : [いいえ (False) ] |
| [ユーザ定義VPNプロファイルの許可 (Allow User-Defined VPN Profiles) ] | このパラメータは、ユーザが AnyConnect VPN Client を使用して VPN プロファイルを作成できるかどうかを制御します。 無効にすると、ユーザは VPN プロファイルを作成できません。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト : [はい (True) ]        |

| フィールド                                                 | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [スクリーンロック必須 (Require Screen Lock) ]                   | <p>デバイス上で画面のロックが必要かどうかを示します。[ユーザ制御 (User Controlled) ] が選択された場合、デバイスは暗証番号またはパスワードの入力を求めません。[暗証番号 (PIN) ] または [パスワード (Password) ] のオプションでは、画面のロックを解除するためのパスワードを入力する必要があります。[暗証番号 (PIN) ] は数字のパスワードで、少なくとも4桁の長さが必要です。[パスワード (Password) ] はアルファベットのパスワードで、少なくとも4文字で構成され、1文字は数字以外、1文字は大文字にする必要があります。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト: [暗証番号 (PIN) ]</p> |
| [スクリーンロックタイムアウト (Screen Lock Timeout) ]               | <p>デバイスによって画面が自動的にロックされるまでの最大アイドル時間を秒単位で示します。画面がロックされると、画面のロックを解除する際にユーザ パスワードが要求されます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト: 600</p> <p>最小値: 15</p> <p>最大値: 1800</p>                                                                                                                                                                                     |
| [オーディオコール中にデバイスをロック (Lock Device During Audio Call) ] | <p>デバイスが充電中状態で、アクティブなボイス メールが進行中の場合、管理者は、スクリーン ロック暗証番号の強制タイマーをオーバーライドして、オーディオコール中に画面をアクティブなままにすることができます。スクリーン ロック タイマーは、オーディオコールが完了し、タイマーの時間を超過した後で有効になります。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト: [無効 (Disabled) ]</p>                                                                                                                                   |
| [Kerberosサーバ (Kerberos Server) ]                      | <p>Web プロキシ Kerberos の認証サーバ。</p> <p>最大長: 256</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [Kerberosレルム (Kerberos Realm) ]                       | <p>Web プロキシ Kerberos のレルム。</p> <p>最大長: 256</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

| フィールド                                                                                              | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Unified CMの接続障害の検出 (Detect Unified CM Connection Failure) ]                                       | <p>このフィールドでは、Cisco Unified Communications Manager への接続エラーを電話アプリケーションが検出する感度を指定します。この検出は、デバイスのバックアップ用 Unified CM/SRST へのフェールオーバーが発生する前に最初に実行されます。有効な値は、[標準 (Normal) ] (標準のシステム レートで Unified CM 接続エラーの検出を実行) または [遅延 (Delayed) ] (標準より約 4 倍遅いレートで Unified CM 接続エラーの検出を実行) です。Unified CM 接続エラーの高速認識のためには、[標準 (Normal) ] を選択します。接続を再確立できるようにするためにフェールオーバーを少し遅らせる場合は、[遅延 (Delayed) ] を選択します。[標準 (Normal) ] と [遅延 (Delayed) ] の接続エラー検出の正確な時間の差は、常に変化する多数の変数に応じて異なります。これは、有線のイーサネット接続にのみ適用されます。デフォルトは [標準 (Normal) ] です。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [標準 (Normal) ]</p> |
| [TCPドロップまたはローミング後のシームレスな再接続の待機時間 (Time to Wait for Seamless Reconnect After TCP Drop or Roaming) ] | <p>元の TCP 接続が切断された後に、キープアライブ登録を使用して新しい TCP 接続を確立するための猶予時間を示します。値が 0 に設定された場合、[シームレスな再接続 (Seamless Reconnect) ] は無効になります。</p> <p>デフォルト : 5</p> <p>最小値 : 0</p> <p>最大値 : 300</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [ロードサーバ (Load Server) ]                                                                            | <p>電話が、定義されている TFTP サーバではなく、代替サーバを使用して、ファームウェアロードとアップグレードを取得することを示します。このオプションでは、ファームウェアのアップグレードに使用されるローカル サーバを指定して、特に WAN を介したアップグレードの場合に、インストール回数を減らすことができます。サーバのホスト名または IP アドレスを入力します (標準の IP アドレス形式を使用します)。指定されるサーバは TFTP サービスを実行している必要があり、TFTP パスにロードファイルが必要です。ロードファイルが見つからない場合、ロードがインストールされません。電話は TFTP サーバにリダイレクトされません。このフィールドが空白のままの場合、電話は指定された TFTP サーバを使用してロード ファイルおよびアップグレードを取得します。</p> <p>最大長 : 256</p>                                                                                                                                                       |

| フィールド                                  | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [IPv6ロードサーバ (IPv6 Load Server) ]       | <p>電話が、定義されている TFTP サーバではなく、代替の IPv6 サーバを使用して、ファームウェアロードとアップグレードを取得することを示します。このオプションでは、ファームウェアのアップグレードに使用されるローカル IPv6 サーバを指定して、特に WAN を介したアップグレードの場合に、インストール回数を減らすことができます。サーバのホスト名または IPv6 アドレスを入力します（標準の IPv6 アドレス形式を使用します）。指定されるサーバは TFTP サービスを実行している必要があり、TFTP パスにロードファイルが必要です。ロードファイルが見つからない場合、ロードがインストールされません。電話は TFTP サーバにリダイレクトされません。このフィールドが空白のままの場合、電話は指定された TFTP サーバを使用してロードファイルおよびアップグレードを取得します。</p> <p>最大長：25</p> |
| [ピアファームウェア共有 (Peer Firmware Sharing) ] | <p>サブネット内の 1 台の電話でイメージファームウェアファイルを取得し、それをピアに配信できるようにするためのピアツーピアイメージ配信を有効または無効にします。これによって TFTP 帯域幅が減少し、ファームウェアのアップグレード時間が短縮されます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[有効 (Enabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                         |
| [ログサーバ (Log Server) ]                  | <p>ログメッセージの送信先となるリモートシステムの IP アドレスとポートを指定します。</p> <p>最大長：32</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| [HTTPS サーバ (HTTPS Server) ]            | <p>管理者は、[Web アクセス (Web Access) ] が有効になっている場合に HTTP と HTTPS または HTTPS のみの接続を許可することができます。これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[http と https が有効 (http and https Enabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [Web アクセス (Web Access) ]               | <p>このパラメータは、電話が Web ブラウザからの接続を許可するか、または別の HTTP クライアントからの接続を許可するかどうかに示します。電話の Web サーバ機能を無効にすると、電話の内部 Web ページへのアクセスはブロックされます。これらのページは、統計情報と設定情報を提供します。Quality Report Tool (QRT) などの機能は、電話の Web ページにアクセスできないと適切に機能しません。この設定は、CiscoWorks 2000 などの Web アクセスに依存するサービスアビリティアプリケーションにも影響します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト：[無効 (Disabled) ]</p>                                                                                   |

| フィールド                                                             | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [設定へのアクセス (Settings Access) ]                                     | <p>電話の[設定 (Settings) ] ボタンにアクセスできるかどうかを示します。[設定へのアクセス (Settings Access) ] が有効になっている場合、電話のネットワーク設定、呼出音タイプ、および音量を変更できます。[設定へのアクセス (Settings Access) ] が無効になっている場合、[設定 (Settings) ] ボタンは完全に無効になり、ボタンを押してもオプションは表示されません。さらに、呼出音の音量を調節することも、音量の設定を保存することもできません。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [有効 (Enabled) ]</p> |
| [SSHアクセス (SSH Access) ]                                           | <p>このパラメータは、デバイスがSSH接続を受け入れるかどうかを示します。デバイスのSSHサーバ機能を無効にすると、デバイスへのアクセスはブロックされます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [無効 (Disabled) ]</p>                                                                                                                                                                           |
| [呼出音ロケール (Ring Locale) ]                                          | <p>IP Phone は、オンネット/オフネットまたは回線ベースで呼出音を区別しますが、呼出音のリズムは固定されており、米国の標準のみに基づいています。米国標準の呼出音のリズムは、日本の標準の逆です。日本の呼出音のリズムをサポートするには、[呼出音ロケール (Ring Locale) ] に従って呼出音のリズムを設定する必要があります。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [デフォルト (Default) ]</p>                                                                              |
| [Android Debug Bridge (ADB) (Android Debug Bridge or ADB) ]       | <p>デバイス上で Android Debug Bridge (ADB) を有効または無効にします。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [無効 (Disabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                        |
| [不明な提供元からのアプリケーションを許可 (Allow Applications from Unknown Sources) ] | <p>URL から、あるいは電子メール、インスタントメッセージ (IM) 、または Secure Digital (SD) カード経由で受け取った Android パッケージ (APK) から、ユーザが Android アプリケーションをデバイス上にインストールできるかどうかを制御します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [無効 (Disabled) ]</p>                                                                                                         |

| フィールド                                                                    | 説明                                                                                                                                                                                   |
|--------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Android Marketからのアプリケーションを許可 (Allow Applications from Android Market) ] | Google の Android Market からユーザが Android アプリケーションをインストールできるかどうかを制御します。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト : [いいえ (False) ]                                                                      |
| [Cisco AppHQからのアプリケーションを許可 (Allow Applications from Cisco AppHQ) ]       | Cisco AppHQ からユーザが Android アプリケーションをインストールできるかどうかを制御します。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト : [いいえ (False) ]                                                                                  |
| [AppHQ ドメイン (AppHQ Domain) ]                                             | ユーザが AppHQ にログインする際に使用される完全修飾ドメイン名。空の場合、ユーザは、各自のドメイン名をユーザ名と一緒に指定します。[AppHQ ドメイン (AppHQ Domain) ] は、指定されたカスタムの AppHQ ストアが存在する場合に、ユーザをそのストアに関連付けるために使用されます。例 : cisco.com。<br>最大長 : 256 |
| [Cisco UCM アプリケーションクライアントを有効にする (Enable Cisco UCM App Client) ]          | アプリケーションクライアントがデバイス上で動作するかどうかを制御します。アプリケーションクライアントが有効な場合、Cisco Unified Communications Manager からインストールするアプリケーションを選択できます。<br>これは必須フィールドです。<br>デフォルト : [いいえ (False) ]                  |
| [企業写真ディレクトリ (Company Photo Directory) ]                                  | デバイスがユーザをクエリーし、そのユーザに関連付けられている画像を取得することができる URL を指定します。<br>最大長 : 256                                                                                                                 |
| [ボイスメールサーバ(プライマリ) (Voicemail Server (Primary)) ]                         | プライマリ メールストア ボイスメール サーバのホスト名または IP アドレス。<br>最大長 : 256                                                                                                                                |
| [ボイスメールサーバ(バックアップ) (Voicemail Server (Backup)) ]                         | バックアップ メールストア ボイスメール サーバのホスト名または IP アドレス。<br>最大長 : 256                                                                                                                               |
| [プレゼンスおよびチャットサーバ(プライマリ) (Presence and Chat Server (Primary)) ]           | プライマリ プレゼンス サーバのホスト名または IP アドレス。<br>最大長 : 256                                                                                                                                        |

| フィールド                                                                             | 説明                                                                                                                                                                         |
|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [プレゼンスおよびチャットサーバタイプ (Presence and Chat Server Type) ]                             | <p>[プレゼンスおよびチャットサーバタイプ (Presence and Chat Server Type) ] フィールドで指定されたサーバのタイプを示します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [Cisco WebEx Connect]</p>                            |
| [プレゼンスとチャットのシングルサインオン(SSO) ドメイン (Presence and Chat Single Sign-On (SSO) Domain) ] | <p>企業に対するシングルサインオン (SSO) 認証を実施するために Cisco WebEx Connect Cloud で使用されるエンタープライズ ドメイン。</p> <p>最大長 : 256</p>                                                                    |
| [PSTNモード (FIPS Mode) ]                                                            | <p>IP Phone 6921/6941/6961 の PSTN モードを有効にします。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [無効 (Disabled) ]</p>                                                                     |
| [背景イメージ (Background Image) ]                                                      | <p>このパラメータは、デフォルトの壁紙ファイルを指定します。このパラメータが有効な場合、管理者のみが電話の壁紙リストに対するエンドユーザアクセスを無効にします。</p> <p>最大長 : 64</p>                                                                      |
| [簡易発信UI (Simplified New Call UI) ]                                                | <p>このパラメータは、電話がオフフックのときに簡易発信UIスタイルを使用するかどうかを指定します。新しい発信ウィンドウを選択するユーザは、簡易発信セッションを優先するユーザが使用するのと同時に引き続きその方法を使用できます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [無効 (Disabled) ]</p> |
| [すべてのコールに戻る (Revert to All Calls) ]                                               | <p>有効な場合に、コールがプライマリ回線またはすべてのコール以外のフィルタが適用されていると、コールの終了後に電話は[すべてのコール (All Calls) ]に戻ります。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [無効 (Disabled) ]</p>                           |
| [ビデオのRTCP (RTCP for Video) ]                                                      | <p>RTP 統計とリップシンクを目的として、ビデオとオーディオの RTP ストリームの両方で RTCP が有効になります。これが無効になっている場合、ビデオのリップシンクは、フリーランモードを利用します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [有効 (Enabled) ]</p>            |



| フィールド                                                          | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [リリースボタンからダイヤルトーンを提供 (Provide Dial Tone from Release Button) ] | <p>リリース ボタンを押したときにダイヤルトーンを提供するかどうかを示します。 値が [はい (True) ] で、[オフフックダイヤル/リングアウト/接続済み (OffHook Dialing/RingingOut/Connected) ] 状態の場合は、リリース ボタンが押された後に新しいコールウィンドウが表示されます。 [すべてのコールに戻る (Revert to All Calls) ] 機能が有効な場合は、[ダイヤルトーン (Dial Tone) ] 機能の前にアクティブにする必要があります。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [無効 (Disabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [デフォルトでビデオを非表示 (Hide Video By Default) ]                       | <p>[デフォルトでビデオを非表示 (Hide Video By Default) ] が有効になっている場合は、デフォルトで、柔軟にビデオウィンドウを非表示にすることができます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [無効 (Disabled) ]</p> <p>[デフォルトでビデオを非表示 (Hide Video By Default) ] 機能が有効になっている場合、最初、ビデオコールでビデオウィンドウが非表示になります。 [ビデオの自動送信 (Auto Transmit Video) ] がオンの場合、ビデオが相手側に送信されている間、電話のディスプレイに、[ビデオの非表示 (Hide Video View) ] が表示されます。 これにより、エンドユーザがビデオコールと音声コールを区別しにくくなる場合があります。 [デフォルトでビデオを非表示 (Hide Video By Default) ] の利点は、ユーザがビデオをミュートしたりカメラのシャッターを閉じたりすることが多い職場の環境で、エンドユーザの電話に黒い「ミュート」ボックスではなく、オーディオコール画面を表示できることです。 カメラを開いて有効にし、ミュートしないことが多い職場環境では、[デフォルトでビデオを非表示 (Hide Video By Default) ] は推奨されません。</p> |

| フィールド                            | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [VXC VPNオプション (VXC VPN Option) ] | <p>このフィールドは、VXC VPNがどのようにサポートされるかを示します。[デュアルトンネル (Dual Tunnel) ] が選択されている場合、電話は電話用と VXC デバイス用の 2 つの VPN トンネルを確立します。[シングルトンネル (Single Tunnel) ] が選択されている場合、電話は、電話用の 1 つの VPN トンネルのみと共有のための VXC デバイスを確立します。最高の音声/ビデオ画質が必要な場合は、デュアルトンネル VPN ソリューションをお勧めします。</p> <p>[デュアルトンネル (Dual Tunnel) ] : 2 つの VPN トンネルを使用すると、ホストの Cisco IP Phone は、VXC VPN トンネルに関連付けられたデータよりも、電話の音声/ビデオ機能に関連付けられたデータに CPU とメモリ リソースを優先的に提供できます。この方法では、電話の音声/ビデオ VPN 用と VXC VPN 用として、2 つの手動ログインエントリ (セキュリティパラメータに依存) が必要です。2 つのトンネルのアプローチには、2 つの VPN コンセントレータ ポートと 2 つの IP アドレスも必要です。これによりコストが増加する可能性があります。</p> <p>[シングルトンネル (Single Tunnel) ] : シングル VPN トンネル オプションは、音声/ビデオの品質と引き換えに簡素化された操作モデルを望むユーザ向けの実装です。このソリューションでは、使用可能な 89/99xx プロセッサとメモリ リソースを音声、ビデオ、および VDI サービスで共有することで 1 つの VPN トンネルを使用して動作します。IP Phone は、サービスごとにデータ処理の優先度を設定することができません。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [デュアルトンネル (Dual Tunnel) ]</p> |

| フィールド                                                               | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [VXCチャレンジ (VXC Challenge) ]                                         | <p>このフィールドは、VXC デバイスのチャレンジを行うかどうかを示します。</p> <p>[チャレンジ (Challenge) ]を選択すると、VXC デバイスのチャレンジが行われます。[VXC VPNオプション (VXC VPN Option) ]の[シングルトンネル (Single Tunnel) ]を選択した場合は、[電話のVPNログイン (Phone VPN Sign In) ]ウィンドウが表示され、ユーザにクレデンシャルを入力して Phone VPN トンネルを再確立することを求めます。[VXC VPNオプション (VXC VPN Option) ]の[デュアルトンネル (Dual Tunnel) ]を選択した場合は、[VXC VPNログイン (VXC VPN Sign In) ]ウィンドウが表示され、ユーザにクレデンシャルを入力して VXC VPN トンネルを再確立することを求めます。</p> <p>[チャレンジなし (No Challenge) ]を選択した場合、VXC チャレンジはバイパスされます。[VXC VPNオプション (VXC VPN Option) ]の[シングルトンネル (Single Tunnel) ]を選択した場合は、VXC チャレンジなしで VXC トラフィックを電話 VPN 経由で送信することが静的に許可されます。[VXC VPNオプション (VXC VPN Option) ]の[デュアルトンネル (Dual Tunnel) ]を選択した場合は、VXC VPN トンネルの再確立に Phone VPN トンネルのクレデンシャルが再利用されます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [チャレンジ (Challenge) ]</p> |
| [VXC-Mサーバ (VXC-M Servers) ]                                         | <p>VXC 管理サーバの IP アドレスのカンマ区切りのリスト。</p> <p>最大長 : 255</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [共有回線からコールログを記録 (Record Call Log from Shared Line) ]                | <p>このフィールドは、共有回線からコールログを記録するかどうかを示します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [無効 (Disabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| [ファイル転送でブロックするURL (URLs to Block in File Transfer) ]                | <p>ファイル転送でブロックする URL のセミコロン区切りのリスト。</p> <p>デフォルトは空白です。</p> <p>最大長 : 1024</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [テザリングされたデスク電話を自動的に制御 (Automatically Control Tethered Desk Phone) ] | <p>有効の場合、クライアントはテザリングされたデスクトップ電話を自動的に制御します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [無効 (Disabled) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

| フィールド                                                                                            | 説明                                                                                                                                                             |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [機能の拡張と接続<br>(Extend and Connect<br>Capability) ]                                                | <p>クライアントの機能の拡張と接続が有効かどうかを示します。これを使用して、クライアントは、サードパーティのPBX、PSTN、および他のリモート電話でコールをモニタリングおよび制御できるようになります。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [有効 (Enabled) ]</p> |
| [連絡先の写真の表示<br>(Display Contact Photos) ]                                                         | <p>クライアントで、連絡先の写真の取得および表示が有効であるか、無効であるかを示します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [有効 (Enabled) ]</p>                                                          |
| [電話帳での番号検索<br>(Number Lookups on<br>Directory) ]                                                 | <p>クライアントでの社内ディレクトリを使用した電話番号の検索が有効であるか、無効であるかを示します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [有効 (Enabled) ]</p>                                                    |
| [Jabber For Windowsソフト<br>ウェア更新サーバURL<br>(Jabber For Windows<br>Software Update Server<br>URL) ] | <p>ユーザが [Update Jabber] リンクを選択したときに、Jabber For Windows Client が使用するソフトウェア更新サーバの URL。 デフォルトは空白です。</p> <p>最大長 : 1024</p>                                         |
| [分析収集 (Analytics<br>Collection) ]                                                                | <p>クライアントでの分析収集が有効であるか、無効であるかを示します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [無効 (Disabled) ]</p>                                                                   |
| [問題レポートサーバURL<br>(Problem Report Server<br>URL) ]                                                | <p>クライアントによって使用される問題レポート サーバの URL。 デフォルトは空白です。</p> <p>最大長 : 1024</p>                                                                                           |
| [分析サーバURL<br>(Analytics Server URL) ]                                                            | <p>クライアントによって使用される分析サーバの URL。 デフォルトは空白です。</p> <p>最大長 : 1024</p>                                                                                                |

| フィールド                                 | 説明                                                                                                                       |
|---------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [シスコサポートフィールド (Cisco Support Field) ] | <p>クライアントによって展開サポートに使用されるカスタム設定のセミコロンの区切りのリスト。このフィールドは、Cisco サポート担当者のサポートがある場合のみ使用してください。デフォルトは空白です。</p> <p>最大長：1024</p> |

## UnityConnection 同報リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 67: Unity Connection 同報リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                                           | 説明                                                                                                                                                                                                      |
|-----------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [エイリアス (Alias) ]                                                | 同報リストのエイリアス名。                                                                                                                                                                                           |
| [表示名 (Display Name) ]                                           | 同報リストの名前。                                                                                                                                                                                               |
| [内線 (Extension) ]                                               | 電話システムが接続に使用する内線番号。                                                                                                                                                                                     |
| [パーティション (Partition) ]                                          | ユーザまたは外部発信者が到達可能な同報リストの範囲の定義に使用するパーティション。                                                                                                                                                               |
| [連絡先を許可する (Allow Contacts) ]                                    | 連絡先を同報リストのメンバーに追加できるかどうかを指定します。                                                                                                                                                                         |
| [外部のシステムからのメッセージを受け入れる (Accept Messages from Foreign Systems) ] | VPIM ロケーションとして構成されたりモートボイスメッセージングシステム上のユーザは、この同報リストにメッセージを送信できます。                                                                                                                                       |
| [メンバリスト (Member List) ]                                         | <p>同報リストに関連付けられたユーザのリスト。Alias/MemberType の形式を使用します。</p> <p>一度に 200 メンバーのみ追加、修正、または削除できます。</p> <p>パフォーマンスを向上させるために、それぞれ 500 メンバーを持つ、最大で 20 の同報リストを推奨しています。500 を超えるメンバーを管理する場合には、ネストされた同報リストを推奨できません。</p> |

## デバイス プール インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 68: デバイス プール インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                                           | 説明                                                                                                                                                                                                         |
|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                                                    | インフラストラクチャ設定製品の名前。                                                                                                                                                                                         |
| [Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified CM Group) ]               | 使用可能な Cisco Unified Communications Manager グループのリスト。                                                                                                                                                       |
| [日時グループ (Date/Time Group) ]                                     | このデバイス プール内のデバイスに割り当てる日時グループ。                                                                                                                                                                              |
| [リージョン (Region) ]                                               | このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Cisco Unified Communications Manager リージョン。                                                                                                                                         |
| [ソフトキー テンプレート (Softkey Template) ]                              | Cisco IP Phone のソフトキーの設定を指定するソフトキー テンプレート。                                                                                                                                                                 |
| [SRST 参照先 (SRST Reference) ]                                    | このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Survivable Remote Site Telephony (SRST) 参照先。                                                                                                                                        |
| [自動生成用コーリングサーチスペース (Calling Search Space for Auto-Generation) ] | このデバイス プール内のデバイスに割り当てる、Cisco Unified Communications Manager に自動登録されるコーリングサーチ スペース。                                                                                                                         |
| [ローカルルートグループ (Local Route Group) ]                              | 使用可能なローカル ルート グループのリスト。                                                                                                                                                                                    |
| [メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List) ]                 | メディア リソース グループの優先順位付けされたリストを提供します。アプリケーションは、[メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List) ]で定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから必要なメディア リソース（保留音サーバなど）を選択します。このフィールドが空白の場合は、デバイス プールで定義されたメディア リソース グループが使用されます。 |
| [ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source) ]              | ネットワークが保留操作を開始したときに再生される音源。                                                                                                                                                                                |
| [ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source) ]                    | ユーザが保留操作を開始したときに再生される保留音の音源。                                                                                                                                                                               |

| フィールド                                    | 説明                                                                                                                                                 |
|------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ネットワークロケール (Network Locale) ]           | エンドポイントとゲートウェイに関連付けられたロケール。                                                                                                                        |
| [ユーザロケール (User Locale) ]                 | ユーザに関連付けられたユーザの場所。ユーザ ロケールは、言語、フォント、日時の表示形式、英数字のキーボードテキスト情報など、ユーザをサポートするための一連の詳細情報を識別します。                                                          |
| [接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration) ] | IP Phone が SRST から登録解除されて Cisco Unified Communications Manager に再登録されるまでの時間を定義します。この間、IP Phone は Cisco Unified Communications Manager への接続をモニタします。 |
| [MLPP 通知 (MLPP Indication) ]             | 優先トーンを再生できるデバイスプール内のデバイスが、Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) コールを発信するときに優先トーン再生機能を使用するかどうかを指定します。                                         |
| [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption) ]       | 進行中のコールをプリエンプションできるデバイス プール内のデバイスが、MLPP コールを発信するときにプリエンプション機能を使用するかどうかを指定します。                                                                      |
| [MLPP ドメイン (MLPP Domain) ]               | このデバイスに関連付けられている MLPP ドメイン。                                                                                                                        |

## H323 ゲートウェイ インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 69: H323 ゲートウェイ インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                           | 説明                                                                                                             |
|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                    | インフラストラクチャ設定製品の名前。                                                                                             |
| [説明 (Description) ]             | 説明 (オプション) 。                                                                                                   |
| [デバイスプール (Device Pool) ]        | 使用可能なデバイスプールのリスト。デバイスプールは、このデバイスのプロパティのコレクション (Unified CM グループ、日時グループ、リージョン、デバイスの自動登録用コーリング サーチスペースなど) を指定します。 |
| [コールの分類 (Call Classification) ] | このゲートウェイを使用している着信コールがネットワーク上にない ([オフネット (OffNet) ]) と見なされるか、ある ([オンネット (OnNet) ]) と見なされるのかを示します。               |

| フィールド                                                                   | 説明                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List) ]                          | メディア リソース グループの優先順位付けされたリストを提供します。                                                                   |
| [ロケーション (Location) ]                                                    | このデバイスのロケーション。                                                                                       |
| [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required) ]               | H.323 でサポートされていない機能（保留や転送など）を実装するためにメディアターミネーションポイントを使用している場合は [はい (Yes) ] を選択します。                   |
| [ビデオコールをオーディオとして再試行 (Retry Video Call as Audio) ]                       | コールを受信するビデオエンドポイントに適用されます。                                                                           |
| [遠端H.245 端末の機能セットを待機 (Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set) ] | Cisco Unified Communications Manager が、自身の H.245 端末機能セットを送信する前に、遠端の H.245 端末機能セットを受信する必要があることを指定します。 |
| [MLPP ドメイン (MLPP Domain) ]                                              | このデバイスに関連付けられた Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) ドメイン。                                     |
| [有意な数値 (Significant Digits Value) ]                                     | 着信コールで保持される末尾からの桁数を表します。                                                                             |
| [コーリングサーチスペース (Calling Search Spaces) ]                                 | 収集された（発信側）番号のルーティング方法を決定するために検索されるルート パーティションのコレクションを指定します。                                          |
| [AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space) ]                          | 帯域幅不足が原因でコールがブロックされた場合に、収集された（発信側）番号の他のルーティング方法を決定するために検索される、ルート パーティションのコレクションを指定します。               |
| [プレフィックス DN (Prefix DN) ]                                               | 着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号。                                                                          |
| [番号IE配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Inbound) ]    | Cisco Unified Communications Manager への着信 SETUP メッセージに含まれる番号 IE のリダイレクトを受け入れる場合は [はい (Yes) ] を選択します。 |
| [発呼側の選択 (Calling Party Selection) ]                                     | ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。送信される電話番号を選択します。                                                    |



| フィールド                                                                    | 説明                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [発呼側の表示 (Calling Party Presentation) ]                                   | Cisco Unified Communications Manager で発信側電話番号の表示を許可するか、禁止するのを選択します。                                                 |
| [着信側 IE 番号タイプが不明 (Called Party IE Number Type Unknown) ]                 | 着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。                                                                                            |
| [発呼側 IE 番号タイプが不明 (Calling Party IE Number Type Unknown) ]                | 発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。                                                                                             |
| [着信番号計画 (Called Numbering Plan) ]                                        | 着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。                                                                                              |
| [発呼番号計画 (Calling Numbering Plan) ]                                       | 発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。                                                                                              |
| [発信者 ID DN (Caller ID DN) ]                                              | 発呼者回線 ID に使用するパターンを 0 ～ 24 桁で入力します。                                                                                 |
| [IE 配信の表示 (Display IE Delivery) ]                                        | 発信側と着信側のネーム デリバリー サービスにおいて、Setup、Connect、および Notify メッセージでの表示情報要素 (IE) の配信を有効にします。                                  |
| [番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound) ] | コールを転送するとき、Cisco Unified Communications Manager からの発信 Setup メッセージに、コールの最初の転送番号と転送理由を示す Redirecting Number IE を含めます。 |
| [パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode) ]                                    | このフィールドは、H.323 ゲートウェイの暗号化シグナリング情報のトラブルシューティングを行う場合に設定します。                                                           |
| [共通デバイス設定 (Common Device Config) ]                                       | 共通のデバイス設定 (ソフトキー テンプレートやユーザ ロケールなど) 。                                                                               |
| [SRTP 許可 (SRTP Allowed) ]                                                | Cisco Unified Communications Manager で、ゲートウェイを経由したセキュア コールおよび非セキュア コールを許可する場合は [はい (Yes) ] を選択します。                  |
| [アウトバウンド FastStart を有効にする (Enable Outbound FastStart) ]                  | 発信コールに対して H323 FastStart 機能を有効にする場合は [はい (Yes) ] を選択します。                                                            |

| フィールド                                    | 説明                                                        |
|------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| [AAR グループ (AAR Group) ]                  | 帯域幅不足が発生した場合の代替ルーティング グループを選択します。                         |
| [パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration) ] | このフィールドは、H.323 ゲートウェイの暗号化シグナリング情報のトラブルシューティングを行う場合に設定します。 |

## ハント リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 70: ハントリストインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                            | 説明                                                   |
|--------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                                     | インフラストラクチャ設定製品の名前。                                   |
| [説明 (Description) ]                              | 説明 (オプション) 。                                         |
| [Cisco Unified CMグループ (Cisco Unified CM Group) ] | 使用可能な Cisco Unified Communications Manager グループのリスト。 |
| [このハントリストを有効にする (Enable this Hunt List) ]        | ハントリストを有効にする場合は[はい (Yes) ]を選択します。                    |
| [使用可能な回線グループ (Available Line Group) ]            | 使用可能な回線グループのリスト。                                     |

## ハントパイロット インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 71: ハントパイロットインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                          | 説明                                                                                   |
|--------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| [パターン定義 (Pattern Definition) ] |                                                                                      |
| [パターン (Pattern) ]              | ハントパイロット。数字とワイルドカードを含めることができますが、スペースは使用できません。<br>+ または \+ を入力して、国際エスケープ文字を示すことができます。 |

| フィールド                                                                 | 説明                                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ルートパーティション (Route Partition) ]                                       | パーティションを使用してハントパイロットへのアクセスを制限する場合は、適切なパーティションを選択します。                                                         |
| [説明 (Description) ]                                                   | 説明 (オプション)。                                                                                                  |
| [番号計画 (Numbering Plan) ]                                              | 番号計画を選択します。                                                                                                  |
| [ルートフィルタ (Route Filter) ]                                             | ハントパイロットにワイルドカード @ が含まれている場合は、ルートフィルタを選択できます。                                                                |
| [MLPP 優先度 (MLPP Precedence) ]                                         | MLPP 優先設定。                                                                                                   |
| [ハントリスト (Hunt List) ]                                                 | 追加するハントパイロットに関連するハントリストを選択します。                                                                               |
| [緊急優先 (Urgent Priority) ]                                             | Cisco Unified Communications Manager がコールをすぐにルーティングする必要があるときに桁間タイミングを中断する場合は、[はい (Yes) ]を選択します。              |
| [ブロックが有効 (Block Enabled) ]                                            | ブロックを有効または無効にします。                                                                                            |
| [リリース目的 (Release Cause) ]                                             | [ブロックが有効 (Block Enabled) ]フィールドの設定に依存します。リリース目的を選択する場合は、[ブロックが有効 (Block Enabled) ]を[はい (True) ]に設定する必要があります。 |
| [発呼側トランスフォーメーション (Calling Party Transformations) ]                    |                                                                                                              |
| [発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask) ]  | 発呼者回線の ID (CLID) に完全な外線電話番号を使用する場合は [はい (Yes) ]を選択します。                                                       |
| [発呼側トランスフォーメーションマスク (Calling Party Transformation Mask) ]             | トランスフォーメーション マスク値を入力します。                                                                                     |
| [発呼側プレフィックス番号(発信コール) (Calling Party Prefix Digits (Outgoing Calls)) ] | プレフィックス番号を入力します。                                                                                             |
| [発呼者回線の表示 (Calling Line Presentation) ]                               | 発信側電話番号をコール単位で許可または禁止するための補足サービスとして使用されます。                                                                   |

| フィールド                                                                | 説明                                                                                                                                                 |
|----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation) ]                               | 発信側の名前をコール単位で許可または禁止するための補足サービスとして使用されます。                                                                                                          |
| [接続側トランスフォーメーション (Connected Party Transformations) ]                 |                                                                                                                                                    |
| [接続側回線の表示 (Connected Line Presentation) ]                            | 着信側電話番号をコール単位で許可または禁止するための補足サービスとして使用されます。                                                                                                         |
| [接続先名の表示 (Connected Name Presentation) ]                             | 着信側の名前をコール単位で許可または禁止するための補足サービスとして使用されます。                                                                                                          |
| [着信側トランスフォーメーション (Called Party Transformations) ]                    |                                                                                                                                                    |
| [着信側での番号の削除 (Called Party Discard Digits) ]                          | このハントパイロットに関連付ける番号の削除指示を選択します。                                                                                                                     |
| [着信側トランスフォーメーションマスク (Called Party Transformation Mask) ]             | トランスフォーメーションマスク値を入力します。                                                                                                                            |
| [着信側プレフィックス番号(発信コール) (Called Party Prefix Digits (Outgoing Calls)) ] | プレフィックス番号を入力します。                                                                                                                                   |
| [キューイング (Queuing) ]                                                  |                                                                                                                                                    |
| [コールをキューイング (Queue Calls) ]                                          | コールキューイングを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。                                                                                                               |
| [ネットワーク保留MOH音源とアナウンス (Network Hold MOH Source and Announcements) ]   | 保留音と、コールがキューに保持されている場合に再生する通知を含む音源ファイルを選択します。                                                                                                      |
| [キューで許可されている最大発信者数 (Maximum Number of Callers Allowed in a Queue) ]  | <p>ハントパイロットごとにキューに配置する発信者の最大数を指定する値を入力します。</p> <p>コールキューイングでは、ハントパイロットごとに最大 100 人の発信者をキューに配置できます。特定のハントパイロットでこの制限に達した後、後続のコールは代替番号にルーティングできます。</p> |
| [キューが満杯であるときにこれを有効にする (Enable This When Queue is Full) ]             | キューがいっぱいになった場合に、代替番号にコールをルーティングするには、このチェックボックスをオンにします。                                                                                             |

| フィールド                                                                                         | 説明                                                                                                                                                                                                                    |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [キューが満杯の場合、この接続先にコールをルーティング<br>(Route the Call to This Destination When the Queue is Full) ]  | キューがいっぱいになった場合に、コールをルーティングする電話番号を入力します。<br><br>このフィールドでは、数字 (0 ～ 9) 、大文字のエックス (X) 、アスタリスク (*) 、およびハッシュ記号 (#) を使用できます。                                                                                                 |
| [キュー最大数到達時コーリングサーチスペース (Full Queue Calling Search Space) ]                                    | キューがいっぱいになった場合に、コールを転送するために使用するコーリングサーチスペースを指定します。                                                                                                                                                                    |
| [キュー内の最大待機時間<br>(Maximum Wait Time in Queue) ]                                                | キュー内の各コールに対して、最大待機時間を指定する値 (秒単位) を入力します。<br><br>各発信者は、ハントパイロットあたり最大3600秒までキューに入れることができます。この制限に達した後、その発信者は代替番号にルーティングされます。                                                                                             |
| [最大待機時間に達したときにこれを有効にする (Enable This When Max Wait Time is Met) ]                              | 最大待機時間に達した場合に、代替番号にコールをルーティングするには、このチェックボックスをオンにします。                                                                                                                                                                  |
| [最大待機時間に達した場合、この接続先にコールをルーティング (Route the Call to This Destination If Max Wait Time is Met) ] | 最大待機時間に達した場合に、コールをルーティングする電話番号を入力します。                                                                                                                                                                                 |
| [最大待機時間到達時コーリングサーチスペース (Maximum Wait Time Calling Search Space) ]                             | 最大待機時間に達した場合に、コールを転送するために使用するコーリングサーチスペースを指定します。                                                                                                                                                                      |
| [ログインしているハントメンバーがいなくこれを有効にする (Enable This When No Hunt Members are Logged In) ]               | ハントメンバーがまったくログインまたは登録していない場合に、代替番号にコールをルーティングするには、このチェックボックスをオンにします。                                                                                                                                                  |
| [エージェントがない場合、この接続先にコールをルーティング (Route the Call to This Destination If there is No Agent) ]     | コールの時点で、使用可能なハントパイロットのメンバーがまったくいないか、または登録されていない場合に、コールをルーティングする電話番号を入力します。<br><br>コールキューイングでは、サイレント (DND) を非アクティブにして、さらにハントグループにログインしている場合、ハントパイロットメンバーは使用可能であると見なされます。その他のすべての場合、回線メンバーは、使用できないか、またはログオフしていると見なされます。 |

| フィールド                                                                                               | 説明                                                                |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| [ログイン中または登録済みハントメンバ不在時コーリングサーチスペース (No Hunt Members Logged In or Registered Calling Search Space) ] | ハント メンバーがまったくログインまたは登録していない場合に、コールを転送するために使用するコーリングサーチスペースを指定します。 |

## 回線グループインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 72: 回線グループインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                             | 説明                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                                      | インフラストラクチャ設定製品の名前。                                                                                                                                                                                                                         |
| [RNA復帰タイムアウト (RNA Reversion Timeout) ]            | コールの応答がない場合や、最初のハントオプション ([次のメンバーへ、その後ハントリスト内の次のグループへ (Try next member; then, try next group in Hunt List) ]) が選択されている場合に、この回線グループで次に対応可能またはアイドル状態のメンバー、または次の回線グループに対して、Cisco Unified Communications Manager がコールの分配を開始するまでの時間を、秒単位で入力します。 |
| [同報アルゴリズム (Distribution Algorithm) ]              | 回線グループ レベルで適用する同報アルゴリズムを選択します。                                                                                                                                                                                                             |
| [ハントアルゴリズム(無応答) (Hunt Algorithm No Answer) ]      | 指定の同報アルゴリズムに対して、回線グループの応答のないメンバーにコールが分散された場合に使用する Cisco Unified Communications Manager のハント オプションを選択します。                                                                                                                                   |
| [ハントアルゴリズム(話中) (Hunt Algorithm Busy) ]            | 指定の同報アルゴリズムに対して、回線グループのビジー状態のメンバーにコールが分散された場合に使用する Cisco Unified Communications Manager のハント オプションを選択します。                                                                                                                                  |
| [ハントアルゴリズム(使用不可) (Hunt Algorithm Not Available) ] | 指定の同報アルゴリズムに対して、回線グループの使用不可のメンバーにコールが分散された場合に使用する Cisco Unified Communications Manager のハント オプションを選択します。                                                                                                                                   |
| [電話番号 (Directory Numbers) ]                       | Cisco Unified Communications Manager にすでに存在する電話番号を入力します。                                                                                                                                                                                   |

## ロケーション インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 73: ロケーション インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                         | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                  | インフラストラクチャ設定製品の名前。                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [オーディオ帯域幅 (Audio Bandwidth) ] | <p>このロケーションと他のロケーションを結ぶリンク上のすべての音声コールで利用できる音声の最大帯域幅 (kbps 単位) を入力します。</p> <p>(注) このオプションは、Cisco Unified Communications Manager 9.0 以降だけで利用できます。Cisco Unified Communications Manager 8.x 以前のバージョンでは、[オーディオKB (Audio Kilobytes) ] フィールドが表示されます。</p>                                          |
| [ビデオ帯域幅 (Video Bandwidth) ]   | <p>このロケーションと他のロケーションを結ぶリンク上のすべてのビデオ コールで利用できるビデオの最大帯域幅 (kbps 単位) を入力します。無制限にする場合は 0 を指定し、まったく使用しない場合は -1 を指定します。</p> <p>(注) このオプションは、Cisco Unified Communications Manager 9.0 以降だけで利用できます。Cisco Unified Communications Manager 8.x 以前のバージョンでは、[ビデオKB (Video Kilobytes) ] フィールドが表示されます。</p> |
| [リンク (Links) ]                | このロケーションと隣接するロケーションの間の帯域幅。                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [ロケーション (Location) ]          | リストからロケーションを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [重要度 (Weight) ]               | ロケーション ペアの間有効パスを作成するときに、このリンクの相対的な優先度を入力します。有効パスは、指定可能なすべてのパスの累積の最小値を持ちます。有効な値は 0 ～ 100 です。                                                                                                                                                                                                |

## メディア リソース グループ インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 74: メディア リソース グループ インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド        | 説明                 |
|--------------|--------------------|
| [名前 (Name) ] | インフラストラクチャ設定製品の名前。 |

| フィールド                                              | 説明                                         |
|----------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| [説明 (Description) ]                                | 説明 (オプション)。                                |
| [使用可能なデバイス (Available Devices) ]                   | 選択できる使用可能なメディア リソース。                       |
| [MOHオーディオのマルチキャストです (Is Multicast for MOH Audio) ] | 保留音に対してマルチキャストを使用する場合は[はい (Yes) ]をクリックします。 |

## メディア リソース グループ リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 75: メディア リソース グループ リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                                        | 説明                        |
|--------------------------------------------------------------|---------------------------|
| [名前 (Name) ]                                                 | インフラストラクチャ設定製品の名前。        |
| [説明 (Description) ]                                          | 説明 (オプション)。               |
| [使用可能なメディアリソースグループ名 (Available Media Resource Group Names) ] | 選択できる使用可能なメディア リソース グループ。 |

## ミーティング番号/パターン設定製品のフィールド

表 76: ミーティング番号/パターン設定製品のフィールド

| フィールド                                        | 説明                                                                                                                                                               |
|----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [電話番号またはパターン (Directory Number or Pattern) ] | <p>ミーティング番号/パターンまたは番号の範囲を入力します。</p> <p>範囲を設定するには、角カッコ内でダッシュを使用し、その後に数値を入力します。たとえば、範囲 1000 ～ 1050 を設定するには、10[0-5]0 と入力します。</p> <p>このフィールドには、最大 24 文字まで入力できます。</p> |



| フィールド                                   | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [説明 (Description) ]                     | 説明には、最大 50 文字まで使用できます。二重引用符 (")、バックスラッシュ (\)、ダッシュ (-)、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、またはかぎカッコ (<>) は、使用できません。                                                                                                                                                                                                                           |
| [パーティション (Partition) ]                  | パーティションを使用してミートミー番号/パターンへのアクセスを制限するには、ドロップダウン リストから必要なパーティションを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [最小セキュリティレベル (Minimum Security Level) ] | <p>ドロップダウン リストから、このミートミー番号/パターンに対する最小セキュリティ レベルを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 非セキュアな電話を使用している参加者が会議に参加することをブロックするには、[認証のみ (Authenticated) ] を選択します。</li> <li>• 非セキュアな電機を使用している参加者が会議に参加することをブロックするには、[暗号化 (Encrypted) ] を選択します。</li> <li>• すべての参加者に会議への参加を許可するには、[非セキュア (Non Secure) ] を選択します。</li> </ul> |

## ルート グループ インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 77: ルート グループ インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                           | 説明                                      |
|---------------------------------|-----------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                    | インフラストラクチャ設定製品の名前。                      |
| [使用可能なメンバ (Available Members) ] | 選択できる使用可能なデバイス。                         |
| [ポート (Ports) ]                  | デバイスが個々に設定可能なポートをサポートしている場合は、ポートを選択します。 |

## ルート リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 78: ルート リスト インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                                                                 | 説明                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                                                                          | インフラストラクチャ設定製品の名前。                                   |
| [説明 (Description) ]                                                                   | 説明 (オプション) 。                                         |
| [Cisco Unified CMグループ (Cisco Unified CM Group) ]                                      | 使用可能な Cisco Unified Communications Manager グループのリスト。 |
| [このルートリストを有効にする (Enable this Route List) ]                                            | ルート リストを有効にする場合は [はい (Yes) ] を選択します。                 |
| [使用可能なメンバルートグループ (Available Member Route Group) ]                                     | 使用可能なルート グループのリスト。                                   |
| [完全修飾発呼側番号を使用する使用可能なメンバ (Available Member Use Fully Qualified Calling Party Number) ] | 使用可能なルート グループが、完全修飾された発信側電話番号を使用する必要があるかどうかを指定します。   |
| [メンバの発呼側トランスフォーメーションマスク (Member Calling Party Transformation Mask) ]                  | トランスフォーメーション マスク値。                                   |
| [メンバの発呼側プレフィックス番号 (Member Calling Party Prefix Digits) ]                              | プレフィックス番号。                                           |
| [使用可能なメンバの番号削除命令 (Available Member Discard Digits Instruction) ]                      | このルート リストに関連付ける番号の削除指示を選択します。                        |
| [メンバの着信側トランスフォーメーションマスク (Member Called Party Transformation Mask) ]                   | トランスフォーメーション マスク値。                                   |

| フィールド                                                   | 説明         |
|---------------------------------------------------------|------------|
| [メンバの着信側プレフィックス番号 (Member Called Party Prefix Digits) ] | プレフィックス番号。 |

## ルート パーティション インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 79: ルートパーティションインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド               | 説明                 |
|---------------------|--------------------|
| [名前 (Name) ]        | インフラストラクチャ設定製品の名前。 |
| [説明 (Description) ] | 説明 (オプション) 。       |

## ルート パターン インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 80: ルートパターンインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                           | 説明                                                   |
|---------------------------------|------------------------------------------------------|
| [パターン (Pattern) ]               | 数字とワイルドカードを含む有効なルート パターン。                            |
| [ルートパーティション (Route Partition) ] | パーティションを使用してルート パターンへのアクセスを制限する場合は、適切なパーティションを選択します。 |
| [説明 (Description) ]             | 説明 (オプション) 。                                         |
| [番号計画 (Numbering Plan) ]        | 番号計画。 デフォルト設定は北米番号計画 (NANP) です。                      |
| [ルートフィルタ (Route Filter) ]       | ルートパターンにワイルドカード@が含まれている場合は、ルートフィルタを選択できます。           |
| [MLPP 優先度 (MLPP Precedence) ]   | MLPP 優先設定。                                           |

| フィールド                                                             | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ゲートウェイ、ルートリスト、または SIP トランク (Gateway, Route List, or SIP Trunk) ] | <p>追加するルートパターンに関連するゲートウェイまたはルートリストを選択します。 リストに表示されない値を入力することもできます。 カスタム値を入力する場合は、ゲートウェイであるか、ルートリストであるか、または SIP トランクであるかを指定する必要があります。 名前の後に、次のいずれかを追加します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [GW] : ゲートウェイ</li> <li>• [RL] : ルート リスト</li> <li>• [ST] : SIP トランク</li> </ul> <p>たとえば、gatewayname[GW] となります。</p> |
| [ゲートウェイの宛先タイプがゲートウェイであるか (Is Gateway Destination Type Gateway) ]  | 宛先デバイスがゲートウェイかどうかを示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [緊急優先 (Urgent Priority) ]                                         | [はい (Yes) ]を選択すると、Cisco Unified Communications Manager がコールをすぐにルーティングする必要がある場合に桁間タイミングが中断されます。                                                                                                                                                                                                                         |
| [オーバーラップ送信を許可 (Allow Overlap Sending) ]                           | ルートパターンで [オーバーラップ送信を許可 (Allow Overlap Sending) ] フラグを設定するには、このチェック ボックスをオンにします。                                                                                                                                                                                                                                        |
| [ブロックが有効 (Block Enabled) ]                                        | ブロックを有効または無効にします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [リリース目的 (Release Cause) ]                                         | [ブロックが有効 (Block Enabled) ] フィールドの設定に依存します。 リリース目的を選択する場合は、[ブロックが有効 (Block Enabled) ] を [はい (True) ] に設定する必要があります。                                                                                                                                                                                                      |
| [コールの分類 (Call Classification) ]                                   | このルートパターンを通じてルーティングされるコールが、ローカルネットワーク上にない ([オフネット (OffNet) ]) と見なされるか、ある ([オンネット (OnNet) ]) と見なされるのかを示します。                                                                                                                                                                                                             |
| [デバイスの上書きを許可 (Allow Device Override) ]                            | [はい (Yes) ] を選択した場合は、関連するゲートウェイまたはトランクに設定された [コールの分類 (Call Classification) ] 設定に基づいて、発信コールが [オフネット (OffNet) ] または [オンネット (OnNet) ] と見なされます。                                                                                                                                                                            |

| フィールド                                                                  | 説明                                                                                               |
|------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [外部ダイヤルトーンの提供 (Provide Outside Dial Tone) ]                            | [はい (Yes) ]を選択した場合は、外部ダイヤルトーンが提供されます。                                                            |
| [発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask) ]   | 発呼者回線の ID (CLID) に完全な外線電話番号を使用する場合は [はい (Yes) ] を選択します。                                          |
| [発呼側トランスフォーメーションマスク (Calling Party Transformation Mask) ]              | トランスフォーメーションマスク値。                                                                                |
| [発呼側プレフィックス番号 (発信コール) (Calling Party Prefix Digits (Outgoing Calls)) ] | プレフィックス番号。                                                                                       |
| [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation) ]                         | このルートパターンについて、Cisco Unified Communications Manager で着信側電話のディスプレイへの発信側電話番号の表示を許可するか、禁止するのかを指定します。 |
| [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation) ]                                 | このルートパターンについて、Cisco Unified Communications Manager で着信側電話のディスプレイへの発信側の名前の表示を許可するか、禁止するのかを指定します。  |
| [接続側回線IDの表示 (Connected Line ID Presentation) ]                         | このルートパターンについて、Cisco Unified Communications Manager で発信側電話のディスプレイへの接続先電話番号の表示を許可するか、禁止するのかを指定します。 |
| [接続先名の表示 (Connected Name Presentation) ]                               | このルートパターンについて、Cisco Unified Communications Manager で発信側電話のディスプレイへの接続先の名前の表示を許可するか、禁止するのかを指定します。  |
| [着信側での番号の削除(発信コール) (Called Party Discard Digits (Outgoing Calls)) ]    | このルートパターンに関連付ける番号の削除指示を選択します。                                                                    |
| [着信側トランスフォーメーションマスク (Called Party Transformation Mask) ]               | トランスフォーメーションマスク値。                                                                                |

| フィールド                                                                 | 説明         |
|-----------------------------------------------------------------------|------------|
| [着信側プレフィックス番号 (発信コール) (Called Party Prefix Digits (Outgoing Calls)) ] | プレフィックス番号。 |

## サービス プロファイル インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 81: サービス プロファイル インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                               | 説明                                                                                                                                                    |
|-------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                        | サービス プロファイルの名前を入力します。 最大文字数 : 50 (ASCII のみ)<br>使用できる値 : 引用符 (")、山カッコ (<>)、バックスラッシュ (\)、アンパサンド (&)、およびパーセント記号 (%) 以外のすべての文字                            |
| [説明 (Description) ]                 | (オプション) 複数のサービス プロファイルを設定している場合は、それぞれのサービス プロファイルを区別しやすくするための説明を入力します。<br>使用できる値 : 引用符 (")、山カッコ (<>)、バックスラッシュ (\)、アンパサンド (&)、およびパーセント記号 (%) 以外のすべての文字 |
| [デフォルトのプロファイル (Default Profile) ]   | このサービス プロファイルをシステムのデフォルト オプションにする場合に、このチェックボックスをオンにします。デフォルト サービス プロファイルを指定すると、サービス プロファイルが関連付けられていないエンドユーザは自動的にデフォルト サービス プロファイルの設定値を継承します。          |
| [ボイスメールプロファイル (VoiceMail Profile) ] |                                                                                                                                                       |
| [プライマリ (Primary) ]                  | このサービス プロファイルに関連付けるプライマリ ボイスメール サーバを選択します。                                                                                                            |
| [セカンダリ (Secondary) ]                | 該当する場合に、セカンダリ ボイスメール サーバを選択します。                                                                                                                       |
| [ターシャリ (Tertiary) ]                 | 該当する場合に、ターシャリ ボイスメール サーバを選択します。                                                                                                                       |

|                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ボイスメールサービスのクレデンシャルソース (Credentials source for voicemail service) ] | ボイスメールサービスのユーザクレデンシャルを別のサービスと共有する場合は、該当するサービスを選択します。選択したサービスからユーザクレデンシャルが自動的に同期されます。<br>デフォルト設定 : [未設定 (Not set) ]                                                                                                                                                                      |
| [メールストアプロファイル (Mailstore Profile) ]                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [プライマリ (Primary) ]                                                  | このサービスプロファイルに関連付けるプライマリ メールストア サーバを選択します。                                                                                                                                                                                                                                               |
| [セカンダリ (Secondary) ]                                                | 該当する場合に、セカンダリ メールストア サーバを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [ターシャリ (Tertiary) ]                                                 | 該当する場合に、ターシャリ メールストア サーバを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [受信トレイフォルダ (Inbox folder) ]                                         | 新しいメッセージを保存するメールストアサーバ上のフォルダの名前。この値は、メールストアサーバがデフォルトフォルダとは異なるフォルダ名を使用する場合に限り変更してください。<br>デフォルト : [受信トレイ (Inbox) ]                                                                                                                                                                       |
| [ごみ箱フォルダ (Trash Folder) ]                                           | 削除されたメッセージを保存するメールストアサーバ上のフォルダの名前。この値は、メールストアサーバがデフォルトフォルダとは異なるフォルダ名を使用する場合に限り変更してください。<br>デフォルト : [削除済みの項目 (Deleted Items) ]                                                                                                                                                           |
| [ポーリング間隔(秒) (Polling Interval (in seconds)) ]                       | メールストアでアイドルがサポートされない場合、または接続エラーが発生した場合に、新しいボイス メッセージの IMAP サーバを次回ポーリングするまでに許容される時間 (秒単位)。<br>使用できる値 : 60 ~ 900<br>デフォルト : 60                                                                                                                                                            |
| [デュアルフォルダモードを許可 (Allow dual folder mode) ]                          | このデュアルフォルダ設定は、IMAP UIDPLUS 拡張 (RFC 2359 および 4315) をサポートするメールストアで使用するために、デフォルトでオンになっています。デフォルトで、Client Services Framework (CSF) は UIDPLUS がサポートされていないかどうかを検出し、自動的にシングルフォルダモードに復帰します。UIDPLUS がサポートされていないことがわかっており、システムで強制的にシングルフォルダモードを使用する場合は、このチェックボックスをオフにします。<br>デフォルト : [はい (True) ] |

|                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [会議プロファイル (Conferencing Profile) ]                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| [プライマリ (Primary) ]                                                        | このサービスプロファイルに関連付けるプライマリ会議サーバを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [セカンダリ (Secondary) ]                                                      | 該当する場合に、セカンダリ会議サーバを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [ターシャリ (Tertiary) ]                                                       | 該当する場合に、ターシャリ会議サーバを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [サーバ証明書の検証 (Server Certificate Verification) ]                            | <p>このプロファイルに関連する会議サーバの TLS 接続サポート方法を指定します。この設定は、この会議プロファイルに対してリストアップされた会議サーバの TLS 証明に使用されます。次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [任意の証明書 (Any Certificate) ] : Cisco Jabber はすべての有効な証明書を受け入れます。</li> <li>• [自己署名またはキーストア (Self-signed or Keystore) ] : 証明書に自己署名されている場合や、署名する認証局の証明書がローカル信頼ストアである場合に、Cisco Jabber は証明書を受け付けます。</li> </ul> <p>(注) キーストアとは、認証キーと暗号キーが保存されているファイルです。</p> <p>Cisco Jabber は、キーストア内で定義された証明書だけを受け入れます。証明書または認証局が署名した証明書を、ローカル信頼ストアにインポートする必要があります。</p> |
| [Web会議サービスのクレデンシャルソース (Credentials source for web conferencing service) ] | <p>会議サービスのユーザクレデンシャルを別のサービスと共有する場合は、該当するサービスを選択します。選択したサービスからユーザ クレデンシャルが自動的に同期されます。</p> <p>デフォルト設定 : [未設定 (Not set) ]</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| [ディレクトリプロファイル (Directory Profile) ]                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| [プライマリ (Primary) ]                                                        | このサービスプロファイルに関連付けるプライマリディレクトリサーバを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [セカンダリ (Secondary) ]                                                      | 該当する場合に、セカンダリ会議サーバを選択します。バックアップディレクトリサーバを設定しない場合、最初のサーバで失敗すると、Cisco Jabber クライアントのディレクトリ検索を実行できません。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [ターシャリ (Tertiary) ]                                                       | 該当する場合に、ターシャリ会議サーバを選択します。バックアップディレクトリサーバを設定しない場合、最初のサーバで失敗すると、Cisco Jabber クライアントのディレクトリ検索を実行できません。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |



|                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [連絡先の解決にUDSを使用する (Use UDS for contact resolution) ]                   | 外部ディレクトリの代わりに、Cisco Unified Communications Managerで指定されたUDSサービスを使用してディレクトリ検索を行う場合は、このチェックボックスをオンにします。                                                                                                                           |
| [ログオンユーザのクレデンシャルを使用する (Use Logged On User Credential) ]               | このチェックボックスをオンにすると、匿名クエリーが実行されなくなり、LDAP サーバへのユーザのログイン時に資格情報の入力が必要付けられます。                                                                                                                                                         |
| [ユーザ名 (Username) ]                                                    | LDAP サーバでクエリーを実行する権限を持つユーザIDの識別名を useraccount@domain.com という形式で入力します。<br>最大長：128                                                                                                                                                |
| [パスワード (Password) ]                                                   | LDAP サーバでクエリーを実行する権限を持つユーザのパスワードを入力します。<br>最大長：128                                                                                                                                                                              |
| [検索ベース (Search Base) ]                                                | このフィールドでは、Cisco Unified Personal Communicator の連絡先検索クエリーを、LDAP ディレクトリの特定の部分に絞り込むことができます。LDAP ユーザを設定した LDAP サーバのコンテナまたはディレクトリを入力します。Microsoft Active Directory 統合を使用した検索ベースの例：<br>cn=users,DC=EFT-LA,DC=cisco,DC=com。<br>最大長：256 |
| [すべての検索ベースで再帰検索を実行する (Recursive Search on All Search Bases) ]         | 検索ベースから始まるディレクトリの再帰検索を実行するにはこのチェックボックスをオンにします。再帰検索を実行すると、Cisco Unified Personal Communicator の連絡先検索クエリーにより、特定の検索コンテキスト (検索ベース) からすべてのLDAP ディレクトリ ツリーを検索できます。                                                                    |
| [検索タイムアウト(秒) (Search Timeout (seconds)) ]                             | 検索のデフォルトのタイムアウトを設定します (デフォルトは5 秒間)。                                                                                                                                                                                             |
| [基本フィルタ(拡張ディレクトリ専用) (Base Filter (Only used for Advance Directory)) ] | このオプションは、Active Directory に対して実行するクエリーで取得するオブジェクトのタイプが、ユーザオブジェクトではない場合にのみ使用します。<br>最大長：256                                                                                                                                      |
| [IM and Presenceプロファイル (IM and Presence Profile) ]                    |                                                                                                                                                                                                                                 |
| [プライマリ (Primary) ]                                                    | このサービスプロファイルを関連付ける IM and Presence サーバを選択します。                                                                                                                                                                                   |
| [セカンダリ (Secondary) ]                                                  | 該当する場合に、セカンダリ会議サーバを選択します。                                                                                                                                                                                                       |
| [ターシャリ (Tertiary) ]                                                   | 該当する場合に、ターシャリ会議サーバを選択します。                                                                                                                                                                                                       |

|                            |                                        |
|----------------------------|----------------------------------------|
| [CTIプロファイル (CTI Profile) ] |                                        |
| [プライマリ (Primary) ]         | このサービスプロファイルに関連付けるプライマリ CTI サーバを選択します。 |
| [セカンダリ (Secondary) ]       | 該当する場合に、セカンダリ CTI サーバを選択します。           |
| [ターシャリ (Tertiary) ]        | 該当する場合に、ターシャリ CTI サーバを選択します。           |

## SIP トランク インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 82: SIP トランク インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                              | 説明                                                                                                                                                  |
|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [AAR グループ (AAR Group) ]            | 自動代替ルーティング (AAR) グループとは、帯域幅不足によりブロックされたコールをルーティングするときに使用されるプレフィックス番号です。<br><br>AAR グループ設定を [なし (None) ] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。             |
| [コールの分類 (Call Classification) ]    | このトランクを使用している着信コールがネットワーク上にない ([オフネット (OffNet) ]) と見なされるか、ある ([オンネット (OnNet) ]) と見なされるか、またはシステムのデフォルト設定を使用するのかを指定します。                               |
| [共通デバイス設定 (Common Device Config) ] | このトランクに割り当てる共通デバイス設定を選択します。<br><br>共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。 共通デバイス設定は、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration) ] ページで設定します。 |

| フィールド                                                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [接続側トランスフォーメーションCSS (Connected Party Transformation CSS) ] | <p>DID や E164 番号のような別のフォーマットで接続先の番号を表示するには、デバイスで着信側番号を変換することを選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager では、200 OK メッセージや通話中の更新/再招待メッセージなど、さまざまな SIP メッセージのヘッダーに変換済みの番号が組み込まれます。</p> <p>選択した接続側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる接続側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>[接続側トランスフォーメーションCSS (Connected Party Transformation CSS) ] を [なし (None) ] と設定した場合は、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[接続側トランスフォーメーションCSS (Connected Party Transformation CSS) ] を、ルーティングに使用されていない非ヌルパーティションに設定してください。</p> |
| [デバイス名 (Device Name) ]                                     | オブジェクト名。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| [説明 (Description) ]                                        | 説明 (オプション) 。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [デバイスプール (Device Pool) ]                                   | 使用可能なデバイス プールのリスト。デバイス プールは、このデバイスのプロパティのコレクション (Unified CM グループ、日時グループ、リージョン、デバイスの自動登録用コーリング サーチ スペースなど) を指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| [ロケーション (Location) ]                                       | このロケーションと中央のロケーション (またはハブ) との間のコールに使用可能な総帯域幅を指定します。ロケーション設定が Hub_None の場合は、使用可能な帯域幅は無制限です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List) ]             | メディア リソース グループの優先順位付けされたリストを提供します。アプリケーションは、[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List) ] で定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから必要なメディア リソース (保留音サーバなど) を選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

| フィールド                                                     | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required) ] | <p>H.323 でサポートされない機能（保留や転送など）を実装するためにメディア ターミネーション ポイント（MTP）を使用するかどうかを示します。</p> <p>メディア ターミネーション ポイントを使用して機能を実装する場合は [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required) ] チェックボックスをオンにします。メディア ターミネーション ポイントを使用して機能を実装しない場合は [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required) ] チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.323 クライアントと、H.245 Empty Capabilities Set をサポートしていない H.323 デバイスの場合、または、メディア ストリーミングを 1 つのソースで終了させる場合にのみオンにしてください。</p> <p>このチェックボックスが選択されて MTP が必須になっている場合に、いずれかのデバイスがビデオエンドポイントのときは、コールはオーディオだけとして動作します。</p> |
| [ビデオコールをオーディオとして再試行 (Retry Video Call as Audio) ]         | <p>コールを受信するビデオ エンドポイントに適用されます。トランクの場合は、この設定が関係するのは Cisco Unified Communications Manager から受信されるコールであり、ワイドエリア ネットワーク（WAN）から受信されるコールには関係しません。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。オンの場合、ビデオコールとして接続できないコールは、コール制御に送られて再ルーティングされる前に、即座にオーディオ コールとして再試行されます。</p> <p>このチェックボックスをオフにした場合は、ビデオとして接続できないビデオ コールがオーディオ コールとしての接続を試行されることはありません。そのコールはコール制御に送られ、コール制御によって自動代替ルーティング（AAR）やルート/ハント リストを介してルーティングされます。</p>                                                                                                                                      |
| [不在ポート (Unattended Port) ]                                | <p>オンの場合は、不在ポート（たとえばボイスメールポート）へのコールのリダイレクトや転送が可能になります。</p> <p>デフォルト値はオフです。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

| フィールド                     | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [SRTP 許可 (SRTP Allowed) ] | <p>Cisco Unified Communications Manager で、トランクを経由したセキュア コールおよび非セキュア コールを許可する場合に選択します。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、Cisco Unified Communications Manager とトランクとの SRTP ネゴシエーションは行われず、RTP が使用されます。</p> <p>このチェックボックスをオンにする場合は、IPSec を設定することをお勧めします。これは、キーなどのセキュリティ関連の情報がコールのネゴシエーション中に公開されるのを防ぐためです。</p> <p>IPSec が正しく設定されていない場合は、Cisco Unified Communications Manager とゲートウェイの間のシグナリングがセキュアではなくなると考えてください。</p> |

| フィールド                                                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [信頼されたりレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point) ]                         | <p>Cisco Unified Communications Manager によってこのメディア エンドポイントとともに信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを、リストから選択します。 次の値のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デフォルト (Default) ] : このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [信頼されたりレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point) ] 設定を使用します。</li> <li>• [オフ (Off) ] : このデバイスでの TRP の使用を無効にします。 この設定は、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [信頼されたりレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point) ] 設定よりも優先されます。</li> <li>• [オン (On) ] : このデバイスでの TRP の使用を有効にします。 この設定は、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [信頼されたりレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point) ] 設定よりも優先されます。</li> </ul> <p>TRP デバイスは MTP または TRP というラベルが付いているトランスコーダ デバイスを指定します。</p> <p>複数のリソースがエンドポイントに必要な場合 (たとえばトランスコーダや RSVPAgent) 、Cisco Unified Communications Manager は関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を選択します。</p> <p>TRP と MTP の両方がエンドポイントに必要な場合は、TRP が必須の MTP として使用されます。</p> <p>TRP と RSVPAgent の両方がエンドポイントに必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>TRP とトランスコーダの両方がエンドポイントに必要な場合、Cisco Unified Communications Manager はまず、TRP としても指定可能なトランスコーダを検索します。</p> |
| [発呼側の不明な着信番号プレフィックス (Incoming Calling Party Unknown Number Prefix) ] | <p>[デフォルト (Default) ] に設定されている場合、コール プロセッサは次レベルの設定 (デバイス プール/サービス パラメータ) のプレフィックスを使用します。 それ以外の場合は設定された値が使用されます。 ただし、フィールドが空であるとプレフィックスは割り当てられません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

| フィールド                             | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [MLPP ドメイン (MLPP Domain) ]        | <p>このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。このフィールドが空の場合は、デバイスの MLPP ドメインはデバイス プールに対して設定された値から継承されます。</p> <p>デバイス プールに [MLPPドメイン (MLPP Domain) ] の設定がない場合は、このデバイスの MLPP ドメインは MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータの設定値から継承されます。</p>                                                                                                                                                                        |
| [リモート パーティ ID (Remote-Party-Id) ] | <p>Cisco Unified Communications Manager からリモートの接続先への発信 SIP メッセージの中で、リモートパーティ ID (RPID) ヘッダーを送信することを許可します。[はい (Yes) ] を選択すると、SIP トランクによって常に RPID ヘッダーが送信されます。</p>                                                                                                                                                                                                                                |
| [アサート済 ID (Asserted-Identity) ]   | <p>SIP メッセージの中でアサート済タイプヘッダーおよび SIP プライバシー ヘッダーを送信することを許可します。</p> <p>[はい (Yes) ] を選択すると、SIP トランクによって常にアサート済タイプヘッダーが送信されます。SIP トランクによって SIP プライバシーヘッダーが送信されるかどうかは、[SIPプライバシー (SIP Privacy) ] の設定によって決まります。</p> <p>[いいえ (No) ] を選択した場合は、SIP トランクの SIP メッセージにはアサート済タイプヘッダーおよび SIP プライバシーヘッダーは含まれません。</p> <p>詳細については、この表の [アサート済タイプ (Asserted-Type) ] と [SIPプライバシー (SIP Privacy) ] の説明を参照してください。</p> |

| フィールド                       | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [アサート済タイプ (Asserted-Type) ] | <p>SIP トランクのメッセージに追加するアサート済 ID のタイプを指定します。</p> <p>次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• [デフォルト (Default) ] : デフォルト値を表します。 SIP トランクによって送信されるヘッダーのタイプは、SIP トランクが Cisco Unified Communications Manager コール制御から受信したスクリーニング表示情報によって決まります。</li><li>• [PAI] : プライバシー アサート済 ID (PAI) ヘッダーが発信 SIP トランク メッセージで送信されます。 この値は、Cisco Unified Communications Manager から受信したスクリーニング表示の値よりも優先されます。</li><li>• [PPI] : プライバシー優先 ID (PPI) ヘッダーが発信 SIP トランク メッセージで送信されます。 この値は、Cisco Unified Communications Manager から受信したスクリーニング表示の値よりも優先されます。</li></ul> <p>(注) これらのヘッダーが送信されるのは、[アサート済 ID (Asserted Identity) ] チェックボックスがオンの場合だけです。</p> |



| フィールド                      | 説明 |
|----------------------------|----|
| [SIPプライバシー (SIP Privacy) ] |    |

| フィールド | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <p>SIP トランク メッセージに追加する SIP プライバシー ヘッダーのタイプを指定します。</p> <p>次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デフォルト (Default) ] : デフォルト値を表します。 SIP トランクが Cisco Unified Communications Manager コール制御から受信した名前と番号表示の値によって SIP プライバシー ヘッダーが構成されます。</li> </ul> <p>次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 名前と番号の表示が禁止されている場合は、SIP トランクによって SIP プライバシー ヘッダーが送信されます。</li> <li>◦ 名前と番号の表示が許可されている場合は、SIP トランクによってプライバシー ヘッダーは送信されません。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [なし (None) ] : SIP トランクによって Privacy:none というヘッダーが追加されます。これは、表示が許可されることを意味します。 この値は、Cisco Unified Communications Manager から受信した表示情報の値よりも優先されます。</li> <li>• [ID] : SIP トランクによって Privacy:id というヘッダーが追加されます。これは、名前と番号の両方とも表示が禁止されることを意味します。</li> </ul> <p>この値は、Cisco Unified Communications Manager から受信した表示情報の値よりも優先されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ID Critical] : SIP トランクによって Privacy:id;critical というヘッダーが追加されます。これは、名前と番号の両方とも表示が禁止されることを意味します。</li> </ul> <p>critical というラベルは、このメッセージに対して要求されたプライバシー サービスが重要であることを意味します。そのプライバシーサービスをネットワークが実行できない場合は、要求は拒否されます。</p> <p>この値は、Cisco Unified Communications Manager から受信した表示情報の値よりも優先されます。</p> <p>(注) これらのヘッダーが送信されるのは、[アサート済 ID (Asserted Identity) ] チェック</p> |

| フィールド                                         | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                               | クボックスがオンの場合だけです。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| [有意な数字 (Significant Digits) ]                 | <p>着信コールで保持される末尾からの桁数を表します。この設定は、着信コールの処理に使用されます。ここで指定された桁数は、H.323 デバイスへの着信コールをルーティングするときに使用されます。</p> <p>収集する有意な数字の桁数 (0 ～ 32) を選択します。Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。</p>                                                                                                                                                   |
| [接続側IDの表示 (Connected Party ID Presentation) ] | <p>Cisco Unified Communications Manager は、接続先回線 ID の表示 (COLP) を補足サービスとして使用して、接続先番号を発信側に通知します。SIP トランク レベルの設定は、コール単位の設定よりも優先されます。</p> <p>デフォルト値は [デフォルト (Default) ] で、「許可」を意味します。Cisco Unified Communications Manager から接続先回線情報を送信する場合は、[デフォルト (Default) ] を選択してください。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager から接続先回線情報を送信しない場合は、[非許可 (Restricted) ] を選択してください。</p> |
| [接続先名の表示 (Connected Name Presentation) ]      | <p>Cisco Unified Communications Manager は、接続先名の表示 (CONP) を補足サービスとして使用して、接続先の名前を発信側に通知します。SIP トランク レベルの設定は、コール単位の設定よりも優先されます。</p> <p>デフォルト値は [デフォルト (Default) ] で、「許可」を意味します。Cisco Unified Communications Manager から接続先名情報を送信する場合は、[デフォルト(Default)] を選択してください。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager から接続先名情報を送信しない場合は、[非許可(Restricted)] を選択してください。</p>           |
| [コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ]        | 使用可能なコーリング サーチ スペース。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

| フィールド                                                                                 | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space) ]                                        | 帯域幅不足が原因でコールがブロックされた場合に、収集された (発信側) 番号の他のルーティング方法を決定するために検索される、ルート パーティションのコレクションを指定します。                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [プレフィックス DN (Prefix DN) ]                                                             | 着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号。                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| [Diversion ヘッダー配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Diversion Header Delivery - Inbound) ] | <p>[はい (Yes) ] (デフォルト) は、Cisco Unified Communications Manager への着信 INVITE メッセージの中のリダイレクト番号を受け入れる場合に選択します。</p> <p>[いいえ (No) ] は、Cisco Unified Communications Manager への着信 INVITE メッセージの中のリダイレクト番号を除外する場合に選択します。</p> <p>リダイレクト番号を使用するのは、音声メッセージング統合を行う場合だけです。 リダイレクト番号をサポートするように音声メッセージング システムが設定されている場合は、[はい (Yes) ] を選択してください。</p>       |
| [着信側トランスフォーメーション CSS (Called Party Transformation CSS) ]                              | <p>デバイスに表示される着信側番号をローカライズできます。 選択した着信側トランスフォーメーション CSS には、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーション パターンが含まれている必要があります。</p> <p>[着信側トランスフォーメーション CSS (Called Party Transformation CSS) ] を [なし (None) ] と設定した場合は、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。 [着信側トランスフォーメーション CSS (Called Party Transformation CSS) ] は、必ず、ルーティングに使用されていない Null 以外のパーティションに設定してください。</p> |
| [デバイスプールの着信側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Called Party Transformation CSS) ]  | <p>[はい (Yes) ] を選択した場合は、このデバイスに割り当てられているデバイス プール内で設定された着信側トランスフォーメーション CSS が使用されます。</p> <p>[いいえ (No) ] を選択した場合は、[トランク設定 (Trunk Configuration) ] ページでデバイスに対して設定された着信側トランスフォーメーション CSS が使用されます。</p>                                                                                                                                        |

| フィールド                                                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [発呼側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS) ] | <p>デバイスに表示される発呼側番号をローカライズできます。選択した発呼側トランスフォーメーションCSSに、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>コールを発信する前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。</p> <p>[発呼側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS) ]を[なし(None)]に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。</p> <p>[発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern) ]は、必ず、ルーティングに使用されていない Null 以外のパーティションに設定してください。</p>                                                                                                                                     |
| [発呼側の選択 (Calling Party Selection) ]                      | <p>ゲートウェイ上の発信コールで送信される電話番号を選択します。</p> <p>次のオプションは、どの電話番号が送信されるのかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [発信元 (Originator) ] : 発信側デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• [最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number) ] : リダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• [最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number) ] : 最後にコールをリダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• [最初のリダイレクト番号(外部) (First Redirect Number (External)) ] : リダイレクト側デバイスの外部電話番号を送信します。</li> <li>• [最後のリダイレクト番号(外部) (Last Redirect Number (External)) ] : コールを最後にリダイレクトするデバイスの外部電話番号を送信します。</li> </ul> |

| フィールド                                          | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation) ] | <p>Cisco Unified Communications Manager は、発呼者回線 ID の表示 (CLIP) を補足サービスとして使用して、着信側電話の画面での発信側番号表示を制御します。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• [デフォルト (Default) ] : 表示設定を変更しない場合に選択します。</li><li>• [許可 (Allowed) ] : 発信側番号情報を表示する場合に選択します。</li><li>• [非許可 (Restricted) ] : 発信側番号情報を表示しない場合に選択します。</li></ul>                                                                                                |
| [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation) ]         | <p>Cisco Unified Communications Manager は、発呼者名の表示 (CNIP) を補足サービスとして使用して発呼者の名前を通知します。 SIP トランク レベルの設定は、コール単位の設定よりも優先されます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• [デフォルト (Default) ] : 表示設定を変更しない場合に選択します。</li><li>• [許可 (Allowed) ] : Cisco Unified Communications Manager から発呼者名情報を送信する場合に選択します。</li><li>• [非許可 (Restricted) ] : Cisco Unified Communications Manager から発呼者名情報を表示しない場合に選択します。</li></ul> |

| フィールド                                                                                  | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [発信者 ID DN (Caller ID DN) ]                                                            | <p>トランクからの発信コールで、発信者 ID をフォーマットするのに使用するパターンを、0 ～ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 555XXXX：可変発信者 ID。X は内線番号を表します。市外局番が指定されていない場合は、セントラル オフィスによって番号にエリア コードが付加されます。</li> <li>• 5555000：固定発信者 ID。この形式は、コールを発信した内線番号ではなく社内番号を送信する場合に使用します。市外局番が指定されていない場合は、セントラル オフィスによって番号にエリア コードが付加されます。</li> </ul> |
| [発信者名 (Caller Name) ]                                                                  | <p>発信元 SIP デバイスから受信した発信者名よりも優先させる発信者名を入力します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| [Diversionヘッダー配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Diversion Header Delivery - Outbound) ] | <p>[はい (Yes) ] が選択されている場合は、Cisco Unified Communications Manager からの発信 INVITE メッセージにリダイレクト番号が追加されます。これは、コールが転送されるときに元の着信側番号とリダイレクト理由を示すためです。</p> <p>[いいえ (No) ] が選択されている場合は、最初のリダイレクト番号とリダイレクト理由は発信 INVITE メッセージから除外されます。</p> <p>リダイレクト番号が使用されるのは、音声メッセージング統合を行う場合だけです。リダイレクト番号をサポートするように音声メッセージング システムが設定されている場合は、[はい (Yes) ] を選択してください。</p>        |

| フィールド                                           | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [接続先アドレス (Destination Address) ]                | <p>このトランクが通信する相手であるリモート SIP ピアです。このフィールドに指定できる値は、有効な V4 IP アドレス、完全修飾ドメイン名、または DNS SRV レコードです ([接続先アドレスはSRV (Destination Address is an SRV) ] フィールドで [はい (Yes) ] が選択された場合だけ)。</p> <p>SIP トランクが受け入れる着信要求は、このトランクに関連付けられた SIP トランク セキュリティ プロファイルで指定された接続先アドレスおよび着信ポートからのものだけです。</p> <p>リモート端が Cisco Unified Communications Manager クラスタである場合は、このフィールドで DNS SRV を選択することをお勧めします。DNS SRV レコードには、クラスタ内のすべての Cisco Unified Communications Manager が含まれている必要があります。</p> |
| [接続先アドレスは SRV (Destination Address is an SRV) ] | 設定済みの [接続先アドレス (Destination Address) ] が SRV レコードであることを指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [接続先ポート (Destination Port) ]                    | <p>接続先ポートを入力します。1024 ~ 65535 の範囲内のポートを入力してください (デフォルト値は 5060)。</p> <p>同じポート番号を複数のトランクに対して指定できます。</p> <p>接続先アドレスが DNS SRV ポートである場合は、値を入力しないでください。デフォルトのポート番号 5060 は、SIP ポートを表します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| [位置情報 (GeoLocation) ]                           | このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報。設定済みの位置情報を選択することもできます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| [位置情報フィルタ (Geo Location Filter) ]               | デバイスに位置情報フィルタを指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| [着信ポート (Incoming Port) ]                        | 着信ポート番号。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [発信転送タイプ (Outgoing Transport Type) ]            | 発信転送のタイプ (TCP または UDP)。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |



| フィールド                                                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [MTP 優先発信コーデック (MTP Preferred Originating Codec) ]       | <p>優先発信コーデックを指定します。</p> <p>G.711/G.729 コーデックを SIP トランクとともに使用するよう設定する場合は、G.711/G.729 コーデックに対応しているハードウェア MTP またはトランスコーダを使用する必要があります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| [位置情報の送信 (Send Geolocation Information) ]                | <p>関連するデバイスの位置情報を送信します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| [SIP トランクセキュリティプロファイル (SIP Trunk Security Profile) ]     | <p>SIP トランクに適用するセキュリティプロファイルを選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定されるすべての SIP トランクにセキュリティプロファイルを適用する必要があります。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager をインストールすると、事前に定義された非セキュアの SIP トランク セキュリティプロファイルが自動登録用に作成されます。</p> <p>SIP トランクのセキュリティ機能を有効にするには、新しいセキュリティプロファイルを設定し、SIP トランクに適用します。 トランクがセキュリティをサポートしていない場合は、非セキュア プロファイルを選択します。</p> <p>プロファイルに含まれている設定を表示するには、Cisco Unified Communications Manager で [システム (System) ] &gt; [セキュリティプロファイル (Security Profile) ] &gt; [SIP トランクセキュリティプロファイル (SIP Trunk Security Profile) ] を選択します。</p> <p>セキュリティ プロファイルの設定方法については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。</p> |
| [再ルーティング用コーリングサーチスペース (Rerouting Calling Search Space) ] | <p>SIP ユーザ (A) が別のユーザ (B) とのコールを第三者 (C) に転送 (REFER) できるかどうかを指定します。転送が完了すると、B と C が接続されます。 この場合に使用される再ルーティング用コーリングサーチスペースは、最初の SIP ユーザ (A) のものです。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

| フィールド                                                                     | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|---------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [アウトオブダイアログREFERコーリングサーチスペース (Out-Of-Dialog Refer Calling Search Space) ] | Cisco Unified Communications Manager によって SIP ユーザ (A) への着信コール (B) を第三者 (C) に転送 (REFER) する処理を、SIP ユーザ (A) の関与なしで行う場合に使用されます。この場合に使用されるアウトオブダイアログコーリングサーチスペースは、SIP ユーザ (A) のものです。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| [パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode) ]                                     | <p>暗号化のトラブルシューティング専用です。パケットキャプチャは、CPU 使用量の増大や、コール処理の中断の原因となることがあります。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [なし (None) ] : このオプションはデフォルト設定です。パケットキャプチャが実行されていないことを示します。この設定は、パケットキャプチャの完了後に行います。</li> <li>• [バッチ処理モード (Batch Processing Mode) ] : Cisco Unified Communications Manager が、復号化されたメッセージや暗号化されていないメッセージをファイルに書き込み、システムが各ファイルを暗号化します。</li> </ul> <p>システムでは、毎日新しいファイルが新しい暗号キーを使用して作成されます。Cisco Unified Communications Manager はファイルを 7 日間保存し、さらにファイルを暗号化するキーを安全な場所に保存します。Cisco Unified Communications Manager は、PktCap 仮想ディレクトリにファイルを保存します。</p> <p>1 つのファイルには、タイムスタンプ、送信元 IP アドレス、送信元 IP ポート、接続先 IP アドレス、パケットプロトコル、メッセージの長さ、およびメッセージが含まれます。</p> <p>IREC ツールでは、HTTPS、管理者のユーザ名とパスワード、および指定日を使用して、キャプチャされたパケットを含む 1 つの暗号化ファイルを要求します。</p> <p>同様にこのツールでは、暗号化ファイルを復号化するためのキー情報を要求します。</p> <p>パケットキャプチャを有効または無効にした後に、トランクをリセットする必要はありません。</p> |

| フィールド                                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration) ] | <p>暗号化のトラブルシューティング専用です。パケットキャプチャは、CPU 使用量の増大や、コール処理の中断の原因となることがあります。</p> <p>このフィールドは、パケットキャプチャの 1 つのセッションに割り当てられた最大分数を指定します。デフォルト設定は 0 で、範囲は 0 ～ 300 分です。</p> <p>パケットキャプチャを開始するには、フィールドに 0 以外の値を入力します。パケットキャプチャが完了すると、値「0」が表示されます。</p>                                                                                                                             |
| [プレゼンスグループ (Presence Group) ]            | <p>Unified Presence の機能を設定します。SIP トランクに対するプレゼンスグループを選択します。選択したグループによって、SIP トランクに接続されたデバイス、アプリケーション、またはサーバがモニタできる宛先が指定されます。</p> <p>[プレゼンスグループ (Presence Group) ] のデフォルト値は、標準プレゼンスグループであり、インストール時に設定されます。Cisco Unified Communications Manager Administration で設定されるプレゼンスグループは、ドロップダウンリストボックスにも表示されます。</p> <p>プレゼンス認証は、プレゼンスグループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。</p> |
| [PSTNアクセス (PSTN Access) ]                | <p>このトランクを介したコールが PSTN に到達する可能性があることを示します。このトランク デバイスを介したいずれのコールも PSTN に到達しない場合でも、このチェックボックスはオンにします。</p> <p>たとえば、コールが PSTN に到達する可能性がある場合、タンデム トランクまたは H.323 ゲートキーパーによりルーティングされるトランクについてこのチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、このトランク デバイス経由で発信されたコールを検証するための音声コール レコード (VCR) が作成およびアップロードされます。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンのままになります。</p>                      |

| フィールド                                                 | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ルートクラスシグナリングを使う<br>(Route Class Signaling Enabled) ] | <p>ドロップダウンリストで、ポートのルートクラスシグナリングを有効または無効にします。</p> <p>次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• [デフォルト (Default) ] : この値を選択すると、デバイスでは <b>Route Class Signaling</b> サービス パラメータの設定値が使用されます。</li><li>• [オフ (Off) ] : この値は、ルートクラスシグナリングを有効にする場合に選択します。この設定は、<b>Route Class Signaling</b> サービス パラメータよりも優先されます。</li><li>• [オン (On) ] : この値は、ルートクラスシグナリングを無効にする場合に選択します。この設定は、<b>Route Class Signaling</b> サービス パラメータよりも優先されます。</li></ul> <p>ルートクラスシグナリングは、特別なルーティングまたは終了要求を受信側のデバイスに伝達します。ホットライン機能をサポートするポートに対しては、ルートクラスシグナリングを有効にする必要があります。</p> |

| フィールド                                                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (Subscribe Calling Search Space) ] | <p>SIP トランクに接続するデバイス、サーバ、またはアプリケーションからのプレゼンス要求を Cisco Unified Communications Manager によってどのようにルーティングするのか設定します。</p> <p>この設定を利用すると、SIP トランクに対するプレゼンス (SUBSCRIBE) 要求に、コール処理サーチスペースとは別のコーリングサーチスペースを適用することができます。</p> <p>SIP トランクに対するプレゼンス要求に使用する SUBSCRIBE コーリングサーチスペースを選択してください。 Cisco Unified Communications Manager Administration で設定されたすべてのコーリングサーチスペースが、[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (Subscribe Calling Search Space) ] ドロップダウンリストボックスに表示されます。</p> <p>SIP トランク用の別のコーリングサーチスペースをドロップダウンリストから選択しない場合、[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (Subscribe Calling Search Space) ] の値はデフォルトの [なし (None) ] になります。</p> <p>この目的専用の SUBSCRIBE コーリングサーチスペースを設定するには、他のコーリングサーチスペースと同様に新しいコーリングサーチスペースを設定します。</p> |
| [SIP プロファイル (SIP Profile) ]                                | <p>この SIP トランクに使用する SIP プロファイルを選択します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

| フィールド                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ トランクサービスタイプ (Trunk Service Type) ] | <p>トランクサービスのタイプを指定します。次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [なし(None)] : コール制御ディスカバリ、クラスタ間のエクステンションモビリティ、または Cisco Intercompany Media Engine にトランクが使用されない場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery) ] : このオプションを選択すると、トランクでコール制御ディスカバリをサポートできるようになります。</li> </ul> <p>[アドバタイジングサービス (Advertising Service) ] ウィンドウで CCD アドバタイジングサービスにこのトランクを割り当てた場合、トランクは、SAF ネットワークを使用するリモート コール制御エンティティからの着信コールを処理します。</p> <p>[要求サービス (Requesting Service) ] ウィンドウで CCD 要求サービスにこのトランクを割り当てた場合、トランクは、学習パターンへの発信コールを処理します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [クラスタ間のエクステンションモビリティ (Extension Mobility Cross Cluster) ] : トランクでクラスタ間のエクステンションモビリティ (EMCC) 機能をサポートできるようにするには、このオプションを選択します。</li> </ul> <p>このオプションを選択すると、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required) ]、[不在ポート (Unattended Port) ]、[接続先アドレス (Destination Address) ]、[接続先アドレスIPv6 (Destination Address IPv6) ]、および [接続先アドレスはSRV (Destination Address is an SRV) ] の設定が空白またはオフのままになるか、設定できなくなってデフォルト値が保持されることになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Cisco Intercompany Media Engine] : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされ、使用可能であることを確認します。</li> </ul> |

| フィールド                                                                                   | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [発呼側名にUTF-8を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name) ]                                | <p>デバイス プールのユーザ ロケール設定を指定して、Unicode を送信するかどうか、また、受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信側のデバイスに対してこのチェックボックスをオンにした場合に、デバイス プールのユーザ ロケール設定が終端電話のユーザ ロケールに一致すると、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信側のデバイスは、送信側のデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信する Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が終端電話のユーザ ロケールに一致する場合は、電話に文字が表示されます。</p> <p>[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name) ] チェックボックスは、デフォルトでオフのままになります。</p> |
| [デバイスプールの接続側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Connected Party Transformation CSS) ] | <p>このデバイスに割り当てられているデバイス プール内で設定された接続側トランスフォーメーション CSS を使用できるようにします。</p> <p>このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、[トランクの設定 (Trunk Configuration) ] ウィンドウでこのデバイスに設定した[接続側トランスフォーメーション CSS (Connected Party Transformation CSS) ] が使用されます。</p>                                                                                                                                                                                                                  |

| フィールド                                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [DTMF シグナリング方式 (DTMF Signaling Method) ] | <p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [プレゼンスなし (NoPreference) ] (デフォルト) : Cisco Unified Communications Manager は DTMF ネゴシエートの方式として DTMF を選択します。したがって、コールのための MTP は必要ありません。</li> </ul> <p>Cisco Unified Communications Manager が MTP を割り当てる必要がある場合 ([メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required) ] チェックボックスがオンの場合) は、SIP トランクの DTMF ネゴシエートは RFC 2833 に従って行われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [RFC2833] : トランクで使用される優先 DTMF 方式を RFC 2833 にする場合は、この設定を選択します。Cisco Unified Communications Manager は、MTP の使用状況にかかわらず、できる限り RFC 2833 のネゴシエートを試みます。失敗した場合は、アウトオブバンド方式が使用されます (ただし、ピアエンドポイントがこの方式をサポートしている場合)。</li> <li>• [OOB および RFC2833 (OOB and RFC 2833) ] : アウトオブバンドと RFC 2833 の両方を DTMF に使用する場合に、この設定を選択します。</li> </ul> <p>ピアエンドポイントがアウトオブバンドと RFC2833 の両方をサポートしている場合、Cisco Unified Communications Manager はアウトオブバンドと RFC 2833 の両方の DTMF 方式をネゴシエートします。</p> <p>その結果、同じ DTMF キープレスに対して 2 つの DTMF イベント (アウトオブバンドと RFC 2833) が送信されます。</p> |



(注) Provisioning で SME デバイスをコールプロセッサとして追加すると、Session Management Edition (SME) で SIP トランク インフラストラクチャ設定製品オブジェクトをプロビジョニングできます。



## SIP プロファイル インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 83: SIP プロファイル インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                                                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                                                             | SIP プロファイルの名前。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [説明 (Description) ]                                                      | SIP プロファイルの説明。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [デフォルトMTPテレフォニーイベントペイロードタイプ (Default MTP Telephony Event Payload Type) ] | RFC2833 テレフォニー イベントに対するデフォルトのペイロードタイプを指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| [リソースプライオリティネームスペースリスト (Resource Priority Namespace List) ]              | 設定済みの[リソースプライオリティネームスペースネットワークドメイン (Resource Priority Namespace Network Domain) ] リストを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| [G.Clearコールに対するアーリーオファー (Early Offer for G Clear Calls) ]                | 標準ベースの G.Clear (CLEARMODE) と独自の Cisco Session Description Protocols (SDP) の両方をサポートします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| [SDPセッションレベルの帯域幅変更機能 (SDP Session-level Bandwidth Modifier) ]            | <p>すべてのメディア ストリームが使用されるときに必要な帯域幅。セッション レベル帯域幅修飾子には、Transport Independent Application Specific (TIAS)、Application Specific (AS)、および Conference Total (CT) の3つがあります。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択して、SIP アーリー オファー要求または再招待要求の SDP 部分に組み込むセッション レベル帯域幅修飾子を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [TIASとAS (TIAS and AS) ]</li> <li>• [TIASのみ (TIAS only) ]</li> <li>• [ASのみ (AS only) ]</li> <li>• [CTのみ (CT only) ]</li> </ul> <p>Cisco Unified Communications Manager 8.6.2 以上でのみサポートされます。</p> |

| フィールド                                                                          | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ユーザエージェントおよびサーバヘッダーの情報 (User-Agent and Server header information) ]           | <p>この機能は、Cisco Unified Communications Manager が、SIP メッセージ内のユーザ エージェントおよびサーバヘッダーの情報を処理する方法を示します。</p> <p>次の 3 つのオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Unified CMのバージョン情報をユーザエージェントヘッダーとして送信 (Send Unified CM Version Information as User-Agent Header) ] : INVITE 要求の場合は、ユーザ エージェントヘッダーが、CM バージョン ヘッダー情報と一緒に組み込まれます。応答の場合、サーバヘッダーは省略されます。Cisco Unified Communications Manager は、すべての連絡先ヘッダーをそのまま渡します。これはデフォルトの動作です。</li> <li>• [受信した情報を連絡先ヘッダーのパラメータとして渡す (Pass Through Received Information as Contact Header Parameters) ] : このオプションを選択した場合、ユーザエージェント情報またはサーバヘッダー情報は、Contact ヘッダー パラメータとして渡されます。ユーザエージェントまたはサーバヘッダーは、受信した Contact ヘッダー パラメータから取得されます (存在する場合)。存在しない場合は、受信したユーザエージェントまたはサーバヘッダーから取得されます。</li> <li>• [受信した情報をユーザエージェントおよびサーバヘッダーとして渡す (Pass Through Received Information as User-Agent and Server Header) ] : このオプションを選択した場合、ユーザエージェント情報またはサーバヘッダー情報は、ユーザエージェントまたはサーバヘッダーとして渡されます。ユーザエージェントまたはサーバヘッダーは、受信した Contact ヘッダー パラメータから取得されます (存在する場合)。存在しない場合は、受信したユーザエージェントまたはサーバヘッダーから取得されます。</li> </ul> <p>Cisco Unified Communications Manager 8.6.2 以上でのみサポートされます。</p> |
| [受信オファーのオーディオコーデック初期設定を承認 (Accept Audio Codec Preferences in Received Offer) ] | <p>Cisco Unified Communications Manager が、受信したオファー内のオーディオ コーデックの初期設定に従って、処理中にそれを保持できるようにするには、[オン (On) ] を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が、受信したオファー内のオーディオ コーデックの初期設定を無視し、ローカルに設定された [オーディオコーデックの初期設定リスト (Audio Codec Preference List) ] を適用できるようにするには、[オフ (Off) ] を選択します。デフォルトでは、サービス パラメータの設定が選択されます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

| フィールド                                     | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ダイヤル文字列の解釈 (Dial String Interpretation)] | <p>Cisco Unified Communications Manager はダイヤル文字列の解釈ポリシーを使用して、SIP ID ヘッダーが電話番号とディレクトリ URI のどちらであるのか判断します。</p> <p>電話番号とディレクトリ URI は異なるデータベース ルックアップ テーブルに保存されているため、Cisco Unified Communications Manager は SIP ID ヘッダーのユーザ部分の文字を調べます。これは、SIP アドレスの @ 記号よりも前の部分 (user@IP address や user@domain など) です。</p> <p>[ダイヤル文字列の解釈 (Dial String Interpretation)] を設定するには、ドロップダウンリスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [常にすべてのダイヤル文字列をURIアドレスとして処理 (Always treat all dial strings as URI addresses)] : Cisco Unified Communications Manager は、着信コールを URI アドレスであるかのように扱います。</li> <li>• [電話番号は0～9、A～D、*、#、+で構成(これ以外はURIアドレスとして処理) (Phone number consists of characters 0-9, A-D, *, and + (others treated as URI addresses))] : SIP ID ヘッダーのユーザ部分のすべての文字がこの範囲に含まれる場合は、Cisco Unified Communications Manager は着信コールを電話番号として扱います。アドレスのユーザ部分で、この範囲外の文字を使用している場合は、アドレスは URI として扱われます。</li> <li>• [電話番号は0～9、*、#、+で構成(これ以外はURIアドレスとして処理) (Phone number consists of characters 0-9, *, and + (others treated as URI addresses))] : SIP ID ヘッダーのユーザ部分のすべての文字がこの範囲に含まれる場合は、Cisco Unified Communications Manager は着信コールを電話番号として扱います。アドレスのユーザ部分で、この範囲外の文字を使用している場合は、アドレスは URI として扱われます。</li> </ul> <p>(注) 要求 URI に user=phone タグが含まれる場合、Cisco Unified Communications Manager は、[ダイヤル文字列の解釈 (Dial String Interpretation)] フィールドで選択したオプションに関係なく、ダイヤル文字列を番号として扱います。</p> |

| フィールド                                                                          | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [アプリケーションによるリダイレクト (Redirect by Application) ]                                 | <p>SIP トランクでこの SIP プロファイルを設定するには、このチェックボックスをオンにします。それによって、Cisco Unified Communications Manager 管理者は、次のことを行えるようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リダイレクトされたコンタクトが 3xx 応答で受信された場合に、特定のコーリング サーチ スペースを適用します。</li> <li>リダイレクトされたコンタクトに対して番号分析を適用し、コールが正しくルーティングされていることを確認します。</li> <li>サービス パラメータで設定できるリダイレクション (再帰リダイレクション) の数を制限することによって、DOS 攻撃を防止します。</li> <li>リダイレクションの実行中にその他の機能を起動できるようにします。</li> </ul> |
| [180 で早期メディアを無効化 (Disable Early Media on 180) ]                                | <p>発信側の電話でローカル呼び出し音を再生し、2000K 応答の受信時にメディアを接続するには、このチェックボックスをオンにします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [発信 T.38 INVITE にオーディオ mline を含める (Outgoing T.38 INVITE include audio mline) ] | <p>システムが Microsoft Exchange からの信号を受け付け、オーディオから T.38 ファクスにコールを切り替えるように指定できます。この機能を使用するには、この SIP プロファイルを SIP トランクに設定する必要があります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [ANAT の有効化 (Enable VAD) ]                                                      | <p>このオプションにより、デュアルスタック SIP トランクが IPv4 と IPv6 の両方のメディアを提供できるようになります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [Assured Services SIP との適合 (Assured Services SIP conformance) ]                | <p>サードパーティの AS-SIP エンドポイント、および AS-SIP トランクで適切な Assured Service の動作を確実に実行させるには、このチェックボックスをオンにします。この設定により、特定の Assured Service の動作が会議ファクトリや SRTP などのサービスに影響します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [MLPP ユーザ認証 (MLPP User Authorization) ]                                        | <p>MLPP ユーザ認証を有効にする場合は、このチェックボックスをオンにします。MLPP ユーザ認証では、電話から MLPP ユーザ名とパスワードを送信する必要があります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| [INVITE のタイムアウト値 (Timer Invite Expires) ]                                      | <p>SIP INVITE が期限切れになるまでの時間を秒単位で指定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

| フィールド                                              | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [レジスタの再送間隔の調整値 (Timer Register Delta) ]            | このパラメータは、[レジスタのタイムアウト値 (Timer Register Expires) ]の設定とともに指定します。電話は、登録期間が終わる [レジスタの再送間隔の調整値 (Timer Register Delta) ]の値 (秒数) よりも前に再登録します。登録期間は、SIP Station KeepAlive Interval サービス パラメータの値によって決まります。                                                                                                                                                                              |
| [レジスタのタイムアウト値 (Timer Register Expires) ]           | <p>SIP を実行している電話が Register メッセージの Expires ヘッダーで送信する値を指定します。有効値は任意の正数です。デフォルト値は 3600 (1 時間) です。</p> <p>Register メッセージへの 200OK 応答で、Cisco Unified Communications Manager は、SIP Station KeepAlive Interval サービス パラメータの設定値を含む Expires ヘッダーを指定します。</p> <p>200OK 内のこの値によって、登録が期限切れになるまでの時間 (秒数) が決まります。電話は、この期間が終わる [レジスタの再送間隔の調整値 (Timer Register Delta) ]の値 (秒数) よりも前に登録を更新します。</p> |
| [タイマー T1 (Timer T1) ]                              | SIP メッセージの再送信タイマーの最小値をミリ秒単位で指定します。有効値は任意の正数です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [タイマー T2 (Timer T1) ]                              | SIP メッセージの再送信タイマーの最大値をミリ秒単位で指定します。有効値は任意の正数です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [INVITE の再試行 (Retry INVITE) ]                      | INVITE 要求が送信される最大回数を指定します。有効値は任意の正数です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [非INVITE の再試行 (Retry Non-INVITE) ]                 | INVITE 要求が再送信される最大回数を指定します。有効値は任意の正数です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| [開始メディアポート (Start Media Port) ]                    | メディア用の Real-Time Protocol (RTP) ポートの始まりを指定します。範囲は 16384 ~ 32767 です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [終了メディアポート (Stop Media Port) ]                     | メディア用の Real-Time Protocol (RTP) ポートの終わりを指定します。範囲は 16384 ~ 32767 です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [コールピックアップURL (Call Pickup URL) ]                  | SIP を実行している電話がコール ピックアップ機能を起動するために、Cisco Unified Communications Manager へ送信する固有のアドレスを指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| [コールピックアップグループ別URI (Call Pickup Group Other URI) ] | SIP を実行している電話がコール ピックアップ グループの他の機能を起動するために、Cisco Unified Communications Manager へ送信する固有のアドレスを指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                            |

| フィールド                                                        | 説明                                                                                                                                                         |
|--------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [コールピックアップグループURI (Call Pickup Group URI) ]                  | SIP を実行している電話がコール ピックアップ グループ機能を起動するために、Cisco Unified Communications Manager へ送信する固有のアドレスを指定します。                                                           |
| [ミーティングサービスURI (Meet Me Service URI) ]                       | SIP を実行している電話がミーティング会議機能を起動するために、Cisco Unified Communications Manager へ送信する固有のアドレスを指定します。                                                                  |
| [ユーザ情報 (User Info) ]                                         | Register メッセージ内の user= パラメータを設定します。                                                                                                                        |
| [DTMF DBレベル (DTMF DB Level) ]                                | インバンド DTMF デジットのトーン レベルを指定します。                                                                                                                             |
| [コール保留時の呼び出し音 (Call Hold Ring Back) ]                        | 呼び出し音を鳴らして、まだ他に保留中の相手がいることを通知できるようにします。                                                                                                                    |
| [非通知着信拒否 (Anonymous Call Block) ]                            | 番号非通知呼び出しのブロックを設定します。                                                                                                                                      |
| [発信者 ID ブロック (Caller ID Blocking) ]                          | 発信者 ID のブロックを設定します。                                                                                                                                        |
| [サイレントコントロール (Do Not Disturb Control) ]                      | [サイレント (Do Not Disturb) ] 機能を有効にします。                                                                                                                       |
| [7940 と 7960 の Telnet レベル (Telnet Level for 7940 and 7960) ] | Telnet をサポートする電話に対する、Telnet レベルの設定パラメータを制御します。                                                                                                             |
| [キープアライブのタイムアウト値 (Timer Keep Alive Expires) ]                | フェールオーバーが必要になったときにバックアップ Cisco Unified Communications Manager が使用可能であることを保証するために、バックアップ Cisco Unified Communications Manager に送信されるキープアライブ メッセージの間隔を指定します。 |
| [サブスクライブのタイムアウト値 (Timer Subscribe Expires) ]                 | 加入が期限切れになるまでの時間を秒数で指定します。この値は、Expires ヘッダー フィールドに挿入されます。                                                                                                   |
| [サブスクライブの再送間隔の調整値 (Timer Subscribe Delta) ]                  | [サブスクライブのタイムアウト値 (Timer Subscribe Expires) ] によって管理されるように、加入期間が終わる [サブスクライブの再送間隔の調整値 (Timer Subscribe Delta) ] の値 (秒数) よりも前に再加入します。                        |

| フィールド                                                   | 説明                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [最大リダイレクト (Maximum Redirections) ]                      | コールをドロップする前に電話がコールのリダイレクトを許可する最大回数を指定します。                                                                                                                            |
| [オフフックから最初の数字タイマー (Off Hook To First Digit Timer) ]     | 電話の受話器が外されてから最初の数字タイマーが設定されるまでの経過時間をミリ秒で指定します。 範囲は、0 ～ 150,000 ミリ秒です。                                                                                                |
| [コール転送 URI (Call Forward URI) ]                         | SIP を実行している電話が自動転送機能を起動するために、Cisco Unified Communications Manager へ送信する固有のアドレスを指定します。                                                                                |
| [短縮ダイヤル URI (Abbreviated Dial URI) ]                    | SIP を実行している電話が短縮ダイヤル機能を起動するために、Cisco Unified Communications Manager へ送信する固有のアドレスを指定します。                                                                              |
| [会議参加が有効 (Conference Join Enabled) ]                    | Cisco Unified IP Phone 7940 または 7960 を使用している会議開始者が電話を切った場合、その電話が残りの会議参加者を参加させようとするかどうかを指定します。                                                                        |
| [RFC 2543 保留 (RFC 2543 Hold) ]                          | コール保留の信号が Cisco Unified Communications Manager に送信される場合、RFC2543 に従って接続アドレスを 0.0.0.0 に設定できるようにするかを指定します。 この操作により、RFC3264 をサポートしないエンドポイントとの下位互換性を確保できます。               |
| [準在席転送 (Semi Attended Transfer) ]                       | Cisco Unified IP Phone 7940 または 7960 の発信者が、コールの呼び出し音が鳴っているときに、在席転送の 2 番目のレッグを転送できるかどうかを指定します。 準在席転送を有効にする場合は、このチェックボックスをオンにします。 準在席転送を無効にする場合は、このチェックボックスをオフのままにします。 |
| [VADを有効にする (Enable VAD) ]                               | Voice Activation Detection (VAD) を有効にするかどうかを指定します。 VAD を無効にする場合は、このチェックボックスをオフのままにします。 VAD が有効である場合、音声検出時にメディアは伝送されません。                                              |
| [メッセージがある場合は断続音 (Stutter Message Waiting) ]             | 電話がオフ フックになったときにメッセージが待機している場合に、断続音のダイヤル トーンが聞こえるようにするかを指定します。 メッセージが待機していても断続音のダイヤル トーンが聞こえないようにする場合は、このチェックボックスをオフのままにします。                                         |
| [URI からの着信要求の設定 (Incoming Requests FROM URI Settings) ] |                                                                                                                                                                      |

| フィールド                                                                        | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [発信者 ID DN (Caller ID DN) ]                                                  | <p>発呼者回線 ID に使用するパターンを 0 ～ 24 桁で入力します。たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 555XXXX = 可変の発呼者回線 ID。ここで、X は内線番号に相当します。市外局番を指定しない場合は、CO がこの番号にエリア コードを追加します。</li> <li>• 55000 = 固定の発呼者回線 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、社内番号を送信する場合に使用してください。市外局番を指定しない場合は、CO がこの番号にエリアコードを追加します。</li> </ul> <p>国際的なエスケープ文字 + も入力することができます。</p> |
| [発信者名 (Caller Name) ]                                                        | 発信元 SIP デバイスから受信した発信者名よりも優先させる発信者名を入力します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [ トランク固有の設定 (Trunk Specific Configuration) ]                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [着信要求を新規トランクへと再ルーティングする基準 (Reroute Incoming Request to new Trunk based on) ] | コールの再ルーティングを行う SIP トランクを識別するときに、Cisco Unified Communications Manager が使用する方法を指定します。                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [RSVP Over SIP]                                                              | RSVP over SIP トランクを設定するために、Cisco Unified Communications Manager で使用する方法を指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [ローカル RSVP にフォールバック (Fall back to local RSVP) ]                              | 失敗したエンドツーエンドの RSVP コールがローカル RSVP にフォールバックして、コールを確立できるようにします。                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| [SIP Rel1XX オプション (SIP Rel1XX Options) ]                                     | すべての SIP 暫定応答 (100 Trying メッセージ以外) をリモートの SIP エンドポイントに確実に送信されるかどうかを決定する、SIP Rel1XX を設定します。                                                                                                                                                                                                                                                     |



| フィールド                                                      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ビデオコールトラフィッククラス (Video Call Traffic Class) ]              | <p>[ビデオコールトラフィッククラス (Video Call Traffic Class) ]は、ビデオエンドポイントのタイプ、または SIP プロファイルに関連付けるトランクを定義します。ドロップダウンリストボックスから、次の 3 つのオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [イマーシブ (Immersive) ] : 高画質イマーシブ ビデオ。</li> <li>• [デスクトップ (Desktop) ] : 標準のデスクトップ ビデオ。</li> <li>• [混合 (Mixed) ] : イマーシブ ビデオとデスクトップ ビデオの混合。</li> </ul> <p>Cisco Unified Communications Manager ロケーションコールアドミッション制御 (CAC) は、[ビデオコールトラフィッククラス (Video Call Traffic Class) ] で指定されたコールのタイプに基づいて、2 つのロケーションビデオ帯域幅プール (「ビデオ帯域幅」または「イマーシブ帯域幅」) から帯域幅を予約します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Call Admission Control」の章を参照してください。</p> |
| [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line Identification Presentation) ] | <p>ネットワークが提供する ID を選択するには、[厳格な送信元 URI プレゼンテーションのみ (Strict From URI presentation Only) ] を選択します。</p> <p>ユーザが提供する ID を選択するには、[厳格な ID ヘッダープレゼンテーションのみ (Strict Identity Headers presentation Only) ] を選択します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [会議ブリッジ ID の配信 (Deliver Conference Bridge Identifier) ]    | <p>b 番号をヌル値に変更するのではなく、トランク間の会議ブリッジを識別する b 番号を SIP トランクで渡すには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>受信側では、このフィールドが有効である必要はありません。</p> <p>Open Recording Architecture (ORA) の場合、このチェックボックスをオンにする必要はありません。</p> <p>録音機能を動作させるための SIP ヘッダーの拡張です。</p> <p>このチェックボックスを有効にすると、レコーダはユーザが会議に参加している録音セッションを調整できます。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager 8.5 以上でのみサポートされます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

| フィールド                                                                                                                    | 説明                                                                                                                                                                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [音声コールとビデオコールに対するアーリーオファースのサポート(必要に応じて MTP を挿入) (Early Offer support for voice and video calls (insert MTP if needed)) ] | アーリー オファースをサポートするトランクを作成する場合は、このチェックボックスをオンにします。<br><br>Cisco Unified Communications Manager 8.5 以上でのみサポートされます。                                                                            |
| [通話中 INVITE で送受信 SDP を送信 (Send send-receive SDP in mid-call Invite) ]                                                    | 補足サービス中のコール保留またはメディア中断時に、Cisco Unified Communications Manager が Invite a=inactive SDP メッセージを送信しないようにするには、このチェックボックスをオンにします。<br><br>Cisco Unified Communications Manager 8.5 以上でのみサポートされます。 |
| [BFCP を使用するプレゼンテーション共有を許可 (Allow Presentation Sharing using BFCP) ]                                                      | このボックスがオンの場合は、サポートされている SIP エンドポイントに Binary Floor Control Protocol を使用したプレゼンテーション共有の有効化を許可するように、Cisco Unified Communications Manager が設定されます。                                              |
| [iX アプリケーションメディアを許可 (Allow iX Application) ]                                                                             | iX メディアチャネルのサポートを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。                                                                                                                                                |
| [設定済み回線デバイス発信者情報のパススルーを許可 (Allow Passthrough of Configured Line Device Caller Information) ]                             | 設定済み回線デバイス発信者情報の SIP トランクからのパススルーを可能にするには、このボックスをオンにします。                                                                                                                                   |
| [非通知着信コールを拒否 (Reject Anonymous Incoming Calls) ]                                                                         | 非通知着信コールを拒否する場合は、このボックスをオンにします。                                                                                                                                                            |
| [非通知発信コールを拒否 (Reject Anonymous Outgoing Calls) ]                                                                         | 非通知発信コールを拒否する場合は、このボックスをオンにします。                                                                                                                                                            |
| [SIP Options Ping]                                                                                                       |                                                                                                                                                                                            |

| フィールド                                                                                                                                                            | 説明                                                                                                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [サービスタイプ"なし (デフォルト)"のトランクの接続先ステータスを監視するためにOPTIONS Pingを有効にする (Enable Options Ping to monitor destination status for Trunks with service type "None (Default)") ] | <p>SIP Options 機能を有効にする場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager 8.5 以上でのみサポートされます。</p>                                                                |
| [インサービスおよび一部インサービスのトランクのPing 間隔(秒) (Ping Interval for In-service and Partially In-service Trunks (seconds)) ]                                                    | <p>このフィールドでは、リモート ピアが応答しており、トランクに [インサービス (In Service) ] のマークが付いている場合の SIP OPTIONS 要求の間隔を設定します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager 8.5 以上のバージョンでのみサポートされます。</p>        |
| [アウトオブサービスのSIPトランクのPing間隔(秒) (Ping Interval for Out-of-service SIP Trunks (seconds)) ]                                                                           | <p>このフィールドでは、リモート ピアが応答しており、トランクに [アウトオブサービス (Out of Service) ] のマークが付いている場合の SIP OPTIONS 要求の間隔を設定します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager 8.5 以上のバージョンでのみサポートされます。</p> |
| [Ping再試行タイマー(ミリ秒) (Ping Retry Timer (milliseconds)) ]                                                                                                            | <p>このフィールドでは、OPTIONS 要求を再送信するまでの最大待機時間を指定します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager 8.5 以上のバージョンでのみサポートされます。</p>                                                          |
| [Ping再試行数 (Ping Retry Count) ]                                                                                                                                   | <p>このフィールドでは、Cisco Unified Communications Manager がリモート ピアに OPTIONS 要求を送信する回数を指定します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager 8.5 以上のバージョンでのみサポートされます。</p>                   |

## SRST 参照先設定製品のフィールド

表 84: SRST 参照先設定製品のフィールド

| フィールド                                          | 説明                                                                                                                                                                                                 |
|------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                                   | SRST 参照先名はそれぞれ固有の名前にしてください。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。                                                                              |
| [ポート (Port) ]                                  | この SRST 参照先のポート番号を入力します。デフォルト値は 2000 です。<br>(注) この値を変更するのは、この値がゲートウェイのポート設定と一致しない場合だけにします。この値とゲートウェイのポート設定は一致している必要があります。                                                                          |
| [IP アドレス (IP Address) ]                        | デバイス プール内のデバイス用に、SRST 参照先として使用するゲートウェイの IP アドレスを入力します。                                                                                                                                             |
| [SIP ネットワーク/IP アドレス (SIP Network/IP Address) ] | SIP を実行しているエンドポイントが SRST モード時に使用するサーバの IP アドレスを入力します。<br>(注) SRST 対応のゲートウェイにフォールバックするには、SIP デバイスの [SIP ネットワーク/IP アドレス (SIP Network/IP Address) ] フィールドおよび [SIP ポート (SIP Port) ] フィールドを設定する必要があります。 |
| [SIP ポート (SIP Port) ]                          | SRST ゲートウェイの SIP ポートを入力します。デフォルト値は 5060 です。                                                                                                                                                        |
| [セキュア SRST (Is SRST Secure?) ]                 | SRST 対応ゲートウェイに、自己署名証明書が含まれることを確認した後、このチェックボックスをオンにします。                                                                                                                                             |

## トランスレーションパターンインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 85: トランスレーションパターンインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                  | 説明                           |
|----------------------------------------|------------------------------|
| [トランスレーションパターン (Translation Pattern) ] | 数字とワイルドカードを含むトランスレーション パターン。 |

| フィールド                                                                   | 説明                                                                                                                |
|-------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ルートパーティション (Route Partition) ]                                         | 使用可能なルート パーティション。                                                                                                 |
| [説明 (Description) ]                                                     | 説明 (オプション) 。                                                                                                      |
| [ダイヤルプラン (Dial Plan) ]                                                  | 番号計画。                                                                                                             |
| [ルートフィルタ (Route Filter) ]                                               | ルート フィルタ (オプション) 。                                                                                                |
| [MLPP 優先度 (MLPP Precedence) ]                                           | Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 優先設定。                                                                 |
| [コールサーチスペース (Call Search Space) ]                                       | 使用可能なコーリング サーチ スペース。                                                                                              |
| [ブロックが有効 (Block Enabled) ]                                              | ブロックを有効または無効にします。                                                                                                 |
| [リリース目的 (Release Cause) ]                                               | [ブロックが有効 (Block Enabled) ] フィールドの設定に依存します。 リリース目的を選択する場合は、[ブロックが有効 (Block Enabled) ] を [はい (True) ] に設定する必要があります。 |
| [発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask) ]    | 発信側の外線電話番号マスクを使用するかどうかを指定します。                                                                                     |
| [発呼側トランスフォーメーションマスク (Calling Party Transform Mask) ]                    | トランスフォーメーション マスク値。                                                                                                |
| [発呼側プレフィックス番号 (発信コール) (Calling Party Prefix Digits (Outgoing Calls) ) ] | プレフィックス番号。                                                                                                        |
| [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation) ]                          | このトランスレーション パターンについて、Cisco Unified Communications Manager で着信側電話機のディスプレイへの発信側電話番号の表示を許可するか、禁止するかを指定します。           |

| フィールド                                               | 説明                                                                                                     |
|-----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation) ]              | このトランスレーションパターンについて、Cisco Unified Communications Manager で着信側電話機のディスプレイへの発信側の名前の表示を許可するか、禁止するかを指定します。  |
| [接続側回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation) ]    | このトランスレーションパターンについて、Cisco Unified Communications Manager で発信側電話機のディスプレイへの接続先電話番号の表示を許可するか、禁止するかを指定します。 |
| [接続先名の表示 (Connected Name Presentation) ]            | このトランスレーションパターンについて、Cisco Unified Communications Manager で発信側電話機のディスプレイへの接続先の名前の表示を許可するか、禁止するかを指定します。  |
| [着信側での番号の削除 (Called Party Discard Digits) ]         | このトランスレーションパターンに関連付ける番号破棄命令。                                                                           |
| [着信側トランスフォーメーションマスク (Called Party Transform Mask) ] | トランスフォーメーション マスク値。                                                                                     |

## Unified Call Manager Group インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 86 : Unified Call Manager Group インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                                      | 説明                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                                               | インフラストラクチャ設定製品の名前。                                                                                                                  |
| [Unified CM]                                               | 使用可能な Cisco Unified Communications Manager のリスト。                                                                                    |
| [自動登録Unified CMグループ (Auto-Registration Unified CM Group) ] | 自動登録が有効な場合に、この Cisco Unified Communications Manager グループをデフォルトの Cisco Unified Communications Manager グループにする場合は、[はい (Yes) ] を選択します。 |

## UC サービス インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 87: UC サービス インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ボイスメール (Voicemail) ]                |                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| [製品タイプ (Product Type) ]              | 製品タイプを選択します。使用可能なオプションは [Unity] と [Unity Connection] です。<br>デフォルト設定: [Unity]                                                                                                                                                                                                  |
| [名前 (Name) ]                         | ボイスメール サービスの名前を入力します。わかりやすく識別しやすい名前にすることを推奨します。                                                                                                                                                                                                                               |
| [説明 (Description) ]                  | (オプション) ボイスメール サービスを区別しやすくするための説明を入力します。説明は必要に応じて変更できます。<br>最大文字数: 100                                                                                                                                                                                                        |
| [ホスト名/IPアドレス (Hostname/IP Address) ] | ボイスメール サービスのアドレスを、次のいずれかの形式で入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ホスト名</li> <li>• IP アドレス</li> <li>• 完全修飾ドメイン名 (FQDN)</li> </ul> このフィールドは、関連付けられているボイスメール サービスのホスト名、IP アドレス、または FQDN と完全に一致する必要があります。ボイスメール サービスのホスト名または IP アドレスが変更された場合は、それに応じてこのフィールドの値を変更してください。 |
| [ポート (Port) ]                        | ボイスメール サービスと接続するポートを入力します。<br>デフォルトのポート: 443<br>このフィールドの値は、ボイスメール サービスに使用可能なポートと一致する必要があります。他のサービスと競合している場合に限り、ポート番号を変更してください。                                                                                                                                                |

| フィールド                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [プロトコル (Protocol) ]                  | <p>ボイスメール メッセージを安全にルーティングするためのプロトコルを選択します。</p> <p>使用可能なオプション : [HTTP]、[HTTPS]</p> <p>Cisco Unity サーバおよび Cisco Unity Connection サーバのボイスメール転送プロトコルには、[HTTPS]を使用することを推奨します。 ネットワーク設定で [HTTPS] がサポートされない場合に限り [HTTP] に変更してください。</p>                                                                                                                          |
| [会議 (Conferencing) ]                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| [説明 (Description) ]                  | (オプション) ディレクトリ サービスを区別しやすくするための説明を入力します。 説明は必要に応じて変更できます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [ホスト名/IPアドレス (Hostname/IP Address) ] | <p>会議サービスのアドレスを、次のいずれかの形式で入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ホスト名</li> <li>• IP アドレス</li> <li>• FQDN</li> </ul> <p>このフィールドは、関連付けられているディレクトリ サービスのホスト名、IP アドレス、または FQDN と完全に一致する必要があります。 ディレクトリ サービスのアドレスが変更された場合は、それに応じてこのフィールドの値を変更してください。</p> <p>使用できる文字 : 英数字 (a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9) 、ピリオド (.) 、バックスラッシュ (\) 、ダッシュ (-) 、アンダースコア (_)</p> |
| [ポート (Port) ]                        | <p>ユーザが Web 会議にログインするときに会議サービスに接続できるように、会議サービスのポートを入力します。</p> <p>デフォルトのポート : 80</p> <p>使用できる値 : 1 ~ 65535</p> <p>(注) HTTP 通信にはポート 80 を、HTTPS 通信にはポート 443 を使用します。</p> <p>(注) この値は、会議サービスに使用可能なポートと一致する必要があります。 他のサービスと競合している場合に限り、ポート番号を変更してください。</p>                                                                                                     |



| フィールド                          | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [プロトコル (Protocol) ]            | <p>Web 会議通信をルーティングするプロトコルを選択します。</p> <p>使用可能なオプション : [HTTP]、[HTTPS]</p> <p>デフォルト設定 : [HTTP]。 ネットワークの設定、IM and Presence の設定、およびセキュリティ上のニーズに合わせて、次のようにこの設定を変更します。</p> <p>[HTTP] : サーバ、Cisco Jabber、ブラウザとの間でデータを転送する標準の方法として、Hypertext Transfer Protocol を選択します。 このオプションは、Cisco Unified MeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express サーバで SSL が有効になっていない場合に選択します。</p> <p>[HTTPS] : サーバ、Cisco Jabber、ブラウザとの間で安全にデータを転送する標準の方法として、Hypertext Transfer Protocol over SSL を選択します。 このオプションは、Unified MeetingPlace サーバまたは Unified MeetingPlace Express サーバで SSL が有効になっている場合に選択します。</p> |
| [メールストア (Mailstore) ]          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| [UCサービスタイプ (UC Service Type) ] | メールストアとして UC サービス タイプを設定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| [製品タイプ (Product Type) ]        | Exchange として製品のタイプを設定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| [名前 (Name) ]                   | <p>メールストア サービスの名前を入力します。 わかりやすく識別しやすい名前にすることを推奨します。</p> <p>最大文字数 : 50 (ASCII のみ)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| [説明 (Description) ]            | (オプション) メールストア サービスを区別しやすくするための説明を入力します。 説明は必要に応じて変更できます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

| フィールド                                   | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ホスト名/IPアドレス<br>(Hostname/IP Address) ] | <p>メールストア サービスのアドレスを、次のいずれかの形式で入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ホスト名</li> <li>• IP アドレス</li> <li>• FQDN</li> </ul> <p>このフィールドは、関連付けられているメールストア サービスのホスト名、IP アドレス、または FQDN と完全に一致する必要があります。 メールストア サービスのアドレスが変更された場合は、それに応じてこのフィールドの値を変更してください。</p> <p>Cisco Unity では、Microsoft Exchange サーバでのメッセージ保存用にサブスクライバ メールボックスが作成されます。</p> <p>(注) 通常、Cisco Unity Connection はメールストア サービスを提供し、同じサーバ上でメールストア サービスをホストします。</p> |
| [ポート (Port) ]                           | <p>サービス用に設定するポート番号を指定します。</p> <p>デフォルトのポート : 143</p> <p>使用できる値 : 1 ~ 65535</p> <p>(注) Cisco Unity Connection を使用したセキュア ボイスメッセージングの場合は、ポート 7993 を使用してください。</p> <p>(注) この値は、メールストア サービスで使用可能なポートと同じにする必要があります。 他のサービスと競合している場合に限り、ポート番号を変更してください。</p>                                                                                                                                                                                   |
| [プロトコル (Protocol) ]                     | <p>Cisco Jabber クライアントがこのサービスに接続するときに使用するプロトコルを選択します。</p> <p>使用できるオプション : [TCP]、[SSL]、[TLS]、[UDP]</p> <p>デフォルト設定 : [TCP]。これは、最もよく使用されるネットワーク設定です。 展開、Unified CM の設定、およびセキュリティ上のニーズに合わせて、この設定を変更します。</p> <p>(注) Cisco Unity Connection を使用したセキュア ボイスメッセージングの場合は、TLS を使用してください。</p>                                                                                                                                                     |
| [ディレクトリ (Directory) ]                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

| フィールド                                | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [サービスタイプ (Service Type) ]            | UC サービス タイプとしてディレクトリを指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| [製品タイプ (Product Type) ]              | <p>サポートされているディレクトリ製品タイプをこのリストから選択します。これはネットワーク設定に適用されます。</p> <p>使用できるオプション : [ディレクトリ (Directory) ]、[拡張ディレクトリ (Enhanced Directory) ]</p> <p>デフォルト設定 : [ディレクトリ (Directory) ]</p>                                                                                                                                                                          |
| [名前 (Name) ]                         | <p>ディレクトリ サービスの名前を入力します。 わかりやすく識別しやすい名前にすることを推奨します。</p> <p>最大文字数 : 50 (ASCII のみ)</p> <p>使用できる値 : 引用符 (")、山カッコ (&lt;&gt;)、バックスラッシュ (\)、アンパサンド (&amp;)、およびパーセント記号 (%) 以外のすべての文字</p>                                                                                                                                                                       |
| [説明 (Description) ]                  | <p>(オプション) ディレクトリ サービスを区別しやすくするための説明を入力します。説明は必要に応じて変更できます。</p> <p>使用できる値 : 引用符 (")、山カッコ (&lt;&gt;)、バックスラッシュ (\)、アンパサンド (&amp;)、およびパーセント記号 (%) 以外のすべての文字</p>                                                                                                                                                                                            |
| [ホスト名/IPアドレス (Hostname/IP Address) ] | <p>ディレクトリ サービスのアドレスを、次のいずれかの形式で入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ホスト名</li> <li>• IP アドレス</li> <li>• FQDN</li> </ul> <p>このフィールドは、関連付けられているディレクトリ サービスのホスト名、IP アドレス、または FQDN と完全に一致する必要があります。ディレクトリ サービスのアドレスが変更された場合は、それに応じてこのフィールドの値を変更してください。</p> <p>使用できる値 : 英数字 (a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9)、ピリオド (.)、バックスラッシュ (\)、ダッシュ (-)、アンダースコア (_)</p> |

| フィールド                                                 | 説明                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ポート (Port) ]                                         | <p>ディレクトリ サービスのポートを入力します。</p> <p>デフォルトのポート : 389</p> <p>使用できる値 : 1 ~ 65535</p> <p>この値は、ディレクトリ サービスに使用可能なポートと一致する必要があります。</p> <p>(注)     他のサービスと競合している場合に限り、ポート番号を変更してください。</p>                                 |
| [プロトコル (Protocol) ]                                   | <p>ディレクトリ サービスと Cisco Jabber クライアント間の通信をルーティングするプロトコルを選択します。</p> <p>使用できるオプション : [TCP]、[UDP]、[TLS]</p> <p>デフォルト設定 : [TCP] これは、最もよく使用されるネットワーク設定です。 ネットワーク設定、Unified CM の設定、およびセキュリティ上のニーズに合わせて、この設定を変更します。</p> |
| [接続タイプ (Connection Type) ]                            | <p>検索用に最適化されているグローバル カタログまたは検索用に最適化されない可能性のあるドメイン コントローラ (あるいはLDAPサービスを実行するサーバ) に接続するディレクトリ サーバのタイプを指定します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [グローバルカタログサーバ (Global Catalog server) ]</p>                     |
| [セキュアな接続を使用する (Use Secure Connection) ]               | <p>クレデンシャルをクリア テキストで送信するかどうかを指定します (デフォルトでは、クリア テキストではなくセキュアな接続を使用します) 。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [はい (True) ]</p>                                                                                  |
| [ワイルドカードを使用する (Use Wildcards) ]                       | <p>番号検索にワイルドカードを使用します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [いいえ (False) ]</p>                                                                                                                                  |
| [セカンダリ番号検索を無効にする (Disable Secondary Number Lookups) ] | <p>自宅、携帯、その他の番号を使用するクエリーを無効にします。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト : [いいえ (False) ]</p>                                                                                                                        |

| フィールド                           | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [URIプレフィックス (Uri Prefix) ]      | 「im:」 や「sip:」などの URI スキーム名を指定します。<br>最大長 : 32                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [電話番号マスク (Phone Number Masks) ] | 電話番号で解決するときに使用可能なマスクを定義できます。<br>たとえば、マスク +353 +(###) ## ## ##### を使用すると、<br>+35311221234 という形式の番号を +(353) 11 22 1234 に解決できます。<br>複数のマスクを定義するには「 」 演算子を使用します。<br>たとえば、+353 +(###) ## ## ##### +44 +44 (##)## #####) ##<br>##### を使用すると、+35311221234 という形式の番号を +(353)<br>11 22 1234 に解決できます。<br>最大長 : 1024 |
| [IM and Presence]               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| [サービスタイプ (Service Type) ]       | UC サービス タイプとして IM and Presence を指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| [製品タイプ (Product Type) ]         | サポートされている IM and Presence 製品タイプをこのリストから選択します。これはネットワーク設定に適用されます。<br><br>使用できるオプション : [Unified CM (IM and Presence)], [WebEx (IM and Presence)]<br><br>デフォルト設定 : [Unified CM (IM and Presence)]                                                                                                           |
| [名前 (Name) ]                    | IM and Presence サービスの名前を入力します。 わかりやすく識別しやすい名前にすることを推奨します。<br><br>最大文字数 : 50 (ASCII のみ)                                                                                                                                                                                                                   |
| [説明 (Description) ]             | (オプション) IM and Presence サービスを区別しやすくするための説明を入力します。説明は必要に応じて変更できます。                                                                                                                                                                                                                                        |

| フィールド                                   | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ホスト名/IPアドレス<br>(Hostname/IP Address) ] | <p>IM and Presence サービスのアドレスを、次のいずれかの形式で入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ホスト名</li> <li>• IP アドレス</li> <li>• DNS SRV</li> </ul> <p>使用できる値：英数字（a ～ z、A ～ Z、0 ～ 9）、ピリオド（.）、バックスラッシュ（\）、ダッシュ（-）、アンダースコア（_）</p> <p>（注） このフィールドの値は、関連付けられている IM and Presence サービスのホスト名、IP アドレス、または DNS SRV と完全に一致する必要があります。IM and Presence サービスのアドレスが変更された場合は、それに応じてこのフィールドの値を変更してください。</p> <p>ユーザに適した IM and Presence サービスをクライアントが見つけやすい DNS SRV を推奨します。</p> |
| [会議（Conferencing）]                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [UCサービスタイプ（UC Service Type）]            | UC サービス タイプとして会議を指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| [製品タイプ（Product Type）]                   | <p>ネットワーク設定に適用される製品タイプを選択します。</p> <p>使用可能なオプション：[MeetingPlace Classic]、[MeetingPlace Express]、[WebEx]</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [名前（Name）]                              | <p>会議サービスの名前を入力します。わかりやすく識別しやすい名前にすることを推奨します。</p> <p>最大文字数：50（ASCII のみ）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [説明（Description）]                       | <p>（オプション）ディレクトリ サービスを区別しやすくするための説明を入力します。説明は必要に応じて変更できます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

| フィールド                                   | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ホスト名/IPアドレス<br>(Hostname/IP Address) ] | <p>会議サービスのアドレスを、次のいずれかの形式で入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• ホスト名</li><li>• IP アドレス</li><li>• FQDN</li></ul> <p>このフィールドは、関連付けられているディレクトリ サービスのホスト名、IP アドレス、または FQDN と完全に一致する必要があります。ディレクトリ サービスのアドレスが変更された場合は、それに応じてこのフィールドの値を変更してください。</p> <p>使用できる文字：英数字（a～z、A～Z、0～9）、ピリオド（.）、バックスラッシュ（\）、ダッシュ（-）、アンダースコア（_）</p> |
| [ポート（Port）]                             | <p>ユーザが Web 会議にログインするときに会議サービスに接続できるように、会議サービスのポートを入力します。</p> <p>デフォルトのポート：80</p> <p>使用できる値：1～65535</p> <p>（注） HTTP 通信にはポート 80 を、HTTPS 通信にはポート 443 を使用します。</p> <p>（注） この値は、会議サービスに使用可能なポートと一致する必要があります。他のサービスと競合している場合に限り、ポート番号を変更してください。</p>                                                                                      |

| フィールド                     | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [プロトコル (Protocol) ]       | <p>Web 会議通信をルーティングするプロトコルを選択します。</p> <p>使用可能なオプション : [HTTP]、[HTTPS]</p> <p>デフォルト設定 : [HTTP]。</p> <p>ネットワークの設定、IM and Presence の設定、およびセキュリティ上のニーズに合わせて、次のようにこの設定を変更します。</p> <p>[HTTP] : サーバ、Cisco Jabber、ブラウザとの間でデータを転送する標準の方法として、Hypertext Transfer Protocol を選択します。</p> <p>このオプションは、Cisco Unified MeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express サーバで SSL が有効になっていない場合に選択します。</p> <p>[HTTPS] : サーバ、Cisco Jabber、ブラウザとの間で安全にデータを転送する標準の方法として、Hypertext Transfer Protocol over SSL を選択します。このオプションは、Unified MeetingPlace サーバまたは Unified MeetingPlace Express サーバで SSL が有効になっている場合に選択します。</p> |
| [CTI]                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| [サービスタイプ (Service Type) ] | UC サービス タイプとして CTI を指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [製品タイプ (Product Type) ]   | 製品タイプとして CTI を指定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [名前 (Name) ]              | <p>CTI サービスの名前を入力します。わかりやすく識別しやすい名前にすることを推奨します。</p> <p>最大文字数 : 50 (ASCII のみ)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| [説明 (Description) ]       | (オプション) 複数の CTI サービスを設定している場合は、それぞれのサービスを区別しやすくするための説明を入力します。説明は必要に応じて変更できます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |



| フィールド                                   | 説明                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ホスト名/IPアドレス<br>(Hostname/IP Address) ] | <p>CTI サービスのアドレスを、次のいずれかの形式で入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ホスト名</li> <li>• IP アドレス</li> <li>• FQDN</li> </ul> <p>このフィールドは、関連付けられている CTI サービスのホスト名、IP アドレス、または FQDN と完全に一致する必要があります。CTI サービスのアドレスが変更された場合は、それに応じてこのフィールドの値を変更してください。</p> |
| [ポート (Port) ]                           | <p>CTI サービスのポートを入力します。</p> <p>デフォルトのポート : 2748</p> <p>使用できるポート : 1 ~ 65535</p> <p>(注) この値は、CTI サービスに使用可能なポートと一致する必要があります。</p> <p>他のサービスと競合している場合に限り、ポート番号を変更してください。</p>                                                                                      |
| [プロトコル (Protocol) ]                     | デフォルト プロトコルとして TCP を指定します。                                                                                                                                                                                                                                   |

## ボイス リージョン インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 88: ボイス リージョン インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                       | 説明                                                                                                                                        |
|-----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                | インフラストラクチャ設定製品の名前。                                                                                                                        |
| [オーディオコーデック (Audio Codec) ] | <p>コーデックの設定。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager の上位バージョン (4.1 以上) の場合、[デフォルトのコーデック (Default Codec) ] フィールドはこのオプションの値に設定されます。</p> |

## ボイスメールパイロットインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 89: ボイスメールパイロットインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                  | 説明                                          |
|----------------------------------------|---------------------------------------------|
| [番号 (Number) ]                         | ボイスメールパイロット番号。                              |
| [説明 (Description) ]                    | 説明 (オプション) 。                                |
| [コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] | 使用可能なコーリング サーチ スペース。                        |
| [デフォルトです (Is Default) ]                | このパイロット番号がシステムのデフォルトのボイス メールパイロットかどうかを示します。 |

## ボイスメール プロファイルインフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 90: ボイスメール プロファイルインフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                 | 説明                                   |
|---------------------------------------|--------------------------------------|
| [名前 (Name) ]                          | インフラストラクチャ設定製品の名前。                   |
| [説明 (Description) ]                   | 説明 (オプション) 。                         |
| [ボイスメールパイロット (Voicemail Pilot) ]      | 使用可能なボイスメールパイロット。                    |
| [ボイスメールボックスマスク (Voicemail Box Mask) ] | 自動登録電話機用のボイス メールボックス番号の書式設定に使用するマスク。 |
| [デフォルトです (Is Default) ]               | このボイスメール プロファイルがシステムのデフォルトかどうかを示します。 |

## VG202、VG204、および VG224 音声ゲートウェイ インフラストラクチャ設定製品のフィールド

表 91 : VG202、VG204、および VG224 VG202、VG204、VG224、および VG350 インフラストラクチャ設定製品のフィールド

| フィールド                                                                                    | 説明                                                                                                                                           |
|------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [ゲートウェイ名 (Gateway Name) ]                                                                | ゲートウェイの名前。                                                                                                                                   |
| [プロトコル (Protocol) ]                                                                      | ゲートウェイに関連付けられたプロトコル。                                                                                                                         |
| [MACアドレス(最後の10文字) (MAC Address (Last 10 Characters)) ]                                   | 選択したデバイスの MAC アドレス。<br>[MACアドレス (MAC Address) ] フィールドを更新すると、関連付けられたすべての電話の MAC アドレスが更新されます。ただし、ユーザレコードの MAC アドレスを更新するには、ドメイン同期化を実行する必要があります。 |
| [説明 (Description) ]                                                                      | デバイスの説明。                                                                                                                                     |
| [Cisco Unified Communications Managerグループ (Cisco Unified Communications Manager Group) ] | Cisco Unified Communications Manager のグループ。                                                                                                  |
| [スロット<番号>のモジュール (Module in Slot <Number>) ]                                              | そのスロット番号を持つモジュール。                                                                                                                            |
| [サブユニット<番号> (Subunit <Number>) ]                                                         | サブユニットの番号。                                                                                                                                   |
| [モデムパススルー (Modem Passthrough) ]                                                          | モデム パススルーを有効または無効にします。                                                                                                                       |
| [Ciscoファクスリレー (Cisco Fax Relay) ]                                                        | Cisco ファクス リレーを有効または無効にします。                                                                                                                  |
| [T.38ファクスリレー (T38 Fax Relay) ]                                                           | T.38 ファクス リレーを有効または無効にします。                                                                                                                   |
| [RTPパッケージ機能 (RTP Package Capability) ]                                                   | RTP パッケージ機能を有効または無効にします。                                                                                                                     |

| フィールド                                                 | 説明                          |
|-------------------------------------------------------|-----------------------------|
| [MTパッケージ機能 (MT Package Capability) ]                  | MT パッケージ機能を有効または無効にします。     |
| [RESパッケージ機能 (RES Package Capability) ]                | RES パッケージ機能を有効または無効にします。    |
| [PREパッケージ機能 (PRE Package Capability) ]                | PRE パッケージ機能を有効または無効にします。    |
| [SSTパッケージ機能 (SST Package Capability) ]                | SST パッケージ機能を有効または無効にします。    |
| [RTP到達不能のオンとオフ (RTP Unreachable OnOff) ]              | RTP 到達不能タイムアウトを有効または無効にします。 |
| [RTP到達不能タイムアウト (ミリ秒) (RTP Unreachable timeout (ms)) ] | ミリ秒単位の RTP 到達不能タイムアウト。      |
| [RTCPレポート間隔(秒) (RTP Report Interval (secs)) ]         | 秒単位の RTP レポート間隔。            |
| [簡易SDP (Simple SDP) ]                                 | 簡易 SDP を有効または無効にします。        |

## VG310 および VG320 インフラストラクチャ設定製品のフィールド

VG310およびVG320インフラストラクチャ設定製品のフィールドはVG350とほとんど同じです。VG310 および VG320 インフラストラクチャ設定製品には、VG350 では使用できない次のフィールドが追加されています。

| フィールド                                        | 説明                                                                              |
|----------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| [グローバルISDNスイッチタイプ (Gobal ISDN Switch Type) ] | ISDN スイッチ タイプを選択します。                                                            |
| [スイッチバックのタイミング (Switchback Timing) ]         | プライマリ Cisco Unified Communications Manager にスイッチ バックするために使用するタイミング メカニズムを選択します。 |

| フィールド                                         | 説明                                                                                                                                            |
|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [スイッチバックのアップタイム遅延 (Switchback Uptime-Delay) ] | 遅延スイッチバックの使用時に適用される遅延を分単位で選択します。[スイッチバックのタイミング (Switchback Timing) ] フィールドで [遅延 (Delayed) ] を選択した場合は、このフィールドに入力する必要があります。                     |
| [スイッチバックのスケジュール (Switchback Schedule) ]       | スケジュールされたスイッチバックの使用時に適用されるスケジュールを時間と分で指定します。[スイッチバックのタイミング (Switchback Timing) ] フィールドで [スケジュール済み (Scheduled) ] を選択した場合は、このフィールドに入力する必要があります。 |
| [DTMF リレーのタイプ (Type of DTMF Relay) ]          | 使用する DTMF (Dual Tone MultiFrequency) の種類を選択します。                                                                                               |

VG310 および VG320 の場合、Prime Collaboration Provisioning では、アナログ電話機のプロビジョニングに対して FXS モデルカードのみがサポートされます。Cisco Unified Communications Manager では、VG310 および VG320 に対して FXS と BRI の両方がサポートされます。Prime Collaboration Provisioning を使用して ISDN BRI 電話をプロビジョニングすることはできません。





付 録

C

## Provisioning の [コール最大数 (Maximum Calls)] および [ビジートリガー (Busy Trigger)] 属性のデフォルト値

- Provisioning の [コール最大数 (Maximum Calls)] および [ビジートリガー (Busy Trigger)] 属性のデフォルト値, 561 ページ

## Provisioning の [コール最大数 (Maximum Calls)] および [ビジートリガー (Busy Trigger)] 属性のデフォルト値

[コール最大数 (Maximum Calls)] と [ビジートリガー (Busy Trigger)] は回線プロビジョニング属性であり、エンドポイントのタイプに基づいて、Cisco Prime Collaboration Provisioning によりデフォルト値が設定されます。次の表は、各エンドポイントタイプに応じて Cisco Prime Collaboration Provisioning で設定されるデフォルト値を示しています。

表 92 : [コール最大数 (Maximum Calls)] および [ビジートリガー (Busy Trigger)] プロビジョニング属性のデフォルト設定

| 製品                          | コール最大数 | ビジー トリガー |
|-----------------------------|--------|----------|
| アナログ電話                      | 1      | 1        |
| Cisco Jabber for BlackBerry | 2      | 2        |
| CTI ポート                     | 4      | 2        |
| Cisco 3905                  | 2      | 2        |
| Cisco 6901                  | 2      | 2        |

## Provisioning の [コール最大数 (Maximum Calls)] および [ビジートリガー (Busy Trigger)] 属性のデフォルト値

| 製品               | コール最大数 | ビジー トリガー |
|------------------|--------|----------|
| Cisco 6911       | 2      | 2        |
| Cisco 6921       | 2      | 1        |
| Cisco 6941       | 2      | 1        |
| Cisco 6945       | 2      | 1        |
| Cisco 6961       | 2      | 1        |
| Cisco 7902       | 2      | 2        |
| Cisco 7905       | 4      | 2        |
| Cisco 7905 (SIP) | 2      | 2        |
| Cisco 7906       | 4      | 2        |
| Cisco 7906 (SIP) | 4      | 2        |
| Cisco 7910       | 2      | 2        |
| Cisco 7911       | 4      | 2        |
| Cisco 7911 (SIP) | 4      | 2        |
| Cisco 7912       | 4      | 2        |
| Cisco 7912 (SIP) | 2      | 2        |
| Cisco 7920       | 2      | 2        |
| Cisco 7921       | 4      | 2        |
| Cisco 7925       | 4      | 2        |
| Cisco 7926 G     | 4      | 2        |
| Cisco 7931       | 1      | 1        |
| Cisco 7935       | 2      | 1        |
| Cisco 7936       | 2      | 1        |
| Cisco 7937       | 6      | 2        |
| Cisco 7940       | 4      | 2        |



| 製品                   | コール最大数 | ビジートリガー |
|----------------------|--------|---------|
| Cisco 7940 (SIP)     | 2      | 2       |
| Cisco 7941           | 4      | 2       |
| Cisco 7941 (SIP)     | 4      | 2       |
| Cisco 7941G-GE       | 4      | 2       |
| Cisco 7941G-GE (SIP) | 4      | 2       |
| Cisco 7942           | 4      | 2       |
| Cisco 7942 (SIP)     | 4      | 2       |
| Cisco 7945           | 4      | 2       |
| Cisco 7945 (SIP)     | 4      | 2       |
| Cisco 7960           | 4      | 2       |
| Cisco 7960 (SIP)     | 2      | 2       |
| Cisco 7961           | 4      | 2       |
| Cisco 7961 (SIP)     | 4      | 2       |
| Cisco 7961G-GE       | 4      | 2       |
| Cisco 7961G-GE (SIP) | 4      | 2       |
| Cisco 7962           | 4      | 2       |
| Cisco 7962 (SIP)     | 4      | 2       |
| Cisco 7965           | 4      | 2       |
| Cisco 7965 (SIP)     | 4      | 2       |
| Cisco 7970           | 4      | 2       |
| Cisco 7970 (SIP)     | 4      | 2       |
| Cisco 7971           | 4      | 2       |
| Cisco 7971 (SIP)     | 4      | 2       |
| Cisco 7975           | 4      | 2       |

## Provisioning の [コール最大数 (Maximum Calls)] および [ビジートリガー (Busy Trigger)] 属性のデフォルト値

| 製品                                  | コール最大数 | ビジー トリガー |
|-------------------------------------|--------|----------|
| Cisco 7975 (SIP)                    | 4      | 2        |
| Cisco 7985                          | 4      | 2        |
| Cisco 8941                          | 3      | 2        |
| Cisco 8945                          | 3      | 2        |
| Cisco 8961 (SIP)                    | 4      | 2        |
| Cisco 9951 (SIP)                    | 4      | 2        |
| Cisco 9971 (SIP)                    | 4      | 2        |
| Cisco IP Communicator               | 4      | 2        |
| Cisco IP Communicator (SIP)         | 4      | 2        |
| Cisco Unified Personal Communicator | 6      | 2        |
| Cisco ATA-186                       | 2      | 2        |
| Cisco ATA-187                       | 2      | 2        |
| Cisco Cius                          | 4      | 2        |
| Cisco DX70                          | 4      | 2        |
| Cisco DX80                          | 4      | 2        |
| Cisco E20                           | 5      | 2        |
| Cisco EX60                          | 4      | 4        |
| Cisco EX90                          | 4      | 4        |
| Cisco Jabber for Android            | 3      | 2        |
| Cisco Jabber for Desktop            | 6      | 2        |
| Cisco Jabber for iPhone             | 3      | 2        |
| Cisco Jabber for Tablet             | 3      | 2        |
| Cisco TelePresence MX700            | 4      | 4        |
| Cisco TelePresence MX800            | 4      | 4        |

| 製品                                | コール最大数 | ビジー トリガー |
|-----------------------------------|--------|----------|
| Nokia S60 <sup>4</sup>            | 3      | 2        |
| Remote Destination Profile        | 2      | 2        |
| Third-party SIP device (advanced) | 2      | 2        |
| Third-party SIP device (basic)    | 2      | 2        |

- <sup>4</sup> アップグレード後に、デフォルトでは Nokia および iPhone などの新しい電話をオーダーできません。適切なユーザ タイプにこれらの新しい電話タイプを関連付ける必要があります。

Provisioning の [コール最大数 (Maximum Calls)] および [ビジートリガー (Busy Trigger)] 属性のデフォルト値



付 録

D

## 事前に作成された IOS テンプレート

- ・ [事前に作成された IOS テンプレート](#), 567 ページ

### 事前に作成された IOS テンプレート

シスコでは事前に作成した Cisco IOS テンプレートを多数のアプリケーション用に配布しており、これらのテンプレートはシスコの複数の管理製品でサポートされています。

事前作成 Cisco IOS テンプレートは、次の 2 つのファイルで定義されます。

- *Name-swconfig.txt* : このファイルには Cisco IOS コマンドが含まれています。キーワードが「アット」記号 (@) で区切られる点で、汎用 Cisco IOS コマンドのコマンド属性とは異なります。
- *Config-UserGuide-Name.txt* : このファイルには、swconfig.txt ファイルで使用するすべてのキーワードのリストが含まれています。キーワードには、先頭に @ 文字を付ける必要があります。先頭文字が @ 文字ではない場合は、コメントとして処理されます。

<Name> に C2851\_GigE-ASSTwOSPF-DMVPN-CME-H323-FaxRelay を当てはめた場合、テキストファイルは次のようになります。

- C2851\_GigE-ASSTwOSPF-DMVPN-CME-H323-FaxRelay-swconfig.txt
- Config-UserGuide-C2851\_GigE-ASSTwOSPF-DMVPN-CME-H323-FaxRelay.txt

ファイルが欠落している場合や命名規則に従っていない場合、Prime Collaboration Provisioning では、事前作成テンプレート ファイル名のリストに名前が表示されません。

テキストファイルでエラーが検出された場合は、エラーメッセージが表示されます。エラーメッセージが表示された場合は、テンプレート項目の作成をキャンセルして、問題を修正する必要があります。最も一般的なエラーは、swconfig.txt ファイルで使用するキーワードが Config-UserGuide-Name.txt ファイルで相互参照されないことです。

Config-UserGuide-<Name>.txt ファイル内の非コメント行は、コメントで区切られており、3 つの必須カラムがあります。その内容は次のとおりです。

- **Keyword Name** : 先頭に @ 文字を含むキーワードの完全な名前。キーワード名に対して有効な文字は、英数字、アンダースコア、左角カッコ ([) 、および右角カッコ (]) です。
- **Keyword Description** : Cisco IOS コマンド内でのキーワード値の意味を説明する自由形式のテキストフィールド。
- **Keyword Label** : キーワードの目的に関する簡単な説明。

## 事前に作成された Cisco IOS テンプレートの Cisco Prime Collaboration Provisioning へのコピー

一般的な事前に作成された Cisco IOS テンプレートは、[cisco.com](https://cisco.com) からダウンロードできます。ファイルをコピーするには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- |               |                                                                                                                                             |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>ステップ 1</b> | Provisioning システムにアクセスし、サブディレクトリ <code>\${CUPM-INSTALLED}\sep\ipt\ios-pre-built</code> に移動します。                                              |
| <b>ステップ 2</b> | ダウンロードしたファイルを、Provisioning プラットフォームのサブディレクトリにコピーします。ここに、 <b>Sample</b> という名前のディレクトリがあることを確認します。                                             |
| <b>ステップ 3</b> | 新しいディレクトリを作成し、一般的な事前に作成された Cisco IOS テンプレートのタイプにわかりやすい名前を付けます。                                                                              |
| <b>ステップ 4</b> | 事前に作成されたテンプレートの <code>Name-swconfig.txt</code> および <code>Config-UserGuide-Name.txt</code> を、ios-pre-built の下に作成済みのサブディレクトリのいずれか 1 つにコピーします。 |
-



## 索引

### A

AssignSoftPhoneName [136](#)  
AssociateAllUsersInUMProcessor [147](#)

### C

Cisco IOS ルータ [42](#)  
    追加 [42](#)  
Cisco Jabber サービス [51](#)  
    有効化 [51](#)  
Cisco Unified Communications Manager [42, 82](#)  
    インポート [42](#)  
    削除 [42](#)  
    追加 [42](#)  
    同期されるオブジェクト [82](#)  
    編集 [42](#)  
Cisco Unity Connection [42](#)  
    インポート [42](#)  
    削除 [42](#)  
    追加 [42](#)  
    編集 [42](#)

### D

DefaultUnitySubscriberPassword [138](#)  
DefaultUserType [139](#)  
DescriptionString [140](#)  
DNAutoReservation [140](#)  
DNAutoReservationTimeout [140](#)  
DNB [190](#)  
    管理 [190](#)

### E

ExternalNumberMasks [141](#)

### I

IsAuthorizationRequiredForAddOrder [141](#)  
IsAuthorizationRequiredForChangeOrder [141](#)

### L

LDAP サーバ [93](#)  
    同期 [93](#)  
    同期の設定 [93](#)  
LDAP 統合 [44](#)

### M

MonitorPhoneReturnEnabled [144](#)

### P

PhoneAssign [144](#)  
PhoneReservationTimeout [145](#)  
Prime Collaboration 統合アプリケーション [23](#)  
Provisioning でのライセンス ファイルの登録 [23](#)  
PseudoUserID [146](#)

### S

SSL ポートの変更 [37](#)

### T

Telepresence Management Suite [42](#)  
    インポート [42](#)  
    削除 [42](#)  
    追加 [42](#)  
    編集 [42](#)

## い

- インフラストラクチャ設定 [129, 132](#)
  - 概要 [129](#)
  - タスクのスケジュール [132](#)
- インフラストラクチャ設定製品 [489](#)
  - H323 ゲートウェイ [489](#)
- インフラストラクチャ設定の権限の管理 [226](#)
  - 管理 [226](#)
  - 更新 [226](#)
  - 追加 [226](#)
  - 編集 [226](#)
- インベントリ [194, 195, 208](#)
  - 検索 [194, 195](#)
    - 基本 [194](#)
    - 詳細 [195](#)
  - レポート [208](#)
- インポート [126](#)
  - 設定テンプレート [126](#)

## え

- エンドポイント [297](#)
  - 交換 [297](#)
- エンドポイント インベントリ [185](#)
  - 管理 [185](#)

## お

- オーダー [244, 301, 303](#)
  - 検索 [301](#)
  - 処理 [301, 303](#)
  - 出荷 [303](#)
  - 表示 [244](#)
- オーダー承認権限 [224](#)

## か

- 回線 [272, 299](#)
  - 共通の共有、設定 [272](#)
  - 情報、変更 [299](#)
- 管理 [41](#)
- 管理承認権限 [223](#)
- 関連付けられているエンドポイントのない共有回線 [275](#)
  - 回線のオーダー [275](#)

## き

- キーワード [125](#)
  - 形式 [125](#)
- 共有 [273](#)
  - 電話、設定 [273](#)
- 共有回線 [271](#)
  - オーダー [271](#)

## け

- 権限 [64](#)
  - 削除 [64](#)
  - 設定 [64](#)
  - 追加 [64](#)
  - 編集 [64](#)
  - ユーザ [64](#)
- 検索レポート [201](#)
  - 作成 [201](#)

## こ

- 更新 [226](#)
  - ユーザ [226](#)
- コールプロセッサ [74](#)
  - プロビジョニング属性 [74](#)
    - 製品でサポートされる [74](#)
- コメント [174](#)

## さ

- サービス [304](#)
  - キャンセル [304](#)
- サービス エリア [53, 56, 57, 61, 206](#)
  - 管理 [53](#)
  - 削除 [61](#)
  - 設定 [57](#)
  - 追加 [57](#)
  - 定義 [56](#)
  - 編集 [57](#)
  - レポート [206](#)
- サービス テンプレート [53](#)
  - 管理 [53](#)



## し

システム コール ハンドラ 168  
 自動サービス プロビジョニング 66  
 自動プロビジョニング 65  
 出荷承認権限 225  
 受領承認権限 225  
 詳細 225  
     オーダー承認権限 225  
     割り当て承認権限 225  
 使用シナリオ 16  
     プロビジョニング 16  
 承認 302  
     サービス 302  
 承認権限の承認 225

## す

スタンドアロン 23

## せ

生成、設定の 125  
 設定 37, 310  
     ACS と LDAP 37  
     システム通知 310  
 設定テンプレート 105, 119  
     作成 119  
     使用シナリオ 105  
     設定 119  
         項目の追加 119  
 セルフプロビジョニング エンドポイント 67

## そ

相互起動 25, 214  
     相互起動 25

## た

ダッシュボード 203  
     プロビジョニング 203

## つ

追加 130, 211  
     インフラストラクチャ設定インスタンス 130  
     ユーザ 211

## て

ディレクトリ ハンドラ 170  
 データの消去、有効化 319  
 テスト 312  
     通知設定 312  
 デバイス 41, 50  
     削除 50  
 電話番号 190  
 電話番号ブロック 61  
     追加 61  
 電話ボタンテンプレート 134  
     同期中の取得 134

## と

同期 80, 86, 89, 221  
     インフラストラクチャ 80  
     ドメイン 86, 89  
         ログ ファイル 89  
     ユーザ 80, 221  
 同期のトラブルシューティング 84  
 同期ログ メッセージ 102  
     LDAP の同期 102  
 ドメイン 53, 55, 56, 87, 309  
     管理 53  
     削除 56  
     追加 55  
     通知 309  
     ビジネス ルール、同期 87  
     編集 55  
 ドメイン通知テンプレート 307

## に

二重大なり記号 174

## は

パスワード [218](#)  
     ユーザ、リセット [218](#)  
 バックアップ [322](#)  
 バッチ [154](#)  
     プロビジョニング [154](#)  
 バッチ操作ファイル [156, 174](#)  
     形式 [156](#)  
     製品 [174](#)  
     依存関係 [174](#)  
 バッチ プロジェクト [178, 179](#)  
     キーワードの使用 [178](#)  
     作成 [179](#)

## ひ

ビジネス ルール [148, 150](#)  
     使用 [150](#)  
     設定 [148](#)

## ふ

復元 [322](#)  
 プロビジョニング [1](#)  
     概要 [1](#)  
 プロビジョニング属性 [74](#)  
     トランスフォーメーション テンプレートの設定 [74](#)  
 プロビジョニングの状態 [133](#)  
     インフラストラクチャ [133](#)

## へ

ヘッダー行 [174](#)

## ほ

ボイスメール [300](#)  
     アカウントのロック解除 [300](#)  
 ポリシー承認権限 [224](#)  
 ポンド記号 [174](#)

## ま

マイ アクティビティ [302](#)

## め

メンテナンス承認権限 [223](#)  
 メンテナンス モード [321](#)

## ゆ

ユーザ [228](#)  
     レコード [228](#)  
     検索 [228](#)  
 ユーザが関連付けられていないエンドポイント [296](#)  
 ユーザ権限 [65, 66](#)  
     関連付けられているサービス [66](#)  
     自動サービス プロビジョニング [65](#)  
 ユーザのインポート [216](#)  
 ユーザ ロール [53](#)  
     管理 [53](#)  
 ユニファイドコミュニケーションサービス [51](#)

## ら

ライセンスの管理 [21](#)

## ろ

ログ ファイル [313, 315](#)  
     最大サイズ、変更 [315](#)  
     デバッグ [313](#)  
     ログの消去レベル、変更 [315](#)

## わ

ワーク オーダーの状態 [306](#)  
 割り当て承認権限 [225](#)